# パ延長線教育史



# 凡 例 (編輯室から)

- 備が多々あらうと思ふ。切に御寛恕を乞ふ。 調査日程、 学校関係の記録は、各校とも、 並に人員不足の為に、 昭和十四年拾二月末現在によった。 調査洩れ 人名誤記、 其の他の不
- を余儀なくせられたる事を御後援の有志と共に遺憾に思ふ。 一、既に發表したる記事内容は、其の後の情勢悪化に依り、 修正、 削除
- 出版日時切迫の為 校正上完璧を期されず誤植脱字等の多きを謝す。

# パ延長線教育史 目次

凡 刊 「教育史」 行  $\mathcal{O}$ に題す 例 華 刊行會同人 編 輯 堂 室

寫眞口繪 在伯邦人小學校々舎の例 霊峰富士 山紫水明 躍進日本

7

[初期校・標準校・模範校・奨學舎]

寄稿欄

植民地衛生考• 體育に関しての卑見 児童の衛生をどう指導するか 昏迷移民史の一駒北米第二世教育 家庭教育に関する考察・ 両親再教育と家庭教育 國民學校解説 日語學校閉止と農村生活 • の根本的改造・・ · 宮腰 岡田 上野 加藤忠三 · 倉林 千葉太 高岡専太郎 英定 克男 ·茂木清吾 源四郎 江見清鷹 3 8 3 2 29 3 4 1 0 48 56 2 3

写 作品展覧会…施設:修学旅行…遠足会:•児童作業…衛生及ビ雜 学習室:運動会…陸上競技会…武道…野球大会…•学芸会 眞 (児童教育関係) 5 9

外國語学校取締令 (概畧と日本語学校の終焉)

パ
延長線教育史
附、
役員及び植民地状況)

バウル  $\mathcal{O}$ 部 98 7 6

ド -アルチ ナの部

ヴエラ ・スの部

部

バストスの部

廃止植民地状況

ポンペイアの 部

1 5 5

1 6 1

 $\begin{array}{c} 1 \\ 4 \\ 0 \end{array}$ 

1 1 0

99

在バストス邦語教育の沿革史(附、中学校史) 6 5

第二世教育に関する行事

作品展覧会

児童学芸会

修学旅行

陸上競技大会

2 1 3

1 9 9

1 7 9

1 7 9

武道大会 野球大会

校歌·青少年団歌

「日本語学校がなくなっても」 ・(バウル 管内児童作

2 3 1

品展一等入選文)

人 کے 業 績

2 4 0

2 3 7

バウル  $\mathcal{O}$ 部

F -アルチ ナ の部

ヴエラク ス  $\mathcal{O}$ 部

マリリア  $\mathcal{O}$ 部

ポンペイアの部

0

パ延長線教育会の設立と機関誌の 発刊

3 5

教 育 春 秋 抜萃…第一 號·第二號 第三號 第四號

邦語教師葡語講習会

随筆「華やかなりし頃」・

浅見哲之助

学校に於ける教育的施設

日語学校舊教師の横顔

5 1 7

バウルー  $\mathcal{O}$ 部

ヴェラクル ス  $\mathcal{O}$ 部

マリリア の部

ポンペイアの部

聖市・近郊其の他の部

黄泉の客となった教師

同人語

5 7 0

多話語吐 (随 筆 D O 生

日 記 M K 生 5 8 3

刊行会同人寄せ書と記念影

調査の旅

同人が同 人を語る

編 輯 室

特志後援者芳名表

6

特志後援者廣告欄

#### 刊行の辞

常に毅然たる態度をもって、 發展と興亜の大業に、参畫いたして居ります。 及ばず、 動は、最近大政翼賛曾の統制下に、着々として日本全土は言ふに 次第であります。 は、徒らに混沌の つゝあるのでありまして、在伯同胞斉しく無限の力強さを感ずる 国は今や聖戦第五年を迎え、國民は 遠く亞細亞大陸にまで及び、 路を辿ると雖も、公明に正大なる祖國日本は、 事変の完遂と大陸の経常に邁進し 一方複雑怪奇なる國際情 一億一 此の 國民的強 0 化運

にも、 湃として世界列強の間に勃興しつゝあるのでありまして、 国法令は、恰も警鐘 斯の如く此の國民的強化運動は、 最近嵐の如く國粋運動 の如く、 国民の前に迫り来ったものであ の擡頭を見、 啻に日本の 相次い みならず、 で發布される伯 今や澎 當伯國 りま

せんが 啻に産業貿易方面のみに止らず、同胞の血と汗とによって建設せ 化に貢献する所多大なるものがあった事でせう。 られた、全伯六百に餘る日本語學校の存在は、 であります。我々同胞にとっては誠に大いなる犠牲に達ひあ 日本人小学校は全面的に、自發的閉鎖の止むなきに立到 ぐ法令は遂に外國語による初等教育を否定し、茲に農村 りません。然し乍ら在伯三十有餘年に於ける日本移民の業蹟は、 一方伯國々家の同胞に對する探い親心も亦感得 國粋運動の勃興は漸次在伯外國人學校問題に波及し、 如何ばか 7 り に於け 伯国文 たも いりま

みならず、 を想ひ、 子を持つ親の総てが、 之を憶 へば、 延長線に永らく教職員た 此の儘之を葬り去るには、 餘 Z

りにも痛切にして忍び難いものがあ ります。

絶大なる御協讃、御支援を得まして、茲に所期の目的を達成し パ延長線を中心とする. 位の前に、 りますが、幸ひに関係各位並にパ延長線在住者諸賢の、御諒解と 改めて満腔の の光栄と致す所でありまして、御後援を賜はりました方々に対し、 全貌を伯國に胎さん為、 へ、兼ねて次代に於ける、 今次在伯日本語學校の終焉に際し、 此小史を贈る運びとなりました事は、 謝意を捧げる次第であります。 在伯教育史の刊行を企画致したもの は偉大なる上司先輩の業蹟を後代に 同胞飛躍の活資料たらしめん為め 一は燦然たる教育國日本 同人一同、 であ 傅  $\mathcal{O}$ 

もの 巻頭を飾るを得ました事を、 腰千葉太先生、茂木清吾先生、高岡専太郎先生、上野克男先生、 田英定先生: 尚ほ、 であります。 本会の趣旨に賛同せられ、 江見清鷹先生の御厚志を謝し、之に仍り本教育史の 御後援の各位と共に、 特に執筆を賜は 同慶に存ずる りま した、 尚

御盡力下さった加藤忠三兄を始め、荒井満雄兄、 終りに臨み、今回の調査に際し、殆んど其の職務を犠牲にして、 厚く感謝の意を表する次第であります。 矢野留蔵兄に対

昭和十六年六月

同 人 寺門 芳雄

岡崎親

松

美好

大竹 文二

パ延長線教育史刊行會



山 紫 水 明 慎しき祖國の委……



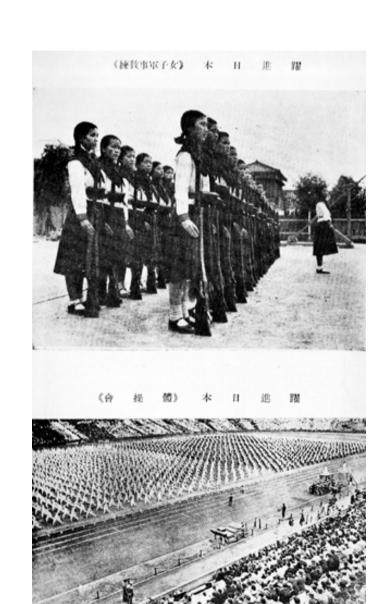
#### 例の舍校 校學小人邦伯在

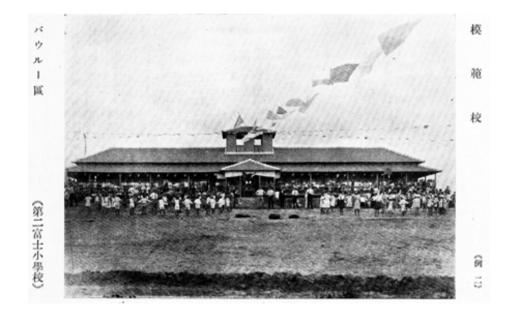
校學小語邦の期明黎

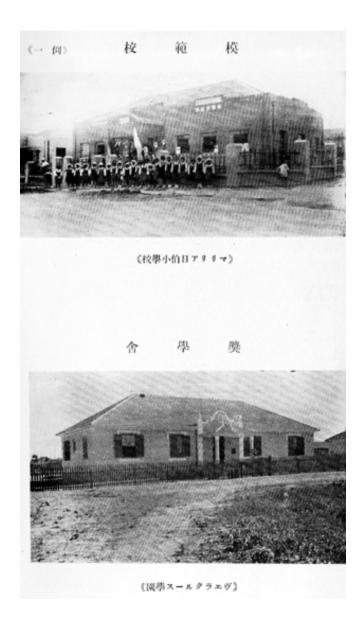




校學小和昭一第 アリリマ部東







### 寄稿欄

植 或 體育に関し 児童の衛生をどう指導するか・ 昏迷移民史の一駒北米第二世教育 家庭教育に関する考察・ 両親再教育と家庭教育・ 日語學校閉止と農村生活の根本的改造 民 民 學 地 ての卑見 校 衛 解 生 • 考 説:• 倉林 • 宫 腰 · 上 野 • 高 岡 加藤 岡田 源四郎 茂木 千葉太: 克男 専太郎 忠三・ 英定 江見清鷹 清吾

# 家庭教育に関する考察

海外興業伯国支店長

宮 腰 千 葉 太

日本語學校閉鎖後に於ける第二世教育の将来

坐を来したのであるが、従来の教育法では伯國の政策と相容れざ るに至る事は寧ろ当然とも考へられる。 伯國法に依る日本語學校の閉鎖は、我等の日本語教育に一大頓

育観念 ければならない。過去に於ける伯國政府の外國語取締に関する態 度は、無関心と評しても過言でなかったので、 日本人は子弟の教育に驚くべき程熱心であるが、日本人の の通性として學校教育に依頼し過ぎるといふ缺點を挙げな 日本語學校は続 々 教

元させた様な気分で旺溢してゐた。 教育に関する限り、 さながら伯國に日本とい ふ國を還

たのだ。 た時、 何にすべきかを考へざるを得ざる惨めな状態に置かれる事とな の有様であったから、外國語教育が 我等は始め て外國人たる事に気付き、 昨年 来微 今後 塵  $\mathcal{O}$ 子弟教育を 打 ち 0

至ったのである。然らば今後の子弟教育を如何に進めて行くべき であらうか。 るといふ従来の偏見を是正せねばならぬ当然 そこで學校さへ作れば、叉先生を置けば子弟 の教育  $\mathcal{O}$ 帰結を生ずる は 充分 で あ

思ふけれども子弟教育の道を伯國に求め、飽くまでも在伯 ける邦人子弟の教育問題を考慮せねばならない 永住者を対象とせねばならない。須らく、 としての意気と誇りとを失はしめずに發展させやうといふ信念 -に進み 在任邦人中には帰國を念願とする者が つゝある者も尠くはあるまい。邦人子弟教育問 相当多数を占め 五十年百年の 題は 将 7 る 日本人 伯國 る 於  $\mathcal{O}$ 

段低 らぬ。 存在 於て常に優秀なる日本人を残す様に子孫百年の計を樹てたならば、 末葉より十七世紀に て、これが篤めには、 現在 我々 した邦人社会である。此等の地方に於ける邦人の数は一萬を い地位にある事は残念乍ら認めざるを得な 比の数と質との問題に関 の伯國在住邦人社会はあらゆる他の外國人社会に較 の事であるが、徳川幕府の鎖國政策の影響を受けて日本 一世のみならず二世、三世を通じて行ふべき事柄 カン 此等 唯歴史の一 の地方に数に於て年 かけて、現在のタイ國及佛領印度支那 在伯邦人の数と質との問題を解決せね 頁を飾る し想ひ起されるものは、  $\mathcal{O}$ みとな 々増加 0  $\mathcal{O}$ てゐる。 傾向を辿り、 比の 十六世紀 地位 若 が地方に で ぼ  $\mathcal{O}$ 向

現在 策も有利  $\mathcal{O}$ タイ國及佛領印度支那には日本人が充満 に解決 し得たことであらう。 日本 の南洋政

百年 な 伯國に於け の計を樹 る日本人の立場も之と同様であ てずぱ、噛臍の悔を見るであらう事は想像する 0 今に

# 海外に於ける第二世教育の根本となるべきもの

質の ばならぬ。而して之を食ひ止める方法は日本語の修得に依る外 思ふ。しかも比種第二世達が今後益々増加して行くであらう事 努力とである。男子一 之れと相並ん 日本 見逃せない事実であって、比の精神の欠如が延いては日本民放 気と不撓不屈の精神とが現在の大を築かしめつゝあるのであるが、 の精神が往々にして第二世達に欠けてゐるのを見る事を残念 在 伯 低下を招来するのを思ふと、哉等は飽くまでも之を阻止せね 人の農業経営に関する頭脳の優秀さを物語るものであるが 邦 人は伯國農業界に於て断然頭角を現してゐる。 で優勝 の原因となるべきものは日本人独特の覇気と 度郷関を出づれば何事をかなさんといふ覇 比の事は は  $\mathcal{O}$ 

神を其 者ペ 本民族 とし に封 我々 スタ ての自覚を湧き立たせ、日本民族独自の覇気を継承せ し租先伝来の言葉をしっかり身につけ  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ て海外に於ける第二世教育の 日 本語教育の第一過程は家庭で行はねぼなら ロツチは「教育の第一過程は母の愛であり、 本領を発揮せしむる外はない。従 本民族の體内を巡る血潮に合致した言語、祖先伝 一語に含んだ日木語を修得する事に依 根本となさねばならな って我等は しめて日本民族 つて初 家庭の 将来 来  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 教育 子弟 と思 8) て目 員 る

此の二つの愛の力を両立させる事に依り子弟教育はなし遂げられ ある」と言ふてゐる。而して、 て行く。 その第二過程は社会の愛であるが

永住者を対象とせねばならない ける邦人子弟の教育問題を考慮せねばならない。 0 須らく、 五十年百 年  $\mathcal{O}$ 将来に於

### 三、家庭教育

愛の教育者ペスタロツチは言ふ。

而 する。此の道徳性は彼等の種々なる要求の中に最も純なる姿に於 供の力と素質の最初の發展は是等の上より成り来るものである。 覚的肉體的要求こそ、教育のよつて立つ最初の根拠であつて、子 子供は母や乳母の膝の上で愛と感謝との道徳性 として人の子の上に第一の印象となるものである。即ち此等の感 の大きな天輿、即ち子供の徳行、子供の智慧、 の翼の中に子供の肉體的精神的要求を満足させ、 伸びさせてやるものは母と家庭を措いて他にはない。家庭的愛情 て含まれるものである」と、 してやる事が眞の教育でなければならない。 「人間最初の要求は肉體的のものであり、感情的のものである。 して、此等の感覚的肉體的要求を満足させる事は地上の存在物 比の愛と感謝との道徳性をすくすく 子供の幸福等を見 の最初の 伸展させ、子供 の印象を感

# ルソーの言に曰く

ない から滋味に富んだ活計を心配して貰はず、準備も教育もして貰は しき世界の中で覚つかなき足で、平身低頭してゐるように見える」 「若き日、秩序立てた家庭の確固たる規律の中に育たず、叉両親 者はすべての善、すべての素質をも 0 てゐるにも拘らず、

庭は、 其の陶治 の最大 て子供 子供はあ 其の子供をして精神的にも叉肉體的にも健全ならしめる。 の道場は、  $\mathcal{O}$ 如 個性を尊重し、健全にして価値ある人間たらしむるた 何に依って比を価値ある人間たらし得るのである。 らゆる善、 健全なる家庭でなければならぬ。 あらゆる素質を有してゐるものであ 健全なる家

であ るけれども、大別して、二つの信念型と無信念型との三種類に  $\Diamond$ 島のチルチルやミチルの様に海の彼方の南米大陸に漫然と幸福求 傾向を考へて見ると、彼等の大部分は恰度メーテ ける事が出来る。 のきかない立場に立っ て祖國を飛び立つた人達である。此等の人々が 健全なる家庭とは、秩序立った家庭であ り、 信念のある家庭でなけ た時に抱く気持には、種々雑多なも ればならな り、 和気靄 在 ?祖國 ル 伯邦人第 リン  $\mathcal{O}$ 々たる家庭 ク の青  $\mathcal{O}$ 世 自 あ 分

る為 努力している人々である。 第 め、日本帝國の領土内に復帰せねばならぬ 一信念型は、如何な事あらうとも自分の子供を日本國民 との信念をも す

供を 達や、子供には日本語ばかりで葡語を少しも教へない人達や、 景気になると直ぐ伯國の生活を嫌ひ、祖國を恋しがると去つた人 誠であると信じ、自分達は假令捨石とならうとも、 として、日本人たることを身を以て実践しようとする人々である。 少しく景気が良いと祖國の事なども忘れて宇頂点になり、一度不 んではないかと思ふ。かうした三型の問で育てられた二世達も自 其 第三型の無信念型は只環境の波にもまれるがまゝに翻弄され、 い人達などである。私は此の第三型に属する人々が非常に多 「カボ の第二は、自分の子孫を立派な伯國 口 化するまゝにまかせて日本語を教 人にする事が 善良なる移民 へようとも 泊國 ^  $\mathcal{O}$ 

分け得るが、之も三種に分け て見ると、

第二型 第 型型 葡語 日葡 日本語を全然知らず、 を全然知らず、日本語 両語を自由に使ひこなして生活する二世 葡語  $\mathcal{O}$ のみで生活 みで生活 7 てゐ あ る る二世

となると思ふ。

カポクロ 叉は無信念型を親とし、後者は無信念型を親とする者である。 た二世達であるが、 第一型は日本人の少ない環境で育てられ、日本的なも の中で放任されて育った者とがあり、前者は第二信念型、 これには都合で育った者と、 田舎 1の農村 のを喪失

野な日本性をもった者との二種ある。前者は伯國を認識し、其 地、叉は社会的恩恵より遠ざかった原始地帯に於て育てられた 固柄の背殻を脱せず、只盲進的猪突的な生活態度を営んでゐ として生きようと努力するに反し、後者は伯國を認識せす、 中に生活する自己を認識し、日本人としての自覚をもち、 で之にも理智的な且つ洗練された日本性をもつ者と、未教育な粗 第二型は伯國政府がキスト的植民地と称するる日本人の大集団 日本 偏狭 る。

達が此 眞に其の子を将来伯國在住日本人として恥しからざる者たら ばならぬ。 仕舞ふのは必然と言はねばならない。 むとする確たる決心がない以上、其の子弟は有耶無耶 とが分る。従つて子弟を教育せんとする場合は、先づ以て健全な に左右されるものであり且つ叉環境に支配せらるるものであるこ 第三型は、我々の最も理想とする型であって現在幾多の第二世 の道を求め 果ては 信念のある家庭を作らねばならぬ。 以上の分類より見るも、子弟の教育方針は多分に家庭 両親 つゝあるを見る事は誠に頼母しい限りと云はね  $\mathcal{O}$ 如き無信念型の 人間となり、 家庭の親たるも 質は低下 の中に青春 が 8

世達、 家庭環境に於 する事な 献すると共に将来の在伯邦人の發展に寄輿せんとする人々を養成 子弟教育の責務を有する家庭の親たるものは、子供が如何なる身 の發展段階を経て行くものであるか一應心に留めて置 先に分類し と思ふ。 第 即ち日本性を根本として日伯両 世中 のである。従つて其の教育の根本要素は日本語を用 た て指導して行く事でなければならぬ。而 如 の第二信念型の 後  $\mathcal{O}$ 在 伯 邦 思想を根本とし 人子弟教育に当っ 語を自由に話 て、 第三 て望む 型 伯國に貢  $\mathcal{O}$ 第二 ひる

に立脚 は未だ自我意識の覚醒されない本能活動の時代であつて、此 は身心發育の擁護を主とすべきである。 四段階に分つ事が出来る。 人間が成長發達して成人となる過程を大別すれ 嬰児期 て行はなけ 二、幼児期 ればならない。第一 三、児童期 かくて、教育は之等の人間發達の段 期 匹 嬰児期(○才-青春期 の時

誘致 情 達を擁護すると共に善良な模範を示して無意識的 神的發達を成し遂げて行く。此の時代の幼児に対しては身心 あらゆる活動を模倣する事によって言語を覚え、言語を通 の覚醒 第二期幼児期 て行かねばならな 時 代 であ (二才一六才) つて、 本能的模倣時代である。 中、 前期 (二)才| 幼見は年長 三才 に善良な活 は 自 て精 者 發  $\mathcal{O}$ 

な学習活動を始める。 幼児後期 幼児の智能 (四才) 計画的 に遊戯 六才) は自我感情が漸次に目的意識 が著 従つて此の時代の幼児に対しては、 く發達す 盛んに質問することに る時 代 で あ る。 幼児は 依 0 其の学 依 活発 構 成

徳とを體得せしめて行かねばならな 習活動を充分に叮嚀に指導する事に依り、 初歩的文化と初歩的道

遊戯を中心として教育せねばならぬ。 磨を最も必要とする時代なるが故に、 けれども、幼見期は未だ遊戯に依る身心 の時期に於ては  $\mathcal{O}$ 發達と精神機 健全な

第三期児童期 (七才―十五才) は遊戯中心 の成人生活に入る第一過程で之を前期後期と分け の生活か ら漸 る事が 次 `出釆 作業

- 判断をなし、 導して、漸次文化能力、道徳的判断の獲得に向はしめねぽならぬ。 を支配する時代である、依って此の時代には其の豊かな想像を指 智に依つて統制するのではなく、子供らしい豊かな想像が全生活 習活動が芽生えて簡単な作業を成就し得る時代であるが、未だ理 飽くまで児童の反省、 7 な遺徳的判断と自信ある行動に習熟せしめねばならぬ (ロ)児童中期(一〇才—十二才)は児童の理智が發達して独立的 児童前期 自我活動を理智的に統制して行く時代であるから、 (七才 推理、 九才) 比の時代は児童の文化的、 判断、 想像の作用を働かしめ 社会的
- が少年らしく、 児 童 一後期 少女が少女らしい特性を發揮する時代である。 (十三才一十五才) は少年少女期であ て、 年

時代に於ては飽迄人生の 必要とする。 て勇敢に闘 少年少女の特質は、未来の希望に燃える点である。 ひ忠実に職責をつくす人間生活の根本的態度 理想と光明とを確信せしめ、 従って此 自奮自勤 の教養を  $\mathcal{O}$ 

を来 人となる時 第四期青春期 漸次に個性が 代である。 (十六才一廿四才) 之も前期と後期とに分けられ 明確となり、 遂に個性が確立し は自己を自覚し、 自 我 個  $\mathcal{O}$ 

(イ)青年前期(十五才 十九才)は自覚に基く自己動揺期である。

程に於 る。 実験 に於 而 期を逸すれば将来強健なる身體の持主となる事は殆ど不可能 か な人間 ね て此 て個性 機会を輿 ば ならぬ。更に注意すべきは身體の鍛錬であ  $\mathcal{O}$ 原因となるもの の身體は が 明確となるの へ、其の長所を伸ば 一個 の成人身體にまで發達する此 は身體の非常な發育であり、 であるから出来るだけ価値あ Ļ 短所は飽迄矯正せ 0 の身體 て、 る自 此  $\mathcal{O}$ であ 8 時  $\mathcal{O}$ 

るが、 期には青年の自覚に基く自由学習に委せ、 ( D する実力を養成せしめねばならぬ。 青年中期 明確となった個性が益々充実する時代である。 (二十才 ー廿四才迄) は最早個性の 一方社会に立 明確な大人 従 0 0 7 活 動 此 で あ  $\mathcal{O}$ 

# 五、日本的環境を作る事

環境 悲観 周囲 環境が取りまいてをり、 らな 謂第二型の に、将来有為なる日系伯人を教育せんとする場合に於ては 自然裡に感受する幼年時代より家庭内に於て陶冶 人たるの自覚と覇気とを母 環境の せ い。 我 に支配され易い時代である。従って葡語をのみ話すとい い。我等の の環境に我々外國人はさう容易に且つ完全に融  $\mathcal{O}$ しむる材料となし勝ちなものである。然し乍ら伯 如き發達段階を経て子供は成長 第二世が多数輩出し、第一世をして在伯邦人 中に結びつけて置く事が出来る筈である の家庭そのものゝ抱擁力が大であるならば子供を家 周囲には伯國といふ葡語を日常語とせね しかも幼児時代、 の乳房にすがつて愛と感謝の道徳性 少年時代といふも て行 くも して行 和  $\mathcal{O}$ するも であるが ば かね 将来を 日本 ば は 82 な

家族主義的な 日本人にとっては、 家庭ほど温 い慰安所は な

伝道師 態度を採らず、却つて自ら環境を作出す積極的な態度に出でぬ 親らが、余りにもさうした事に無関心であるのに驚かされる 明るく平和なアメリカのメロデーを部屋の中に漲らせて、子供 うとするア る所に小さな ならぬ。米人女流作家パ の魂を東洋的な、 メリカの明るい草花を植え、部屋の中は勿論アメリカ風に飾り、 0 て家庭の親たるものは常に外的環境に封して受身の消極的な の妻であっ メリカの母親の努力を思ふ時、在伯邦人の第二世の 「アメリカ」を築いて行つたと書いてゐる。 宿命的な、 た彼女の母が、支那 ル・バックが共著「母 重苦しい灰色の響や色などから守ら  $\mathcal{O}$ 何處に住ん の肖像」 であ ても、 庭には 5

守り育てて行く為めには、本当に温かな愛情溢るゝ家庭的環境と 楽を教へて、日本的情操教育をするとか、 まはりといふものを日本趣味に構成するとか、 は飽迄も日本人なりといふ意識を濃厚にせしめ、 いふものを作り出してやらねばならない。其の方法としては家 の心 の優秀性を知らしめるとか、 放つて置けば自然に而も急速度でカボクロ化せむとする子弟 って日本的気分に浸らせるとか、兎も角家庭内に於ては我 写真等に依り日本の姿に接しせしめ、 の中に植えつけて行くべきであると思ふ。 又はラヂオ、蓄音器等を備 或ひは日本食、 日本人の特長、 或ひは雑誌、 眞の日本性を子 菓子等 日本 々 を  $\mathcal{O}$ 

した言葉を用ひない 父さん」「お母さん」 ふ所謂家庭内規を作るべきである。 更に最も心すべきは家庭内に於ては絶対に日本語を用 と呼び、 或ひは「エウ」とか 一或ひは のだらうか。 「僕、 「ヴオツセ」とか呼ぶ。 あなた」と言いふ最も 家庭内に於て。 ひると 何故「お 7

いふ「もう、 かし目上に対する言語と目下に対する言語とに自か そんなのは 日常語に な 0 7 あ カン ら差支え

違ふ らう ら差 しても尊敬 のは ゟ゙ゝ 別があるもの ぬ美 もとより、親代りに世話をしいたわって下さや兄姉  $\mathcal{O}$ 心持を含む言葉を用ひる。此の親愛の しい日本語を教 は日本語ばか へずして家庭の平和は保たれる りではないか。 親に封する言葉が 中にも尊敬

8 は 追々親子 頃は幼稚 行かねばならない の地位を占めんとするには日本人としての特質を充分に生か 祓される事は論する迄もない。日本人子弟として伯國社会に優位 によってブラジル人だと云つても矢張り伯団の社会からは日本人 子供が れぬ事になる。中には結婚適齢期に至って日本語が出来な たとへ日本語を全然知らす葡語 日本人と結婚出来す慌てゝしまふ親もある。我々日本 の貌等が一 の意志 な葡 日本語を失った場合には家庭は乱脈に 語 のこと故まだ艮いかも知れぬが、 の疎通を欠ぎ、 朝一夕に白人の様になることが出来な 尊敬  $\mathcal{O}$ の心も失はれ、 みを話す二世が になる。 成長する 親 子供 出来、 威令 が 法令 7 顔

あなたは私 ですか」と言っ 或る日本人 で物を尋ねたら、 しくなり、それから彼は日本語を勉学し始 が の会合で、日本語を話す伯人が或る日本 日本語で訊ねたのに、日本語で返事して下さらな たのを傍で或る第二世の青年が聞 彼女は葡語で答へ た。 それ めたと いてゐて非常 で伯  $\mathcal{O}$ 少女に は 何 故 日

上、少なくとも日常会話位は出来る様にし のだらうかと云ふ事ださうだ。 人達が故も不思議に思ふ 「俺は 日本人だ」と言へるだらうか。  $\mathcal{O}$ これで果して良いものであらう は 何故 日本人は 日本人の子弟である以 かねばならぬ 日本語を話さな か

ける。 て祖先以来の位牌を祀つてある。而も家は先祖以来の家であ でゐる気持であり、それを叉子々孫々に伝 父母は我が家の神 へ人は無くなり建物は変つても此処に住む者は先祖と一緒 日本 叉家の中には大てい神棚があ の家庭には父も母も、 従 って子供は父母 の慈愛 祖 |父も組  $\mathcal{O}$ って神をま 外に祖父や祖 母母 Ŕ こへて行 緒に住 うつり、 母 < 佛壇が  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 愛をも であ に住 つて る場

#### 心 つくしてい つけ人の子

我が神と

宗教的 とか永 事が多 衷失 帯に於て年々場所を変へる人々等は、 温 を家の神とあ の思想なのである。然るに耕地より植民地、植民地より都合へ と本居宣長が詠 命日等にも墓参りも出来ないといふ様な事から、自然祭祀観念を 々として居を移して行く移民らに此の敬虔な日本人独特とも云 尊 雰園気を醸す事は難しくなる。勿論異國にあつて日本通 祖先崇拝の思想は日本人のみが有する独特とも云つてよ い思想は遺し 儀式を望む事は出来ないけれども、眞心こめた先祖崇拝 い、これでは家庭の平和は望む事はは出来ず、 て行く、移住者の気持を荒ませて自暴自棄的な気持になる 合 、的な家を建築して行くといふ事は、経済的事情其他 祖先崇拝の気持が薄らい いが多い て最も必要欠くべ が  $\mathcal{O}$ める。此の思想は日本古来の道であ 中に生きる欒し んでゐるが、 が、せめて家の中には佛壇を設け、 て置きたい 父母は子を家の宝と思 からざる事ではな もの い平和な空気を作る事が、 でゐる である。墓所を一定せ 肉親等の墓所が一 のが 多い 1 だらうか。 0 ひ、 叉家庭 特に棉作地 神棚を設 て祖先伝来 定せす、 的 で ŋ لح 日 る لح

思想であ べきものである。 り、たとへ異國にあつても子々孫々に伝へ継承して行く

其の指導に当らねばならぬ。 性を生かし、子弟に常に善良なる模範を垂れつゝ其の成績を護り、 望まれないことを思へば、家庭の親たるものはよく其の子弟の個 子弟の日本語教育による在伯邦人の将来の發展は一に家庭の親た とに変りはない。温い家庭的情愛無くしては子弟の完全な教育は るものに委ねられてゐると見なければならぬ。たとへ学校が存在 して居つたとしても、家庭といふのが唯一の教育場であるべきこ 以上述べ来つた如く日本語小学校の存在を否定されたる今日、

ラジ る發展を期する覚悟がなければならぬ。 時の出稼ぎ人根性では到底子弟の教育は望まれず、 を愛し、 ブラジルを郷土として、 其上に大和民族の優秀な 飽迄もブ

#### 或 民 学 校 解 説

#### 文 倉 部 林 省 源 督 学 郎 官

匹

であり、 もの 日時もなく、 る事 本稿は文部省督学官、 で、 の不徳を謝す次第である。 無断、 編纂員としても洵に慙愧に堪 偏に本会の意の存する所を諒恕願ふことに 茲に輯録するは、 倉林源四郎先生が某母 著者の 編  $\sim$ ぬものがあるが 名誉を毀 纂 部 國雑誌に發表された つけ、 ` 出版法にも悖る 時既に折衝 敢 て再録 t  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

#### 序 言

重大事なるを想ひ、敢てこゝに採録し以って國民学校開設に対す 世教育に対し、其の根本的観念に於いて、 が、事実は然らず、 する事は、 表され実施されたもので、 て始まる。現下の戦時體制による産物の如く感ぜられる所もある る教育思想の に参考となるものであり、常に母國の風潮と歩調を合せて進軍 母國に於ける國民学校令に依る新制度の実施は本年四月をも 今回諸般 海外植民政策の 普及に努める事に の準備整ひ、 既に戦前に於いて其の具體案を作製中のも 國民教育百年の 上に、 在伯同胞にとつ した所以である。 民族發展の 訓育の実際に於いて大 ても、 計として研究され、 上に欠く 今後に於ける二 からざる 發

#### 菌 民 軍 校 لح は

教育 される事にな は教育の目標をハ 展にも備 は到底満足してゐる訳に行かないのです。そこで國運の 位や使命から考へますと、國民全般の基礎教育は現在の小学校で の義務教育の年限を八 でありますが へたのであります。 して、それ我 の制度や内容に根本的の刷新を 答「それは明治になってからの我國の教育は、長大足の 八時代 ったのであります制度の上では従来の小学校の六年 國運の隆昌、 の要望にも應ずるやうに國民を錬成するために、 我國内外の情勢から見、世界の日本とし ッキリさせた事と、教育方法の上に一大革新を ヶ年に延長したのです。そうして内容上で 文化の發展に非常な貢献を 目指して國民学校制が実施 飛躍 7 居 進歩 る

問 「國民学校制度の根本精神はどんなものです Ź

を奉體して、忠良なる国民を養成することに何等の変化はな 校教育に於ける 個人の立身出世のためといふやうに考へて居る嫌がないともい でありまして、小学校ではよくそのやうに教育が行はれて居 る皇國民を造り上げることに教育の い思想や主義が、 であ ります。 い実情であ 「申すま りますが、第一次欧洲戦争以後欧米から流れこんで来た でもなく、 0 たので、今回の改正では教化は申すに及ぼす、 教育の上にも影響して、 切を奉げて、 我國 の教育は 皇国 目標を の道を修錬せし 「教育に関する勅語」 ややもすれば、 ハ ッキリさせた次第で 8) て、 息艮な 兎角各  $\mathcal{O}$ 聖旨 0 1 学 た

道」を指 皇國 皇国 の道と の道 して居るの の修練 V) 5 といふ  $\mathcal{O}$ でありますが、或は叉皇運扶翼の道と解 は教育勅語にお示しにな  $\mathcal{O}$ はどう 1 ふ事 を指 す 0 O7 あ で す る 処  $\mathcal{O}$ ? 斯

育がとかく抽象的観念であったのを改めて、今度は本当に身に 智識は単なる知るといふことだけでなく、智識を得ると同時にそ れを実行するやうにし、学校で いたものにしやうとするのです。所謂體得実践の教育にするので、 の力となるといふやうに教育しようとするのです。 と思ひます。 そこで道の修練の方法とし 学ぶ事柄は日本國民としての人 従来

「國民学校といふ名前にはどんな意見があるのですか

る為にはどう ならぬ学校といふ意味。今一つは日本国民としての資質を つには日本國民たる者は誰でもこの学校の教育を受けねば してもこゝで教育を受け ねばならぬといふ 意味か 備

# ◇義務教育の年限

高 る事にしたのです。 大切な事です。以上の二つの理由から多年の要望をこの の時期は人間の の指導者の立場に立たうとするについては従来の教養では足 くなる必要があります。日本が今日のやうに發展し、 「國力が發展 「義務教育年限を八年にしたのは、 のです。叉、 い教育施設の下に置く事が、精神的にも して乗ますと、 一生を通じて最も發育の盛な時です。 子供の發達年齢からいふと規制 般國民 どういふ訳ですか の教養もそれに伴 身體的にも極めて  $\mathcal{O}$ その期間を 高等一二年 際実現す 0 て世 V)

間 のは何故ですかっ 「それでは、 その 八年を分け て初等科六年、 高等科二年とし た

果的であるわけです。また初等科を終つたものは、 謂青年の前期にある高等科とでは、 の心身發達の程度からいふと現在 教育 の方法を別にする方が の高等科 そこからすぐ に当る

実社会 問「國民学校は四月から一切に実施されるのですか? が出来まして、それぞれに適切な教育を施すことになるからです。 に中等教育へ連絡します。高等科へ進むものは原則とし して高等科の方には、職業に関する実務陶冶とか、実務に携はる ついての身體 出る のです。それ故、 の鍛錬といふやうな 教科課程に於ても、 方面に相当重きを置くこと 初等科と別に て直ぐに

ませんから、 程も國民学校の課程によってやります。只教科書が出部出来上り 校と改めます。従って教育は新しい國民学校の精神でやり教科課 答「そうです、 のです。 十六年度には初等科の一年と二年のだけが 昭和十六年の四月に、只今の小学校を全部國民学 新

どうなりますかっ 問「そうすると只今の二年、 即ち四月から三年になる者以上は

ます。 科書が出来、十八年に五年用六年用、十九年に高等科一年用、二 答「三年以上の者には従来の教科書を使 四年生の児童は初等科を終る迄には新しい教科書に出会はな になります。 十年に高等科二年用のものが出来る預定です。だ 御参考までに申しますと、 昭和十七年に三年用四年用 って新しい 方針 から今の尋常 で教育

六年を経 三年生が高等科一年生に進んだ時に、はじめて八ヶ年の義務教育 間「それでは義務年限の関係はどうなりますか?答「只今の尋常 となる事になってゐます。それで現在の尋常四年生以上昼初等科 のです。  $\sim$ ただけで、上に進むも進まないも自由だとい ふ事にな

# ◇國民学校の特色

ーそうすると、 従来の小学校と今度の國民学校とでは、 どこが

著しく違うのでせうか。

子供 理的に行はれて、従来と非常に違って居る点なの 度はそうい事は、 婦徳といふような事、或は算術の利息や歩合などといふ全く子供 答「今迄は尋常六年が義務教育でしたから、 も八年を通じて義務であますから、此の点が今度の制度では、 へば、 の生活には関係 てから教へる事にしました。同じく高等と初等とに分けてあつて して知らなければならぬ事を最小限にやって来たのです。そこで の力量に副はないやうな事もやらねばなりませんでした。 租税とか選挙の事とか、又、女子では六年生には分らな の無い事、それらを無理に教へたのです。 高等科に行って、 よく理解が出来るようにな その間に日本國民と です。 例

問「教科の種類も大分違って居るといふう事ですが

科を立てたのです。どんなものを立てたかといふと ばらでもあったのですが、今度は皇國民練成といふ立場からの 答「従来の小学校では十幾つかの教科目がありましたが 兎角ばら

民としての修練をさせるといふ仕組みにしたの を教科の内容として、そういふ教養を与え、 らぬこと。 科や教科に属する科目の名称を挙げると次のやうになります。 せること。(三) 國家に奉仕する為には健全な身體を持たせねばな (五)職業を通して國家に奉仕する力量を持たせること。此等の点 (二)現在の科学を理解し、それを通して國に奉仕する精神を持た (一)國民精神を昂揚して日本國民としての自覚を持たせる事。 (四) 芸術や技能に関する力と情操とを持たせること。 それによって、 です。それ等 皇国

(図あり 不鮮明なため収録していません)

問「従来は所謂秀才教育とい 0 て或特殊のすぐれた子供を作 り

上げるといふやうな教育もあ つたやうですが

性、そういふものには相当の注意を払って行く方針です。例へば、 ません。併し出来るだけ多くの人に工合のよい教育をする 答「國民全般を錬成する事が主ですから、 勿論です。 るばかりですから。 錬成といっても弱い子供に無闇と強い鍛錬をしたら、益々弱くす 男女の別、 心身の發育の程度、 特殊な秀才教育は考へ 地方の実情、 子供

問 「教科外に特に力を入れるのはどんなもの ですか

を実践させるのに極めてよい機会ですから、教科と連繋を持 学校の行事です。これらは、 答「教科外の施設とい て、十分効児のあがるやうに実践する事になつてゐます。 へば、 國民精細を昂揚し、國民としての道 祝祭日や記念日などの儀式、

らよいでせうか。 問「國民学校実施に当って、一般國民はどういふやうに協力した

答「先般近衛総理大臣が大政翼賛の臣道実践といふ事を 趣旨を了解して、子供をして皇国の道を修錬せしめるやうに協力 は、学校だけで出来るものでなく、 してもらひたいもの したが、國民学校の精神もこれと合致するのです。 です。 家庭や社会もよく國民学校 処が教育 ま

た点を改めて、 國民を作り上げようといふのです。切に全國民の御協力を希望 でもあり又、教育新體制の第一歩を踏み出 て止みません。 い教育を受けた者程、 今度の國民学校は國民精神総動員を永久ならしめようといふ事 教育によって、 国體に反するやうな気持になる傾 上御一人に奉仕する信念に燃える し訳なのです。 従来は

# 昏迷移民史の一駒

### 北米第二世教育

### 聖市貿易斡旋所長

### 茂木 清吾

生大事と守り来り、欧洲諸國も或程度その合衆国の態度を尊敬 衆国が一種の侠気を示した政治的宣言であって、爾来数十年、 陸南北米の弱國に手を伸ばし、その征服を企つるに対し、北米合 其の國民性であるお節介が禍して、大統領ルーズヴェルト氏を将 たものである。 帥に、國を挙げて英吉利の為に火中の栗を拾ふのに専心してゐる。 一九四〇年此方、北米合衆園は世界の 々米國のモン ロー主義なるものは、欧州諸國が争って、 中心に立つかに見える。

なって現れ、 い次第である。 つゝあるか、西方日本に対しては、 然るに昨年から本年にかけて、大統領ル氏は國諭を何処へ導き モンロー主義は一方対欧御節介となり、 随分と其悪変化、高踏的帝國主義に驚かざるを得な 一九三九年来干渉に干渉をや 東洋では援蒋政策と

こうした気儘な且つヒステリー的気 どうなったか、 亦どうせねぼならぬ の中に置 か。 かれる北米第二世



隣及びその父兄は、入営兵士を送って行くこと恰度日本に於け の法律 最近伝はるニュースでは、我が二世は忠実なる米國市民として、 の命する所に依り、米國の 0 ゝあるやうである、桑港やロスアンゼルスでは、 新徴兵令に服従 多数が兵営

なれと教 るが如く、 へてゐる 壮行会、 のである 歓迎会と第二世應召者を勘まし且米国に忠誠

事ある時 国の米を喰む者なるが故に、 米国在留日本人 第二世は米国の為めに働く事を教へたのである。 の教育方針は昔から一つであ そ  $\mathcal{O}$ 生国に忠なるべく、 0 て、 第二世 不幸日 は

強度に北米第二世教育方針を左右したので、此の点昔も今も替る 日的米國民を感動せしめると新聞は報じる。 当地にも譬喩に挙げられたるらしいが、所謂日本の養子道徳が 一貫して来た様だ。 此の日本人子弟の入営態度は痛く排



場である。 其処に籍を有する以上、止むを得ない境涯が今の日系第二世の立 うとも、 して見ると、米国の我利我利な今日の態度でも、 「吾等は我國正しかれと祈る。併し國が正しくとも、不正であろ 吾は日本人也」と言ふ毅然たる愛国的態度を第二世に移 其の生国であ り

まる 者駆逐問題では大っぴらに法律的迫害を受け、移民禁止事件では、 サンフランシスコ学排斥問題で大屈辱を感じ三、四回に亘る農業 議会で、日本人排斥立法を急いでゐるのがあるなど、 む事を拒まれる侮辱があり、殆んど毎年位には米國中何 乗せられて、居住地を追放された者達があり、買入れた住宅に住 其の間地方的には農園襲撃事件があり、カミニョンに無理強 は言ふも 米国の日本人は、思へば辛い幾変換を経てゐる。 で王者が奴隷に対するが如き正面鞭打を受けた姿であ  $\mathcal{O}$ ゝあまり居心地の良いものではな カン .. つ た。 一九〇七年の 住 一めば 都と ひに



来たか?。 に日本人はどうし 或者は排斥に次ぐに嫌悪を以って迎へられるは、 た態度で、 北米植民史的四十年を彩 我

渉があ に改 等に到らぬ点があると断じた。罪を己に稼した虔しまやかなる嫁 が英文物とな かなか  $\mathcal{O}$ 態度である。 同 0 化を計った。婦人の農園働きを抑めて袴を男子風 らめた。 ったが、相当其の趣旨は徹底したの た訳でもないに、日本語学校の廃止が叫ばれ、 った。 店前 其の位の遠慮はよ 先づ我が振り直ほせと言ふので、  $\mathcal{O}$ 日本看板は不同化 いとして、 の印とばかり、 であった。 更らに当局の干 一生懸命言 其の 全部とは のズ 凡て ボ

ら廃 或る家庭では児童の日本語学校行を禁止し、 止する態度にで出た者も僅少ではなかった。 子供の日本語をす

遠慮 同化々 であり、 々同化 謙遜であったのだが、 ―。それが北米在留日本人の態度であ その報ひられたものは り、 彼等 何 カ ?  $\mathcal{O}$ 

 $\Diamond$ 

節介にして、 的なるも 民も匙を投げた貌で、其の後遂に日本語学校の勃興となり、 上に、日常生活の上に壱も其の気持を減退せず、 人があらゆる同化努力を為せばなす程、対日反感は募り、 退けば図に乗り、進めば退くと言ふのが米国民性格である。 のの紹介注入となったの 嫉妬に燃える 一面もその である。 国民性  $\mathcal{O}$ 中に 茲に至って在留 らある。 法律 在日本 H  $\mathcal{O}$ 

社 ても干渉せず、日本語学校数十に上るも意とする所なく、 の建立に異議もなき有様である。 現在北米は対日空気険悪とは言ふものゝ 邦字新聞が何を書 佛寺神 1

排斥す 進めばそれで良い つまる処米国に住む上には萎縮せず、 には排斥すると言ふのが、 のであって、 日本人がどう言ふ態度に出ても、 北米人の態度なの 退嬰せずに、 併し正道を であ

 $\Diamond$ 

て混迷の中に我が北米移民史は四十年を過ぎたが、 その

を言ふと少々曖昧に過ぎ、対日侮蔑に過ぎたのは残念である。 も米国が難癖をつけるのであらば、吾等亦何をか言はんやである。 中に一貫せる教育方針だけは全く見上げたものであって、之をし 斯うした移民史教育を受けた第二世は、すくすくと育って、 実

落ち着く。 北米も同一である。吾等の子孫はその生國に忠たるべきは勿論だ が、同時に両国間め楔子となれと祈る親心だが、子はそんな事に 親の国を貧弱者扱すら敢てするのである。親の悩みはブラジルも 頓着なく、 て、心から世界一の國に生を享けた喜びなのである。時偶彼等は 彼等の対米思想は義理や、叉は無理強ひに生れるのではなくし 日本を知ろうと務むるものは、 極めて少数と言ふ事に

が、日本人の血を享けた以上、ある程度日本人らしさ喪失しても、 当然であろう。 はないのである。 は今やその途を歩みつゝあるし、在伯同胞も何等其れと異る筋道 日伯間の楔子として生き、祖先が日本人たりしを記憶して呉れさ 如何に足掻いても藻掻ひても到底は北米の同胞と同一轍を踏むは ブラジルの我が二世教育も、 へすれば、それで我等第一世は満足すべきだと思ふ。北米第二世 せめても経済的に発展を約束される二十萬同胞 完 ) ] 親の為に頭痛 の種であるらし

# 児童衛生をどう指導するか

医学博士 高岡 専太郎

場 所 ブラジルと言ふ国

人物

日本人の血をうけた児童

A、農村にゐる人々

教師、大勢 普及脅幹部、数名 音及脅幹部、数名

これらの ればよいもの 人々 かと言ふことを此 に甚だ失礼のようであるが私は児童の衛生をどうす の舞台に立つてお話申上げたい

一、児童衛生の主題目

### イ、十二指腸蟲病

叫 前 のである。 んでゐられるの の農村を健康化するには十二指腸虫を駆逐せねばならぬ」と 職邦衛生局長ベリザリオ・ペンナ博士がよほど前 は、現在に於てもその重要性に於て変わりは無 から「ブ ラ

ジユキア線邦人子弟に屡々遭遇する度に「これは困ったものだ、 お芋をよく育てバナヽの優良品を生産するような心掛けで、てん 十二指腸虫が影響するか示してゐる。私は臨床医として近郊又は にある兄が弟よりづ ○○%の感染率を示してゐる。ペンナ博士の著書に出てゐる挿図 の児童を育てたなら」と、つくづく感じる。 インテリオー ルでは七○%、海岸地帯の低地では更に っと小さいあの写真が、いかに児童の発育に

# 1、農村にはびこるトラホーム

ロエステ及びソ 最近当局 である。五〇%から七〇%、嘗って富藤学士の邦人調査が のである。田付大使や藤田総領事時代のことであるが、停車 たときは、一〇〇%の部落がかなり多くあ の調査発表をみても、農村のトラホ 口 カバナ線で平均六〇%強を示してゐた。我々が -ム患者は移 0 て驚いた

だまだ理想から遙かに遠い状態に置かれてゐるのは、皆様先刻御 らみると、現在は非常に衛生の向上を示してゐる 赤眼をしてゐたものが案外多数だつたので太変心配されて、どう 場に出迎に出た小学児童の中に大変汚い目脂をつけてゐたもの、 承知の事であらう。 かせぬといけないと言って居られたのを覚えてゐる。その当時か のであるが、 ま

# ハ、児童の衣服寝具の問題

今でも不思議に思ふてゐる。 田舎の叔父さん連中が厚 「納豆式育ては止めて貰ひたい」と皮肉を言ったことがある。私は 部厚な日本式な蒲団に今でも寝かされてゐる児童をみて、 いメリヤスのシャツを着てゐるのを見て 日本人の児童はこの方軒で粗床式 私は

### (数ページ欠)

# (両親の再教育

上野)

てはならぬ。 くられ、 智能も発達するが 最 初 の成績によ 0 て、

から、 を安く評価する事になる。 りだつたのに、それでは本当に馬鹿かしらと悲観し、子としては この児もしっかり勉強しないからだ。お前はノンプレスタだ」 「一番偉いと思ふお父さんが、お前はノンプレスタだと言ったのだ 父親が母と子を責めたとしたならば、母としては相当やったつも いに母を激励し、その範を垂れ、 「此の児はやはり駄目だつたな、不断お前の躾が悪いからだ、 ほんとうに自分のカは乙であり、 この責は父にあ 少なくとも子の前で母を責め 馬鹿かも知れぬ」と自ら って、 自らを反省して

Ŕ さ 見て好くならぬ が子が人の子に劣れ 分の足らざるを認識 へも教育の 子 之を見放してはならぬのである。 · の 悪 口だけは避けた 可能な世の中に、普通の子なら假令最悪の場合と誰 ŧ のは、 ば一入可哀さうに感ずるが常然であり、 て何故子を庇護せざるか。親なればこそ我 他人ならなほ更の事で、 いもの である。 母も亦悲観する前 増して低能児 に自 で

に演説するに至つては只教育のカの偉大さに頭が下るのであ 感覚に のである。 女史は世界的女流文学者としてのへ 三十七年間濁身を通して之を辛抱強く指導した米国のサリヴァ い憐れな一幼女を引取り二十一歳から五十八歳 生れると間もなく眼が見えず、耳が聞こえずず、 て微妙な音架を聴き分け、堂々と対話もやっ その涙ぐましい努力によって、 レンケラー 心眼に聴衆を視、 女史を生み出 の老年に至るま 従 てのけ、 って話 大衆 鋭き る。 した せ

はるべ 世界中のあらゆる不自由な聾唖者、 し在 昨  $\mathcal{O}$ りとせば、そは親なり教師なり と言 きことを叫んだのを聞く時、 々年母國を訪ね両陛下に拝謁仰せつかった光栄ある女史が、 ひ得る。 文盲は勿論、 の力の足らざる遁弁に過ぎな 世に不能といふこと無し、 低能児と雖も救

枚破 全部 込主義教育に革命を齎らしたの  $\mathcal{O}$ 持て余した様な児を多数収容して、不良児、 良心 らず、 Ď, 断ち切り、 の英国 叱責せず、唯賞讃して立派に優良児と化し、従来世界 ニール校長まで叩く蹴るの不良を働  $\mathcal{O}$ 冷静 萌しを待 の恐るべき学校、サン 高価な手工材料を破壊し、 に彼が つた 何故かように  $\mathcal{O}$ であ である。彼は或る不良児が庭 7 な ヒル ったかを究め、 窓ガラスを一 のニ いたにも不拘、 低能児、 ル氏は感 生来善 度に数十 悪癖 化 児を 度 を 詰

はこの不良児が、 幼い時から余り厳格に育てられ、 興へ ふる

金を添 常に恐怖感と共に反逆性を持つ様になった事を知り得て、或時比 磅の金をせしめんとするのを好機逸すべからすと校長はその夜其 じ悪を働 説教され と叔父さんから其の後又追加の依頼ががあつたと称し、尚 の不良児に所要の金の外にこれ程慾しい金なら少し余分にやろう の不良児が外出先から叔父に化けて電話でニール校長を騙り、 下に拗ね べき小遣も興へられす、常に牢獄の如き両親の冷ややかな監視 へて輿へた 家を飛び出 神の ては神に謝罪することにより、許され事が習慣となり、 鞭をうけ、  $\mathcal{O}$ である。 し盗みを働き感化院に送られ、 教練 の鋭 い眼に睨まれ、 自ら悪人と任 悔悟師から 一 磅  $\mathcal{O}$ 

を憎 までも叱 以後性格 であるが、教師ですらかゝる不良児を矯正した事ならば、我が子 ・気持にになって呉れるかと嘗てなき涙を流 り憎くべきものとして冷淡視した自分に対し、これ程愛し、 所 が其の不良児は余分の金に非常に狼狽 しとする親は無かろうし、まして之を善導するならば、 人に扱ひにし、 ってはならぬ 一変し、社会に出で立派な生活を営んでゐると言ふ実話 小遣の要求の少なからんことを願 のである。 して、 且悔 ひ、 更生を誓ひ、 Ű, 親も社 親が心

さい やることによ ほめ 昔から七歩ほめて三歩叱れといふ言葉があるが、これを殆ん つもそんな事はしなかったね、お母さんの児ですもの、よ 起きるから寝る迄の間、為すこと言ふこと総べて善いことは の時厳 て叱るなと申し上げ度い。 ことでも賞賛し続けて、必す優良児とすることが出来る 今度からは気をつけませうね」と軽くやさし 間違 く叱った為に却って反撥の気持が起きて、より以上 0 っても好い児にはなれな 必ずか ゝる事を度々繰返さぬも たとへ悪いことをしても「坊やは 1  $\mathcal{O}$ である。  $\mathcal{O}$ である 私は 全部 ど叱 ~

悪事を繰り返す事になるのである。

きである。 も子供はぐんぐん醇良化して行くの 勉強する事は当たり前でなく、善い事である 事で、 少しでも善 よく働くこと、 い点があれば褒め 清潔、 整頓、 である。 秩序, てやること、 礼儀、 から褒め これ 作法等、 てやる のみで

欒平和を保ち、皆優良児となるならば之以上の まづ実行を望む次第である。 賞める事は誰しも嫌な人はなかろうし、叉文化 事は無 に ょ 0 1  $\mathcal{O}$ 7 家団

之に対する時にはユーモアの気分で、共に子供になった 接してやる事が、特に農村の環境に於ては必要である。 比の外に青年期なら格別、子供には子供の世界がある  $\mathcal{O}$ つもりで、 で、 常に

間 た例は枚挙に遑がない程である。古くは孟母、リンコ 故に家庭の教育は親であり、親の教育は母が中心となってゐも である。古より偉人英傑は皆涙ぐましい慈母の の教育の前途に重大なる鍵となるのである。 くは乃大大将、 て家内をきり廻し が多く、多くの場合は母の手で其の方針が実行されるのである 扨而両親の教育方針が一致し促進されても、父は戸外 重大なる母の教育の一要素である。 東郷元帥の母の美談は余りに有名である。 交際もし、 我が児の学習のよき伴侶となる 故に母の健康は我が 愛撫 の中に成長 ルンの母、 で働 主奴と 子 近

庭教 私は家庭 師 である」と言ってゐる。  $\mathcal{O}$ 小児が二六時 に値する。母の家庭に在るや、 である。 の中心である母は常に家庭団欒の 偉大なる哉母 教育学者 中 -模範として之に做ひ、生涯品 ヘルベルトは  $\mathcal{O}$ 是によい言葉あると思ふ。 九。 家族中の 「善良なる母は一 中心 人心を引き であ 行 る事希望す  $\mathcal{O}$ 実に 百 母 け  $\mathcal{O}$ る

は今長期建設に東亜の協同体に 向 つて輝 カン い業績を進め

あらうし、今後二〇年のことを想像する事も不可能である うある。 今後移り変る情勢は眼まぐるしく、 急テムポで進むで

は祖国 祖国 事などは の決心が にも帰国する等は夢にも思はず、到底不可能の事なれば、 余州を席捲するが如く一歩々々進む秋に、須らく眼界を廣く て生活機構の一大転換を企て子を護る可き母を労働より開放する 神国日本民族の世界指導の聖業は浸々乎として宛も皇軍の  $\overline{\mathcal{O}}$ 糟糠を嘗めんよりは、進んで伯国の文化に貢献し、 の発展に資せんと覚悟することが緊急の署あると思ふ。 つかねば、家庭教育とて到底実行される訳もなく、まし 到底困難な輩と思ふのである。 退い 引 い 四百 此 仮 7

試さん時は来たの に否自らの為に、 起つ日本男子 0 血と涙とを以って綴る開拓 て常 って、  $\dot{O}$ 来り襲ふ所 の意気を、又いみじくもやさしい大和撫子の力を 充分なる覚悟をせられん事を望む次第である。 である。 子を持つ親、 の精神的受難、 の歴史の正に緒に就 庶幾くは速かに愛児の為 国粋の嵐 かんとする が雄 々しくも 12

(一九三八・四・四)

# 農村生活の根本的改造日語学校閉止と

ブラジル朝日新聞社

江見清鷹

といふことは この国策を肯定するする拠り所としては、ブラジルが近代的 ラジ が 国語をも 応も再應も、 0 てする初等教育を禁止する方針 尤もであると肯けることな に出た  $\mathcal{O}$ であ

常に弱 圧的 る民族 の文化 烈な国家或 は であれば、ドイツ語や日本語が横行闊歩し からう ける自覚症状を許容し難くなって来たことが挙げられるのでは 国家とし 止まれぬ措置とし とうにブラジ ては ブラジルを脅かす何物でも無 で新聞や刊行物にまで同じやうな制限を加 文化、なずみ難い言語風俗、 の方法をとらねぼならぬには、ブラジルには文化的に見て非 の最後的な抗議だとも言へるのである。さうい 的 といふ、 い所があるからである。外國語の横行を、黙って許してお ・フラジルが外国語による初等教育へ弾圧を加 のあまりにも傍若無人な振舞ひに、たまり兼ねたラテ 根底をなすラテン系の民族文化から見れば、およそ対照 もつと端的に言へば、 びは民族意識をもつ国々からの移植民民の、國内にお の自覚を本当に持ち初めてて来たこと、 本質的な弱さがあるからであるといってよ ルが文化 て認められるだらう。 の根底に一 い筈だ。 乃至は習慣を頑固に守りつ ド 0 イツだの日本だ  $\mathcal{O}$ たゞ、 強 いも て見たところで、それ かくまでも のを持 へるのは、 った限りに それ故に、 の、ブラ  $\sim$ ってゐるの さらに て強 ほ

定の課程を終はらしめ、 る 自分並びに自分の子弟の環境が上述の目的が完遂するに不適当で ことは には ねば る間は、いかに焦らうとも、 無駄 つの国民性、民族性が言葉を通じて滋養 とも四年乃至六年はかゝると見なければならぬ。その間転々 ならぬ。それには非常な努力と時間と費用とが要る。 が である。 何人も否認 兄が さらに学校の無い場所ではまづ学校から作 率 早 Ċ い話が、 て移り歩くの し得ないところであらう。 更に日本語を覚へしめやうとするには、 自分の子供達を小学校 如何に理屈を捏ねるねやうとも、 であっては到底これは行は し得られるも それ故にこそ初 に通は せ、  $\mathcal{O}$ これ

らぬと信ずる。 かぬぞといふ心構へを確立し、 0 かりとした改革を子弟の教育に樹てるのでなければ何にも 々と移 のではない。まづ落ちついて一生も二生も、 り歩く浮草生活をやってゐては、何時まで経 その準備をし、 そしてその こゝからは動 0 ても埒

教育々々 意して訓育に当るるべきである。 お ない、浮き草のやうな生活態度は面白くないと考へられる。 なるのである。 ふやうなも つかない生活が、どうして子弟の教育に本腰を入れ得やう。 へやっておききへすれば、字も覚へるし物も判るやうになると放 ける訓育、 しておいたのでは何もならぬのである。やはり父兄が絶へ 教育は何も学校だけで成就されるものではな てゐるなど、全く矛盾も甚しいと言はねばならぬ、 教育を云々する前に自分が落ちつけといふことを主張 と一應やかましく言ひ乍ら、自分は一向落ちつかぬ のが 社会での訓練や経験、 故に、 一つにな 兎もすれば見受けられるやうに、たゞ学校 って学校で この点から言っても、 交友の感化、 の習得が初めて生きたも 周囲 の影響とい 落ちつ 私は吏づ 家庭 す注 生活 落ち ロに カン

回

めろといふことばかりを意味するのではない、勿論それ 大切なことではあるが、それよりも、 0 ちつ  $\mathcal{O}$ Š 自覚する のであれば、これはお話にならぬ。さっさと蓄めて といふことは、何も土地を買ってそこへ定住 が そのためには何うすればよ のが先決問題であらう。 自分はブラジル 金が蓄ま **,** \ か、 といふことを 0 たら日本 何をし 常一に お

れさへ 供 帰りにな やうなことでは無い。 出来上らないうちは、凡百の方策も何もならないことになる。 することが こに永遠の基を定め、自分および自分の後を永遠に生かすと覚悟 かりしてゐなければ、日本人であり乍ら却って日本精神を失っ みならず、必ずこれを生かしてゆくと信する。 あるから、 不自由であ 本との交通が杜絶 つか ころは、前にも言った通り、 しまふことになる虞があると思ふ。 へさへあれば、決して民族精神まで損はれることは無 り 将来を如 出来てをれば、 した心構へをつくる必要があらうといふのである。これ 0 日本人たる精神までが失はれることは絶対に無い 稼ぐ方へ全力を注がるべきである。 たら宣ろしい。そういふ方々は子弟の教育など後廻は り、面白くないだけのことであ 取りも直さず日本精神の眞諦、 何に幸福にし、発展せしめてやるか、といふ点で、 へやうと、新聞雑誌が読めなくならうと、たゞ 極端な言ひやうであるが、 日本語の教育が止められやうと、 こゝで死ぬと覚悟し、 農工商業、 って、 八紘 この心構 私の対象とすると 何れでも宣い、 事生死に関する しっか 一字の こゝ生れ へがし たとへ日 大精髄で りした心 そ が で

### 五

如何にすれば、将来農村における日本人社会の發展が期せられ かといふ点を考へて見やう。 が大分理屈ぽ くな 0 たが、 以上述べた所を前提とし 次に る

· 立 つ 私は、やはり、 もつと自分の土地を有ち、 充実したもの 日本人全体 にならなけ の経済生活が、 れば不可な その上に ŧ しっかり <u>つ</u> いと思ふ。 を確 た基礎 が

なだけ 統計を看た 経営が樹 無を信用の対象とするのが世間である。第二に、 を挙げてゐては切りわが ておく必要がある。 べたやうな、しっかりした心構へ、 分の土地に経済の基礎をおくのでなければ大を為し得ない。 の為に美田をのこさすといふのは余程えらい の他定着すべき土地を有たぬ のまだ極 て種 て難関を突破し得るのではな われわれは へ対する信用の上で大変損である。 の恒産を用意しておかねばならぬ。そしてその上に前 々と経営するわけに行かぬこと言ふまでもない。 てられる め 少部分だけ ので、は やは のでなければならぬ この二つが揃 り子孫を一人前にするためには、 が っきりした数字を挙げ得な 無 独立農であって、その大部分が いが、土地を有たぬといふことは 実状にあるといふ。これでは落 1 かと思ふ。 0 つまり恒心といふものを養 て初めて、 と考へる。手近か 何かと言へば土地 人が言って良いこと この一大転機に 内にと いが それに必 借地 0 一々 明確 も自 第一 実例 5 農そ 邦 有 0 述 要

### (六)

用意は出来た、 次 にどうする カン とい ふ問 題であ

会組織 来な 年々 経済状態をし れは、種 りかた 病人でも出るか 、或は毎日々々、 などから説き起さねばならぬことになり、 のであるが、 いふ時には、 々難かしいことを申せば、ブラジルの政治、 で つかりしたも は寔に困るの 忽ち困るといふのでは、 結論だけを申せば、 その場限りの暮しを樹てるのが精一杯と 最悪 のにすること眼目とすべきである毎 の場合で自分が である。 子弟 何を措いてもまづ自分  $\mathcal{O}$ 如何に 教育は 病気になるとか 到底こ、 しても駄目 愚 カン `` 経済、 では <u>一</u> 三 且

産業部 要が 農村人とし おけ を取 業組合運動において、盛んに保護助長を試 でも 生か 用することによって自らの経済生活をならしめ、 日本人会 は本質的 を生ぜす る必要があらう。さらに便乗すると言ったら語弊があるかも知れ つ 部 存 問 7 'n 遠 り入れ を用 る協 が 門 題 あ あ であらう。事実、ブラジルの経済現段階においては、農村 てはならな 在を絶封に許さぬ方針である以上、最早在来 あるが、その組織の基礎の問題となる、 した存在として浮き上って来るに違ひない だけ る。 い将来は であ 邦 る  $\mathcal{O}$ とか社会部とか修養部とか言った部門に主力をお て生かしてゆく事は出来ないと思ふ。組織は結局 幸 一であ ぼ 同組合組織が に存在出来ないことになる。  $\mathcal{O}$ まづ修身冶家が在伯邦人社会全体の基礎理念となる必 ひ、 があ 一人々 実を計り、 ならぬ。 では、 ては賢明な方途といふものである。産業組合組織 て在伯邦人農村社会の るが、これはブラジルの国策が、 て、われわれが庶幾する処の衛生とか教育とか の社会改善されてゐる時、 て社会的 り得ても、その実内容ではすっと変 ブラジル いざ知らす、 い。手つ取り早く言へば、今までの組織 っ実余り活動を示してゐなかつたやうに見へる。 如 々が斯様な状態にあれば、 特昨 何に立 な施設 修養 何んと言つても、適切有効なやうに思は 今の の政府としては、農村の経済活基調を産 派 只今の 例 方 如き非常時局に際 な組織を与 へぼ も進 一組織単位とすることも良策 処はこの 医療機閲とか 少くとも形 私はまづ足元  $\lambda$ で  $\sim$ み 行 て見ても、 外国人の 自主独立に徹 在伯邦人社 0 たら、 して、 ۷ 根源 . 沿 つたも  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ あ 教育施 上に か か 0 如き日 る 政治的 ら次 農村 る て進 あ そ が カン ふらふ 会は ま 後  $\mathcal{O}$ 5 く組織な 内 する V) 組  $\mathcal{O}$ そ 間 を活 お 間 が 会 体 題  $\mathcal{O}$ は 題 を 5

るか 合せ 解決 5 で利益を追求するといふ積極性もあるわけである 利益を増進し、 て大きな力とし、 理屈もあらうけ 一面には自己防衛といふ消極性を有つ代り、 一歩前進が出来る 共通 これ善く活かし れども、要するに一  $\mathcal{O}$ 損害から防衛するとい  $\mathcal{O}$ では。 協同組合 て用ふることによ 人々々では小さな力を の精神は、 ふにある。 一面に於ては って、 種 であ 々 共

農家 に代 を有 織は オカ、 生産方面 担当する者である。故にその経済生活を豊富ならしめるためには、 必須な形をと 一面生産者たると同時に他両商品の供給誉して流通経済の て協同組合組織によることが考へられる。それ以上の高度な組 一と工夫致さねばならぬ ブラ の生産は へ、他に欲望充足の資とする商品 つものである。 暫ら 其他等々 ジ の充実をは ル農村の 、は行は 御承知 0 てゐるばかりでなく、進んでは商品とし 何れも自家必須の物であると同時に、 米、 れ得ま 現段階におい かることに努力すると共に、商品の の通り、 玉蜀黍、 いと思はれる。 のである。それには丁度手頃な方法 収穫そのものが直ちに自分 珈琲、 ては考へる必要もなく、 「である。 棉花、 故に今日 マモナ、 て流 捌け方に  $\mathcal{O}$ 売  $\mathcal{O}$ 7 農家は 生活 また 0 端 ط ح 到 日

### 七

認され 晴を欠 が では、これを文化的進展の さて、組合組織を農村体制の基礎としたら艮 発揮され に獲得された し利潤が く感があらう。経済生活を擁護し進展せ 失は ても、 るといふべきであらう。 利潤は れずに保たれた場合、或はそ たゞ そ 、初めから無い  $\mathcal{O}$ ため ま  $\angle$ É  $\mathcal{O}$ 動員してこそ、 推移を辿るだけ 組 もの 合組織によ  $\mathcal{O}$ いといふ仮定が しめ 組織も て蓄積 初めてそ 0 て、 で て失は は、 さらに  $\mathcal{O}$ 0 書龍点 対 象と 進 る 真

ある。そしてこれ文化化的發展の資財に活用することが肝要であ ておく、少なくともその この用意あって初めて農村の新体制制が希求され得る — 部 分の除外、 蓄積は是非とも必要で

る、 農村体制にはこの無権威な存在が余りにも多か 斯う 再建 球にしろ、相撲にしろ、陸上競技にしろ、強くて勝ってゐる間は、 を持って廻ってその活動資金を集めるのが例であった。幸ひ、 きな組織をを運行してゆく第一歩ではなからうか。たゞ人を集め、 寄附も景気よく集って、 で、それはそれだけの事であ 自分で始末するといふ、独立自尊といふ精神の現はれとして私は に止まることでなく、他人の世話にならす自分の事は出来る丈け る。これは膏に活動資金を獲得するといふ物質的な自主性 出す工夫を凝らし、 で負が込んで来たりし出すと、さあ思ふやうに寄附が集らぬ。(佛 は結構それで良か いふことになり、青年は自らの力でもつて自らの活動資金を産み の顔も三度)といふことになる。そこで、 いに讃仰 某地の青年会は毎年運動シーズンになると、 別途積立もやる、 の心構 名前を決め、 いふ風に、まづ身近かな所から段々片づけてゆくことが、 のである。そして見事に更生した例を私は一つ二つ へが出来たといっても良いの して良いと思ふ。 定款を作り、 った。 棉も摘めば、 といふ風に、その資金獲得に自主性を發見 何の心配もなかった。また景気の 所が、景気が少し下火になったり、 こゝまで来れ って、 会長以下役員を並べて見たところ ミーリヨ、マンジョオカもつく 何らの権威にも値せぬ従来の ではないかと思ってゐる。 これでは不可ない ば、 前にも述べ 0 各有志が奉賀帳 たのではな 知 の發見 ってゐ V) 競技 لح

### 八

空虚な名前と形ばか ŋ  $\mathcal{O}$ 団体でなく、 何か実質的な仕事をして

育に 同時に、 と思っ 成る 日本語 に述べ こた ちではなからうか。渾然たる社会といふ内に、 れわ 覚悟と準備とが必要だ。それが出来てゐれば騒がなくても済む筈 とは 反問 例である。在伯邦人は万事につけブラジル人との協力を忌避し あ うか。それならば一と頃のやうに、また今でもさうであるやうに、 ゐる農村実社会の樹立でなければならぬといふことを、 形成するといふことは、 であると思ふことも強ち見当違ひではなからう。 すべきであった。さうしてブラジ て、子弟をこれに預けてゐたに過ぎないと思ってゐる。 本人は集ればすぐ会を作り、そしてたゞ学校を建て、 することになる。私は忌憚なく言って、 で出来てゐて騒ぐならば、それはもつと高い もつと大所高所に立ちブラジル社会の の意味で教育の制度を確立し、文化の淵源としたのではなか 0 った。そしてブラジルに向つて校舎の維持や教員の派遣を要求 へ得な た。 固執したことが、今日の不自由を招く遠因の れは学校を設けた時にこれを社会全体の為に開放すべきで 程、結構でもあるし、 な文化水準に農村を引上げやう。維持しやうとする心掛け 無い筈である。到らぬ点だらけのブラジル農村に伍して、 が必ず起ることゝ信ずる。 てゐる。 て来た。それでも今まで結構やつて来たではないかといふ の教育が制限されたからといって、眼の色をかへて騒ぐこ かゝる遠き慮りなくして、単に日本人児童のみの初等教 日本語の習得をも出来るやうな道を拓 にきまっ 教育といふことをも てゐる どう考 健気でもある。  $\mathcal{O}$ が、 である。 へても危険な話 ル語による読書算数を数はると 果して本当にさうであ つと厳粛に考 一員たる自覚の下に積極的 。今後は、 今までの農村にお しかしそれには相当 所から眺め カン 相容れぬ唯一点を であ ゝる態度を拾て、 一つとな へるならば、 7 る。 先生を傭 は単なる ほんとう 私は単純 て問題に ける ったら 0 きで た 0  $\mathcal{O}$ 日 日 0

に働きかける必要があらう。実際問題 派に果して行くことゝ思はれる。 ことが、 憶劫にさせるのであるが 今では青年層が ては言葉  $\bigcirc$ 不自  $\mathcal{O}$ 役目を立 由といふ

### 九

は、 るやうな事柄な 事をくどくど並べ立てゝ来たが、要之、 将来 別に新規なものではなく、  $\mathcal{O}$ 農村体制如何とい のである。 ふ命題を求められて、結局取 何人も考へ得られるし、 私の言はうと思ふこと 考へてゐ り 止

が確 局は、 であ 安の夢をむさぼる時では決してない。 世界をあげて一大転換期にある。舊秩序崩壊の轟音の裡から新ら 父兄に らに卑屈に陥 動によるもよし、宗教的に行くもよし、倶楽部的でも なるのである。種々な方法手段が考へられるであらう。 である。そのために何うすればよいかといふことが究極の問題と れば権利もある。これを全うしてゆくより他に生きやうはな 死ぬと考へ定めた以上、ブラジルの社会の 人各々考へもあり、 い秩序 い世界をつくって、これを己れの後を継ぐ者に引渡せば足る ブラジルに住み、生き、 固たるものであれば、道は自らそこに開けて来、時代は既 はぬ、その時その処に合致した組織、 て腰抜かしては不可ない。万難来るとも、 って、その如何なる方法によるべきか、手段をとるべきかは、 0 己が生活を豊富にし、 て、奮起一 してこの覚悟さへあらば、子弟をして向上発展せしむるの の進軍調が 0 て為すなき底の態度こそ最も戒心す 工夫もあらうといふものである。 開拓 響 1 子供を残し、  $\mathcal{O}$ て来てゐる。徒らに現状に 己が周囲をともに向上せしめ、 の眞面目を発揮すべきであらう。 と同時に、 育て、 これ生かす目的意識 一人としての義務もあ 来らば来れの気概 やがて自分こ 時代の変転に べき事である。 協同組合運 ってゆ 甘んじ、 より  $\searrow$ 

道は闊然として拓けゆく事と確信する。

### 体育に関しての卑見

元神戸商大数授

岡 田 英 定

パ延長線教育史刊行に際し れたることは誠に光栄の到りであります。 て、余に体育上に関する意見を求めら

# ○体育は如何なる人にも大切である

きに堪 ぜす、 でも、富めるも貧しきも、 人間である以上は、男子でも女子でも、岩い者でも年老いたる者 のである。 刺戟を与へて、容器中実の精神の活動力を旺盛にに、且つ久し 元来体育と言ふことは、身体と称する精神の容器に、 この事の必要でない者は、 へ得る如くなさんとする大切なる方法にして、これは 職業の如何を問わず階級の何たるを諭 人間社会には一人も在る訳はな 或る人為 筒も

# ○伯国に於ける体育の状況

家庭に於ても、 十分に体育の実際が行はれて居ない処が多くあるし、叉現在社会 が、一度実行の方面を観ると甚だ遺憾に堪えないものがある。 それは何故かと言へぼ、未来の社会を構成すべき幼児を育つる 然るにこの体育の考へが、一般に知られて居ない訳でもあるま 叉将来の活力原素を養成する学校に於ても、末だ

上り、 らな 病床に呻吟 か に学生、商工業者、 れたり斃れたりする有様は、個人にとりても家庭にとりても頗る の時候 表面に立ちて活動しつ て居ない てると言ふべきか、忘れられてると言ふべきか ければならなくなったり、或は胃腸の病に苦しめられて徒 これから本格的に活動すべき年齢に進まんとして、 して、 の変り目に風邪に冒されたり、又肺療養所の御世話 。随て将来性ある若い者が、身体の抵抗力が する人が、年々歳々多くなり、 国家社会の損害も叉莫大なりと言ふべ 叉は農を業とする人達にも割合に冷淡視野さ ゝある青壮年年階級 社会の経験も漸 の人々 ` 一向に実行さ の間にも、 老 く積み ぼ な

## ○余の体育奨励の方法

張とその方法 なって居た関係もあり旁御恩報謝の一瑞にもと思ひ立ち、過去 会を起し るが思ふ様に反應が現はれてくれない。 年間或は各地の青年会や修養に関する講習会等に於て、体育の それ で私は新くして我同胞の先途の衰へて行くのを見てる て、定時又は臨時に希望者を集めて講習を試みたりし ŋ, の指導に当って見たり、或は聖市に於ては早起体操 叉自分は五十有余年も我国 の体育界に御 "世話

には相当景気が艮かったが、近来は少し下火に成りかけてるは誠 . 困 て有効なる、 叉最近三年前よりは一番手を変へて、体力気力を増進する上に 0 たものだ。 り方を述べて読者の参考に供し 郊外遠足会と云ふのを創め 因てこの機会に於て郊外遠足や体操の効能や、 、併せて実行に資 て見たが、

を逸 とない機会あると思う。 折には、道を歩む心得も教えられ、 体の尊厳さを話したり、時に東郷元帥や乃木大将 宮と皇居とに遥拝を行ひ、叉規律正しく体操を行ひ団体遊戯を共 標を定めめて無邪気な走りつこを試みたり、予定の ながら、 客気を呼吸 以上必ず行はれ、 は、単なる郊外運動にはあらずして、 会が多く得られる。故に斯うした趣旨の下に行はる も諭されるし、汽車中や電軍中にて守るべき公徳 になす。天長節や紀元節に当りては、我が陛下の御高徳の程や、 て各自携帯の弁当や果物を食べ、やがては変りて東天に向 調を整へて行進をしてて見たり、叉処嫌はず適当と認めた時 て報告せられる。) て母国の事を教ゆること大切ににして、これにはこの種 のを例とするが、現在の如き伯国の初等教育の状態にては斯 そ しては他に同様の時日は得られまいと思う。その外遠足会 効能 脚に任かせて老幼男女、 L から言へ ながら、 その期日、 ば、 或は郊外に或は (附す。我等の遠足の催は創立以来月 健康に大切な日光に 場所、 手を携へ愛國行進曲様 休息した場所 集会所は邦字新聞紙 國民精神を養成すべき二つ Щ 野に、 浴 四方 7 の跡片  $\mathcal{O}$ の実習させ 0 目的 武勇談も試  $\mathcal{O}$ ゝ遠足の 景 上を以 地に着 S け る機 機会 催 神 0 口 事  $\mathcal{O}$ 7 玉 目

### ()其二 体 操

際家に 体 般に 操 り 7  $\mathcal{O}$ 行は 説 事 だ 明せられ、 が、こ れ居る所なれば、老生如き者が今更そ は遠く羅 証明されてる方法に 馬  $\mathcal{O}$ 時 から多く 7 現在世界各  $\mathcal{O}$ の効能を 学者や実

叉物事 りと言ふべしだ。人も知る如く軍隊の生命とも称すべき、 を尚ぶ習慣養成するに特効あることを知らない者あるは遺憾 上下の秩序は如何にして養成さるゝかを考ふる時、思ひ半ばに は体操は身体を強健に導く為めに特別なる効果を有する事はは承 附言す。早起体操もあるべし。 く必要もない訳だが て居ても、 の整理に長けたる性格 これが練習の結果は正義を好んで曲れるを嫌ひ 聊 か 一言し の持主となり、其上人と交るに協同 てて置きたい事は、 軍規及  $\mathcal{O}$ 到

その他の指導者及同好の青年壮年集りて練習されつつあり。 ル氏 今試みに体操によりて理想的にに訓育されたる国民 に冬季、夏季には講習会を設けて初心の人を手引することもあり。 七時より開かれ、 人のそれとを拳ぐれば 早起体操は月、 の摩擦体操を、元神戸高商体操科教授たりし岡田英定を初 当時は厚生省立案の青年体操、 水、 金の三曜日に、 聖市大正小学校に於て午前 丁抹人ミユ の実例と、 叉別

# (イ) 体操によりて立ちたる瑞典国

その昔百五十年前の頃では、我母国 謂今の瑞典式体操)を一般國民に国王の命令を以て実行せられた 肺病患者の多い国であ 叉偉大な 同病患者 る結果、遂に今日の如き健康国となり、 病弱なる国民を有して居ては、到底列国の間に対立する能は 瑞典は人も知る如く、 今は 一度医学博士リングング氏 上は国王始め下一 りと言ふべきである。  $\mathcal{O}$ 一萬人につき僅かに六人程度に過ぎず、これを我母 比ぶるに実に って、 般国民の有識階級の共に憂ふる所な 現在では世界第一 当時に於ける彼 四分の 創意により、 の現在よりも猶 一に相当せり。 嘗て国の大患としたる肺 等の健康国なれども、 の弱国は 科学的 体操の効果も 歩進みたる 斯の如き 体操 (所

## (ロ) 独乙国の体操の盛大

所なり。 諸団体に厳しく体操を実行せしむる事となし、國民一般も之に と練習と共に整形外科の一部として、薬を用ゐずに按摩を以 倣って体操を実行せざる者なく、 く患者の治療を施 れを恥づる様になり、昨今は体操大学の設けもありて体操の研究 これが原因はと穿鑿すれば、最近全国の青年談や軍隊、 人々も体操を行はざる者は、無精者として排斥せられ、 独逸は、今や軍事にせよ、 世界優秀の位置を占めてる事は世人一般 し居ることは他の外国に於ては未だ嘗て見ざる 商工業にせよ、 現今は老若男女諸種 将又学術の研究  $\mathcal{O}$ 認むる所。 学校等 自らもこ の階級 而 にせ 7  $\mathcal{O}$ 

的光明な (ハ)日本魂も武道と称する一種の体操によりて訓練されたる精神

古釆武士の勇往邁進の気象に富める事は、万国に秀でたる所に に行はれ、国民一般に及ぼされしは惜しむべき事なり。 ことは内外人の認むる所。只遺憾なることは武道は重に武士 て、これ果武道と称する特別体操によりてて養はれたる結果なる 我国民 の体力は、他の外国に比べては頗る劣等なるにも拘らず、 間

## (二) 体操によ りて鍛えられたる同胞の実例

と同様 眼を転じて一個人の身心向上の上から眺めても、国民全体の場合 の結果は、 以上に記  $\mathcal{O}$ の結果を呈してる事は、故嘉納先生の幼時極めて薄弱な 一少年が、一 文武兼備の教育家として、その名内外に著し したるは国民全体の上より観察したる所なるも、 度志を柔道に傾けてより斯道の研究と練習 n

ありき。 止まざり の高齢を以て欧洲に使して一命を損するに到る迄活動を続けて し、その体力その気力は実に青年の追随を許さざるも

教授を勤め、今日伯国に渡り来てからも七十六歳の高齢を物とも 軍人出身も必ずしも困難ならすと諭せるを信じ、以来熱心に体操 誰を以て岡田家の後を継がしむべきやと心配したる程なりしに、 存を続くる能はずと認めたる、 せず、猶且遠足会の御世話や、体操の指導をなして倦まざるは、こ め人の為め貢献する所あらんとし、職として五十余年間、体操 を実行したる結果は驚くべき發達を見、身体検査に合格したる れ偏に体操の練習に因るものにして、その効果の偉大なることは みならず、 合格は難きも、若し体操を行って心身を發達せしむることを得ば 一度軍人出身を志し某軍医より汝の現在の身体にては軍人として 老生如きも、幼時極めて病弱にして一家の戸主として長らく生 に足るものあり。 深く体操の有難味を感じ、斯の道の指導を以て世 親族会議の結果は、英定の没後は  $\mathcal{O}$ 

# ○体育の上から見たる謬りの数々

迄伯国に於て見たり聞いたりしてる体育上の誤謬の数々を挙げ 且これを正して本稿  $\mathcal{O}$ 効能は以上をも の結びとなさんとす。 つて、 一先打切りとなし、 以下にはこれ

### (a) 農 業 者

此上体操を行ふ要なかるべしと。 は言ふ。 農具を打振り 余の業務は終日日光に 0 臂脚共に厭になる程運動し在るを以て 浴 且常に新鮮  $\mathcal{O}$ 空気中にあ

良い る器械 研究 その性質として凡て能率の上る様にしなくてはならぬ。それ故仕 学理の上から割出して作った体育に比べては矢張、全然体育的 実行して貰いたいと思ふのである。 棒を持たせた様な訳で、どんなに仕事の能率も上り、 直接照さない工場や、空気の通ひが悪くて何時も塵埃の多い けて仕事の前 たり何か て、まだ若い時分から年寄の人の様になり、 来たものだし、 に配置され、 何なる部分から出来て居て、これに如何なる各機関がどうゆう風 仕事だとは言はれない。それは体操と言ふものは人間の身体は の方で少しく度が過ぎると、 答て白く、 か知れ にならぬ位、 してその各部分、その機関の作用を助長するが如く考へて てゐる商店、 の準備をしたり、 なする ない。余はこの意味に於て農業をする人に特に体操 どんなエ合に作用が出来てるかと言ふ事を、 多くの職業の 後に、少しづゝ体操を行って身体と称す仕事をさせ のである。それ故農を業とする人も聊か体操に心 農業の方は何と言っても仕事は仕事であるから、 会社 体育の道理に合っ  $\mathcal{O}$ 後始末をしたりすれば、それこそ鬼に 人達に較ぶれば、 中で農業は成程言は 肩が痛くなったり腰が屈つた てる仕事である。 それこそ雲泥 所謂老衰の域に る こ 通 健康上に り、 の違 長い 0 な

### (b) 遊 技 運 動

要が うと言ふ考を有し 方が好ましからずやと言った論法である様だ。併 人は言ふ。 無 らなど称して、自己の好める競技運動をして体操 いとか。 体操も運動 余は陸上競技を常に練習し 或は庭球を行ってるからとか。 してるの である。 がある。その考の基づ 同じ く運動 であるならば てるか 叉野 5 所 球 成程双方共運 技 運 ょ

動を以 な運動 だから競技道動も跳躍運動としては他に代へべきもの 目指 あ ぼ 同 0 来る事ではな カン て全体 だ う 所 野菜を以て飯に代へ り行 から、 食物 が違 1 0 であ 無い て胸 の体操に代へようと言ふ事は無理である 0 これ  $\mathcal{O}$ る。 と同株ではないかと思ふ。体操にしても頭 る以上は、余は肉が好きだから肉を以て飯に  $\mathcal{O}$ い。食物とては人にも飯も肉も野菜も必要で は宜し、 運動や腹の練習に代へようと思つても、それ この論法は恰も飯も食物なり、 一は生理的 く体操の材料 る事が出来ないが如く、 運動で他は競技的 の中に加へ、 一枚の競技運 運動 体力の 肉も食物 ム無 のである。 で、 い貴重 其 運

### ○そ の 他

もラ にあ 聞けば、台所の仕事に逐れ通しで居るとか、 此上体力を使へば倦怠を来して本業に堪ゆる能はすと。或は自分 暇を見出 は終日処此処と飛び廻って仕事に忙しとか、又女性 体操を行う余暇を有せす、 でも無からうと思ふ 体操を否む者の中には、 ヂオ体操 る様だが、要するに何れも無精もの いや小供の世話が である。 せなな 1 の練習に堪えられな 一日の中にて如何に忙しくても十分や二十 事もあるまいし、 余は学業又は事務に忙 一通りでな ヨシ多少の余暇を見付くるとしても、 如何に薄弱な身体の持主に い程  $\mathcal{O}$ いとか、種々 弱 ゝ言草にて取る 1 裁縫と洗濯 人もその様に が  $\mathcal{O}$ の方の言草を いしけれ 理 由 で暇が 分 は 足  $\mathcal{O}$ 5 余

猶体操と言ふものは対手の 旦 行ふものなれば、そこに少し まな 復 なり、 忙が れば弱 整頓よくもなり、 しさにも堪え得るに到る 7 、体質の ある運動と違ひ 人でも病後 何となく締りの良い 無理 の出来る筈もなく、  $\mathcal{O}$ ベ 人でも、 L 自分が自分の おまけに体操 次第次第 人となる 努力

特効を有し い処もあるが、 てるもの 紙面 の都合もある事なれば、これを以て終りとす である事を忘れてはならない。猶言ひ足りな

# 加藤 忠三 州政府衛生局員 植民 地名衛生 号

生的な良習慣を植付ける事で誰でも判る事である。 してそうではない。簡単な衛生智識を興へ、日常の生活 衛生教育と言へば一般人はむづかし い事 の様に考へ てゐるが決 の中に 衛

る事が が、 伝染に注意を払ひ、トラホームは失明する程怖しい病気ではある 的良習慣の持主は、容易に全快する事が出来る等の常識を普及す る直接伝染を防ぎ、 例 亦日常生活の中に簡単に予防も出来、 へばトラホ 衛生教育の生きたものである。 ムに罹らない様にする為には、患者の 手拭、洗面器の様な媒介物を通じて来る間接 例へ罹病しても、 目脂 衛生

世界から暗黒の世界へと踵をつらねてゐる。 強を示してゐる。日本に比較して約三倍 地 現在 の十パ トラホ ーセントに対して、 ームの為に失明してゐる百分率を示すなれば、 当ブラジルでは、 の失明者が、 <u>=</u> 年々光明 ーセント 日本  $\mathcal{O}$ 

失明程人生に取って大きな悲惨事ばな の保健についての大問題を等閑に附してゐる植民地が多い いのであるがまだまだ此

次に萬病  $\mathcal{O}$ 原因をなし てゐる腸内寄生虫に就 1 ても在伯邦人は

を知る様ではよろしくない。 を予防することが出来、保卵者は速かに検便し、駆虫すべきであ ぽならぬ。然し此の問題も「野糞をせねこと。洗足で歩かぬこと。 代を担当する二世に此の現象を見ては実に由々しき問題と言はね それも最も栄養を多量に必要とする学齢児童並に幼児に多く、 ない様な常識を平素養って置く事で、罹病して初めて衛生の意義 る。我身の健康を保つには我自ら衛生的生前をなさねばならな 必ず靴を履くこと。便所をつくること」等に留意すれば容易に之 セントの十二指腸虫は当国に於て六二パ 大いに悩まされてゐるのであるが、特に日本内地で罹病三二パ のである。いくら農村は其の生活が多忙だとは言へ、病気になら ーセントの高率を示

激を輿へる事である。 それには衛生指導機関の地方的強化を図り、 間断なく 衛生的刺

**•** 

地を歴訪し、トラ たものである。 小職は四年前、 ホ 即ち一九三八年四月より、パ延長線八十四植民 ム並に十二指腸虫の撲滅連動に 従事

喚超して来た結果、植民地によっては一年後の再検診に根治者 数異常なるを示し。 ては患者自身として実地講習等に奔走せしめ、撲滅運動を各所に B、V、M、P、の各市にこれ等撲滅の講習会を開き植民地に入っ セント、十二指腸虫保卵者六二パーセントの高率を示し、早速、 初年度に於ける学齢児童の トラホ ム罹病率平均が七十二パー  $\mathcal{O}$ 

即ちポ区朝日校 翌年には五六%となり (岡村先生) に於ては前年の 罹病者八六%に 対

ポンペイア中央校(大竹先生に於ては前年七 一%が二六%に 減

思は ず快哉を叫 、
ある。 其の努力の んだも O跡も想像されるが である。 驚異的事実の前 には

勢に 民地のある事は基の統計上に見て、如何にも遺憾に思 た学校を列記すれば、 あるが、 (藤村発生) 七四→二三 在伯邦人として欣快の至りである。 て進めば数年後には相当の撲滅効果を見る事を確信 大陸的気候の然らしむる点か、反対的に全く無頓着な  $\mathcal{O}$ 九三九年より四〇年にかけて特別撲滅好成績を示 延長線に於ける総括的根治率は一 公栄柴校 ミランダ校(神谷氏) (山崎発生) 七 六 三%を示 →<br />
○<br />
六<br />
等<br />
に 一三昭和校 った次第 植 へ

出来ないことを、衛生思想普及の見地から甚だ遺憾に思ふが、 行するが如き機会稀にして、此処に確たる統計上に於ける報菅の からず何か 二%は其の後盛んに駆除された植民地も多々あるが一般的にトラ 次に十二指腸虫撲滅状態の概略を述べるが、 ム程重視されず、殆んど再検便、 の機会に於て發表したいと考 或は植民地全員の検便を施 へてゐる。 児童 平罹病病 率六 遠

と言はれた である。 ことが不可能となり、 個人保健に 肉体的 ら吾 相互に提携 に衰 いも 々が文明人としての誇を持ち、伯國内に活働 努力し・  $\mathcal{O}$ へるならば、 である。 して衛生思想の普及を図り、 伯國 どこまでも日本人は健康で、 の為に貢献することは出来なくなる 産業の不振を来し、 今一 使命を遂行する 層植民 優れた移民 やうと 地

### 

運

動

會





少年陸上競技大會

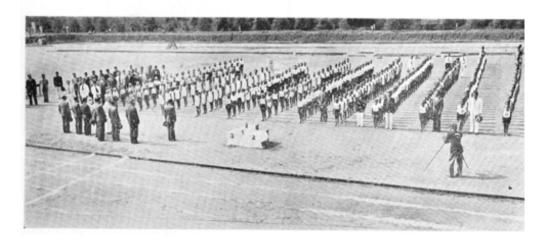






### 會大技競上陸年少

合大部支ールウス同一節





### 大 野 (一例) 合大選豫方地ールウバ

(二例) ムーチ・スールク・ラエヴ







ンド校

(例 ]



教育的施設

0

ンド校



島ヤチルワグ港ストンサ 行数學能 一(四例)-



前開公スル市ロウバンチ 行族學修 一(五例)=



(二例) 影 报 念 能 師 教 卒 引 側 行 族 學 修



(三例) =(周公スル市ロウバンサ)=



念肥問訪線長延バ権全モドコ井石 (三例) 報



敵島市アリリマ

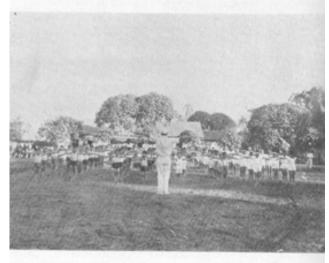




(二例) 雜 壁遮市アリリマ



(市アリリマ) 進 行 荒 兒 (年〇三九一) -(三十例)- 維



(校 島 敷) 操 體



月委務學ストスパ (五例)報



(校 榮 館) 業 作 東 兒 (六 例) 雜





生 衛 (療治疾限) 校和昭一第 -(十 例)- 雜



(二十例) 雑 土拓る眠に地墓ア、リマ



兒

翌日の下、均けつく砂道を少くと と正に八粁、目的地に拾ける策し き自由行動となり、清波に川魚を 探る無心の見等 ……

電 作 業 就作園の手入を終へて



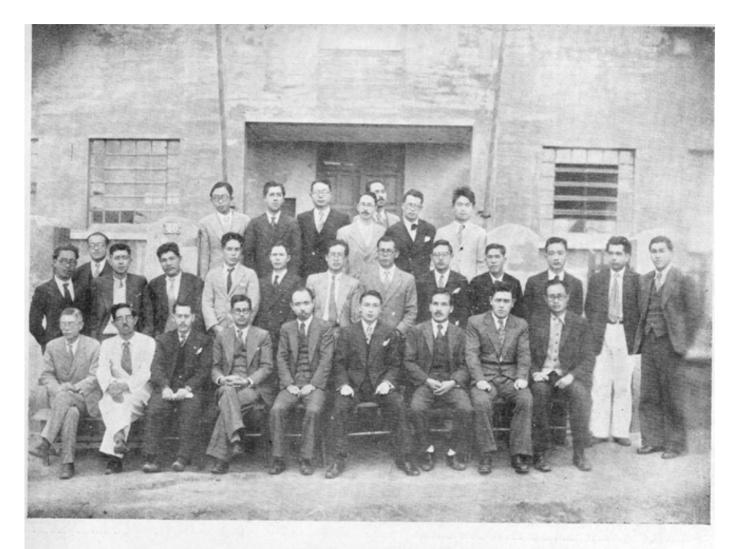


九童作業 報(例九) 共進校



五十例》雜 前校伯日アリリマ 念 記 會 習 講 師 教

(年六三九一)



《六 十 例》 雜 前校伯日市マ

影撮念記會時臨會育教線長延べ

### 私立学校監督部条例

(一九三二年四月十四日付令第五四七号)

(一九三二年4月十六日聖州官報ニテ公布)

第一條 附令第五三三五号ニ依り設立セラレタル私立学校監督部 サンパウロ州内私立学校ノ監督ハ1九三一年一月七 職能 日

第二條 私立学校監督部ニ左ノ職員ヲ置く

一、監督官 一名

一、視 学 拾名

第一款 監督官ハ同時ニ技術官ノ職能ヲ兼任ス

第二款 学務局ハ私立学校監督部 ノ行政事務ヲ補佐スル為教員

叉ハ吏員ニ嘱託スルコトアルベシ

ヲ監督セシメ反則行為アル場合バ私立学校監督部ニ報告ス 第三款 地方学務区監督員ハ区視学ヲシテ該管区域内私立学校

第三條 左記ノ教育ヲ行ハントスル場合ハ改メ私立学校監督部ニ

登録スルヲ要ス

A、初等予備教育(幼稚園及託児所)

B、初等教育

C、中等予備、語学及科学教育

D、中等教育、(中等及び師範)

F 職業教育 美術教育 (彫刻、 (機械、 絵画、 電気、 図書、 紡績、 音楽) 裁縫、 農業、 速記、

イプライター、家政経済)

G、商業教育

高等教育 (歯科 薬学料、 医科、 工科、 法科、 文科、 哲学科)

第二款 名称ヲ 第 款 附 単二前項技術ヲ取扱フノミノ作業工場ナ ス 職業教育ニハ ル コトヲ許サズ 裁縫、造花、 帽子及一般手工ノ ル 学校ヲ含む 7 ハ学校 1

第三款 監督ヲ免ル 聯邦政府 ノ監督下ニ在ルアラ ユ ル 階級 教育機関 ノヽ 州

第四款 報告シ監督局ノ要求ス 前項ニ該当ス ル学校 ル統計ヲ提出ス ハ私立学校監督部ニ其ノ 可 シ 開校授業ヲ

第四條 登録申請書ニ左記事項ヲ明記ス 私立学校監督部ニ対シ校長又其責任者ガ提出 ルヲ要ス ス ル 学校

A、学校名(葡語ニ限ル)

B、学校所在地及建築物ノ説明書

0、分科ノ種類

D、制度及校則

註〜制度ト ハ通学、 寄宿、 準寄宿即午餐及カフ 工 ヲ学校ニテ

採ル制度等ヲ云フ

E、各学級最高生徒数

P、部二分ケテ記セル教授時間割

第五條 前記ノ申請ニ ハ左記書類ヲ添附ス ル ヲ要ス

A、教員名簿及担当科目表

 $\vec{\mathrm{B}}$ 疾病ニ罹り居ラザル 校長、 教員、 総テノ事務員及雇傭人ガ侮染病叉ハ コ ト及種痘済ナ ル 医師診断証明書 嫌忌ス 可キ

識才能及徳養アル者ヨサ成ル C、私立学校監督部ノ認ムル所二従ヒ学校管理者及教職員 コト 証明 1 学

葡語、 伯國地埋 歴史担任教員 国籍 証明書

責任者 私立学校ニ関スル総テ ノ声明書 、法規ヲ遵守ス可キ旨ノ 校長叉ハ学校

出ヲ要セズ 現職ニア ル公立学校数員ニ対シテ ノヽ В C及D記載 類 ノ提

第六條 私立学校開設授業ヲナ ス為 必須條件左 如

コト 衛生法規 ノ規定中学校衛生條件二適合セル建物ニ 一設ケテ

B、外国語教授以外 ノ課目 ハ 国語ヲ 以ツテ教授ス べ 丰 コ

認定学校ノ卒業者二担任サルベキコ 葡萄人叉ハ帰化伯国人ニシテ共和国内 C、葡語教授ハ学務局ガ定ムル時間数ヲ 以テ生来 公立学校叉ハ之ト同等 伯国人生来

伯国人又ハ D、伯岡地埋及歴史ノ教授ハ学務局ノ定ム キコ 帰化伯國人ニシテ前項ノ資格ヲ有ス ル時間数ヲ ル者二 アリ 以テ生来 担当サ

コ E、初等予備並初等及中等学級ニ於テハブラジ ル 1 歌語ヲ 教フ ル

F, 学校 伯国地理及歷史 ハ教育官憲ノ ノ試験ヲナ 参観ヲ自 曲 ス 1 コ 同官憲ガ生徒 ヲ得セシ A コ 試 葡

ď 学籍簿及出欠簿 記帳 、葡語ヲ 以テ ス コ

H、国定休祭日ヲ蓮守スルコト

科書ヲ採用スベシ 初等課程学級ニ於テハ公立学校用トシテ学務局 認定セ ル 教

J、体罰ヲ科サドルコト

第七條 科課程 ノ増設ヲ為ス場合 同 一校合二於テ同 ハ 予 管理又ハ責任 メ私立学校監督部 二二部教授叉  $\sim$ 届出 コ 1 ヲ 要 分

第八 ニ届出 條 ア タル 国語 干 教授ニ使用ス ニ非ザ ĺ バ使用ス ル教科書 ル コ ノヽ 予メ私立学校監督 ・ヲ得ズ 部

単款 同部 国民精神 ノ滋養ニ有害ナ ル影響ヲ与フ可キ教科書

ノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第九條 文盲者二対シ外國語 私立学校ニ於テ ノ教授ヲ施スヲ得ズ ハ十歳未満 ノ児童及年齢 如 何 ニ拘ラズ

ミ之ヲ担当ス 幼稚園託児所 ル コ トヲ得 ノ課程学級 ハ生来 ノブラジ ル 人 タ ル 教員

スコ 単款 1 ·ヲ得 前記教員ハ外国人ニシテ完全ニ葡語ヲ解ス ル者ヲ助手ト

第十一條 私立学校校長ハ 左ノ義務ヲ要ス

部 A、授業開始後十五日以内二各級全部 へ提出スルコト ノ時間割表ヲ私立学校監督

В 教育官憲 ノ訪問 記録用特別帳簿ヲ備フ ル コ

ルコト C、教育官憲ヨリ求メラレタル場合ハ何時ニテモ統計表ヲ提出 ス

ルコト 何等力 D、校合ノ移転校長及教員ノ移動並ニ学制上ノ変更等学校ニ関 ノ変更アリタル場合ハ八日以内ニ私立学校監督部二通知

ス

第十二條 ル他ノ資格ノ外葡語二熟達セ 外国人ニシテ私立学校管理者又ハ教職員タ ルコ トノ 証 明ヲ 要ス ル = ノヽ 必 要

第十三條 二行ハレタル以上其ノ發給スル修業証書ハ公立学校ノ発給セ ト周等 ノ効力ヲ有ス 私立小学校ニ於テ当該学年試験ガ私立学校監督部 ルモノトス ルモ

単款 第十四條 印紙ヲ貼付シ当該試験ヲ監督シタル教育官憲ノ副署ヲ要ス 前記証書 本命 ノ規定二違反スル者ハ左記ノ処罰ヲ受ク ハ公立学校發級 証 書ニ必要トサレ ル 干 同

二違反シタ 第三條第二款及第四款第四條、 ル場合ハ一〇〇ミル乃至五〇〇ミル 第六條A В 罰金 諸項

第六條B及H、第八條及第十條、 第十二條及 九三二年一

月七日附令五三三五五号第十五條ニ違反シタル場合ハ五〇〇ミル

乃至二、 ○○○ミル ノ罰金

場合ハ適法 =第三條及第六條ノ ノ手続ヲ終了スルニ至ル迄学校 Ć ď F及J並二第九條二違反 休校ヲ 命ゼラ タ ル

第一款 リ八日以内二共義務ヲ履行セザル場合二課セラル 罰金ハ法規違反学校ガ教育官憲ヨリ通告ヲ受ケタル 日 日

第二款 コト 訴スルコ · ヲ 得 トヲ得其 科セラレタル罰金ニ付テ ノ決定ニ対シテハ更ニ教育衛生長官ニ上訴ス ハ三日以内二学務局長ニ対 ル 上

第三 日以内 罰金ノ ニ納付付 支払 ス べ ノヽ 州 シ 金庫 又 **/**\ 州税務署ニ対 シ 上訴期間経過後

第 局長 十五條 ノ申請二従ヒ私立学校 本令ノ重大ナル違反再發 ノ閉鎖ヲ決定ス ノ場合 ノヽ 教育衛生長官 ノヽ 学務

第十 第十六條 ス 七條 本命 私立学校監督部職員 ハ 公布 日ヨリ施行シ之ニ抵触 ノ俸給 ハ別表記載 ス ル ノ通リト 規定ヲ廃止

九三二年四月 十 五 日

サ

レス

ゴメス

ユ

ニオ

ル

 $\sim$ デ

K

口

K

教育及衛生省ニ於テ告示

総務局長

T

ス

・ース・

イリヨ

外国語学校取締に関する州教育局長の 声 明

育局長は左の声明を為した。 昭和十三年十二月二十二日移民法施行 細 則 の執行 に · 際 て州教

が必要である。 農村地帯 ŋ 管理され、 の学校は 管理者は就任に際 凡て私立官立  $\mathcal{O}$ し生来の伯国人たる 別 を問 はず、 生来  $\mathcal{O}$ 伯  $\mathcal{O}$ 証明

し外国語を直接教へる時は之の限りに非ず。 農村地帯の凡て の学校では正規の科目は葡語で数へる事、 但

三、之等の学校では十四歳以下の児童に対し、 が出来ない。 外国語を数 る事

四、青年学校も生来の伯国人を以っ らしめる事 て, 其  $\mathcal{O}$ 管理、 監視  $\mathcal{O}$ 任 に 当

送還す。 らぬ、 五、 初等教育に用ゆる本は、 外国語をもって書かれた本は、 全部葡語で書いたもの 当局之を没収し、 でなくて 学務局に は

六、 の義務科目とす。 農村地帯  $\mathcal{O}$ 初等学校では、 伯国  $\mathcal{O}$ 地理及r岸、 国民教育を其

青年学校では、 次 の各課を授 る の義務が ある。

A、ブラジル聯邦憲法

イ、常國の聯邦組織

ロ、政府の権能並に其の機関

ハ、当國人及外国人の権利義務

二、 国籍及政治上の権利、 其の取得並に 喪失

B、民法では親族法、財産法

びサントス市を除く地帯を言ふ。 Ć 内國化に関する、農村地帯とは、聖州に於ては、サンパウロ市、及 刑法、特に国家に反する罰、 偽造、 密輸入、 醜業の罰、 学校

来の伯国人たる事 九、農村地帯に於ける州政府維持の学校及び私立学校長は全部生

職力 各自 於ける外國人の教師は定め 一〇、農村地帯の小学校、 の立場を具申し、 帰化権証明書、 其の決裁を仰がねばならぬ。 伯国人と結婚してゐるものは結婚証 られたる期間内に移民審議会に対し 中等学校、 商業学校、 並に職業学校に 之が為には 明 就 7

出する必要がある。 子女の出生証明書、 経営者である時は、 納税証明書を添附提

指令に據る手続を怠ってゐるものは、学校登録権利を失ふ。 に申達する事、私立学校にして、本年十月十二日附、 に教員にして、生来の伯国人に非ざるも 一一、各地の督学官は、 一月十日迄に、 官立、 のゝ名簿を作成 私立学校 第六七号の し教育局  $\mathcal{O}$ 

省に対する登録は、 一二、本年十一月二十六日附、 絶対的に履すべき事。 第八七号の指令に被る各校の 一

### 一三、注意事項

は伯国人経営の約二〇パー は伯国学校であり、三七一は外国語学校である。 A、本年は聖州内に二一一三の小学校があ セントに当る。 0 た。 その 故に外国人学校 内 四二

其他の外国人学校は極めて少数である。 外國人学校の方が、伯国学校より多い所がある。 B、特に其の中数に於て首位を占めてゐるものは、 二九四校である。独人の学校が二〇、伊人のが八校となっ 而して其の分布状態は、 日本人学校 てゐる。  $\mathcal{O}$ 

なる訳である。 但し十四歳以下 の学齢児童に対する外国語による教授は今後な

当局は本年度六〇〇校 の新設学校 の予算と用意が

外国語で書かれたものがあれは、 D、教科書は全部葡語で書いたものを使用 そして現在伯国人学校の維持校数は、一一、七四聞八校である。 見当り次第没収する筈である。 なくてほならぬ若し

## パウリスタ延長線発達略史

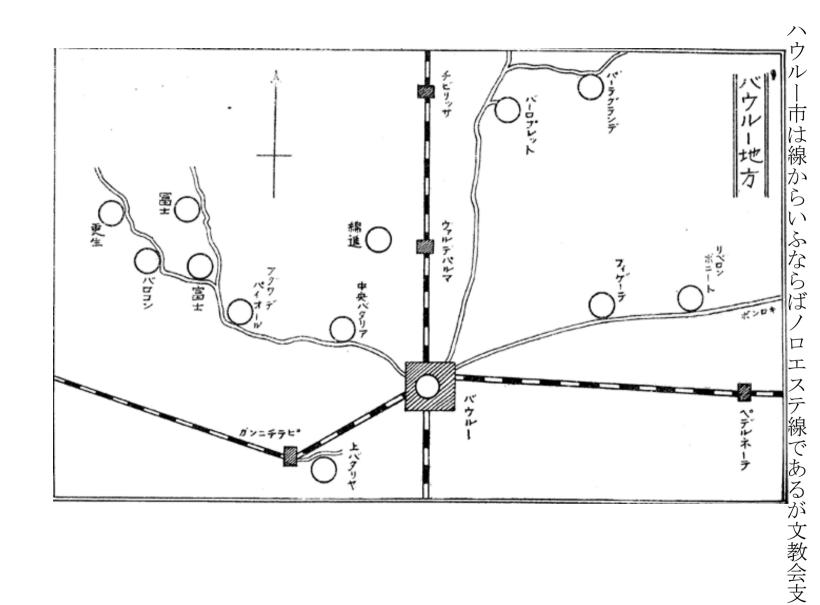
サ分水嶺に入る所にピラチニンガ駅がある、こゝよ ラ駅より支線を出 キロ毎に駅を設け 九三七年にピラチニンガよりバウル 現在キ 線 所謂  $\mathcal{O}$ 中間にチビリツサ山脈が走ってゐるこの山脈を縦断 ス パ ・ンター タ鉄道が ス タ ナまで開通し 延長線 しソ イチラビーナ駅とバウルー 駅名もABCの順の頭字をつけ約五年毎 口 組支線 と邦 人間に称され 尚  $\mathcal{O}$ トツ アグー ーにも開通してゐる。 パンまでは K · ス 駅 ·駅中間 で交叉しチ る 工事中  $\mathcal{O}$ り同線 の ペ は ソ デル であ 口 に延長 は約十 ビサ すべく ネ Ý

## 一、各駅開通年月日

ピラチ ピラチ ガルサ デルネイ 工 ガ ガ ポ 7 リリ 丰 ピラ ナ バ F T ウ 夕 チ ガ ウ グ ル 駅 ル ア = サ ナ F . ガ駅 駅 駅 チ 駅 ス 駅 九二九年 九三五年 九二六年 九二三年 九 九 九三七年 四〇 一四年 匹 年 年

## 二、各駅邦人發展略史

## ▲バ ウ ルー駅及附近



部関係よりパ延に入れたのである。当市は町らしい形態を備へた のが一九〇四年近年四十年を経ずして現在人口三万ノロソロ、パ、

る。 三線合同駅 の建物は聖州 一を誇り正に聖州奥地交通 の心臓部であ

園芸家多く当市市場に出荷 工業方面 十余の邦人植民地があるが、主に借地農で棉作者であるが近年地 の低下 当市 と共に他に移動多く は帝国領事館を始めとして在留邦人家族数約百五十、 に相等探 く進出し の七割までが邦人の手に成る其の他二 てゐる、 帯に衰微し 附近邦人植民地は郊外の つ うある。 蔬菜

## ▲バウルー市教育機関

クルツポエスコーラ 五

私立中学校

州立中学校

私立商業学校

州立師範学校

邦人経営裁縫女学校 邦 人経営小学校 (現在寄宿舎)

## ■附近植民地数及戸数

富士第二

バラコン

四八

サンルイス 一七

く現在邦・ ため現在 三家族亦は多くて十家族内外の集団に 同地方の植民地の数少きは主として借地の棉作地多きために二、 人植民地と称するものなし。 は地力衰 へて他に移るもの多く、殊に今年に入りて甚 て棉作も早くより行れた

## ▲ビラチニンガ駅及附近

人付近に借地農の約五十家族で最近奥地への移転者多く次第 七年頃棉作の盛大と共に 邦人 進出を見、 町に十

に邦人は減少しつゝあり。

▲アルバ駅及附近

駅附近に十家族の棉作者あるのみである。

▲ブラジリア駅及附近

五家族となった。 一時は駅附近のみにても三、四十家族  $\mathcal{O}$ 棉作者が 居つ たが現在は

▲カブラリヤ駅及附近

町に四、 て居るが、邦人植民地と称すべき程のものはな 五家族居住附近に約七、 八十家族の邦人が 1 棉

▲ドアルチーナ駅及附近

郎良、 決定とのこと。注目して待つこと多し 延長線一であらう。こうした点より奮日本語学校の利用法も近々 もあらうが、邦人の結束心固きことゝ対伯人間の円満なることは は伯人に比 の奥地進出と共に衰へつゝある、 九年程前より人口五、六千の 瀧内、 して一歩もゆづらぬ堅実な歩を示して居る。 本田、 岸川氏等が中心勢力である。 小都会で発展もせす現在は棉作 町在住者約三十家族、 殊に小都会の故 村上、 商業方面 太

▲附近邦人植民地及戸数

福寿第一 二

旭 五六

同第二

日光 二〇

アジヤニ九

カレットン 四五

ボアビスタ 三〇

ジャクチンガ 十五

ルチー

ナ町二八

## バーラグランデー五

▲エズメラルダ駅及附近

駅近く四、五家族の邦人在任者あ る Oみであ

▲フエルナンディアス駅輝及付近

な経営方針は実に賞讃に値する。 として養蚕に従事して年額二萬余キログラムの 駅近く錦栄、共栄の二邦人植民地ありて約四十家族 収繭量を示 の邦

▲ガリヤ駅及附近

地としては六キロ余の地点にウジー 員百余名一糸みだれぬ統制である。 勢力は注目に値す。 最近二、三年邦人の在住者の増加多く. 日伯親善も理想的に行れてゐる。 ナあり、 殊に市内に於ける邦 ガザア中央日本人会 附近植民

### ▲ガルサ駅附近

なか 者の在住をみ、尚同地方に原始林多き故益々邦人の入植者は 多きを算し、 ことゝマリリア方面 のみであらう。 同地方は一九二六年に汽車の開通をみながら附近に大耕地多き つたが、 一昨年より増加してガルサ市内のみにて八十家族 地方にはビーザ耕地の田上耕地を始め至る処に棉 のみに邦人が集中した ので邦 人在住者は従 作

## ▲ジャフア駅及附近

グランデ ロツサグランデは四十五家族 駅より三キロ 植民地あ  $\sim$ の移転者多く家族数廿二衰微し り、同植民地は人植廿 の地点にパ延長線最古の植民地として有名な の邦 人居住す。 一年を経、 1 ゝあり。 現在は隣接 新興植民地 口 ガ

▲ヴエラクルース駅及附近

延長線唯 近に邦人 のア の入植は昭和二三年頃から増加 ルファベ ツ 順によらな 駅 名 して、昭和 八九

たが同市の邦人界は今は一変し当時よりの在任者は僅か 昭和二年頃で原口、中平、 年頃までが多く一時一千家族近くの邦人であ 人で他はマ市にガルサに又帰国といふ有様である。 状況である。ヴエラクルース市に邦人が商業的に進出したの り来りて右側は主として珈琲の六年契約者多く。サンロッケ、 ンナ、セツテケーダ等何れも現在は一家族の邦人も見な 櫻木、斎藤、 上田の諸氏が先頭であ ったが駅の聖市方面 に原 口氏 0

▲附近郊人植民地及戸数

有 明 三四

バンディランテ三〇

大 和 二五

ボアソルテ 四五

リオ・ド・ペイシエ 一五

中央ガルサ 一〇

ソール・ナツセンテ 一九

ノーバ・オリエンテ 三〇

ロリーダ

三

フレンテ・ウニカ 一〇

パウリスタ第一 五〇

パウリススタ第二 八二

愛 国 二六

ベエラクルース町 一〇〇

▲ラーシオ駅及附近

同駅はヴエラク に数ふる程 ルス及マリリア二大都市  $\mathcal{O}$ 邦 人もなし。 中間 で併も近距離に

▲マリリア駅及附近

(明治四十四年) に伯人某氏が 口 工 ステ方面より比

之に 濫觴 車数百余台 地理的條件にも恵まれ現在マリリア市を中心として居る乗合自動 比を見ずとのことなり、併かも其の大半は邦人の力興って大なり。 偏され、今や人口三万其の急激な発展は附近の関發と共に世界に 月独立行政管区となり、諸般の文化的施設は人口の増加と共に完 名をと 尚当地は地味気候共に申分なくノロ、ソ 因 市建設が計画され、一九二二年鉄道の開通と共に に来りて牧場を開 , 日聖州 ア市 0 フォミランダ氏等の努力で、一九二五年にアル る。 て誰言ふとな てベ いかに人の動きの多きことを立証 が生れた。 其の 屈指 後附 の大都会又在伯邦人集団第 ヂ・アプレウ氏 元 の 近の くアルトカフエーザルと呼称するに至った くと共に小丘に ブラジル皇族であるドナ 大地主であ の命名した処であ るベン ロ両鉄道の中間にあ ト・デア 一を誇る して居る 珈琲樹を植 プ 一月現在 る。 7 マリリア IJ つけた。 同年 フ ウ氏 IJ エ

続間 あらゆ 近く三千家族といふ犬集団である。市に於ける主なる 内外人に伍して聊かも遜色を見せないが常に邦人間 邦人がこの地方に進出を始めたのは大正十五年頃である。 て商工方面に進出 万で、現在六百家族の邦人を数へ各方面に於ける發展振 ては南米銀行、 のないことは残念のことである。 五. る方面 の邦人経営 にわた 東 0 7 したのは昭和四、五年頃で爾来十年間に増加 山銀行、 て進出 キナ商店として岡本、 て居る 海興銀行、 附近邦 を始め瀬 菅山等を始め 邦 紛 7 五. 事 を始  $\mathcal{O}$ 

## ▲マリリア市教育機関

州立小学校

私立女学校

私立商業学校 三

邦人経営裁縫女学校 グルツポエスコーラ

小学校

(現 在 閉 鎖

附近邦人植民地数及戸数 サンタ・アンプロヂ アレペンヂード ヴエアード 五〇

輿 農 遠 第一メスキッタ

八五

第二メスキッタ 中央メスキッタ 九二 五七 モー ロレドンド 三六

五〇 IJ 愛

三匹

コレゴ・バルポーザ二四

アグアデコブラ

公

アグア・ホルモーザ四〇 リベロン・アレグレ三〇 リオ・ブランコ セレージャ 三九

第 第 和 昭 和  $\overline{\phantom{a}}$ 六〇

二六

エノス ・アイレス三五

倫 四七

更

生

 $\equiv$ 

マリア  $\equiv$ 

六四

發 口 ツソ 嶺 揚 五〇 五五

ポ サン 福 東 パウリスタ ルバロ ・ジョゼ ラ ロン ボ 日 インヂオ二八 洋 双 本 三五 五三 三三 四五

コレゴ・デ・ブラッタ二二ジヤトバ

共 進 二八

 共
 和
 一

 一
 一

サンタ・テレーザ 一四

ポア・エスペランサ六〇 バンディランテテ 三九 T デ ナ ス 六〇

▲パアドレ・ノーブレガ駅及附近

である。 同駅はマ市より近距離にあるためこゝを中心とする邦人は皆無

## ▲オリエビテ駅及附近

に五、六家族の邦人の在住者あるのみである。 の地点に有名なる下江耕地があるが邦人コロ 同駅もポ市に近く邦人は全て同市を中心として居る駅よ は皆無である町 り一キ

## ▲ポンペイア駅及附近

前後 ス方面より入植者あり市内にも相当の邦人商店が進出して居った。 て邦人 、に鉄道の開通したのは一九三五年であったが、之と の進出は増加した。然しそれ以前より附近にはリン

三年前 同 カに昇格 市は に次ぐ大都市叉邦人集団の多きことも同様である現在百五十家 邦 の面影は全然見ることの出来得ない程の変化である。 マリリア市より三十キロの地点にあ してからの市内の文化的設備の完備も着々と進行し の居住をみる有様である。殊に一九三九年に一躍 ってパ延長線 マリリア コ て二、

に此 中央校である。 下六十余名の生徒四十名の邦人二世がある。校舎は舊ポ 会経営にかゝれる商業学校は同地唯 邦 人の商業方面の進出も南米銀行、宮崎商会のマキナ等内外 いさく カン の遜色もない發展振りである。叉同市日伯青年 一の中等教育機関であ 0 イア 目

## ▲附近邦人植民数及戸数

ポ 日 ジヤクチン 1 ミザ ンペイア植民地 ピ ラ デ ガ 昇 ナ ガ 六〇 五三 四五

ガンガンギ五()

T

IJ

IJ

八五

パイケーレ 一四ジャンガーダ 三二

ガ り タ 五七

ポンペイア市 一五〇

▲キンターナ駅及附近

所在地よ り キロ手前にキンタ ナ 町より大きいビラカンパ

さるものがある。 めてゐる。進出日浅く未だ大をなすものなし。 ンテと称する市街地ありて邦人家族三十戸、三分の 将来の發展は予測 は邦人で占

る、 キンターナ駅は目下パ延長線 開通は昨年(一九四 〇年) である。 の終点で  $\vdash$ ッパ ンまで工事中 であ

附近邦人植民地及戸 イデアル 三三 朝 日

美 和 二四 希 望 六〇

鈴 木 三〇

ツパン市及附近

進出して居る。 街の建築美の点より最初より全ての建物を煉瓦を以ってしたこと 在七〇家族の邦人にて日に増加しつゝあり、同市の特徴として市 約三百家族の入植あ である。同市の邦人の草分として昭和七年に須賀、 いが、近々に開通の見込みにて邦人の進出も著しいものである現 マリリ ア市より百キ 附近植民地は日新しくとりたてるものもないが、 ŋ 口  $\mathcal{O}$ 地点にある同市は未だ鉄道 大岡 の開通はな の両氏が

### 『教育訓言』

◎教への民を化するや、 命ずるよりも探し。 史 記

褒むべからざるに褒め、 ◎子を愛せざる親はあらず、 (正岡子規) くべきに非ず。 叱るべからざるに叱る如きは、 しかも子を教ゆるの親は少し。 家庭に於て十分の注意を要す。 其の害甚だし。 徳育気育は 然れども、

り。 ◎己を繹て 人を教ふるは逆なり、 己を正しうして、 人を教ゆるは順な

#### (明心寳鑑)

孫の繁昌を求むるは、 ◎家を興すも子孫なり。 足なくして、 家を破るも子孫なり。子孫に道を教へずし 行くことをん願ふが如し。

(翁問答)

サン・ルイス植民地(役員) 経営・表者 副会長 学務委員 会

計 教師

第一次 屋宜盛松 山内盛英 江崎嘉章

第二次 上村辰松

第三次 同

山内盛続

矢野留蔵

現 同

丸山福美

バーラ・グランデ (役員) 第一次 古賀末次郎 丸岡薫

石田トミ

第二次 丸岡薫

石井重義

矢野留蔵

丸岡薫

第三次 石井重義

加来晋市

矢野留蔵

丸岡薫

石田トミ、

深瀬武夫、大槻五郎

第四次

加来晋市

古賀末次郎 清水員造

木村芳夫、

平井リウ

第五次

第六次 同

同

■サン ・ルイス植民地児童教育、 植民地状況

新設の邦語学校として、就学児童三〇名 動会学芸会等を催し、平素の学習と相俟って、其の成績見るべき 本校は昭和十二年二月十一日の開校にかゝわり、バ 毎年夏期叉は臨時に運 ウル 一管下

令に際会 するもの がある。 し事業途上に於 児童教育上将来に期待する所が多か いて其の中止を見たのは洵掬に 0 たが 今次 门同情 値

校を開始したるものである。教育國日本の姿を目 らず、其の歳月を惜み、 感があり、 同 地は 約四十戸の 実に心強い次第であった。 同胞家族を有し、 児童の現状を憶ひ団体を組織 借地農者  $\mathcal{O}$ のあ 集団 地 り見る 7 日語学 る 拘

# ■バーラ・グランデ児童教育、植民地状況

古き邦人小学校として、 正十五年、古賀、 たものであり、在植者の心情洵に痛切なるものがある 法令に準據し、 練、学習と相携へて児童教育の完遂年其の光を増しつゝあったが、 を誇りつゝあ で、其の盛時に於ては四〇家族の邦人を数へ ントスを要し、 本校 の開設は昭和二年五月十二日である。校舎建築費に約 ったものである。 昭和十四年八月、遂に輝やく其の 就学平均見児童三五名、 加来、 丸岡の三氏によって開拓入植されたも 毎年運動会を盛大にk挙行し、 バウルー区に於ける歴史 毎年其の 歴史の幕を閉ぢ 平素 同校は大 の訓 コ

# ■アグア・ド・パイォール植民地

児童教育、植民地状況

校行事あ 十日を以 よ顕著なるもの トスを要 は昭和八年二月十日の り、平素の訓練並に学習と相俟って児童教育の實 し、就学平均児童三八名、 て其の輝く歴史の幕を閉ぢたもの があったが、今回の 開校である。 毎年定期に運動会其の 法令によ 校舎建築費に り昭和十三年九 である 他 1 コ 学

地は大正十五年鳥居、 植田、 森部、 三氏の入植によ 0 始ま

り、 量である。 現在は僅かに 増を見たもの 珈琲を主作とし、 で、其後六年間は相当に盛大を極めたものであった。 一〇家族を算ゆるのみにて往時を偲べば実に感慨無 昭和七年に至って棉作勃興し、 人植者

# ■バラコン植民地児童教育、植民地状況

ある。 育の実を挙げつゝ、優秀なる在伯二世の育成に精励中であったが、 時に運動会、学芸会等を催し、 年の盛事を想ひ、更に二世の将来を憶ふとき感慨無量なるもの 今次の法令に際会し、日語学校を閉鎖し、後図書策中なれども、 本校 の学校である。就学児童は平均五〇名にして、 開設 は昭和五年二月一日であり、延長線関係に於ては 平常の学習と相俟って逐年二世教 毎年定期又は臨 が

図 [書を回覧し、 青年会は会員の融和と向上を図る為毎月機関誌を發行 身心の練成に精進中である 専ら修養に努むる傍ら、 陸上競技、 武道を盛ん 別途

# ■富士第一植民地児童教育、

植民地状況

るも より、 校として二世の教育に従事しつゝあるもの ントスを要し、就学児童平均三〇名、平素の統制ある訓育はもと 本校は昭和十年九月一日の開設にかかり、校舎建設費に約 があ 毎年定期に運動会、 ったが、法令により日語部を閉止し、 修学旅行等を催し、 である。 其の成績 現在は 伯語 又顕著な コ

其他 植民各般 同地は  $\mathcal{O}$ 0 バウル の事業上、其の円滑そ期しつゝあったものである。 作地として早くより其の盛大を誇り、年々其の ゝあるもので、日会役員並に教師の永年勤続と相俟 ー駅より約廿粁の地点に介在し、 珈琲並に米、棉、 農産成精

第四富士植民地児童教育、 植民地状況

童に対する指導機関を失った同地に於ては目下葡語学校を開設 設校として、各種の児童教育行事を盛大に催 公認許可申請中であると云ふ。 の閉止を見たのは洵に哀愁の極みである。日語部 展を企画してゐたが今次の法令に基き僅かに一ヶ年余を以って其 ントスを要し、 本校は昭和十四年七月一日の開校である。校舎建築費に約五 就学児童平均二〇名、パ ウル しつゝ其の将来 管内に於ける最 の廃止によ り児  $\mathcal{O}$ コ

され ある。 同地は棉作 てゐるも ので、最近青年会も設立され心身の の最適地として、現在二四家族の 邦人によ 錬成 に精進中で 0

## 第三富土植民地児童教育、 植民地状況

と言ふ もの 実績を挙げつ 少年武道会等を催し、平素の学習訓練と相俟って逐年二世教育の ントスを要し、就学平均児童四五名、毎年定期又は臨時に運動会、 本校は昭和十三年九月一日の創設であ去。校舎建築費に約十コ であるが、将来は合法的日伯両語学校の設立を希念してゐる ゝあったが、今次の法令に基き日詰部の閉止を見た

同地はバ で 所に分立したもので、盛時に於ては日本人家族六五を数 あ り、現在四〇家族二九八名の邦人を擁 ウル ー駅より廿粁の地点に位し、第二富士の膨脹 してゐる。

# 第二富士植民地児童教育、 植民地状況

約八 本校 コ  $\mathcal{O}$ 開 設 1 は スを要し、バウル 昭和十一年九月十三日である。 近郊に於ける最大の小学校とし 校舎建築総工費に

世教育に当ってゐるが、其の盛時に於ては、 校は十五年三月に設立されたもの 行ひ、平素学習と相俟って学術に訓練に、 があったが、 て就学平均児童五〇名毎年定期に運動会、学芸会、 領事等の巡視を受けたる光栄を持つ、由緒ある学校である。 事情により、 昭和十四年九月一時閉校し、 であり、 其の成績顕著なるも 日下伯語学校とし 澤田大使並に坂根総 勤労作業等を 現在

青年会は陸競に野球に優秀たる成績を挙げてゐる。

ナ ツ セ テ 一九

IJ ダ  $\equiv$ 

オリエ テ

ンテ・ ウニカ

ウリスタ第

五〇

パウリ スタ第二 八二

愛 玉 二六

ペエテ クルー ス 町

#### A ラ シオ駅及附近

同 駅はヴエラク ために数ふる程 ルス及 の邦人もなし。 マリリア二大都市 中 で併も近距離

#### マリリア 駅及附近

之に因 のが今日聖州屈指の大都会又在伯邦人集団第一を誇るマリリア 地に来り ザル市建設が計画され、 って誰言ふとなくアルトカフェーザルと呼称するに至った 一年 て牧場を開くと共に小丘に少しの (明治四十四年) に伯人某氏がノ 其の後附近の大地主であるべ ミラ ダ氏等 の努力で、 一九二二年鉄道の開通と共に一月 九二五年にアルトカ 口 珈琲樹を植 エステ方面よ ・デ・ア プ ウ氏 り此  $\mathcal{O}$ 

現在 なり。 界に比を見ずとのことなり、併かも其の大半は邦人の力興って大 リア 年七月独立行政管区となり、諸般の文化的施設は人口の増加と共 に完備され、今や人口三万其の急激な発展は附近の開発と共に世 の名をとってベント・ヂ・アプレウ氏の命名した処である。 のマリリア市が生れた。元のブラジル皇族であるドナ・ 7 IJ

地理的條件にも恵まれ現在マリリア市を中心として居る乗合自動 車数百余台いかに人の動きの多きことを立証して居る 尚当地は地味気候共に申分なくノ ロ、ソ ロ両鉄道の中間にあ

始め 業としては南米銀行、東山銀行、海興銀行、 の続間 めあらゆる方面にわた に近く三千家族といふ犬集団である。市に於ける主なる邦人 外人に伍して聊かも遜色を見せないが常に邦人間の紛争紛事件 邦人がこの地方に進出を始めたのは大正十五年頃である。大挙 て商工方面に進出 一万で、現在六百家族の邦人を数へ各方面に於ける發展振 匹 のないことは残念のことである。附近邦人植民地数は五 五の邦人経営マキナ商店として岡本、 したのは昭和四、五年頃で爾来十年間に 0 て進出 して居る。 を始め瀬木マキナを 山下、 菅山等を始 増加 りは 事

## ▲マリリア市教育機関

私立女学校 一 一

私立商業学校 邦人経営裁縫女学校 グル ツポ 工 ス コ

同 小学校 二

(現 在 閉 鎖)

附近邦人植民地数及戸数 アレ ンヂー K 五〇 サン

タ・アンプロヂーナ

四〇

キッタ リベロソ メスキッタ ヴエアー 敷 ホルモーザ四〇 五 コレゴ・バルポーザ二四 島 五七 アレグレ三〇 八 五 モー ス ロレドンド リオ・ブランコ 中央メスキッタ セレージャ アグアデコブラ 三六 遠 共  $\frac{\exists}{\bigcirc}$ 三九 九〇 第二メス 第一

第二昭和 六〇 二二〇

ブエノス・アイレス三五 第二昭和 六○

明 倫 四七 三〇

・ サンタ・マリア 三〇

發 揚 二八 二八 六四

日 伯 四八 四八 五〇

福双一工一四エ三

パウリスタ 三五ポンボ 二三二

# 福寿第一、児童教育、植民地状況

秀なる成績を挙げつゝ法令による日語部閉鎖まで、其の功績は実 も由緒深き教育の殿堂と言はなければならぬ。校合建築費に前後 行された。 として知られ、一時は聖市遊学児童数が十五名に及んだといふ。 に優然たるものがあった。同地は早くより向学心の旺盛なる地域 動会、学芸会、 に適任者を得て、 二〇コントスを要し就学平均児童数五〇名、歴代役員、歴代教員 本校 の開校は大正十二年五月二十七日 凡らくパ延長線の最古たる 作品展覧会等を催し、共の燦然たる歴史と共に優 平素の学習はもとより、 のみならず、 の海軍記念日をト 毎年臨時並に定期に 全伯に於

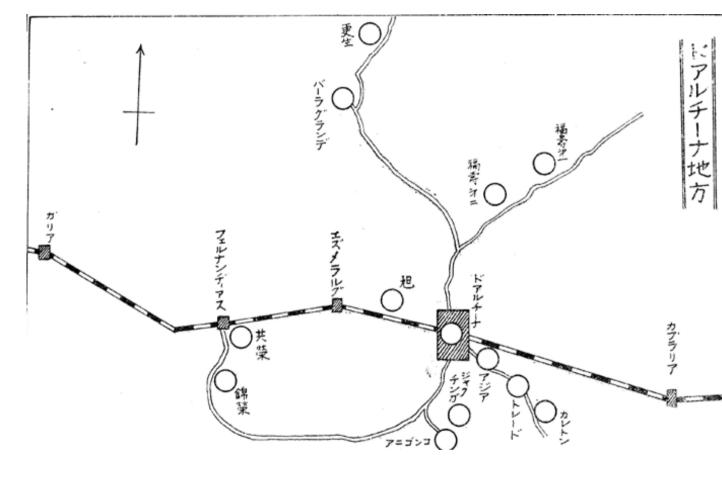
つ植民 前 略々入植当時の 力たる邦 は七○戸四二○名を呼称する植民地となり、近在に於ける最も有 当植民民地はD駅より十五粁の地点に位し、今を去る二十三年 開拓にかゝわ、常時の家族数三○を算へたが、盛時に於いて 地とし 人植民地となった。 戸数を有するのみであるが、古き歴史と伝統を有 其の統制には異彩がある。 現在に於ては稍其の数を少なくし、

理解の点より見ても、 在つた古賀氏が終始一貫二〇年勤続した事実は此の事を充分裏書 同 地は子弟教育問題に 其の優秀さが窺はれる。 ついて在植者の関心深く、 学務委員の重職に 教育に対 する

ボアビスタ

児童教育、植民地状況

本校の開设は 一丘呂、毎年天



出動等、 長節に奉祝運動会を行ひ、臨時に学芸会を催し、 今回の法令により日語部を閉止し、現在は坂本氏の奔走により日 平素の学習と相俟って其の成績顕著なものがあったが、 D駅聯合運動会

立の予定である。 曜学校とし て幼少年の指導に当ってゐるが、将来は伯語小学校設

入植 るものがある。 同地は に初ま D ŋ 駅より二〇粁の 現在日本人三〇家放を有 地点にあ ŋ, し棉作地帯とし 九二九 年、 坂本氏 **等**  $\mathcal{O}$ 

# 福嘉第二、児童教育及植民地状況

熱心 等の行事があ 日会集会所に充てゝゐる。 トスを要し、 いても殆んど同 本校の開校は第一と同じく、大正十二年五月であり其の歴史に の程度も何等第一と優劣がない、 就学平均児童三C名、 った事も第一に等しく、 一の経路を辿ってゐる。校舎建築費に一〇コン 毎年学芸会、 日語部閉止の後は、 般在植者の教育に対する 運動会、 展覧会 校舎を

算 盛大なりし往時を偲ぶとき実に感慨無量なるものがある。 同 へた。現在伯人家族と共に三○に過ぎない。一 地の入植は第一と同年に行はれ、当時日本人家族約二〇戸を 少部落であるが、

# 旭植民地児童教育及植民地 状況

は伯語 に運動 本校 スを要し、就学児童平均三五名、毎年運動会展覧会等を催し、特 小学校と化し、児童数は日伯人相半してゐる。 の成績見るべきものあり、 の開設は昭和十二年四月一日である。校舎建築に十三コ D駅大会に二ヶ年連勝す。 現在

逐年増加し 十六家族を擁す。青年会の組織あ 同地は 日会は昭和七年、 り附近に開拓相次ぎ、 D駅より一○粁の地点に在り、昭和五年の入植にかゝり、 て現在に至る、 D駅日本人会支部として設立され、 棉作六、 旭日本人会の誕生を見、目下日本人 り、 珈琲二、雑作二といふ割合で 堅実に活躍中である。

## 児童教育及植民地状況バーラ・グランデ

ある。 発展に努力中であったが、法令による閉止後は日会集会所として 名、毎年運動会、 本校  $\mathcal{O}$ 開設は昭和八年十二月十七日である、就学平均児童二五 展覧会、 学芸会等の行事あり、 鋭意教育事業の

困難であっ 植民地は昭和二年に開拓され、常時の家族僅かに四家族如 ŋ, 会長は友池種英氏である。 たかゞ想像される。 現在一 五家族を算 青年会 何

# 錦植民地児童教育及植民地 状況

たものである。 により一時分立する等、幹部役員は齋しく、 に逐年其の成績の向上を図りつ 本校は昭和七年の 開にか り、就学平均児童二五名学習に訓練 、あつたが、中途地理的関係其他 其の 間の辛苦を嘗め

始まり、翌年より暫時其の数を増し、 る植民地となった。 同地はフエル ナン ・ヂアス駅の近郊にあり、 盛時に於ては二二戸を数へ 昭和一 一年の 入 植

ね、現在年額一五〇コン でゐるといふ事である。多年の研究により飼育に販売に経験を重 此  $\mathcal{O}$ 地に於ける特筆大書すべきことは全村挙げて養鶏業を営ん トスを上げつ ゝあるといふ。

児童教育及植民地状況

多か 調査、 ラチニン 売を行ひ 訓練はもとより、 て邦人の人植多く、 ントスを要し、就学平均児童三五名、平日の真摯統制的なる学習、 本校は昭和六年六月三日の開校にか つたが、法令に基き其の終焉を見たものであった 作品 0 ガ駅より十粁の地点に介在し、米棉、其他の最適地とし 展覧会を催し、二世教育上の業績正に見るべきも ゝあったものである。 毎年定期叉は臨時に学芸会、 棉作の盛時に於ては合議により、 ゝり、校舎建築費に約六コ 運動会、 其の 同地は 児童健康 共同販

### ドアルチーナ

児童教育及植民地状況

る。 的に最もも統制的に挙行し 本語学校を閉鎖 毎年定期叉は臨 スを要 本校 の開設は昭和七年九月である。校舎建築費に約三七コ D駅管内に於ける中心校として就学平均児童四五名、 時に学芸会、運動会、 し、日本児童はすべて市内の伯語校に通学中であ つゝあったが、今次 武道会等の行事を最も真摯 の法令により、 日

二家族 ものである。 る由なるが、 同地附近は の入植に始まり、漸攻其の発達と共に現在の盛大を極めた 目下日会に於て管理後闘中であ 日語学校の処置については、伯人側よ 一九二四年九月七日、 鉄道開通と共に安本氏他一 る。 りの懇望もあ

# 更生、児童教育及植民地 状況

芸会、 るべきものが多かったが、今次の法令に際会し、遂に日語部の スを要し、就学平均児童二五名、毎年定期又は臨時に運動会、 本校は昭和七年三月十五日の開設である。校舎建設に約六コ 遠足会等を催し、平素の学習訓練と相俟っ て其の成績亦見 閉

止を見たものである。

適地 三一〇名の邦人を算ゆる盛大さとなった。 増により学校設立の運びとなっ 同地はバウル として、先ず昭和六年に七豪放の入植を見、 ー駅より三十粁の地点に在り、珈琲其 たもので、盛時に於ては 翌年入植者  $\mathcal{O}$ 他 の雑作

### ヴエラ・クルース

### 児童教育

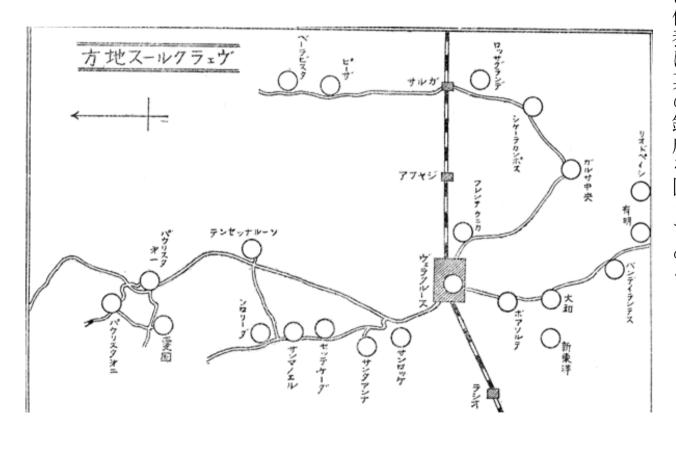
あ に依 会等を行ひ、 中であったが、 舎を建設し、 中心的模範校として、 の統制ある学習訓練と相俟ってて、其の成績洵に顕著なるも スを要し、 った。 本校は昭和六年九月の開校にして、校舎建築費に約三〇コ b, のである。 総工費約五十一コントスを投じてヴエラ・クル 昭和十四年八月、 就学平均児童八〇名、 特に春秋二李にお話会、教育映画会等を催 日語指導を兼ねて、上級学校就学児童の 今 次 の法令に際会し、 毎年定期叉は臨時に運動会、 ヴエ市の異常なる発展と時代の要求と グエラ・クル 通学部を閉鎖す ース管内に於ける 展覧会、 訓育に盡瘁 ス奨学 平素 0

### 植民地状況

僅か十 当駅 昭和三年前 -ケ年 は ガル の間に現今の盛況を見るに至ったものである。 サ駅よ 後よ り同 り二〇粁、 町及び近郊に於ける邦人の入植相次ぎ、 マリリア駅より十五粁の地点にあ

のである。 九二八年に至って待望の鉄道が開通し、ヴエ駅を中心に の郊外 昭和八、 びガ ルサ 九年に至り、 の西方ダ エ駅に相接する地方に邦人 同胞家族実に一千を号したも  $\mathcal{O}$ 入植 IJ

方男女青年会亦一九四〇年に設立せられ日語学校閉鎖の後を承け て、体育に修養に其の錬成を図ってゐる。 商工業方面に於ける邦人の進出も著しく、日会の充実と共に二



本校の開設は昭和十二年六月一日である。校舎仮建築に約四コ ンチ・ ウニカ、 児童教育、 植民地状況

たも 学芸会、遠足会、 たが、今回の法令に遭ひ、 ントスを要し、就学平均児童二〇名、毎年定期叉は臨時に運動会、 のである。 相撲会等を催し、 日語部廃止と共に教育機関の解消を見 児童教育の実を挙げ つゝあっ

算へたもので、 交通上の至便をもって、盛時に於ては三○家族一八○の日本人を 同地はヴエラ・クル 現在は著しく其の数を減じ、 ース市より僅かに二粁 昔日の面影を止めな  $\mathcal{O}$ 地点に あ り、 其  $\mathcal{O}$ 

バンディランテス

児童教育、植民地状況

芸会、 校の廃止を見たのは眞に痛惜の至りである。 るを思はせつ ントスの費用を見、就学平均児童三〇名、 本校は昭和七年六月一日の開校である。校舎建築費に約十五コ を催し、 ゝあったが、今次の法令に際会し、歴史古き日語学 堅実なる学習と相俟って、二世の将来愈々確然た 毎年定期に運動会、学

民地となったが、現在は約三〇家族に減じてゐる。 当時より己に二五家族を有し、盛時に於ては、 同地はダエ駅より十八粁の地点に位し、珈琲を主作として入植 六五戸を数す

名を省略するを遺憾とする。 会記録も現今に於ては其の所在審ならす、会計、学務委員  $\mathcal{O}$ 

有明、児童教育、植民地状況

会等 存在を鮮明 本校は昭和十一年六月一日の開校にかゝり、校舎建築費に十七 トスを要し、 児童教育を中心としたる行事を盛大に行ひ してゐたが、今回の法令に基づき現在は郡立校として、 就学平均児童四〇名、 毎年定期に運動会、 つゝ、常にその

道動場を管理しつ 時既に三五戸、 であると言ふ 伯語教育に精励中であるが、遠からす州立校とすべく目下計画中 会長は酉島重信氏 の実を挙げつゝ今日に及んでゐる。青年団も同時に誕生し、会館、 在植者の 植民地はヴエ駅より二〇粁の地点にあり、入植当 ム日会との連絡も宜しく、 一致団結、 円満提携によりよく植民事業 目下活躍中である。

### サンタ・アンナ

児童教育、植民地状況

期叉は臨時に運動会、学芸会等を催 閉鎖したもので、現在は郡立伯語小学校となってゐる。 るべきも 本校は昭和六年の開設にかゝり、就学平均児童三〇名、 のが多かったが、昭和十四年をもって法令とは無関係に 児童教育上の成績実に見

亦解約 何十 同地はヴエ駅より七粁 一年には六〇家族の盛太さを見たが契約解消と共に植民地も したものである。 の地点にあり、昭和四年の入植に初まり、

### フルキヤ愛国

児童教育、植民地状況

実を挙げつゝあったが、現在は私立公認伯語小学校として二世 会、臨時に角力会等を催しつゝ平素の学習と相俟って児童教育 訓育に当つてゐる。 ントスを要し、 本校の開設は昭和十一年三月一 就学平均児童三〇名、 日である。校舎建築費に約十 毎年定期に学芸会、 運動  $\mathcal{O}$ 

の開発に精励 人植当時己に三二家族を算し、 同地はヴ 工 駅より廿一 したものであった 粁 の地点に在り、 在植者の協力一 青年会は学校と同時に創立され、 米、 致に  $\mathcal{O}$ より植民事業 雑作地とし

現会長下元氏によって若人の運動が開始されてゐる。

# ピーザ、児童教育、植民地 状況

舎なれども就学平均児童二三名を有し、 の成績も亦優秀なるものがある。 ンニョ氏の支援を得て、最近まで二世教育を続行したもので、 本校はガル サ駅管内最も新設の邦語学校である、現在未だ仮校 レイス . ピ ーザ・ソブリ 其

もって棉作並に一部に米作を行ひ 経営しつ るものである。 アンナ耕地よ 同地はガルサ駅より廿四粁の地点に位し、昭和十三年、サン ゝある植民地である面積三百域、全廿一家族の日本人を りの分植にはじまり、 つゝ、植民地の経営に当つてゐ 田上實氏が開拓の父として、

### ガルサ児童教育

パ延長線 六月の閉校まで由緒ある日語学校として其の教育的成績は優秀な 年運動会、学芸会、遠足会、 う。校舎建築に約十五コントスを要し、 るものがあった。 本校 の創立は大正十年十一月三日の明治天皇祭である。凡らく のみならず全伯に於ける最も歴史古き邦人小学校であら 修学旅行等の行事あり、 就学児童平均三〇名、 昭和十四年

#### 植民地状況

五戸、二三六名を算へ、 植民地経営が行はれ今日に及んでゐるものである。男女青年団 当植民地はジアフア駅より六粁の地に在り、盛時に於い 上記十二名の人士に依り既に二十 年間 は

昭和十年に創立され現会長は、 行弘澄、 野田和子 の両氏である。

ボア・ソルテ児童教育

たが、今回の法令に遭ひ現在州立私立の伯語学校として 学平均児童五〇名、児童教育方面に堅実なる成績を挙げつ 語教育の為に精励中である。 廿三コ 本校  $\mathcal{O}$ ントスを要し、ヴエ駅管内有力なる邦語小学校として就 創立は昭和七年二月十一日紀元の佳節 である校舎建築費 一意、 伯

#### 植民地状況

時は僅 四五戸、二四〇名の日本人を有して折角健闘中である。 植民地はヴエラ・クルース駅より四粁の隣接地に在り、 かに十戸を算へたのみであったが、逐年の増加によ り現在

と共に今後期待されるもの て其の運動を助成してゐると言ふ。 で、専ら非常時局下の青年訓練に邁進中である。 青年団は学校と同時に設立され、現在会長に関屋教算氏を仰 は青年団の活躍であり、 日語学校 閉

#### 大和

児童教育

を要し、 育的成績に見るべきもの多かったが、今次の法令により現在は に運動会、 本校の開設は昭和七年六月一日である。建築費に十三コン 就学児童平均三〇名、 学芸会、 遠足会を催 真剣なる学習の他毎年定期叉は臨 教師役員間 の和を得て、 教

立私立伯語学校となって今日に及んでゐる。

#### 植民地状況

は、 覚ましく、男子部は竹内清次氏、女子部は神崎千鶴子氏がそれぞ なるものがある。 れ会長であり、日語学校閉止の後を承けて青年団 当植民地はダエ 大和甚三郎氏 一八〇の日本人を算へ、其の名の通り植民地の の努力に負ふ所が多い。青年会亦最近 駅より十粁の地点に介在し、盛時に於 |の使命 開發に当って 愈 の進境目 いて三五 々重大

## ガルサ中央 寛 教 育

当時延長線聯合運動会に於いては常に首位を占め、専らスポ として就学平均児童四〇名、 約十六コントスを要し、ヴエ駅管内に於いて古きに属する有力校 却ずみである。 王国を誇ったも 作業等各種 本校の創立は昭和三年二月十一日である。校舎建築並に増築に の行事を盛大に行ふ他、特に体育方面の錬成目覚しく、 のであった。現在学齢児童僅少にて校舎も己に売 毎年学芸会、運動会、 遠足会、

#### 植民地状況

は有名なる植民地であったが、現在僅かに 同 地は ヴ 工 り 粁  $\mathcal{O}$ 地点に在り、 日本人家族一〇戸を算 珈琲を主作とし

現会長は岡崎満開氏である。 へる状態で、昔日の面影を止めない。青年会は昭和四年に初まり、

#### 教育訓言

は すること能はず。 総て人生は一個 の地上の学校に於て教育を受けざる時は、 の学校なり一個の準備なり、 吾人は天上の学校を卒業 個 の目的也 若し吾人

(テニスン)

ガリア中央

平均児童二〇名、毎年各校の行事を行ひつゝ学習に訓練に着々と 七コントスを要し、ガリア近郊有力なる邦人小学校として、 日本語学校閉止のあとは、青年会並に日会の会合所に充てゝゐる。 して教育事業の実を挙げつゝあったが、法令の定むる所に従ひ、 本校は昭和十年三月十日の開設にかゝり、校舎建築総工費に約

#### 植民地状況

り、 既に存在を知られたものであり親日伯人を有して、其の経営仲々 に妙味あ 同 小部落なれども棉作並に養蚕を業とし特異の植民地として、 地は宇品植民十二家族をもって関植され、毎年五六の入植あ ŋ, 正に日伯親善の好模範である。

#### 教育訓言

教育は即ち人に独立自尊の道を教へて、 ものなり。 之を躬行実践するの工夫を啓く

(福沢諭吉)

第一パウリスタ

児童教育

がある。 師役員間の和を得て、学習に訓練に其の成績見るべきものが多 均児童八○名、 として、二世教育に当ってゐるが在植者の心事眞に痛切なるもの か ントスを要し、ヴエラ・クルース管内最優の邦人校として就学平 ったが、法令により日語部の閉止を見、現在は州立公認伯語校 本校は昭和十年八月一日の開校である。校舎建築費に約二〇コ 毎年定期に運動会、学芸会、敬老会等を催し、教

#### 植民地状況

其 年会も同時に誕生し会長は古賀次男氏であり 中である。 の盛時に於ては、邦人家数 同地はヴエ駅より十九粁の地点に任し、米綿の最優良地として 一四Cを算へる盛大さであ 体育に修養に活躍 った。

# ロツサ・グランデ児童教育、 植民地状況

郡立公認校として、専ら、 スを要し、就学児童平均四五名、 本校は昭和十三年七月一 在植者の実を挙げつ、あったが、今回の法令に従ひ、 伯語教育に盡瘁中である。 日の 開校にかゝり、建築費に七 毎年定期に運動会敬老会等を催 現在は コ

校と時を同じうし は田中シオリ氏が会長である。 に過ぎなかったが、逐年發展をとげ現在は四五戸、二三一名を有 当植民地はガルサ駅より二三粁の地点に位し、入植当時は一六戸 非常時局下にあって、 て創立され、 植民事業に精励中である。 現在男子部は二神重信氏、 青年会も学

# 第二パウリスタ児童教育、 植民地状況

されたのは眞に悲惨であった。 たる各種の行事を盛大に挙行し、在植者の協力一致により着々と 七〇名、平素の統制ある学習訓育と共に毎年児童教育を中心とし ントスを要し、パウリスタ第一に攻ぐ有力校として就学平均児童 して二世教育の充実を図りつゝあったが中途其の閉止を余儀な 本校の創立は昭和十一 年七月七日である。校舎建築費に十三 コ

盛時に於ては日本人九五家族を数へ は増田泉氏 同地はヴエ駅より二三粁の地点にあり、 て其 、の盛大を誇ってゐる青年会も同時に創立され、男子 女子部は同操氏が会長であり、 たもの 米、 であり、 棉の適地とし 其の発展を期待さ

時局標語

- ○臣道実践、職域奉公
- ○国を護った傷兵護れ
- C戦線偲んで、銃後翼賛
- ○伸びる子供に榮える日本 ○作れ体力、 押切れ時局
- ○銃後の奉公、先づ勤労

ソール・ナツセンテ

児童教育

芸会、遠足会、教育映画等を催し、常に実質的なる教育を施し、二 世の将来正に確然たるを思はせつ 日語部を閉止したものである。 トスを要し、就学児童平均二〇名、毎年定期叉は臨時に運動会、学 本校の創立は昭和十年二月十一日である。校合総工費に九コ ゝあったが、今回の法令に基き

#### 植民地状況

地と てゐる。 同地はヴエラ・クル して入植当時己に三二戸を数へたが、現在稍々其の数を減じ スより十四粁の地点にあり、 米、 棉 の適

照氏である。 と共に図書館館を経営し心身の 青年会は昭和十二年紀元の佳節を卜して開設され、体育の 向上に努め てゐる。現会長は野口 奨励

躍進の 敬老会、 教師 を観すれば、総ては革新への胎動であり、事実其の変革の度毎に、 混沌として其の儘くる所を知らざる時代もあったが、今日より之 れる。校舎は現在武道々場として日本精神の鼓吹に努めてゐる。 ○○名、毎年定期並に臨時に運動会、学芸会、修学旅行、遠足会、 本校 スを要し、 の移動就退すること実に二二名、学校経営上にも問題相次ぎ、  $\mathcal{O}$ 一路を辿り、教育的業績も多大なるものがあった様に思は 等を行ひ常に中心的模範校たるの資格を失はす、 創立は昭和三年である。校舎総工費に前後約一 マリリア管内に於ける中心校として児童就学平均一  $\bigcirc$ 此の コ

### マリリア植民地状況

リリアと命名されたものである。 同 市はもとアル ト・カフ エザール と呼ばれてゐたが一 九二五

同市 家族を数 成果を高めてゐる。 糾合する青年聯盟の本部があり、 と言ふ。 族に余る邦人農業者と相俟って、 六○○家族を有する全伯的にも稀なる集団地となり、附近三千家 邦人の に於ける邦人事業家の勢力は伯人をも尚圧倒する状態に在る 日本人会と共に、青年会活躍すさまじくパ延長線各駅を 同地に於ける進出は大正十五年頃で、 へたのみであったが昭和三年頃より入市者相次ぎ、現在 青少年の 商工業共に著しき登展を遂げ、 訓練指導に邁進 当時僅かに五、 其の

登嶺 児童教育、植民地状況

る。 より、 年教育的 コ 本校は昭和十三年九月一 トスを要し、就学平均児童四〇名、堀教師永年の尊き体験 学芸会、 功績を重ね 運動会、 つゝ現在は州立伯語小学校として継続中であ 遠足会母姉会等の熱心なる行事あ 日の創立にかっ り、学校建設費に十五 ŋ

二五戸、 年団も亦時を同じうして誕生し、修養連絡機関として会誌を発行  $\mathcal{O}$ 当植民地はその開設者原氏の榮による所多く、 その 地点にあり、 向上を計ってゐる。 一九八名を算へ、植民事業に貢献する所が厚 交通至便、 近隣稀なる健康地として日本人家放 現会長は柏原清氏である。 7 市 の南方十八 0

## リベロン・アレグレ

児童教育、植民地状況

青年会館 あ は物質を惜しまず絶対円満を標榜して民族發展の為に精励中で 日語小学校として毎年運動会学芸会等の行事を重ね、教育事業に 四コ 0 本校は昭和十一年三月一日に開校式を挙げ、校舎建築費其 となし今日に及んでゐる。 トスを要し、就学平均児童四五名未だ若けれども新進 昭和十四年四月、法令に基き自發的閉鎖の後

氏を中 五. 望をかけられてゐる。 一名を擁 常地はマ市の南方十九粁の地に在り、 心として活動を続けてゐる。 南部地方に於ける棉作 青年団も亦同時に発会し、 の中心地として、 入植当時既に五 現会長江越義三 その将来に 一戸三五

スを要 は 昭和十 ワ 就学平均児童二三名、 年四月一 才 ル 干 日の 創立に かゝり、 毎年定期叉は臨時に学芸会、 児童教育、 校舎仮建築費にニコ 植民地状 況 本校

たが、今回の法会に際会し、現在は日本人集会所として目下学校 り精神的訓練に重きを置き、実社会的人物の養成に邁進中であっ に於ける教育を中止してゐる。 等の行事あ ŋ 林教師就任以来は千遍一律的な室内学習よ

べく今後の活躍に期待する所が多い。 二名を有し、協力団給の美風をもって植民地経営の為に精進し ム次代の後継者養成に腐心してゐる。 当植民地はマ市の南方二〇粁の地点にあり、 聴て青年会の誕生も見得 現在二四戸

ボア・エスペランサ

児童教育、植民地状況

進中であったが、今回の法令に基き、日語部の廃止となったが、 会も亦之と運命を共にし、解散に立到った事は洵に遺憾千萬な事 である。現在は州立伯語小学校として二世教育に当ってゐる。 し、平素の学習に精励し一意教育事業の發展に植民地を挙げて邁 一コントスを要し、就学平均児童五〇名、毎年定期に運動会を催 本校の創立は昭和十二年七月一 日にかゝり、校舎建築費に約十

邦人六〇戸、三三〇名を数へる、 同地はマ市より十七粁の地点に位し、棉作の最適地として現在 有力なる植民地である。

コレゴ・デ・バルポーザ

児童教育、植民地状況

年運動会、学芸会、等を催し児童教育の実を拳げ トスを要 の法令に際会し、過去八ヶ年に亘る光輝ある歴史の幕を閉ぢた の開設は昭和九年八月一 し、就学平均児童三〇名、平素の学習訓練はもとより、毎 日である。校舎建築費に約七コン あ 0 たが、

事は洵に痛切なるものがある。

てゐた。 に四五戸、二二C名まで伸展したものでイチ著しき農業成績挙げ て、人植当時既に三〇家族一六〇名を算へたが、盛時に於ては更 同地は マリリア駅より、十六粁の地にあり、 米綿の適作地とし

# 明和 児童教育、植民地状況

動会、臨時に教育シネマ会等を催しつゝ日語教育の為に精励之努 五コントスを要し、就学平均児童数三五名、例年定期に学芸会、運 画策中力である。 めてゐたが、法令により学校を閉鎖と同時に校合を解体し目下後 本校 の開設は昭年十二年六月一日である。建築費其

関誌を発行して向上聯絡を計りつゝあり、 を数へる植民地となった。青年運動も亦年と共に進展し、 戸、十五名に過ぎなかったが、 当植民地はマ市の南方十六粁の地点に位し、入植当時僅かに二 の両氏を会長として精進中である。 盛時に於いては二二戸、 明和は神長倉、 一三二名 毎月機 更新は

# アレペンヂード 児童教育、植民地状況

あったが、今次の法令により現在は州立伯語学校として精進中で 会、敬老会等の児童教育を中心とした行事あり、歴代教員殊に瀬 戸女教師の努力によって着々として教育事業の發展を図りつ ントスを要し、 本校の設立は昭和十一年四月廿九日である。校舎建築費に十一 就学平均児童五〇名、毎年定期に運動会、

植民地は マリリア市より十七粁の 地にあり、借地農なるに不拘、

事業特に教育に対する熱心な事で早くより有名であっ 盛時に於ては八五戸、 も同時に 誕生し、 会長は佐 四九〇名を算へる大植民地とな 々木寅造氏である。 0 た。育年会 公共

## サンタ・アンプロジーナ

児童教育、植民地状況

今次 本校 終焉を見たのは眞に痛惜の至りである。 八C名、斬新なる教育法により逐年其の成績を拳げつゝあったが 二コントスを要し、マ市管内に於ける新設校として就学平均児童 の法令に基き、昭和十四年十一月三十日をもって慌しく其の は昭和十二年十月十五日の開校にか ゝり、校合建築費に約十

ある。 会も亦同時に創立され現会長佐藤正信氏の統制下に躍進を続けて 植民地として年々其の農業成績を誇りつゝあるものである。 植当時時己に五五戸を算へ、現在一四〇戸八四〇名を呼称する大 同地は マ市より二八粁の地点に介在し、棉作の最適地とし 青年 て入

#### アルヴロ

#### 児童数育

及ぶ校舎建築費並に運動場開設に約二五コ 部マリリア唯 の發案による学校通信式 毎年定期並に臨時に児童運動会、学芸会を挙行する他、江口教師 的となつてゐたものである。 本校は昭和六年十一月廿二日の創立にか して美化作業を行ふ等、 一の有力なる邦人小学校として就学平均児童八〇名、 の保護者機関紙を発行し、 その異彩的存在は早くより注目 ントスの費用を見、 り、 日伯両語三回に 一方勤労教育

ブに当て、新校舎を私立公認伯語小学校として専ら伯語教育 に全力を集注中である 一九三九年法令に依 り日語学校を閉止後は舊校舎を父兄会 クラ

#### 植民地状況

解が 者一般の教育に対する熱意厚く、その成績顕著なるものがあ 戸、四九〇名を算へ、南部最大の植民地として松原氏を初め在植 図書の巡回を行ふ等、その活動日醒しく、現在男子部は松原嘉雄 はもとよ 女子部は同 の南部二八粁の地に位し、入植当時は十七戸、 男女青少年団訓育方面の發達も亦著しく、各種運動器具の完備 当植民地はアル 1 り、 それ松原氏の マツ子の両氏によって其の運動は続けられてゐる。 庭球場を有し、武道を盛んにし、 ゲヴア ロと言ふより、松原耕地と称する方が 人格と耕主的経綸が行渡ってゐる。 盛時に於いて八〇 精油的事業として った。 マ市

# 更生 児童教育、植民地状況

幸法令に基き日語を閉止の止むなき仕儀とな 島一三氏以下役員諸士の貢献に依る処が多い。児童教育方面 念日をも り、在植者 本校は ても逐年成績を挙げ、毎年児童を中心とした運動会等 昭和十二年一月一 0 の熱意によ てゐる。平均就学児童数二五名その開設に当 って、 日 今後の發展が期待せられてゐ  $\mathcal{O}$ 開校であり、よ った。 即 0 催 に於 あ 不

活躍中である。 当植民地はマ市より四〇粁の地点に位し、 会長林田氏の統制下に体育修養方面に目下全員を挙げ 現在三〇戸、 四八名 の入 口がある。 人植以来漸次 青年団も 亦同 其 時

児童教育、植民地状況ブエノス・アイレス

会と共に統制上の連絡機関としてゐる。 たが、法令により閉校と共に現在校舎を日会集会所にあて、 行事あり、新設校として其の将来の發展に期待をかけられてゐ スを要し、就学平均児童二五名、毎年定期に運動会、学芸会等 本校  $\mathcal{O}$ 開校は昭和十四年九月一日である。学校建築費に七 青年 コ

を有し 優秀なるものとして、 一七八名を有し、 植民地は て精神的 マリリア市 向上を図り 産業の開發にいそしんでゐる。 入植当時より今日まで、 の南方四〇紆の遠距離にあるが棉: 現会長栗原七郎氏によって躍進中で 戸数三十五、 青年会は図書室 作地帯 人口

児童教育、植民地状況モンブツカ

て教育事業の為に儘力してゐる姿は正に勇壮と言はなけ て運動会、学芸会等の行事あり役員教師共に連続その位置を守 スの費用を見、 本校は昭和十二年七月一 就学平均児童三〇名、 日の開校にかゝり、 例年児童教育を中心とし 仮建築費に ればなら 匹 コ 0

た。学校は父兄会の経皆にかゝり、 当植民地は 逐年増加相次ぎ盛時に於いて四〇戸、 7 市  $\mathcal{O}$ 南方三〇粁の 地に在り、入植当時 常に円満なる植民地として近  $\mathcal{O}$ 日本 は 僅 人を算へ かに五

村重会長の努力により、その活動が続けられてゐる。 隣に於ける好評を受け てゐる。青年団は開校に一年先んじて生れ、

# 共進 児童教育、植民地状況

戸 拘、渾然一体となって民族発展の為に精進し、子弟をして自己の 方針を把握 子弟とせず即ち日伯国家の子弟也といふ観念の下に確固たる教育 晴れなるもの は開設後児童運動会、 本校はパ延長線に於ける最も新らしいがく校である。現在二八 百九十六名の日本人を有し、児童教育方面の催し物に於いて し全村挙げて教育事業の為に挺身してゐる姿は誠に天 である。 学芸会等を行ひ、在植者は子弟の有無に不

数未だ少なしと雖も後日の大成を目指して精勤働中である。 青年会は松井八千嘉氏を会長として十六年一 月開設され、  $\mathcal{O}$ 

## 日伯 児童教育、植民地状況

素 集会所となし、目下徐ろに来るべき時代への画策中である。 当植民地はマリリア市の南方三七粁の地点に在り、入植当時既に ゐる。青年会も亦同年月に設立され現会長は驚見鶴松氏である。 の学習と相俟って児童教育の達成に在植者を挙げて没頭中で スを要し、就学平均児童三五名、枚年定期に運動会を催し、 ったが、今次の法令により日語学校を閉止し校舎を日本人会 本校 人口一二〇名を算したが、 の創立は昭和十二年九月一日である。校舎建築費に八 南方に於ける優秀なる棉作地帯として重きをな 現在に於いては四八家族二〇 して コ

## 児童教育、植民地状況コレゴ・ヂ・ブラック

就学平均児童二五名、 開校されてゐたものであり、校舎建築に前後約九コントスを要し、 と共に現在は日会食集合所となってゐる。 マ会等を催 当地  $\mathcal{O}$ 日会設立は昭 し、逐年其の成績を挙げ 毎年学芸会、 和 九年であるが其の以前より私立校として 運動会、 つゝあったが、 修学旅行、 日本語の閉止 教育シネ

も植民地の融和団結が窺はれる。土地肥沃にして珈琲が主作であ 人家族百戸を数 同地は 現在では昔日の面影はないが、矢田会長の連績就任に徴 マ市の南方十六粁の地に在り、其の盛時に於 へた有力なる植民地であったが、 奥的完了 1 日本

# フログレツソ 児童教育、 植民地状況

け 他 為に尽力 語部を閉 ア有数の邦人小学校として学習に訓練に児童教育事業の發展を続 に十五 」 あ は 昭和 止 中である。 ったが、昭和十四年九月一日法令の定むる所に従 コ トスの費用を見、就学平均児童五〇名、南部 十一年五月一 現在は州立伯語小学校として専ら、 日に呱々  $\mathcal{O}$ 声を挙げた。校舎建築費其 伯国語教育 マリリ ひ、 日

重きをな 来たしたも 当植民地はマ市の南軍二〇粁の地に在り、現在棉作地域とし 同 時 に創立され現会長は木田博氏である。 初代会長上田丈兵衛氏 といふ。家族数五 Q 三四〇名の の貢献によ 人口である。 0 て、 今日の 青年 大を

立公認伯語小学校として内容を改変してゐる。 昭和十二年よ 素の学習と相俟って児童訓育の成績を挙げつゝあったが、現在私 し、就学平均児童二五名、毎年所定の学校行事を盛大に催し、平 本校  $\mathcal{O}$ 第 次開 り再開したもので、校舎仮建設に約三コントスを要 校は昭和七年八月一 日 であ ったが、 時休校

織され、 業績を挙げつゝあったものである。青年団は昭和十三年一月に組 現在三〇家族の日本人を有し、 同地はオリエンテ駅より六粁の地点にあり、 作野延雄氏が現会長であり、 日会改新以後は着々として、其の 女子部は鍋山タカ子氏であ 珈琲を主作とし、

## 福双児童教育、植民地状況

育の実を挙げつゝあったが今次の法令に基づき、 前校舎を青年館会に充てヽ、今日に及んでゐる。 コントスを要し、就学平均児童一五名、 本校は昭和九年二月二十一日の開校にかゝり、校舎建築費に七 運動会、 児童劇会を催し、在植者の沿面協力によ 毎年定期叉は臨時に学外 学校を閉鎖し、 って児童教

に創立され、 始一貰連続した事は特筆に値する。青年団は昭和十一年一月一日 ては小植民地に属するが、それだけ在植者の和を得て役員が終 植民地はマ市を離るゝ二十八粁の地点に在り、日本人植民地 会長石川進一氏によって向上の 路を辿っ てゐる。 لح

サン・ジョゼー児童教育、 植民地状況

もな 心事悲惨なるものがある。 の声を挙げた途端に、今回の厄に際会したものであり、 のに属する。校舎仮建築に約三コントスを要し、就学平均児童二 本校は最近に於ける開設であり、邦人小学校としても新設 いが、児童教育植民地経営に対し絶大なる抱負をも 開校日尚ほ浅く、 諸事整はない為に、 特に記録する程 洵に其 0 呱  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 事  $\mathcal{O}$ Z

胞 を擁 十五年一月に誕生し会長は青木武雄氏である。 って逐年發展の 同地はマ市より二七粁の地点に位し、現在三八戸、 棉作 の優良地として推奨せられ在植者の 一路を辿りつ ゝあったものである。青年会は 約三百 和衷協力 昭 同

## 共和日伯 児童教育

其 学旅行を行ひ、 建築費約十二コ 授業研究会、青少年体育演習、 て就学平均児童七〇名、毎年定期に学芸会、運動会、 の閉 昭 成績卓抜なるものがあ 和 止を見たものである。 七年八月一日をもって本校は開校されたもの 臨時に展覧会、 トスを要し、 0 たが、昭和十四年一月をもって日語 映画会、各種講演会、 勤労作業等を催 中部マリリアに於ける優秀校とし つゝ二世教育上 父兄母姉会、 である。校舎 敬老会、

## 共和日伯植民地状況

滅 あ n したもの 同 地は 琲 コ 及雑作 である。 ゴ  $\mathcal{O}$ F 借地農であ ボンボと称し、 0 たが 7 市よ 期限満了 り僅 と共に カン に . 八 粁 切  $\mathcal{O}$ が 消

尚 十家族は改めて土地を購入し 此の 歴史輝 く植民地を其  $\mathcal{O}$ 儘

継承すること」なったものである。

が、在植者の協力一致に依って比の難工事を完遂したものであり、 洵に美はしき植民史の一駒と言ふべきであらう。 盆地に在る関係上、道路開鑿に非常なる困難が伴ったものである 其の昔同地の開植と共に道路開修が計画されたが、同地が恰も

史ある道路は、 ものである。 工事費用総額実に二十三コントスを以って完成されたる比 其の後益々利用価値を拡大し、今日に及んでゐる

第二、ポンボ植民地(役員)

経営代表者 副会長 学務委員 会計

第一次 西村市郎 久保善美

笹原初吉 笹原初吉 松添健次

同

第三次 内田正夫

口

藤村宗七 橋本重喜

第四次 上原廣志 本田秀吉

村下辰夫 原元保

第五次 花本順一 園田一次

第六次 西村市郎 西村市郎

石川憲太郎

曳地今男

藪谷定次

渡辺美明 上原廣志 —

現在 石川憲太郎 上原廣志

同

役員 役員 役員 会計シンシナチーナ植民地

教師

久保田清太郎 田中宗一

小川義晴 山中孝雄

内藤吉三郎 島袋義良 大城清料

1 名財 君友

寺

鈴木康一郎 延嘉喜久治 島袋兼順松下二蔵 金城興補 上原清光

長谷川和

第二、ポンボ 児童教育、 植民地状況

育映画会等の催しあり、在植者一 事してゐる。 語学校を閉止 として教育事業の伸展を途げつゝあつたが、中途法令に伐り日本 スを要し、 本校の創立は昭和十年一月六日である。校舎建築費に四コン 就学平均児童三〇名、 し、現在は州立公認伯語小学校として伯語教育に従 般の真実なる熱意によって着々 毎年定期叉は臨時に運動会、

も漸 もって総ての事に臨んで乗たことは特筆に値する。一方青年運動 盛時に於いては三五戸、二一C名を算へ植民者悉く義務的精神を 当植民地は く盛大となり曳地里見氏を会長として一路邁進中であ マ市 の南方六十五粁の地点にあ り、入植当時一三戸、

# シンシナチーナ 児童教育、 植民地状況

ぢたものである。 究会等を催し、 令に際会し、昭 トスを要し、 本校は昭和十年五月一日の開校にかゝり、校舎建築費に約六 和十 逐年二世教育の実を挙げつゝあったが、今次の法 就学平均児童二五名、毎年定期に学芸会、 一年一月をもって、其の輝やく歴史の幕を閉 授業研 コ

 $\mathcal{O}$ 口 地は の雑作地として小集団を形成して居たが、 マリリア 市 より十 粁  $\mathcal{O}$ 地点に在り、 日会の充実など実 珈琲及び米、

筆に値する。 たが、現在些かの移動なく、 に模範たるべきものがあった開植当時既に一八戸、九三名を算し 其の状態を守り続けてゐる事も亦特

中央興農園植植民地 (役員)

第一次 芳賀牛太郎 芳賀源蔵 田中音吉 中村信 吉田

第二次 同 同 吉崎惠七 高 Щ 番 枡澤 盛

第三次 芳賀源蔵 田中音吉 同 松永松太郎 同

第四次 吉崎惠七 森政一

芳賀源蔵 桑原源一 同

第五次 同 同 同 同

第六次 森政市 中村肇 同

同 中西角次郎

第七次 同 杉本政則 同

同 同 ツル

第八次 山本重次郎 同

西村清次 中村肇 同

第九次 芳賀源蔵 田中音吉

光安芳松 土田武人 橋本真吾

第十次 小西伊三郎 中村肇

同 村田林次 澤口清喜

次 芳賀源蔵 福井庄七 吉成保 前 田吉範 同 ムメ

現在 同 中村肇 土田武人 藤永延

中央興農園 児童教育

本校は昭和五年九月一 日  $\mathcal{O}$ 開校であり、西部マリリア区に於け

米はク 云ふ。 度び国粋 就学平均児童 子弟教育に邁進中であるが、 の融 ての賞録 る最古の邦人小学校である。校舎建設費に約二八コント 和 団結によ ルツポに昇格し、専ら二世の将来に資する計画中であると を示 の嵐に際会するや、州立伯語小学校として伯國語による し学習に訓練に共の成績見るべきもの多く、在植者 一00名、同地方に於ける最大なる日本語学校とし り、 益々教育事業の伸展を遂げつゝあ 其の地域と児童数の関係により、 ったが、 スを要し、

## 中央興農園 植民地状況

培に適し最近勃興したる棉作と相俟って其の年産額は遙か 数一二〇、人口六〇〇を呼号する一大植民地となり、 民地を凌ぎ、優秀の成績を収めてゐる。 族に過ぎなかったが、漸次其の数を増し、僅か三、 にすぎ交通上多少不便を感する点はあれど地味豊沃にし 当地は マリリア市より三二粁の 地点にあり、入植当時は二八家 四年にして戸 距離稍遠き て珈 に他植 排栽

青年道動を盛んならしめてゐる。現かい長は小西次男氏、女子部 智育に、徳育に、完壁の修練之努め、殊に毎年雄弁会を催して益々 小西スミ子氏である。 青年団は昭和六年四月廿九日の天長節を卜 して創立され体育に、

アンデス植民地へ役員)

第二次 第 一次 経営代表者 同 大家義彦 副会長 同 大江喜千太 日 学務委員 中村祐太 会計 大家 教師 直 大家義彦

同同

同 茂上猛夫 同 同 同 同

第四次 橋本清二 大沼 藤原熊市 荒木帰 阿部太

第五次 同 藤原熊市

大家義彦 同 西廣一人

第六次 茂上明美 中村実 大沼 同

第七次 同 佐々木廣友

井田正哉 中村志 大江喜千太 中 村達士 島 田 太

第八次 荒木帰 渡辺公夫 大沼 小野栄二郎 同

第九 井田正哉 滝頭房太郎 大江錠一 大家淳

現在 佐 々木廣友 渡辺公夫 荒木帰 平田長末

## アンデス 児童教育

業績正 校を閉 て就が 定期に運使い、学芸会を催し、 他に約四 -である。 本校 止  $\mathcal{O}$ に顕著なるものがあったが、今次の法令により、 く平均児童数七〇名、 開校記念日は昭和七年一 コントスを要し、西部マリリア屈指の邦人小学校とし 州立公認伯語小学校として専ら伯國語 盛時に於いては一二〇を算へ、 亦臨時に敬老会を催す等、 月十日である。校舎建築費其の の教育に精励 日本語学 教育的 毎年

当校に於い た、大家義彦先生を冥府へ送った事で今尚植民者の敬慕去ら 毎年追悼会を行ふと言ふ。 て特筆すべきは植民地の慈父として在植者の尊 洵に美しき極みである。 敬 厚

## アンデス 植民地状況

域の優秀なるを証 三家族 当植 民 を算 地は 7 た 市  $\mathcal{O}$ 明され、  $\mathcal{O}$ 4 東北二七 であ 陸続として入植者相次ぎ、盛時に於て 0 たが 粁  $\mathcal{O}$ 地点にあ 草分者の奮闘により、 り、 入植当時は僅 其  $\mathcal{O}$ 地

校閉 四〇 も十分に窺はれるものがある一方青年団の活躍亦目醒しく目語学 は平田橋本の両氏である。 は戸数一〇〇、 方の雄として其の声名は抜くべからざるものがあった。在植者 公共事業、 コントスの費用をもって教育の殿堂を建設したる事によって のあとを承けて目下 殊に子弟教育に対する熱心さば今更喋々を要せず、 人口六〇五名を算する大植民地となり、 大活動を開始してゐる。男女青年会長 マ市管内

バンデ イランテ ス植民地

役 員

第 八十島豊 次 堀源吾 倉岡賀小 远郎 芳賀兼蔵 作本平次

次

第 大家義彦 大江喜千太 中村祐太 大家 直 大家義彦

第二次 同 中川新蔵 堀内三良 廣田樫次

芳賀兼蔵 同

第三次 同 同 口

口 同

第四次 中川新蔵 芳賀源蔵作 :本平次 上野和喜雄

堀内三良 中尾義雄

第五次 鈴木勝四郎 唐沢政穂 土居賢市 吉川 伊太郎

岡村佐市 同

第六次 唐沢政穂 吉川伊太郎 土居賢市 赤羽数雄

同 同

第七次 堀源吾 堀内三良

廣川樫次 中川正 高 山一

同

現在 堀内三良 作本平次

同

## ハンディランテス

に際会 中心としたる盛大なる行事あり、在植者の協力一致と、 なる邦人小学校として毎年定期に運動会、 の努力により、逐年發展の一路を辿りつゝあったが、今次の法令 トスを要し、就学平均児童三五名、 本校 の開校は昭和九年二月八日である。校舎建築費に約十六 現在は私立公認伯語小学校として子弟教育に健闘 西部マリリアに於ける優秀 学芸会等、 児童教育を 歴代教師 コ

## 植民地状況

成績を示し、現在尚三九戸、一八〇の邦人を有し、 の為に、在植者を挙げて活躍中である。 人口一五〇を算へ、地味豊穣、 当地は マ市の酉北卅二粁 の地点に在り、人植当時既に三〇家族、 棉作の適地として開拓以来異状の 益々植民事業

子部の創立あり、 会長として向上の に精進中である。 青年会は昭和九年九月一日に呱々 初代会長に捉島ヤス子氏を挙げて、 一路を辿りつ ゝあ の声をあげ現在木村綾男氏を ったが本年二月一日を期し女 後継者養成

## ヴィラ日本児童教育

リアに於ける有力なる邦語が 本校  $\mathcal{O}$ り校舎建築費は 開 は 昭 和十年八月十六 僅 か に 瓦代 く校とし <u>ー</u>コ 日である。在植者物心 ン て就学平均児童三五名、平 ト余に止まり、 西部  $\mathcal{O}$ 

による目語閉鎖も日本精神涵養の なる第二世教育に儘瘁中である。 の学習成績は勿論各種学校行事をいとも真摯盛大に行 一助として剣道を奨励 ひ、 法令 健全

ずる所である。 石に教育国日本 スを計 日 部閉止 上して新校舎建築中である。  $\mathcal{O}$ の名に相應しく其の行動たるや伯人の斉しく驚嘆 後を承けて重点を伯語教育に置き、新たに八 四月中旬の落成といふ。 コ 流

## 植民地状況

着々として植民事業に精緻しつゝある姿は正に天晴なるものがあ 三二〇の邦人を数へ、 れ、名実共に日本人植民地の模範となってゐる。 収穫に品質に秀でつゝあるは一に平素の研究に依るも 当地 開植以来己に七年を要するに不拘、 は マ市 り 五粁 棉作  $\mathcal{O}$ の最適地として現在五三家族を擁 地点に在り、 同地が今賢鑠として其の 入植当常時己に四〇戸 のと称せら

姿は洵に美し 艮順和、 在植者亦極めて農人として、 相携 へて共同事業の為に、 いものであり、今後の發展を希ふや切なるものが その名に相応しく、 子弟訓育の為に挺身 すべてこ 7 あ 温

# ヴェアード 児 童 教 育

7 コ の児童教育を中心とした年中行事あり、教師間の意気投合により、 の貫録 本校 トスを費  $\mathcal{O}$ を示し 創立は昭和九年二月二十一日である。設に関 西部 均児童 7 リリアに於ける優秀なる邦人小学校とし 一三〇名、 運動会、 学芸会、 修学旅行等 て四十二

児童教育を続行中で児童増加 今次法令 に圧倒的なる成績を挙げ、 · ツ 熱 の發せらるに及び日語学校を閉止し、州立伯学校として の旺盛 あり、数年に亘ってパ延長線最強の小学校大会 スポ の見込あり、増築懸案中の由である。 ーツ王国の栄誉を壇にした。

## 植民地状況

名によ 人口七四〇を算する植民地となった。 当地 はマ って開拓され、年一年其の数を増し現在日本人家族一二〇、 リリア市 の東北廿二粁の地点に位し、十六家族、 八〇

結の気運を醸成 も特に体育方面に在植者一般の理解あり、 歴代 の会長始め役員在植者一同の団結目覚 し経営が円滑に行はれたかの様な観がある この事が全村一 しく教育事業  $\mathcal{O}$ 致団 中

は平野マキエ氏によって来るべき時代 相應しく赫々の功績がある。現在男子部は吉崎敏幸氏、 青年教育方面も亦体育の奨励すざましく島田二郎選手の出身地 への準備中である。 女子部

第二昭和 児憲教育、植民地状況

法令に際会し、 動会等を催 トスを要し、 本校 の創立は昭和九年二月十一 日語部 将来正に確然たるを思はせつゝあっ 就学平均児童五 の閉鎖とな 一0名、 ったものである。 日である。校舎仮建築に約三コ 定期叉は臨時に学芸会、運 たが 今次

及び 在植者 当地は て其の盛時に於ては、家族四八〇 0 ある事は充分に之を裏書するも 団結心強く昭和十二年六月、産業組合を組織 マリュア駅より東北廿六粁の地点に在り、 の日本人を数へたもので、  $\mathcal{O}$ である。 珈琲の最適地 て今日に

動も亦

目覚しく、

現会長は岩本春美氏である。

童平均二○名余であるが、 入植当時は僅かに に及んでい 令其の規模 の将来性を確保すること明らかなるものがある。 の人口を有 は 昭和十三年二月 る事は我々同胞の喜びとしなければならぬ事である。 し、星霜を重ぬるに従ひ、在植者一同の努力により、そ 小なりと雖 一〇戸、六〇名を算 し着々として教育事業の実を挙げつゝ今日 流 日  $\mathcal{O}$ 石に教育国に本の誇りを失はず、 開校で入植 へたが、 日も尚浅 現在七戸、 い為め就学児 仮

長 青年会は入植の翌年即ち昭和十四年二月一 清田直親氏その他によってされてゐる。 日に創立され、 現会

# 第一昭和 児童教育

覧会、 業績枚挙に遑なく、 衛生室を設ける等、 築に約三〇 大なる行事あ て、就学平均児童 本校は 小学校として、 遠足、 昭和五年二月十一日の創立にか コ 修学旅行、 り、一方学校衛生方面に重点を置き、他に率先し トスを要し 専 一三〇名、 歴代役員、 ら伯国語の教育に邁進してゐる。 法令による日語学校閉鎖と共に、 敬老会等各種の児童教育を中心とする盛 マリリア管内屈指の邦人小学校と 毎年定期に運動会、 歴代教師間の和を得て其の教育的  $\angle$ り、校舎建築費並 学芸会、 州立公認伯 作品 展

盛大たり し当事の姿を追懐 感慨 正に切なるもの が あ

植民地状況

方面に対する在植者全般の努力は勿論、青年運動に多大の功績あ を算し、 百 り、体育の奨励と共に主力を精神的方面に注ぎ、図書館を設け、 は常に。 人口一六○を算へたが、盛時に於ては実に一五○戸、  $\overline{\mathcal{O}}$ 7 市 図書を蔵し、一方修養壇 の東北廿一粁の地点に位し、昭和三年入植当時既に三二戸、 マリリア管内有数の ハ延長線 の模範として早くより其の存在を知られ、 大植民地として、其の堅貰なる歩み 人口六五〇 教育

支部として其の統制下に精神運動に精進しつゝ れ躍進を続けてゐる。 大瀧義夫氏、 女子部は中田サトミ氏の両氏によ あり、 0 現在青年団 て、 それぞ

中心とし に及んでゐる。 の勤続によ の法令により目的 本校の創立は昭和九年八月一 就学平均児童四 た行事あ ŋ 相携 ŋ 両語を一時閉鎖しその後を青年会館として現在 ○名、 て児童教育の実を挙げ 方伯語に於 毎年学芸会、 日、校舎建設費に一〇 いては日系的人吉岡百合子氏 運動会等の児童教育を 0 あ コント たが 今次 ス

植民地状況

志によ れてゐる。青年団は翠十一年一月一目の發会となり現在松本候氏 植 民 り臨 地は 時 バ に農産品評会を行ふ、、実質的 プ ガ 駅よ ŋ 僅 なる集団地とし カン に <u>、</u> 五 在植者 て知

を理事長として、多難なる非常時局に精進中である。

# 明 倫 児童教育、植民地状況

学校として精励中である。 邦人小学校として、毎年定期に運動会、 来を嘱目されてゐたが、今次の法令により現在は州立公認伯語小 トスを要し、就学平均児童三六名、 本校は 昭和十年四月一日の開校にか マリリア管内に於ける特異な 学芸会を行ひ り、校舎建築費に七 0 ゝ其の将 コン

当時二〇戸を算 徳青年会長は藤田友清氏である。 月定例行事を行ってゐる等は特異な存在と言はぬばならぬ。現報 植民地は 同地には早くより修養団の組織あり、父兄の応援を得て、 マ市の東北一〇粁の地点にあり、  $\sim$ たが、現在は四七戸、 二四三名までに膨張 珈琲地帯として入植

# サン・ジョゼー 児童教育、植民地状況

が、土地契約期間満了と共に日語部の閉止を見たものである。 年運動会 ントスを要し、就学平均じづ四五名、平素の統制ある訓練の他、 本校 の創立は昭和 / 学芸会等を催し、逐年教育事業の実を挙げつゝあっ \_\_\_ 年一月一 日である。校舎仮工費に約三コ

植 常に円満を保ちつゝあった事は特筆に値する。同地青年団も学校  $\mathcal{O}$ と同時に設立され体育に修養に専ら其の向上を図り 当地は の当時より三六戸、一八〇名を数へ、在植者の協力団結により、 で会長工藤弘氏の功績は在植者の讃仰する所であった。 マリリア駅より十六粁の地点に位し、棉作地帯として開 0

#### 

教育の為に儘瘁する所があったが、法令により日語部閉鎖と共に 遠足会等の行事あ 校舎を日本人会集会所と改め、 トスを要し、就学平均児童 本校 の開設は昭和七年一月一日である、校舎建築費其他に四コ り、在食者一 同充実円満をモッ 現在に及んでゐる。 五名、毎年定期に運動会、学芸会、 として児童

## 植民地状況

誠に堅実なるものがある。 あるが、何れも善良且 将来に期待する所が多い。 住者の異動少なく、 当植民地は マ市 の隣接地域に属し、 戸数十四、 つ勤勉家の集合地である丈、其の行動には 体て青少年運動も開始さるべ 人口一〇〇名といふ小型食民地で 入食当時より、 現在まで在 そ

#### 東洋

児童教育

まり、 植民者の協同出資と合同作業により校舎建築費は四コン 語部を閉止後は専ら伯語教育の為に精進中である。 本校の創立開校は昭和九年十月十五日である。 全村挙げて日語教育の為に儘瘁中であ 就学平均児童三五名、 毎年定期に学芸会、 ったが、 児童運動会を行 法令に據り、 1 スに止

#### 植民地状況

君代氏を会長として、それぞれ運動を続けてゐる。 る亦青年団 植者の協力一致により、磐石の基礎を確保しつゝ今日に及んでゐ ○名、盛時に於いて七○戸、三五○名を数ゆる植民地となり、 当植民地 の活動も見るべきものあり、現在は井上照雄氏、 市 の東北十三粁の地点にあり、 入植当時八戸、 在

## 公 栄 児 童 教 育

費に三〇コントスを要し、東部 芸会、修学旅行、武道会等の教育的行事をいとも真摯的に且盛大 ょ 均児童数六五名、学習成績 止まらず常に優秀なる成績を収めて校名を輝かした。現在州 に挙行し教師の犠牲的児童愛と在植者一般不動の教育的 った。武道方面に特に力を注ぎその少年部の各地遠征は一再に って点呼迄学事を続行し、教育国日本の誇を中外に宣揚 った事は非常時局に於ける異彩として賞賛自ら集まる 本校は昭和八年十一月一日の創立である。学校建築費並に増築 の所在地である。 の顕著なる事は勿論、毎年運動会、学 マリリアの中心校として、就学平 熱誠に しつゝ

## 植民地状況

植 る 地 のみであ は 7 市 0  $\mathcal{O}$ たが、盛時に於ては一一〇戸、五八〇名を算 東北十五粁  $\mathcal{O}$ 地点にあり、 大植当時は

具現 保善 である 均 在植者の する大植民地とし 団の活動は常に堅実剛健、三ヶ所の道場を設けて武道日本の姿を て産業組 の為度 Iの為 方農事実習所を経営する等、現会長濱田氏の着任や重大 に挺身してゐる姿は正に模範たるべき存在である。 合を組織し、その充実を計る等人心の和を得て専ら郷土 周到なる用意と発奮により其の名を汚さず、他に先んじ 々耕転後の流水に遭ひ、 てその貰録を示した。土地肥沃なれども地形平 棉作に多大の損害を蒙ったが 青年

# 第二メスキッタ 児童教育、植民地状況

教育の実を挙げつゝあったが、今次の法令に際会し、 就学平均児童五 語学校として、二世教育に従事中である。 に運動会、 コ ントスを要し、東部マリリアに於ける有力なる邦人学校として、 昭和十年四月 学芸会、 ○名、平素統制ある学習の他、 敬老会、 日 に開校され、 野球会等を催しつゝ着々として児童 校舎建築費に前後約二七 毎年定期叉は臨時 現在州立伯

青年会の活動亦目覚しく、 邦人家族五七戸を有し、年々共の多収穫を誇ってゐるものである。 々躍進中である。 同 |地はマ市より二三粁の 地点に在り、米棉 矢澤氏、 田 口氏の両氏を会長として  $\mathcal{O}$ 好適地とし て現在

# 共 愛 児童教育、植民地状況

 $\vdash$ スを要 は 昭和十 し、就学平均児童四〇名、毎年定期又は臨時に学芸会、運 年八月一 日日  $\mathcal{O}$ 開校に カン り、 校舎建築に七

動会、 身的活動とに依って其の成績見るべきものが多かったが、 私立公認伯語学校として子弟教育の為に邁進中である。 敬老会等の催しあ り、 家入会長多年の貢献と歴代教師 現在 の献 は

族 を知られてゐたものである。青年団男子部は入植の翌年に創立さ 動中である。 当地は 現在男子部は古島末雄氏、 人口三〇〇を算ゆる植民地として、 マ市 の東北廿一粁の地点にあり、盛時に於いては六二家 女子部は家入美代子氏によっ 珈琲に、棉作に、 其の名 て道

# モーロ・レドンド 児 童 教 育

立私立伯語 長線に於ける模範校として数多名士の来訪を受け 遊歩場の施設あり、 学児童六五名、 大に挙行する他、 の殿堂を建設中であったが、今回の法令により日語を閉止し、 に教師を信頼し、 れ、校合建築費並に運動場建設に約十五コ 本校はバ延長線の各校に先んじて昭和五年二月十一日に創立さ 小学校とし 例年定期に各種 其の事業を助成し、 児童愛の反映として、愛鳥園、 教師の勤続と在植者の協力一致により、絶対 て葡語による日伯児童 の行事を最も統制的に最も真摯盛 学術に体育に訓練に常に延 ントス  $\mathcal{O}$ 訓育に精励中であ 勘遊湖、 つゝ天晴れ教育 の経理を見、 自然林

## 植民地状況

兀 時 市 眺望麗は 廿 粁 珈琲をもって主作物とするだけ土地稍 地点に位 其の 名  $\mathcal{O}$ 通 り聳立し た丘 々波

宗貞雄氏である。 三年九月、 状形をな ける功績 延長線に於ける唯一の在植物故者慰霊碑を建立する等、内外に於 植当時は僅かに十三戸を数へたが、漸次その数を増 ては 教育共に他に率先して優秀なる成績を拳げ在植者の総意であり、 八〇戸、四七九名を呼称する有力なる植民地となり、 は枚挙に遑が 地味豊饒人心温和誠に理想的な植民地である。 口 工 ステの雄、 ない。 青年団の活躍亦目覚しく、 間崎氏其 の他によって開拓され 盛時に於 現会長は 村政 昭和

# 中央メスキッタ 児 童 教 育

者一般 ツ奨励 費に約三〇コ 習と相俟 行を行ふ他臨時に敬老会、武道会、野球会を挙行する等平素の学 として就学平均児童八〇名、 今次の法令に際会し、 して伯語教育に邁進中であるが有数なる大植民地であるだけ、 前途に期待する所が多い。 本校 の融和提携により、最近異状なる發達を途げ 0) の機運すざましく、 つ 創立は昭和十年三月十六日である。校舎建築費並に増築 て児童教育の成績賞賛に値するものあり、殊にスポ トスを要し、東部マリリア管内最優の邦人小学校 日語部を閉鎖し、 一方勤労教育を鼓吹し、 毎年定期に学芸会、 現在は州立伯語小学校と 運動会、 つゝあったが、 教師父兄在植 修学旅

## 植民地状況

市 当植 の東北三〇粁、 民地はもと第 干 ロとメスキ メ ス 丰 ツ タ Ĵ ツタ り分立したる植民地 の中間に介在し、 にこ 開植当時

とよ 体育 男女青年団を統制 年々異数なる成績を挙げ、常に経済的優勢をもって教育事業は 三〇戸を数へたが、其の後の發展物凄く、 年団の活動亦抜くべからざるものあり、 る植民史の の奨励 り、植民地経営の為に万丈の気を吐いた事はパ延長線に於け 人口六五九を称ふる大植民地となり、 と共に精神の向上を図り 一頁を飾るに相應しきものとして称揚したい。 して躍進中である。 0 ゝあり、 会館及び図書室を有し、 僅か三年に 棉作の最適地とし 渡瀬、 田中の両氏 て戸数一 一方青 to 7

# 第一メスキッタ 児 童 教 育

轟か 幕を閉じたのは眞に痛惜に堪へざるものがあり、在植者 勤し、其の成績も亦パ延長線に於ける模範として早くより声名を 五コントスを要し、マ区管内稀に見る統制ある邦人校として就学 会並に作品回覧、体育会、 年定期又は臨時に運動会、 平均児童、八五名、真摯にして堅実なる平素の訓練はもとより、毎 察するに余りがある。現在州立校として内容を変革してゐる。 本校 しつ の創立は昭和十年四月二十九日である。 ゝ あ ったが、 今次の法令に際会し、 勤労作業等を行ひつゝ、二世教育に精 学芸会、 敬老会、 其の由緒探き歴史の 修学旅行、 校舎建築費に約二 の心事 作品展覧

## 植民地状況

適地と 同地はヴェ して の農産成績を誇り 入植当時 ーラク ル 既に二〇戸を算したが現在 スより二八粁の地点にあり、 0 ゝあるもの である。 八五家族族 米棉其他 進  $\mathcal{O}$ 展

...地は元来在植者の団結心強く、 幹部亦必死の覚悟をも 0 て撤

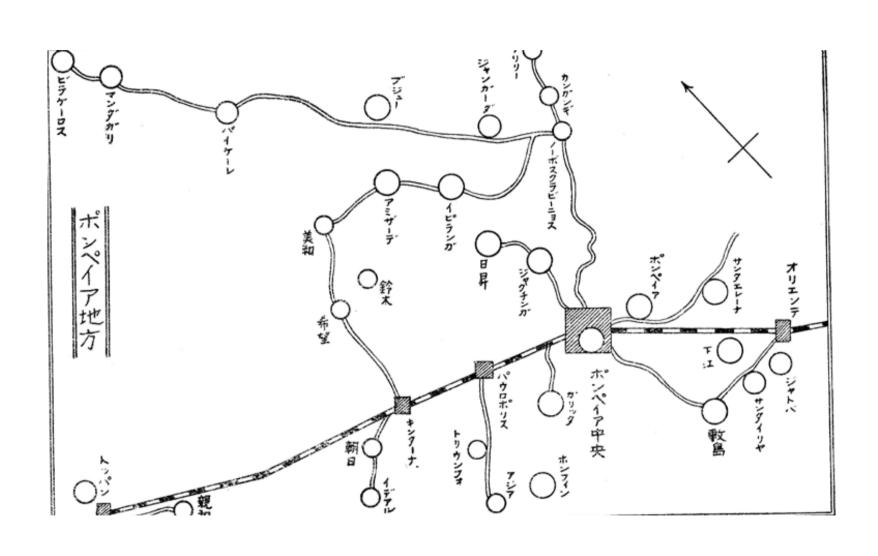
智識を開發し、全区に三冊宛の母国雑誌を回覧せしめて智徳の向 去を全うし、特に最後まで其の学校を死守したことは実に涙ぐま 額二コントス五百を支結して其の事業を補佐する等挙村一致の 民事業は今や躍進の一路を辿ってゐる。 上を図り男女青年団亦五種の雑誌を購入し、 しきものがあった。比の他毎年農事講習会を開催して青年の農業 日 会は之に対し、

## 明清児童教育

芸会、 育の成績亦且るべきもの多く、民族の将来正に確然たるを思はせ たが、今次 年会の集合所に当てゝゐる。 スを要し、 本校は昭和十年七月一 教育映画会等を催し、 の法令に際会し、 就学平均児童四〇名毎年定期叉は臨時 日の開校である。校舎建築費に約九 平素の学習訓練と相俟 日語部を閉鎖し、 現在は日会並に青 に運動会、 て、 児童教 コ

## 植民地状況

在邦人四〇家族を算するが へて年 大久保親氏である。 同 地 -々其 の産業成績を計 りつ 、伯人亦同数の家族あり、 地点に位 ゝあるものである。現青年会長は 適作地とし 日伯



会に 五.コ 卓抜なる成績を謳はれつゝあったものである。殊に体育方面に其 成績に学校行事に、区内二〇余校の模範となって二世教育上其の 方父兄一般の学事に対する理解厚く、各々其の香奥返しの一部を の發達著しく、 本校 ってゐる所など特筆に値する。 は て教材費とする規約あり其の醵金により各種の体育施設を 少年部を出場さして堂々天晴賞を獲得したものである。 トスを要し、ポンペイア管内に於ける中心校として、学習 の開設は昭和十年五月一 例年の聯合競技会に優秀選手を送り、 日である。校舎建築総工費に約三 現在は商等学校開設中である。 全伯武道大

## 植民地状況

容児童 邦語学校 交通上一大進歩を来し、爾来入市者相次ぎ、邦人数一○○家族、収 年頃よ らり、 一 は 一九〇名を算する盛況を見、邦人教師亦七名を算ゆる状態 の設立を見たものである。 り激増して六五家族を算へ、翌年日本人会の設立となり、 昭和七年五家族の入植をもって邦人居住の囁矢とし 一世教育事業は正に其の頂点に達したものであ 同年二月鉄道 の開通によって、 った。 同

たもの 容を完備し、 である。 日会方面に於ては重鎮吉山氏の献身的努力によりて逐年其の であ り、 青年会亦内外的に其の地歩を固め、其の發展を図 藤岡、 太田、 菅山、 横井氏が歴代会長を勤め **つ** 内

# サンタ・イーリア児童教育、植民地状況

スを要し、 昭和 就学平均児童五〇名、毎年定期に運動会を催れ 年 月 日  $\mathcal{O}$ 開校 で ある。 校舎建築費に約八コ 臨

法令 校と 時に国防献 に基き昭和十四年三月一 して二世教育に邁進中である。 金運動をする等、 月 其の成績顕著なるものがあ 日語部を閉鎖 州立公認伯語 0 たが

を算 地として、 現在六四戸、三三七の邦人を有する植民地となり、米、 同 地は へたのみであったが、在植者の努力により漸次其の数を増し、 マ市より三五粁の地点に位し、入植当時は十二戸 毎年其の多収穫を誇りつゝ、 現在に及んでゐるも 棉作の適  $\mathcal{O}$ 邦

# ジヤトバ 児童教育、植民地状況

其の成績 摯にして且統制ある各種の 古く、特異ある邦人校として早くより其の存在を知られ、 スを要し、就学児童は平均二〇名を算したのみであ 本校は昭和七年七月一日 の優秀なるを誇りつゝあったものである。 行事あり、平素の学習訓練と相俟 に開校され、建築費用に約十二コ ったが、歴史 毎年真 って

過ぎなか 於ける嚆矢とすべきものであらう。現青年会長は浅井金松氏であ の注目をひきつ 同地はオリエソテ駅より僅かに七粁の地点に介在し一小集団に つたが ゝあ 其の内容に於ては優に隣接植民地を圧し、 ったも  $\mathcal{O}$ で産業組合の設立など凡らく当区に 般

## 敷島児童教育

他に約 児童教育を中心とする普遍的行事の他、教授研究会、父兄母姉会、 は 五コ 昭 和 ン 十二年九月一 スを要し、 日の 就学児童盛時に於い 開校に か ゝり、校舎建築並増築其 て七四名を算へ、

作業 植者 を助成したる事亦本校の誇りである。法令に学校閉鎖と共に教育 並に勤労教育の実践とし より実質的に施行したる点に於いで優秀の成績を挙げてゐる。 に常らせる等、役員教師間の和衷協力により児童教育をして の終焉を見たが、近く州立校として伯語教育の書策中である。  $\mathcal{O}$ 教育に対する信念厚く、 て農作物試駒場を設け、児童をしてその 常に教師を応援し、 その活躍

## 植民地状况

地とな 大を成したことは同胞として誠に同慶の至りである。 当時は僅 精神修養に邁進 り日ならずして舊態に複し総力的物心 を見たが役員教師並に有志の努力により、養正大和の精神に立返 亦時を同じうして呱々の声を挙げ、体育奨励と共に図書室を設け、 の数を増し、盛時に於いては七九戸、五八八の人口を有する植民 常植民 った。其後一時在植者間の確執を生じ、学校分立等 地は かに七戸を数 マ市 より つ ゝある。 四〇粁ポ市より十八粁の地点に位し へたのみであ ったが其後続 一如の努力を以って今日の 々として人植者 一方青年団 O現象

## クワリツタ 児 童 教 育

げ、校舎建築は在植者の出動に依って行はれしも尚四 費用を見、 定期に学芸会、 たる勢力を有す、 なる行事あり、 本校は昭和 就学平均児童数四五名、ポンペイア地方に於ける隠然 運動会、 一年二月十 邦 教育当時者、 人小学校として学習の 修学旅行等、 日紀元の佳節をト 経営者側の協力一致により逐年そ 児童教育を中心としたる熱 成績はもとよ して開校 コ り、 の式を挙 毎年 ス

むる所に従ひ、 校として専ら、 の成績を挙げ、 伯国々家に貢献すべき子弟の訓育に従事してゐる。 将来への飛躍を囁目されてゐたが、 日語部を閉止し、 現在に於いては、 今次法令の定 州立伯語小学

## 植民地状況

豊沃、 もの八名の多きに上ってゐる。誠に教育国日本の姿を如実に現は 算し、最近に於いては五七家族二五二を数へる植民地となり、 すものとして慶祝に堪 旺盛なる所として知られ、現在聖市及びマリリア市等に遊学する 展の為に尽力しつ にポンペイア管内の平和境として教育事業はもとより、植民地發 山中光雄氏を会長として次代の後継者養成に奮闘中である。 当植民地はポンペイア町より八粁の地点に位し、交通至便土地 理想的な植民地を形成してゐる。 ゝ今日に至ってゐる。当地は早くより向学心 へない青年団亦最近に於ける活動目覚 入植当時既に二五家族を

# 朝 日 児童教育、植民地状況

を催し、特に体育方面の練成を図り、聯合運動会には首位を獲得 児童六〇名、 ントスを要し、ポンペイア管内屈指の邦人小学校として就学平均 して其の実力を示す等、二世教育の実績数多見るべきも てゐる。 本校の開設は昭和十一年三月十日である。校舎総工費に約 現在は日語部を閉止し、 毎年定期に学芸会、 郡立伯語校として二世の 運動会、 遠足会、 教授 研究 訓育に当 のがあっ 一会等 八コ

地はキン ク ナ より六粁の地位にあり、 地味豊沃米、 棉  $\mathcal{O}$ 最

適地として、現在三二家族の日本人があり男女青年会又最近 動目覚しく、 樋口、 浅野の両氏を会長として健闘中である。

# イデアル 児童教育、植民地状況

中であ が、法令に従ひ、 会等を催し、専ら第二世教育に邁進する所多大なるものがあ コ ントスを要し、 本校 り其の心事洵に悲壮なるものがある。 の開設は昭和十二年十一月三日である。校舎仮建築に約三 日語部を閉止し、現在青年会倶楽部として使用 就悪平均児童三〇名、 毎年定期に運動会、 学芸 った

地に である 借地農植民地である丈、将来に対するはないが、かゝる特殊植民 物として入植当時より二四戸を有し、 二地はキンターナより八粁の地に在り、 して尚且二世教育励之つとめた事を同胞と共に慶びたいもの 現在亦格別の移動が 棉作を主作

## ポンペイア 児童教育

摯熱誠を極め、模範校としての面目躍如たるものがあった。之偏 就学平均児童七○名、常に率先して然も確固堅実なる行動により、 及ばす毎年行はれる。学芸会、 同置協議会内の優秀校としての誉高く、平常の訓練学習は言ふに ントスを要し、 本校 民地二世教育の代表的観があ 代教師、 の創立は昭和八年二月一 歴代役員間の ポ駅管内に於ける最も有力なる邦語学校として、 融和提携によるものであって、 運動会、 日である。校舎建築費に約二五コ 0 た。 修学旅行参加など実に真

現在伯語小学校として専ら伯語教育に精励中であるが、合法的、

目語教育の尽力中であると言ふ。

植民地状況

を主作 便の健康地として早くより其の存在を知られたものであり、 として米棉又最近に於いて相当の成績を挙げてゐる。 地は ポ市 り僅 かに三粁の地点にあり、土地豊餞交通至

育に対する在植者の熱意は前述の通りであるが、中等教育を受け 盛時に於ては六五戸、三五八の邦人を数へたものである。児童教 子を費 のがある。 ゝあるものが十 入植当時は僅かに一六戸に過ぎなか したが在植者の協力によって、現在は安穏に解決してゐる。 同地は開植間もなくカフ 一名に及ぶ事に徴しても十分に之を裏書するも エー植付問題に約五ヶ年の日 ったが、漸次入植者相次ぎ、

#### サンタ 工 ナ 児童教育、 植民地状況

績見るべきものが多かったが、現在は州立伯語校となって二世教 会、敬老会、修学旅行等を行ひ平素の訓練学習と相俟って其の成 育に従事してゐる。 コントスを要し、就学平均児童五〇名、毎年定期に運動会、学芸 本校は昭和十年二月一 日の創設にかゝり、校舎建築費に約十七

安次郎氏の貢献によること多大なるものがあると言ふ。現在は三 最適地として、 産業成績を挙げげ 当植民地はポンペイア市より十五粁の地点にあり、 一八〇名の日本人である。 人植当時より既に五〇家族を要し、 つゝあるも  $\mathcal{O}$ で当植民地 の開發に当っ 年々優秀なる 珈琲棉

究会等を催し、着々として二世教育上の実積を挙げつゝあったが、 今次の法令に基づき、其の栄ある歴史の幕を閉ぢたのは洵に痛惜 事としては、毎年運動会、学芸会、敬老会、遠足会、 の至りである。 コ ントスを要し、 本校は昭和十二年十月一 就学平均児童三五名、 日の開校にかゝり、校舎建築費に約十 児童教育を中心とする行 実地教授研

を誇 優良地として、 田弘氏によって活躍中である。 同地はポ駅より二五粁の地点に在り、米棉其他の雑作に対する ってゐるものである。 現在尚四〇家族の邦人を有し、 青年会も亦同時に設立され、 年々其の農業成績 現会長瀧

ジャクチンガ

就学平均児童六五名、平日の学習訓練はもとより、毎年学芸会、運 二四コン 動会、修学旅行、 中であったが、現在は州立校として伯語教育に従事中である。 本校の 創立は昭和十一年九月一 トスを要し、ポ駅管内に於ける有力なる邦人校として、 敬老会、 共同作業等を行払つゝ二世教育に努力 日である。本校総工費に前後約

#### 植民地状況

八三名の邦人を有する迄に発展したもので、一 同 地は ポ市 より 五粁の 地点に在り盛時に於ては 時都合により分校 一家族、

ある。 た。青年会はその翌年設立され会長は今本武士、 を設立したが、間もなく、両区 の協定により、合同したも 同初女  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 両氏で であ 0

# 日 昇 児童教育、植民 地状況

得て、其の成績実に優秀なるものがあったが、 建築費其他に八コントスを要し、 語小学校として二世教育の為に奔走中である。 叉は臨時に運動会、学芸会等の催しあり、宮井氏の指導宜しきを 本校は昭和十一年十一月三日の 就学平均児童四〇名、 明治節をトして開校式を挙げ、 現在は州立公認伯 毎年定期

展の 作地として知られ、現在五三戸、二八〇名の邦人を有し、 当植民地はポ駅より九粁の近郊にあり、地味豊沃理想的なる棉 一路を辿ってゐる。 逐年發

ょ って目下躍進中である。 青年会も学校と時を同じうし て誕生し、 現会長山内房俊氏に

# 美 和 児童教育、植民地 状況

学芸会、児童作品、 築費に約十二コントスを要し、就学平均児童二五名、毎年運動会、 て、児童教育の実を挙げつゝあったものである。 本校は昭和十一年九月二十三日に開校され、校舎建築費並に増 回覧等を催 Ļ 平素の熱心なる学習と相俟つ

現在二四戸、 を強うするものがある。青年会は昭和十二年の明治節をト 体となっ 同地はキンターナ駅より二二粁の地に在り、棉作の て二世教育の為に儘瘁したことは、在伯同胞とし 四四四四  $\mathcal{O}$ 日本人家族を有し、 最後まで在 植者 適地とし が 渾然 て創 て意

立されたが、現在田尻富氏を会長として發展中である。

## 希望 児童教育

げ 学校を存続し、専心伯語教育の為に尽力中である。 期又は臨時に運動会、 するに余りあり、現在北御門悦子氏を校長として私立公認伯語小 努力したことはポンペイア管内有数のものとして賞賛されてゐる。 育の重点を精神教育に置き、教師父兄相携へて教育事業の遂行に 於ける有力なる邦人小学校として就学平均児童数五○名、例年定 一方児童の教師に対する。尊敬の念の厚きこと前述の事項を裏書 、校合建築その他に約十五コントスを要し、 本校は昭和十二年四月二十九日天長の佳節を卜 教育シネマ会等、学校中心の行事あり、 キンターナ方面に して開校式を挙

### 植民地状況

地に在 とは言 分け 事に敬意を表せざるを得ない。 育事業は 植民地となり同地の重鎮櫻本熊次郎氏等の犠牲的貢献によって教 その努力は報ひられて、現在戸数六〇、三八〇の日本人を有する 当植 の同志に対し自ら頭の下る想がする。されど躍進又躍進遂に  $\overline{y}$ 民地はポ 如 もとより、多難なる植民事業に堪へて今日を築き上げた 当時の入植家族僅かに五家族、 何に寂しく如何に困難であったかゞ想像され、その ンペイア の管内に属し、キンターナ駅より七粁 三〇名、 遠大なる志望 草

方青年団の活動にも見るべきものあ って、それぞれ躍進を続けてゐる。 ŋ 塚田、 北御門 両氏に

アミザーデ 児童教育、植民地状況

年定期並に臨時に、常識講座、国家記念日講話、 児童平均六〇名、 校として専ら二世教育に従事してゐる。 各種学芸、体育練習会、等を行ひつゝあったが、 に約十六 本校の開設は昭和十年八月一日に始まる。校舎建築並に増築費 コントスを要し、ポンペイア管内に於ける有力校として 児童教育上経歴深き林田校長を中心として、 父兄母姉懇談会、 法令により伯語

当地はポ駅より二○粁の地に在り、 棉作並に珈琲栽培の最適地として年々其の産業成績を誇ってゐる である。 青年会も亦同時に誕生し、 現在邦人家族五二戸を有し、 現会長は藤川隆敏氏であ

# rリウンフオ 児童教育、植民地状況

青年会の集会所として使用中であるが、将来伯語学校再開 問題漸く困難化せんとする時の開設であった丈げ、当初より苦難 中である。 の道を辿っ ントスを要し、パウロポリス管下の新設校として就学平均児童二 ○名、毎年定期に運動会、 本校の創立は昭和十三年九月一日である。校舎仮建築に約三コ てゐたが、遂に各校と運命を共にし、現在は日会並に 学芸会等の児童教育的行事あ ŋ の準備 日語

てゐるものである。 日本人を擁し、 当地はポンペイア駅より二五粁の地点にあり、 米、 棉作の適地と知られ、 逐年發展の 現在四 一家族 路を辿 0

ジャンガーダ 児 童 教 育

ひ、 学平均児童三八名、毎年定期に運動会、 六年二月一日、伯語政府公認州立伯語小学校として一意児童教育 れ教育の殿堂を建設中であったが、今次の法令に際会し、昭和十 の労作による国防献金運動を起す等、平素の学習と相俟って天晴 ントスを要し、ポンペイアに於ける有力なる邦語学校として、 の為に精励中である。 本校 叉臨時に授業研究会を行ひ、 の創立は昭和九年四月二日であり、校舎建築費に約十九 家庭との連絡を図る一万、 学芸会、 修学旅行等を行 児童

## ジャンガーダ 植民地状況

戸数約 世教育に当っては歴代の教師を信頼援護し教育事業として遭撼な からしめた事は特筆に値する。 名を算し、 在植者一 当植民地はポ ○戸に過ぎなかったが、現在に於ては二三家族、二一○ 般に質実順良の風あり、 珈琲並に米棉作適地として、今日の大をなしてゐる。 ンペイア駅より二五粁の地点に位し、入植当時は 公共事業に熱意厚く、

青年会は学校と同時に創立され、 現会長は嘉陽宗清氏である。 専ら心身の 錬成に邁進中

## フジュー児童教育、植民地状況

足会、実地教授研究会等を催 して教育事業に邁進しつゝあったことは特筆に値する。殊に長畑 トスを要し、 本校の開設は昭和十二年七月一日である。校舎仮建築に四コ 就学平均児童一〇名、 つゝ常に数よりも質をモッ 毎年臨時に学芸会、 運動会、 遠

氏の活躍には在植者一同腔の誠意を捧げてゐると言ふ

を挙げ 生も見得べく、今後の發展を期待したい。 の適地と称せられ、植民者一同の共同 当地はポ ゝあることは洵に慶賀の至り イア駅より二八粁の地にあり、近隣稀に見る棉花 一致により、 である。 やがて青年会 逐年其の成績

# アリリー 児童教育、植民地状況

は州立公認伯語学校として専一に伯語教育に精進中である。 て、其の成績顕著なるものがあったが、法令による日語部閉 コン 本校 の發展を遂げ各種の学校行事を盛んにし、平素の学習と相俟 トスを要し、 の開校は昭和十三年一 就学平均児童五〇名、 月一日に行はれ、校舎建築費に約 新進校なれども逐年異 鎖後

時に於ては九五家族、 久氏である 分其の数を減じたとは言へ、依然ポ駅内一方の雄として貰録を示 してゐる。青年会は学校に先んじて創立され、 当地はポ駅より二五粁の地展にあり、棉作の最優良地として盛 四八三名を数ゆる大植民地となり、 現会倉長は宮平林 現在幾

#### (表入る)

## カンガンギ 児 童 教 育

舎建築費に増築費に約二二コントスを要し 修学旅行参加等の盛大なる行事あり、 小学校として就学平均児童六○名 本校 り、 の開設は昭和十年一月一日の新年を以って拳行された。校 例年の大会に優秀選手を送り、 毎年定期に運動会、 殊に体育の奨励に見るべき P区の為に寄興する所 ポ駅管内屈指の邦人 学芸会、

が多かった。

あり、 援けて縦横に活躍せしめた事は近隣に於ける模範とも称すべきも のである。 同地は開設当時より、教育事業に対する熱意厚く、 以って其の教育熱心を知るべきであろう。 現在プ・プルデンテ市に三名、 聖市に一名の遊学児童 歴代教師を

#### 植民地状況

ポ駅管内に於ける有力なる植民地として發展の一路を辿ったもの 八名を算へ、盛大時に於ては七五家族、三八二名の日本人を有し である。 当地はポ駅より二〇粁の地に位し、入植当時既に二五戸、一二

地を中心として瞬時にして十数ヶ所の植民地が誕生したが、如何 に同地が棉作に理想的地域であるかゞ想像される。 当地は棉花をもって主作とし、初年度よりの好成績により、 同

今日に及んでゐるものである。 今次法令によ り、舊校舎は日本人会集会所兼伯語小学校として

によって活躍中である。 青年会も亦学校と時を同じふして創立され、 現会長田中邦夫氏

# パイケレ 児童教育、植民地状況

時に学芸会、教授研究会、 事業の実を挙げつ コントスを要し、ポ駅内の新設校として就学平均二〇名、毎年臨 本校は昭和十一年九月一日の開設にかゝり、校舎仮建築費にニ 」 あ ったが、法令により目下閉鎖中である。 母姉会、 遠足会等の催あり、 着々教育

植民地はボンペイア駅より三五粁の地にあり、優秀棉作地とし

来借地農により明年を以って期間満了に到ると云ふ。 て注目されつゝあ -バ・パイケレと共に二個の日会を形成してゐるが ったが、 昨年都合により分立し、 現在は新設 同地は元

# マンダグワリー 児童教育、植民地状況

今次の法令に際会し、最近日語部の閉止を見たものであ を催す他、児童の勤労作業を奨励し、其の収益をもって教材教具 の充実、国防献金等に充てつゝ異状なる成績を収めつゝあ コントスを要し、 本校は 昭和十一 就学平均見童三〇名 年十二月一日の開設にか 毎年学芸会、 ゝり、校舎建築に約四 運動会、 ったが、

の終始一貫的勤続により、植民地萬般に亘って好成績を拳げ て年 同 たものである。現青年会長は三島進氏である。 地はポンペイア駅より約四〇粁の地展にあり、米棉 々其の農事成績を挙げ 0  $\searrow$ あ 0 たもので、日会役員と教師 の適地と

# ツパン町 児童教育、植民地状況

あ 芸会、其の他の各種行事を盛大に行ひ、 として改めて見童 二〇コン 本校の ったが、 其の後叉再開の運びびとなったものである。 開設は昭和十二年十二月十一 トスを要し、就学平均児童六〇名毎年定期に運動会、 事情により小学校を閉止し、 の訓育に当つたが、 中途災厄に遭ひ、 日である。校舎建築費に約 二世教育の実を挙げつゝ 十五年四月より、 一時中止

を算へてゐるものであり、 部と共に活躍中である。 り、 同 地は昭和七年須賀、大岡の二氏によって入植され同十二年頃 邦人の入市相次ぎ、 現在隣接区を合して約七〇家族の 青年 会も最近に至っ て設立され 同胞 女子

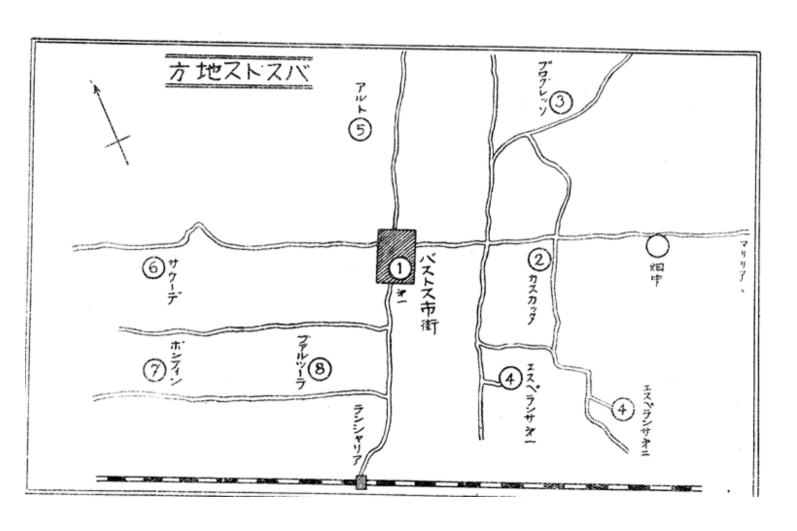
| 児童教育、植民地状況ヒッタンゲーラ (親和)

児童を収容し、 たが、僅かに一 新設校としてトツ 毒と言はねばならぬ。現在はトツパン町グルツポ分校とし も遠大に土地五ア 七粁の地にあり、 丸となって植民事業 てゐる。 本校は昭和 現在日本人一九戸、 十四年二月一日 年二ケ月をもって日語部を閉鎖したのは洵に 伯国語教育に努力中である。 ルケールをも パン近郊唯一 露人共産村と相接し、 の為に活躍 の開設である。 伯人亦同数の戸 0 邦語小学校であり、将来へ て教育事業経営に精進中 てゐるも 珈琲並に棉作を主作と 当地はトツパ のである。 就学平均児童十名、 口を有 の計 日 伯 日 気 町よ 伯  $\mathcal{O}$ 画

## 児童教育状況バストス市街地

校最 者を迎へ、 ントスを要し、学校備品に 織と統制により、 本校は昭和四年十一月の 大 模範的代表校とし 殆んど日本式児童訓練を行ひ、舎内外の教材教具を完 歴代校長、 一〇コン 開校にか 職員にも常に教師として 就学平均児童二〇〇名、 トスの支出を見、 ゝり、校舎総工費に一三 在伯邦 'の最 特別なる 人学 コ

芸会、 法令に際会し、昭和一三年十二月を期して伯国式学校と化した。 果的に挙行し、 【附託】植民地状況バストス教育史の項参照の事 し、平素の学習指導はもとより、毎年定期叉は臨時に運動会、学 修学旅行、各種競技会、勤労作業等を最も統制的に最も効 萬全なる 世教育に従事し つゝあったが、 今次の



宅に約三二コ 基づき、茲に輝く歴史の其の幕を閉づるに至った。 童教育形態の流れを汲み、殆んど相通じたる児童訓練と恒例 て就学午均児童一二〇名、独立自営の学校なれども全バス ったが、 り、歴代職員の 本校 分譲人植で、 ゝあったが、昭和十三年十二月、バストス代議員会  $\mathcal{O}$ 開 漸次其の教を増し、 校 ン は 昭 トスを要し、第一校に次ぐ優秀なる邦人学校 献身的努力により着々として教育事業 当時は僅かに二〇家族、 和五年二月一 今日の栄を来したものであ 日である。校合建築費並に数員任 前後  $\mathcal{O}$ 戸数に 同区は昭和四 の決議に  $\mathcal{O}$ 演を貌 った。 ス 児 事

# プログレツソ区 児童教育、植民地状況

習と相俟 運動会、 り全バストスの各校と運命を共にしたものである。 ントスの経費を見、就学革平均児童七五名、 本校は昭和五年二月の開校である。校舎建築費其他に約二〇 学芸会、 って二世教育の進歩目覚しきものがあったが、法令によ 各種競技会、 共同作業等を行ひ、 毎年定期叉は臨時 平素の訓育学

の八八号地までの入植が完了したも 当区は最初昭和四年に二一家族が人植し、昭和八年に至っ Oである。 て 現

道場を設け、心身の鍛錬に当ると共に、 躍進中である。 青年運動方面は常に母国の最新様式を採用し、 一方同窓会と連絡 他区と同様青年

とは洵に感慨 方屈指の植民地小学校として、学習訓練共に卓抜なる成績を挙げ 教員舎宅に約二〇 に精励中であ ゝ、各種行事の他特に勤労教育を鼓吹し、堅実なる第二世教育 本校は 少 々遅れ の無量なるものがある。 ったが、今次の法令に依り、 コ て昭 トスを要し、 和八年十月の開校である。校舎建築費並に 就学平均児童一二〇名、 旦語部の閉止を見たこ 同地

漸次其 見るに至った。 て精進中である。 同地はもとD区と称し、 の地区を拡大して遂に今日の第二エスペランサ区の発生を 青年団は人植と同時に創立され、 昭和七年度に八〇家族の一団入植し、 道場訓練によっ

# アルト区 児童教育、植民地状況

其の方針を変革する事となった。 著なるものがあったが、今次の法令に際会し、 学平均一二〇名、毎年定期叉は臨時に学芸会、 しつ 野球競技会、共同奉仕作業等を最もも真摯的に最も盛大裡に挙行 二〇コン 本校 って伯国私立公認伯語小学校として専ら、伯国語教育の為に ゝ、次代に活躍する第二世の指導練成に献身し、其の成績顕 の創立は昭和八年二月十八日である。校舎建築費其他に約 トスを要し、 バストス移住地内一方の雄として、児童就 運動会、 昭和十三年十二月 修学旅行、

げ 青年教育方面は地区と同様最も統制的に之を行ひ、青年道場を 其の達成を計っ てゐる。

サウーデ区 児童教育、植民地状況

ぎ、同十五年六月を以って之亦廃止のやむなきに立到った。青年 部は道場開設と共に更に一段の光彩を放ち、躍進の 及び、日語教育漸く困難を伝へ、同十三年十二月遂に之を放棄す ものがあったが、昭和九年三月、 種児童教育行事を盛んにし、専ら二世教育に尽力する所多大なる 少年訓練をもっ るに至った。其の後家庭学習に重点を置き、 し、就学平均児童七五名、学習訓練共に異状の成績を挙げつゝ、各 本校は昭和八年八月七日に開校され、紐工費二〇コン て二世教育の助成訓練としたが、種々の支障相次 同校が伯国私立公認校となるに 一 方 青年団による 一路を辿っ トスを要

第二ヱスペランサ区 第二ヱスペランサ区

芸会、 常 もの 名てある。本校は元来ブラ拓の計書中にあらざりしも、 が、十二年二月より郡立小学校として公認され、 に分校を設置したものである。最も新設独異の日語学校として日 りに地域広範なる為め通学距離八粁に及ぶ所あり、 二月法令に基き、 の学習はもとより、 本校は昭和十年一月十三日の開校にかゝり、就学平均児童七五 である 共同作業等を催 口植民地の誕生するあり、該植民地と協力し、其の 幾多の栄ある歴史をのこして、其の終焉を見た Ļ 毎年定期に運動会、野球会、 益々児童教育の發達を図りつ 超へて十三年十 修学旅行、 且隣接地に ゝ あ 同区が余 中間 0 学 モ

フアルツーラ区 児童教育、植民地状況

ある。 より、 もって仮校舎とし開校したが、後約二〇 共同奉仕作業を盛大に催し、一意児童教育の達成を求めて在植者 他、毎年定期叉は臨時に修学旅行、がく学芸会、運動会、 に於ける関係者の努力の跡を辿るとき、実に痛惜に堪 し、茲に同地に於ける日語学校の廃止を見たものであり、 の協力により教育事業の發展を途げつゝあったが、今次の法令に 本校は昭和九年三月二十五 昭和十三年十二月を期し、 就学平均児童七 ○名、 日の開設である。 仝バストス各校と其の行を共に 平素の堅実、 コントスを投じ 統制的なる学習 最初教員舎宅を て本校舎 野球会、 此の間

# ボンフヰン区 児童教育、植民地状況

赴任するを待って伯語教授を開始し、十二年州立公認学校となる 月、パストス代議員会の決議に基き、大いなる課題を遺したまゝ、 盛大堅実に催し、平素の学習訓練と相俟って其の成績見るべきも に及び日語教育は次第に制肘を受くる事となり、遂に十三年十二 のが多かったが、 日語部の終焉を見たもの スを要し、就学平均児童九五名、毎年定期叉は臨時に各種行事を 本校 青年団は逐年發展の 開設は昭和九年三月十日である。総工費に約二〇 同九年三月私立公認となり、 であり、其の心事正に悲壮なるものがあ 路を辿り、 躍進叉躍進を続けてゐる。 翌十年伯 人教師 コ  $\mathcal{O}$ 

### 廃止植民地状況

#### 序言

他 の事由により廃植されたものが多々ある。 其 の昔有数なる邦人植民地であ 0 たものが 契約期間満了 其の

苦闘 別として本命の意 対する事績を記録するにあたり、輯め得た材料を基本として以下 一活してこれを収録せんとす。往時の在植者諸士よ、不備不完は 現在に於ては一人の邦人をも止めぬ状態にあるにしても、 の跡を偲ぶとき、自ら頭の下る想ひがしる。 の存する所を諒とせられむ事を切望する。 特に教育事業に  $\mathcal{O}$ 

#### 明星学園

情操 焉を見たもので、 演奏旅行を行ふ等、常時の邦人教育界に大きな示唆を輿へたもの も堅実に植民地を形成してゐたもので、児童教育方面にも多分に の地点にあって約十五家族の邦人を有し、小林氏を中心として最 の俊秀が集まってゐたものであ 当地は往年の名教師小林先生の居城である。ヴエ駅より十五 ったが、期間終了と共に昭和八年四月十五日を期して其の終 、味を取り入れ、音楽並に舞踊団を組織して児童劇を公演 教職員には 小林氏の外に藤木、 った。 藤原大谷、

#### ガリア町

であ 校 0 た為に、何かと其の批護をうけてゐたも は約三〇名  $\mathcal{O}$ 邦人児童を有 同 町 グル ツ  $\mathcal{O}$ ポ と言ふ現在は伯 校長が親

語校のみとなってゐる。

サン・ヴイセンテ

近まで勤められたもの 児童約二〇名、 当地 はガリア 経営代表者は野 駅より二粁 である。 の地点に位し昭和十一年の開植で邦人 П 新造氏で、 大河原久先生が、

### ベラ・ヴイスタ

あり、 地点に介在し、会長は唐木田峯吉氏、学務委員は小田島和吉氏で の植民地であるピラジュ 当地は 中尾義雄発生が、 昭和十三年の入植で邦人数十五家族を有する。 最近まで二世教育に当られたも イの管轄にして、ガルサ駅より二七粁の のである 四年契約

#### ガ ル サ町

業績 玉木、江連、 一九三〇年には邦人六〇家族を数へ、邦人子弟四〇名の在籍あり、 同地は人も知る大和甚三郎氏を経営代表者とする学校であ の跡も見るべきものが多かった。 小藪の三氏が歴代教職員を勤めたものであり、 って、

### サンロッケ

に ける教育業績多く、 一九三三年八月には早くも解散したもの 本校は昭 和 四年の 開校で、 阿部、 大場藤本、 就学平均児童二〇名、期間満 藤田の諸氏が歴代会長とな で、 過去五ケ 年間

り、 あ · 字江、 た。 梅原、 鈴木、 山本氏等が教職員として活躍したもので

### サン・セバスチョン

ては邦人八〇 同地は昭和五年より十年まで邦人の在植を見た土地で盛時に於

め、 あたもので、<br /> 家族を擁し、 積田、 のである。 福田 児童数六〇名を算し、 北村氏を初め、鈴木、 山本、 安田氏等が相次 家入氏の諸士が歴代会長を勤 堂々たるg区校経営に当 いで二世教育に当つてゐ 7

### 共 栄 日 伯

あ 野喜三郎氏、学務を担当し、作野常七氏が合計事務に当り、 カン 鈴木、櫻井の諸氏が相継いで教職に当ったものである。 ŋ った。野中栄次氏初代会長となり、副会長には園樹喜久治氏、 同地は一九三三年の開校で、マリリア市の東北六キロの地点に 仮建築費に三コントスを要し、二世教育に邁進する所が多

### フロリーダ

る。 として左記の各氏が之に当り、植民地経営に貢献されたものであ 原親顯、佐藤清、 上日会幹部 同校は一九三二年の開校にかゝり、 眞田氏、 中田氏、豊本氏、鹿淵氏、眞田氏、中尾氏、 堀文江の三氏が、 二世教育に従事し、 就学平均児童三〇名、大河 辻氏、(以 日会役員

#### 教育訓言

- す。 従ふべからしむべし。 ◎人の悪をせむるに甚だ厳たる勿れ。其の受くるに堪ふるを思ふ事を要 人を教ふるに善をもってするは高きに過ぐること勿れ。 (菜 其れをして
- ◎教育の目的は機械を作るに非ずして、 人間を作るにあり。 ル ソ
- に教ふるにあり ◎教育の目的は、 何を考ふべきかに非ずして、 (ピーティ) 如何に考ふべきかを吾人
- ◎教育なき才能は歎かはしく、才能なき教育は無益なり。 (サーデイ)
- ◎教育に二あり。 臼く他力教育、 デ ボ ン 臼く自力教育、 而して後者は一層緊要
- ◎食物が肉体に必須なる如く教養は精神に必須なり。 (i) セ
- ◎国家の運命は、 青年の教育に懸って存す。(アリストテレス)
- ◎夫れ学間は心の汚れを清め身の行ひを良くするを以て本質とす (中江藤樹)
- ◎人生れて学
  ぽざる者は、生れざると同じ。学んで道を知らざるは、学ばざる 知って行ふこと能はざるは、 知らざると同じ。 (貝原益軒)
- ◎陽気の發するところ金石亦透る精神一到何事か成らざらん。 朱 子
- ◎今こそ働くべき時なれ。今こそ戦ふべき時なれ。今こそ我身を一層優れたる 人となすべき時なれ。 (トマス・ア・ケンビス) 今日能はすんば明日何をか為し得んや。
- ◎菩薩は一切の悪を忍受し、 衆生に向ひて平等にして動揺なきこと大地の如

## バストス教育史の改革

附中学校史

関心は当初より 我が移仕地に於ては生ある限り如何なる困難が来る共教育問題 るよ る。以下教育状態に就て順を追ふて記録しがく校関係に及ぶ 的要素に欠くる所あらんか、民放發展は愚か文化の退歩は火を見 に民放百年の計を確立し深遠なる理想に依り建設の礎石を固 ならない つと雖又如何に機関設備に恵まれたりとも、之を継続運転する人 て他に我々 拓事業も究極 であるが、移住し来れる植民が如何程優秀なる文化的教養を持 困苦欠乏と戦ひ隠忍持久不断 りも燎かであり正に哀れなる悲劇として熄むのみであらう、 、勇断を抱き遠大の抱負をもって移住し来れる我 の生存の意義更に無しとまで昂揚され来ったのであ  $\mathcal{O}$ 一貫萬人齋しく 目的は 如 何に 熱烈なる信念を以て終始し之を描 して良き後継者を養成する の精働刻苦を要求せられ る 移植 々 8 は 実

てヂン をその嚆矢とす。 年二月に至りBI分校 十一月廿七日収容所第三号の 草創時 ったと、とう時の松本校長は後年語ってゐた程であ ン屋根張り 開校を見爾来九小学校の設立開校を成就 代とも称すべきは昭和四年第一 と頭  $\mathcal{O}$ 黒板一個、 の掘立小屋に南国特有 痛くなる午後 (第二小学校前身) 机二十、其の他に何の設備も整は 一部を改造  $\mathcal{O}$ 授業  $\mathcal{O}$ の眞昼 回入植者到着後五 し仮校舎として開校せる 如きは身の В Ⅱ分校 の強き陽に照され したの (第三小学校 細 ったが翌五 る思ひで であ ケ 月 3 目

縮方針 常初全部煉瓦造りの永久建物の計画であったが濱口内閣当時の緊 小学 バストス移住地に於ける校舎建築はブラ拓の手を以て為された。 の樹立と共に経費の削減を来し第一、第二のみとなり第三

校以下は木造を以て成すの止むなきに至っ た。

### ◎経 費

事係あ 任免等を管掌し来ったが、昭和八年十一月より自治移管 努力し来った。 期し以てバストス同胞子弟をして健全なる市民たらし なし、バストス教育会の設立ありて、バストス全校に関する統制 各区に学校維持会の設立ありて之れが爾後教育関係一切の運営を に当り、教育普及会との連絡をも取扱ひ教育方針の統 学校経営は初期に於ては全部ブラ拓其の衝に当り庶務係中に学 りて校舎の建築授業料及戸別割の徴収に経営維持 8 一と徹底を の議決 小職員  $\mathcal{O}$ 

## ◎教育方針と教育状況の変換

Ŕ 教育当局が教師 りしを以て邦語尋常小学校とし一伯人を伯語教師として雇用 間もなく離職し、 伯両語を完全に習得せしむるは必須の事に属すると雖、 の派遣を容易にせず開植当時は設備も充分出来ざ 昭和八年迄尋常小学校 · 伯 国 せし

第一 られて昭和十四年三月全く止むに至った。 せられたが伯国教育令の度々 校のみ高等科併立)として母国のそれと同  $\mathcal{O}$ 変更に依り邦語教育は漸次縮 方針を 以 て施許 小せ

教育せねばならない故に学校では伯語に依り、家庭教育に留意す ジル国語伯国事情に通暁せしめ将来第二世として活動し易い様に 教育を従とし主義としては日本国民性の滋養に努むると共にブラ 学校とな 増して我々はその民族語を家庭に於てのみ護る事となった る事として進む事と改められ、残念がった多くの人々の なるに及 飽く迄日伯両語 に教育方針として昭和九年以来はブラジル語教育を主とし日本語 る教育が実施される事となった 昭年八年香山教師を聘して伯語科を設置 んで教育問題勃發して外国語教授弾圧 りて伯人校長以下教師 の完全なるがく習にありと雖も国粋運動 の赴任するあ 教育方法に対する根本的 し七月第一枝先づ公立 りて伯国教育令 の傾向表面 口惜さを このであ 主張は 化 熾 烈 に依 し遂 لح

様になり身海外に在るの感を強ふせざるを得ぬことゝなった。 昭和八九年頃より教育界に嵐が来つたと云ふか小波 の絶えざる

合格者のみ許可するの法令を昭和九年度より実施すと発令され 心を持たぎりし外国語教師に伯国語を解する者に限り検定試験 として日本人) に対して伯語の検定試験制度を設け、従来何等関 である。 伯国政府は外国語教育に制限を加えると同時に外国人教師(主

会に当て聖市、リンス、プ・プルデンテの各所に講習会を開催 受験合格者に資格を与えたのが所謂 茲於教育普及会は昭和八年十二月廿日より夏季休暇を伯語講習 「伯専」である。

、サウーデ校 本移住地よりプ市に於て受講合格せし者は左の通り 織田俊夫(カスカツ / 夕校) 浅田惠 (カスカツタ校) であ 荒井満雄

清水嘉郎 (ボンフヰ · ン 校) 高原小丸 (アルト校)

豊島健太 (中央校)

上條寬爾 (プログレ ツソ) 大野金治(プログレッソ)

教師と児童乃至父兄との円滑なる交渉を計る為めに他ならない 可となり、中央校はカンボス校長の裁量で経過した。 られる事となり本移住地では昭和九年二月の新学期より五校に許 る学校は私立公認学校として認可され然らざるものは閉鎖を命ぜ であるが叉一面外国語使用取締りを厳重に実施する方法であ であるが、本法令の実施と同時に伯専日本語専任教師の在勤す 此 の制度は外国語教師に伯語を解する者のみに資格を与へ伯 0 た  $\mathcal{O}$ 

当時は好適なる方法として邦人間にも反って喜色あったのであ 九三七年以後は夏季伯語講習会を廃して邦人青少年指導員養成機 が遺憾な事には之が邦語絶対禁止の前奏曲となったのである。 に変更した。 る

### ◎監督局管轄区の変更

当時 たが 従来パストスは の学校状態は左記 一九三四年五月十日の法令を以てバウ プレシデンテ・プルデンテ管轄区域に属してゐ  $\mathcal{O}$ 如 ル 管轄に変更された。

校名 教員教員資格 認可当時の学校お覧に方言の女工

数有無

第一小学校 三 無 三 公認

カスカツク校 二 無

未公認

ブログレツソ校 未公認

エスペランサ校 二 有一

伯人校長一 公認

ア ル ト 校 一 有一公認

ボン サウ フイン校 ルツーラ校 デ校一 有一 有一 有二 公認 未公認 未公認

#### バストス教育会の 設立

学務員を以て構成し目的として「在バストス同胞子弟をして健全 立しバストス教育会を組織するの事情を生じ同年十一月十八日之 が設立をなした。本会の組織は教師全員各区学校経営代表者各区 督学管区のバウルーに変更されると共にソロカバ なる市民たらしむる為め教育方針を統一しその徹底を計る」とな し事実としては 汎 ソロカ ナ教育会に属せるバストス邦人学校は昭和 ナ教育会とは独 九年五

として左の人々が当選就任をなした。 で経費としては各校生徒数に應じ各一金を納入して之に充て役員 図書購入 一、学校参観 五、伯国行政に関する研究及行政処分に対する協力等 聯合運動会 三、 教育研究会 匹 教育参考

バストス教育会々長

脇山甚作 (第一校学務長)

副会長 木下正夫 (第一校長)

書記 会計 ス、十一年度には三コント一三〇金の支出をなした。 織田俊夫 (第二校長) 十年度に於て一コント四三金三〇〇 齋藤太郎 (第一校)

#### ◎教 員 会

バ 1 ス教育会内に教員会を設け毎月一回研究会を行ひ教育令

## ◎父兄会バストス支部会

請手続等の円滑なる事業が行はれる事となった。 て以後緊密なる連絡を執り図書の配本映画 昭和十年四月父兄会バス トス文部会の組織を見同会本部 の巡回補助金下 へ報告

### ◎当時の役員は

部会長 木 下 正 夫 副会長 我 妻 三 郎 常任

評議員 松田民右衛門

同 猪股金九郎 同 久安康 郎

書記 齋藤太郎

評議員

経営代表 教員

第 一校 松田民右衛門 木下正夫 松尾専次郎 **齋藤太郎佐藤福** 

太郎 山村昌

第二校 久安康一郎 織田俊夫

第三校長 橋長四郎 大野金次

第四校 猪股丸郎 武井誠

同分校 南方正三 豊島健太

第五校 兼澤敏夫 上條寬剛第六校 中 川貞吉 生駒正位第七校

加治屋軍明 山本軍次郎

第八校 白須千之助 我妻三郎

育の殿堂バストス教育状態は正に充実の境に達し内容に於ても外 ブラ拓と入植者の営々たる努力に依 9 て築き上げたる第二世教

集団 観に於ても質量共在伯邦人最高の優位を占むるに至っ 地人格者が僅々ふ六ケ年間に於て満植し一千二百家族六千人の の思潮に依って押寄せ日本語に対する飽なき憧憬の夢は破れ 0 0 ゝあ  $\mathcal{O}$ った。 挙に化したる有力なる因子に教育と衛生設備 である。然る充実の域に達すると同時に不安が伯国 た。 の完備 当移住 Z

行記 ラ拓等関係者集合し左の如き申合せをなした。 開催され″ 国教育令を即時遵守すべきを伝 事実無根 へ派遣せる事もあった。当時総領事館に於て邦人教育問題協議会 九月廿三日聖州教育局長アルメーダ氏の巡視あり。 の新聞に發表せらるや日伯字新聞共貰々と の事あり、誤訳一掃の為め木下法律嘱託山岸両氏を聖市 伯主日従 "なる方針の示さる」あり へ移住地に於ては教育会自治会ブ バスト てブラ拓本部亦伯 スを批難 る聖後旅

ざる事 週間読方六、 図書・体操・唱歌等 六、 計 十二時間を超え

一、邦人教師は以上の課目以外 に は 触れ X

三、邦人教師伯語講習会の開催

席した 夫氏はブラ拓教育嘱託として又協山自治会長も主催者側とし する事とな り経営者総代として梅山岩五郎氏、部会長山岸叉次郎氏木下 昭和十二年 而して教育普及会は次の二大原則を發表し之を指 一月教育普及会地方部会長合議 が開催され 本移住 正

一、伯国教育令の尊奉

二、伯国教育の徹底

八教員 の退職を見た。 に基き進む事と ては既に本二原則は実施され たが 時間割の減少と共に邦 9 あ 人教師 る を以  $\mathcal{O}$ 数は

得な 教育は児童 み出 多数在住する邦人にとっては弱り した。即ち移民法中外國大集団地に於ける外国語を以 事態とな て昭和十三年五月四日に の年齢を十歳より十四歳まで繰上げられた事で農村 って襲ひ来っ た。 到り又もや教育受難 目に崇り目の憂目と云はざるを の嵐は吹き荒 てする

資格を失っ なった。 は児童の立場からも教師の上から云っても絶封不可能に ならぬと言ふ法令に基き、殆ど全部と云つてよい邦人教員は其 而 かも外国語を以て教授し得る教師は生来の たの である。故に従来合法的に行はれて居た邦語教授 伯国人でな 陥 け る事と

左 バストス の立案をなした。 に於ては法令發布 後幾度とな く教育関係者協 議  $\mathcal{O}$ 

対しては巡回教授をなす 一、幼年教育は家庭に於て行ひ全教育の 少年教育は伯国学校にて習得する事従釆同様であるが邦語に 根本基礎となる躾をな

続を許されたので直ちに前記計画を実施せなかったが第三項 及八月の移民法実施細則の發布に依りて十二月まで邦語学校 を完成せしめ武道、 三、青年教育―十四歳以上の者を集めて青年道場に依 社会に貢献 たが当バストスに於ては決定せる決策と同一の申合せが立てられ 年道場は各所に於て開設をはじめた。昭和十四年一月文教会に 徳育、団体精神の涵養をなさしむ かの合宿をなし指導員を中心として共同生活をし一方日本語教育 ては学校協議会々長会議を二回に亘りて開き対策に就て検討され り最近の指令で せられた大使館工藤書記官並に駐在武 し得る立派なる伯国市民の養成にある」と言明された、 運動競技、 あるとて「在伯邦人子弟教育 共同作業に依 七月に入り聖州教育局の り精神 官中西大佐 の目的は 的 教育、 り毎週  $\mathcal{O}$ 何 於於 青

バスト たの スに於て である。 は成案通りなるを以て寧ろ適切であ 0 た事に気付

左 立案方委任ありて十三年 是よ の如く決議された。 り前 十二年末代議員会に於て 一月十日草案は代議員会に提出審議 巡 廻教授実施方法 の教員会に

ること。 一、児童の資格を満十歳以上にして伯語 二年在学中以上の者た

一ヶ所に集合する児童は五 名以 たる事

三、課目は日本語読本を主とする。

各区に主任指導員ありて統制を計る事。

学官レ あ 緊密なる連繋を保ち伯国人は日本人の民族性 語を併用する方が効果的であるとの唱導すら行っ 部を一堂に集めて「完全なる教育を行はんには日伯椚両教員間 令の解し方にも総じて便宜的であり、管内学校長合議 視学を経由せずグ 処理する事となったので、移住地の教育関係事務は みを受持ち行政権を失ひ督学官が代理視学を直接経て行政事務を 行政に変更をなし従来バストスに代理視学が校長兼務で駐在 事並にマリリア駐在ロ マリリア視学の取次をなして居たが視学は教育技術方面 人も亦必す伯国化を心掛ねばならない」との訓示をな し移民法令 ったが退任されて後任にローザ氏が就任すると同時に管内教育 移任地関係 ったのでバストスは既定方針を変へなかった。 マリヽ トリアンラロ氏は日本人に対して相津 ア駐在ローボ視学はバストスにとっては理解深 伯国官憲との交渉に就ては十二年五月在バ の精神から看て国難が ルーポ校長の代理視学に依り行はれる様 ーボ視学と来植せる際の 予想された  $\mathcal{O}$ の特質を善用し日 認識を有し早尾 如きは日伯教員全 し叉反対者も多 た程であ 7 の席・ リリア ウル した の指 上日本 く新法 駐在 導 で 7 本 0

氏は前 暗に同意 であ ス } 0 任地時代より日本人を知り何かと好意的 た。即ちロ ス代理視学も亦異動があ の態度を示した。 -ボ視学案に反対であ つ てランゼル ったが巡回教授案に に処理するか 氏が着任した。 同 は 加

遂げ得られるもの る為 其処に幾多の難点に逢着するであらう。 て渡伯せる日本人に就ても之を急激に力に依 元来異民族の混合団体であ め幾多の巡庭を統合融和するには俟 ではない 、。伯国民を構成する る伯国に於 いっに時 て完全に 日を籍さねば成 って行ば 分子となら \_\_ 切を伯 んとせば 玉  $\lambda$ لح す

苦は ばな は今後 も熱心 る悲 児童に封 教育は絶封不 且. か 任する者を生じた。 軽視するが如き事あらんか伯国 で邦文の か つ発表する処である然 又伯国は幾多の各民族を吸収溶解 早暁よ する しき唯 0 てこそ優秀国家を形成し得るも らぬ事は のである。斯る論断は伯国人にして教養高き士の常 た。 に励み 如 何なる場所、数の て直接「日本語を学ぶ可らす」 然る折柄伯人教師の多くは此 り日没まで更に夜学も行ひ一日十数軒の徒歩は容易 \_\_ 通告をな は取上ぐるに至 可能となった、けれども我々の力の 0 日本語の尊重である。巡回教授は茲に於 の道である。巡廻教授の当初は父兄も児童も指導員 ゝあ 八月に入り り学業の 来 し乍今や国法となって外国語に依 如何に不拘他 0 た。 0 効果も挙るかに見えたが指導員 たの て視学代理ジ の悠久的繁栄を庶幾する事 してそ  $\mathcal{O}$ で児童も厭 であ 人に依る外国語 の巡回教授を快とせず、 と申渡  $\mathcal{O}$ 9 7 民 日 そ 族 ひ指導員亦漸 限 し読本雑誌類ま  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ ・ランゼ り戦 民 持 族 て残され 0 特質を び取 的  $\mathcal{O}$ る児 抱懐 特 は 授 次 質 5 出 口  $\mathcal{O}$ は 童 た 来 を

於茲昭 次 郎 十四年三月七  $\mathcal{O}$ 名を以て「自今現状の 日 バ ス ス 如く巡廻式たると学校式たる 代 議員会に 於 7 移住 地

落着 表し、合議は之を時節柄諒とし とを不問、 他人に依る日本語教授は 落着いたの である。 て決議 中止され度し」 日本語教育問題は遂に、 との 通告を發

### バストス中学校略史

を極めたが之を切り抜け得る道の一として伯国教育を受けたる資 成へと導く運命にある以上伯国社会に活躍し得る素養を積む為 格を有する邦人教師 は日本人の持つ特質を有し而 後に雄円を抱きて渡伯せる移住者は言語不通 依って決する拓植事業の究極の目的は人材の開拓である。 は諭を俟っまでもない。 ストスに於ては す、 に耐へて経済的基礎を築き上げたが之を機承する二世が事業完 子弟教育の将来を想ふ時日本語教育の何時迄も続 い実に教育問題の盛衰に依つ 伯国教育に依りてより優秀なる人材の養成は急務であ 一部浮腰な者に依って伯語教育令の改正より狼狽  $\mathcal{O}$ 出現がある。 在伯邦人の眞 して伯国の事情に通暁せなくては て民族發展の の發展は第二世の の裡にもあらゆる 如何は決する。バ く事も 祖国を 如 想さ 何に る

見地よ らない 機閥 精神的不安、子弟を托すに信頼 て武道情操教育し共同の精神を培ふを其の目的として建設された 企ても思ひ止まる者が多かったのである。バス 農村 の備はらざる伯国に於ては是非共大都会に遊学せしめね 、然し乍ら適当な学校を知らす、 且 り其の子弟を預かり日本人一般の希望する教育を施すを使 の現状は子弟に中等以上の教育を授け 一つ学費 計画されたもの の低下を計り である。学生を農事に親 て勉学を容易なら し得る処の無い 経費の嵩む事都会遊学 んとし } 事等に依 しめ ス中学校は  $\Diamond$ ても 寄宿舎に 勤労 ŋ 地方教 折 ばなな 斯る 精 神 育  $\mathcal{O}$ 0

t  $\mathcal{O}$ て採 である。叉地方中堅青年の り入れ完全なる教育機関 訓練と教員候補者  $\mathcal{O}$ 中枢たら しめ  $\mathcal{O}$ Ŕ 養成をも事業 とし た

実を期 近に迫っ 寄宿 認可 白亜 学大学準備科 己 任命され三月十、十一 画 大景観を呈出 理に当り休業時間中、学生の労働を監督し精神講座を為 は全部教育局に登録されて居る者を聖市より招聘 的に授業が開始され職員として校長事務長小使各々 験者中三十五名が合格の通知を受けた。三月十五日計画通 事務教員室の三室と三教室及理科室便所等で建坪四 八月八日に開始し翌十四年一月第一期工事が終った。校舎は校長 て招聘 り寄宿生を収容した斯して奨学舎の設備不完全ながらも て入学者三十名の勉学するあり、学生は通学若しくは知 て本建築案は討議研究されたのであった。而  $\mathcal{O}$ 昭 開校に関 約半分であ ・デ・カシアス中学校と任命された。 和十三年二月バストス自治代議員会議に於て校合 の殿堂は丘上に植え してゐたが寄宿舎の設備を急ぎ七月より荒井満雄氏を舎監 可出来試験監督官としてマリト し得らるゝ目算立ち学業は順調に進んで第一学年終了 し武道、運動競技の指導学校付属農場二ア  $\mathcal{O}$ し学び で第二期工事は昭和十 の開設が決議されたの しては昭和十三年十月なされ十四二月人学試験施行 0 て残部を第二期工事として完成するのである。  $\mathcal{O}$ 両日愈々入学試殿が施行され四十 庭とし つけられた 7 恥 カ でる樹木 -四年 ア中学校視学ペ であるがそれ以前 カン 5 十月着手し十二月完 叉予備料も本年 の漸 \$  $\frac{1}{\sqrt{1}}$ して建築は十三年 派 伸 な姿を誇る事 した。 ルケ ナンシオ氏が び 一名づつ教師 ○○平方米計 ると共に  $\mathcal{O}$ · 名 建築及 校名をド 数 -度分と 叉 漸 人宅 り合法 口 次  $\mathcal{O}$ 間 لح 充 を 管 百 中 لح

好事魔多し 吹き来りて関係者始め各地各方面 と云ふ。苦心努力汗  $\mathcal{O}$ 結晶  $\mathcal{O}$ たる 々 此  $\mathcal{O}$ 努力工作あ  $\mathcal{O}$ 中 -学 校 9

も拘らず一時閉校 の破目に陥 0 た  $\mathcal{O}$ であ る。

示した。 ガルボンは十月 九月末マ IJ ` ア 一日来校巡察の 市在住視学官オスカー 上次の如き命令を経営者に対 ヴア ス コ セ

## 一、校長及事務長の増俸

### 二、校舎の増築

バリヨ氏立合の上合議決足せるもので一般各地中学校と同額 者は度々憂慮協議をなし伯人有力者を上府せしめ種々斡旋に努め 政府へ進言中である」との通知を督した。 就ては全く夢想だもせざる実に突飛なる申越にて絶封に應じ難し、 給を要求する事は当初の約束とも異ひ且つ当方は支払ふ意志なし。 契約書の作製はなかったが開校就任常時前視学官オラ 務長も小学校勤務兼任なるを以て現給を以て承諾中なり。正式 入りて学年末試験施行もせぬ儘暑中休暇に入って了 たるも問題は複雑化するばか 中学校を閉鎖せしむる必要ありとの報告書をリオ聯邦教育局並 と以上三項目に就て回答をしたのであった。 べし経営の立場に在る者から観る時第 三、自今週土曜自動車をマ ヽア在住パウロ・ラエルシオと協議の上違法の廉多きバストス 第二項増築の件は開校当時明年度増築予定の点諒解を得てある であり且つ近日着手の筈にて諸材料既に準備了れり次の件に リ、 りにて何等の曙光も見えず十二月に アに派して視学官巡視の便を計 一項の増俸 之れが対策につき関係 然る処数日後 の件は校長も っつた。 7

施行 が責任者として前視学ベンジャミン氏は刹官処分となっ 是より先き学年末試験歎願に開し同情者の 験を施行する 弁護士はリオ 懇願 したが「先学期試験が合法的ではなかった故学年 わけには行かない」との事であ へ赴き州執政官夫人を動 一人マ かして学年 た。 リ、 ア在住 -末試験 のであ て之

り実に痛恨に堪えざるものである。 る上、遂に之を頓挫せしめられたるのは返すがえすも遺憾でであ 同情心希薄なる一視学介入の為め、各方面へ問題を波及せしめた る吾カの中学校は無残にも偏狭短慮歪められたる愛国精神否寧ろ 同家的重要事業を政府の後援なくして校合の建築其の他を整へた 憶へば総初伯国奥地開拓の人材養成を企画せる伯国にとっても

第一期 起工 昭和十三年八月八日

第二期 昭和十四年十月十日

第三期 昭和十四年一月十日

昭和十五年一月十日

建築 煉瓦造 平屋建 瓦茸敷 地 九、六〇〇平方米

建坪 七一三・七〇平方米

教 室 五 講 堂一

図書室 科学実験室 一應接窒 事 務 室

校長室 一 男女便所一

雨天体操場別棟一八米×十二米

## 学童作品展覧会第二世教育に関する行事

#### 序言

作品巡廻展覧会であった。 等の目的によって行はれる所謂児童作品展覧会は時に應じ小規模 のは、去る昭和十年に行はれた石井コドモ全権の催した母国児童 に為されつゝあるが、此の種の催しとして同胞の記憶に新なるも のものは各校によって室内掲示叉は家庭回覧等の方法により適宜 父兄母姉の関心を喚起し、児童をして其の向学心を助長せしむる の成績物を一般の展覧に供し、傍々比較封照による示吸を輿へ、 学校に於ける平素の学習状態が形の上に表現される技能科方面

によ 模に行はれたものは、過渡期に於ける日本語教育を記念する意味 されるものが常時繰返へされつゝあったが、近年に於て最も大規 臼伯親善を兼ねて持参されるものや、各地協議会内に於いて挙行 其の前後に於て、部分的のものは教育関係者其他の来伯に際し、 って行はれた。

後記の作品展驚会であったであらう。

教普会支部の後援を以 報社、在マリリア、。 を覆ふ一助とする。 ては予想外の成績を収めたものであった。故に再記して其の 即ち在アラサツーパ日伯協同新聞社、 パウリスタ新聞社の三社が聯合主催となり、 って行はれたものであり、初回の催しとし 在リンス、 口 エ ステ民

員 一十有余年来築きあげた児童教育

童教育に専念 念せんとするもの と危ぶまれてゐる折柄、精魂打込んだその努力の成果を永遠に記 歴史もドッカリと土に根を下して百年の将来に思ひを繋ぎ、 した父兄の努力も一切は無為に帰するのではないか である。

種 zuga テ 並. た。今回の作品展覧会は教育非常時の反映とも云ふか全ノロエス 藤校長が主任で馬島、第四種手工、手芸は小宮主事が主任で山田、 新家の各校長が審査員となり、全能を傾倒して萬全を期して行 リグヰ前島、アリアンサ第一柳澤の各校長で、 であった。 担し、第一種作文は五十嵐主事が主任で寺門、 上塚第二山田、卒野旭新家、ゴンザガ小橋、 日会長佐藤次郎氏、五十嵐、小宮、上野各主事、三新聞社代表、 ンス学国に於て無事審査を終った。当日出席者はバウルー管轄聯 する事となった予定の如く去二十八、二十九日の両日に亘って れたバウルー管内学童の智能を動員してここに作品展覧会を開催 同主催、普及会三支部の賛助のもとに従来学校教育によ 伯協同新聞 エラクル 打撃を蒙る事となったが、この児童教育の非常時に備ふべく 移民法施行細則の実施により本月十九 パウリスタ延長線より集った児童の力作は二千点余の多数 は上野主事が主任で大竹、 ース寺門、 ノロエステ民報社並に。パウリスタ新聞社の三社合 マサヽア佐藤、ポンペイア大竹、 小橋 日 柳澤、第三超書方は佐 以後邦語教育 アラサツー 山 口、 審査を四部門に分 リンス山口、 前島、 は徹 って培は 馬島、 第二 ヴ IJ 的 0 H

嵐主事による作文 九日午後四時に終了し各部主任によっ この多数出品点よりの厳選で栄誉の入賞者は誰?、審査は二十 の審査發表、 てよれぞれ發表、先づ五

―「日本学校がなくなっても」 グアラ、ペス校 尋五 長尾

二等-「臨時大祭の夜」

ポンペイア朝日校尋五 富永 加(十二)

三等 「農家の心配」 ワラ、ペス校尋五 高橋サツ子(十二)

四等1「夕 ビリグヰ、パイネ ラ 校 高二

飯田波雄(十六)五等―「最初の帰省」

グワラ、ペス校 尋六

松田幸男 (十五)

サンタアデリア校吉松良雄。「図書部」ポンペイア、カンガンギ校 第一アヮアンサ校上條保尾「親の愛」、第一アリアンサ校箕輪モト 査牽表一等— ミ「雨の日」リンス学園原一枝次いで上野主事によって図画の審 田港朝寛「耕地生活の思出」リンス学園林橋子「鬼豚」。ポンペイ 「恩ひ出」。ポンペイア・グアリツタ学校佐藤保「学校に来る道」。 ・カンガンギ校本木昌訓「僕の一日」。第一アリアンサ校水川博 佳作入選者「俳句」プロミツソン櫻校野村榎栄。「散髪」リンス、 「コツケーロのある風景」 リンス

(尋五) 瀬戸 厚美 (十三)二等

「ビンとコップ」 ポンペイア中央校 (尋四)

本田金之丞(十三)

三等一「村の護」)

第一アリアンサ校 (尋三) 石田 富造(十三)

四等一「春の野」

リンス・タンガス校(尋五)

ーラ・ボアビスタ校

尋六

高坂 孝利 (十三) 五等丨 山  $\mathcal{O}$ 秋 グアヰ

垣 上バクリア校山崎義雄、アラサツーバ、ベ 進(十四)佳作入選者、ポンペイア 上バタリア校神尾文彦、リンス、タンガラ校佐々木行夫、ポ 中央校星野誠一、バ ロバール校遠藤澄江、バ ウル

柴尾倍明、アラサツーバ、 アンサ校榎原正秋、 アミザーデ校井上凱弘、グアヰサーラ、 マリヽア日伯校渡寅雄。 フォルモーザ校瀬沼八重子、 ポアビスタ校 第一アリ

佐藤校長の書方審査は

等一第一アリアンサ校

高一 網野 雅子(十五)

一等ーリンス ・アリアンサ・セントラル校

宮 口 勝(十二)

三等ーグアヰサーラ・アウローラ校

佐藤 弘吹 (十三)

ーコレゴ・アズール校 尋四

森本 三郎(十ニ)五等ーリンス・ウニオン校

専三 権藤まとか(十一)

ゴンザガ校立石繋利。 佳作入選者、リンス、パルミッタール校笹井義雄。プロミツソン、 リンス、ゴヤンベ校黒田正義。マリヽア日伯校佐々木道子。 レゴ・アヅー ・バ学園高野久子。第二アリアンサ校津波武富。プロミッソン、 バ学園今城憲之助。 - ル校道面君子。 リンス、ゴヤンベー校丸山実惠子。 アラサツー ・バ学園天美桂史。アラサ アラ

最後に小宮主事の手工、手芸審査發表

飛 行 機 ポンペイア ジヤクチンガ校

尋五 山口 信雄(十五)

一糸細工、造花 マリヽア日伯校 尋 四 地野 花子(十四)

三等一 ヨ ツ ト

エラ・クルース校 高一寺門一平 (十四)

四等一 ベビー・コード ヴエラ・クルース校 尋六 上田好子(十

五等一刺 額 面 リン ス学園 尋 四 鈴木久(十三)

佳作入選者

軍 艦 -ポンペイア中央校 稲 田 正 雄西洋·

形ーヴニラ・クルース校

新田千恵子

アルモファーダー ポンペイ7日昇校

香川 7 リエ赤ちゃん着物ーヴエラ・クル ス校

相 原 照 香犬 型 枕ーヴェ

ラ・クルース校 初 子リ ター リンスカパ

<del>·</del>校 宮 初 枝掛 額ーリンス パナ

森 恒 子花 瓶 敷ービリグヰパイネーラ校

尚

信

夫女見帽子

-ヴエラ・クルース校

佐藤久良子ベビー・コード ポン

ペイア中央校 右の如く審査の結果による十点獲得以上の各校順位は攻の如く 井出千代子

◎一等アリアンサ中央校二十点

である。

◎二等グアラ 、ペス校十八点◎三等リンス・タンガラ校十五点

◎ヴエラクルース校十四点

◎五等ポンペイア中央校十一点

尾領事臨席のもとにリンス学園に於て挙行される筈で一等貰獲得 ◎六等マリヽ 児童並学校 尚各入選者に対する書状並に賞品授輿式は明年十月二十二目早 の代表を特に招待することになった。 月伯校 十点◎七等ポンペイア・ジヤクチンガ校

第一回バウルー管内

学童作品展覧会

項

、 作 묘

第一種 作文

第二種 図画

第三種 硬筆書方

第四種 手工、手芸

、作品應慕締切 十一月二十日

審査發表 十二月一日

三新聞特別号に掲載

興す。 1、各種日毎に一等より五等まで及佳作十名に賞状及び賞品を授

同 同 児童用鞄一個 副賞 置時計一個三等

二等

同

同

万年筆一本

個

一等 早尾領事賞状—副賞、懐中時計

同 シャープ・ペンシル 一本

2、優秀杯右記の採点により総得点第一位校に賞状及優秀杯を授

一等十点、二等八点、

三等六点、

四等四点、

五等二点、佳作一

查 員月

点一

五十嵐 重虎

小宮 文雄

アラサツ 上 野 克男

目伯協同新聞社代表

口 工 ステ民報社代表

ウ スタ新聞社代表

管轄連日会長佐藤次郎

ゥ ĺ 日中会長 芳賀仁吉マリ 中日会長小出 虎雄リンス

中日会理事長今田求

ラサ バ聯日会長安瀬盛次

ヴエラクル ウ ル ス 寺門校長 清水校長

自伯 佐藤校長

ポンペイア 大竹校長

IJ 山口学園長上塚第二中央

山田校長

平 野 旭 新家校長

小橋校長

ゴ

ザー

ガ

アラサツー バア 馬島校長 柳澤校長

アリア 工 ンサ第一 テ 高橋校長

グアララペス 野島校長

、展覧会場

は追而發表す。 ンス市、 アラサツー 其  $\mathcal{O}$ 他  $\mathcal{O}$ バ 市 希望により、 7 リリア市、 巡廻展覧す バウル 市、 作品に 開催期

する注意事項

第一種

地方色豊か に て実生活に 即せ る普通文

半紙半原稿紙 二十字詰八 十行以内

第二種

イ、クレオン、水彩、 鉛 ペン等による自由画 (臨画は

採用せず)

ロ、用紙は八〇センチ×二五センチ位  $\mathcal{O}$ 

3、第三種

イ、鉛筆又はペンを使用する事

ロ、材料は日本語読本中より採択

すること

ハ、書体は楷、行、草何

れにても可

二、用紙は三〇センチ×

二〇センチ位の用紙 4、

第四種作品の種類を間

はず

5、各作品には住所氏名等を

表記せず 各別紙に駅 名

植民地名、校名、 額 年、 氏名、 年齢を明記 して添付す

る事

6、作品は各額校協議会に於

て、取纏め関係支部宛

切期日までに送付すること。

8、締切後の作品は絶封に採 用ぜず。7、作品は返戻せざるを原則 とす。

9、各学校の作品応募総数は8、締切後の作品は絶封に採

総数は 四種目を通じて二十点以

内

とす。

学童作品展覧会審査員評

審査員長

五十嵐重虎

総評

選を経た事実を思ふと、更に二三千点を増した実数が想像される。 づ成功であ 充分の時日が無かったにも不拘二千点近い作品を得た事は、先 0 た。 しかも此の点数の裏に各協議会で、 或程度の予

作品よ 乍ら厳選を重ねて審査を終ったが、私共審査員の瞼 余儀なくされた大量の 三新聞社の熱心な唱導と、各先生方の懸命 可憐な子供達の精進が、遂に形の上で埋もれ 作品が、 ありあ りと映る の努力に敬意を表 ので には入選した あ る事を

思はなか 事は期待した。 私共は此の度の挙によって児童作品 ったが 少なくも在伯教育の歴史に一頁を加へるであらう の金字塔を築かうなど は

教育 である。 全般的 の結晶を、 に勿論優秀と評価するわけには行かぬが、 マザ マザと見て、 時節柄心強きを感じた事は事実 多面 的

点以上の学校七校の中ヴエラクルース、ポンペイア中央マ 日伯、ジヤクチンガと四校まで延長線から出た事は、 て愉快な次第であ 二日に亘る熱心な審査の った。 結果は、 別 項の 通 り であ る 当支部とし 総数十 リリア

評も得た 作文は印刷に附して公表する筈であるから、 V が、 図画、 書方、 手工等は展覧会の際篤と御覧願 それに 0 度

各種目に出品する様希望してやまない次第である。 では芳ば して当支部関係では、 しい結果とは申されぬ。来年の第二回には更に 手工、 手芸方面 に 振 9 た が · 努力  $\mathcal{O}$ 7 目

第である。新聞社側も審査員も共に邦人子弟の教育を思ふて多大 来したか知らないが、此の様な挙に対しては敬意を表して協力す クルース各区は出品部数も入選も高率を示したが、バウル べきが当然で、 少数、ドアルチーナは全然出品がなかった。 何がかゝる結果を招 延長線だけ ねばならぬ筈である。 特に今後 の関係で言ふと、ポンペイア、マリリア、  $\mathcal{O}$ 教育は、 この点は当事者の熟慮を乞ふ次 学校乃至教室の外に、 機会と ヴエ ラ

きた する心算であるから、今後大いて教育的に利用する事を考へ  $\mathcal{O}$ 犠牲を払 0 て献身してゐる事業であり、第二回、 第三回と継続 て戴

精進を続 内 地の主要地点で展望し、日本移民三十年、 尚今回の けた子弟教育の結晶として、同胞に訴へる資料に供した 作品 は展魔会終了後、出来得れば私 加重する匪迫の下に の帰朝 の際持参し、

思っ なれば幸甚の譯である。 てゐる。そし て在伯邦人と、 祖国の人達との 関連の 助に

般 を有するもの を乞ふや切なるものあるを再現して粗雑乍ら概観を終えるとする。 の三新聞社 しき終焉を告げようとする子弟教育に直面してゐる今日、 の壮挙は凡ゆる意味に於いてまことに探刻なる意義 である事を再び想起して、回を重ねて一層之が發展

#### 作文評

## 第一種審査員

ヴエラクルース校 寺門芳雄

柑たものである。 を一文宛読み上げ、更に厳密に批評し合ひ、十五点を採った最後 の順位は一層憤重に合議して決定、審査員総会に發表して同意を には各部員が交換しながら、更に厳選二十三点を残した。 の部員が発づ第一予選にこの中から六十六点を取り上げ第二予選 作 文の 出品 総点数は三百八十六点の多数に上っ たが、之を四人 次に之

が 項の中に「地方色豊かにして、実生活に即した普通文」と断って 賞に入 其の他の中にも随分良いものがあ ったものは、申すまでもなく何れも優秀な作品 った。 作品に対する注意事 0

た。作者の住んでゐる土地の匂ひが溢れて居り作者自身の個性が、 のぞかれる立派なものであった。 たが、これ等はどれも右の條項にピッ タリとし たも であ 0

やうな文が二枚現れたり、一1書く事は出来ないが、1夜作りら 然男児の作品かと思ふと意外や女児の作品であったり、全く同じ 題材を捉へ、堂々たる意見を書綴ってあるから、想ひの上か 事は言へる。 いものが多か 山の作品の中には、叉種々雑多なも った事と、 自分の考へでなく、  $\mathcal{O}$ が 借りものゝ多か あ 0 た。 5 0 た

ば、しっかり出来る様にして置きたいものと思った 冊子にして出すといふ話であるが、児童の参考文としては快適 だが、殊に綴方は一朝一夕によいものを作ることが出来るも た事などは、それが足りない証拠の一つだと思ふ。 うなものがあ ではあるが、 つゞけて書いて行くこと、誤字や、脱字や句読点の付けてなか いふ感がした。 のだと忠ふ。 次にもつと推敲 不断の努力がよい作品を産む事になる。 原稿用紙 った事だ。 文全体を一つも切らす、 の方面に努力したら、本当によい作品になれ へかく、記述上の約束も、 何べ んもく推敲して練 即ち行を替へるべき所も 入賞作品 って行 四五年位に 小さい事 何でもそう 9 五点は たら、 様 0 そ

図画評

、ペイア中央校(大竹文二第二種審査員)

ポ

あ った。先づ第一審査で三〇〇点を採択し、 総数五七  $\mathcal{O}$ 中、 自 画は三〇 ○点、 第二審査で一五 画は二七 ○点で 〇点

を選び、 例 别 作十名を決定したのである。 を除き、 を再びづ図画部審査員によって憤重に審査の結果、 は第一審査に於て規定外である臨書並に用紙 クレオン、 て五十点をとり、全審査員 四名の審査員によっ 更に第三審査に於五〇点を推した次第であ 水彩、 鉛筆、 ペン画写生画に於ては静物、 て第二審査を厳重に行 の投票により、 の規定に反せ 十五点を選び、 入賞五名、 る。 ひ、 攻に学年 そ 風景と比  $\mathcal{O}$ 経過 之  $\mathcal{O}$ 

加筆 氏が臨画を採用せぬ注意があった為か僅少であった。次に教師  $\mathcal{O}$ った事は、 臨画と自由画 ンバウル か、 は 作品の半ばを臨画で占めてゐたことは意外であ っきりしてゐて児童の生命とする純眞さのない画が 各教師の自重を望んで置く。 支部は過日。 の区別がつかぬ ハウリスタ新聞紙上に於て特に五十嵐 か、叉は規則書に目を通さな った。 0

は 尚 に除かれしもの 日本品を使用せしものに此して「美」の点に於て見劣りせした 使用 にしたク レオン、絵具類に於て、 」 あ った事は止むを得なかった。 伯国製品を使用せ  $\mathcal{O}$ 

た事 らと地との関係、静物に於ては背景光線の陰陽に一層の指導を望 写生画に於て臨画の焼き直しで地方色の沿はない作品 は、 残念であ った。 更に写生の 風景画に於て、 遠近  $\mathcal{O}$ の多か 関係、 そ

である。 最後に 般的に予想外の良作品 の多数であ 0 た事は、 同慶  $\mathcal{O}$ 至

書方評

マリリア日伯校 佐藤達二第三種審査主任

ら、 混同 から十五点を厳選して、 であ り最優秀の 第五位を決定した審査の上で苦心した事は、 して考査するといふ事であった。 出品総点数は邦字四三〇点、 先づこれを二分して、邦字の方から三五点伯字 もの五点を選抜し、尚彼此此較考査 所謂優勝候補として抜き出 伯字一四八点、 邦字と伯字とを の上、 した。 合計五 第一位 カン 中

成績 考にもなる事だらうから一二点意見を加へさして貰ふ 之は誰にしたって一寸困る問題であらうと思ふ。全体を通じ はどうかと謂ふに、遺憾乍ら好成績とは言はれな 後  $\mathcal{O}$ 

書体 筆に たい ば力が欠けてゐるといふ事だ。之は硬筆について毛筆程 てよ 文字の形態といふ事に重きを置き、力といふ事には余り考慮され には邦字で言ふなら、 ふ事は、 てゐる改定小学読本にしろ、文教会編纂にかゝる国語読本にしろ、 邦字に就 Ď の基本といふものが定まってゐる様に聴いてゐる。然る く御留意あ てゐる事は しろ多少の勢を現はすことは、出来やう。之は現在使用され に努力して貰ひたい。 と思ふ。少年時代は何とい と同意義の のだと思ふ 期待する方が無理かも知れないが、 様に考へられる。この文字を一般に手本として平素書き  $\mathcal{O}$ いて言ふなら、 で成あ 0 もので、之はそのまゝ伯字につい 0 て、教授の際数分を割 次に伯字につ の原因と見てよからう。此の点先生方に於 御家流とでも った。之は眞書を正確に学ばな 一体に筆勢のないと言ふ事、 っても、 いて。伯国小学校に於ては いふか、 いて書方の 正 大変大人振 然しペンにしろ、 真面 ても謂 御指導を願 目 換言すれ に望と ったく へる事 大体 づ 中 71

働きが 現は れるものであるから、 て置きたい事は、 何事でも人 此の書道に 動作 しても、 心の持方

事だがそれにも優 へる。 に左右せられる事は必然の事だらう。 人格の修養こそ欠くべ 書方の熟練は、 からざる事だと考 勿論必要の

手工、手芸評

# 第四種審査長

小宮文雄

芸百十三点、之を男女別にすると男児二十七点、女児一一七点、 方別にするとパウルー支部七○点、リンス支部三三点、 での出品が八割以上を占めてゐた。 出品総点数は百四十四点、其の内訳は手工三十一点、 バ支部一点、尚之を年齢の上から見ると十二歳から十五歳ま 裁縫、 アラ ナ

点が は伯語学校 行はれてゐなかった事に起因するのであって、作品 れは従来日本語学校に対するやかましい規則の為に十分な指導が 他の三種目に比較すると、量に於ては遥かに劣ってゐるが ハツキリ見られる。作品の大部分は女児 で指導製作されたものゝやうに見受けられた。 のも  $\mathcal{O}$ で、 の上にも其の

半を占 部が断然優位を占め 感じた。然し乍ら第一回の催にも不拘、 の如く、等位が決定されたものである 査を経て優艮なるもの十五点を選び、更に第三次にお で、質に於ては他 て五十三点の佳良なるものを撰び、第二は全審査員の厳重なる審 男児の作品が少なかった事は予期してゐたものゝ、相当失望を め、 その成績も総体に秀れてゐる。殊に一等山 の種目よりも秀れ てゐるが バウルー てゐた。 支部は出品点数に於て 作品は何れも良い出来栄 審査の結果はバウル 審査は第一審査 口君の飛行 いて、 別報 に於 支

機、三等寺門君のヨットは洗練された技量が遺憾なくは発揮され て居り、審査員一同が斉しく賛辞を呈したものである。

コ 二等池田嬢の造花、花瓶及花瓶敷、 トも其の丹念な製作振りには感心の他はなか 四等上田嬢 った。 の編

種類に制限があるにせよ、なるべく上品な色調 うか。女児作品の中、 一般と色の配合に注意しなければならないと思ふ。 ったが、仕上げに於いて今一息の粘紬な注意が必要ではなから 佳作中、 稲田君の軍艦は今回の出品の中で最も大作の一つ 良も多か ったのは刺繍であったが、色糸の のものを用ひ更に で

を試み、心から満足出来る作品を、出品 らうが、平素から十分の用意と研究を怠らず、 総じて急製の作品が多かった事は製作日数の少なかっ して頂きたい 何回も何 た為であ 回も製作

て初めて立派な作品を残したのではなかったか。 .。苦心に苦心を重ねすべてを研究し儘し、而も長い 左甚五郎の様な名工でも最初からあんな名作を出したの 年月を費し では、 な

教育訓言

 $\mathcal{O}$ 窮迫の時を忘れよ。 されど其の輿へ L教訓を忘るゝ勿れ。 ゲ ラ

◎人に教ふるに行ひを以ってし、 (乃木希典) 言を以てせず、 事を以ってせず。

# ▼ま へ が き

進度 植者の慰安とも言ふべき目的の下に行はれる各校の児童学芸会は 事者の此 年を経るに従ひその成績を挙げ、無味乾燥、全く愉安と刺激に乏 い植民地生活に、感激と愉安と反省を興へるものとして学校当 児童教育上の情操訓育的一部門であり各児童或期間内に於ける の發表形式であり、学校教育の内容を一般に公開 の間に於ける苦心と活動は実に著しきものがあ った。

容共に在伯邦人小学校に於ける学事報告の に紹介する次第である。 イア学校協議会主催のもとに挙行されたものであり、その形式内 以下は昭和十四年九月七日伯国の猶立記念日を祝して、ポンペ (編纂員) 一端として、敢へて茲

### 児童学芸会

▼プログラム日伯国歌

開会の辞 岡田副会長

図画入賞者賞状授輿式

国防献金に就いて 岡村先生

一、葡 九月七日 ポ六河野二、 ブラジル独立 ガ 四 常田

三、朗ブラジル語サ六

藤田

六。唱 東郷大将 グ佐々木 ]、ラジオ体操 ガ三 田港

外

八遊 お山のお猿 ガー本

木外

八、剔が補島太郎がが稲田宮七、話の親を大切にがジャン

江副

九、遊 春よこい サー小野八、劇 浦島太郎 ポ稲田外

外

話 利巧な犬

唱 哀れな少女

ポ中 井出外

対 五作爺さん

ガ四岸、古関

ガタ馬車

ポ 中 岡田外

匹 ブラジル語ア 津波

莊 劇 人形の病気

ジアン 島袋外

遊 日の丸万歳

六

ジャク 井崎外

七、 唱 赤いくつ

日 野口外

九八 対 銀行 ポ中山本外

劇 五一爺さん

日 野口外

遊 千代紙サ 川崎外2

話

鳥と猫 サ四

加賀谷

ほたるがりポ中

唱

磯谷

ポ 中

 $\equiv$ 

朗

錦の御旗

本永

夷 匹 劇 遊 水兵の母 美しき天然

堀田外

二六、 朗 逃げたらくだ

唱 京人形 グ四

佐々木

二八八 話 劇 司馬温公 ろばの足 ポ 中

加賀谷

子供盆踊り

 $\overline{\Xi}$ 

唱

児童

話 牛若丸

遊 団栗コロコロ

対 笑話 ア 女児三三四、ポニ 二井外 劇 桜井の駅 カ五

古波外

遊 可あい皇子様

三五

ポ 佐藤外

三六、 両将軍の握手

ポ 中 岡田

三七、 劇 ブラジル語 金太郎 ジャン 井上

三九、 まり ポ中岡田外

遊

四四一 唱 話 松島 金の斧 ア 女児

対 考へ物 日岡本外

藤村先生外

星野

佐藤

四五、 四四、 匹芸 劇 唱 話 舌切り雀 山がら丈夫 カー 明治天皇 ポ 中 ジャン 江副外 相原外

ブラジル語 サ四北條 橋本

四六、

遊 こんこん小狐 サ

林田外

四八、 せみ ジャク ポ 中 秋山外四九、 南外 劇 その後の浦島

五〇 遊 ひよこ ポ 中

平栗外

五 話 七本の杖 カ久保

五二、 ラヂオ体操 ア シミザー

デ校

五三 遊 殿様横町 ジャク

井端外

劇 一本足のかがし

五四、

日 伊藤外

五六、 五、五、 遊 談話 春の淡雪 上海 ジャン

アミザーデ校

五八、 五. 七、 葡語 独唱 朗読 熊井先生 グ 四 岸

遊 雨 ポ 四 加藤外

六六五一、九、 話 からすと水瓶サ四

金久

唱

討匪行

アミザー

対 暗い影

アミザーデ校

六三、 唱 旗は日の丸

ジャク 井崎外

六四、 遊 まりと殿様 サ

笠原外

六五、 話 森蘭丸 グワリタ

六六、 唱 夏の雲 ポ 中

平栗外

六七、 遊 チュウリップ 力

新里外

六八、 話 力の神と車夫

サ 四 藤也

六九、 遊 楠公 ポ中三好外

朗 雪舟 グワリタ

七七〇、 唱 里心 力 嘉陽

七二、 対 誰にもいふな

ポ中 岩本

七三、 劇 花うり ポ 中

磯貝外

七四、 国防献金報告岡村先生

七五、 売店部報告 安川先生

七六、 閉会の辞 岡田先生七七、 万歳三唱

◎学を務むるは、師を選ぶを務むるに如かず、 師なるものは、 人の模範なり。

#### (揚子法言)

## □本文略字表

ポ中は……ポンペイア町校 :ギャクチンガ校 ジャン……ジャンガーダ校 …グワリタ校 ポ……ポンペイア植民地校 サ… …サンタエレーナ校 ヂャ

力 · カンガンギ校 アミザーデ校 日

日昇校

葡は………ブラジル語

唱は......唱歌

遊は……・…・遊戯

朗は……・・朗読

話は……話 力

一九三七・九・七

ポンペイア教育協議会

### 修学旅行

一九三六年

パ延長線聯合 児童修学旅行

まへがき

並に人員数も或時は三〇名内外の時もあったし、二百名の多きに も無意味な事と思はれるから、最も盛大を極めた一九三六年 るが、大体大同小異の様に思はれるし、これを年代毎に並記 上った事もあった。亦見学内容も臨機応変の措置をとった様であ れた。組織は学区別、 スコツテ 児童修学旅行は毎年六月中の冬期休暇を利用して前後七回行は 一口見学団とその次年に行はれた延長線連合修学旅行に 部会別といふやうに区々であ り、 参加学校 して  $\mathcal{O}$ 工

関する模様をなるべく三組に採録して往年日本語学校華やかなり し頃

当り、 犠牲を払はれたる事に違ひな を偲ぶ一 謹んで謝意を表す。 助にした。引率者とし ては毎回非常なる労苦と多大 紙数の (編纂員) 都合上これを省略するに る

サントス=サンパウロ方面

を催 速委員を選出してマ市第一グルツポ校長エステリツタ・デ・メ 岡本部会長の發議により、本年は面目を一新してなるべく参加範 案に対する最後の集会がマ市日伯小学校に於いて催された席上、 郡二十九萬 並に州旗の貸輿を乞ひ、茲に日伯児童聯合修学旅行団は 民外交の 担として旅行団参加申込みと共に自身市役所に市長を訪ねて国旗 た企であるとして早速快諾、進んで秘蔵のバンド十四名を自費負 囲を拡大し、 口氏を訪ひ、 に入った頃の五月下旬、各委員によって計画準備されたる旅行 都会内小学校年中行事 す運びとなった。 一助にもしたいと言ふ事になり全員直ちに之に賛同、 の住民を代表して晴れの少年外交を兼ねての見学旅行 団の希望を具陳し協賛を願った所、洵に時宜に適 日伯児童合同として組織を大にし、見学を兼ねて国 O一としての児童修学旅行がそのシーズ マリヽ 早

童 巡して市民の熱誠なる声援に應へ一九三六年六月十六日午後七 八名より成るラツパ、小太鼓の楽隊を先頭に燦然たる国旗、 同 団 一大バタリヨンとなり、園長エステリック校長に引率され、  $\mathcal{O}$ て一四二名、引率教師十四名、 編成は 隊伍堂々楽隊 リリア、ポ の音も勇ましく、 ンペイア 同伴附添人一  $\mathcal{O}$ 部会管内十四校、 先づマリリア市内を 四名合計一 日伯児

(巻頭写真参照  $\mathcal{O}$ 観衆に送られて 路、 憧れ いのサン パ ウロ  $\sim$ と向つた。

ルヂヤ 日伯児童 かくて十七日午前 リオ・グランデ号に乗艦見学し、 壮大なる潮旅館に旅装を解き、 -島に渡り一望萬里の大西洋の浪音を聴き、 一四二名、 初めて見る海の偉大さを満喫した。 + \_\_\_ 時サン パ ウ 口 午後一時連絡船によりグ 翌十八日は折柄寄地中 市を経由、午後三時サ 海水に浸り、 ワ

訪問して敬意を表し、旅行の目的を述べた所、「自分も明日 監来遊中の由を知り早速隊伍を整へ、グランド・ホテル するから出来る丈の便宜を計る」とすっかり大満悦であ りである の事が動機となり滞聖期間中図らざる厚遇をうけた事は後述の さて、 薄暮となり、 一同帰桟の準備中端なくも聖市より ^ 0 には帰聖 警視 総監を 通

間 勇姿を現は の見送りをうけて 浴場に遊びサン 一巡して貝を拾ふなど興趣はいっまでも儘くべくもなか の都合上名残を惜しんで無心の砂濱と決別、正午潮ホ 翌十九日は起床午前四時、 て中食後再び隊伍を整 した。 ヴイセンテ 同駅九時發の汽単に乗り、十一時再びルス駅に  $\mathcal{O}$ へてサントス駅で市中行進、官民 特約電車をも 吊橋を観、帰途は汀づたひ 0 て、 ゴ ザ テ ガ 多数 濱を 海 帰

斉 交通巡査に守られてサンベントヂレイタの繁華街を抜け、 帽による敬礼をうくるなど、官民を挙げての熱誠なる厚遇に しく心中に感涙する。 同団がホ 到着、其の間軍馬  $\mathcal{O}$ 出 迎へ ムに降り立つを合図に聯隊副官を先頭に三十名 を受け、 一切の 市中行進に移るや、 一時休止、 沿道に居並ぶ通行人 前後左右各二名 コ 団員  $\mathcal{O}$ デ 脱  $\mathcal{O}$ 

行はコンデ街に立並ぶ日本人ホテル に分宿して約二時間  $\mathcal{O}$ 休

閣下 二軍国差 の査閲をうくる事とな ての最高栄誉、 再び隊伍を整 廻し の自動車及び軍用輸送車に分乗して・ 且叉空前絶後 て州政庁並に関係官庁を歴訪 0 た。  $\mathcal{O}$ 統領ア 7 いよ し午後五 ド よ本団 時

ヂオ放送局 訓 であ 唱放送を行 煩雑なる業務に都会の目まぐるしさを味ひ、 示をうけ 殆んど強行軍の勢をもって煙草、 浸りつ暮色いよいよ寂然たる中を帰途につく。 収穫と歓待をうけ、帝国領事館に伺候 団長の簡畢なる挨拶に次い の握手後、 くして最も記念すべき査閲は終りで州統領を中心に団長、副団長 十分、警兵の 辞あ タンタン のまゝ入邸して大玄関前清々しき白砂の上に堵列した待つこと 先づ官舎前広場場に於いて軍隊による簡単なる服装点検をうけ、 アラサ墓地なる一九三〇年革命の犠牲者たる無名戦士の墓に詣 て、善良なるブラジル市民たらん事を誓ふなど国民外交の 日伯 地下に眠る幾百 行はそれより前記聯隊副官の案内により再び軍用車に分乗 ŋ サツ り、 現聖州農会長の 二三の問答あり、 に招ぜ 各新聞社を見ては輪転機その他の コ、 研究所を訪ねては肝を冷やし、 中央メールカードに於いては産業陣の盛太さに驚き、 て諸 同大いに面白を施して、夕闇迫る頃官邸を退出した。 合図と共に、州統 最あごにイビランガ丘上に遊んで独立当時を回 硝子、 られ の霊に 動物を目の 製紙の代表的大工場を見学し、 て市民に対する挨拶と国歌並に国旗歌 顕職にあるサンパ 対して花輪を手向け、 で 閣下の退場後 一同少年団式による敬礼を行ふ、 領閣下を始め多数顕官 あたり見、電話局に入ってはそ アンク して市毛総領事の査閲と訓 ルチカ、ゼネラル アク イオ 新知識を吸収 マリリア市の エス リマソン 翌日より三日間、 ヴ 敬虔なる気持 の臨場あ 予期せざる 公園 ジア 創設者 ラ IJ

と相俟って其の収穫は実に素晴らしきものであ いった。

出探きサンパウロを後に数々の土産話を胸に秘めて再び車上の となった。 かくて一行は所定の見学を了し、六月二十三月午後六時、思ひ

旗州旗の返還と見学の報告を行ひ、一先づ日伯小学校庭に整列し たのであった。 て解団式を行ひ、ヴイヴアを三唱して目出度く放行団の幕を閉ぢ 翌朝マリリア駅頭に多数の出迎えをうけ、市役所を訪問 て国

ければならぬ。 並に役員各位 に依る熱誠溢るゝ活躍と の総力的力心一加の働きが今回の成果を収め得たものと言はな 最後に附記したきは団長エステリツタ校長の絶大なる親日意識 の献身的努力と同伴附添人方の隠れたる応援である。 岡本部会長の目ざましき外交的飛躍、

労をねぎらう。 氏の偉大なる功績がある。団の 今一つ忘るべからざるものに本団写真班を担当された中山夢浪 (完) 一員として附記して以って同氏の

一九三六年

パ延長線聯合児童修学旅行団

▼役員

団長 エステリッタ・

副団長 岡本専太郎

会計 岡崎親 田端長之助

デ・メーロ校長

小松美好

大竹文二

交渉委員 河野哲郎

横井嘉壽彦

設楽シヅ

救護班

パ延長線連合児童修学旅行一九三六年

▼参加人員 日本児童 一二八名 伯人児童 一四名 (バンド) 一四名 伯人教師 一四名 同伴者 一五名

◇参加学校名
ポンペイア相
ポンペイア中央

昭和第一興農園中央

共和日伯

セレージャ ビーラ日本

サ・アントニエ ツタ

山本耕地 ガリツタ

公栄

◇引率教師 橋本俊二

岡崎 親

大竹文治 小松美好

河野哲郎

柳澤 横井嘉壽彦 盛

永島 優

田端長之助

熊井徳右衛門

設楽シヅ

石川峯生

山口字一

寺門芳雄

ドーナ・ロージーンニャ

一九三六年

パ延長線聯合児童修学旅行

### ▼見学場所

- 1、ルース公園
- 2、サントス港(潮ホテル)

警視総監訪問

- 3、リオ・グランデ号
- 4、日本汽船 ラプラタ丸 (商船)
- ゝ ‥ ‥ ‥ ‥ ‥ ‥ と ら、グワルジャー(連絡船)
- 6、モンテ・セラット
- 7、ゴンザーガ海水浴場
- 8、サンヴィセンテ (吊橋)
- 9 州統領官舎 ・サンパイオ・ヴィター (州統領、 ド ル氏査閲) ア 7 ス氏、
- アラサ墓地(無名戦士の霊に花輪贈呈)
- 一一、スダン煙草会社
- 一二、サッコ製造会社
- 一三、中央メルカード
- 一四、帝国領事館
- 一五、ブタンタン研究所
- 一六、アクリマソン公園
- 一七、硝子工場
- 一八、製紙工場
- 一九、電話交換局
- 二〇、ラヂオ放送局
- 二一、エスタード新聞社
- 二二、州政庁
- 二三、教育局
- 一四、ジアリオ新聞社

五 市街中心地

天 イピランガ博物館と像

七、 日伯新聞社

九八 アンタルチカエ

ゼネラール ・モー タ

九三七年

マリリア部会所属小学校

サンパウロ トス、修学旅行記

D • Т O 生

### 六月廿三日

参加児童三九名、引率教師六名、 父兄五名、 伯 人教師一 名、 総員

五一名、マリリア小学校校庭に集合。

団長小松美好先生、児童を前にして一場の訓示 た注意。

人員点呼、会費徵集、 服装検査等々各校所定の旅館に引返し、

発の用意エスタソン集合。

汽車が着く。

おびただしい乗客と見送人。二つ の箱に分乗。

何度乗って見ても汽車と停車場には一種の独特の 妙な気持がある。

ピリビリサイツ。出發である。

児童は大方それぞれ席を占めて嬉しそうな顔。

先生と見送入との挨拶、児童と父兄との問答。

ゆるぎ出づる晋。荷物をッ処理する音と声。

午後七時四十五分。但しこれは発車時間表に記されたる時刻で

なくて、今夜より初めて改制されたる発車時刻であ る。

汽車はビラチニンガよりバウルー

闇。闇。点々と町の灯、人家の灯。

夜明のイチラピーナ。乗換。

#### ▼廿四日

廣 いひろいカムポ。 1 づ れより 拉 し来っ た様な小山が点々

「サンド・イツチ」「カツフエ」

児童と先生との問答。

右や左へいそがしい人さし指。

年前十一時サンパウロ着。

ルス公園にて休憩。フンスイ、赤いペイシ花々 々。 「先生便所は

どこですか」

「お弁当です。集りなさい」

٦ پ 早撮写真師の勧誘。 しろうと写真師 (実は発生) のパチリ、 パチ

 $\sim$ やなぎ。さくら。すべあ。 松。つつじ 乗車。 二時半サン ス

東へのびるサンパウロ市。アル らつぽの席。右は谷、 左は崖の 水。 トダセーラ。 ワイヤー · の音 ー カン

「ビレッチ」

「ノンポーデ。ドウゼアンノ。テンビゴーチ アイイ」〇〇先生

と車掌との問答。

ゴマカシ暴露! (後学のため特記)

「パーガ、ヴインチウンミルレイス」

「オケイッソ ゙プレシーザ・パーガ・ナヴオルタ・タンベン」 セニョール」 「ムルタ・ヂ・セツチメニー 「ナツラル」 ・ノス」

ンネル・トンネル。ワイヤーの音。

河。川舟。鉄橋。おどろきの声。

サントス港。

ホテル潮。 金魚。 燈寵。 工 タ 夕飯。 茶碗、 お箸、 刺

身、乾杯。

▼廿五日

ゴンザーガ。サンヴイセンテへ

電車は走る。

海、海、海、人、人、人、、波の音。

吊橋、漁村が手近に見える。

イシの話、遠い沖の舟、うづまき、 雲母、 小さな貝殻、 磯 0

香

うな顔。 海水浴、 男子の は しゃぎ方、それを見てゐる女児の つまらなさ

おやつのボン。 大きなボン。やきたての ほやほや。

午後五時帰館。夕食。通信第一報。

ル見物、 五十二度。 高さ二百五十米。

いたづら。女生徒のキッキックツ クツ。

夜のサントス市街を見る。

案内人の説明。橋本先生の葡語質問。

サントス港が島であること。「先生あ  $\mathcal{O}$ Щ の上にならんでゐる電

燈は何ですか」小松先生の語によろこぶ女生徒。

▼廿六日

午前八時一行はグワルヂヤー -島へ。ランチ。

大西洋の波の音。白砂濱のたはむれ。

ランチ。

英船見学交渉員。橋本、岡崎両先生、

(Asturias) 見学交渉。 伯人新聞記者  $\mathcal{O}$ 

代理店の許可証受領。

用條副領事の紹介状。水上警察署長許可。

ろた 電車の用意。 ! へ方。 グワルジヤ島より Ó 帰着 時 間切迫。 交渉員のう

弱さ。 のホ プール、 船内見学。 ルル。 イエス、 メー 船員案内 ザ、 イエス 絨毯、 橋本発生の妙な顔。  $\mathcal{O}$ 驚く目。 説 明。 学校で 英人の目と髪の色、 覚 た 等船客大ホ . 語 が 二等、 あ あ 区 三等  $\mathcal{O}$ 貧

右 るゴチリウの匂ひ匂ひ 料理室、 、一、左へ。 菓子 人員点呼。 , の 色: サンキュ 果実 又しても鳴る腹  $\mathcal{O}$ 色、 鳴る腹  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 虫。 虫、 約 煮たき音、 一時間上に下に 充満 す

旅館へ、二班は朝日旅館へ夕食。 サントス發(四時)サン パウロ 着 (六時二十八分) 班は熊本

#### ▼廿七日

アウト・ オニブス。 午前八時ブタンタン研究所

「先生あの木の上にも蛇がゐます」

標本。

アルコール漬。

気持が悪くな

った生徒。

日本病院。棟上式を待つ偉容。屋上より展望。

加藤発生コダックをかゝ は一所にまとめておきなさい」「便所はありませんからどこか向ふ 飛行場。赤塗の飛行機。「発生、 の適当な所でやってよろしい」首の長い水鳥。イピランガ。 「お弁当に致しますから、ホテル別に集りなさい」「お弁当の ですか」サンタアンナ遊園地。 セツテ・デ・セツテンブ へて忙しそう。 口 の話。 日本のヒコウキとどっちが大き 植物。 俄かに起る音声の哄笑撮影。 日本の樹小さい汽車。 記念 カン 5

をどらんなさい」「他のお客さんの邪魔になりますから、歩き乍ら どらんなさい」「先生、 記念博物館 れはね、博覧会の方へ行ってるんだよ」「ファーペツシのふとさ」  $\sim$ 「先生これは」「先生あれは」「これは」「ホ この部屋はどうして閉 ってゐますか」 あれ

コラ何か

アクリマソン公園

リピリツ にゐますか」「居ないか、死んだのかな」 遂に姿を見せぬライオ ン。耳の長い体の小さな馬、幼児のお菓子をうばい取 「オイここん公園ナキタナカね」「先生あの小さい舟は何んですか」 いたづら。こどもの喜ぶ声。「熊!熊」 「番号」 年後六時帰館、 入浴、 夕食、 「先生、らくだはどこ 通信第二報。 る小猿。ピ

### →廿八日

魔術みたいな機械の働きに見入る児童達。 ソが急に膨れ出した大人達。 年前八時スダン工場へ・ むせる様な煙草のにほ お土産の い。女工、職工、 ガー 口、

ンニャ。「みんな自分のもとの席につきなさい」安田発生の声。 い」「まあ、 レース。小鳥、 メルカード。美しさとゆとりと職業的な緊張。 かはいゝ」コチア産業組合。 小鳥、「急がなくともいゝ。ゆっくり見て行きなさ 、大根、 ニンヂン、バクチ 力 フ エー二百

総領事館。

美しくもない裏庭。 「裏庭の方へ整列して下さい。今総領事がお出でに カトレラが五六株。 なりますか 5

ネラル・モーター ツツ、その前に敬礼)そう領事の片苦しい顔。「皆さんはアルトダ・ 市毛総領事、続いて石井外務省嘱託館員。 セーラの電気機関車を見たでせう」「円本語も大事だがボルトゲー 分間に一台試運転 スも勉強しなくちやいかん」 夥彩しき自動車の群耳をつんざく音々々。 「父兄のお方は御苦労でごわす。」ゼ 小松団園長の挨拶 P 七

さい」医科大学。 「美イチャン、教壇の方が下にあるね」標本宝「ケー・ムイト・ポ 朝食。「自動車 人造大理石、実験室、教室講堂…シレン (乗合)を持たしてゐますから少し急 で 下

三浦社長。頭とひげがめっきり白くなって落着いてゐる親爺 向 事をしてゐる。「饅頭を上げるつもりだったんですがね、どうも間 コ・エン」日伯新聞社。「一 いて(パチリ) 合ひませんから、 はいどうも。。パタリ、パタリ印刷機が盛んに仕 これでどうぞ」カデルノの山。 寸そこで止って下さいみんなこちらを 再新移民

をのせた板が走ってゐる、 クルチカ工場。馬が沢山飼ってある。製氷室の冷たさ。 接待室。 サイダー  $\dot{O}$ Щ 瓶

ぞ」と浅見先生。 黒ビールの山。「オイ、あんまり赤い顔でルアを歩いたらあか W

伝。 映写三本。 ル位ですよ」ブラジル時報社主催映画の夕。鈴木編集長開会の辞。 から」「こ 競馬場。 映画フ 黒石社長の挨拶。にこにことして朗読調。 (今日はもうけいこはないんですか」 「もうあそい 口 の馬は綺麗ですね」「ハア、 レンスの少年筆耕 やき直し、 こゝらあたりは二十五ミ 閉会。 子供の園宣

#### ▼廿九日

サンタマーロ湖水遊び。郊外電車。

身大) 肢体。 陳列館。 移民博覧会、 ブラジル館 ト遊び、 あちらこちらにパチリ、パチリ、 (大商店大会社の陳列所) 伊太利館 (軍事宣伝) ムッ 商品館、 ソリー 水に浮く美人の の写真 マタラーゾ **(**等

め りもの、 日本館、 鯉、 たどん、 金魚、 亀 燈籠、 の子たわし。 五重の塔、 日本キモノ、 は かまの女、

辷り込みボ くり休みなさい」 娯楽場、 ル・プ 黒山、 ロフエ ツソ 等々 黒山人の群。 帰舘、 ル、 廻旋塔、 風車ピ 夕食「明日は一日閑ですからゆつ 電気自動車、 ツ ヨデセ ーダ、 電気ボ 射的、 F

#### ▼三十月

ウロ市 品買集めに先生も父兄も大童。先生連中 自由行動。 巡 朝寝して、 一時間二十ミル。 それから買物。 -自動車にて 自分の も の ょ り人の依頼 夜  $\mathcal{O}$ サ

### ₩一日

答。 集合決定。 出迎人の群。そこにもこゝにも先生と父兄。父兄と児童達との問 午前七時二十五分サンパ 一先づ各所定の旅館 ヴイヴア ウロ 夕食後教師集合、 發。 牛後九時三十分マリリア着。 旅行団解散。 次叵

# 少年陸上競技大会

と成績 日時 一九三八年九月十八日 於 マリリア綜合運動場大会概要

#### $\Diamond$

晴れ 本の姿も雄々しく、 八日午前九時判より支部主催の下に華々しく其の絢爛の幕は て落された。 溌剌たる意気に燃へ、必勝を小さな胸に秘して、 の第一回パ ウリスタ少年陸上競技大会は、一九三八年九月十 珈琲の花薫るマリリア綜合運動場に於ける、 非常時少年日 0

#### $\Diamond$

酉部 主催者側代表者の開会の辞、豊臣総裁 場式開始、 表する、少年戦士二百余名、定刻西部マリリアチームを先頭に入 リと浮立つ白線の上軒昂たる意気の下、高らかに伯日両国歌合唱、 れば、 此  $\mathcal{O}$ マリリア東部 日集るチ 西部マリリアチ カフェーの花漸く開かんとする薫風の緑 ム、バウルー、ドアルナーナ、ヴェラクル マリリア、ポンペイアの六学区五千の児童を代 ーム代表、宮崎選手によって宣誓も高ら の挨拶、 村田審判長の訓示 の中、クツキ ース、

かに真摯敢闘、少年魂の躍動は展開されて行く。

 $\Diamond$ 

第一グルツポ校長の日伯親善を強調する祝辞あり、帝国行進曲を やき、リレー優勝杯それっぞれ優勝チームに授与、エステリツタ 盛会裡に午後五時半終了。栄冠はポンペイア区の上に燦として輝 高らかに合唱盛大裡に閉会した。 へ、主催者側の行届きたる日伯親善振りも見受けられた。かくて 此の日一点の雲もなく絶好なるスポーツ日和、伯人側来賓とし ドトールカユピー氏、市長、警察署長、小学校長等の顔も見 (編纂員)

○大会成績

▼五○米決勝 (男子)

一、鹿 毛 (ド) 七秒八 福 田 (ヴ

三、豊島(西)

▼五○米決勝(女子)

一、稲 生(ポ)八秒

二、馬場(東)

三、濱 田(西)

▼A組百米 (男子)

円 港 (ポ) 三秒浩 浦 野 (東)

三、田港(ポ)

▼A組百米 (女子)

一、 平 野 (西) 一三秒九 井 手 (ポ)

三、亀 山9ポ)

▼B組百米 (男子)

一、鹿毛(ド)一五秒

二、福田(ヴ)

三、豊 島 (東)

二、神 崎 (ヴ)一、馬 場 (東)B組百米 (女子) 一五秒

三、一、二 長 浦 百 野へ東) 二七秒六場(男子) 田 海 (ポ)

瀬 (西)

一、西 丸(

丸(西)

一〇・八二米

二、林 田 (東)

橋 (ヴ) - 六七米

三、舟

一〇・四四米

長 巾 跳 (西)

五・○二米 二、 一二米 一二、 巾内上 跳山村 (女子) (女子)

濱 田 (西)

亚 井  $\widehat{\mathbb{F}}$ 

島 (西)

三・九三米▼走、二、四・一八米 二、 高 中 跳 (男子)

舟 橋

•四〇米 二、 西 丸 (西)

一·四〇米 三、池 尻 (ド)

一・三五米▼走 高 跳(女子)

一、平野(西)

一・一五米 二、伊 藤 (ポ)

一・一五米 三、平 島(ド)

一・一五米

▼四百米リレー (B組男子)

一カンガンギ(ポ)

一・〇二分

三、ア リ リ(ポ)二、第一昭和(東)

▼四百米リレー (B組女子)

一、中央メスキッタ(東)

一・○六七分 二、ヴエアード(酉)

ヨゴモーン(よれて三、アーサーヒ(ポ)

四百米リレー (A組女子) 一、ヴエアード (西

一 分 F

二、ポンペイア中央(ポ) 第一昭和 (東)

▼八百米リレーへ男子)

一、カンガンギ(ポ)

一・五五分 二、中央メスキッタ(東)

三、ポンペイア植(ポ) 〇得点

ポンペイア区 一一五点

東部マリリア区 八八点 西部マリリア区 八六点

ヴェラクルース区 四八点 ドアルチーナ区 四七点 バウ

ルー区 三点

(以上)

# 少年陸上競技大会

順序

◎開 会式

場 式

日伯両国々歌合唱

主催者側挨拶

総

裁

訓

辞

委員長葡語挨拶

審判長注意

選手代表宣誓

退

競 技 開 始

◎閉 会 式

整 列

結 果 報 告

優勝旗優勝杯授与

退場

◎役 員

主催者側 五十嵐重虎

橋本 俊次

総

豊富 發揚

裁

副総裁

審判長

村田道之助

芳賀 下江倞太郎 仁吉

委員長

阿部

達三

員

村上

原口 上田留五郎 崎蔵

沖 周

郎

野村

秀吉

佐藤 吉山市五郎 達二

神山 忠雄

◎係員

記録係

浦川 岡崎 

北本

輝雄 親

出発合図係

決勝審判係

田代 勇

山代 深文

木村 実取

途中監察係

淵田

稔

熊井徳右衛門

古澤

典穂

岡村

準備係

大槻

五郎

笠原

峯 生

跳躍審判係

北 原 本

正男

武雄

久 親

警備係

青木

清義

善造

政市

時計係

三木

猛夫

土井新次郎

藤村

守貞

衛生係 加藤 忠三

 授与係
 宮井
 宣哲

 召集係
 安田 知晴

 通報係
 神尾 亮三

 田中 勝二

)監督 石集係

ヴェラクルース寺門芳雄バウルー 清水美貴雄

西部マリリア深井喜平次東部マリリア

ポンペイア 大竹 文二

◎プログラム

五十米予選 B 組 男 五十米予選 B 組 女

百米予選 A組女

走幅跳決勝 A組女 和組男

 百米予選
 B組男

 百米予選
 B組女

走幅跳決勝 A組男 二百米予選 A組男

四百リレー予選B組男四百リレー予選B組女

八百リレー予選A組男走幅跳決勝 A組女

四百リ

— 予選·

組女

ドアルチーナ土井新次郎

五十米決勝 B組女

百米決勝 五十米決勝 B組男

百米決勝 A組男

三段跳決勝 A組男

教員対抗リレー 学区別

百米決勝 B組

B組

二百米決勝 A組男

リレー決勝 B組
男

リレー決勝 A組女

リレー決勝 A組男

◎規 定

一、優勝区ニハ優勝旗ヲ授 興ス。

、次位区及リレー一位ノ チームニ ハ優勝杯ヲ授輿 ス。

三、各競技決勝一位ニハ日伯新聞社寄贈ノメダルヲ授輿 ス。

◎選 手

B組五○米

男子

岡田 俊平(ポ)

大境 健義(ポ)

玉城 清松(ポ)

我妻 次男 (マ西)

島袋 実(マ西)

高田 昭二 (マ西)

末長 政義(マ東)

豊島清太 (マ東)

奏 中村貞雄 政敏 ヴ (マ東)

古賀正美 (バ)

蓮沼俊男 ゔゔ゙ゔ

熊谷 武

女 子

須藤 重子 (ポ)

芹川 アサ (ポ)

稲生 久 江 (ポ) (マ西)

葛城美智子

豊田 壽義 (マ西

濱田トミヤ(マ西)

豊島ミサヱ (マ東)

馬場 甲斐 節子 京子 (マ東) (マ東)

神崎フミ子 ヷ

中村 新見ケサミ 壽枝 (ヴ (ヴ

岩崎 佐藤リク子 絹子 F

F

青山 瀧子 F

長松千代香 本田文子(バ) (バ)

橋本チズ子(バ)

A組百米

田港 朝実 (ポ)

田港 朝徳 (ポ)

長瀬善ウエ門(マ西) 一番田 丞(マ西)

江 上川 村

浦野 

倉岡一美(ヴ)

松生 宣夫 (ヴ) 小松 孝(ヴ)

田中 忠彦(ド) 小宮山義廣(ド)

松原 展 萬里雄 (ド) 原 徳長 (バ) (ボ)

池内

神尾

三好 愛子(ポ)

梶川スミス (マ西)平野 絹子 (マ西)井手ミツス (ポ)

野村 島田 味村 品子 (マ東東西)

井本 高橋 長谷尾政江 ヷ ヷ

本山マリ子 岩崎百合子 川上 浅江 

須山茄子単山シヅッ子俊子

島袋 幌岩 大城  $(\vec{x}, \vec{y})$ (マ西)

玉 城

清松

男子

佐藤太利吉

(ポ)

B組百米

義昭明二実 

高田

清太 政美 (マ東) (マ東) (マ東)

末長

松原

豊島

三重

ヷ

正美

ヷ

覚

ヴ

畠山 勝巳

器 職 職 事 業 業 美 実 

林 熊田 女 谷 芹川三 (マ西) 照子 (ポ)

武

下山ミスミ 濱田トミヤ

甲斐 節子 , (マ西) (マ西) (マ西)

神崎大子豊島京子東方東子京子東子 佐神中藤崎村 ヷ

沖山ミネ子 岩崎 絹子

 Image: Control of the control of the

A組二百米 橋本千鶴子

富田 武夫 (ポ)

子

長瀬善ウエ門(マ西)宮崎 叡(マ西)小原 元幸(マ西) 田港 田港 朝徳 朝実 (ポ)

浦野 上村 内川 廣芳 輝夫 繁(マ東) (マ東) (マ東)

岡 小宮山義廣 萬里雄 喜 宣 夫 F Ĵ Ď

田中

忠彦

F

松生

ヷ

小松

孝

(ヴ

三浦

内山 池内 義治 明  $\widehat{\cancel{\mathcal{I}}}\widehat{\cancel{\mathcal{I}}}\widehat{\cancel{\mathcal{I}}}\widehat{\cancel{\mathcal{I}}}$ 

神尾 重人

A組三段跳

男子

川端

保 (ポ)

菊男 弘 (マ西)  $\widehat{\forall}$ 西

伊原

河野

益幸

(ポ)

朝長

忠良(ポ)

督幸 勉  $\widehat{\vec{q}} = \widehat{\vec{q}}$ 東 西

西丸

江川

輝夫

(マ東)

松原 徳良 (バ)

富田 八 重

平 三 井 好 濱田ミキヤ 愛子 マリ 

佐藤嘉津子 (マ 東 西 西 西

長谷尾政江 齋藤 トモ 古賀スナエ 田尻ツユカ (マ東)

ヷ

ヷ

今福ヨシエ 幸子 岩崎 絹子

久保田ヨシ 亀山シヅヨ 

須山 茄子

河北サトミ

加賀屋政彦 A組走高跳 子

西丸 田港 朝徳 正吉 

河野

益幸

(マ西)

宮崎

池 武 展 須崎 中江上村川村 田中 舟橋 勉(マ東)輝夫(マ東) 忠彦 重 重 弥 彦 新平 助次 義盛 督幸 (マ西) 一明 繁(マ東) ヷ

伊藤チルヱ平井チヅェ 女 子  $\widehat{\mathcal{X}} \widehat{\mathcal{X}} \widehat{\mathcal{X}}$ 

神松尾本

松本ヤヨイ 型 馬場 京子 育子 佐藤寿都子 東東西西西

青山 平島 長谷尾政江 瀧子 照子 Î Î Î Î

今福ヨシエ

B組リレ

 男

 女
 V、ヴェラクルース

 女
 Y、ヴェラクルース

 女
 Y、ヴェラクルース

 女
 Y、ヴェラクルース

 女
 Y、ヴェラクルース

 が、マッリリア日
 Yのウリスタ第二

 ボーコンガンデー
 ターウェラクルース

 オーロスター
 イアー

 サーススター
 イアー

 アーウェラクルース
 アー

 アーウェラクルース
 アー

 アーウェース
 サーク・アート

 アート
 サート

 アート
 サート

 アート
 サート

 アート
 サート

 アート
 サート</t

PSMTMDボウルーBバウルーボアソレテヴェラクルーヴェラクルースサ央メスキーナカンガンド目伯大サンペイア値地

女子第一富士フェルナンス・ヂーアスボアソルテ中央メスキッタ

マリリア日伯

ヴィアード

カンガンギ

朝日

ポンペイア中央

# 校歌・青少年歌

校歌 の 部

ポンペイア区

アミザーデ校運動歌

作詞林

田

亀

彦1

、おく露白く秋蘭けて

今日は運動競技会

日頃鍛えし腕前を

示すは今日ぞ吾が友よ

二、神武この方日の本の一方では全日ぞ君があり

未練のふるまひは

断じてするな吾が友よ

三、勝も負くるも帝国の

公正の道守るとも

亦寛容を忘るゝな

四、千草の花は異なれど

劣り勝りの技も皆

汚れぬ其の名は武勇なり

卑怯

ほまれを分つ吾等なり

春は同じき草の色

里国の為になるぞかし 五、負けじと思ふ誠心に 王事に湛へん願ひあり 横を争ふ丹誠に 祖国を懐ふ血潮あり 紅染むる鶏頭の 然ゆるが如き心もて のみ影

モーロ・レドンド小学校々歌

(昭和

十年)

作 詩 岡崎 親

生れ出でたる、モーロ校 性名こゝに象りて 生れ出でたる、モーロ校

要だ萬里涯もなく 朝の空の色潔く が変の色潔く

あゝブラジルの大自然

父祖の教を研かなんいざや進まん学業にまこと吾等の意を得たり

我等の愛に惠まるゝ我等の郷土は日に興る

明倫舎校歌

古澤典穂作

地に憂々と絶間なき一、塵芥遠き豊饒の

我がパウリスタ植民地

一、此処に建ちけむ学園は

燃ゆる希望を胸に秘め

いそしみ励む明倫舎

三、仰げば高き悠久の

聖き光を恵むなれ

では自然の動脈から<br />
の、天空摩する常盤木の

五、親全体譲の影涵す

仁義の流れいと清く

一視同敬隔てなき

「寛宏」誇る我等なれ

六、盤根錯節何のその

正大、剛健、寛宏を綱領とす)

幾多辛苦の花薫る

飛翔を習ふ同胞が

人の心に「正大」の

雄叫びあぐる簫籟に

剛健」漲る我が血潮

聞

享けし教訓を感銘し

図南の志気を養ひて

総ては盡す国の為

フレンテ・ウニカ小学校々歌 松野尾泰行

おほらけき世紀の光身に あびて

作

曲

神野

書雄

愛と正義の久遠の理想

あまた同志の血をうけ継 ぎし

若き生命の起うべき秋ぞ 力なり

 $\Diamond$ 

二、我等こそ大なる国民大陽の子供

やまと心の栄ある勇士 母国日本の輝継ぎて

若き生命の起つべき秋ぞ 高らかに

 $\Diamond$ 

二、新線の原野に充てる大自然

これぞ鍬取る我らが誘り 聖き労働の汗をばつぎて 若

き生命の起つべき秋ぞ 汗をこそ

 $\Diamond$ 

2、あまねくも文化の光世の 為に

堂々の歩武我らが力

学ぶ智識の精神をつぎて 若き生命の起つべき秋ぞ 学

ばなん

 $\Diamond$ 

五、小さき魂鍛へる火花とび ちりて

青雲の果至誠に通ず

栄えある歴史我れが校舎 若き生命の起つべき秋ぞ

フレンチ ウニカ

モーロレドンド青年歌青少年校歌の部

作 諸 岡 崎 親

日出づる国の健男児
大洋を越へ、曠野に生る
大志常に祖国を想ひ
白熱郷土の大地に立つ
剛健は吾が名
『時に生る

精励たゆます心魂を錬る 力行常に時代を想ひ 東亜に聳へ磐石安し 東亜に聳へ磐石安し

青春ぞ

力。

悠久、共和の眞理に生くる高く埋憩の大旗をかゝぐ高く埋憩の大旗をかゝぐ

# 団結は吾が名

青春ぞ力。

(昭和十二年)

# アミザーデ青少年歌

こゝに吾等の使命あり文化の栄とこしへに世界に誇る民族の

こゝに吾等の雄図あり。 斧鍬の響、こだまする 拓く無限の曠野原

こゝに吾等の覚悟あり 協心正に意気揚る 同気覚めて若人の

 $\Diamond$ 

こゝに吾等の責務あり 青春の肉躍るべし 正気漲る東海の 嗚呼日伯の親善に

児童作品展覧会

作文の部

一等当選作品

序言

は何に騒いだか。 である。教育の嵐峭々として児童の身辺に迫り其の これはバウルー管内児童作品展覧会作文の部一等に推された作品 いたいけな胸

この は余りに其の心情切々たるものがある。過渡期に於ける邦語教育 一文に現はれた精神は只に親、教師の精神の反映と観ずるに 一駒として敢て茲に再録する次第である。 (編纂部)

#### 本語学校がなくな 五学年 0 ても 長 尾 貞 グワラゝ 子 ス市日本人小学校

られたような気持がしました。 遊戯をしたり、 なんだか今まで持って居た私の が今度ブラジルの法律で外国語が今年中で出来なくなると聞いて、 本学校へ 行って友達と一緒に日本語を勉強したり、 体操したりするのが私の一番楽しみでした。 一番好きな物を狂犬にでも奪ひ取 運動場で

の事で、十才の時です。グルツプ・エスコーラへ通学し始めた 思へば私が日本語学校に通ふやうになったのは、今から三年前 今から丁度三年前です。

たが、日本人の子だから、日本語を知らなければ ら發行された日本語読本巻八を、一冊習ひました。 りました。入学三ヶ年、国語読本巻五から巻十迄終り、 く言れたので、学校へ入学前から少しは、日本語の勉強をして居 を、まなんでをります。その間にブラジル日本人教育普及会か のお父さんやお母さんは何時も「お前達は、ブラジルで生れ いかん」と、 今は巻十 強

ならぬと命令が出た時最後の授業時間にアメル先生が、 少年に注意された言葉。 の各小学校がフランス語が出来なくなり、ドイツ語の外は教へて の授業」を、 私がこの綴方を書く時思出すのは、日本語読本巻八、 先生から習った時の事です。アルサスローレンス 十九 フランツ

今日と言ふ今日は、其の結果がお前にわかったらう。全体アルサ 「フランツや、私は今日はお前を罰しはせぬ、 何 があたりま でも時間はある明日勉強すればよい」と。 へだ、 お前などは、 毎日おきまりに言ってゐた しか しお前は罰せら どうだな、

語は、 事が 語を日本語になほせばよいのでせう。尚アメル先生は、「フラン う あったが、此の発生の最後の言葉が一つ一つ、いまの私達に適合 葉をよく護って、決して忘れてはならない。 少年少女達に対する言葉のように思はれるのです。たゞフランス らう屋の鍵を持ってゐるやうなものだ。」と、 の境遇に落ちやうとも、其の国の言葉を護ってゐる間、ちゃうど、 フランツ少年に対する言葉でなくつて、ブラジルに於ける日本 してゐるのではないでせうか。 「何だ、 の教育を、 何よりの不幸だったのだ。今になると、敵国の人達は言ふだら 出来るか。」と書いてあったが、私達には此の言葉は、 が書けも、 我々の先祖から持伝 お前達は、 何時も其の通りに明日に 読めもしないくせに」と、 それでもフランス人だと言ふのか、 へた大事な言某だから、我々は此の言 延してゐたのが それに対して、 たとへ一国民が奴隷 説かれたと書いて "、 ル 何 サ いまは ラ ス 迈

先祖 の臣民を持 には 特に私達は、日本人です。 から持ち伝 の底に思ひをかたくするのです。 他の 国とちがって、上に萬世一系の天皇を戴き、 つ立派な国である。」と、 へられた大事な言葉を、あくまで護らねぼならぬ、 何時か先生がお詰にな かうした国体を持つ我々は、 った。「私達 下に忠勇

れられやう。 たとへ学校はなくとも、この貴い国語日本の言葉をどうして忘 いよいよ私はかたく決心する気持が起きたのです。

# 教育訓言

Ŕ ◎書あれど教 教をまち て成る。 へざれば子孫愚なり。 中 鑑) 白 楽 天 ◎性 は善な

り

日常の挙動を一 の意義は、 新せしむるにあり。 人々に知らざる事を知るよう教ふるに非ずして、 (ラスキン) が

## 人 と 業績

総ゆる事業の中で、 の上に栄光あれ 教育事業は最も尊 この事の為に労せし

バウルーの部

# ◇芳賀仁吉氏

苦闘史の中の長い頁である あったが、延長線に於いてはガルサ植民地の四年間が二十年間 酸を甘め苦労した人は少ないであらう。 何事でも先駆者の努力は実に偉大なものであるが、氏 渡伯以来苦労の連続で の如  $\mathcal{O}$ 

会長、 支援者が多くあったことであると思ふ。氏が今日一枚の名刺に、 を務めた。 ること勿論であるが、同時に氏の人柄の良さから、陰に陽に氏の 市に移り、遂に今日の大をなしたが、是は氏の奮闘努力の賜であ この頃から黎明の微かな光が見えだしたらしい。翌々年バ およそ書列ねることが出来ない程の公職に就き、公共の為に尽力 い精神に依ることゝ思はれる。バウルー日本人会長同区学校協議 しつゝあるは、その長い苦惨な生活から生れた、社会奉仕の美し 文教会評議員、 バウルー領事館管轄聯合日本人会、 ウル 副会長

(福島県伊達郡長岡の出身である)

## 阿部一一氏

氏は十二才にして渡伯し 、中等教育まで受けてから母国に帰 ŋ

立派 対伯 拓に され名誉ある表彰状銀盃を授興されたこと等に依 節当日、帝国教育会より海外に於ける教育事業功労者として表彰 舎を建築し、子弟教育に邁進された点はあまりに有名である。 ことが出来やう。 文教普及会学務委員に挙げられ、皇紀二千六百年二月十一日紀元 他 氏 資格取得についての功績もその大なるものゝ一つである。 め重要なる人物となった所以ではあるまいか。富士植民地開 の実績につい 人関係、就中教育方面に於る氏の努力は枚拳に遥なく多数教 の様な人を云ふのであらう。これが若くして各種 に兵役を務め果して再渡航した人、文字通り和魂伯才 \ \ 7 の努力、私財八十コントスを投じて地方稀にみる大校 ては、氏がバウルー日本人会長、学校協議会長、 ってもうなづく の業績を挙 人と

(氏は四国徳島県の出身である)

# 竹 田 清一氏

難局 昭和二年七月、 多言を要 文教会学務委員に推され、幾多の公共事業に邁進ンされ を持ってゐるといふことは、在伯日向浅くして今日の位置を築き から中等学校に通ってゐる。バウルー日本人会長、学校協議会長、 上げたことが雄弁に物語ってゐる。氏は既に一九三七年七月より、 ふ感じのする人、 てこんな嬉 氏は海外發展に多くの先駆者を持つ和歌山県の出身で、渡伯は 引続きバウルーに居を構へてゐる人である。 に遭遇 一月に亙り母国を訪れ、 しない。特に伯国法令に従ひ邦語学校閉鎖に至るまで いことは少ない。氏の長男長女はこの老父母の膝下 ・バウル 献身的努力を続けられたことを見逃してはならな 寡言にして実行力に富み、 駅レクレイオ耕地に入り、 老父母を見舞ひ慰めた。 しかも粘り強 一見、 現在の成功ま 重厚とい い性質

いであろう。

## 澤尾磯七氏

ら古 滋賀県 , ,  $\mathcal{O}$ 出身で、三十年前ペル ーより伯国に移られたとい ふか

現在 ける、 会の顧問として、無くてはならない人物である、 室に児童を集めて教へてゐた時代もあった。歴代バウル 子嬢は同氏の二女で、伯国女子師範学校の出身である。 きよく、その職責を完うされたものである。 に対する父兄の理解と、熱意と相俟って、対伯: 中等教育を受けしめた。元バウルー日本人小学校々長、 の地に旅館を開業したのが大正五年。同氏はバ 日本語教育開始当初より熱心なる後援者で、 人関係を円満に 子弟には 同氏宅 ウル 澤尾千代 邦語教育 何れ 日本  $\mathcal{O}$ 市 地下 to

#### 笠井貞蔵氏

製造販売に アラ ナ かゝる、 ・キングの名は、 優良飲料水である。 内外人に知られてゐるがこれは氏

尚浅 氏は北海道の出身で、昭和八年の渡伯といふから、 しといっていのに、この成功は異数といふべきであらう。 文字通り 日

貢献せる功績は太なるものがある。三女は女学校卒業末子幸三君 地日本人会創設以来引続き学務委員を務めた人、市の邦語教育に 近頃、氏の如き熱心家のあることは誠に嬉しい限りである氏は同 後、己れの子弟を殆どほったらかしにしてゐる恥しい父兄の多い は育英生として州立中学校に在学し成績抜群、邦人第二世のため 氏の子弟教育に対する熱意には敬服させられる。邦語学校閉

気を吐いてゐる秀才である。

## 有野仁篤氏

ある。 カ ロ 氏は大パウルー 青年の良き相談相手となり示範となって居られる。 拘らずこの重任を担はせられたのも氏の人徳の然らしむる所以で 国入団体 く合法的な社交機 理事長を務められてゐるのがこの有野氏である。渡伯日浅きに ウル の渡伯である。 ン製造業を営み頗る盛業中である。氏の出身は東京府、 仁篤は人徳と通ずと云ふべきか、 が法 市 令によっ 内邦 の倶楽部理事長の外、同地青年倉の顧問に推され、 関とし 人に依 て認められなくな で倶楽部組織にしてしまったが、現在そ 0 て組織され てゐ 無口にして温厚篤実なる った為め解散 た同地日本人会も、 日下市内にマ し、いち早

## 須山 周蔵氏

#### 第一富士

精通し、 年の修練による人格の完成である。 は大正二年の 農事に造詣あるは当然とし 渡伯である。 在伯年数 て、 の古 今一つ特記すべきは 1 事によ り、 国情

び、北パラナ方面に転じて栂作に従事し 今日までの足跡を辿れば、 の結晶とをもつて、現在同地に広大なる農園を経営して居られ 人である。 最初モヂア ナ線に就働 し、其の豊富なる体験と、 後ソ 口 る 及

育的業績は一再に止まらない。 日 会創立当時よ バウルー 区学校協議会理事に当選された事もあり り現在まで、終始 (福岡県の出身である) 貫会長を歴任され 其の教  $\mathcal{O}$ 

## 坂井弥助氏

#### 第一富士

年の研鑽により農事経営に優れたる才能  $\mathcal{O}$ で、後バラコンに転じ、棉作其の他に従事されたものである。永 氏は最初パ 延長線ドアルチー ナ駅、福嘉植民地に入植されたも

農産成績を挙げて居られるものである。 を有し、現在第一富士に在って手広く棉作を営み、 年々異数なる

伯、穏健実直の人として在植著の信望が厚い。 居られたものである。 人格と、 日会役員としては多年学務委員の重職にあり、其の卓越 熱烈なる民族精神とをもつて、二世教育の為に挺身し 福岡県の出身にして、 大正十四年九月の したる 渡

(フラン 人物は、逆境に錬へられて初めて生まれる、すべて皆同じである。 訓言 クリン) 寒気の強い年には、春にはって木々の緑が一入繁茂する。

### 飛永権蔵氏

#### 第二富十

伯し、 教育の為に奔走せられたものである。 材を認められて日会長の重職につき、 氏は福岡県三井郡金島村の出身である。昭和四年六月、勇躍渡 当植民地に入るや、 第四次改選に於いて、 只管に植民地経営と、 其の優れたる人

現在尚日会顧問として、会の枢機に参画して居られる。

#### 山田宗春氏

#### 第二富士

地 の福祉増進、 して同地植民史の上に輝く光彩を放 は同地に在って長年日会長の要職にあり合の向上發展、植民 二世教育の興隆發達を図られも 0 てゐるもの ので、 其の功績は である。

あり、 協議会の幹部役員として、二世教育の為に奔走されてゐるもので 尚氏の活動範囲は只に同植民地のみに止らず、バウル 正に地方開拓の逸材と言ふべきであらう。 —区学校

日会長として会務の統制に当つてゐられる。 熊本県上益城郡の出身にして、 昭和五年七月の釆伯、 現在尚同

#### 古座貞助氏

第二富士

時代に於て土木委員となり、具さに其の辛酸を嘗められたも 乏しき為の災厄病没 邦移植民初期 る貴産物搬出 当初に於ける植民地開設の辛苦は、其の困難の程度に於 当地開拓  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 難行、 の恩人的存在である。 それにも比すべきものがある。道路不完全よ // 用水不足による日常生活 数へ来れば枚拳に遑がない。 の難渋、 ″氏は此 衛生 1 り来  $\mathcal{O}$ 

兼合計として植民地の為に貢献中である。 岩手県気山郡の出身にして、 昭和六年 月 渡伯、 現在学務委

## 青木 清氏

第二富士

育 努め の為に尽力された教育事業界の は られ バ ウル 日会長とし ・区リオ て永年其の ベルデ校開設に当り、 大先達である。現在は第二富士 職を続け、植民地統制と二世教 卒先し て其  $\mathcal{O}$ 

植 植者を挙げて、 民地に居城し、 方青年会顧問として青年団の指導に寧日なき有様で、 賞賛の 副会長の重職にあ 的となってゐる。 0 て煩雑なる会務を担当し 在

## 岩間昌平氏

#### 第四富士

拓事業 才腕 制並に二世教育の為に尽力され、其の卓抜なる人格と、 思出がある事であらう。第二次役員改選には会長として植民地統 よく者の信望が 氏 は とを以って、 昭  $\mathcal{O}$ 体験をされたもの 和十二年八月、当地に於ける第一回入植者とし |厚い 幾多 の功績を胎して居られる逸材であ で、そこには筆舌に尽くし難き辛酸 秀れたる て自 り、 ら開 在

して、 山梨県八代郡の 会の枢機に 出身にして、昭和十年 参画 て居られる。 月の 現在 相談役

# 柏倉 次郎氏

#### 第四富士

委員 建設 であ 郡 実に、不眠不休の努力を続けて居られるも 育事業に携同地の区域拡大と共に、第三富士 氏 の出身に Ŋ, に献身されたもので、現在其の日会長として植民地の開發充 の重職につきはれたものである。 は其の昔、富士植民地が未だ分割されざる時代の 日会設立と共に衆望を負ふて副会長となり、 昭和四年の渡伯である。 昭和十四年、 のである。  $\mathcal{O}$ 分立となり、 親 北海道 開拓 其の後学務 しく二世教 人植者 其 別  $\mathcal{O}$ 

### 岩佐繁蔵氏

#### 「更生」

ある。 営の実務を経験されたもので、伯国 史に不滅の光を輝かすであろう。福岡県浮羽郡水縄村の出身に 地開発の為に献身されたもので、其の功績は燦として、同地植民 には開拓 氏は大正三年五月の渡伯である。多年モヂアナ線に於て農業経 性温厚堅実、 の先駆者として入植され、総ゆる困難を克服しつゝ植民 現在尚在植者の信望を得て、 々情と共に造詣が探い 学務委員の重職に

#### 奥村正二氏

#### 更生

も亦、在植者の熱誠なる努力によって其の發達を招来する。 四年六月である との日会長として其の敏腕を揮って居られるが心中何となく淋 れたもので、其の業績も亦多大なるものがある。現在日語なきあ 入植以来、専ら児童教育に深い関心を有し、 民族の發展は教育事業の充実によって始まる。植民地二世教育 のがあると言ふ。 熊本県上益城郡の出身にして、 卒先して犠牲奉仕さ 渡伯は昭和 氏は

## 土井 藤楠氏

#### (更生)

努力あ 員、 展に尽力中である。 氏はモヂアナより転じて此所に入植し、其の間十有余年学務委 会長を歴任せられ、 り、 現在尚日会顧問、 和歌山顆有田郡の出身にして、大正十一年二 日語学校設立に当っては多大なる犠牲的 並に聯合日会評議員として、 其の發

# ドアルチーナの部

ある。 であり 於い 氏依る結果だと思ふ。単に邦人間ばかりではない。対外人関係に がない。これは氏の円満な性格が然らしめる所に違ひない にそれ丈ではない。氏が同地方に尽くした大きな功績に村上達三 からす、名声又至極宜しい。何所を歩いても氏の蔭口を言ふも て釆ただけ、同地方に於ける同氏の地位は実に牢固として抜くべ パ延長線 ても同様に云ふことが出来る。氏が町の日本人会の萬年会長 し学校協議会長、文教会学畢務委員であったことも有名で で最も古い福嘉植民地から、町へ出 て今日まで頑張 が

渡伯は大正十年十一月である。 (出身は和歌 山県新宮町)

## 太郎良正氏

身地は 非常時に当つて氏の尽した努力は、一般から感謝されてゐる。 をして呉れる人は、なかなか少な も本当に上手に葡語を操り、日伯人間を円滑に運ばして行く役 に交友多く、 実に若々しい青年だなといふのが氏から受けた感じだった。 これが四人の子女の 大分県日田郡夜明村、 なくてはならな 昭和八年、 同地方邦人の為に、よく骨を折って居られ 現在に及んでゐる。 1 父親とは思はれなかっ 町の重鎮であるといふ。何所の土地 大正二年の渡伯である。 いものであるが、 た。 氏は市内伯 この 町に居を定 仁が対伯 割

## 林明氏

常に教師の良き理解者、後援者となって努力した仁、東京の出身、 於いて氏の存在は、実に大きいと言はねばならない。現在ドアル 是が指導者となって善導しょうと乗出す者は誠に少ないこの点に る。邦語教育関係に於いても、学務委員としてまた副会長として チーナ青年聯盟理事長として、同地方青年層の指導に尽力してゐ 渡伯は昭和九年十月であった。 て、これが成果を収めたいと心あるものは常に考 邦人社会の改善は青年の努力に俟っ外ない年の意気と実行力に へてゐる。然し、

# 瀧 内 兵 太氏

氏なども其の有力な一人と言ふことが出来る。 は、すべて在植者の協力一致によることは言ふまでもないが チーナの邦人社会が長い間波立たずに、すくすくと伸びて来たに である。ドアル 氏は福岡県浮羽郡山春村の出身で、大正二年九月に渡伯 着実に地歩を築いて来た温厚篤賓な人である。 チーナ町に来た一九三五年頃まで町附近で農業に ドアル した人

現在日本人会長に推されてゐるのも其の人柄からであ

#### 岸 田 清氏

更らにポンペイア市、薬局を本山氏と共同にて経営なし、 は本格的なもの 地方に於ける邦人の恩惠は甚大なものである。 昭和六年渡伯後直ちにリンス市今田医学士の下にて医術を修め、 ルチーナ市 で、世間 に独立、 の藪医者なとゝは比べも 現在 の隆盛を来して居る氏 のにならぬので、

#### 三坂嘉蔵氏

#### 〔福嘉第一〕

が、氏は常に子弟の教育問題を先づ如何にするかといふことを中 聖市の中学を優秀な成績で卒業し、工科を志望して勉強 岡県の人。 現しつゝあり、 心として、凡ての事業を計画し奮闘 金儲けに忙しくて子供をほ 中には、生活に追はれて子弟の教育を怠ってしまっ 堅実な人と云ふ感じ 長女は聖市 二男は七月より聖市に出すと云ふ。 一方会の代表者に何回も選ばれ、尽力してゐる。福 の商業学校、 のする人である。ブラジルに古くなった人 ったらかしてしまった者がかなり多い 次女は同じく聖市の女学校に在学夢 して来たといふ。氏の長男は 氏の教育計画は着々と具 た者、 してゐる 或は

## 平田 源蔵氏

会副 務めるなど、平和な地である。氏の人柄に依る所大きい、 ことが出来る。 る。福嘉植民地はその名の如く福岡県出身者 敬の心を失ってはならない。同氏なども非常な辛酸を嘗めて来た ない苦労をつくした人ばかりだが、斯かる先輩に対 二十余年間に代表者が多く変らす学務委員など二十年も同じ人が 人であるが、その不撓不屈の精神を確把して突破して来た人であ 医大に在学中、 延長線 会長に選ばれ各方面に尽力されてゐる。長男は目下 分肌 に於ける氏 の線 長年代表者に推され、 の太い人だ。邦人初期の移植民時代は想像も 福岡県三井郡大橋村の出身。教育的信念の の名は知らない者が無い位だ、曲 叉バウルー  $\mathcal{O}$ 地であるが 管内聯 しては常 0 语日本· た事 と云ふ IJ 強 長 出 11

# 小宮山佐金吾氏

# フェルナン・ディアス

語教育に尽力されたものである。氏は又養蚕業の外に某植民地に 九年錦植民地入植以釆、西村氏との名コンビで学務委員とし も大規模に棉作を経営してゐる事業家である。 人物である。長野県上高井郡の出身にして、 氏 の姓名は昔の武士を偲ぶものがあるが 、接して見ると温 大正十 年の渡伯昭和 厚な

## 柳原繁次氏

なる 珈 其の買上を待ってゐると云ふ。福岡県朝倉郡の出身にして、大正 特に今年度は發育最良の珈琲として、州政府指定種子に認定され、 れたもの る苦難と闘 一年八月の渡伯、 日 琲園を経営し、 氏は今を去る十七年前、邦人三〇家族を引具して入植 カフ ーカ小学校を設立し、親しく二世教育の為に其の面倒を見ら である。 エーは、 って、遂に目的を完遂された立志伝中の 大正十五年八月の 現在依然としてバレリーニヤに在り、広大なる 内外人間に、 既にサンパウロ州政府農事課の検定済となり、 絶大なる信望を博し、 人植である。 人で、 其の生産に 後マン 絶ゆ

# ◎教育訓言

且之を慰め、 書籍は少年の食物と為り老年を楽しま 而して旅行の際に在りては夜間の伴侶と為るなり。 家に在りては快楽の種子と為り、 しめ、 繁栄と装飾と逃避所と為 外に為るも防碍物と為ら (シセロ) り

## 西村 厚氏

制将又小学校創設経営に努力されし点は同地方の何人も感謝し居 昭和三年錦栄植民地入植以来養蚕業を主として着実な歩みを続け るところであり、 てゐる。 氏の出身地は長野県埴科村、さすがに長野県出身だけあって、 フェルナン・ディアス日本人会萬年会長として植民地統 其の功績も亦多大である。

# 田 中賓太郎氏

〔福嘉子隔第二〕

労が多かった。 氏 は同地に於ける重鎮であり、会長として児童教育に対する功

#### 訓言

大切なことである。 より家庭で練り上げた修養と鍛錬が、 人を本当に作り上げるのには平素の家庭が最も大事である。 立派な人物を作り上げるには最も (東郷平八郎) 青少年時代

## 笠 久登氏

[福嘉第二]

氏は同日会学務委員として二世教育に尽力した人である。

# 柳原 勘兵衛氏

[福嘉第二]

氏は同地の元老に属し、 日会長として研磨された人である

## 古賀 庄蔵氏

#### [福嘉第二]

らざる貢献をされた人である。 は学務委員として、二十年間 を連続 一世教育の為に

## ヴエラ クルースの部

## 原口 崎蔵氏

字通り苦惨な日の連続であったらしい。其の後ソロカバナ時代も ガ、ベアード耕地時代は肌に粟を生ずるやうな恐しい事があ き、現在二ヶ所に珈琲園を持ち樹数五萬本を所有するまでよく奮 渡伯は明治四十三年六月、ヴエラクルースへは一九二七年に落着 連続選ばれるなどで教育関係の功績も大きい。特にパ延長線に於 まざる活動とによる事勿論であるが、良き伴侶である夫人の内助 子女の教育に熱心で長女は聖市の女学校五年生で成績抜群、邦人 る。其の温厚な人柄から父兄会長に推され同区学校協議会長にも 生を安楽に送らせる事が出来、今日の様な成功を克ち得たのであ 相変わらず苦闘の日は続 の力に依る所も見逃すわけにはいかない。然し氏もビラチ 闘した人である。今日の成功に至るまでには、その固い意志と倦 二世の為に気を吐いてゐる。 いて最初に新築された奨学舎の建設委員長として尽力されたよ しんで勉強した語学とが遂に実を結んで、両親を母国に返し、余 氏はヴェラクル スの最古参である。福岡県朝倉郡上秋月の人、 いたが、氏の弛まぬ奮闘と、其寸暇を惜 二女、 三女 り文

方面に志 の女学校に在学、 て勉強中であり、洵に慶祝に堪へない。 これ亦成績優秀、 長男も出聖し

## 山 内 亀 喜氏

男は育英生としてマリリア中学に在学中である。 事として、会の為に尽力してゐる。 相当苦労された。前から引続き汎ヴエラクルース中日会の常任幹 人から好かれる型である。邦語教育政終期に町の父兄会長となり、 から相常古い先輩組である。温良な性格の中に活況な所をもち 十余キ 話をやい 口の偉体をもって郵便局に頑張り、何くれと管内邦 てゐるのが氏である。熊本県出身で第二運海丸とい 文教かい学務委員であり。

## 下 田 福 松氏

築されてから、 学校は、学校として建てられたのは町から一キロもある古賀氏 始めたものである。これは約四ヶ月続いた。学校が現在の所に新 もよい、早速始めようと自宅の 熱意に燃えて、画策大いに努めた一人が同氏である而 地内であるが、それ以前に、何とかして子弟の教育をしたいとの られてゐるものを発見する様な場合もある。ヴエラクル 事を發見する。特に教育相係に於いて、最初に努力した人で忘れ た人である。 各植民地を始り、細かにその 出身は長崎県長崎市 副食会、会計、学委員となり教育方野に甚卒され 地 一室を提供して、これを教室とし  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 人渡伯は昭和三年である。 歴史を調べ て見ると、 して夜学で ース 町 々 な  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

## 四ヶ所 源太氏

な精力家である。 平時 公共の為にも実に熱心な人である。 代  $\mathcal{O}$ 武 士 の様な名前を持 家業の方に精を出してゐることは言ふまでも った氏は、 体躯  $\mathcal{O}$ 頑丈な元気一

きい。特に奨学舎の埋設に大努力を傾けたことは人のよく知る所 務委員、 常に嫌味のない、青年らしい意気を以って物事を処理して行 である。 処がある。 ダ時代は同地の希望青年会長として重きをなした。 同区学校協議会理事会計とし、 昭和十年現在の所に開店したのであるが 教育方面に尽した事は大 父兄会学

岡県三井郡大堰村の人、 一九二六年の渡伯であ

## 大和 甚三郎氏

ある。 歴から見て、当然の事であると云はなけれ ヴ エラクル これは氏が長く同地方に居住 ース地方に於 V て現在大和氏の存在は大なるも し、公共の為に働 いて来た閲

選の仁、叉汎ヴエラクル げることが出来る。現在同地産業組合の理事長として四期連続当 ばなるまい。その痩身長躯白髪を丁寧に撫で付けて、 た様子は老紳士とい の尽力の跡をみるに、ビヂランシャ及び大和両校を設立代表者と 女郡横山村、 ては代々理事として選ばれ、奨学舎建設にも尽くし事などを挙 一言無かるべからすといった仁である。学校方面に関する氏 長くこれが経営に努力した点であり、 大正七年の渡伯である。 った感じがする。何の会合でも漢語たっぷ ース聯日会副会長である。 同区学校協議会に於 出 と V)

### 上田 寅記氏

11 9 O役員 を言はずして実行力のある型等いろいろあるが、氏は し達者だが ハタイプ には さ つぱ 種 々ある。 り実行をしな 理論家型、 い型、 実行家型即ち理屈 そうかと思ふと寡

為働 員は衆の 伯である。 力をし し来た人である連続四回父兄会の学務委員に選ばれて学校 た仁 た人で、特に延長線 下僕である」といふ考へ方で、 である。 出身は熊本県飽託郡城山村、 の奨学舎建設に当っては、 常に コ ツ コ 一九 ツ 献身的 と会 の為 な努

#### 訓言

ざることを尋ぬべ 人を相手にせず、 天を相手と 一西 郷 て、 南 己を尽し、 洲 人を咎めず、 我誠  $\mathcal{O}$ 

#### 古賀亀吉氏

迄も あ 町 ラクルースの名を成さしめた有力な功労者である。 やかながら、 も見まいが、現在町の るが、何とかして日本語学校を設立して、 後まで初志を曲げず、パ延長線唯一の奨学舎まで建設し教育ヴエ いふ熱は人を動かさずには置かなかった。町に新しい人は考へ った。 か 氏はヴエラクル ないことである。其の後、終始一貫子弟教育の為に尽力、 ら一キロ 設立にあたって、並々ならぬ努力を払はれたことは言ふ にある、現在の土地に入植されたのは昭和三年であ 而も尊 スの教育を盛んならしめた先達である。 い学びやが氏の所有地内に建てられたの 一角に堂々と建設される以前に、実にさゝ 子弟の教育をしたい 食 7 لح

会計を務め現在尚ほ顧問として、 年紀元節に、 出身は福岡県浮羽郡柴刈村大正二年八月の渡伯、皇紀二千六百 父兄会より感謝状並に記念品を贈られたが 会務に参画中である。 副会長

## 喜井重宜氏

持ち、 割 であ はこの点に於い 植民地に本当によく伯語を操り得るものは誠に稀である。更に少 有るか いことは日本精神を把握して伯語に巧みなものである。氏など 邦人の発展には、伯語に上達しなければならない事は自明の りながら、現在二十萬同胞の中、 邦人の為に尽して居られるが、 愛媛県の人、 無しだと言はれた人があ て誠に重要な人物で、これまでも伯人間に交友を 渡伯は昭和三年である。 ったが、 伯語新聞の読めるも 尚今後に期待するところも 事実、 <u>ー</u>つ  $\mathcal{O}$ 町 \_\_ つの

## 竹内 金市 氏

氏の愛嬢俊子さんはヴエラ な事業家として教育方面に陰に陽に後援を怠らなかった仁である。 工場を経営してゐる。 ルースへは昭和六年移転、現在シボレ 広島県呉市の出身、 は、関係が薄か 担当して来たのであるから、学齢児童を持たない父兄は、 教育に尽されてゐる。 ヴエラ クル ース町の学校維持経営は主として、父兄会がこれを った訳だったがそれにも拘らず氏は常に町内有数 明治四十五年四月廿四日の渡伯、 現在汎ヴエラクルース中日会理事であり、 クル ス裁縫学校の校長として、女子 ー自動車代理人となり修繕 ヴエラク 直接に

## 境常古氏

デ イラ 何所 時代であっ シテ も同 じ ス植民地は、凡て であるが植民地には自か た。氏はそのパンデイランテスに於いて、長く役 の方面でヴエラク ら盛衰がある。 ル ース管内の 雄た

産物 財政方面 員とし 買業を営んで居る。 て実によく尽力した人である。 に尽したことは人のよく知るところ、 誠実な仁である。 特に、 植民地 現在 日本 町

## 湊谷 定之助 氏

事に付 理事、 は大 年七月である。 同仁合に長いこと務め現在同町に薬局を経営してゐる。 めば益々語るといふ人で、福嘉第一の先生をしてゐた頃 出身は和歌 に飲み大いに論じたといふ。現在汎ヴエラクル ても常に一 山県東無婁郡宇久井村字宇久井、 つ の定見を持 って人に語る人である。 渡伯は ス 中 酒に 氏 強 何

## 岡本 光雄 氏

誠にじみな人で表に立たないでがく校の為にもよく尽した人であ 昭和七年の事である。現在着々としてその地歩を固めつゝあるが、 る。子福者である氏の家庭も極めて和やかで一 正二年の渡伯であるが、 である。 てゐる位である 温厚其 もの とい 邦語学校終り頃の学務委員として尽力された仁 った氏は熊本県下益城郡豊田村 コン プラド ルとして 般から美しがられ 町に開業したのは の出身で、

## 新田 健次郎 氏

は、 る人である。昭和十四年六月に行はれた三駅合同学重修学旅 の働きをして、 氏は最新の写真技術を以って、パ延長線に其の名を知られ 団写真班とし 旅行団 て随伴し、 の便宜を図られたも 実費による写真帳作製頒  $\mathcal{O}$ である。 K

· は同 町にあって従来の写真館を拡張 撮影の 写真機

昭和三年六月の渡伯、 並に材料品 の篤志後援者である事を附記 の販売を兼営されてゐる。愛媛県温泉郡 入町は同十二年七月であ て謝意を表する。 った。 の出身にして、 因に氏は本

## 櫻木 鉄蔵 氏

に物語 長 んで行 にぶ ところである。 如きはその 出身で、大正二年の渡伯であるから相宮古い。 邦 人社会に重きをなしてゐる。 人植民 0 ウリスタ植民地の顧問として、活躍したことは、人の知る に正比例して語学が巧みなため、対外第一線に立って尽力、 0 0 てゐる。 上には、常に其の問に適任者が有ったわけだ。 カン 地 一人者とい 0 7 の学校問題は、何時も何かしら対外人関係 同地より贈られた感謝状と記念品が、これを雄弁 煩しさに悩まされ 現在ガルサ駅に居を移し、 ってよいだらう。氏は福岡県朝倉郡朝倉村 て来たが、 最近急激に増加 それを滑 その伯国生活 櫻木氏 らか の出来事 した

## 豊田 音次郎 氏

### [ガ ル サ]

である。 聯盟 る村の に移 教育を行 氏は北海道天監国幌延村とい ガル った 出身。 ふことの必要を痛感し サ支部長に推され、 のだが、現在町で指折りの雑貨店を営んでゐる。 昭和七年七月渡伯 邦語教育禁止の秋、 <u>、</u> ふ した人で、 、之を目差して努力しつ ケ村に、十ヶ所も停車場 ガルサ 武道により子弟 には昭和十三年 柔剣道 のあ

## 徳井 光雄 氏

月 を務めたことも、現在のピーザ植民地入植直ちに会長となり、 教育華やかな時代であったが、この植民地は叉ヴエラクル 在に及んでゐる点からも同氏の優れたる人柄が窺はれる。 内稀にみる人物の多かった土地でもある。その植民地に長く会長 である。氏のヴエラクル 明朗人徳井氏は熊本県玉名郡鍋村の出身で、渡伯は大正二年五 竹村移民。 大様で人に悪感を抱かせな ース駅サンターナに於ける生活は、 V. 衆に好かれる徳人 - ス管 邦語

## 大田 政明 氏

市に於いても青年会々長として日会設立前邦人指導者として活躍 残し、渡伯 くはるばると来りてみれば父は亡く、母は再婚して居ったので、 して社会の荒波にもまれ、全てに自信を得てガルサ市に独立、 ンペイア市 移民哀話とも称すべき氏の経歴である。 出身は広島県神石郡にて、 した両親であった。農学校を卒へ、 の叔父の下に身を寄せ商を習ひて同市青年会々長と 昭和六年の渡伯である。 父母の顔も分らぬ氏を 瞼の父母に会ふべ 同

#### 教育訓言

孫 の富貴は、  $\mathcal{O}$ 相続は、 の根元は、 父母 天地の命令にあり。 の丹精に在り。 り。 子孫の富貴は、 父母の高貴は、 身体 の根元は、 自己の勤労に在り。 先祖の勲功に在り吾身 父母の生育に在り。

#### (二宮尊徳)

## 鷲見 喜三 氏

定め、 ある。 殷賑を極めるやうになった。氏は昭和八年頃、 なって、 ガルサ市 洗濯業を営み、 出身地は岐阜県郡上郡上保村、 ・ス 町 の近傍が開けたため、 マリリアが盛んになって誠に淋しかった所 延長線で古い町で、 今日の大をなした温厚篤実な、 どんどん邦人もつめ 一時栄えたが、 渡伯は大正七年である。 すでに同地に居を 其の後ヴ 無口な人 か け、 最近 益 エラ で

### 北 友輝 氏

氏の生活である。 重きをなし、 経験を終へ、現在はガルサ市に於いて、同市邦人の中堅層として た。それは八年前ヴ 岡山県久米郡にて大正十二年の渡伯 の夜学と、 若き家長とし 常に青年指導に尽力され、 現在歯科 て多忙な身にもかゝわらす、 時に豊に商に叉運転手士として、 エラクル 医として、邦人間に知られ ース駅、 である。 サンタア 村人一同感謝 衛生に運動に叉、 ナ耕地に於ける 凡ての る。 の的であ 出身は 職業 葡  $\mathcal{O}$ 

## 梅原 善兵衛 氏

## [ガルサ植民地]

論、 きものがある。 時局を担当しつ、其の 駆者であり、二十三年間、終始一 きである。 し、態度美は 人的 氏は当植民地に於ける三大元老の 植民地経営の為に精励されたもので、現在尚会長として非常 り事に当るや細心 には悠々自若たる所があり、眞に秀れたる人格者と言ふべ 静岡県の出身にして、大正三年九月の入伯である しく、林の如き静かさの中に一面秋水を想はせる涼 氏は理性の人で才り、 再興を計 綿密を極め、 0 貫幹部役員として二世教育は て居られる姿は、 少些事もゆるがせにせぬが、 学識秀れ、熱弁よ 植民地開 正に涙ぐま く人を魅

## 宮川 治太郎氏

農業経営に卓越した手腕があり、 尽し難き辛苦を体験されたものであると言ふ。 長の重職に就き、当時財力的優勢を背景として、植民地発展の為 人として、 氏は大正六年の渡伯である。在伯年数も抜群的なものであるが、 貢献されたものであるが、氏今日の大を成す迄には、 十九年の間、最高役員として会計、 同植民地に於ける三大元老 副会長を経て、 筆舌に  $\mathcal{O}$ 会

者の尊信、 岐阜県稲葉郡の出身にして、大正九年五月の開拓入植であり 眞に切なるものがあった。 在他

重ねて哀悼の意を表する次第である。 されど比の人今や亡し。謹みて生前 の栄光輝や 功績を略述

## 長谷川 留次 氏

植であるが、 れたもので、 は早くよ して、会長の重任に就き、 氏は同植民地三大長老に次いでの大傑物的存在であり、其の り界隈に宣伝せられてゐる人である。昭和三年一月の入 枚挙に遑なき程の業績をのこして居られる。 日会役員として学務委員、衛生部長、 同地の為に文字通り懸命 副会長を歴任 の働きをなさ

私共、物質、 治四十三年五月、正しく本邦移植史の第一頁を飾るに相應 讃歎する所である。 整然とした理論の持主であるが、元来非常に温良な性格で、 家事を外にして面倒を見られる姿は在植者の斎しく 福島県河沼郡日橋村 の出身であ り、 渡伯は明

## 野田 繁太郎 氏

同地はガルア植民地とい パ延長線在伯邦人植民地としては、

され 北海道虻田郡倶知安町の出身にして、既に母国に於いて植民事業 広く其の声名を謳はれてゐたが、現在に於いては在植者の移動に 最も古事来歴ある地域に属し、 磊落剛放の人として、在植者の尊信を一身に集めてゐる人である。 変りがない。氏は此の由緒探き植民地に、 よって、 概念を持ち、 ゝあるもので、透徹した理論の持主として、将軍叉、清廉潔白、 7 ゝ あ 昔日の ったものである。 昭和七年七月渡伯以来、 面影はないが、 一貫したる伝統に於いては、 其の盛大なりし時代に於いては、 一意民族發展の為に活動 副会長として活躍され 何等

## 武井 五郎 氏

佐し、衷心より教育事業の發展を希念しつゝあった人である。 として、 ては人知れす心を砕き、二世教育の理解者、 二十年間を一日の如く本植民地の為に甚卒し、 常に学校を訪問し、 教育の実地を調べ、 日語教育の擁護者 教師の活躍を補 青少年教育に対

岐阜県武儀郡 大正十四年八月であった。 の重任を全うされたものであり、 当植民地に於ては最高幹部として少壮よく古老の間に伍して其  $\mathcal{O}$ 出身にして、 大正六年三月の渡伯、 幾多の功績を胎して居られる。 同地の入植は

#### 訓言

萬人みな生命を尊ぶ。 クスピア されど勇者は生命よりも名誉を重ず。 **②** 工

## 行弘 獅太郎 氏

同 は 年八月に現植民地に入植 特異  $\mathcal{O}$ 事業家とし て知られ 爾来九年間、 てゐる。 昭和五年六月渡伯後、 薬蚕業を営みつる

副会長 今日に及ん に褐されたもの に推されるや、禽会を佐け役員を励ま でゐる人である。 で、 其の間、 幾多の功績を胎 公共事業に対する関心は最も強く、 して居られる。 専ら植民地統制

の長男は現在陸軍少尉として出征中である。 て在植者間に畏敬せられてゐる。 8 て正直、温厚 の中に潔白なる精神を有し, 福岡県糸島郡の出身にして 得難き存在と

## 斎藤 丑左衛門氏

る。 九年 石とな 功績も亦 の為に甚卒せられた所が多い。福島県安積郡 は学務委員、其の他の重職を歴任し、会務の中でも特に二世教育 なる志望をも 氏は東京市 七月一日の渡伯、 0 寛大至直 て日会の為に貢献せられたものである。当地日会に於 再に の中学を卒業後、海外植民学校を卒業し、 って直ちに勇躍渡伯されたものである。 止まらず、洵に貴重なる存在と言富ふべ 一の人で、 人格者として、 前後二十一年間殆んど、 在植者の信望が厚く、 の出身に 同植民 性極め して、 地 其 大正

## 青柳 半吉 氏

## [ロツサグランデ]

声名を 長を重任 共事業に二世教育に貢献されたことは、筆舌に尽す所でなく、 民地に入り、 氏は奮闘努力の人である。  $\mathcal{O}$ 在っ 人望厚く、パ延長紐に於ける優れたる大先覚として、 れて たが、其の成績抜群たるを賞され、 明哲なる頭脳と、 在植二十 ゐる人である。 一ヶ年、 大正八年四月、 公明正大なる人格とに依って、 氏は育年時 植民地 の慈 代重砲兵とし 北西線よ 父として、 後年同聯隊に於け り当ガル 永年日会 福岡

る修身教育の模範的教材となったと言ふ。

傍ら、 多く、 民 想像されるものである。 岡県朝倉郡志和村の の大先輩に属する人であるが、其の朋友知己にも亦知名の士が 現在 之により感するも、 別個に養蜂研究所を設け、 口 ツサグランデにあり、珈琲園並に棉作を乎広く経営する 出身にして、 氏が如何に秀れたる人格者であるかゞ 斯道の為に貢献中であるし。 大正三年五月  $\mathcal{O}$ 渡伯、 邦人移植

#### 訓言

人に交はるに信を以てすべ の独立自 を時実にするを得べ 己、 人を信じ て人も己を信じ 福澤 諭吉) 始めて

## 年岡 作市氏

とも、 関係があ 路に如何なる人物を得てゐたかに依って、其の消長に、重大なる まで微動だもなく、 まで日本語 るものと言ふべきであろう。 るが、法令発布の前後に於ける日語学校経営に関して、各植民 民地の 如何に心魂を悩ましたか、 0 たも 経営には、常時に於いても相当の苦心を伴ふも による教育を絶叫しつゞけたもので、同植民地が最 のである。 教育事業を継続した事は、 氏の如き自ら固粋主義を標傍 今更喋々を要しないが、 一に氏の努力 其の  $\mathcal{O}$ 最後 地 擦 近 当

年連続 月 である。 昭和十三年七月の入植で、 健闘 中である。 尚 副会長たる事 原の 産にし <u>·</u> 回 渡伯は 現在会長を二ヶ 昭和五 年正

## 久保田 甚六 氏

極め やり方である。 氏は謹直堅実 て用意周到に其の計画を進められ、聯かの無駄もないと言ふ の人である。 農園経営にも其の特性がよく現れ、

泉郡 植者 氏を援け、 翌年再び選ばれて其の職を重任し、第三次には副会長として年岡 昭和十三年七月、当地に入植され、日会設立と共に会長を務め、 の信望が厚い。 の出身にして、 相共に植民地の統制に当られたもの 昭和三年の渡伯、同地に於ける重鎮として、在 である。 愛媛県温

## **久留主** 完氏

として日本語教育を主張するあたり、恰も志士の風格躍如たるも 羽髯を有し、其の崇高なる人格と、 のがある。 氏は中学出身にして漢字者、硬骨の代表的人物で、 堂々たる風貌とをもつて決然 宛然たる関

柄不安なる日語教育問題を提げて、縦横に活躍 現下の過渡期に於ける実に頼しき存在である。 ゝ、植民地経営の任に当つて居られる。福岡県 同植民地、 日会第三次改選に於いて、学務委員の要職につき折 小倉市の 自論を主張し 出身で、

## 青柳 文吉 氏

振 き信念あり、 同地の為に活動されたものである。前任ガルサ植民地に於ける業 りで、他人との口論など最も嫌む所であるが、 氏は至誠謹直の権化である。温良順部、 日会に於い 所信を主張するといふ人である。 一度び口を開けば堂々として ては幹部として学務委員並に会計の重職にあ 昭和九年四月、 まことに柔らか 内に燃 かるが 現地に入 · 社交 如

績など、 渡伯である。 今尚同 地 の話題とな 0 てゐる。 福岡  $\mathcal{O}$ 出身、 大正三年の

## 富澤源助氏

である。 為に、 文化 唱へ、子弟教育を中心に、 育に対する熱情家の存在である。氏は学務委員として頻りに之を った。 ゝる時、 文化程度の の源泉として尊重されるが、余りに多忙なる日常生活である 動もすればこれすら第二義的に考へられる場合が多い 群馬県の出身に 此の誤謬を是正し、民族を其の退化から救ふもの 低い 而して滋樹に乏し して昭和六年の渡伯、 今日まで会の為、 い農村に於 刻苦勉励されたもの 入植は同十三年で 7 ては、 学校が は教

## 田上為蔵氏〔ピーザ〕

ある。 らな た、凡ての教師の等しく賛辞を惜しまなかった事に依 られてゐた。特に氏の教師に対する理解と後援とは同地に奉職 があるが、同氏から受ける感じも実際も其の通りで、寡黙人に語 ふ徳井光雄氏と同じく、ヴエラクルース駅サンター 人の世話をしてゐる。 伯である。 ては元老格で、 愚痴を零さず、 いけれども、氏の世話を受けた人は随分多いことであると思 現在ピー ザ植民地の最高顧問として、 公共の為に私財を惜しまず、 我慢強く、 熊本県玉名郡睦合村の 人の世話をするのが親分だと言ふ人 親分とし 内外人か 大正二年五 · ナ植 0 て相変らず . ら尊 民地 て明 に於 カ 敬 で 廿

## 坂 本 豊 氏 [ボアビスタ]

若き頃、 地方草相撲の大関で、立派な体格の所有者である借地

新宮市 眞に羨ま 着いた生活をな 農多き同地方にあ の総てを提供 の出身である。 7 ほどの定住ぶりである。学校経営に於いても、 L て尽力されて居る。大正二年の渡伯にて和歌 して居る。住宅裏の池には尺余の鯉浮べるボ って、広大なる土地を有し、傍ら商業を営み、 校舎 山県

# 入 石 虎 太 氏 〔愛 国〕

から、 辛酸も亦並大抵でなかったらうと察せられる。これ等 惨にも亦慄然たるものがある。氏は大正二年十一 対して敬意を表せざるを得ない。氏は福岡県三井郡大城村 となって在伯同胞今日の栄を築き上げた事を想へば、其の 在伯日本移民の初期に於ける生活状態を見るとき、 して「愛国」入植は昭和十年九月二日である。 其の歴史に於 て衆人を凌ぐも のがあり、 月の 此の 其所に  $\mathcal{O}$ 間 渡伯とあ 人が は 石 る

## 則田 貞蔵 氏 〔ガリア中央〕

ナ奥の 軍 させられ、 世話をするが、 に推され、 は昭和十 の持主で斗酒なほ辞せずといふ風である性来の世話好でよ 努力した裏面に、 の木工長をつとめられたことがあるといふ氏は、堂々たる体躯 氏 は鳥取県東伯 アグア 地主数八家族 其の後も二回、 よく務められた。 年で、ガリア中央日本人会の創立と同時に、初代会長 ´・ デ・ 公共の為にも骨身を惜しまず尽され、ドア :郡花見村の出身で大正十三年の渡伯である。 マンジョカに於いても何時も植民地 同氏の大きな力がある。 の同地で、 会長として邦人社会の 現在のウジナ植民地に入植されたの 高給教師 を聘 為に盡瘁さ 最後迄子弟教育  $\mathcal{O}$ 仕 く人の 事を チ

# 野 口 新 造氏 〔サンヴイセンテ〕

蒙 た跡から、 気の毒な境遇になったわけだ、この点に於いて野口氏の尽力され たが、反対に無定見、無理解な父兄の多い土地にゐた教師は実に、 も同じく、 の進退である。理解と熱のある植民地に居た教師は困らなかっ ったのは、 新法令に倣って邦語学校の存在が許されなくなった当時は、 いかないだらう。氏は福岡県の出身大正七年の渡伯であ 誰もが氏の子弟教育に対する理解と熱とを、 大なり小なり種々な事があ 其れまで子弟教育の第一級に立って働いて来た、 った。 殊に直ちに影響を 認めない

## 葛原 武 氏 〔ガリア町〕

が当てはまる人であることは、 年である。 とが出来る。現在ガリア中央日本人会常任幹事叉学務委員である。 の温厚篤実さが氏をして相変らず人の世話をさせてゐるといふこ 氏は ス町發展当初から、約四年間居住し同地日本人父兄会長や、 の役員に推されて尽くされたが、ガリア 岡山願弓削町の出身で、渡伯は大正二年で。 名は体を表すと云ふが、 誰も認めるであらう。 氏はおよそ温厚篤実といふ字 町 へ移転後も、 渡伯は大正二 ヴエラク

## 佐倉 多録 氏

近には五六家族を数ふるに過ぎなかった。 日に至るまで、 人として、忘れてならない人である。氏は広島県双見郡君田 氏がガリア町に開店当初は、町の邦人家族数は僅か 殊に少数家族で小学校を経営し、 邦人社会に貢献した業績は 子弟教育に精進した その 昭 和七 年より、 に二戸、 村  $\mathcal{O}$ 

員に推され、ヴエラクル 着々考慮の 出身で、 長男、 昭和四年の渡伯、 次男、 一路を辿り、 共にバウルー ース区学協議会理事に選ばれたこともあ 今日に及んでゐる。日本人会長、 氏の堅実な性格通り、 の中学に在学中である。 商店を経営し、 学務委

## 塩 崎 英一 氏

会の為子弟教育のために尽力された。 は昭和十一年で、中央日本人会の常任幹事、或は学務委員となり、 は人の知る所であらう。 ことで、やかましい事があったが、其の間に立って尽されたこと 大正六年五月渡伯した人である。 つか 氏は教育県として、自他共に許す長野県北安郡七尊村の出身で、 りした人である。邦人の少ないガリア駅町内に開店したの 長野県人特有な理論家であり、 一時、 学校所在地や教師の

## 半田佐一氏〔ウジナ〕

その性格の然らしめる所か農業経営も堅実で多角的に努力し、 家を教室として使用し、庭で運動会を催したこともある位である。 なく心が落付く様な感じがするといった風な仁である。教育熱心 身地は福岡県三井郡節原村、 な同地地主中でも特に熱心な方で、学校を新築するまでは同氏の が多くを語らず、ゆったりと構棒へてゐる所を見ると此方も何と 現在会計である。 同尼磐石 ーリヨ或はセポ ウジナ植民地に於ける半田氏の存在は大なるものでその体格 の如くどっしりとしたものである酒が人らうが入るま ーラと棉作以外に相当な成績を挙げてゐる。 大正二年の渡伯、 同地村長をつとめ

## 上 村 年 男氏

ジナ支部長、会計等を務めた人である。 正十四年六月、 於ける有力なる一人で、福岡県浮羽郡田主丸町の出身、 拠立てるものであるといってよいだらう。氏は実にこの植民 もので大きな負担を意に介せず、がく校を新築し、 七八家族 ウジナ植民地は、ガリア町より七 之を経営して、 の土地ではあるが、教育問題に関 同植民地へは昭和十年の 最後まで頑張 った点は、 粁  $\mathcal{O}$ 地点で、 入植、 しては、 その理解と熱とを証 ガリア 地主数は僅 高給教師 実に熱心 日本人会ウ 渡伯は大 地に を聘

#### 渡辺 V ア IJ 氏

ある。 者である。 校閲係の負担もよろこんで引受け、わが子をも学校 おいた。現在三十メー 感じられない。心掛も誠によく同地の少な 渡辺と称してゐる変った存在で、彼の て家業にいモ 正眞正明のブラジル人である。 出身はミナ 顔を見、 Ź 日本語を聞いて一寸もブラジル人らし んでゐる。 ゼライスと斯う書くと誠に奇妙に思は 因みに氏は本会事業に対する特志後援 の蚕室二つ、 渡辺い 日本語は実に巧みなもので よの氏と結婚 十アル い地主の ケ ル へ通学させて 一人として学 いところは の地主とし て、 れるが 自から

#### 訓言

ŧ 教育は即ち  $\mathcal{O}$ 也。 人に独立自尊の道を教 (福澤諭吉)  $\sim$ て、 之を身体実践する の工夫を啓く

#### $\Box$ 松菊 氏

ある。 氏は熊本県玉名郡有明村 の出身で、 渡伯 したの は、 昭和七年で

菜ま な所 険性を伴ふか解りきった事であるに拘らず、 次男は聖市の中学に遊学中である。 会計学務委員として尽力されてゐる。 して、着々収益を得てゐる人である。子弟教育に熱心なウジナで、 氏は何事にも研究を怠らないで、堅実に進んで行くとい で買って食ふやうなもの のある人である、棉作一本で経営して行くことが、 ゝあるパ延長線で、多角的な経営を 同地方有数な養蚕家であり、 少しも改めずに、 如何に危 った様

## 井上 喜三 氏

斯う 感じ 径行型とい 教育熱心なウジナには、 其の名から受ける感じの用に侠気のあるキビキビした人といふ した性格の の仁である。而して動々もすれば実社会で損をする型の直情 った所の見える人である。これが、氏の美点であって、 人が、植民地に於て大いに必要な場合がある。 なくてはならない有力な存在で、 現在

身で、 同地 の村長を務めて居られる、氏は和歌山県西牟婁郡日置村 昭和十年で目下棉作に従事中 大正十年、 雄志を抱いて渡伯し、 -である。 ウジ ナ 植 民地  $\mathcal{O}$ 出 た

#### 田 半四郎 氏 ○ ソ ール・ナツセ ンテ

を経営するなど、実に多忙な人である。農業も小さい面積でなく、 氏は叉事業家タイプで、 たくさん した 何時も元気で、精力的な人で、会って誠に気持 して会の代表者に選ばれ、  $\mathcal{O}$ 昭和十年、 人を入れて、大規模に行ひ奮闘してゐる。 それから現在に及んでゐる 農業の外に雑貨商を営み、 公共の為に尽力してゐる。  $\mathcal{O}$ の好い であ 乗合自動車業 同地に入植 るが 出身は

業組合の有力なる一人で、専務理事に選ばれ、 岡山県川上郡日里村、 尽されてゐる。 渡伯は昭和二年である。 ヴエラク 地方産業の為 ル ス産

## 野田義正氏

 $\mathcal{O}$ 歴史に照 良い子供は優良なる家庭から生れる。 して明らかなる事実である。 これは古今東西を不問そ

なり、 氏の真摯なる家庭教育である。今次法令により日語学校 倍貢献され、在植者の信望も厚いが、もっとも優れてゐるも たる手腕の持主であり、 の如き存在は洵に力強いものと言はなければならぬ。 氏は昭和八年九月三十日の入伯であるが、農業経営に 子弟教育上、更に父兄の再考を要する時代となったが 公共事業、 殊に子弟教育方面にも人一 も秀優 別止と のは 氏

れも模範的青少年である。 愛知県名古屋市の産にして入植は昭和十年八月、其の子女は何

## 小川 秀夫 氏

「至誠一 て押通してゐる人は、そうざらにあるものでない。 貫」といふ言葉はよく使用されるが、名実共にこれ 0

まり表面的活躍はしなかったが、 して、数多き植民者の中に常にその円満至誠の人格をもって、 ゝ、今日に及んでゐる人である。 氏は昭和九年八月の入植であるが、これこそ至誠一貫の権化と 在植者より満腔の信頼を受け あ

然として勇躍渡伯されたものである。 岡山県御津郡馬屋下村の出身であり、 昭和二年十月三十一 日決

存す。(ゲーテ)

福田 重五郎 氏 ◎パウリスタ第二

と同時に雑貨商も営み、 子弟教育方面にも尽力してゐる人である ウリスタ第二植民地に入植したのは昭和九年九月である。 氏は北海道旭川市旭町の出身で、渡伯は昭和七年三月二十三日、 植民地の有志で同植民地發展の為にも、

# 田代 猪之八 氏 〔第一パウリスタ〕

けば、 られる人であ 氏は昭和十年九月の入植であるが、ブラジルに於ける歴史を覗 遠く大正二年に遡り、 り、 在伯邦人先駆者の一人である。 所謂、 本邦移植民史の、 第一頁に

範的な人物であり、公共事業、殊に二世教育方面の外交的貢献は、 於ける単なる有力者といふぽかりでなく、総ゆる方面に於いて模 今更こゝに喋々するまでもない。 各地を変転して国情を究め農業方面には特に造詣探く、 同地

熊本県飽託郡の出身にて穏健篤実の篤農家であ  $\mathcal{O}$ 重職 に あ り、 植民地興隆の推進力である。 り。 会長を経て、

## 古 賀 伴 蔵 氏

粉骨砕身の努力を払はれたものである。 なすものは、二世教育事業であ するもの である。 日本人の場合、教育事業の發展の相がそのまゝ、 これ程日本人植民地と、 であり、 在植者の 公共事業に対する動きも、 って、 教育事業とは密接なる関係を有 歴代の役員諸氏は 植民地 その 此 中心を の發展  $\mathcal{O}$ 為 に

人である。 は昭和十年九月の 植民事業の發展に貢献され、 福岡県三井郡の出身にして、 入植であるが、この その名声を謳 昭和四年一月の 当初より、 有力者 は 渡伯であ んる

り。 会長とし 7 の経歴も数回に亘 0

## 鈴木 廣義 氏

ても多 茨城県人は負け惜しみが強くて、 地 の渡伯、 八月である。管内で最も早く開校された一つの、 茨城県人で渡伯したもの が 表者となった頃は、 くないが、氏は県の北部多貿郡高岡村 現在のパウリスタ第一植民地に入植 氏も亦、 其の 例にもれぬ仁である。 よく人の為に尽くした人である。 の数は少ない 人の世話をする癖のあるも 、。従ってパ延長線 したのは、  $\mathcal{O}$ 出身で、 サン 口 昭和十 昭和 ツケ植民 元来 年

## 廣岡 現道 氏

ある。 時も選ばれては尽力してゐる。同地の教育関係の事が円滑に行っ たのも、氏などの力に依る所が多い。 今日に及んでゐる。 で、大正十五年十月の 何を言っても亦、 同植民地の知識階級といふと、少し誇張があるかも知れないが、 同植民地になくてならない人物で、万年役員のやうに、 何をしても、 渡伯、第二パウリスタ 立派にやって退けるのは此の人で 大阪府最南部鳴瀧村の出身 は昭和十年に人格、

#### 島田 寛良 氏 〔大 和

長を四期もつとめ、相当教育関係の面倒だったこの地の学務委員 に四回も選ば た人、大和植民地 同植民地の副会長である。 氏は広島県賀茂郡川上村の れて尽力して来た人、 へは昭和六年八月の 出身で、大正十四年十二月に渡伯 至極温良な実直な人、 人植同地では古株で、 現在も 副会

#### 訓言

父の恩の高きことは (報恩記) 山の 如 しと言ひ、 母の徳 の深きことは海の 如

# 谷川 定一 氏 〔バンデイランテス〕

うに、終始それに尽力され人は、格別であろうと思ふ氏は愛知県 華やかな頃を考へたら今昔の感に耐えないであらう。特に氏の 会長の重任に居られる。 知多郡床滑町の出身で、渡伯は昭和二年である。現在日本人会の する仁である。邦語教育も、禁止になってしまった形だが 地では古株である。 現バンデイランテスへは、昭和七年に入植されたといふ 飾気の嫌ひな、正直な人で、よく人の世話を ら土 しも Ŕ

#### 尚 満 開 氏 中 央 ガ せ

業方面の造詣はもとより、人格的にも修練され、性豪胆にして沈 着、青年指導に何よりも力を注ぐ人である。 氏は大正二年の渡伯である。在伯三十年に余る歴史を有し、

信望一身に集まるの観がある。広島は呉市の出身にして、 於ける重鎮である。 日会に於ても学務委員として活躍された経歴があり、在植者 同植に  $\mathcal{O}$ 

在植者間 り幼児の育成に当り、 因みに氏の母堂カツョ刀自は、現代稀に見る女丈夫で、 の美 しき話題となってゐるものである。 齢七十にして尚壮者を凌ぐの気概あり、 女手に

# 土居 耕 造 民 [ポア・ソルテ]

援とを惜しまなかった植民地として、ボア・ソルテを挙げること ヴエラク ĺ ース管内中、教育熱心で特に教師 に対する理解と後

通り、 ならば のを尊 現在に及んでゐる。 ことに原因すると云ふ人もあるだらうが、 に異議を挟さむものは 出身で、 この手wンで土居氏 温厚篤実の人、 び、 教師たるも、 渡伯は昭和 その職にある教師 意気に感じ、 土地 四年 少な  $\bigcirc$  $\mathcal{O}$ 一月同六年入植、 いだらう。反面にそれは良教師を得た 人望家である。 人柄は実に敬服に値する。 の立場をよく理解 全力を尽さないも 一般的に教職 北海道上川郡温 何回か会長に選ば して、  $\mathcal{O}$ 之を遇 は 誠 無 といふも 文字 する 根 筈 相 で

## 松原完親氏

巣に戻られたもである。 なったことは知らないものはない。ボアソルテに於 問 跳で有名な、 て、日本人会長を務め、後ヴエラクルー て尽力され、名実共にポア・ソ ス中央日本人会長の栄職に就き、現在は後進に途を譲 剛直 げないものはない。特に常に教師のよき理解者であり、 題に対する氏 った点は、 なる 松原君の父君である。 原氏 幾多の事実が証明してゐる。  $\mathcal{O}$ に就 理解と、熱意から選り出づる直言は誰 1 愛媛県松山の 記述する事は多 ル テ の植民地として知られる様 - スに出で、汎ヴエ 昭和三年の渡伯 叉植民地開發につい 々 ある が り叉元 ラク でも頭を 後援者 三段

### 長 為雄 氏

立間 入植 に なる 氏 き、 は、 は福岡県糟谷郡犬川村の出身である。 日語問題の 昭和七年七月であり、 第 第三次日会役員改選には、 次には再び出馬を要請されて副会長とな 渦中にあって、 同地に於ける有力者とし 奮闘又奮闘、 衆望を負ふて会長 ボ ア 具さに辛酸を嘗 ソ ル テ 植 り、 折柄 日 民  $\mathcal{O}$ 会創 地 8 木  $\mathcal{O}$ 

者間に、非常な賞讃を受けたものであったと言ふ。 」最後まで其の殿堂を死守されたものであり、其の功績は在植

昭和五年三月三日のサントス上陸で、入伯後は公共事業に 現在も同地の副会長である。 関与

#### 教育訓言

自ら天性が優秀であると信ずる為に、 真違ひである。 天性の優秀なものこそ、 教育を受けない 益々教育の でもよい 必要が ?ある。 と思ふ

(ソクラテス)

## 三浦 庄松 氏

である。 携って、二世教育の為に尽力され、第八次には会長として日会統 嘗めて今日の栄を築かれたものであり、日会方面に於ても、 制に当られたものである。 次改選に学務委員として時恰も悪化の前兆にあった日語問 到底筆紙 目まぐるしき多忙を極めるといふ状態で、第一回人植者の辛苦は 不便であ 植民地開拓入植 り、 の尽す所でない。氏は同地の草分であり、 衛生の設備なき為、 の初期に於ては、経費も予想外に嵩み、 広島市の出身にして、 病者相次ぎ、 其の上農事生活は 大正六年 幾多の辛酸を 交通は 題に 第四

## 林田久平氏

#### [有 明]

国に於ける体験も多く、 氏は同植民地に於ける大重鎮である。大正二年十月の 人格的にも事業上の事にも優れたる逸材 渡伯

如く、 学校をして泰山の安きに置かれたものである。 役員として学務委員たる事数年、二世教育に対する信念燃ゆ であ り、 特に外交方面に卓抜なる手腕を有し、 同植民地開發の恩人として在植者畏敬 最後まで の的である 同 地  $\mathcal{O}$ るが 日語 日会

に就かれたものであ 分的存在である。 日会創立は昭和九年であったが、氏は選ばれ った。熊本県飽託郡の出身に て初代会長 て太っ  $\mathcal{O}$ 重任

## 大村米吉氏

ある。 先して之を行ひ、何事に不拘熟慮の上、之を断行すると言ふ 献身して居られるもの 在植者の信望が厚い。 「有明」入植は同十二年八月であるが、公共事業に当っ 氏は熊本県玉名郡麓村の出身である。 現在同地日会長として、 であ り、 非常時局を担当し、 同地に於ける秀れたる人材として 昭和九年五月 植民地統制に ては  $\mathcal{O}$ 常 伯 人で 率

## 新体制時局標語

- ○紙屑もスパイにとっては値千金
- ○まもれ大空、 かためよ大地 国の 事第一 日 分の事第二〇一 億
- 一心、銃後の護り
- ○伸ばせ国力、養へ婦徳
- ○国民挙って、国策協力
- ○英霊を偲び、遺族を護りませる
- ○長期建設、堅忍持久
- ○物の無駄、時間の無駄は、国の無駄
- ○一億一心、銃とる心

## マリリアの部

## (マ リ リ ア 市)

沖 周一郎 氏

為に尽卒され、物心両方面に於ける貢献は今更贅言を要する迄も なく功績も亦、燦然たるものがある。 伯邦人立志伝中の代表的存在であり、マ市に於ける事業家 人者として、農産物仲買の傍ら雑貨商を経営して居られる マ市日会に開係し、其の統制者として同胞發展並にマ市開發 氏はパ延長線に於ける傑物と言ふばかりでなく、全伯的にも在 の第一 永ら  $\mathcal{O}$ 

教育方面の事務を担当中であった。 丈物議も多く、 れたものであり、最近まで文教会評議員並にマ区協議会長として、 年五月の渡伯、入市は昭和六年二月であった。 当市は同胞集団地としても、全伯屈指の地帯に属するが、それ 事ある毎に出馬を要請されて、 和歌山の出身にして、大正十 其の統 に当てら

## 中平三夫氏

鉄の如き意志と実行力とを以て、一貫して来た人といふことが出 族として渡伯。 た人である。 れを乗り越え、 来る。今の成功をみるまで、幾多の苦難な道が横はつてゐたが、そ 、、その反面、実に友情に厚い点を持ってゐることを見逃しては 氏は長野県上伊那郡片桐村の出身で、大正八年宮島多磨氏の家 然し、唯単に意志の力だけで成功出来るものではな 乗り越え、常に明日への希望を失はずに進んで来 十八歳の弱年より、今日の位置を築き上げるまで、

を挺 点は、 教会学務委員を務め、 兄会長、汎ヴエラクル た期間が、 による同地の発展に奮闘してゐる。最近同市街地に六十余コ に推された。現在メスキッタ市 ならない よるも のグルツポ・ 実に大きい。  $\mathcal{O}$ 0 である。 最も長か 氏の二十 いたことは、 エ ス 年の コラ しかも常に謙虚な態度を失わず、 2 ース中央日本人会長、同区学校協議会長、 たが マリリア市に移転してから、文教会評議員 何人も敬服 奮闘史中、 ルが出来たが 従 街地の新築住宅に住み、 って同地、 ヴエラクル してゐる。 公共のため これも同氏 ヴエラ ースに本店を置 ク  $\mathcal{O}$ 何事にも身 尽力された 氏の 骨折 開設 りに ス 文 父

### 末松 緑 氏

清澄に 画し、 とし 複雑怪奇なマリリア て、 事に当つて、 して、円満なる人格によって日本人社会の正 関係団体に君臨 穏健篤実、 市  $\mathcal{O}$ 邦人界に鎮静剤を携行して潜入しそ 今や衆望を負ひ、 普及会学務委員 しき発展を企

難と闘 過渡期に於ける邦人子弟教育問題に己を捨てゝ 5 0 教導  $\mathcal{O}$ 任に当っ てゐられる人士であ 突入 る。 ゆ る 木

た。 南米銀行マ 0 そ の崇高なる態度は、 は ゝあるも亦宜なりと謂ふ 和 四年 リリア支店長として、財界に多大の信望と、 十二月、 正に衆人の範とすべきもの 7 リリ べし。長崎県東彼杵郡 ア赴任は、 昭和十二年一月であ の出身にして、 であ 尊敬を享 り、 現在 <u>へ</u>

## 岡本 専太郎 氏

高い 駕すると言ふ意味でなく、氏が余りに傑出 木には風が あたる」 \$° 其  $\mathcal{O}$ 体格 したる所謂ヤ 堂 伯 リ手であ

経歴 会副 闘中である。 たにしても、 の光彩を放つものである。 **つ** 会長、 を覗 ても ンを経て、 應々 7 1 教普会マリリア部会長、 リリアに於ける第一 て見ても、 児童教育を中心とした燦然たる功積は、 に 大正先年の入伯、 栄誉褒章 聯合日本人会長、 北海道札幌市の出身にして、 の渦中に立つ場合があ 人者である事に間違ひない 現在尚測量技師として、 として多少専制的な所はあ マ市中央日 か 永久に不朽 い長、 英國、 父兄 何 لح 0

監督官憲と折衝して其の指示を仰ぎ、教師を督励して本念の使命 に立脚させたのは氏であろう。 日語学校 対策を講じ、管内全植民地に喚びかけて、其の方針を確立させ、 氏 の子弟教育に対する業績を、  $\mathcal{O}$ 困難化と共に、親身になっ もう一度回想 て之を憂 た 身を堵り \ <u>`</u>

親善調、卓抜なる統制力と強烈なる信念とに依 励 消指導、 国を組織して、サンパウロに旅 を其の双肩に担 の為には、 一方教員講習会を開催し 数度に亘る植民者総集会、 0 たか  $\mathcal{O}$ 感があ Ĺ て、 0 州統領の査閲をうくる た。 伯専資格 或は現地に出張  $\mathcal{O}$ 0 獲得、 て、 氏は大 さて 日伯 激 旅

#### 山 下 唯 一 氏

を加 れだけに亦、群雄 今日見るが如く、 日 曲 精 来 会長とし 悍無類の性格と堅実剛毅なる政治的態度とをもつて、常に 7 て僅か 氏は此 リア市は 数年間 或時は中堅幹部として、  $\mathcal{O}$ 割壕の観を呈し、 恰ら日本人的市街を現出 間 聖州 にあ に結集した、邦人の に於ける新興的産業地帯であ って事あ 其の内紛も年と共に激烈なる る毎に出馬 又或る時は野人とし 数著 したも を促され、  $\mathcal{O}$ であるが り、 同市を

五. 日会指導 年 香川県仲多度郡善通寺町の産にして、南米各地を巡歴 一月  $\mathcal{O}$ の任に当られ、 入市、 現在金物商を経営し、 幾多の功績を胎して居られるものである。 盛大を極めてゐる。

## 小川 健六 氏

麒麟児である。 るば 氏 は かりでなく、 マリリアに居城して、パ延長線、 全伯的にも、 其の声名を賞賛されてゐ 事業界の 雄と唱はれ る業界  $\mathcal{O}$ 

明治三十九年ペルー第三回移民として渡秘 大正六年四月に入伯されたものである。 後ボ リビ に

れたものであり、其の功績も亦、著しきものがある。 て会務統制に当り、或は幕内の人として、常に督励 公共事業に対する関心深く、 マ市日会設立後、 或は 幹部役員と の任に当ら

である。 人気頓る盛大なるものがあり、 広島県高田郡秋越村の出身にして、 現在各種農産物精選並に仲買業を経営し、 隠然たる勢力の所有者である。 マリリア入市は、 日伯 昭和三年

## 野村秀吉氏

ラゴアスに至る、所謂ノロエステ変更線を完成して男を挙げた逸 量技師の資格を持つ人である。暫らく海輿にあって測量事務に携 材である。 今尚同市にあり、 て、二世教育問題に献身し、 に号令して居られたものである。 氏は大正二年の渡伯であり、 ロエステ鉄道局との契約成り、アラサツー マ市入りは昭和九年で、 斯業の為に精励中である。 後普及会学務委員として、 在伯邦· マリリア日伯父兄会会長とし 愛知県碧海郡の  $\bigcirc$ -バよりトレス・ 人であ 出身にして、 全マリリ り、

## 伊原太平氏

毎年氏 巷となった時、こう言ふ特殊な存在が必要となり、 同行 れて、親しく会務を統制されたものである。 氏は温 の精 の斡旋により、同市による各種追悼会、法話会等が催され、 神修養に貢献されてゐるものである。 厚篤実、まことに柔和なる風格の人で、佛数に信仰厚く、 時同市が紛擾の 日会長に推さ

を譲 市に在っ 広島県沼隈郡の出身にして、大正二年の渡伯、 Ď, 専ら信仰生活に精進中であると言ふ。 て、 雑貨商を経営し盛業中であったが、 現在は他に店舗 最近までまで同

## 瀬 木 テツレイ 氏

声名は、今や全伯的なものとして、内外人間に其の英才を唱はれ てゐる人である。 氏はマリリアに於ける重鎮といふばかりでなく、業界に於ける

く、其の態度洵に堂々たるものがある。 眞に明敏なる頭脳の持主であるが、所謂小才を弄する型ではな

あり、 設立に当つては、自ら進んで物心一如の貢献を敢てされたも 日会方面には余り表面的進出を好まぬ風があるが、マ 幾多の功績を胎して居られる。 市 日伯校  $\mathcal{O}$ 

北海道は旭川市の出身にして、大正八年五月の渡伯、 其の将来を嘱目されてゐる人である。 マ市入りで、現在其の一角に米棉並に珈琲の精撰工場を経営 九三一

## 村田 道之助 氏

言へば直ちに五十面を聯想するが、写真に見る如く、 男子である。 少壮実業家として大マ 教育的な方面から見てマリリア区学校協議会会長と リリア のその 昔から、余りに知られ 未だ青年の

リア 力を児童教育に傾注 つは日伯親善 表的存在 在伯陸上競技界に名監督として、 一月の渡伯である。 一角に である。 に資する等、其の功績や正に抜群、青年指導 心血を注 昭和十一年、 してゐる。 いで綜合運動場を建設し、 熱情の人、 京都府新舞鶴に生を享け、 パ延長線青年聯盟理事長に推さ その雷名を轟か 体位 の向上、 ・の傍ら、 昭和二 大マ 且

## 奥村平作氏

を経営 土郡の 体躯 基礎を築かれた功績は、当時の在住者が斉しく賞賛する所である。 激烈なる紛争の中にあって、 設立当初よ 事業に献身された態度は、眞に崇高なるものであ き教育擁護 特に常時 氏はマ市に於ける、最も古参組の の示 出身にして、大正二年五月の す通り、眞に沈着以って事に当る人で、 隆盛を極めてゐる。 り、 の元老岡田老と盟約あり、  $\mathcal{O}$ 学務委員として二一世教育問題を担当し、 叫びを心中深く感得し、最後まで誠心もつて其の よく其の職務を全うし、 渡伯、 一人であるが、 氏帰国に際しての、 現在は旅館並に仲買業 7 った。熊本県宇 其の堂々たる 市日伯小学校 マ市日伯 とう時 涙ぐま

## 上田 留五郎 氏

民 労は想像も及ばない位大きいもので、 舌に尽くせない辛酸を嘗めた人である。殊に第一回移民は日本移 の華やかな時代で、 移民  $\mathcal{O}$ サ 大史上、 回移民笠戸丸組の一人として、 然し、 プ ルとして見られた関係上、心労も大きかったといふ話 忘れ 延長線ガルサか てならない人である。 公共的に尽力されたのもこの時代が大きい。 5 グエラク 同氏の名は有名であ 同氏もその例に洩れず、 その常時 ル ス在任当時は、 の先輩諸士 る。

ヴエラクル 相馬郡原町、 リリア市転居後まで文数会学務委員を勤められた。出身は福島県 て、同地を泰山の安きに置いた人である。ヴエラクル ース時代は、 明治初十 一年の渡伯。 中平、 斎藤両氏と共に三元老の -スから、 一人とし 7

## 種谷 義 雄 氏

Ŕ 直 昭和六年の入市、 専科教員 貢献して居られる。日本に於いて洋書を研究して、其の造詣深く、 たる信念を有し、永らくマリリア日会の幹部として、会計の重任 ア支部会計を経て、 にあり、 一剛毅、 の為帰国中である。 氏 常に自ら大日附役を以って任じ、子弟教育と武道向上の為に の入伯は、大正十三年五月である、古武士的な風格を有し、 子弟教育に関しては家庭的にも、 一方武道の奨励に尽卒する事多年、柔剣道聯盟、 の資格を有すと言ふ。兵庫県揖保郡龍野町の出身にして、 長男三郎氏亦優秀なる青年であり、 顧問に推戴され、 現在は直接的関係はなくと 公務的にも極め 現在軍人 7 リリ

## 梅田 友次郎 氏

たも 会には篤志後援者として、自ら進んで幾多の支援を惜まれなか の便宜を蒙むつたもの 氏は稀に見る教育熱心家であり、 Oで、其の後と雖ども絶へす出入して、其の好遇に接 である。 昭和七年第 回 教職員講 0 Z

氏が があ 的良心によるものであらう。三重県一志郡の出身にして、大正七 温 厚謹直にして、自己の所信を単刀直入的に言ひ放 7 り、多少商人的性格に相應しからぬ特質の所有者なるに不拘、 リリア市 あるは に於ける代表的製菓業を経営し、絶大なる名声を 偏に氏独特の製菓技術と、 公明至誠なる、 つ淡白な所 事業

年十月の渡伯、 マ市入りは昭和四年七月である。

## 櫻井 庫蔵 氏

を救援されたと言ふ。其の熱情、 数コントスに上る出費をして、 為に己を捨てゝ健闘されたものであるが、役職 氏は最も其の事務繁雑と称される会計事務を担当されてゐたも る所である。 で、内外共に多端の折柄、 氏の 入市 は 昭和五年九月である。 専心其の事務に挺身し、 当時困難の途上にあ 其の努力は今尚市 時恰も日伯校新築に際会し、 の関係係上、実に 躍進日伯校の 人の賞賛新な った当会

て旅館並に食堂萬平を経営して業界の為に活躍中である 福島 県原之町  $\mathcal{O}$ 出身に て、 昭和 兀 年  $\mathcal{O}$ 渡伯。 現在聖市 0

#### 訓言

家同胞に対する奉仕的理想であると確信する。 事業を創むるには、 金よりも意気、 金より勘大望、 最も大切なるは、 (野間清治 玉

## 澤尾 啓三 氏

にあ の営業手腕を謳はれてゐるのも、氏生来の円満なる人格に拠る所 氏は温厚篤実の人格者である。 り、 人で、今日マリリア駅前にホテルを開来し、 海軍下士官の肩書を有する人に似ず、 其の身水雷学校の出身で、 至って温和なる風 内外人の間に、其

彦根市 校 昭 和 舎建築に  $\mathcal{O}$ 出身に 年 应 月 は献身的努力を捧げて居られるもの 7 リリア 昭和五年六月の渡伯である。 市  $\mathcal{O}$ 人となり、 二世教育に である。滋賀県 熱息 あ

## 神原 政太郎 氏

リリ 間に重きをなし、 るものがあ 氏は本邦移民先駆者の第一 ア市 に入り つたと言ふ。 日伯校開設当時に於ける氏の働きは実に抜群な 駅前 に バ 頁を飾る人である。昭和三年八月 ル ・カンバラの主人公とし て、 邦人

であ なる所があ りと謂ふべ 直情径行 り、 貴き体験の り、 し。広島県沼隈郡の出身にして、  $\mathcal{O}$ むっつり屋らしい感じを受けるが、叉1面 日伯人間に多大の好評を博しつゝある 所有者である。 大正二年五  $\mathcal{O}$ 月 温情豊か も亦宜な  $\mathcal{O}$ 渡伯

#### 菅山光氏

業方面にも、若冠乍ら其の信念厚く、 すること二年、後日本人会に入って副会長の重職につき、 入市で、 屈指 日会事務を処理し、多大なる功績を胎されたもの 氏は邦人実業界の雄、 の事業家となり、其の声名を謳はれたも 内外雑貨商を経営し、 菅山閥の1闘将である。 僅か二、 同地青年会理事として活躍 三年にして、 のである。 昭和十一 であ 7 多端 年 公共事 リリア 月 な

在 福島 マ市に在って、棉花仲買商を経営中であるが、 県相馬郡石神村の出身にして、大正十五年三月 優れたる成績を収めつ ゝあると言ふ。 多年の事業的経  $\mathcal{O}$ 渡伯、

## 局袋 完善氏

日会結: 学校経営の中にあって、文字通り千苦萬苦の は 成後、 7 リリ 選ばれる ア市に於ける先駆者の て会計事務を担当 人に属 当時財政的に薄弱なる いばらの道を歩まれ し、学校設立と共に

たも の席に列して数 てゐる。 ので、 教育問題に対し、 の間に於ける氏の Þ の功績を胎して居られる。 早くより関し深く、 働きは、 今尚在市者の語草とな 其の後も度々役員 0

ル 島袋を経営し、 沖縄県国頭郡  $\mathcal{O}$ 事業界に名声を博して居られる。 出身にして、 大正七年九月の 渡伯、 現 在

### 茂上猛夫氏

ける事業として、 な存在である。 に進出して、汎マリリア産業組合医療部主任として活躍中である。 て居られる事に於ても、其の秀れたる功績が窺知される同地に於 氏は昭和八年九月に、ビーラ日本を開拓入植した・ 山県の出身にして、 只管に発展を企画されたもので、今日尚在植者の 其の日語学校創設当時には、 農園経営並にピンガ製造等があり、 大正十五年十二月の入伯である。 凡ゆる辛酸を嘗 自身は 所謂礎石 信望を得 的 8

#### 富永 今朝一 氏

を全うされたものである。 ゆるが如く、煩雑なる 氏は温良謹直、何となく老政容を想はせる特異なる風格が 永年耳病を患らつて居ら マ市日会の会計として、 れたに不拘、 公共事業に対す赤心 最後まで其の 任 務 熱 0

を得て、遂に不帰の客となられたものであり、 撞球場を設け、年と共に隆昌の 和 四年九月の入市で、 がある。 佐賀県藤津郡鹿島町の出身にして、大正十三年八月 謹 んで哀悼の意を表するものである。 サン ・ ル イス街、 一路を辿りつゝあ 目抜きの 洵に哀惜切なるも 場所にホテル ったが、  $\mathcal{O}$ 渡伯、 中途病 兼

#### 阿鷹 富 夫 氏

児童愛とを以って、 名声を謳はれてゐるが、今を去る十五年前には、 び児童よ リンに於い っった。 氏は今でこそ大マリリアに於ける、インテリ商業人とし り、 て、多年教育界にあり、独特の教育方針と、情熱溢 満腔の尊敬と思慕を得て居た、 全ノ 口 エステ教育界に信望を博し、 所謂名教師 北西線  $\mathcal{O}$ 在植者及 プ 一人で て其の 口 る ? ツ

五年間に発展又発展、遂に今日の盛業を来たしてゐるものである。 日本は広島県佐 へ、其の非凡なる人格と、誠賢なる営業方針とによ 昭和十二年二月、 伯郡串田村の産に 俄然業界進出を試み、 して、渡伯は大正十五年五月で コ 口 ロネル 街に店舗を構 0 て、 僅か四、

#### 教育訓言

かった。 今日 はよ く働 11 たと、 夕方になって考へる事程私に大きな楽し 大倉喜八郎 みは な

他人の為に総てを捧げ 自己の為には何事 もせず。 在ペ ス タ 口 ツ チ 碑

#### 岡 本 春一氏

獑 現在大マリリア市内、邦人財界並に事業界に於ける屈指の存在と 店員として、 はないが、 て、多年刻苦精励の後、次第に店舗の拡張と内外人間の声望を得、 氏は愛知県緑海郡朝日村の出身である。 開けんとする、 名実共に 余りに目まぐるしき業務の為、 物質的方面に於ては、常に卒先して應分の後援をする 其の周到緻密 「カーザ岡本」の名は広く喧伝され 7 リリア市に入り、 の性格と、 謹直重厚なる人格とをも 直接教育事業に携は 初め瀬木商会マ 昭和七年 0 十二月、 ゝあるも リリア支 当 時 る暇  $\mathcal{O}$ 

する、 5 した因も、 実に業界人とし 特志後援者である。 即ち茲に存す ての面目躍 Ź  $\mathcal{O}$ 如たるもの である。 因に氏は本会の があ り、 今日の栄を蔡 事業に対

## 森亀次郎氏

き教育愛精神をもつて、 ても過言でない て同地の学校問題を巡って、 の重大職務に在り、 は ので、正に教育史を飾る一つの涙ぐましき事実であると言っ 其 の世、 中央ガ 其の責任を感じて、 ル 二世訓育に貢献されたも サ植民地に於て、会計を務め、 一大紛擾が勃發した時など、合計猪 不眠不休の努力をされ  $\mathcal{O}$ である。 燃るが如 曾 0

ホテ 入市は、 鹿児島県相良郡の ルを経営し、 昭和八年十二月で、 頗る盛業中である。 出身にして、大正七年七 現在サン ル 1 ス 街 」 月 に  $\mathcal{O}$ あ 渡伯。 り、 広大なる 7 リリア

#### 局 督氏

る。 とし る 氏は不言賢行 ゝが如き性格もあり、 ŋ 昭和三年一月、 て、植民地の統制に当り・ 当時在植間 の堅実性を多分に持  $\mathcal{O}$ コレゴ・デ・ブラックに入植し、 信望が、 公私共によく人の面倒を見られる人であ 幾多の功績を胎 極めて厚か ってゐるが、 ったも して居られるも 反面  $\mathcal{O}$ である。 初代副会長 温

れ リリリ てゐる人である。 福島県相馬郡中村町の出身にして、 ア市にあっ 萬平ホテルを経営し 渡伯は昭和二年八月、 其の事業手腕を謳ほ 現在

#### 秋 山 始氏

する所 臨んだ ス 校 動車を経営し で新進気鋭の逸材と称すべきである。 氏に歳若くして一躍有名とな に 如く、 あ ニケ年間教壇の人となった経歴があるが、翻然とし ŋ 僅か二、 中央メスキッタ植民地に店舗を構 て、 業界に進出したも 三年にして界隈に、 った人である。  $\mathcal{O}$ であるが、 其の商才を謳はれ シケイラ・ へ、幾線 恰も蛟 龍  $\mathcal{O}$ 力  $\mathcal{O}$ たも 合自 雲を

もので 内 地は 判 昨年 渡伯である。 が至極よろしい。 もとより、遠く満支を視察して、 一時帰国 心臓も相当に強いが、洵に幸運なる青年事業家であると し、二千六百年の記念式に参列するの光栄に浴 (特志後援者) 愛媛願の 出身に して、 新知識を携へて帰伯 中学卒業後 昭和 した  $\dot{\overline{H}}$ 

### 寺田平吾氏

て盤石 岡県志太郡の出身に 謂自称インテ 更に尽きな 会事業に対する特志後援者である。 とはまるで異 氏は眞に社交的 瀬木商会 の安きに置 いもの の支配人として、 リ連を困らす様なことを書き出す、仙人的な人であ った素人放れのしたムズカシイ事を書いて、 がある。 な人で、 1 して、大正十五年の渡伯である。 てゐるのも、氏の力に寄輿する所が多い 叉座談に於ける一方の雄として、 然し乍ら、 其の商才素晴らしく、 度び筆をとらすれば 因に氏は本 同商会を 世の 座談 所

### 笹田正数氏

は其の 技術 をも 人格崇高なる人である。 昔リン 0 7 ス 市 口 にあって、 工 ステ線に早くより令名を轟か 植民地衛生に携は り、 其の た真摯 優秀

其の後一 時帰朝して、最新医術を研究する所あり、 其  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 薀蓄

市に陣地を築かれたものである。見るからにドッ をもつて、 人で、氏の今後に於ける活躍を期待して止まない。 再び渡来し、 バストスを経て、 人気の中心地 7 リリア プ

因に氏は本命事業に封する篤志後援者である。

## 川口熊太氏

ゐる人である。 氏は其の秀れたる医術をもって、植民地保健の為に貢献されて

殊に医術 る植民地刀圭界の雄者である。 伯国に於ける年数も奮く、そこには徹底した諸方の智識があり、 の方は多年の研鑽によって優れたる腕前をもって居られ

程 身にして、 先年 の、機敏にして、元気旺盛なる一片がある。 m南支方面の攻略なるや、逸早く海南島移住を企てられた 大正三年の渡伯である。 新潟県岩船郡

# 坂 田 義 則 氏(,)

氏は昭和十年の渡伯で、ブラジルには新しい方に属する人であ 職掌柄、 人に知られる事の早かった人である。

富なる体験をもって、 医療に献身中である。 暫らくソロ線文化植民地に在って医療に従事し、母国以来の 最近に至り、 マリリア市に進出し、ドトール某氏と共に マ市青年会にも籍を置 豊

熊本県八代郡の出身にして、熊医大に学んだ人である。 き、幹部の 員として、青年運動にも大い に活躍中であると言ふ。

因に氏は本会の篤志後援者である。

金野寅太氏

望の らく、 究め、昭和八年北パラナに入り、ブラ拓事務所医局にて研鑽中、 あり、専ら斯道の為に精励されてゐる。 氏は東京慈惠医科大学の前身校に学んだ人である。渡伯 其の豊富なる体験をもって、マリリア市に進出されたもの 開業医免許を獲得されたもので、其の後バストス移住地に転 三角ミナスに在って、 米作に従事する傍ら、 審さに国情を の後暫 で 待

今日の名声も亦ここに起因する所が多い。 八年の渡伯で、本会事業に対する特志後援者である。 氏は技術 の上にも卓抜なるものがあるが、稀に見る仁徳の 山形は飽海郡 の産、

## 西川武夫氏

振りであるが、其の裡に流るゝ温情と、 を有する所が氏の天禀である。 氏は大阪 の人、 如何にもき敏な商才を有し、 挺でも動かぬ強靭な気骨 抜け目の な

なる事 石にあのガツチリとした顔に似合はぬ純情さがある。教育に熱心 日語教育の必要を力説する姿は、大きな魁力である。 其の昔少年時代には文学を愛好して、月や星を眺めたそうで流 が、 これ亦一の取得で、 徹底した教育観があり、 堂々とし

大阪豊能郡の出身である。 趣味は写真に野球、末だ若いだけ、将来に対する希望も大きい で茲に謝意を表する。 因に氏は水会の特志後援者であり、

#### 田 代 勇 氏

校に学んだだけ コ 一手に引受け、 氏は明治四十五年の入伯で、 ーボ の様な顔をしてゐる。 氏のボ 法律屋さん、 トゲースは仲々流暢で、 シネマ屋さんの異称すらある。 マカコ 当時聖市 ・ヴェ にあ ーリョ 0 対伯人の交渉 て、 であるが 当国 7

年会にとっ く大きな功績を胎して居られる。 ては欠ぐべからざる存在で、特にスポーツ方面に明る

因みに氏は本会事業に対するる特志後援者である。 郡の出身にして、パ延長線青年聯盟 事業は指物で、其の優れたる技術を称揚され  $\mathcal{O}$ 幹部役員で てゐ る。 熊本県宇

## 星名三郎氏

方面 陣頭に立っ に探 !は海外植民学校の出身である。 年齢漸 い趣味があり、特に野球の指導者として、令名あり自ら て斯道の為に研鑽中である。 く三十五歳、 スポーツ

スポ 郡の出身にして、昭和四年の渡伯。 り、 月であり、 ーツ 常に泰然自若たる所に氏特有の風格がある。 7 ンらしく、態度がきびきびとして裡に測られざる度量 農産物仲買商である。 マリリア入市は、 新潟県中魚沼 昭和十三年

因に氏は本命の事業に対する特志後援者である。

### 吉田武雄氏

ける、 其 為に献身し、各地の日語学校を巡歴して幾百に及ぶ撮影をなし、 の芸術的手腕を認められてゐるものである。 之は芸術の児童教育に及ぼす一例である。氏は 最も古き写真館の経営者で、 過古十年に亘 7 って専心斯道の リリア市に於

後技者である。 七年五月 和歌 山県伊東郡高野村の  $\mathcal{O}$ マリリア 入市 である。因に氏は本会事業に対する特志 出身にして、 渡伯は昭和三年六月、 同

#### 四 富 夫 氏

氏は 旧姓を井 口と呼び、 マ市管内某地に於て、 しばらく児童教

熾烈なるものがある 育に携は った経験があるだけ、 二世教育に対する観念には、 眞に

篤志後援者である。 界人として、 の場所に、 市進出は、同十四年八月であ 性穏健篤実、 である。 ホテル兼撞球場を設け、 石川県金澤市 多少相應しか 柔和な風格 の出身にして、 らぬ  $\mathcal{O}$ 中に、 性格 った。 錚々たる名声を博し が 因に氏は本会事業に対する あるが 面 昭和五年の渡伯。 利 か \$ それでも市 気  $\mathcal{O}$ 所 が てゐるも あ 内目抜 7 り、 リリ 商

#### (第一メスキッタ)

#### 丸 山 義 恵 氏

者で、 渡伯、 男女青少年団の結成並に指導に献身的努力を惜しまぬ等、稀に見 身に集りつゝあるも、亦宜なりと謂ふべし。 る人材と言はなければならぬ。 経歴を有し、 に当られるが、裡に豊なる人情あり、清濁合せ呑むの雅量を有 日会長の勤続四ヶ年に及ぶ。 の氏の努力など、 氏は当植民地開發の恩人である。性穏健篤実、 人植は同八年であった。現在同地産業組合の理事長であり、 殊に教育問題に対する信念燃ゆるが如く、 日常坐臥、 正しく群を抜く 公務私生活を問はす、 岡山県の出身にして、  $\mathcal{O}$ 概が 、あり、 其の身軍籍に在 謹直厳格以 在住者 学校開設に 円熟至達 昭和二年の の信望一 つて事  $\mathcal{O}$ 当 人格 った

#### 訓言

人よ り り 人に及ぼ 性の す感化は、 力最も探甚なり そ  $\mathcal{O}$ 雄弁 n (国木田 も主義よ りも、 独歩) 信

北原文蔵氏

リリア管内 氏は単に第一メスキッタに於ける、重鎮と称する に早くより、其の存在を知られた人である。 のみならずマ

酸を嘗 数次に及び 対する功績が多い。 福岡県朝倉 人格円満の 当地  $\sqrt{8}$ の入植は昭和九年であるが、学務委員として活躍さるゝ事、 0 都の 風格を有し、 、その統制に当られたものである。 後衆望を負ふて会長となり、 出身にして、 在植者間に絶大の信望を得て居られる。 大正十三年大月の渡伯、 具さに植民地経営の辛 性温良順和、 二余教育に 眞に

## 国府祐史氏

博学の よらず欠くべからざる存在である。 氏 は 士 母 一であ 国に於て新聞記者の経歴を有せられるもの り、 頭胸明晰、 細心緻密、 同植民地に於ては何事に で、 秀れたる

揮 青少年指導に精進され、修養講義に国史講義に其の得意の才腕を されてか 当地 0 て居られるものである。 の雄弁会審査員を勤められた経歴がある。 の入植は昭和十年であるが、其の卓抜なる人材により、 い計となり、 永年其の事務を担当されたも 京都市の出身にして、  $\mathcal{O}$ 性純眞潔 で、 現在は

#### 山 本 勝 雄 氏

を果たされた経歴があるが、其の 向上を図られた事は自他共に許す所で、豪放明朗 の活躍である。 氏は に少年団 東部 出身に 日会に於ても、若冠よく古老の間に伍して学務委員の マリリア青年聯盟を結成して、心身の錬成、 の指導など実に堂に入った訓練振り 同地青年団に於て、其の育ての親たるばか 昭和三年の入伯、 功績尚顕著なるは、 同地の人植は昭和八年七 である福島県  $\mathcal{O}$ 中に 青年団 青年運動 人情 月で 重任 双葉 方面 で な B  $\mathcal{O}$ 

(中央メスキッタ)

#### 藤本 島之助 氏

設立と同時に会計事務務を担当する事にな として、二ヶ年を経、 の間に於ける、 にも相当の苦労を感じたが、「第一」よりの分立問題も重なり、 氏は 七年八月であ ーズ、隣接地三方よりの集合であった関係から、 日語部閉止を見たもので、 会務総てに整調を見ず、 口県玖 剛毅不屈の人である。 珂郡 氏の働きは実に悲壮なるも 0 の出身にして、 た。 施政方面に愈々其の真価を謳はれやうとす 当植民地開拓 同地が元来、 氏の心事亦痛切と言はねばなら 大正十五年十月の渡伯  $\mathcal{O}$ の先駆者とし 0 があ たが、操業当時 口 エステ、 2 た。最近会長 人心の融和 ヴエラ 人植は

#### 藤原 茂 氏

[メスキッタ中央]

何 的立場にある ゝる時代にあ れの植民地に於いてもある程度の確執は免れないも 永き植民地経営の間にあ 人の出馬を要求するや、 っては植民地内に隠然たる勢力を有 っては、 其の政策上意見の相違から、 切なるものがある のである。 而も中立

氏は穏健順良の如き一面あれど、侮り難き覇気を有し、 に氏 改選に副会長の重職を留任せられつゝある事より見ても、 が中 ても、其 心的勢力家であるかゞ窺はれるであらう。熊本県の の豪気と相俟って測り得べからざるものあり、 事業的

活動中である。 昭和三年一 月 の渡伯、 入植後既に八年を閲し、 現会長として

### 上村彦七氏

慾と、眞実なる民族精神を有し、公共事業の為には寸言もなく、 ふ程 心一加の奉仕をする人物が、何れの植民地にも必す居る。 り乍ら、其の農業経営たるや真摯重厚を極め、 華 々しき社会的な活動家でもなく、 の事もなく一見社会的に閑却されたる存在といふ様な型であ 言語動作、 内に鬱勃たる事業 別に取上げて言

在は顧問として、その督励に当つて居られる。 昭 の大植民地と称されつ 氏はその最も代表的なる存在で、今日同植民地がマリリア郡 のがある。氏は入植当時二ヶ年に亘って、会長の職を務 四年九月であった。 ゝあるのも、一に氏の力に負ふ所多大な 熊本県の人、 渡伯

# 田中勘兵衛氏

された功績は、 業に尽卒し、物心一如の犠牲的精神をもって、社会公共の為に喝 る。其の身通学児童を有たぎる環境にあり乍ら、 ユ 氏は福岡県鞍手郡の出身である。堅実沈着の中に モアを含み、人を反さぬ社交振りには実に天晴な 一再に止まらな 率先し 一面多分なる るも て教育事  $\mathcal{O}$ 

に精 の途上にあった日語教育問題に突入して、親しく辛酸を嘗められ の輿望を負ふて煩雑なる会計事務を担当すること二年、折柄苦難 昭和九年八月、 励中である。 現在は更に進んで副会長の要職にあり、 日頃  $\mathcal{O}$ 熱望達せられて、 開拓入植 一後は、 会務

#### 訓言

### 上田新蔵氏

を認 リリ 抜なるも ればならな に訓練に学校行事に、よく教師を助けて、新進中 一点 氏 張 は ア管内  $\emptyset$ 5 の体験者であるだけ、其の棉作に封する知識と手腕 ア ラ  $\mathcal{O}$ \ \ \ \ がある。昭和九年八月、 ラ に輝やか ク 学務委員の要職につき、 アラ線及び したのは、 前 一に氏の力に依るものと言はなけ 任モ 大職と共に教育に対する熱誠 口 連続すること二年、 F -央校 に於 の名声を、 学習 は 棉 7

心勢力として、 は農園経営 熊本県八代郡有佐村 の傍ら、 会の枢機に参画して居られる。 同地市街地に食料品店を開業  $\mathcal{O}$ 出身に 渡伯 は昭 和 兀 年六月。 植民地 現在 中

## 高橋平治氏

#### (中央メスキッタ)

前 議員を歴任し、 に列 任 氏は宮城県刈田郡大平村 モ し、学務委員、 . П レドンド 昭和八年八月、 会計を経て、 · に 於 の出身である。昭和五年三月の渡伯 て既に其 中央メスキッタ転植と共に役員の 今日に及んでゐる人である。  $\mathcal{O}$ 人物を認められ、 区長、

に隠然 植民地開發の為に献身せられたもので、在植者の信望も厚く同地 以 氏 0 枢機 て事に常る人であり、 たる勢力を扶植してゐる人である。 財力的方面に於ても、 に参画 して居られる。 同地 同地の代表的存在であるが、  $\mathcal{O}$ 創設以来、 現在顧問 全身全霊を傾注 職にあ 至誠

# 吉 原 林 太 郎 氏

#### (メスキッタ中央)

其の信心の念厚く、 である。 く近隣同行者を集めて、修養之努めて居られるといふ異数の存在 氏は香川県綾歌郡橋岡村の出身である。日蓮宗の帰依者として、 自宅内に祭壇を設けて、 四時香の煙絶え間な

の為に 今尚在植者賞賛の的となってゐる。現在は会計として植民地経営 日語教育問題の渦中にあって、 められて、学務委員の重職に就かれること一面、折柄困難なる、 中央メスキッタ入植は昭和十年八月で、その確実温順の性格を 奮闘中である。 在伯既に十五年、 よく最後まで努力せられた事は、 昭和二年七月の渡伯であ

#### 森本 強氏

け、其の子女の教育には寸毫の 机を並べて、其の学習を補佐すると言ふ。在伯移に見る好学の である。 氏の教育熱心は有名なものである。自身独学奮闘 油断もなく、 夕食後は必ず愛児と の士であ るだ 士

を忘れて児童教育の為に奔走される姿は、正に壮としなければな 尚早しの感を深くするが、選ばれて学務委員の要職に就くや寝食 らぬ。熊本県は阿蘇の噴煙たなびく内牧町の出身にして昭和 五月の渡伯、 氏は未だ若干、古老に伍 人格は同九年八月であ て植民会の った。 枢機に参画する には、

#### 上村健蔵氏

だ若けれども、 を以って植民地開發の為に奮闘 氏  $\mathcal{O}$ 渡伯は大正十四年七月である。 よく在植者の信用を博 しつゝあるものである。 身体頑健、 農園経営の傍ら運搬業 思想堅実、

其 其 月である。 り表面的活躍を好まざる風あれども、選ばれて外交委員となるや、 ること、 の功績見るべきものがあった。 の流暢なる語学カによ 氏は性温良の中に、どことなく覇気を有し、 蓋 し在植者中の逸物である。 0 て、 よく伯人教師との連絡を保つなど、 福岡県の産、入植は昭和八年八 植民会関係に於いては、 機を見るに敏な

#### 訓言

人の性格は自 づと顔に現は (三宅雪嶺 わ る もの 智仁が備は 0 る る

#### 崎 新 蔵 氏 口 ド

ら、 績顕著なるものがある。昭和十四年六月、農園経営の傍ら、 熊本県八代郡郡築村の出身にして、 にプール創設と共に、会長職を引退し、専心事業に没頭中である。 験とによって、植民地の向上發展、教育事業の充実に精励する傍 に於ける、 に推され、爾来七ヶ年、三期牛に亘る長期の連続就任はパ延長線 東部 て知られこゐる氏は、昭和五年現植民地入植と同時に植民会長 東部 7 リリアに於ける事業家として、将叉教育関係 マリリア区学校協議会、 異数の例と称せられ、 其の沿面なる人格と豊富なる経 第一次副会長としても、 昭和五年六月の渡伯である。 の敏腕家と 其の功 マ市

## 佐藤岩次氏

として自己所有の土地を提供し、 氏 は 干 審さに辛酸を嘗め 口 ・レドンド開拓の先駆者として第一回草分十三家族 られ 昭和五年学校建設主唱者の一人 児童教育の為にその労を惜 しま

居ら は衆望を負ふて、 は昭和三年八月である。 大農園経営の傍ら、植民会顧問として、 なか 無心なる好々爺として、 えれる。 一月とあるから、 った恩人の 福岡 県浮羽郡 会長の重職に 一人である。 在伯邦人移植民界の元老株に属する。  $\mathcal{O}$ 出身にして、 在植者の信望が厚い。 性温厚篤実、 つき、 留任すること三年、 会の重大事項に参与 日露戦争従軍の経歴を有 植民会創立に当つ 渡伯は大正二 現在は 入植 7

### 手 島 米 太 氏

績と共に、 同地 信望も極めて厚か られて、評議員となり、会員間の中心勢力として重きをなし、 て、よく学事 二年度改選には学務委員の重職につき、其の熱誠なる態度をも 青年団 氏は福 の入植は昭和五年八月で、間もなく其の優れたる人格を認め  $\mathcal{O}$ |岡県浮羽郡大石村の出身である。青年時代より向学心強 大きな足跡をのこして居られるもの 幹部として郷党の為に貢献されたものであると言ふ。 の為に、 った。 奔走されたもので、 翌々年副会長時代 であり、 在植者の  $\mathcal{O}$ 功 0

経営と共に、 熱心な事は比類がない。 現在は隣接 非常なる繁忙 地に別個に棉作地を撰定し、 の中に在ると言ふ。 モー 口 温良順和 に於け 教育に

# 高木萬三郎氏

を往来した人だけに、謹直剛毅な性格を有し、 氏は軍籍にあ 在植 者 ŋ, の信望も厚 歩兵伍長とし 1 日露戦争に従軍し、 其の思想も亦 戦火 **室実** 中

盛大なる植民地を背景に、 公共事業方面にも関心あり、 其の活躍も亦見るべきものがあった。 学務委員を務む ること二年、

昭 育問題に携って、少からざる辛酸を嘗められたも 飽 和十四年衆望を負ふて会長の要職に就き、折柄困難なる日 託 郡  $\mathcal{O}$ 出身に して、渡伯は昭和二年七月であ  $\mathcal{O}$ 0 た である。 熊本

## 山崎繁次氏

的 なる性格の所有者である。 氏 なる素質を有し、 て従事し、 の渡伯は、 終始 昭和五年六月である。 一貫の精神を以って、 一度び物事に熱中すれば、 性温良順和多分に熊本県人 之を完成するといふ特異 文字通り寝食を忘

重 と された事は、正しく特筆に値するものがある。 の渡伯、その入植は同八年九月であった。 の副会長として、植民事業の為に、 職に就き、 植民会事業としては、 私事を離れて、 其の持前 教師 の事業熱心をも 永らく の活動を扶げ、 、評議員 精励中である。  $\mathcal{O}$ 9 て、 席より、 児童教育の 学習に 現在は日語なきあ 訓 躍学務委員 伸展に 昭和 練 に学校行 五 奔走  $\mathcal{O}$ 

#### 吉 本 弥太郎 氏

り ただけ、其の人物には非常に、修練された所があり、 る活動家として、早くより在植者の信望を得て居られたも 氏 常に中心的勢力を失はなか は不知火もゆる八代海 永らく母国工業場裡にあ  $\mathcal{O}$ 沿岸、熊本県宇土郡不知 った。 って、 其の青壮年時 代を過され 剛直淡白な 村  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 出身

功績は、 恰も煩雑なる学務委員の要職につき、会長を扶け、 一九三九年、平素の才腕と物事に熱心なる人格を認め 只管に非常時局下の、 実に特筆すべきも  $\mathcal{O}$ がある。 植民地教育事業の為に、 幹部役員を督 挺身され られ て時

語学校閉 の後は専ら、 伯語学校の存立に力を現し 現

#### 宗晃一氏

渡伯で 本に在 ある。 は、 地 成長を遂げ 面にも深き関心あり、 たもの の植民事業に重要な位置を占めてゐた人である一方家庭教育方 昭和十 は ある人で、穏健の中に悠容迫らざる風格がある。 、ある。 カス 0 で、氏生来の重厚さと、教育に対する熱誠とを以っ て土木請負事業をされ、幾百人の長として活躍され てゐる。 カツ 一年八月で、 因に氏の長男貞夫君は青年会長とし 夕植民地より、 広島県高田 其の子女は皆温かき訓育の中に、健全なる 各種役員を経て、 郡 当地に転じた人  $\mathcal{O}$ 出身に 学務会計の て、 である。 て日夜奮闘 昭和五年三月の 当 地 要職に就 其  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 植 当 で 日

## 田本茂作氏

母国の 臨まれる姿は、 軽率さがなく、 氏は温厚篤実、 村政に携っ 実に頼母しくも亦、 常に中庸的態度をも 純情その た経験の もの 所有者であるだけ、 、如き、 雄」しきものが 9 て、 人格 植民地各般 の人 其の言動に であ あ る。 る  $\mathcal{O}$ は微塵 事業に 永 5

る存在 二回、 が如き、 の為に献身せられたものであり、 日会役員としても、 或は農事部長となり、 である。 教育愛をも 熊本県玉名郡の 0 て、 毎年重要なる職責につき、 常に在植著の信望を待つ 或は会計監査員となり、 出身に 当植民地として、 昭和六年 副会長たる 欠く  $\angle$ 其の 渡伯 べからざ 一世教育 熱 ゆる こと

# 多賀時弘氏

悠々 者の たも 当地は昭和三年の入植で、之亦開拓者の一人であり、爾来十五年、 さに辛酸を嘗め きあと 教育に尽卒されたものであり、現在亦、 氏は大正二年五月の渡伯であり、日本移民初期に於け として農園経営の傍ら、常に貢要なる幹部役員として、二世 ので、珈琲栽培に於ける手腕など、実に卓抜たるものがある。 一員として、未だ其の数、算ゆるに足らざる時代に於いて具 の時局を担当して居られる。 う ゝ、 各地を遍歴して、 外交部長として、 国情並に農事を研究され á, 日語な 先 駆

熊本県玉名郡の出身、性至って順良温和  $\mathcal{O}$ であ

### 牧原爱氏

するだけ、其の農業経営には堅実なるものがある 氏は大正七年九月の入伯である。在伯既に二十四年 歴史を有

長を歴任し、絶へす誠実一路に献身され、 き体感をもって、現在も亦一意、 もあり、 永年北西線プ 日会方面には、 在植者間にも相当に信望を得て居られる。 ロミツソンに在って、 昭和六年七月入植以来、区長、 コーヒー 珈琲栽培に従事し、 -園の経営に精励中 教育事業に 評議員土木部 対する熱意

福岡県浮羽郡水分村の出身である。 穏健着実の人。

#### 尸崎順蔵氏

發達を図る 固不 のである。氏は永年に亘って評議員の要職にあり常に担当区域 動の信念を以 民地事業といふも 公共事業に対する熱心家を得なければ、  $\mathcal{O}$ 融和 といふのが、 提携と、 って、 のは、其の幹部に有能才腕 常に大乗的なる見地から、 其の最も妥当なる方法であるが、一方会 その充実を計る為には、 其の実は挙らな 所謂中堅会員 の士を求 其の健全なる  $\mathcal{O}$ 

ある。 同じく八月であ の中心勢力となって、最後まで教育事業の為に尽卒されたも 熊本県八代郡の った。 出身に 昭和五年六月の渡伯 入植は

## 森永鉄太氏

られる。 てゐる。 熱心なる事は人々の驚嘆する所である。其の学校運動場建設当時、 月であり、 る工事に献身的努力を払はれた功績は、今尚在植者の語草となっ 現場員としての活躍など、実に素晴らしきものがあり十幾日に同 建築に造詣深 氏は熊本県 渡伯は大正十五年十一月、 目下土木部長として、 八代郡下岳村の出身である。天性器用に 温順の中に 一面熾烈なる気風あり、 天性を發探し 現植民地入植は、 ム今日に及んで居 事に当つて 昭和四年九 して、土木、

#### (第二メスキッタ)

## 林内久蔵氏

は、 誠心誠意勤むる人であり、同植民地が、 氏は福岡県朝倉郡福田村 一に氏の力に負ふ所が多い。  $\mathcal{O}$ 出身である。 今日の發展を来たしたの 性温厚篤実、 何事にも

第四次改選には、 任を果されたもの 信望も一身に集まってゐるかの観がある。大正十五年十二月の渡 日会創立に当つて、第一次学務委員となり、連職すること二年、 入植は昭和十 で、其の功績も亦多大なるものがあり在植者の 日会長の重職につき、 一年七月であ った。 第五次、 第七次と其の重

# 町 田 春 蔵 氏

るも がある。 1 氏は性謹直にして、 のがあ 風格があるが、二世教育問題に対する識見など、実に卓抜な ŋ, 常に率先して奔走される姿は、 物事に無駄の な い人である。 眞に頼母 多少 硬骨漢と しきも

植は昭和七年七月であった。 のが多い。長野県上水内郡の出身にして、渡伯は昭和五年五月、入 日会役員としては、学務委員を務めること前後三ヶ年、 て、会務統制に当られる事二ヶ年、其の功績も亦見るべきも 副会長

## 福島吉蔵氏

が仲々 ってゐる。 氏 は島根県松江市の の手腕家であり、 人である。 事業家として大成される素質が充分に 非常に朗らかな人で、 まだ若

でゐる。 後同地に商店開業と共に、一切の公職を去り、専心事業に熱中し 地 て居られるが、 開 統 拓先駆者の 制 昭和二年八月の渡伯で、 に当り、二世教育の充実に、貢献せられたものであるが 在植者の信望があるだけ、素晴らしい人気を呼ん 一員で、日会設立当時より三期間会長として植民 同七年七月の開拓入植であ

#### 田中金吾氏

喝されたもの 長 委員に当選し、 休の活動をされたもので、次年より、其翌年にかけては副会長、 人として重きをなして居られる。 の単機につき、 氏は同地開拓人植の先駆者である。 り、翌年には学務委員に進み、 で、 開植直後の道路新設、並に改修に献身されたも 会務を統制しつゝ専ら意を植民地發展 在植著間の信望も厚く 親しく二世教育の為に不眠不 日本人会設立成るや、 同地に於ける、 元老の の為に、 土木  $\mathcal{O}$ 

福岡県浮羽郡  $\mathcal{O}$ 出身に 渡伯は昭 和四年である。

### 林内久三氏

為に、植民地開發二世教育の為に献身されたも き功績をのこして居られるものである。 に於て会長の要職につき、翌年叉其の貢任を継承 氏は当植民地に 日語教育の為に非常なる貢献をされたも 於ける、 初代 の学務委員とし  $\mathcal{O}$ Oで、 で、 <u>一</u>ケ 後第四次 幾多の 日会統制 年を継続 、改選  $\mathcal{O}$ 

九年 福岡県朝倉郡福田村の出身にして、 七月、 温厚篤実の農人とし 昭和三年の渡伯、 在植者の 信望が厚 入 植 昭

# (公 栄 植 民 地)

## 次山量三氏

にあり、 然たる信望を博し、前後六年に亘って同植民地会長、其他の重任 育の為に、 同植民地が磐石の安きにあるは一に氏の力に負ふ所が多い。広島 公栄産業組合理事長等の顕職にあり、専ら植民地 れたる業績は実に枚挙に邉なく、現在、東部マリリア区学務委員、 温厚篤実型の典型として、 常に教育的先駆者として、管内並に東部 |身で 動もすれば、 活躍中 堅実なるイデオロギーを以 昭和三年 である。 弛綬せんとする教育精神を作興し、 の渡伯である。 現 下 昭和九年八月公栄入植当時よ の教育的非常時 って、 子弟教育の発展に資 マリリアに貢献せら  $\mathcal{O}$ の伸展と子弟教 渦 中にあり、 その厳 り、

# 小橋 織 之 介 氏

がられ 昭和 氏の家庭は又氏 現在同地日本人会長並に産業組合の幹部として尽力されてゐる。 及んだ。公栄に於いて氏の足跡は実に大きいと言はねばなるまい。 題に関しては、 意見を持ち、 大正十二年十一月である。 校関係に於いては、他に類をみない熱と粘りとを表はし、今日に 氏は茨城県那珂郡静村の 十一年九月、現在二十アルケールの地主として常に穏健なる 、てゐる。 円満なる人として尊敬されてゐる。 何時も教師の良き理解者として衆論をまとめ、 の性格の通り円満其のもので在植者一般に羨まし パ延長線公栄植民地に入植したのは、 出身で、雄志を抱い て渡伯したのが 特に子弟教育問

#### 今野 吉右衛門 氏

挙げたのは偏に氏の努力に依ると言はなければな 植民地が全全伯武道大会に出場し、柔道に於 を修め初段の腕前あり、入植当初より青年を集め、指導に尽力、 会長、会長を務め上げた人である。氏は農学校在学中よ ゐる。其の間教育のよき理解者として若手で重きをなし、 である。 氏は山形学県南村山都上山 植民地開設と同時、 .町の出身。昭和四年十二月渡伯 昭和八年十月入植、 いて非常な好成績を 今日に及んで るまい。 り、柔道 会計、 副

#### T 山 七 歳 氏

た。 来今日に至るまで殆ど公職に選ばれないことはない、と な地位を托された事等が、 い。寡言にして実行力に富む同氏は、 温 これは氏が大公栄の会計として、 その 厚にして、 人柄を購 且つ又不言実行型とでも言はうか、 は れて、 同地産業組合 よくそれを物語ってゐるとい 何時も必ず実蹟をあげ あの大世帯を切り盛り この理事、 会計と 同氏 は へよう。 0 て来 てよ

ある。 に在 児童教育には言ふ迄もなく、熱心に 植は昭和九年八月であ りしことあり、熊本県宇土郡 同氏は現下世界注視の中心、 った。  $\mathcal{O}$ 出身に 東亜共栄圏中のフ て植民地の功労者の 昭和一 一年の渡伯、 イリツピン

#### 宮 田 宗 一 氏

ある。 語は 七月の 間、学務委員を務めたが、現在副会長であり、 ことは、公栄にとって実に仕合はせであ い人の多い邦人植民地に、氏の 尾忠 同氏の為に作られたかと思はれる程、同氏より享ける感じは 全伯陸競の中距離選手的中馬徳君は氏の義弟であ 渡伯、 口に子弟教育の重大性を叫 一氏と同じく、 公栄入植は昭 和 口県大津郡三隅村の 九年八月である。 如き教育熱心家、 びながら、 ったと言ってよい。 さっぱり実行の伴 同地産組 謹直 出身で、 努力家を得 竪実といふ の幹 昭和二年 る。 長 た は

### 中尾忠一氏

と云ふべきであらう。 時、氏は実に文字通り熱心そのもので、この方面に儘した功績は 大正十五年六月渡伯、 大きい。公栄を今日あらしめたことは氏の如き人が興っ 子無きが故に、 邦 人子弟教育に関し て努力すべ 教育問題には極 氏は きは、 入植は昭 ては民族發展の為、重大なる意義あること 山口県大津郡三隅村の 自 めて、 明 和九年八月、  $\mathcal{O}$ 理 冷淡なる者あるを耳に 一であ るが 現在学務委員、 稍もすれ て力 ば 自身 産業 する

## 福原末松氏

合幹部、

氏には子供が

な

氏  $\mathcal{O}$ 出身地は熊本県八代郡鏡町 昭和四年二月の渡伯 である

が多い。 要とするが、 大様な感じ に尽してゐる人、氏の周りを取巻く空気は何時も和やかとい には公共の為に己れを犠牲にして尽力して行く者の多いことを必 公栄へは、 しかし氏の如きは常に穏健な意見を持ち、 昭和十年十月入植。 のする人である。現在学務委員で同地産組の幹部であ ブラジルに於いては、 今日に及んでゐる。 之は言ふべくして行ひ難 植民地 植民地 の發展  $\mathcal{O}$ った、 い点

### 力 丸 亀 義 氏

経営方面に頗る功績が多い。 事、前後二年、 りながら、 青年では相当年長の方であるが、日会員としては若干の 古老の間に伍 学務委員として三年を重任し、 してよく公共事業に奔走し、 教育的に亦植民 会計職 たる であ 地

要なる存在となってゐる。 年七月で配耕地 相当の教養ある上に公共事業的才腕は衆 の農年を終へて当地に入植 福島県田村郡  $\mathcal{O}$ 出身 人の認むる所であ したもの で、 渡伯 である。

#### 教育訓言

汝も 兄とし、 し成功を望まば、 希望を守護神とせよ。 不屈 不撓を親友とし、 (ヱヂリン) 経験を良顧問とし、 戒心を

途中で失敗 である所に 人生の 0 た り、 興味が 苦し きある。 んだり す るからこそ、 厨川白村 旅は面白 11  $\mathcal{O}$ だ。 不如意

#### 第一昭和植民地

## 田尻作治氏

充実向進させるといふ力を持ってゐる人である。 して無駄なく 農村人 として最も必要なる人格は勤勉にして思想穏健、着々と 事を運びび、 他人との和を得て、 其の共同体を益々

れる 在は最も責任重き日会長として、現下の非常時局を担当して居ら れまで会の幹部として会計、 他に先んじ事を成すといふ人で、 厚篤実、円満なる人格の所有者であり、殊に児童教育に 大正二年十月の入伯である。 氏は此の点から見て秘かに、その典型的な存在と言へ のである。福岡県は浮羽郡の 副会長等 出身で 勢ひ在植者の信望も集まり、 の重要なる役員を経て、 在伯邦人の古株に属 · つ る。 いては、

#### 長瀬権 蔵氏

事を研究する所あ を基礎に 氏は在 伯 珈琲園の経営に当り、 日本人古参組の一 り、 昭和五年、 人である。各地を巡歴 常に実際的 昭和村入植と共に、 永年の て審さに農 体験

栽培 ては、  $\bigcirc$ 家事を顧みず専 模範とし 農事 の奨励に尽される一方、 学校建設 12 当 0

に精励されたものである。 月の 公事 渡伯、 目下帰朝中である。 の為に奉公され、第四次改選には会長として、 現在は後輩をそ 熊本県飽託郡  $\mathcal{O}$ 子息に托 の出身に て、 躍進日本の姿に接 して、 植 大正二年 民 /地経営

# 宮脇寅太郎氏

氏は 昭和村開 拓  $\mathcal{O}$ 祖 人である。言語の不自由と土地売買手続 0

のは、 些か 解あ 負を有し、 不案内なる当時にあ の産である。 つき、漸くその緒に就 の的となってゐる。 其 り陰に陽に、 の卓抜なる外交的手腕を以って、常に同胞をして有利に導き、  $\mathcal{O}$ 一に氏 不安なからしめた事は、 第三次改選に於いては、 の力に依るもの その 植民地開發に関し 0 運動を扶けて居られる。 いた教育事業に、更に一段の光彩を添 相次 である。 氏一代の功績として、 いで起る入植者事業上の 衆望を負ふて日会長 一方青年運動に非常なる理 ては、人一倍ッ 長野県は 熾烈なる 在植著敬慕 上伊那 の要職 郡 た

### 内川菊治氏

再に 昭和 業績は、今更喋々する迄もない。佐賀県は神崎郡の出身にして、 和三年六月の に児童教育問題には、不動の信念を以って、 人として在植者の信望がある。 氏は帝国陸軍に籍を置い 開拓 まらない。曾っては同地青年会創設者として、 第六次日本人会長として、 の先駆者として、公共事業の為に尽くされた功績は一 渡伯、 昭和村入植は同七年八月であ ただけ 昭和村維新 剛毅果断 その發展を図られた  $\mathcal{O}$ の為に貢献 気象に富 0 た。 青年運動を 清廉謹直

### 大槻忠吉氏

尚消 惰眠を喚び覚し、 先して事に当り、その燃ゆるが如き意気をもって熱弁よく諸衆 会幹部 し、その謹直堅実なる性格をも  $\mathcal{O}$ 渡 難き記憶として、 伯は大正十五年十月である。京都人の ては学務委員を初めとして、 専心児童教育事業の 在植者 の胸に生きてゐるもの って、 植民地向上發展の為には率 為に尽卒されたことは、 副会長、会長の職を歴任 風雅なる面 である H

府何鹿部西 現在は顧問とし 八田村の出身に て会の枢機に参画して居られる。 して、在伯巳に十五年である。 日本は京都

#### 訓言

我が道は、 の荒地を拓くことは難からず。 人の心と言ふ田畠を開墾する事なり。 (<u>|</u>宮 心 田さへ開墾できれば、 尊徳)

# 上世常次郎氏

なる 事務を担当し、 年 氏は精農家の誉高く、 九月で、同植民地第五次改選には本植者の輿望を負ふて会計 第七次ツ総選挙には、 堅実なる農業経営者である。 其の高風なる人格と、 入植は 卓抜 。 昭 和

を以 やく に氏 手腕を認 て会務に携って居られる。 して、渡伯は大正十五年十月十六日であ の力に依るものと言はねばならぬ。氏は奈良県吉野郡 困難ならんとする日語教育問題をして、常に臨機応変の態度 って善処し、第二余教育をして泰山の安きに起いたのは、 められて、 日会長の席に就き、 無言の裡に実行叉実行 った。 現在は顧問とし の出身

# 中田嘉良雄氏

氏は会計 か否かによって、その運行上に非常なる差異を生するものである。 日語学校の経営上、個人教師との連絡が円滑に行はれつゝ 学校経営の上に大きな力を斎らしたもの 兼学務委員の要職にあって、此の 間よくその接触を調整  $\mathcal{O}$ 人である。 ある

氏は其の父君に代って農業経営に当り、機敏に

して調和的なる

である。 み る 特質を生か 和村入植は もの である。広島県の産にして、大正十三年十二月の入伯、昭 しつ 昭和五年 在植者間の中心的存在として、 十月、 在伯巳に二〇年に足らんする篤農家 今日に及んで

#### 秦雛古氏

独戦争の 植民地政策 人を容る 氏  $\mathcal{O}$ 入伯は 殊勲者として、  $\nearrow$ の雅量あり、 の為に貢献せらるゝ所が多い。 昭 和三年 農園経常の傍ら、 剛毅果断、 三月である。 崇高、 帝国 なる 二世教育を中心とした  $\mathcal{O}$ 人格 干城として、 の内に、 両

なる学務委員の重職に就き、其の確固たる教育理念を以 事務を処理された功績は実に多大なるも 十次役員改選に臨み、 平素の 人格手腕を認 のがある。  $\Diamond$ られ、 最も 0 困

福岡県 の出身にして、 入植は昭和八年一月である。

### 樋口政吉氏

走され とな け 胸に生き、遺族に対する村人の世話振りは、真実を極めてゐると に亡き人であるが、其の人格と徳化は不朽のものとし として、学務百般の事に尽卒されたことは、今尚在植者賞賛の に、 氏は福岡県三井郡草野町の出身である。有名な酒豪であ ってゐる。氏は現学務委員同姓政吾氏の実兄に当り、 大正六年六月の 同 特に学務委員在 地 稀に見る 活動家である。 渡伯で、 職中、 一身を犠牲に 入植は昭和五年五月であ 各種の公共事業に率先 して児童教育を て植民者 今は た。 0 て奔  $\mathbb{Z}$ 的

# 千代理久藏氏

なる語学力によって縦横の活躍を惜まず、 存在は学務委員に外交的手腕家を持つといふ事で、氏は其の から逃がれる準備をするといふ様な具合で植民地経営といふ事業 には幾多 て磐石 の兆を来た 児童教育問題が悪化し始めるや、各植民地に於いては漸やく動 より入伯されたもので、 の安きに置  $\mathcal{O}$ 困難が学ふものである。 し、信念浮薄なる連中は早くも児童を退か いたといふ功労者である。 熊本県上益城郡の産である。 かゝる時に於い 伝統輝やく「昭 昭和四年ア て最も力強き て巻添 ルゼ 和」を 堪能

#### 教育訓言

始末に困る人ならでは艱難 要らず、 名も要らず、 官位も要らぬ を共にし 国家の 人は始末に困る 大業を成し得ざるもの也。 ŧ  $\mathcal{O}$ な り、

#### (西郷隆盛)

### 臼 井 政 太 氏

事業 に当 其 まらず、 として、入植当初より公共事業の為に貢献され した の建築に携はり、在伯日本人植民地有数の広壮なる学舎を建設 氏は福岡県浮羽郡の出身である。昭和植民地開拓先駆者の 五年八 にのは、 0 為に精励されたもの ては会計 殊に新校舎建設に当っては、 月である。 一に氏一代の栄誉と言はねばならぬ。 副会長を経て、 である。昭和三年七月の渡伯で 第八次日会長となり、 氏多年の薀 た功績は 蓋蓄を傾 一方植民地内政 専心 け 再に 植民 は 5

## 石 坂 善 助 氏

氏 は福島県安達郡本官町  $\mathcal{O}$ 出身である。早く より海外發展  $\mathcal{O}$ 意

ある。 志強く、 経営の傍ら、 九次には て国内事情を究め、現在昭和植民地に農園を拓き、 し、其の円満なる人格を称せられて、第六次改選に会計とあり、 のである。 意を決し 躍日会長となって、植民地統制の任に当られたもので 氏は極め 教育事業の為に精励 て、 大更一年五月廿五日入伯し、 て穏健篤実、 農村人の無垢なる性格を保時 つ 〉、 今日に及んでゐられる 堅実なる農業 各地を巡歴

### 垣本良平氏

携り、 正十 なってゐる。同地第をの確実性を認められて煩雑なる会計事務に 7 面 られたもので、其の功績は燦として植民地史の上に輝 は隠れたる篤志家として、 日本武士道的果断性あり、教育問題を中心に植民地事業に対 氏は鳥取県気高郡の 一年六月の渡伯であって、 翌昭和九年には一躍日会長に推されて、 出身である。 在植者敬慕の四次選拳には、 在伯巴に二〇年を算する。 謙譲温容なる風貌 植民地 の統制に当  $\mathcal{O}$ 内 る大 的 لح

#### 立石 光義氏

委員、 民地経営の為に尽くされた事は、 的行動を以 六年二月の 美しき語草となっ れを忘れて犠牲的奉仕を続け教育的信念厚く、度々推されて学務 氏は軍 副会長 入伯である。 0 人精神 の要職に就き、 て事に臨まれ、殊に公共事業に関し てゐる。 の保持者であり、 氏は愛知県豊橋市 その高邁なる識見を以 今尚第一昭和植民地に於ける、 清廉謹直憂国的思想と、  $\mathcal{O}$ 出身にして、 てては、常に己 って、 軍律

# 本間市太郎氏

渡り、 中である。 に対して熱心な方である。 入植後、 四年である。 氏は明治三十九年、 大正七年に至って営国に渡来した人であり、 選ばれて学務委員となり、 温厚に て篤実、 我国海外發展の 新潟県北蒲原郡 在植者間 現在副会長とし に評判よく、 先駆者とし の産で、 て会務 在伯既に二十 昭和五年 特に教育事業 に 精勤 玉 現地

## 藤井光雄氏

されただけ、 氏は既に其の故郷北海道に於て その農業経営には、 頗る博識な所がある。 植民事業の要諦を掴 で渡伯

信望を博し、第十次改選には学務要員兼会計として教育問題を中 7 和三年六月六日、日本は北海道北見国斜理郡米円村 心とする植民地経常の枢機に参与せられたものである。 最近父君に代って農園経営に当らるゝ 独特 の堅実なる農法を行ひ、 篤農勤勉の人として、 P 周到なる用意をも の出身である。 在植者 渡伯は昭  $\mathcal{O}$ 0

# 廣本三千一氏

あり 頭脳 を開 ざる存在である。日会内の幹部としては会計を経て副会長の 成し、その農業経営を賞賛されつゝある人である。 を捨てゝ 入伯で古株に属する。 氏 始し、 は の持主にして一面理解力に富み、 教育事業には極め Щ 不眠不休の活動をされるといふ、 口県玖珂郡岩国市 現在に於いて接近隣稀に見る、 熱心なる有志である。  $\mathcal{O}$ 人、昭和村人植と共に果樹園園経営 公共事業に関しては、 模範的なる果樹園 団体組織 大正七年九 氏は機敏なる に 経歴 から 私事 を完

## 濱本友一氏

られ 教育方面 由 てゐる事が嬉 に多大 和村に は 関心を持ち、率先して植民事業の伸展に貢献せ しく思はれる。 人物が多い。 そし てその 第 級  $\mathcal{O}$ 人士 が 総 7

尽力 渋とする学務委員の席につき、 の人として、非常時局を担当し、在植者の中堅として教育事業に 氏も せられた功績は実に数へるべくもな 亦そ O例に漏れず、 第九次改選に於 同植民地内稀に見る熱意ある果断 しい て、 そ  $\mathcal{O}$ 職 務最

広島県の産に して、 渡伯は大正十四年二月であ 0 た。

## 末永伊七氏

第七次改選に於いて学務委員の重職につき児童教育方面 昭和三年六 が多大であ て遂に会長 に 氏 は佐 て早く 賀県 月  $\mathcal{O}$ った。越へて第十一次改選には年来の功労を認められ 要職に の渡伯である。 より、その人物の確実性を認められてゐ 神崎郡仁比 つき、植民地統制 山村 の出身である。 の任に当られたものである。 温 厚篤実 たが  $\mathcal{O}$ 典型的 への貢献 同 日会

#### 井上新吉氏

た。 務委員 憶と 育  $\mathcal{O}$ ţ 氏 治為に の大植 て二世教育 り在植者 て胎 尽し数 要職 くもな は 0 昭 に就き、 て の信望あり、堅実なる 、
ある。 力 和 の為に貢献された功績は、在植者の胸に新なる記 の役員を経て第十一 七年九月である。 勇躍渡伯されたの 折柄困難の途上にあった日語数育問題 氏は福岡県三井郡草野町 性温厚篤実、 農業経営の傍ら力を児童教 は、 次改選には幹部として、 昭和四年十  $\mathcal{O}$ 精農家とし 治出身、 月であ 义 南 学 志 突 0

# 長澤東作氏

良、 永く在植着の胸に銘記せらるゝであらう。大正十五年 問題の渦中に投じ、殆んど寝食を忘れて職務に忠勤された功績は、 共に、その て第十次学務委員の重職に就き、折柄困難の途上にある日語教育 て入伯、 氏は関東の よく人を容る 温健なを思想と物事に対して熱誠なる性格を認められ 後幾多多の尊き体験を得て。今日に及ぶ。 人、埼玉県北足立部の  $\geq$ の雅量あり、 昭和十一年九月、 出身に して、 性謙譲 昭 村 て温

### 永島澄雄氏

現在に於て、氏は早くより、此の重大事を説 であるに不拘、衛生方面に関する注意は全然等閑視されて ぬ農村地帯に於け る衛生状態は殆ど原始的 ふも過言で るる

てゐる。 不拘、此の偉大なる功績は植民地内に於ける美談と の罹病者もなき迄に理想を貫徹されたもの 卒発して虎限撲滅運動を起し、 った。 福岡県三瀦郡 の産で、 渡伯は昭和三年昭和 継続すること一 であり、 歳末だ若干に して賞賛され 年、遂に 同五

#### **原藤庄三氏**

#### 第二昭和植民地

民地統 植後、 尽された功績は今更喋々する迄もな 氏は長野県上伊那郡 在植者の信望を得て、 制 育事業は  $\mathcal{O}$ 任に当り、その卓抜なる経倫と犠牲的精神とをも 勿論、 各般の  $\mathcal{O}$ 出身である。 日会長に当選、 日会事業を処理し、 昭和八年三月、 爾来数年に亘 植民地 当植 開發 民地入 0 て植

は母国に於いて完璧的統制力をもつ産業組合の体験者にして、

先年率先して第二昭和、産業組合を設立するや、 血を注い つき、絶大なる抱負と豊なる体験とをもつて、 土地周旋等がある。 で居られる。 渡伯 は昭 和 八年三月である。 同組合 組合長の要職 副業  $\mathcal{O}$ とし 興隆 に て測

# 酒 井 卯 四 郎 氏

氏は 長 郷土を磐石 非常時局 氏 評 要職 の入植は 判の の担当者として申分なき存在である。 に つき、 大酒豪家だけに、その性豪放磊落、特に決断性に富み、 の安きに置いたのは一に氏の功績と言はねばならぬ。 昭和八年六月である。同植民地開拓と同時に初代会 相次いで起った各般  $\mathcal{O}$ 日会専務を処理

三年 弟教育問題に大し 熊本県宇土郡の出身にして、子賓主義をモッ 十月である。 ては牢固たる信念の所有者である。渡伯は昭和 1 殊に子

## 平野三吉氏

植民 混 望をも 植民地内有力者の一人として在植者一般の信望をあつめ、現下の て地歩を固め !沌たる非常時局にあ 氏は静岡県小笠郡上内村の出身である昭和三年一月、遠大の志 地経営の為に己を捨て  $\mathcal{O}$ がある。 0 て、 渡伯後はその 昭和十一年八月第二昭和植民地人植と同時に、 切に今後の奮闘を祈る。 って日会長の重職を負ひ、子弟教育の為に、 堅実なる農業経営をもつ ム活躍し て居られる姿は、正に神々し て、 着々とし 司

愧ぢず、 するは三の楽しみなり。 訓言 俯 7 父母倶に存 人に恥ぢざるは二の楽なり。 兄弟故 なきは一 (孟子) の楽し 天下の英才を得て之を教育 みな り、 い で 天に

## 松本倉蔵氏

舎新築の際は、 ら東奔西走、終に完成の域に導かれたとい の入植は昭和五年七月、前任第一 副会長の 要職にあり、 会長を助け役員を励まし、 昭和植民地に於ける同校々

ふ有能の士である。

あり、 賀郡の産、 つき、 第二昭和に於いては、その人格と手腕を認められ、会長の重職 篤農、 教育事業は言ふに及ぼず、 大正十二年六月の渡伯である。 努力の士として一般在植者の尊崇がある。 植民地開発の為に多大な貢献 茨城県多

#### 篠原隆賢氏

本県 制の任に当られたもので、その功績も亦多大なるものがある。 起ち建築会計委員に選ばれて具さに辛酸を嘗め、その基礎を築か 産業組合理事として生産陣の為に活躍中である。 れたもので、後副会長の重職につき、会長と共に親しく植民地統  $\mathcal{O}$ 議起り、 氏は昭和九年九月の入植である。氏の入植と共に日語学校建設 上益城郡の 時未だ、 出身にして、昭和四年八月の 入植直後の雑然たる中に、 渡伯、 氏はその第一線に 現在同植民

# 阿 久 津 助 太 郎氏

実に得難き教育熱心 植民地、小学校舎新築に当っては、自ら建設委員長となり昼夜寝 食を忘れて、東奔西走し,遂に当時稀なる校舎を完成したといふ、 氏 の渡伯は大正十二年六月である。 の範たるべき人であ 昭和村初代会長として、 った。

士として、深く植民者の脳裏に印象され、 鳴呼されど、 此 の人今やなし、 その功績は萬代 今も尚一般在植者 不易、  $\mathcal{O}$ 志

慕去らず、 て家業にいそしんでゐるといふ。茨城県の出身に 人であった。 第二昭和に於け 切に氏の冥幅を祈る。 る遺族は、 植民者愛護の下に、 して熱血果断 孜 々  $\mathcal{O}$ 

## 大西宰三氏

渋を思はせられる、学務委員として日会役員の席に列し、 難を予想された、 第二昭和入植と共にその堅実なる人格を認められ折柄前途漸 年十二月の渡伯である。 きものがある。 年、万難を排して児童教事業に尽さた功績は実に筆舌につくし 氏は温 厚篤実、不言実行の典型的存在である。昭和十二年十月、 中国は 日語教育非常時の 尚 山県阿哲郡草間村 渦中にあ の出身にして、 9 て、 最も事務 昭和二 爾来数

#### 上村政喜氏

ある。 が厚い。 植以来、 意を児童教育の方面に用ひ、折柄困難なる植民地経営 堅実なる農業経営の内に、 接せん為、 て、幾多の重要事項を処理し、植民地内有数の努力家とし 氏は熊本県鹿本郡 永く会長として、 第二回渡伯は大正二年八月であり、 一時帰国し、 山本村 新たなる意気に燃へて、 その重任を果し、 副業として運搬業を行ひ、当植民地入  $\mathcal{O}$ 出身、篤農家としての聞こへ高く、 先年躍進日本 古色蒼然組 再渡伯後は 中に て信望 の姿に 専ら あ 0

#### 4 井 弥 七 氏

ず 植民 んば、在植者の正しき輿論によっ > る場合一般回員の中に熾烈なる民族精神と公共的犠牲観念の 地 の發展は幹部役員  $\mathcal{O}$ 立案によ て動くか、 る強引的 その 政策による 何れか

現在 所有者が多い 正にその意味に於ける中心勢力と言っても過言でない。福岡県浮 郡 には 出 7 身に リリ · 時、 ア市に於い して、大正二年十二月の渡伯、 会の運行は順調に進むものがあ ルを開業し、 入植は昭和九年六月、 頗る盛業中であ って、 如き、 る。

## 松本順一氏

### 第三パウリスタ

その上、 ふ、 於ける貢献 務委員を六 県人会マリリ アたつぷり 日本に於て下関区裁判所書記を拝命した経歴に似ず、誠にユーモ 氏は当植民地 全く植民地 人物は非常に修練され、 は枚拳に遑がない。 ヶ年も勤続された程の精勤才腕の士で、その の話し上手の他人の事でも親身になって世託するとい ア支部 の草分けである。奇智多才、能筆家として知られ、 のホガラカ源泉といふ の常任幹事とし 昭和二年十月 入植後推されて、 て活動中である。 一寸風変り の渡伯で、  $\mathcal{O}$ 副かい長兼学 存在である。 現在 教育上に

## 水戸岡清一氏

とな 輿望を負ふて日会長となり、非常時局下に於ける植民地経営 次改選には副会長の要職につき、第六次より、 日会の為に寧日なき状態であると言ふ。渡伯は大正十五年三月十 に奔走し の終始一貫的至誠と、団体組織に於ける軽倫を謳はれつゝ、 氏は Ď, 今後に於ける活躍に期待する所が多い。 岡山 日会創立、 5 7 [県都窪 今日に及んでゐられる人であり、 電郡庄村 第一 次より、学務委員兼会計の  $\mathcal{O}$ 出身であ る。 昭 和 八 現在にかけ、 年、 殆んど入植以来 職を歴任し、 現植民地 遂に 第五

## 鳥羽富吉氏

共に農業経営に従事する傍ら、 三次と日会長 後学務委員に推されて、 なる話題となってゐる 展に終始貢献されたもの 氏は大正十四年九月十九 にとっては革分け の重 重職にあ Oであ 子弟教育を斡旋し、 一人であり、 長崎県北松浦郡黒島村の出身で、 り 専ら教育問題を中心として、植民地發 日の入伯で、昭和八年現植民地入植と って、その功績は今尚在植舎間の聖 一時教務を担当されたものである。 叉長老でもある。 第一次、 第二次、 当植民

#### 教育訓言

のは すれて痛いものだ。 、間は角があると、 何処  $\sim$ でも苦もなく 世の中を転 行けるが、 つて行くの (夏目漱石) 四角なも に骨が折れ  $\mathcal{O}$ は転がる度に角が る。 1

### 藤井英氏

漸やく、その緒についた植民地教育をして、 務委員兼副会長 植者の信用が厚い。 ントス入港、当地入植は同八年であ 人である。島根県能義郡の出身にして、昭和三年一月十三日のサ 氏も亦第三パウリスタ入植の先駆者である。手腕人格ともに優 第二次改選に於い の要職に就き会長を補佐 てはその 人材を認められ、衆望を負ふて学 った。篤実温良の人として、 し、幹部役員を督励して、 益々盛大ならしめた

## 黒 崎 兼 太 郎 氏

的 氏 は 即ち であ の結晶により、 り、 温 厚篤実些かの 農業経営に当つても極め 事業を拡張し、家庭生活を向上させるとい 邪念もない、 天眞爛漫、 て、 重厚堅実、 実にそ 年  $\mathcal{O}$ 年と

育事業に対する熱意も極めて激烈なるものがある。 ふ型の人である。現在日会会計として、 大正十三年の渡伯。 て、植民地財政の為に、献身中であるが、在植者の信望も厚く、教 その確実なる性格をもつ 長崎市

## 味村利光氏

卒される所は、 白な性格はよく他人に好感を輿へ、常に青年の指導的立場に のみならず、よく日会の古老に伍して、堂々と公共事業 氏は和歌山県那賀郡の出身で、昭和四年、 家族と共に来伯せる未だ若冠の 敬服に値するものがある。 士である。 中が 頭脳明晰 くを中途で退学 の為 ある

を営み、自らは、 を呼んでゐる。 現在、パウリスタ植民地及び、 マ市に於て雑穀仲買商を開業し 敷島植民地に、 内外人間に 力 フ エ 棉作

## 梅原松月氏

る。 在っ その職務を全うするものであるが、 代に於いては、 玉名郡の 日語間題困難化の時代に於いては、図らざる苦辛が伴ふものであ 植民事業が、 氏は第五次改選より、 たもので、 出身にして、 その軌道に来り、 在植者も、 人知らぬ幾多の難苦を経験した人である。 大正十五年の渡伯、 役員たるものも、 翌年にかけて、学務委員兼会計の植に 何等の問題も發生しない好況時 近来に於ける財界的不況と、 入植は昭和八年八 概して安穏のうちに、 熊本県 月で

氏は東洋植民地開拓の恩人である。子弟教育に対する信念は恰 氏 洋 植 民

爾来 の精神 目下帰国中である。性健実にして温良、植民地の為に、幾多の てゐたが、最近に於ける、 九 風物に接した氏の、今後に於ける活躍に期待をかけたい 奉仕あり、全植民者尊敬の的となってゐる。 の如く、 ヶ年専ら同胞の發展と、子弟教育の為に、督励の任に当 と燃ゆるが如き教育愛とに依って、 昭和三年の渡伯、 開拓入植と同時に 入植は、 躍進日本の姿を目のあたりに見るべく 初代会長に推され、 昭和八年七日である。 日本語学校を創設 四国愛媛県の その確固不抜 近代 産 0

## 渡邊富太郎氏

就かれた心事は、正に悲壮と言はなければならない ŋ 氏 は現在東洋植民地の日本人会長である。教育非常時 日語学校閉鎖の後を承けて、 その興亡を双肩に ひ重職  $\mathcal{O}$ 中

復権多岐なる植民地経営の為に、粉骨砕身の奮闘を続けて居られ 子弟教育に関する後図に対して、日夜人知れず苦心を続ける傍ら、 る様は、 性来温厚なる篤農家として、既にその貴重なる存在を認め 正に同植民地感激の的となってゐる。 られ

昭和十三年九月入植以来、 氏も亦四国は愛媛県温泉郡 現在に及んでゐる。 の出身に して、昭和三年六月  $\mathcal{O}$ 

## 相原良雄氏

最も実直なる人格を必要とする会計事業を担当する等、その将来 まれもせぬ世話事に、うき身をやつしてゐる仁が、どこの植民地 にも一人や二人はある中に、氏は歳こそ若けれ、燃えるが如き、 一廉の世話 売名の為に、 0 人気取りで、右往左往し、 好んで植民地内を駈け巡り、 児童教育を中心とする植民地事業の為に奔走し、 殆んど家業を他にし 大した手腕もな

国は愛媛県の出身に 飛躍を嘱目されてゐる。 て渡伯、 昭和 十二年入植、 て、 図南 氏は同地鈴木、 の志抑へるべくもなく、 現在に及んでゐる。 中塚其他五氏と共に四 昭和二年

#### 田 中 喜 治 郎 氏

志と共に入植し、現在に及んでゐる。 要と言はなければならぬ。 謂非常時型的存在である。 にもれず、他に率先して、 四国出身者の多い 昭和三年勇躍渡伯 泰然として、 然も決然として、 中に、氏は、 し、同十年十月農園経営の意気に燃えて、 大勢を観破し、 邦人学校受難の秋、 その対岸岡山県苫田郡 所信を断行すると言ふ 氏は性豪放、 如何なる困難に逢着 氏の存在は誠に重 大酒豪家 の産に 同 所 例

質を生か 永年植民地事業の樞部に参画 植民地更生の為に、献身的努力を続けて居られる。 現在同会理事とし その特

## 中塚福衛氏

勢である。 場合が多い。 星霜が流れてゐる。 来したとき、 てゐられるのである。現時教育的非常時にあって氏の苦 の気は植民地内に充満し、遂に団体の結束を乱すことは必然 団体結束の根幹となるものは人的要素と運用資金 留任 りであらう。 愛媛県の し、その実直なる人格をもって植民地財政 氏はこの煩雑困難なる会計事務を、 農産物 その植民地には暗雲低迷し、 出身に 植民地東洋にとっては、  $\mathcal{O}$ 減収、 して、 価格 昭和三年の渡伯 の低落による、 欠くべ 明朗性を失ひ、 入植後、 然も数年に 財界 からざる存 の為  $\mathcal{O}$ 既に五  $\mathcal{O}$ 如 不況 何 三旦つ 不安動 や如 挺 あ 在 何 7  $\mathcal{O}$ 

#### 訓言

雖も、 馬逸足と雖も、 道を習は ざるときは 輿に閑はざるときは、 即ち君子と為さず。 即ち艮駿を為さず。 (徐 人美質 幹

## 坂本数士氏

る。 営 的差違を経験してゐるものである。 間に、役員たりし人の凡てはそれ以前の人に比して、格段 に当るもの して、然も二ヶ年勤続、 -以後の り中にあ の興亡はその 0 て会 日本語学校非常時にあ って、 心事亦痛切と言はなければならぬ。氏は学務委員と の消長に大いなる関係を生じたものであり、 学校関係事務は、 役員の その功績は同植民地賞賛の的となってゐ 如 何 に 拠る場合が多い。 っては、当路にその人を得 更に叉因難事であり、 此の複雑困薙なる、 殊に、一九三〇 植民 そ 此  $\mathcal{O}$ 地経 事務 期

熊本県の産に 本人界の強者である。 て、 明治 四十五 年四月 の渡伯、 伯 国に於け 日

## 鈴江武一氏

性卒直にして勤勉、 封 員と共に、献身的努力を続けて居られる。 そこに国家の干城らしき、片鱗を認める。氏も亦その例にもれず、 の産 例 ては、その夫人と共に自己 へそれ 外に立ち、 る貴き存在として、賞賛の的とな てゐることは、当地に於ける唯一 が 一ヶ年にしても、 昭和六年六月の渡伯、 所謂軍隊的性格をも 常に困難なる植民地経営の中にあ の職業を犠牲に 軍律的生活を経たも 入植は十一年三月となっ 0 て、 0 の誇りであ 殊に衛生方面の事業に てゐる。 諸々の事業に対し役 して、保健運動に 日本 り って、 は四 辺境 毀誉

ある。

土井公男氏

士を圧 パ延長線青年聯盟主催第二回雄弁大会に単騎馬を進め、群がる弁 然として自己の所信に聴き惚れさせるといふ型である。 氏は雄弁の人である。然も音調流麗、 して、第一位を獲得した舌戦界の雄者である。 多分にユーモアを含み陶 その昔、

題に携は 年六月の渡伯、 現在同植民地に於て、少壮学務委員として多難なる子弟教育問 0 てゐる。 入植は同十 相原氏と同じく愛媛県 一年八月である。  $\mathcal{O}$ 出身にして、 昭和三

明倫植民地

三宅忠造氏

甚だ切なるものがある。 された人である。 は農園を其の子息に委ね、自身は 現在同地相談役として、側面よりの應援中であるが其の人望には 困難化せんとする植民地経営の中にあって、よく統制 て、会長の重職につき、第五次選拳に再び会長として登場し漸く 入植され、第三次日会役員改選には逸早く、 の渡伯は大正十五年十月であった。 逐日發展の 其の優れたる才能と円満なる人格とをもつて、 一路を辿っ 尚 山県浅 てゐる。 マ市にあ 口郡連島町の出身に 昭和八年九月、 って雑貨店を開業中で 其の人材を認められ  $\mathcal{O}$ して、 現明倫 任を全う 目下

緒 方 熊 喜 氏

氏は植民 月入植と共に、第一次日会長に推され 地 明倫」に於け 重鎮 の第 開設当時 人者 であ  $\mathcal{O}$ 困 難なる

植民地行政に携はり、翌年再び其の要職を続けて、 全く一身を植民地の犠牲にしてゐる様な観がある。 副会長の席につき、現在亦衆望を負ふて、会長の要職に在る人で、 小に、多端なる植民地経営を担当し、第六次に再出馬を促されて、 教育問題を中

熊本県上益城郡甲佐町の出身にして、大正十三年二月の渡伯在 に十八年である。

## 田中宇一氏

表的な存在で、社会共公の為に貢献された功績は枚拳に遑が 氏 の渡伯は昭和三年五月であった。温厚篤実の農村人として代

財政窮迫の中にあって、 現在叉副会長として会の枢機に参画して居られる。広島県佐伯郡 の卓越した人物と手腕を認められて、会計事務を担当し、 の出身であり、 入植は同七年九月であり、 在植者の信望も極めて厚いものがある よく其の職責を全うされたものであり、 第五次日会改選には、 早くも其 植民地

### ヴェアード植民地

## 横江国重氏

植民地發展 内に於ける有力なる同胞所在地となっ て、開拓 の名はあまりにも知られ過ぎた存在である。最初七家族を引率 ふ所が多い。社会を見るに敏く、教育的には充分なる理解を有し、 ヴェ ア 人植し、その間、 の為に尽くし人である。今日同植民地が、 の大久保彦左衛門として、将叉開拓 かい長に当選すること三期、 たのも、 偏に、  $\mathcal{O}$ 親とし 氏の力に負 マリリア 専ら力を て、 管

事業的には卓抜なる経綸を持つ等、 い存在である。 同植民地には、 なくてはなら

ある。 愛知県 現在 一顧問 産に として会務運用上、 大正十年二月の その 渡伯、 沿指導 の任に当っ 入植は昭和四年十月で て居られる。

## 吉 崎 恵 七 氏

てゐる所謂典型的な存在である。性誠実温良、 なも 氏は熊本県人である。 ので、 その昔、 興農園中央小学校建 如何にも九州人らしい、 不言実行型 所を多分に備  $\mathcal{O}$ 表

渡伯 実行叉実行、遂に今日の大ヴ 程 なる方で、在植者の信望を一身に集めてゐる観がある。 在顧問として会の重要事項に関与してゐられる。昭和三年十月 ド開拓当時より引続きニケ年間、 の時にも、 の実際家であり、金銀には常に淡白、その上機をを見るには 入植は同十年八月である。 手弁当で東奔西走し、 エア 日本人会長の重職にあり、 専ら児童教育の為に貢献 ドを建設 したも  $\mathcal{O}$ である。 ヴエア 常に  $\mathcal{O}$ 敏 現

## 上田幾蔵氏

以来、 に鞭撻 営の中にあ つゝあ 於ては、正に比類なく、其の長男をして、 大なる功績を胎して居られる。その日本語教育に対する熱心さに 氏は山口県都濃郡戸田村の産、昭和四年九月、 その温厚篤実なる人格を認められ、 植民 の任に当って居られる。 地 に於いても其の 0 て、会計、 日本人会顧問として、 副会長会長を歴任 一貫した思想を窺ふことが出来やう。 現下の非常時局に対し、 各般の枢機に関与しつゝ、 目下日本に遊学せしめ 複雑多岐なる植民地経 民族発展 ヴェ  $\mathcal{O}$ 為に、

らざる存在といふ べし。 大正七年十月廿三日の入伯である。

## 山本光義氏

業遂行 和十五年衆望を負ふて、 なる植民地経営の中にあって、児童教育問題を中心に、各般の事 少壮事業家として将叉植 ド植民地を背景に、 の為に、 献身的努力を続けて居られる。 日本人会長の要職に推され、 早くよりそ 民地内有数  $\mathcal{O}$ 名を知られてゐる氏は、  $\mathcal{O}$ 敏腕家として、 現下の困難 大ヴェ

六月の 如たるものがある。中国は鳥取県日野郡の出身にし しからす、遂に待望の専検に合格したるなど、 性健実温良k、 入伯、 昭和九年以来、 事に当るや周到熱誠、 ヶ年の在植である。 日本に於て十ケ 正にその面 て、 昭和 年 苦闘

## 森 重 喜 市 氏

れた時、 実に挺身されたものであった。 四年であった。 の戦時体制が、即ち之である。氏は第六次改選に際して会計 内面 植民地の發展は、会幹部の表面的活躍による場合と在植者各 つき、 其の前後は殆んど表面に立たず、 的充実による二つ 初めて健全なる發達が望まれるものであ 全力を竭 して植民地財政の為に、貢献された事は の場合があるが、之が両々相俟 山口県の出身にして、 専ら内面充 って、 入植は 日本 0 重 和

## 濱 津 豊 喜 氏

教育 円満なる人格をもって、来るべき時代への対策を計画中である の為に、 は昭和九年十月入植以来、その任にあると否とに不拘、 非常時局を担当してゐられる。 尽卒し、 多年の功績により、 性極め 現在同植民地学務委員 て勤勉、 実直、 見 童

望をもっ といふ。 健闘中である。 日本は熊本県八代郡の出身、 て入伯し現在に及び、 植民地経営の為に、 昭和二年十二月、 その重任を果 遠大の志

#### 教育訓言

己惚れ心の強 ルヂヤン) 11 人ほど、 他人に対して不公正な判断を下す者多し。 (スパ

菩提清涼の月は、 (華厳経 畢居空に遊ぶ。 衆生の 心水浄ければ、 菩提 の影中に

## ヴィラ日本

## 再 手 源 七 氏

に対する画策に腐心しつゝあると言ふ。 る。現在日語なき後の日会長として、会務を総覧して居られるが、 のがあるに連ひないが 日会事業の生命が、 くより、在植者の中に其の秀れたる人物を認められてゐる人であ 氏は謙譲の人として、将叉公共事業に対する精勤家として、 二世教育である丈、氏にとっては物足らぬも 当面の 問題を処理しつゝ、 来るべき将来

であった。 岡山県の出身にして、渡伯は昭和五年七月、入植は同十三年八

## 原田正一氏

に決断 ふ人である。第五次改選に学務委員として、二世教育の為に働き、 氏は昭和八年七月の渡伯である。 力旺盛、 に携 0 よく求められて、 て満足なる結果を見るまで、其の責任を果すとい 性豪放磊落、  $\mathcal{O}$ 面 倒 も見るが、 酒を好む人だけ 必す最終ま

もの 第六次には会長として、 である。 った。 鹿児島県日置郡の 会務を統制し、 出身に 植民地 入 植  $\mathcal{O}$ は昭 開發を計られた 和 十二年七

## 宇田恒夫氏

謹直の 年二月十二日の入植で、 に植民事業の辛酸を嘗めて、今日を築き上げられたも 日語学校を処理し、現在会計として、財政事務を担当して居られ 氏は同植民地に 日会役員としては、第六次に学務委員として、折柄問題化した 廣島県比婆郡西域町の出身に 人として令名がある。 とっては開拓の祖人的存在である。 総て の開拓者が味った如く、 して、大正十三年十二月の渡伯、 氏も亦具さ 即ち昭和八 であ

## 登 嶺 植 民 地

代よ 営 なり 期に於ける恩人の 学務委員たること二期、後副会長に二回選ばれて、 年前にはマ 所信を發表する所に氏の特異性がある。教育に対する熱誠は氏天 年の経歴あり、植民地向上の推進力となられたものである青年時  $\mathcal{O}$ の特質で、各地に於ける功績など眞に筆舌の尽す所でな 辛酸を嘗めつゝ、 は今でこそ登嶺 り多事多難の道を辿って居られただけ、人生に封する含蓄も 上高井郡の 只管に其の發展を企画して居られるものである。 一画どことなく辛疎味あり、 リリア市にあって、 出身にして、 一人である。後、共和植民地に入り、日会長三ヶ の主見た様な存在であるが、 其の發展に献身されたも 現在登嶺にあり、 当時相次ぐ紛争の渦中に介在 眼中正に人なく敢然とし 会長を経て顧問と ので、 今を去る八、 親しく日会経 マ市日会初 

### 西村勇氏

者の輿望を負ふて、日会長の席に就き、 直ちに、その逸材を認められて、 下にあって、 ゝ、今日に及んで居られるものである。 公共事業の為に竭された功労は一再に止まらず、 の渡伯は昭和五年八月である。 具さに辛酸を嘗めつゝ、 会計の重職につき、 性勤勉順良、犠牲的精神 植民地経営の為に邁進 目下の複雑怪奇なる情勢 現在は 在植 富

歴して、親 現地に百年の計を樹てられたもの の功績など、実に赫々たるものがあると言ふ。 氏は福岡県浮朝郡水分村の出身にして、勇躍渡伯後、 しく国内事情と農事を研究し、其の尊き体験をもって、 であり、現地に於ける青年指導 各地を巡

## 野中栄治氏

甚し を公共事業の為に竭し、現在学務委員として多難なる事務に携 氏のカに依るものである。昭和十四年七月、登嶺入植後は専ら力 ょ 校設立その て居られる。佐賀県神崎郡の出身にして、大正二年五月の渡伯、 の親爺と敬遠される相であるが、それは氏の眞人格を解せざるも ŋ 同 氏は勤勉剛直の人、 胞中古参者組の い愚言である。前任共栄植民地に於て、初代会長に推され、学 借地豊植民地に不拘、 他植民地事業の為に、専心努力し、 働もすればその言語動作により、 人であり、清浄潔白の人として信望がある。 堅実なる成績を挙げ得たるは、一に その手腕と度量に 0

#### 上 藤 定 氏

員 氏は大分県直入 重職に就き、審さに学校経営の辛酸を嘗め、 郡 出身である。 先住東洋植民地に於 昭和十二年七月

挙げつゝ、 農学校出身であるだけ、その農業経営に於い 為に、献身しつ 熱意を認められて、 現植民地に移るや、 月一日の渡伯、 公私共、 ゝ今日に及んでゐる人である。氏は母国に於ける、 第四次会長当の経歴がある 在植者の信望を集めて居られる。 学務委員会会計の要職に就き、 その卓抜なる人格識見と、 ても優秀なる成績を 教育事業に対する 植民地経営の 昭和四年十

## 明治植民地

### 大久保勝氏

進んで副会長の要職につき、現在尚顧問として会の枢機に参画 盛な人であるが て居られる。福岡県嘉穂郡犬分村の出身にして、現地の入植は、 日会幹部としては、会計事務を担当するすること二ヶ年、 れば矛盾 四年 氏 の入伯 せんとする性格を、最も有効適切に活用される人である。 一月であった。 は昭 、対人的には極めて寛仁大容な所があり、 和二年六月である。 性直情径行に て、 実行力旺 後更に 動もす 昭

## 上村岩蔵氏

植 顧問 を発散 からざる存在となってゐる。 であるが、 事業家といふ 眞に社交的な人で、明るき人生観を有し、 として会の重要事項に関与して居られる。福岡県浮 いさせ、 して 日会に入って、 和楽 のは正に氏 昭 の中に諸事を解決するといふ。 和二年六月 の事である。 会計職を担当すること一ヶ年現在尚  $\mathcal{O}$ 渡伯、 現植民地に於 同地は昭和三年八月 臨機応変にユー 八両玲瓏 羽郡 洒脱 田

#### 訓言

智に働けば角が立 情に棹させば流される。 意地を通せば窮屈だ。

(夏目漱石)

# 岡田繁次郎氏

国に対する認識も厚く、 氏は大正十三年十二月の入伯である。 の斎しく讃仰する所である。 殊に農業経営に対する手腕に至っ 在伯年数が古いだけ、 ては、 伯

性極めて温良順和、社

出身に 常に力説し、 交家にして「植民地の発展は在植者の融和により」 民地統制の重任に当られたものである。 して、昭和三年六月の入植、 自らその範を垂れてゐる人である。 日会々長として、前後三ヶ年、 鳥取県八頭郡の といふことを

## フ ォ ル モーザ

## 大堀長太氏

治ね ず、その功績も亦多大なるものが多い。今日同地を中心として、 燃ゆるが如く、殊に二世教育方面に関する努力は他の追従を許さ りと謂ふべし。 極 氏は植民地 人として、 く内外人の中に絶大なる信望を博して居られるのも亦、宜な めて円満なる人格の 「明治」に於ける最大の長老である。 福島県の出身にして、 活躍中である。 所有者であるが、公共事業に対する熱意 現在同県人会中、 温 厚堅実に 重要役員 治

## 花田伊十氏

られる。 在に 持前 を見なか 改選には、早くも其の卓抜な人物を認められて会長の重職につき、 方青年運動にも絶大なる理解あり、運動場敷地無償提供など正に、 は厳重を極めたが、 切家である。当植民地の入植は、 氏は義侠心に富む太っ腹の、 かけて、再び代表者に選ばれ、現下の非常時局に挺身して居 の義侠心をもって、植民地経営の重任に当り、 一例である。 ったのは、 一九三九年前後より、 福岡県は宗像郡 その間にあって、 一に氏の外交的手腕に寄輿する所が多い。 日語学校に関する、 それでゐ 昭和十一年七月であるが第三次 の産。 同校が最後まで、 温情流 第五次より現 当局の取締 る ゝ様な、 些の動揺

## 澤城安男氏

これは 会長の重職に在り、 するといふ方である。 らである。 して犠牲的精神を有し、事教育に対しては、卒発して初志を貫徹 月 沖縄県· の渡伯 概 人の当伯国に於ける活躍には、素晴らしきものがあるが、 ね性温良にして、 氏も亦この例に漏れず、 同十二年七月の入植となっ その 公務的方面に於いても、二ヶ年相次いで、副 功績には願著なるもの 重厚堅実なる、 性健実温良、 てゐる 事業的精神を有するか がある。 公共的事業に対 昭和九年

#### 山 田 鶴 一 氏

氏は大正七 人界では古強者の類で、所謂マ 年五月の 渡伯 であ る。 カコ 在伯一 一十四年と ヴ ユ IJ ヨ組 1 在伯 人で

を表 五次 些か ある。 日語学校の終焉まで、 日会改選より、現在まで最も難渋とする学務委員の重職を務 の欠点がない、アレペンヂ し度い。愛知県は海部郡七賓村の出身である それだけ、 伯国に対する認識も深 その責任を果された功績に対して敬意 -ド入植は、昭和十一 農業経営に対し 年七月で、第

# サンタ・アンプロジーナ

## 篠原雄次氏

も子弟 ŧ 幹部 氏は移民数の 線はガルサ中央、 あった頃は、叉賑やかなものでもあったがサンター 年の渡伯、 植早々豊かでない植民地に立派な校舎を作り上げたのも氏である。 よく正諭を持して譲らない氏の顔が、 行動をとって来た人である。ヴエラクルースの邦語教育華やかで の世話もする人である。 であ 言ひ 「やるんなら命懸けで、 三十アルケールの地主になるまで、 でもある。 出し った。 の教育に事欠いてはならないと、卒先学校建築に尽力、 ずっ たら挺子でも動かな 昭和十二年九月、 少ない、茨城県は多賀郡南中郷村 と引続き会長に推されてゐるが サンターナを経て、現在サンタアンプロジ どっちかといふと、 はまれ」と口癖のやうに言ふ。 現在 1 の地に入植したのだが、 剛直な所 クロ 何所でも、 ーズ・ア 親分肌 のある 出身、 マリリア産組の -ナ植民地から、 ップされたも キビキビした  $\mathcal{O}$ 画 人で、 大正十二 パ延長 — 何時 ナ

## 庄 野 作 一 氏

副会長は会長を補けて会務の運行を図る重要なる職務であるが、

見解を持ち、徒らに、 る發達に貢献されたもので、正しく名副会長的存在である大阪府 に二世教育に対し 十二年五月であ 河田郡 氏の場合決 小坂町 0 ては直接担当事務がない為に、言はゞ った。 Oして然らず、 ては、 出身にして、 その名誉のみを壇にするといふ状態であ 昼夜兼行、 各般の事業に卒発して、 昭和四年五月の渡伯、 東西に馳 駆 して、 閑職 其 入植は 活躍され  $\mathcal{O}$ いやうな 円満 同 な る

### 植 田 松 治氏

会組織 たも られ 職 氏は洵に奉仕精神の強烈なる人である。 渡伯、 0 た に在ると否とに不拘、 働きもなく、 もの である。 当時より、第一次会計として、 温良篤実の であり、当地の入植は、 福島県双葉郡浪 重任に植 人である。 常に卒発して植民事業 して慌 江町 しく活動を開始 昭和十二年七月であるが  $\mathcal{O}$ 植民地経済 出身にし 人概ね平会員中に 心為に、 の円滑を計 す 昭和九年十 Ź が 貢 献 7 日 廿 何

## 青木勘次氏

柔道にも素養あり、 於ける存在には、重大なる意義があり、 七月の渡伯 ある。氏は温良の裡に勇敢無双の といふためでなく、 いふ快男児である。 氏は横濱外 有利に導き 入植は同十二年である。 語の出身である。 自ら進んで、 日本刀を愛好 0 岡県静岡市 ゝある事は、 語学に造詣深 一面あり、ボッキシングに強く 対伯人の交渉に当り、 曲 して、 在植者 金 町 その外交部長の職 常時心魂を練っ  $\mathcal{O}$ 出身にして、 般 ただけ 尊信措 常に 昭和五年 てゐると に在 门同地 所

#### 訓言

各自 るべき生活をなせ。 天性に適合したる最高 シド の職業に従事 スミス) 死期に 臨みて毫も遺憶な

#### 垣 井 通 夫氏

導に当っ 育界の 地に於いて、教職に復帰し、 雲野鶴を友とし、傍ら農園経営に当って居られたが、暫らく、 時北西線教育界に、慧星的な存在として、 広島県豊田郡の出身にして、大正十三年の渡伯である。 る 剛毅果断、奔放進取 氏は日会幹部役員といふよりも、教育界の 人である。永らくノロエステ線に於いて、児童教育に携り、 大立物であった。後感する所あり、パ延長線に転じて て居られるが、 の性格を以って、 将にに金玉砂中に在るの感を深くする。 現在は学務委員として、 縦横の活躍を壇にし、 畏怖敬仰された在伯教 人とし 植民地の指 閑

# 斎 藤 国 太 郎 氏

らず、 当植民地とし 量を認められて、会計事務を担当すること二ヶ年、 であった。 政のために、 の信望糾然として集るといふ観がある。 の入植は昭和十二年七月であるがその円満なる人格と卓越したカ 氏は福島県双葉郡浪江町の出身である。サンタアンプ 私人的にも、 貢献されたもの ては、 其の交友に誠実さが溢れ、 欠くべからざる存在である。 であるが、氏の偉大さは是のみに止 洵に有為の人材であり、 求めずして在植者 渡伯は昭和九年 専ら植民地財 口

## 吉田万吉氏

に在 常に在植者の指導的立場にあり、日会幹部としては副会長の要職 関する智識には、実に豊富なものがあり、 叉多大なるも 見るべきものが多い。福島県双東部の産にして、大正二年の渡伯、 厚順和な精農家として、 氏 ij, は在 公共事業、殊に二世教育に対する信念厚く其の業績も亦 伯日本人パイオニア的一員である。それだけブラジルに のがある。 同地 名誉がある。 の入植は、昭和十四年五月であるが、 実地に於ける体験にも

## 渡 眞 利 成 一 氏

るだけ、 である。 る人である。熊本教導団の出身にて、陸軍歩兵軍曹の は当地に於ける有力者として、 も見るべきもの 沖縄県 その軍律的言動には、 よくその職責を全うされたものであり、 氏の入植は、 人の 伯国に於ける活躍は、実に自覚しきも が多い。 昭和十二年であるが、 宮古郡の産で、 在植者一同畏敬せられ 郷党の為に、万丈の気を吐 昭和六年の渡伯 開設当時 その後の業績に  $\mathcal{O}$ があ の学務委員 肩書きが て居るも である。 る 1 てゐ

## 共 和 植 民 地

## 小西安次郎 氏

ある う を持たぬ事を理由 会に於ては、土木、 に衛生方面 氏 中に、 は温 厚篤実に 氏は稀に見る、 他に に対する功績は、 心を配り、 とし 衛生、 して誠心誠意の人である。 副会長を経て、会長の重職につき、数々 教育事業を等閑にする、 教育の理解者で、 児童を愛すること恰も慈父 在植者 の斉し、 く認むる所 常に学校に出向 動もすれば就学児童 利己的な人が であ 如 H

県の なく、 である。 の業績をのこして居られる。眞に植民地 出身に 在伯邦人中の隠れたる篤行者といふも過言でな して、 昭和二年八月の 渡伯、 現住所はシン の功労者と言ふぽ ナ 和歌 チ カン りで Ш

## 片 野 盛 蔵 氏

会充実 と共に、 昭和六年八月の入植で、日会に入っては、学務委員を務められる こと三年、 に精通し、農事方画にも秀れた手腕がある。 の出身にして、大正七年九月の入伯、在伯年数が古いだけ 氏 は 温 のために献身されたものである。鹿児島県出水郡阿 在植者 厚篤実の 会計事務を担当されること一年、後副会長として、 の精神的向上に尠からざる心を砕い 宗教帰依者とし て、 自己完成に努力される て居られる。 久根 国情 町 日

先立た 切な 現在は Ł し氏は、 のがある。 サンタ・ 六人の子女の養育に当り、 イリア 植民地に廣太な、 農園 其の心事はまことに を経営し、 夫人に

## 田上春吉氏

信を堂 書記 地發展 る所が 異彩とな 青年指導に貢献する所少なからず、後日会に参加しては会計 氏は  $\mathcal{O}$ 多か 重職 月 の為に活躍中である。 Þ 理路整然なる雄弁家である。 کے  $\mathcal{O}$ 0 にあ 渡伯、 てゐる。 った。性 て披歴し、 ŋ 現 在 鹿児島県出 植民地向上の為に、 温良の は 熱誠も ポ 駅ジ 中に薩摩男児的気魄を有し、 |水郡 Y つて事に当る所は、 その昔共和青年会々長と チ 阿久根町 二世教育の ガ植民地に在住  $\mathcal{O}$ 出身にして、 在植者間 ために尽 自己 力す 並 植  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 民 所

## 谷岡三郎氏

月、 数々の役員を勤続し、 在植者の中心勢力として、非常時局打開のために有志と共に活躍 する一方、相次いで起る日会事務 氏は熊本県八代郡鏡町の出身である。性温良堅実、 共和植民地入植後は、 昭和四年七月の渡伯である。 特に児童教育問題に探 その 人物と手腕を認め の為に、 献身的努力を致し 1 関心をもち、 られ、 昭和十年七 日本人会、 常に

## 杉 野 千 治 氏

なく 数々 氏は亦剣道三段の腕前を有し、常に真摯なる、 その犠牲的精神は稀有のものとして植民地讃仰の的となってゐる。 一念民族愛に燃 氏  $\mathcal{O}$ せられるや、近隣の児童を集め、只管その訓育に当られる等、 の役員を歴任し、 入植は、 昭和二年十二月の渡伯である。 昭和十二年七月である。 ^ て、 教育 同胞のために の嵐によ 活躍中 0 て、 共和日本人会に於い 日語学校 である。 武道精神をも 北海道の出身  $\mathcal{O}$ 閉鎖を余儀 って、

## 三浦勝美氏

家放を扶養しつゝ、 地を安住 けて居られるもの 心誠意、幾多の 氏は若冠僅かに二十六歳にして、 大正十四年八月、 地と定められたもので、氏今後の 困難と闘ひつゝ植民地開發の為に献身的努力を続 である。日本は福島県伊達郡飯坂村 一方共和日本人会の役員 亡父と共に入伯し、 亡父の 昭和十年九月、 後を継ぎ、 活躍  $\mathcal{O}$ 席に列し、 に期待する所が 十名の  $\mathcal{O}$ 出身に 常 現植民 に誠 一大

## 亀 田 金 吾 氏

解を招 に熱心 れたる働きをのこしてゐる人である。 日会に入 なあまり、 である。昭和十一年十二月、日本直来の拓士として入植 相当にむづかしい人である。その為に應々にし く場合があるが、其の依って来る所を極むれば、 って、学務委員、会長を歴任し、 0 いそれが昂じて、 外部にそれらしく感じさせ 同地日本人会のため、 常に物事 他 |の誤

奉仕的に、 北海道の出身にして、犠牲的精神に富み、 二世教育に当らせたものであった。 一時その次男氏をし

明和植民地

神長倉倉記氏

会長 転戦 丈夫である。その昔、 明和植民地の父として、その の要職に在り、 して、勇名を轟かしたといふ干城的存在である。 植民地 日露戦争には陸軍砲兵とし 「明和」を、 開拓入植常時より五 一身に担つって立っ て出征し各地に ケ年間、 連続 た偉

持 育国日本」の誇りを全うされ、 教育問題には人一倍の関心を持ち、率先して最後まで、 此の方面にも幾多の功績を胎して居られる。 殊にスポーツによる青年運動を支

崇敬がある。 九年七月の開拓である。 日本は東北、 福島県双葉郡の産にして、昭和三年九月の入 明朗 の人、 努力の 人として、 在植者

## 水野太一氏

前 当植民地へ転住後も学務委員として二ヶ年、 任共和植民地時代既に其の 人物を認められ、 副会長 (現在)と 各種役員を歴任

る。 日本 て一ケ 人植民地 年植民地経営の中枢局面を担当して、 の更生と、子弟教育問題に奮闘して居られる人であ 過渡期に於ける、

月の入伯、 と言はなければならぬ。福島県石城郡 である。 公共事業の為には物質を不問にするとい 性温 厚篤実、 日本人的非常時、 同十年八月より 円満なる人格 且つは財界不況 の在植とな をも 0 て 在 0  $\mathcal{O}$ てゐる。 ふ熱情 植者 出身にし の折柄、  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 信望を集め 一面を持った人 誠に貴き存在 昭和五年八

#### 訓言

は奪ふことを得べ きも、 芳名を奪ふこと能は す。 (英訓言)

# 横山孝之助氏

五. 学校新築まで、その養子三郎氏を以って教員代理として教鞭をと ける一つの誇りとされてゐる。 らす等、その犠牲的精神と教育に対する熱心さは、 に青年団 (男女) ケ年、植民地廣 学校開設第一次より、 出身にして、 の支持に萬腔 昭四年の渡伯、 しと雖も、 第五次まで、 これは実に抜群の存在であ 叉青年運動に探 の努力をされてゐる。 在植巳に七ヶ年である。 学務委員とし い理解をもち、 同植民地に於 て、 福島県双葉 勤続 る。

# 佐藤由之助氏

瞭に披歴する人で、公共事業には自ら率先して精励する人である。 努力をされたもので、今尚その功績は在植者の脳裏に、新しい 氏は所謂清廉潔白の人である。 年九 月の 入植で、 副会長を勒むること数年、 公私を問はず、 自己の所信を明 文字通り献身

に在 ものがある。 り、 シャ 福島県双葉郡 カラを経営中 の産、 である。 渡伯は昭和四年十月、 現在ポ市

## 佐藤永義氏

の産に 当して、今日に及んでゐる人である。 席を同じうするには、 れて、会計の重任を帯び、 する熱心さと、その努力に於ては敬服に値するもの 会役員の列に加は 氏は前任共和植民地に於い して、 渡伯は昭和四年である。 り、昭和八年七月、現明和入植と共に再び選ば 聊か時尚早しの感があるが、公共事業に対 現在まで終始一貫、植民地の財政を担 既にその 氏は未だ若年、古老と共に 人材を認め がある。 られ 福島

## 渡邊 興 七 氏

伯国の 者養成に力を尽し 植 担当され、 旺盛な人である。 カを植民地「明和」 である。明和入植後学務委員の要職に就き、専ら児童教育方面を 民地に於いて、幾多役員の経歴を持った植民地経営上の熱心家 氏も亦東北は福島県伊達郡の出身にして、 凡てを知り 一方青年運動に就いて、 て居られる。 の為に致して居られる。 昭和八年九月入植以後は、 大正三年四月の 常に関心をもち、 堅実に 水野氏と同様、 渡伯にして、 次代の ひたすらに 精神力 担当 既に

### 第二、ボンボ

## 上原廣士氏

氏  $\mathcal{O}$ 入植は 昭和九年八月である。 第二ポンボに於ける高徳な

植 たる事二回、代表者たること一回、現在は副会長として、教事業 何 はもとより、 たるとを不問、 民地に於ける、 人格者とし つ ゝ、その伸展を図 実に得難き存在である。 現下の非常時局にあって、 昭和五年五月の渡伯、 在植者一般の深 率先して事に当り、 公共事業と言へば、 0 て居られるの 日会関係方面に於い い尊信がある公益心厚く、 今後の活躍に期待する所が多 聊もその辛労を惜れ それが教育衛生、土木、 であ 一意植民地経営の為に貢 る。 香川県綾歌郡 ては、 しまな 会計 荷

#### 教育訓言

な 何 勇気とを奮ひ起たすべきだ。 事をも袖手傍観 い所に、 成功のためしはな て手を 0 かね て 困難や危険に対してこそ、 ゐる事ほど恥 (ネルソン) づべきは な VI 層決意と 試  $\mathcal{O}$ 

### 石川憲太郎氏

長の 学業を中心に植民地の統制に当って居られる。 は前任福双植民地開初のの恩人であり、同植民地に於ては会 重任を七ヶ年勤続 現在は第二ポンボ日会長とし て、

存在は、早くより注目の的とな ては教育者としての経歴あり、他面理論的雄弁家とし 氏は汎マリリア産業組合の発起人であり、福島県人会 渡伯は大正十 り、 パ延長線に於ける、 ·四年、 ポンボ入植は昭和十三年七月である。 隠れたる功労者として、 ってゐたも のである。 その て令名が 日本に於 の首唱 傑物 的

## 笠 原 初 吉 氏

氏は北海道札幌郡の 出身である。 昭和五年十二月、 図南 の志卒

選ば もつ 計事務を処理する等、 小学校創立当初より、正しく文字通り、粉骨砕身的の努力をし、後 て、時恰も艱難なる子弟教育問題に携はり、 て起り、 て学務委員、 一家を挙げて入伯後、 会計の重任を帯びるや、 実にその功績数 第二ポ へ難し。 ンボ その犠牲的精神を 入植以来、 一方煩雑なる会 そ

現在は同日会の て居られる。 相談役的存在として、植民地経営  $\mathcal{O}$ 機 関 与

## 曳 地 今 男 氏

伯、 計事務を担当し、一 会長として、 切なる者がある。福島県伊達郡 である。 て居られた事を思ふ時、現下の つゝ、その在任中病を得て雄図半ばに黄泉の客となられたも 氏は前任地共和日会の役員を経て、後ポンポ「第二」 入植は同八年十月となっ 性極めて温厚篤実、 指導の任に当っ 方堅実なる信念をもって見当教育事業に貢献 特に子弟教育問題に深い関心をも てゐる。 てゐる。 非常時局に際し、  $\mathcal{O}$ 出身にし 氏 の令弟、 て、 昭和五 氏を憶ふ事一入 里見氏 年七月の入 入植後、 は現青年 0

## 西 村 市 郎 氏

道村 尽卒さ 厚篤実、落着きあ 聞え 拓 の元組的重鎮である。 海千山千の古強者とい 入値と共に初代会長として、植民地経営を担当し児童教育に 何 出身で **たるが、** でも知 れる所が多か 氏 り尽くし 明治四十三年六月の渡伯といふ。 の場合決して、 って、 0 た。 て居られるといふ事に他ならない 無駄のない、全くの篤農家といふ存在で、 へば、何となく才気一 入植は昭和九 そう言ふ意味でなく、 年八月、 杯の利巧者の 実にブラジ 熊本県玉名郡 ブラジル やう

## 中島一三氏

ろう。氏は入植と共に、初代会長の重職につき、前述の環境にあ 開拓の任に当った人々の労苦は、恐らく想像も及ばないものがあ 児童教育事業も、大方完備し、 日の栄を招来したもの 産にして、渡伯は昭和四年二月、同十一年七月の入植であった。 植民事業も盛時に於ては組織も充実し、事業上の体制も確立し、 自ら卒先して学校設立 其の その事業初期に於ては、 余裕を求められず、 であり、その功績は特筆に値する。 の為に、 只管に向上の一 その植民地草分けの 経済的にも、 犠牲的な奉仕を続けられ、 路を辿るばかりで 時間的にも、 一員として 福岡県 人員 0

## 桑原房松氏

されたものである。氏は熊本県八代郡文政村 されて、 を積み、 語教育問題に携って、一意植民開初の為に、子弟教育のために尽 氏 して、会の枢機に関与して居られる。 の渡伯は昭和四年二月である。各地に於いて農業経営の研鑽 会長の要職につき、漸やく取締りの厳重ならんとする、 昭和十 日会創立当初 一年七月「更生」入植と共に、 の苦難を味ひ、 第二次、  $\mathcal{O}$ 第一次副会長に 第三次には衆を負 出身、 現在は 日

## 小蕎彦 太郎氏

務委員の重職に在り、 日 語数育問題の その 心痛は非常なものであ 悪化に伴ひ、父兄 法令と父兄との板挟みとなって、 ったが、 一般は将来に及ぼす 中でも会幹部とし 影響を考 この苦境

感謝 童教育の聖火をかざして精励之努められた逸材である。群馬県の を切り抜けつゝ、最後のその日まで奮闘しつゞけた功績に対して、 の意を表したい。氏は此の期間に学務委員たる事二ヶ年、 昭和九年の渡伯で、 入植は同十三年七月であった。

## 山本辰雄氏

躍は、 に貢献 島県双葉都の出身にして、昭和四年の渡伯、入植は同十一 在まで会計職を勤続し、 現在は青年会長をも兼職し、専ら敢闘中である。 氏は若干未だ二十六歳の青年にして、日本人会設立当初よ 特に目覚しきものがあり、 しつ ムある人である。殊に教育事業方面に封する犠牲的活 副会長を兼務する等、 重要なる存在となってゐる。 植民地發展 年七月、 のため

## 大西寅次 郎 氏

落に遭ひ、その影響は甚だしきものがあ 氏は初代会計を経て、現在副会長の職にあり、会の為に、 部として、会計職にあ 民地経営は、 である。 好調を示して居ない。農村に於いては、 最近四、 東京の人、 五ヶ年に於ける伯国財界は、どちらかと言へば、 昔日に比し、 渡伯は昭和四年八月である。 った人の労苦は実に深刻なるも 非常なる困難を伴ふたが 作物の減収と、 った。 此の間に於ける植 のがあ 就中、 価格 活動中 の低 余り

## 廾 羽 寛 次 氏

の重職につき、 氏は温厚篤実、 人を容る」の度量 昭和十一 年九月の 少壮なれども力量あり、 拘に農村人として、 あり、 同地入植にして、 社交的にも勝れたる手腕 典型的なる人格 会長として、 学無委員を経 在植者  $\mathcal{O}$ の持主であ 所有者で て日会長 の信

任に答 の業績も亦、顕著なるも へつ ` 一意その統制開発に献身されてゐるものであり、其 のがある。

る有力なる 岐阜県武儀部の出身に 人材である。 昭和五年  $\mathcal{O}$ 渡伯、 同植民地に於け

### アルヴアロ植民地

松原安太郎氏

時局下 民地 及会、南部マリリア学務委員として、混沌たる事態に私心を離 払 業界の先覚者として、 業界の大先達として、 材業を営み、パ延長線の逸材といふばかりでなく、、全伯に 和歌山県日高郡 0 余りに有名に過ぎて、今更喋々を要しな 邁進之努めて居られる姿は、 て居られるものであり、  $\mathcal{O}$ にあ 創設者として、連続顧問の重職にあり、現下の教育的 つって、 の産、 在植者を鞭撻し、其の統制指導に渾身の 教育事業は言ふも更なり、 夙にその雄名を謳はれ、 昭和二年四月の開植 在植者の尊信一身に集まり、 正に荘厳の極である。 いが、 で現在に及ぶ。 耕地経営 氏は在伯邦 大アルヴ  $\mathcal{O}$ 努力を 傍 文教普 7 非常 人実 け 5 口 n 植

#### 教育訓言

過ちを改むるは天気の新たに晴るゝが如 我自ら快よく、 人之を見て

喜ぶ。 (陸浮草)

賢に て財多ければ其の志を損じ、 (前漢書) 愚に て財多け れば、 其の過ちを増

水は方円  $\mathcal{O}$ 器に 随ひ、 人は善意の 友による。 古 書

中垣内富蔵氏

ある。 り、 聖地に生れ、 ち、教育的信念叉熾烈を極め、その真摯なる熱弁よく人を動かし、 当っては初斧のパ 磐石の安きに置いてゐるのは、此の人である。其の植民地開拓に と二年、衆望一身に集まるの感あり、植民地教育の羅針盤として 事教育に当っては寝食を忘れて、東奔西走、会長の要職に在るこ の愛称をうけ、 松原氏の傘下にあっ 推進力とな 昭和二年十二月の渡伯に 専ら教育事業と植民地開發の為に、その礎石とな って居られるものである。 イオニアとして剛毅果断、旺盛なる実行力を持 て参謀総長の役を努め大アル して、翌三年九 日本は奈良県吉野郡 ゲヴァ 月の 口をし 植 で

## 賓 田 利 惣 太 氏

客力乗 世話 其 中であるが、その円満なる人格と至誠溢るゝ営業方針により、 育の拡充に当られたもので、その功績は燦として、植民史上に不 七次まで、連続委員長として、 の光を放ってゐるものである。 氏は香川県仲多度郡高篠村の出身である。 初期に属し第一次副会長として才腕を揮ひ、第二次よ 和合を図ることに、特異の才能を有し、 の届く人である。現在のアヴエンカス町にて、バールを経営 の盛況を呈してゐると言ふ。大正十三年五月の渡伯である。 会務の統制、 謹直にして、 植民地の開發二世教 人情豊か万事によく アルヴアロ 温厚篤実、植民地 入植は、 り、 千

## 斎藤 留 治 氏

まるで、之とは反封の所謂豪傑肌で、酒豪としても人後に落ちぬ 世の中には動もすれば、秀れたる才能を持ちながら、 ある人が 断  $\mathcal{O}$ あるが あたら宝の持腐れとなり、徒らに脾肉 洵に憐む べき存在と言はねばならぬ の歎をかこち 性来 氏は  $\mathcal{O}$ 優

宮城県互理郡の出身で、入植は昭和九年十月であるが、委員長、 委員長を歴任し、 おまけに義侠心も強く同植民地内稀に見る、明朗なる逸材である。 何事に於 現在歯科医を業として居られる。 7 ても潤達に行動 日会の為にも優秀なる成績を収めてゐる人であ して、縦横の腕を揮ふといふ型で、

(ショ 訓言 眞に尊敬すべきは其の名声に ハ ウ 工 ル 非ず。 それに値する  $\mathcal{O}$ 

# 成田多稔穂氏

長とな をなし が、大正十四年十一月、意を決して、 語に絶するものがあった。和歌 あるが、 順なる篤農家として、 氏 は 松原耕地、 り、翌年には、更に進んで委員長の重職につ てゐる方である。 時恰も日語教育受難の秋であっただけ、 開 拓当時 植民地の 即ち第九次改選には衆望を負ふ  $\mathcal{O}$ 人とし 山県有田郡五西月村 聞えも高 渡伯されたも 同植民地に古 0 其の辛酸は叉言 かれたも  $\mathcal{O}$ 出身である であ 7 から重き 副 り [委員 ので

## 圾 口 丈 三 郎 氏

叉厚 現委員長として、日語なきあとの二世教育に頭を悩まして居られ である。 るもの で、ブラジ いふ感じがするが、それでゐて実行力旺盛な人で、 氏は和歌 であるが、よく公私共に面倒を見る人で、 円満主義の人として貴重な存在である。  $\mathcal{O}$ ルに対す研究も叉中 が 山県新宮市三和崎町 ある。 昭 和十一年八月の . 々  $\mathcal{O}$ に深 出身である。極く奮 入植で、 いものがある。 在植既に二十 在植者の信望も 同地に於ける、 温順謹直と い方の渡伯

## 落合邦吉氏

務を担当されたが、その献身振りも亦誠実そのもの が の求めに應じて面倒を見て居られる人で、日会役員として会計事 面倒を見てゐるが、 何れ 埼玉県の出身で、 温良順和  $\mathcal{O}$ の植民 届 く人と言ふべきである。氏は昭和十年九月の入植である の人で、 地にも、 之は世話好きと言ふべきもの 昭和八年二月の渡伯である。 所謂世話好きといふものが居て、 温情恰かも流る ゝが如く、何人を不問、そ であ でなく、 何かと其 ったと言 よく

## ブエノス アイレス

## 柳井勝眞氏

既に 者の尊信 氏が秀れたる人格と、 海外協会、 再び会長の要職に在り、同植民地に於ける、最も需要なる人物と 会長とな 二年十月の 事の要職に就き、専ら生産事業の拡充を計って居られる。 して、在植者の 氏は福島県双葉郡の出身である。前任サンタ・イリアに於いて、 初代会長を勤め、昭和十二年八月、現地入植と共に推され Ď, が 入植であ マリリア支部の幹事の職に在り、 探 其の後会長として、 \ \ \ 厚い信望がある。 ŋ 経倫の所有者であるかゞ想像される。 現植民地に於ては草分の 他の公務的方面を窺へば福島県 統制事務に携はる事二期、 産業組合に於ては 一人として在 如 何 現在 昭和 に 理

### 林 参 治 氏

が 流 渡伯は、 れてゐる事になる。各地を巡慶して審さに国内事情と農業研 昭和三年十二月とあ カン ら、 今年 でもう 十四年 歳月

実、堅実なる農村人の代表的存在として、在植者間の信望が厚い 究とを修め、 時局に於ける教育事業の斡旋に貢献されたものである。性温厚篤 大分県下毛郡溝部村の出身である。 第五次改選には一躍副会長として、 昭和九月、 現地入植後、 第三次改選に会計の職につ 会の枢機に念興し、 非常

# 大久保長一氏

業後、昭和三年八月 会長を歴任し、 二年八月、現植民地に農園を開設し、少壮役員として学務委員、 ゝ、今日に及んで居られるものである。 氏は温厚にして謹言の士である。 常に子弟教育問題に携り、 敢然として渡伯し、各地を巡歴の後昭和十 日本に於いて、 遺憾なき成績を拳げ 農林学校を卒 副

学理と実際に相秀でた拓土である。 る点に於て模範的なるものがある。茨城県直壁郡 私的方面に於ても見るべきもの多く、特に家庭教育の行届いて の出身であ

## 杉田義時氏

南 ものである。 月、同植民地の人となり、 手廣くやって居られるが、他方運搬業をも兼営し、植民地の為に、 精励之努めて居られる。 の志抑へるべくもなく、 氏は北海道十勝国河東郡士幌村 若冠よく古老の中に伍 温良順和なる性格を有し、 その人材を認められて、現学務委員に 勇躍渡伯されたもので、 して、 の産である。 縦横の腕を揮って居られる 現在農園経営事業も相当 昭和三年 昭和十二年八 月、

森田春茂氏

に封す 五年五月の渡伯、在伯邦 る事業家である。 影響を輿へ 外国語学校に対する弾圧は吾等同胞にと 同 心的存在として、 もの る絶大な功労は燦として、 けに、その打撃も亦一入のものであ 地入植棺当時より、今日まで会長として、 事を思ふとき、 である。 たが、邦語学校が今日の盛大を来すまで、 高知県土佐郡朝倉町 自ら無量 二世教育のために尽力した人々 の先駆者とし  $\mathcal{O}$ 植民史の上に不滅の光を放 感慨に打たれるも て、  $\mathcal{O}$ 出身にして、 ったが、その二世教育 って、余りにも峻烈な 人格、 終始一貫された 力量共に優れ  $\mathcal{O}$ である。 の業績と、 各植民地 明治四十

## 内藤福太氏

会長 近隣に其 及んでゐる人で、其の教育に対する信念の機烈なる事は、 を招集した植民地の恩人的存在である。 十一年七月で、 正十二年四月の渡伯である。 氏  $\mathcal{O}$ は植民 参謀と の比を見ない 地 「モンブツカ」 同地父兄会創立と共に、 森田氏を補け在植者を督励し、遂に今日 であろう。 の重鎮とし 口県熊毛郡大野村 学務部長となり、 て、 其の育て 当地の入植は  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 出身 恐らく 現在に Ш

#### 二 官 住 四 郎 氏

会長の るもので、 で、在植者間の信望も極めて厚い。愛媛県西宇和郡の て構成され、常に揮然一 植民地 代表的 重職 モン 新設植民地としては、 を連続 植民地と言ふも過言でない。氏は父兄会創立と共に副 ブツ 力 現在に至 体となって植民地の発展に努力し は森田、 0 洵に特異な存在であり、 二宮、 てゐる人で、 内藤三氏 識見力両共に秀い のトリオ 出身にして、 和

十四年二月の 渡伯であり、 伯国に於ける歴史も叉古い

坂 原 吉 繁 氏

列 在植者間の信望を博し、現在尚ほ学務関係事務を担当し、 のがある。氏の天性的とも言ふべき、英智と明朗性は忽ちにして、 年七月であったが、第五次目会改選に学務委員 氏は大正八年七 に活躍中である。 して義を想ひ、二世教育の為に、尽された功績は多大なるも 伯国農業経営に於ても造詣 月の渡伯 和歌山県那賀郡の で、 在 佰 が 深 年数に於ても、 \ \ \ \ 出身である。 現地 の入植は昭和十四 の重任を及び、 古参者の 植民地 席

#### 教育訓言

子家語) 静 明 カ 日 なり ありと思ふ心  $\lambda$ と欲すれども風停まず、  $\mathcal{O}$ 仇櫻、 夜半に嵐 子養は の吹か ね んと欲す もの カ れども親持たず。 は。 孔

共 進 植 民 地

## 野中林蔵氏

長と 氏は福 手腕共に優れたる して植民地の 岡県都郡白井村の出身である。 開発統制に当られたもので、管内稀れに見る人 の逸材である。 初代より現在まで日会々

に上ると言ふ。 て校舎を建築するなど物心一如の献身的努力には、 日語学校開設に当つても、敷地を提供するばかりでな 讃仰措かぬ所である。 氏によ 大正二年五月の渡伯に って精神的に救は 氏は私人的 れたるも して、 には極めて、 0 昭和十三年の入 在植者中相 宗教 在植者を挙げ 的 内 ん植で \_省を

ある。

善方隼人氏

例を見な (燕は寵) 1 であろう。 氏の如き教育熱心家は、 数多き日本人の 中にも、 その

である。 当選により、氏にとっては米飯にも等しかりし「ピンガ」を禁じ 魂より奔るかの感あり、人相一変して別人の観を呈する。教育係、 身して居られるもので、談偶々教育の事に及べば、その言ふ所、 て職務に奉仕される所、 の席に列し、 氏は昭和十四年七月の開拓入植 福島県の人、大正七年の渡伯である。 現在学務委員として、二世教育の為に、文字通り献 正に国士的面目あり、 であるが、日会開設と共に役員 洵に貴重なる存在

## 蔵 本 久 彦 氏

が氏は、例へ子弟なき父兄も二世教育事業は、国家的にして亦民 焉の態度を取り、それが事毎に支障を来す誘因をつく 童を特たざるを理由として、教育関係の事業に動もす 族的大事業なり 担当中である。 るといふ、稀に見る憂国の士である。三重県無牢郡の出身にして、 「共進」入植は十三年七月、現在は会計係として、植民地の財政を 氏 の渡伯は昭和九年七月である。数多き在植者の中には通学児 との信念厚く、 学校問題に関し ては、 卒先し りつゝある ば我不

#### 教育訓言

を作る。 読書は該博なる人を作り、 対話は敏捷なる人を作り、 コン

計画は仕事 イルス)  $\mathcal{O}$ 根本的要素なり。 そは多く の仕事を鳳滑に成就せしむ。 ヘス

日伯耕地

藤 野 徳 一 氏

嵐に遭遇するや、殆んど、 昭和八年八月、  $\mathcal{O}$ 在副会長として、 て、氏の教育事業に対する働きは、実に目覚ましきものが る信念を失ひ、 士の多い事は正にM慶祝 て知られてゐる。 して居られるもの 教育国日本の姿その儘に、 一部にあ ったことは、実に痛惜 昭和十二年九月の入植であり、 何等 非常時局を担当する傍ら、 の対策もなく、 である。新潟県中蒲原郡 の至りである。 其の将来をも考へず、 在伯同 の至りであ 俄然として、 胞中、 然し乍ら、 教育事業に熱 力を子弟教育  $\mathcal{O}$ 0 出身に 温厚実直 た。 之を放棄 児童教育 この 一度 間  $\mathcal{O}$ 国 あ  $\mathcal{O}$ 伯は た人 . 対 粋 為に あ る り現 す  $\mathcal{O}$ 0

## 井 上 鎌 吉 氏

なく、常に熟慮遠謀、 8 長老として、公私共に在住者の尊崇を受けつ 福岡県糸島 に、着々として、計画を進めて行くといふ資質的なる存在である。 て諾直重厚、 氏は日伯耕地に於ける、草分けの一人として、 現在は会計として同 の産に 事に当ってよく前後を弁へ、 して、 もってスPリベルダーデ民地公共事業の為 地 昭和三年の渡伯、 日会の為に尽力中である。 昭和十二年開拓、 荷くも軽率なる態度 ゝある人である性極 将叉在植者中 入植

福 双 植 民 地

石川茂雄氏

は植 困難を打開し 民地 「福双」の草分と く 今日の栄を築き上げた人であり、 て、 同  $\mathcal{O}$ は敢然と 植民事

るも 然たる思想の下に、 業並に教育事業に対する功績は燦とし なる植民地経営の中にあって、幾多の犠牲的出資を敢へてし、 にも学務委員、会長の要職並に産業組合理事長等を歴任し、 二年十二月の渡伯、 の苦境を救はれたものであ Oである。 同植民地の 性温厚順良、柔和なる一面に、深き信念を有 同胞間 開拓入植は、 断乎として事に当るといふ、実質型の代表者 の古参である。 る。 福島県双葉郡 昭和八年八月であるが、 て、植民史の上に輝  $\mathcal{O}$ 出身にして、 1 困難 であ 其

# 米 谷 重 太 郎 氏

和 者である。 たるものがある。 固たるも る所あ の重任に在り、会長を補佐し、在植者を励まし、一意専心植民事 の為に貢献されたもので、同氏に対する在植者の信望は実に牢 八年八月、 氏は大正三年五月の ý, のがある。 翻然として永年の愛酒を断たれた所に、其の面目躍如 現地開拓入植と共に、石川会長の参謀として副会長 福島県双葉郡の産に 性温厚のうちに断乎快然たる風格あ 渡伯 であり、 在伯同 胞先駆者 植民地内  $\mathcal{O}$ 屈指 ŋ で、 感す 功

#### サンタ・マリア

## 日野惟恒氏

長 ら植民 温 る。大分県玖珠郡野上村の出身にして、渡伯は大正十五年三月、 氏 要職に 厚篤実なる人格と、村政的に秀れたる手腕を稀讃されて副 入植は、 きもの多く、 地経営と、子弟教育の為に献身されたもの つき、十三年より、十五年まで、連続会長職を離れず、 昭和十 在植者の輿望を一身に集め 一年八月であるが、 翌年の役員改選には其 て居るか で其の業績実 の観が

ある。 非常時局に於ける日会の統率者とし て、其の責任は仲々に重大で

## 加藤伊六氏

走し、 あった。 る。 もって、真摯敢闘中であるが、氏の場合肩書など一文の価値もな 会に於ては改新第四次 に熱誠もつて事に当り、就中二世教育に於いては、自ら進んで奔 氏は本格的な植民地中堅的人材である。 其の職に在ると否とに不拘らず、 大分県の出身にして、 如何なる困難も打開しつゝ、常に前進之努める人である。 の学務委員会会計として、 大正十四年の渡伯、 自發的に行動する俊秀であ 公共事業に対しては常 入植は昭和六年で 持前の熱情を 日

## 作野信義氏

会長の 移民としては、 新第一次の会長として、二世教育の為馬に精励し、 に許す人である。 和十一年であるが、  $\mathcal{O}$ 面倒を見る人で、前任共栄職民地に於いても、 氏は福岡県京都郡の 公私共に日会の為に貢献されたも 要職にあって、非常時の中に活躍されたもの 先駆者の 小学校の 出身である。 一入であ 再開に対して、 り、 生来義侠心に富み、 ブラジル通をも のである。 奔走する所あ 各種役員を歴任 当地の入植 前後三ヶ年副 である。 って自他共 Ŋ. には 日本 昭 改

#### 

面 代表的存在である。青年運動に対する信念は、実に猛烈を極め、 順良柔和な所があり 氏 は青年会副会長である。 流 る 寸感じは硬直 が如き人情美の持主で、 の士を思はせるが 正に青年

通じて、 献身中である。 自 ら率先して会務を処理し、 海外植民学校の卒業者である。 活路之努め 日会との提携を円滑ならし 福島県耶麻郡 てゐる姿は、 眞に快男児の面影がある。 会員を率い  $\mathcal{O}$ 出身に め、 相携 て、 て体育に修 昭和五年十 へて植民地 青年会を  $\mathcal{O}$ 、發展に 月

コレゴ・デ・バルボーザ

池田延一氏

に十分なるものがあり、其の功績にも亦優秀なるものがあった。 みとむる所である。 におちず、 公共事業に対しては、其の は、 口県阿部郡奈古村の 氏は温良順和、 昭和九年七月であった。 殊に教育問題に対して熱心なることは、 眞に農村人に相應 日会々長とし一期間の就任も、 出身で、 計 画に於い 昭和三年五月の渡伯当植民地 ても、 い性格の持主であ 方法に於ても、 之を裏書する 在植者一 る。 般 人後 社会

## 内田甫介氏

なる 気魄 神 陥 伯 があ 氏 とな た 時 は ŧ 旺盛 年八月の入植であるが、 が あ O母 り がある。 など、 0 り、事業的にも秀れ な人で、 国に於て軍隊生活を終 てゐる。 日常生活も、 自ら進んで、 山口県豊浦郡長府町の出身に 学務委員、 軍律的で如何にも頓母しい 其の責任を担当された程 たる手腕 会計等を歴任 一時同植民地が学校経営上、 へて居られるだけ 人である昭 Ĺ 其の て所謂長州 功績眞 所があ 剛毅果断 の義侠 年 窮迫 る 的 著 精  $\mathcal{O}$ に

弘 末 高 太 郎 氏

登用する事であり、之を誤れば進むべき事業が円滑に運行 在られたものであ の間に於ける業績も亦見るべきものが多かっ に対する熱心家であり、それが学務委員として二回も其 渡伯は昭和三年、 の發展を図る為には、其の役職に対して、 当植民地に於て、 り、所謂適材適所の代表的なもの 同十年の入植である。 之を見れば、 氏は当地稀に見る教育 た。岡山県の産に 最適なる人材を であ 重責に て、 其

ボア・エスペランサ

古武勲夫氏

家として、早くより重きをなしてゐる人である。 と二回、其の卓抜なる手腕と優れたる人格とを以 会に入っては衆望を負ふて、会長の重任に就くこ 総ゆる事に犠牲を払って二世教育の将来を磐石の安きに置いた人 展の為に献身されたものである。 十三年八月であるが、学校設立に当っては、昼夜兼行の活躍をし、 青年役員としては、 大正十四年三月の渡伯である。 は温 厚篤実の 人であるが、 眞に殊勝なる存在と言は 福岡県宗像郡東郷町 面 競分肌  $\mathcal{O}$ 所があ 其の入植は昭和 ねばならぬ。 2 て、 ŋ  $\mathcal{O}$ 植民地 出身に H

## 浦龍常吉氏

横なる手腕とを認められて、学務委員に当選し、 に熱 教育に尽力して居られるものである。北海道空知郡芦別村の 今叉会長として会務の統制、 年、二世教育の為に精励し、後副会長に転じ 氏 心な人であり、同地入植後、間もなく其の優誠なる人物と、縦  $\mathcal{O}$ 伯は大正十四年六月である。 植民地  $\mathcal{O}$ 開發、 温厚篤実にし て会の枢機に参画 日語なきあとの二世 みっちりと一 出身

入植は昭和十二年九月、 同地にとって貴重なる存在である。

アグア・フォル モーザ

合志文蔵氏

き存在である。 家として、 手腕を知られ、推されて、永らく会計事務を担当し、 は熊本県菊池郡原水村の出身にして、昭和三年一月の渡伯である。 下にあって、 植間もなく、衆望を負ふて会長の要職に就くこと二回、非常時局 の為には物質を惜まないといふ、団体経営には欠くべからざる尊 の努力を惜しまれなかった事は、 氏の入植は昭和十二年九月である。 農業経営に不動の信念と才腕を有する一方、 教育事業はもとより、 先住中央ガルサ植民地に於いて、既に其の人格と 植民地経営の為に、 自他共に認める所である。 性清浄潔白、太っ腹 当植民地入 公共事業 粉骨砕身 の事業

## 円 村 米 蔵 氏

ら、燃ゆるが如き民族愛をもって植民地経営の為に貢献せられた 伯後、各地を巡歴して、 なく、在植者の尊信を一身に集めて居られるのも亦当然と言ふ こと四回、殊に学校創立に当って尽された功績は筆舌に尽す所で ことは、今更喋々を要しないが、其の間会長の重職を続けられる アグア・フォルモーザをもつて、 である。 氏は山口県大津郡深川町の出身である。大正十五年八月勇躍渡 国内事情を審さに研究し、 永住の地と定め、 昭和十年九月、 農園経営の傍

リベロン・アレグレ

草刈場金十郎氏

て、早くも其の人物を認められて煩雑なる会計の重任を帯び継続  $\mathcal{O}$ 入植は昭和十 年九月一 日 である。 日会第二次改選に於

婁郡 となっ 模範たるべく、 すること三ヶ年、 同植民地に於ける、最も信用ある人とし の産にし。 て居られる。 其の功績も亦非常なるも 昭和二年の渡伯である。 温厚篤実、 一方教育事業に対する熱心さは、 極め て円満なる人格をも て、  $\mathcal{O}$ がある。 公私共に在植者の 和歌 在植者中 山県東牟

## 奥火留市氏

である。 団体事業に於て、最も必要とする信念は滅私奉公の犠牲的精 神

副会長の要職に就き、後進んで会長の重任を帯び、 対する、大熱心を賞賛されて、昭和十一年五月、 身にして、 人格をもって、植民地の為に献身されたものである。 氏は温厚直実、公共事業の為には 入植当時より、 渡伯は大正十四年六月であ 早くも在植者 の信望を得、 物心 った。 加 の具体化的 入植後間もなべ 殊に教育事業に 其の秀れたる 広島県 在と

## 共 愛 植 民 地

## 家 人 満 氏

開 人格 たる境地 は昭和十 の事実にして、今更喋々を要しない。穏健篤実、 た事は、 一發の重大責任を帯びて、一意専心己を捨て、同地の為に貢献さ 氏は共愛植民地建設の主である。 目 の士であるが、中に一貫したる剛毅の精神あり敢然自若と 熊本県阿蘇郡 の大事業を完遂しつ  $\mathcal{O}$ 自他共に認むる所であるが、 人であり、特に二世教育方面に於ける功績 一年九月であった。 の出身にし ゝある姿は、 大正一年十月の渡伯 所謂萬年会長とし 私人的にも極 正し く雄壮そ 洵に 8 **!**優れ て円  $\mathcal{O}$ 共愛開 り 熟 る 周

第一サン ジョゼー

橋本眞吉民

民地 身に担って立ったかの観があり、正に二者揮然一体となって、 植著間の信望は 現在まで、 に貢献された功績は、 氏は同地の草分けであり、日本人会々長として、創設当時よ の發展に精進してゐる姿は美しい極みである。 一貫して其の職にあり、植民地経営並に二世教育の為 恰も慈父に対すが如く、氏も亦同地の消長を一 一再に止まらない。性極めて温厚篤実、 在 植

トス上陸である。 海道上磯郡木占內 町の出身にし て、昭和七年七月二十八日

#### 教育訓言

天の将に大任を之の人に降さんとするや、 必ず先づその心を苦し む。

苑 涙と共にパンを食べた者でなければ、 人生の味は わ からな

(ゲーテ)

プログレツソ植民地

上田丈兵衛氏

動までして役員の席に列し、常に在植者の顰蹙を買ってゐる仁が に植民者と共にあり、 識見力量共に末輩の位置にあり乍ら、天晴れ政治家気取りで運 ある世の中に、 帝大農学部卒業といふ、在伯有数の篤学者でありながら、 これは亦聞くだに奥床しい話である。 表面的活躍を好まず、専ら植民地開發の為 氏はそ

野郡の出身にして、 のと言はねぼならぬ。されどその人格識見に伴ふ徳望は 一身にあ その礎石となり、 つめ植民地の為に挺身して居られるのである。 初代会長より、 昭和三年の渡伯である 推進力となって居られる姿は洵に崇高なも 今叉父兄会々長として在植者 徳島県板 の尊信を

コレゴ・デ・プラツタ植民地

矢 田 竹 次 郎 氏

認識しただけ其所に叉観念の新らしさがある。愛媛県阿芸郡箕田 じて欠席しないと言ふ責任感の強い人物である。先年、 初代会長よ 地を開拓し、 に於て、遙かに一頭地を抜 氏はパウリスタ延長戦に於いても、其の人格に於て、事業手腕 不言実行型の人で、 出身で大正二年の ても流石に異数と称されてゐるものである。氏は義侠心に富 り、現在まで、実に八ヶ年に亘る継続であり、管内に 現在六萬の珈琲と三〇域の棉作に従事中であるが 渡伯、 公共事業に体する信念強く、 11 日本移民の古参者に属する。 てゐる人である。 昭和八年六月、 集会には断 日本を再

マリリア、暁植民地

清田正雄氏

具して、 にあ て、日本人会長の 氏は昭和八年十月三月、一念海外雄飛 に努力する等、実に功績顕著なるものがある。 入伯以来翌年七月、 一方児童教育事業を督励 要職に つき、 現在の瞑植民地に入植 現下 の複雑多岐なる社  $\mathcal{O}$ 他方植民地開発と啓蒙 熱情に燃え、 Ļ 会情勢の 衆望を負 族を引

 $\mathcal{O}$ 信望が厚 氏は熊本県鹿本郡  $\mathcal{O}$ 出身に 勤勉なる篤農家とし て在植者

サン・ジョゼー

西田嘉三氏

第二回決死隊に参加し、 渡伯は昭和四年七月にして、同十五年七月、サン・ジョゼーに入 高千穂植民地にあり、 である。 植し、学務委員並に会計を歴任 一方教師のよき理解者として、教育事業の支援に献身されたもの 「攻むるに難き青島の」今ぞ憶ひおこす大正三年の青島攻撃氏は 十八師団、第五十六聯隊歩兵上等兵として、第一線に活躍 熊本県鹿本郡六郷村の出身にして現在はポンペイア区、 同胞間 武勲赫々として凱旋したる勇士である。 の中心となって精励中である。 して、植民地経営の為に功績多く、

中央植民地

西田重市氏

尊敬 植し、 渡伯、青年運動にも理解があり、 導的立場にあ である。 に新なる所である。 氏は同植民地に於ける重鎮であり、 児童教育 の的となってゐる方である。昭和十一年八月、 日会創立当初より、会務の為に尽力され、 この為に、 り、 植民地内に欠くべ 山口県玖珂郡 寸暇もなく活動された事は、 自身其の創立に尽力され  $\mathcal{O}$ 出身に からざる存在とし 凡ゆる事に対して、 して、 学校建設 昭和六 現植民 在植者 て、 年四 在植者 に 奔走 記憶  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

教育訓言

ど我は汝等に告ぐ、 の隣を愛 汝  $\mathcal{O}$ 汝等の仇を愛し、 仇を憎む と言 汝等を責むる者の為に祈れ、 る事 あるを汝等きけ ή° され

バンディランテス

堀内三良氏

最後まで貢献されたものである。長野県は上伊那郡飯島村の 業に対する経験も深いが、 である。 に対する熱心家として、 厚篤実なる事であるが、 入植後、模範的農人として一般在植者間に信望を得一方教育事業 氏は大正八年五月の渡伯在伯二十三年の歴史を有するだけ、 のがある。 農村人として最も必要なる性格は勤勉にして、 氏は昭和七年九月、現バンディランテス 一般会員の中に中心的勢力を持ち、 其の経営にも無駄がなく、実に堅実な 其の

アンデス植民地

中村佑太氏

しく賞賛する所であるが、 氏が秀れたる教育熱心の人であることは、同植民地在住者の斉 し、幾多の輝かしき功績を胎して居られるもの 入植以来、初代学務委員として三ヶ年 であ る。

の渡伯、 き、学校問題を中心とする物議が、氏の在任中は一度も之を見な かつたと言ふ。岡山県後月郡高屋町の 氏は温厚篤実、洵に同植民地稀に見る人格者で、 入植は同四年九月であ った。 出身に 他に見るが 昭和二年九月

中央興農園

芳 賀 源 蔵 氏

人植で、初代副会長として二ヶ年を連続し、 は当地に於ける重鏡の 人者である。 当時開植 昭和四年九 道 後 月  $\mathcal{O}$ 雑然

会長に推されて、 たる状態の中にあ なる存在である。 て、大正十五年十二月の渡伯、 功績は、正しく枚挙に遑がな で学務委員として、煩雑なる二世教育問題に携り、第九次には 日会統制、 って、親しく辛酸を嘗め第四次より、第七次ま 植民地開発に当られたもので、 日下同地に於ける元老として重要 兵庫県赤穂郡高田村の 出身に 其  $\mathcal{O}$ 日

#### 教育訓言

世路は平坦たるものに非ずと雖も、 勤勉、 努力、 節倹、 貯蓄、 日も怠る勿れ。 勇往邁進すれ ば必ず成功の彼岸に達 (安田善次郎

#### 保 シナ チ

田

浦

太

郎

氏

割った様な清純潔白な性格、裏画的な行動、 を無償提供したといふ懇篤なる功績がある。 あたり、首語動作がキビキビとしてゐて、 ことを極度に排撃する人格の士である。 しめる。 氏は剣道で言 昭和二年四月の渡伯である。 昭和九年八月の入植であるが、学校設立と共に其の へぼ、 堂々と正眼に構へた人である。 何事も自信を持 恰も偉丈夫の 和歌 小才を弄すると言ふ 感を抱か 所謂竹を 0 て事に 敷地

#### ポンペ イア $\mathcal{O}$ 部

吉 ポ Щ 市 五イ 郎 ア市 氏

長線よ 性温良謹直、其の行ふ所大様に寡黙なること林の如き風格の中に、 めども尽きぬ人 氏はポ市管内に、其の声名を謳はれてゐるばかりでなく、 り、延いては、全伯的に饒名を擅にしてゐる人である。

運転 間味あ 雅量も、氏の時に胚胎したものと称すべきであらう。 寧日なき姿は洵に崇高なるものがある。壮年時代には、 士として、 り、事ある毎に、 マドロス生活を送ったそうで、 其の登場を恣慂されて、 氏の情濁合せ呑む 公共事業の為 揚子江に

 $\mathcal{O}$ 功績も亦同地に於ける第一位である。 ポ市日会長、ポンペイア区学校協議会長、文数会学務委員等其

長崎県の出身にして、 昭和四年の渡伯である。

## 岡田幸一氏

務の統制、二世教育の充実に当られたもので、 市管内二〇有余校をして、 れたる逸材を賞賛されてゐる人である。 声望が高 の歴史に不朽 相照らし、氏辞任の後は、 え高く、 由来同市は駿秀の集合地であるが、氏は其の中でも、 輿望を負ふて、 大正六年の渡伯、 理智の人、  $\mathcal{O}$ 光彩を放つものであらう。広島県御調郡 副会長となり、 健実の士として早くより、 現在農産物仲買商を経営 代って学校協議会長の重職に就き、 泰山の安きに置 後会長 の要職に推され いた功績は、 常に吉山氏と肝脛 日伯人間に其の ポ市日会創立と共 日伯 英才 永く同地  $\mathcal{O}$ H て、 間 ポ

# 黒 木 静 二 氏

ポ市草分の 一人として、 ポ市日会創立当時より、 役員として尽

ある。 語教育非常時に当りて、学務委員、副会長、学校協議会評議員等 昭和三年四月の渡伯である。 校々長静枝女史は、氏の長女であり鹿見島県相良郡の出身にして、 ウルー帝国領事館より、ポ市管内の領事館通達等の事務を委嘱さ 力され、 士官に任ぜられ、 れて居るを見ても、公共事業に対する氏の熱心さを証するものが に推されて奮闘 氏は酒豪であるが、亦頭脳の秀ひ出し人物にして、海軍下 中途居を郊外に移されたが、近年再び市内に転居し、 し、日会解散後は、特に氏の熱心を認められて、バ 一等機関士の有資格者である。 黒木裁縫女学

## 藤岡登氏

当られたもの 才腕とをもつて、早くより内外人間に重きをなしてゐる逸材であ を重任され、 居られるものである。ポ市中央校の創立当初より学務委員の要職 ある毎に出馬を促されて、対伯人的諸問題に解決の労をとって る。其の流暢にして、正確なる葡語は伯人間にも声名を謳はれ、 渡伯である。 の中心勢力として、会務の為に奔走されたる功績は枚拳に遑なく、 一方青年運動の推進力となり、永年其の会長として、 氏はポンペイア市に在 外は官憲との折衝、内は二世教育の充実に、在市者 である。 広島県の出身にして、 って、其の重厚至直の性格と堅忍不抜 明治四十五年五月の 指導激励に

# 井 手 卯 八 氏

井手卯八氏である殊に氏はがん現ポ市警察署長の信任を得、通訳 きに必ず世話になる人物が ポ ンペイア 地方に於ける邦人が、一 ポ市に二人ある。 度警察署との交渉をも それは藤岡登氏と

余校 ある。目下人事相談所として、言語に不自由なる邦人にとって、 る尽力をされ、 られる。ポンペイア中央校末期の学務員として、対外的に多大な くてはならぬ存在となってゐる。熊本県飽託郡の出身にて、大正 三年の渡伯である。 の最後の年を無事に終らせし点、何人も等しく感謝する所で て正式に委任されて、同地方に於ける邦人の便宜を図って居 殊に市長、 グルーポ校長と親交ありて同地方二十 な

#### 時局標語

金に ゆ るが 職場 洩らす ん軍機

## 大田林一氏

学校を卒業し、近々再渡伯とのことであり、 あ 鮮 校に入学中である。 る。子女の教育に於いても、長男、長女は母国に於いて中学校、女 慮、遂に其の運用を円滑ならしめた点、常人の為し難きことであ である。 かなことは他の追従を許さぬ。素人商人の多い、 マ市より、 って、氏の如きは眞の商売人と称してよからう。 人格円満なる氏は、商売も常に堅実に順調なる發展である。 ポ市に於いて、 広島県神石郡の出身にして、 雑貨より金物にと、 尚次女は聖市職業学 その転向振りの 大正六年の渡伯 常に赤字に苦 在伯邦人界に

#### 川 野 益 躬 民

治四十三年五月の渡伯であるから、在伯同胞の祖人的存在である 氏は現在ポ 市に於 11 て、 手廣 仲買商を経営し て居ら

校創 地 たと言ふ。ポ市入植は昭和十三年八月であるが、 は にあって、 勿論だが、 立に当って奔走され、 入伯当時に於ける辛酸は、 初代より学務委員を三年務め、 幾多の 功績をの 相当に探刻なものであ こして居 後副 其の以前ポ植民 会長となり、 0

られ る。 熊本県上益城郡六嘉村 公私的に信望が厚 の出身にして、 性謹直温 厚、 同 胞

ける、 活躍中である。 尚氏の長男幸喜氏 伯国官憲との会務上に関する折衝に当り、 は、現日伯青年会外交部長とし 日伯親善の為に、 て、 ポ市に於

# 福田長一氏

ちな S. とは 重きを置く常人ではない。 理店等々に活躍 立してポン 事業に特に後援せられた方である。 を購うて、 としてオ の援助をうけてをることか。 商業学校を卒業後直ちに渡伯、沖、村上氏等との共同生活後、 産は、 い。青年会、 つて居るが、ポ市地方に於いて寄附の如きは決 ルガン 其の希望を満たし、 和歌 、ペイア市に於いて、棉花の仲買に、雑貨に叉自動車代 山有田郡にて、 が必要であるとの言をきゝ、 して居る、 野球チ ムの如きは如何に氏のポ 氏自身が病弱 少壮事業である。 児童訓育に於ける、 同校教師をして感激せし 昭和二年二月の渡伯であ の為、 氏は所謂貯産 直ちに高値なる 名誉職等は 情操教育 ツ めたと言 人後に落 り、 のみに  $\mathcal{O}$ 7 ネ 切こ 本会 助  $\mathcal{O}$ 

#### 訓言

善を積む家に必ず余慶あ ŋ́, 不善を積む家に必す余殃あ ý<sub>°</sub> (易 経

## 菅山勇氏

明治維新を追懐 眞先に想ひ起されるもの は、 あ の大業が

奏し、 すべて青年の熱血と努力によって為されたと言ふ一事である 先登第一的の青年事業家である。 負って立った駿才で、 る事に異論 の事業に於ける大小の差こそあれ、 智能 の程度に於て、 はない。生来頭臓明晰にして、 過古現在未来を通じて、重要なる存在であ 実行力に於いて、 氏はポンペイア青年会を背 少年時代の 活動力に於て、 研鑽が 常に /効を 其

経営し、 現在ポ 人気の焦点にあると言ふ。 ンペ イア及びツパンの両市にあって、棉花雑穀仲買商 を

## 宮崎義雄氏

丈夫 ア市 者である。 身は和歌 年九月渡伯 した氏 何れも今日 資本金 かに出た少壮実業家である。ポ市に進出 は偶然ではない 人の誉高 の存在より、 精綿、 の奮闘は驚嘆に値すものである。併し今日の地位を築いた 一 千 県日高郡である。因に氏は本会事業に対する特志後援 の氏を造りあげたものと評しても過言ではあるまい。 い夫人の内助の功と、更らに氏自らの人格円満なる点、 昭和十年八月、ポ市に移るまでは、 精撰珈琲に、 コン 全伯的存在の日となるも近きことであらう。 トス 母国に於いては商業学校を卒業後、 の宮崎合資会社の社長である。氏は三十を 今や發展の 一途にある。 して四、 農業に従事し、 氏がポンペイ 五年間に発展 大正十四

## 磯 山 瀧 雄 氏

推戴され引続き学校設立に当り、不眠不休 氏は昭和六年八月、 同地はもともと借地農植民地に しからずして、有力なる植民地となったものである。 共和植民地に入り、 て経済上、 日会設立と共に会長に の貢献をされたも 相当の苦難を辿 岡山

県久本郡 昭和九年八月であった。曾ては洒むよく嗜んだが て之を廃 の出身にして、 専ら事業の為に邁進中であ 大正十四年一月の 渡伯、 る。 ポン 現在は ペイア入市

## 得丸久氏

其 行、ポンペイア支店主任として、業界に馬を進めたものである。 の卓抜なる手腕と優秀なる人格を認められて、プラタクの人とな 心を基礎として、 の信望を得た人である。後農業方面に進出し、 分市の産、 氏はその昔 此所を牙城として、 温良順和なる特質をもって、児童の敬愛を一身に集め在植者 昭和四年の渡伯である。 マリリア区カスカツタ校に在って児童教育に尽力し、 各般の事項を、余すところなく深奥を極め、 更に研磨を積むこと四年遂にプラタク銀 其の旺盛なる研究

## 濱崎新二氏

諸氏 であ 言でない 盛大なる邦人 と共に農産物仲買商を開発し、其のキビキビとした商才を発揮 の決死的努力が礎石となって、目下の盛況を招来したと言ふも の出身である。 て、内外人の好評を博して居られるものである。 氏は大正七年七月の渡伯である。想へば既に二十有五年前 り、 の辛苦は、 在伯邦人の数も微々たるもので、 氏のポンペイア入りは、 (の活動状況を見るが、これ等はすべて、 涙な 因みに氏は本会事業の特志後援者である しに語り得ぬものがあると言ふ。 昭和九年九月で、 此の間に於ける先駆者 鹿児島は隼人 現在岡 先達者各位 今日各地 田氏 の事 過 町

#### 訓言

子に教ふるに科学を以っ てせよ。 然らば其の生涯は有用ならん。 又 教 ゆ

## 大 迫 栄 氏

業家 ものである。 席に列し、在植者の信望を得た入である。 する宮崎商会の組合員として、縦横に其の商才を揮っ イア市に入り、 で は 、ある。 温厚篤実、 其の昔、 精米製綿及び、 些か も無駄 マリリア管内共和植民地にあ  $\Box$ 珈琲精選、 を叩 かぬ、 並に農産物 昭和十一年四月ポンペ 洵に正直 って、 途 て居られる 仲買を業と  $\mathcal{O}$ 役員 少壮  $\mathcal{O}$ 

知 的進出を好まぬ風がある。 の事実であるが、 氏は生来頭脳 九月である。 明晰で、秀れたる事業的手腕 因に氏は特志後援者である。 他面謙譲の美徳あり、 鹿児島は 阿久根 公共事業方面にも表面 の出身にして、 の持主たる事は、 大正七

## 河 野 照 之氏

なるも 縁遠 氏と共に雑貨商を共同経営されてゐるもの により、伯語に造詣あり、 の声望をかち待てゐる所に、氏の る好評を博して居られる。むっつりとした人で、商人的には多少 在伯既に二十有五年を閲するだけ、当国に対する体験は洵に豊富 氏は山 因に氏は本会事業に対する特志後援者である 様な風格があるが、 のがある。 口県厚峡郡小野田市の出身にして、大正七年九月の渡伯、 昭和十二年八月のポンペイア 公私共に喜んで其の通訳に当られると 至誠一貫の事業的良心によって、 人徳がある。伯国に於ける体験 で、 日伯人間に絶大な 進出 で、 現在横井 現在

# 岡田喜一氏

ポ ン イア市に於ける有力者は、 広島県人が断然多い 氏も

学校に勉学中である。 広島県呉市 として、頭角を現して居る。 棉花仲買に叉シボ 張と共に辞して、一 として、 ヨ組 である。ポンペイア市 日会創立当時は、 出身で、 レー自動車代理店に、ポ市に於ける邦人事業家 意専心事業に没頭し、福田長一氏と共同にて、 大正二年三月渡伯の、 役員として活躍されたが、 長男俊幸君は目下サンパウロ への進出も古く、 所謂 同市古参組の 7 力 後事業 コ ヴ の拡 エ

## 本山透氏

交的と言ふ程の事もないが、何事によらす事の 人で、交際上にも其の温良なる性格が反映して、 の総てが得も言はれぬ快感を味ふものである。 氏は温厚実直、 洵に上品にして、 落着きある態度の 大要を直ちに 氏に面接する人

役員の任に在るなしに不拘らず、常に卒先発して出費を惜しまれ 月の渡伯であり、昭和十年九月の入市で、現在同市に薬局を経営 ぬそうである。 年漸やく壮年の域に達する人であるが、社食的事業に関心深く、 極めて奉仕的に、 高知県吾妻郡長濱町の出身にして、 世人の便益を図 って居ら れる。 大正十五年八

因みに氏は本会事業に対する特志後援者である。

## 藤 原 勝 喜氏

弟の将来を憂 の声援を惜まれなか 氏は教育事業に熱心な方である。 日語学校華やかりし頃は率先して、この事に貢献されたもの 羽郡御幸村の出身に 今回、本会の事業發表さるゝや、 へ、家庭教師を聘して、 0 たもので、 昭和四年十 改め 日語学校 単独其の訓育に当らせる程 て厚く謝意を表する。 諸手を挙げて賛同し、 一月の渡伯、ポンペイ の終焉を見るや、 福岡

りは、 声名を謳はれてゐる人である。 同十四年十二月、 現在同市に在る宮崎商会の共同経営

## 花田繁雄氏

に籍を置いて、 面倒を見るし、特に青年指導に実力を有し、現在ポ市 る。運動方面に趣味があり、二世訓育の体育的方面に 氏は少壮実業家として、ポンペイア邦人間に信望の 専ら青年向上の為に健闘中である。 厚 は卒先し 日伯青年会

県西城町 築し、菓子製造販売を業とし、 格者である。 昭和八年十一月のポ市入りで、現在同市目抜の場所に店舗を構  $\mathcal{O}$ 出身にして、 日本に於て中学卒業し、 日伯人間の賞賛を博し 小学教師 てゐる広島

## 渡邊 又 吉 氏

身である。 若き宮崎氏を助けつゝ奮闘されて居る。福島県安達郡石井村の 世を得る老人となった。渡伯は古いが、 で送り、同年ポンペイア市に進出宮崎合資会社 露の宴を簡略して、其の費用を日伯青年会経営の商業学校に寄附 の主旨に基き、 して、若人を感激せしめた。渡伯後、農をもって、 人で、渡伯当時はまだカザードノ 四十一年第 母 国 の新体制に順應し、 回移民、笠戸丸渡伯 ーポであ 時勢に即し、 次男の結婚に際  $\mathcal{O}$ 7 カコ った氏も、 の出資者となりて、 ・ヴエ 昭和十二年ま 日伯青年会 近く第三 リヨ組 て、 披

因に、氏は本会事業に対する、 特志後援者である。

#### 福 島 拾 吉 氏

氏はポ ンペ イア植民地開拓当初の第一 代日会長として、植民の

統制、 にあ 二世教育 り、 日伯 人間に其の令名を謳はれてゐる人である。 の發展に、 其の基本的貢献をされた人 で、

上 数も相当に古く インテリにして、 音楽に天才的技能があると言ふ。福岡県の出身に 高等女学校を卒業されて、 ポ市管内に於ける重鎖である。 上品な風格の 帰伯されたも 人で、 其の令嬢は先年訪  $\mathcal{O}$ で、 其  $\mathcal{O}$ て在 妹君と共 日

## 北 村 周 一 氏

学務貞として尽力された氏は、昭和十年ポンペイア 協力を惜まなかった。昭和二年の渡伯で、 旅館経営の傍ら、ポ市日会幹事として学校経営に、常に熱心 容に於い 昭和五、六年頃ヴエラクルス駅地方に於いて児童数に於 第 一を誇りしセツテ・ケーダ植民地の日会長、 出身は奈良新吉野郡 市に移ら 1 なる

### ジヤトバ植民地

#### 局 路 隆 一 氏

世教育問題を中心に、各般の植民地経営事務に精励せられたも 統制指導に当って居られるが、在植者の氏に対する信頼 で、其の尊き体験をもって、 で、入植以来、役員として副会長並に学務委員を重任すること、 に六ヶ年、 の出身に の初期に位する人である。 氏は大正三年五 があり、 其の卓越したる経倫と、 昭和六年八月の入植である。 月の 恰も慈父の 渡伯であり、 現在会長の要職に在 温厚篤実、 如き観 秀れたる人格とをもつて、 在伯己に三十年、 があ 稀に見る人格円満なる人 る。 廣島県安佐 在伯 同地日会 は絶 日本移  $\mathcal{O}$ 

## 渡五六氏

性温 会長 駆者として開拓入植し、初代より昨年度まで、実に九ヶ年に亘る 廣島県安佐郡日裏村の出身にして、昭和四年十月の渡伯である。 公共事業に精励され、幾多の輝やかしき、功績を残して居られる。 イア管内 氏は植民地 厚篤実、代表的人格者で、 の重任者で、凡らくパ延長線にも寡聞なる例となるであらう。 に於ける知名の傑物である。 「ジャト バ の第 其の財力的優勢もあるが、 一人者と言ふばか 昭和五年八月、 りでなく、 同地の先 進んで

# 沖 村 憲 太 郎 氏

られる。 会長を重任すること三年に及び、頗る多大たる業蹟をのこして居 る。氏は其の 確固たる信念を以 際的には無能な人があり、反対に柔和に見へて一度事に当れば、 公共事業に対しては、率先して之に当り、日会幹部に列しても、 人間には種 廣島県安佐郡の人にして、 後者に属する方で、非常に温和な人格の 々雑多な性格的型があり、 って、着々として、之を完成するといふ人があ 昭和八年五月の渡伯 一見英才的 に見 人であるが、 であ て、

## 中佐鉄次氏

員となると、慌しく其の行動を開始するといふ向があるが氏は 奉仕を惜まれない人で、眞に得難き奇篤な存在と言はなければ の入植は昭和九年八月である。 の役職にあると否とに不拘らず、 数多き在植者の中には、平会員の時代に 可もなっ 廣島県安佐郡 く不可もな の出身に し式 の態度を続け 一意専心社会公共の為に、 大正三年五月の渡伯、 あ 7 0 ては、 あ るが 何 等 度び役 の意見 同 地 其

サンタイーリア植民地

鮫島忠志氏

がある。 在伯年数も相当に古く、 氏は鹿児島県姶良郡隼人村の人である大正七年九月の入伯で、 伯国に対する研究も亦、 並々ならぬもの

讃仰されて、 極めて常然な事である。氏は容貌も秀麗で美男会長の愛称を受け たもので、稀に見る有徳の人として、在植者の信望があるのも亦 る姿も亦天晴れなるものがある。 任に当られること前後三ヶ年、専ら力を植民地の為に、尽され 当地の入植は、昭和十一年八月であるが、 ゝあると言ふが、不言実行、よく先頭に立って会務を処理され 合計事務を担当すること一年、 其の秀でたる人物 会長として日会統制 を

## 銱 職 博 吉 氏

識あ 指導 其 出は好まざるの風がある。 叉見るべきものが多く、 る逸材である。 氏は滋賀県野洲郡篠原村 間日会長として、植民地統制に当られたもので、 り、為す所可ならざるなき才能の士であるが、 の任に在る人である。 現在尚顧問として合の 氏は鋭敏なる精神力をし、 其の実弟千次郎と共に、 の出身である。昭和十年八月の入植で、 枢機に興し、 余り表面 当管内稀 其の功績も 該博なる智 的進 日会 に見

#### <del>岩</del> 井 竑 氏

智織を有 氏 に精通し、 は岐阜県揖斐郡 其の言ふ所理路整然として聞く人をし感ぜしむる。 農業経営に造詣あり、  $\mathcal{O}$ 出身である。大正八年十二月 性豪放磊洛にし  $\mathcal{O}$ 渡伯で伯 て該博なる

会統制 同地  $\bigcirc$ 会長の重職につき、 の重任を全うされたものである。 は昭和十年八月であるが、日会に入つては、 親しく植民地経営辛酸を嘗め 副会長を 日

事業的手腕に秀で、手廣く農園を経営して居られ

# 錦職千次 郎 氏

ある。 絶大なる信望があると言ふ。滋賀県の出身で、大正三年の渡伯で 情並に伯語に精通し、 地に入植し、 念など洵に探甚なるものがある。ブラジルに暦史が古いだけ、 四年、後自ら日会長として、植民地統制に当られたものであり、 明哲、 氏は農村稀に見る堂々たる風格の人である。 博識多才、 其の勝れたる人格を讃仰され 熱弁よく人を感ぜしめ、 外交的方面に対する功績多く、 て、 二世教育に対する信 学務委員たること 昭和十年八月、 伯人間にも 同 玉

## 田山音吉氏

を以 が 月であるが、副会長の要職に在ること前後二回、 大なるものがある。 教育方面に対する信念には熱烈なるものがあり、至純至高 る事に於いても、 するが、 氏は同植民地稀に見る温良順和の人で、見るからに柔和 って、終始一貫されるもの 他人との争論など絶対にせぬ人である。 同地の模範たるべき人で、 である。 同地の入植は昭和 公共事業、 其の業績も亦多 物事 に二世 熱心  $\mathcal{O}$ 精神 な

出身にして、 大正十 年五月の 渡伯 で ある

時局 ◎国策協力、 臣道実践、 に努めませう。

# 児 玉 休 左 衛 門氏

は昭和 る。 發展を企画されたもので、前後二回、学務委員の重職に在って、 業に学校経営に探 鹿児島県姶良郡隼人町の出身にして、 く責任を全うされた事は、今尚在植者の美しき語草となってゐる。 氏は教育に対する理解者である。家庭教育方面に於ても十分な 注意を払 一年八月である。 万事に其の達成を考慮して居られるが、 い関心があり、 温厚の人、 教師を補佐 実直の人。 大正七年九月 して、 其のよりよき  $\mathcal{O}$ 渡伯、 公共事

## 敷島植民地

## 大堤定平氏

橋是清 昭和十二年八月、 て敏腕を揮ひ、 所其の前任地、 は、 の枢機に関与しつゝ現在に及んでゐる。氏は温容円満前大臣高 氏 て、在住者の尊信を一身に集めてゐる事は、自他共に認 は温厚篤実、 欠くべからざる大元老とし 翁その儘 相次い 共和植民地に於いて、合計其の他の要職を歴任  $\mathcal{O}$ 敷島植民地開拓入植と共に、 不言実行 風貌にて、 で起った突發事項を処理し、後顧間として、 の人格者として植民均 親分の尊称がある。 7  $\mathcal{O}$ 存在であり、 日会初代会長とし 「敷島」に 植民地 親爺 める

· 四 年 茨城県東茨城郡 一 一 月 の渡伯である。  $\mathcal{O}$ 出身に て、 所謂関東人の気魄を有

# 榎 本 信 一 郎 氏

進取 は  $\mathcal{O}$ 識 気象に富み、実行力旺盛に 見、 手腕共に秀れた、 延長線内傑物 して、 周到なる計  $\mathcal{O}$ 画を以って事

開拓 に当り、 躍中であ 其 等を歴任 に如上の事実を裏書するものである。当地に於いて学務委員会長 て初志を貰徹するといふ気骨の  $\mathcal{O}$ 学校敷地として、 人植である。 人材を知られ、 事一度着手すれば、 る。 し、共の卓抜なる人格をもって、益々植民事業の為に飛 和歌山県の出身。 殊にド 同氏より二域の寄贈をうけた事など、 如何なる障害をも打破 昭和二年の渡伯にして同十一年 士である。 イス・ミランダ氏と親交あ 伯人間にも早くより、 敢然とし 十分

#### 教育訓言

書を見ること一日なれば 書は貴賎貧富老少を問はず、 一日の益あり。 書を見ること 巻な れ ば即ち (剣 巻の益 掃) あ

## 植畑助一氏

活 て円満な 氏 した例がな の中にあ 0 人植は昭和十一年七月である。 る人格の所有者であることは、今日までの永き植民地生 って、唯の い事に於ても、察知出来るであらう。 一度も他人との間に問題を起し、 温厚篤実、不言実行、 喧嘩 極

る存在 会長の の奉仕 を算 遑がない。廣島県の産。 一方教員に対する艮き理解者であり、学務委員、 てゐる。 重職を帯び、現在は監査役として植民地に於ける、重要な を惜まず、 となってゐる。 今日まで公共事業に 叉公共事業に対しては、 大正十五年七月の渡伯で、 対する貢献は、 物心両方面に多大 在植己に六年 副会長を経 実に枚挙に

## 永 井 通 晴 氏

氏は和歌 山商業 の卒業であり、 後、 身を軍籍に起き、 陸軍輜重

はな 兵少尉とし の経歴があるだけ、常に国家の干城たるの態度を失

植者 温厚篤実、 の尊信をうけ 明晰 なる頭脳を有 てゐる人である。 先年同 公明正大なる 地に 人格をも 0 在

民地 学務委員、副会長、会長を歴任し、其の秀れたる経綸をもって、 於ける紛争の中に介在し、常に紳士的態度をも 昭和二年十月の渡伯である。 臨まれた姿は、正しく天晴れなるものがあった。 の統制に当られたもの である。 和歌山県富田郡の出身にして、 0 日会に於いては て、 其の 解決

### 岡愛雄氏

き、その夫人と共に模範的家庭を建設して居られる事は、 待したい 地の一異彩となってゐる。叉精神生活の方面に於ては、文学に深 在尚会長として活躍中である。性温厚篤実、家庭教育に重きを置 い趣味をもち、渡伯前母国に於いて雑誌社を経営したといふ風 八月、当敷島人植以来、学務委員、副会長会長の要職を歴任し、 の存在である。曾つ 氏は和歌 無言の手腕家として賞賛されたものである。 Щ の生れ、 て敷島に大紛擾勃發の際などよく之を解決 大正十一年二月の渡伯 であ 今後の活躍を期 ŋ 昭和十 同植民

#### 教育訓言

国を経め、 家を治むるは、 文より善きはな 身を立てて名を揚ぐるは、

学よ高きはなし。 (日本後記)

教育は紳士を創造 口 ック) 読書は良友を創造 反省は完璧の 人を作る。

## 森政助氏

地随 落ちな 大正十年の渡伯、 る所以も亦茲に存する 金銭上に関しては稀に見る確実の人であり、植民者より敬仰され に誠実をモ 氏は同地 一と称せられ、 常に発頭に立って、 民族主義の ツ の重鎮とし ーとして、交際されるので、在植者の信望も厚く、 同地に於ては合計を担当した人である。 公共事業の為には、 人であるが、温厚篤実なる点に於 のである。和歌山県有田郡南廣村の出身で、 て、二世教育に熱心なる事に於 其の事業を助長されるも 自ら進んで應分 ので、 1  $\mathcal{O}$ 出費に 公私共 同 植民

## 権畑憲三氏

もち・ 導の任に当る等、 ける教育実際家とし 島県雙三郡の産、大正十五年七月の渡伯である。 ては、学務委員、書記会計、副会長の要職を経て居られる。 は未だ若冠三十二歳透徹 特に青年運動に然ゆるが如き情熱を有し、他に率先して指 敷島有数の逸材である。 ての経験あり教育に対しては豊富なる理解 た理論 の所有者であり、 教育関係植民地経営に 伯 国

## 山根徳市氏

の功労を収め 氏は帝国軍人である。 て居られる。 警備に陸軍歩兵とし て出征

ある。 き理解 の要職に就き、 如 教育事業に対し、 0 者であ 郡 犠牲的精神をもって植民地経営の為に活躍中である。 産に り 敷島入植以来学務関係 サン・ジョゼー 深き信念と実行力を持ち、 昭和五年七月の渡伯、 -植民地  $\mathcal{O}$ に於い 枢機に参与し、 入植は同十年七 方教員に対する深 て、 既に学務委員 常に物心 島根

## 本田政人氏

植は昭和十二年七月であるが、日会幹事として暫らく会務 五月の渡伯である。現在は親和植民地にコ 奔走されたもの 事にも率先して働く、所謂不言実行の典型的存在である当地 がない。氏は此の点眞にはっきりとした人で、無駄口を言は れる。 世に饒舌家といふものがあって、毎度の会合に愚論をまき散ら 徒らに時間を空費する である。熊本県下益城郡 人があるが、 まことに百害あ の出身にして、 園を経営し 昭和五 って の為に て居 利 何 年

## グワリツタ植民地

## 村松圭二氏

当り、 ポンペイア管内に信望を得、一 達として、 会長の席につくこと二回次には、日会長として植民地統制の任に 円満なる大人格者として啻にグワリツタ植民地のみならず、 ポ 殊に教育事業に 氏の名は余にも有名である。 ア郡日本人社会に於ける重鎮であり、植民事業の 九三六年九月、現植民地入植後、 識見力量共に優れ、 謹直

対する信念最も厚く、其の功績たるや実に枚挙に遑なし

年の古強者に って居られる。 長野県飯田市  $\mathcal{O}$ 出身にして、 現在は顧問 渡伯は大正十年三月、  $\mathcal{O}$ 職にあ ŋ 植民政策の督励に 在伯己に二

#### 教育訓言

るも 謂ふ事勿れ、 元組以下代 父の徳行は、 の也 Þ 今日学ばす その子に対する遺産中の最良なるも の先祖を敬ふべし。 (吉田松陰) て来日あ 先祖を忽せにすれば、 り 謂 ふ事勿  $\mathcal{O}$ なり。 其の家必す衰ふ 今年学ばずして (西洋訓言)

常田忠次郎氏

来年ありと。

(朱子)

てゐる。 る、 まゝに行動される為に、常にその効果には確然たるものがあり、 会長を勤め、 年と共に其の真価は顯現されて行くものである。前回に於いて副 事に当る場合、よくオセツカイと混同されるものであるが此 合に於いては、 った。 氏の渡伯は昭和八年六月である。性実直温良、 公私両方面の世話役を以って任ずる人である。 青森県南津軽郡の出身にして、 現在日会長として、 卿かの邪念なく、 植民地万般の世話事に奔走され 慾心なく、 入植は昭和 天眞爛漫人情 植民地内に於け 由来人の 十年十月で  $\mathcal{O}$ 世話

## 菅 原 辰 次 氏

縫学校を経営し、 氏は由来子弟教育に熱心なる人であり、其長女はポ市に於て、 務委員を経て会長の要職につき、植民地の統制に当られたもので 志をもって勇躍渡伯し、昭和十年九月、当植民地に入った人で、学 郎君は在聖市ア あるが、学校創立に関しては、尚一層の貢献をされたものである。 ると言ふ。因に氏現在の住居はポンペイア市である。 氏は熊本県玉名郡春富村の出身である。 ルヴアレス・ペンテア 次男全安君は、 ペンナポリス中学を卒業四男四 ード商業学校に在学中であ 昭和四年六月、図南

# 山本末吉氏

実なる、 氏はまことに物当りの柔かな、 正しく農村 人の 代表的好 無駄 々爺 で П ある。  $\mathcal{O}$ な 1 文字通り 温 厚篤

回次 月、現在は日会顧問として会の枢機に参与して居られ 確実性をもって、 昭和十年九月、グワリツタ入植後選ばれて会計たること前 いで、 へるに遑なし。 副会長となり、第六次改選には日会長として、 植民地経営に臨み、 福岡県八女郡水田村 孜々として尽力され の産、 渡伯は昭和 る。 持前 後  $\mathcal{O}$ 

## 岸兵助氏

意を払 関心を持ってゐるか 長として植民地の統制に当るに対しても、特に此の点に十 児童教育さへ なってゐる。 するとき、 九月の入植で、 農村に於け ひ、数度に亘って施療に当られた功績は布植者賞賛 その罹病率 和歌 十分に行はれない時、衛生方面に在植者は如 る日常生活が 洵に奇篤なる存在である。 Щ  $\mathcal{O}$ 一歩植民地に足を入れ、児童の健康状態 出身にして、 の除りに多い 余りにも多忙を極める為、 渡伯は昭 事に驚くであらう。 和六年五月、 動 b 何 分 同 的 なる لح 接 注 会

## トリウンフォ植民地

## 倉 内 政 猪 氏

経営の ち第二次父兄会改選に於いて、 に於 氏は当植民地に 並に第四次 為に いては、 献身的努力そ捧げられたも 初代より、  $\mathcal{O}$ 現会長として、 . と つ て、 学務委員を兼任して、 欠くべからざる重要なる存在 副会長の重職につき、 会務統 制  $\mathcal{O}$ であ  $\mathcal{O}$ 重任に在り、 るが、 終始一貫孜々と 第一次第三 二世教育方 であ 植 民地 る即

は昭和十一年八月であ である。 て之努められたもので、同植民地の大重鎮といふも亦宜なる哉 福井県今立郡 の出身に 0 た。 大正七年七月の渡伯

## 坂本資次氏

留郡 会長として、 植民地経営に であるが、 尽された功績は、一再に止まらない。氏の入植は昭和十二年七月 氏は母国日本に於いて、村政に関与された尊い体験があるだけ、 の出身にして、 家庭的訓育は無論のこと、 第二次改選に於て、 非常時局を担当されてゐるも つい ては探 昭和七年六月の渡伯である。 い造詣がある。教育問題に対する研究も 早くも会長となり、 植民地に於ける見童教育  $\mathcal{O}$ である。 第一次及現副 の為に

## 濱崎儀吉氏

直、 永久に同地 任を全うされたものである。鹿児島県姶良郡の出身にして、 て、同地 に在植者の先頭にあり、精神的にも物質的にも相当の犠牲を払 七年七月の渡伯、 氏は同地に於ける重鎖であるが、 衆望を負ふて副会長の要職に在る事一年、 の二世教育をして泰山の安きに置  $\mathcal{O}$ 続く限り伝へ 入植は昭和十一年九月であった。 続けられるであらう。 教育事業に封する熱誠 いた人で、氏の功績は 遺憾なく、 性極めて温 は、 厚謹

## イデアル植民地

中井末吉氏

氏は大正二年九月 7 力 コ ヴ 工 IJ  $\mathcal{O}$ 渡伯 日  $\mathcal{O}$ で あ 員である。 る。 所謂 在 伯 邦 開 拓  $\mathcal{O}$ 先駆者で、

ブラジ ルに古く、 事業的 にも小才があると、 何か つ位、 おか

月、 事に当って至誠一貫、在伯三〇年を之のみによって押通して来た の厚い信望がある。 人格者である。熊本県玉名郡の出身にして、 しな真似をする仁がよくある中に、 日会役員に列して副会長、 会長を歴任されたもので、 氏は極めて温厚篤実の人で、 入植は昭和十二年十 在植者

## 飯塚義雄氏

其の旗色を鮮明にする事に取得がある。 務委員の重職につくこと三ヶ年、専ら二世教育の為に献身的の努 があるが、何等の策もなく、徒らに放粟してゐる父兄に比べると、 になってゐる。此の二世教育の為の帰国問題は多分に再考の余地 力をされた、有為なる逸材である。日語学校問題の悪化に伴ひ、 八年六月の渡伯である。 VI 氏は当地に於い 、二世の退化をおそれて、最近の便船により、 て、合計事務を担当すること二年、 熊本県玉名の 帰国される事 煩雑なる学 人で、 昭和 可

## 須藤新平氏

前任朝日に於て、其の才腕を認められて学務委員となり、 地に於て学務委員の重職に就かれた経歴がある。 開陳する。 福島県石城郡 種となる事があるが、 氏は理論の 植民地の發展を真剣に考 誠に正常な行方であるに拘らず、  $\mathcal{O}$ 人である。 出身に 氏の為にまことに遺憾とする所である。 然も空論 昭和五年八月の渡伯で へる方であるだけ、 の人では な 應々にして之が誤解 1 所に、 事々に意見を 、ある。 の値打が 今叉現

# 染 田 正 之 氏

氏は 如 何にも農村人らし 風格を具へてゐる。 温順実篤とい

定め、 熊本県上益城郡の出身にして、昭和十三年七月の植民地入りであ が、躍進日本の空気を、 伯であるから、 ふ言葉が、 ない観念の 人格早くも副会長の重任につき、会の為に働い その儘当嵌る性格の持主である。 ブラジ 新らしさがある。 最近まで呼吸して乗られただけ其所に に於ける経歴は、 イデアールをも まだ言ふ程 昭和十 つて安住 一年六月 て居られる。  $\mathcal{O}$ 事は  $\mathcal{O}$ 

## 田原宗衛氏

は、 を發揮する人である。歳未だ若けれども幹部役員として会計 感歎措 を担当し、 対する態度も、 氏は何事によらず赤心をもって奉仕する人である。 燃ゆるが如き強烈なる信念を有し、 く能はざらしむるが、実際的行動に於て、 日会の為に貢献されたも 常に慎重熱誠を極め  $\mathcal{O}$ てゐるが、 である。 其の言ふ所にも人を 就中教育 如実に其の 7

福島県北曾津の出身にして、 昭和八年四月の渡伯で あ

## 朝日植民地

## 朝長春一氏

所有者で 体育的指導など率先して尽力される。 氏 , は陸 ある。青年時代より運動方面 軍砲兵として軍隊生活をされ に趣味が た程に、眞に立派 あ り、 青 な体格 少年 寸  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

副 会長たること二年、 現地 て居られるものである。長崎県東彼杵郡の出身に  $\mathcal{O}$ 入植は、 昭和十 後会長に進み、 一年九月であ 現在尚会長とし るが 会の 最高 幹部と て会務を総 昭和

四年二月 の渡伯、 温 健篤実 0 人とし 在植者  $\mathcal{O}$ 信望が

## 樋 口 満 二 氏

る。 身にして、 富み、公共事業には、率先して其の衝に当るといふ情熱家でもあ 部長として、 現在副会長として会務の統制に当って居られる。 一歩も過かぬといふ豪毅な風格が 昭和十二年九月の入植で、 同地 昭和四年二月の渡伯、 の重鎮である。 縦横の手腕を揮って居られる。 自己 会計職を経て、  $\mathcal{O}$ 目下ポ市に在り、 所信 あるが に対 て、 後会長の 他面犠牲的精 堂力と之を披 産業組合棉花 長野県 要職 H

#### 芹 川 実 徳 氏

当選さる 立と共に、 格とをもつて、植民地統制の重任に当られたもので、 明朗潤達の に植民地経営の為に、 氏は今こそ油 ゝ事四回、燃ゆるが如き信念をもって、 初代会長に批され、 士である。 の乗り切っ 献身されたも 昭和十年九月、 た齢不惑の壮年時代で、洵に元気旺盛、 その卓抜なる経綸と、  $\mathcal{O}$ 当植民地の人となり日会設 である。 二世教育を中心 後副会長に 優秀なる人

経歴も古く、 熊本県菊池郡の出身にして、 亦在植者の信望も厚 大正二年五月の渡伯、 V ? 当国に

#### 芹川豪氏

順調 好況時代に於ては、 あ 間 る。 に運ぶものであるが、最近 在 時に至れば、植民地経営も、 氏は同地の会計として、 0 7 植民地の財政に当るも 其の物質的優勢により、  $\mathcal{O}$ 前後四ヶ年を経過されたもの 如く、 仲 々  $\mathcal{O}$ 困難を招来するもので、 事態の悪変と、  $\angle$ 心事、 すべての公共事業 亦痛切なるも 財界の

で、其の辛苦は正に想像の外であらう。

は昭和 熊本県菊池郡の出身にして大正十五年七 十一年九月であった。 月の渡伯であり、

## 唐澤文理氏

昭和六年五月の入伯である。 あるが、 育に対する関心深きことは前述によって十分之を裏書するもので と一年、 各般の事項に参画して居られる。 氏は未だ三十歳の少壮役員であるが、同地古老の間に伍してよ 共の天分を生か 一方青年運動に理解厚く、自ら其の指導者をもって任じ、 教師を扶けて、 学務委員として二世教育問題に携はるこ よく其の職務を全うされた人である。 長野県上伊那郡の出身にして、

# サンタ・エレーナ植民地

# 小野五三郎氏

主であ 長職 まる 知られた人である。在伯年数も己に二〇年に近く、 てゐるが、壮者を凌ぐが如き意気を有し、条理整然たる理論の持 て不正を通さないと言ふ剛直の気風があり、在植者尊信自ら集 氏は同植民地の重鎮といふばかりでなく、管内に此 に在る事、実に二ヶ年であった。 の観がある。岡山県吉備郡の出身にして、昭和九年の人植、会 ŋ, 堅実、硬直にして正邪の別を明らかにし、公私共、 齢六○を超へ  $\mathcal{O}$ 人あ りと 断

訓言 **(エ** 7 ーソン と勇気とは偉大なる仕事を造る、 此の二者は人を不巧なら

## 林田辰雄氏

当る傍ら、 常に在植者を率いて、其の植民地開發に努めて居る人である。 月の渡伯で、親分肌の事業家として、 け、亦ジヤルヂネーラ二台を経営して、在住者一 内外人斎しく、其の才腕に驚嘆してゐるものである。 は事業家としても卓抜なる手腕があり、同地に於いて農園経営に 入植であるが、学務委員として二ヶ年、二世教育の為に尽瘁 氏は熊本県飽託都奥古閑村の出身である。当地は昭和八年九 眞に重要なる存在である。 オワエンテ町にバールを開業して、 植民者の信望を集めてゐる 田伯人の賞賛を受 般の便を図る等、 昭和三年七

#### 有吉常蔵氏

者であるかゞ窺はれる。 年に及び、 植民地を挙げて、賞賛の的となってゐる。 の入植は昭和九年八月であるが、学務委員たること実に五 如何に氏が教育事業に熱心であり、 従って其の業績も多大なるものがあり、 且又此 職に適任

其 が絶大なる尊信を捧げるのも亦宜なる哉である。 植民地にとって、貴重なものであったかゞ諒解される同地在植者 ので、悪疫流行、交通不便の時代に於いて、 の薀蓄を傾け は母国に於いて、実地に医学を研究した人であ て、而も犠牲的に病者の診察治療に尽力されたも 如何に氏 り、渡伯以来、 の存在が同

岡 県京都郡 の出身にして、其の渡伯は昭和三年で あ 0

#### 笠 原 三 造 民

大事業は二世教育であ 植民地發展 の過程は、 り、其の消長は植民地に大きな影響を与へ 教育事業に 表現され

育問題に携ること四回、 任者であるかゞ想像される。 て生れる。氏は昭和九年八月の 五月、 ŧ  $\mathcal{O}$ である。 実直温厚にして、 会の興隆は役員の手腕と、 如 何に氏が 日会々長の経歴がある 佐賀県杵島郡 入植 . 力量 であるが、学務委員  $\mathcal{O}$ 在植者の熱意とに 人であ の出身で渡伯 り、 依 適 0

#### 副島辰雄氏

努力を続 計事務を担当すること二年、殆んど植民地経営の為に粉骨砕身 なる経綸とをもつて、在植者の信望一身に集まり、 会役員として、 に報ゆべく、専心会務に奔走され 氏 は 温 順に けつゝ今日に及んでゐる人で、其の円満なる人格と優秀 渡伯は昭和五年四月である。 して、 副会長の席にあること一期間、後再び選ばれて、 至誠 の人である。 つゝあるものである。 昭和九年八月 氏亦其の 佐賀県 輿望  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 日

る。 訓言 **ク** 相互扶助は自然 口 ボ トキン)  $\mathcal{O}$ 法則に て、 生物進化の 重大なる要素であ

#### 古澤近氏

欣快 が 次 即ち此 、実に話 和二年七月の入伯である。 々と姿を消すもので、実に寂しくなるが、こゝに氏を見出して、 明快潔白の 止む態はざるものがある。 しは複雑なる会務に当られたもの  $\mathcal{O}$ して見て、 型の 人といふのがある。俗に青竹を割った様な人といふ 人で、 亦交際 世  $\mathcal{O}$ 中が世智辛くなると、 して見て、 氏は昭和九年八月の入植で、 である。 気持  $\mathcal{O}$ ン 岡山県の産に 人格である。氏 こうした人が 副会

## 北條兵衛氏

千葉県 学を行ふ等、当事者の心事洵に痛切なるものがある。氏は此の 会計として在任されたもので、 校の弾圧相次ぎ、在植者の中に転耕続出し、甚だしきは子弟の退 に在る者は如何に人知れぬ辛酸を嘗めるものか、  $\mathcal{O}$ 教育事業の があるが、 の出身にして、 興亡は、其の植民地の財政の如何に負ふ所多大なる 財界不況、 昭和七年の渡伯である。 農作物 其の苦心亦察するに余りがある。 の減 収と相重っ 殊に最近日語学 た場合、 間、

#### 訓言

(フォ 奉仕を主とす ード) る事業は栄え、 利得を主とする事業は衰ふ るも

# 小 林 實 太 郎 氏

脱 点に於て、眞に其の所を得た独立独歩の人と称すべきである。 に働き甲斐のある国である。 ブラジルは自由 て独自の計画により、縦横に其の腕を揮ふべきで、 の天地であると共に、事業の方面に於ても、 かゝる国に於ては、宜しく奮穀を  $\mathcal{O}$ 

和九年八月当地に入植されたもので、 性を活 長野県西筑麻郡奈良川村の出身で、大正八年六月に渡伯し、 か 植民地の為に貢献されたものである。 学務委員として、 昭

#### ポンペイア植民地

加藤幸重氏

である。 務委員を勤続すること五ヶ年、 現在尚顧問の職にある。 されて、 行力が強く、 人である。萬事によく目の届く人で、議論も整然としてゐるし、実 十一月の渡伯、 の秀れたる才能を発揮して、常に植民地の有利を計られたもので、 氏はポ り、其の名を知られてゐる人である。昭和十年七月の入植で、 親しく植民地経営の辛酸を嘗め、 ンペイア植民地の重鎮といふ 態度に泰然たる所があり、外交方面の折衝には、 其の長男は、 鳥取県日野郡 現青年会長として青年運動に献身中 副会長たること二年、 のみでなく同駅管内に早く の出身にして、 会の興隆に貢献された 大正十四年 後会長に推 其

## 江 藤 武 司 氏

於ける体験を裏書するが如く、 世教育に対する働きは、在植者の斉しく認むる所である。 長、会長と歴任し、 植民地経営に於い る才能とをもつて、 氏は母国在住時代に村政に関与せられた尊い経験があるだけ、 開拓先駆者の 般 の信望がある。熊本県の出身で、昭和四年六月の渡伯 一員に属し日会幹部に列し ては、相当の経綸の持主である当植民地に於て 現在顧問として、其の秀れたる人格と卓抜な 植民地の為に貢献されたものであり、 雄弁に長じ、正鴻なる議論家とし ては学務委員、 殊に二 副会

# 中村 二 太 郎 氏

氏 は の優れたる天分がある。日会幹部としては、学務委員二回、会 石 7 川県石川 几帳面なる所があ 那の 出身で、 り、 昭 何事にも正確に処理される所 四年六 月  $\mathcal{O}$ 渡伯 で 温

計二回、 に当られたもので、現在尚顧問として、 して居られる。 同地の歴史に光を放つものである。 同志と共に具さに辛苦を嘗め 副会長一回を経て、 昭和八年八月の 後会長の要職につき、 人植であり、 られたもので、 会の重要なる事項に 其の学校設立に 植民地 其の業績  $\mathcal{O}$ 統制 関与 0

## 渡邊晴義氏

氏の功績は燦然として輝やき、植民者の尊信を一身に集めて居ら 賛措かざる所である。学務委員、会計、副会長、会長と歴任し、  $\mathcal{O}$ 共に、長岡外史将軍に相似た所が多かった。植民地に於ける重鎮 言ふ熱血の人であり、其の行動は恰も単刀直入的で、其の風貌と 在顧問として会の枢機に参画して居られるが、過去十ヶ年に亘る く、之を開陳し、他人の謬論に対しては眞向から之を攻撃すると 一員に位し、学校設立当時に於ける苦労は、在植者の斎しく賞 氏は正義感の旺盛な人であり、自己の所信に対し 山梨県の産、 渡伯は昭和四年六月であった。 ては、 腹臓な 現

#### 訓言

帰る。 汝が親切  $\mathcal{O}$ 挙動を以っ て人に与へ (スミス) る愉快は汝 に帰り、 屡々利子を増して

#### 富 田 市 次 氏

常植民地 は昼夜を分たず東奔西走されたもので、同地日会の設立成るや、 勤倹力行  $\mathcal{O}$ の篤農家といふ ん植は、 昭和七年九月であるが、 のは氏 の為に作られた言葉であらう。 其の学校創立に当っ

選ばれ に止 管に植民地経営の為に献身されたものである。内政的功績も一 会には一 現在尚顧問である。 め 多端な らが 二等入賞の栄誉を担った農業技術家である熊本県 昭和二年九月の渡伯である。 学務委員となり、 最近に於ては、ポンペイア区学校協議会々長も勤 る時局にあって、二世教育の為に尽力されたも 農業実地には優れたる才腕を有し、 更に推され て会長  $\mathcal{O}$ 要職に 農産品 き、 再 評

#### 和田定春氏

熊本県下益城郡の あるもので、 会長を経て、現在会長の要職にあり、 担当するとと二ヶ年、 人で、 あるが、氏は全然其の趣きを異にし、 である。 り、 氏は文字通り順良混和な人格者で、未だ曾 昭和七年八月開拓、 感情を害 此 の型の人には、 其の業績も亦、 したり為た事 出身に 学務委員たること二ヶ年、 入植以来、 動もすれば退嬰的な性 多大なるものがある。 のな 昭和三年六月の渡伯 い人で、 多端な時局に挺身され 公共事業に 日会幹部として 正し 0 て他人と争論 格が は率先 で 会計 潜 あ むも [事務を 働 権化 で

#### 高 本 一 馬 氏

たる事 直 個に経営中であり、 堅固 氏 其の業績も亦多大なるもの は其 ると言ふ。 八月であるが、其の秀でたる人物を認め 風格が の世、 ヶ年、後会長に推されて、植民地の統制に当られたも 台湾に於て、 のこつてゐる。 熊本県鹿本郡中富村の出身で、 日会に籍は 警察官を勤められたも 当 地 が あ な る。 いが  $\mathcal{O}$ 入植 現在は 何か は 開 と其の られ 拓 渡伯は 口  $\mathcal{O}$ 線に 翌年、  $\mathcal{O}$ て、学務委員 援助をされ で、 即ち昭 琲 今尚謹 園を

年七月であった。

## 岩下佳六氏

もので、 務委員並副会長として、非常時局を担当して居られるが、在植者 人であ 常に多数の支援者を持つと言ふ人がある。即ち人格の然らしめる 涙ぐましきものがあると言ふ。 感がある。 の輿望を担って居られるだけ、 四年二月の渡伯である。 殊更に自ら立働 り、 誠に頼母しき存在と言はねばならぬ。 昭和七年九月の入植で、会計たること二ヶ年、現在学 在植者の信望がある点に於て、正しく群雄を抜く くと言ふ風はなくとも、民情糾然として集まり、 其の責任も重く、 熊本県天草郡の出身にして、 氏が其の代表的な 其の努力にも亦 大正

#### 高 木 定 次 氏

れた き植民地生活の中には会の運行に関して、動もすれば物議を醸す 事の活動を扶けられたことは大きな働きと言ふべきであらう。 年六月で、 こともあ こと一ヶ年、 氏は熊本県鹿本郡中富村の出身である。当地の入植は、 と言ふ力行の人である。 日会に入っては重要なる幹部として、学務委員を務むる ったが、氏は此 同地草分の 其の熾烈なる信念をもって二世教育の為に尽し、学 一員として、早くより重きをなしてゐる人 の点に留意し、 常に健全な發達を心掛ら 昭和

## 瀧石仁六氏

会月 何  $\mathcal{O}$ 即ち、之に属する人で、土木委員といふ要務には在ったが、其 中堅とな の植民地に於ても、 9 て、其の發達を図るといふ 直接会の 枢機には関与 人が居るもの しな 1 が である。 所謂

Ł 七月の渡伯、 ので、 関 職務とし ってゐるものである。 心があり、 学校設立当時の功労と共に、 て責任を全うするといふばかりでなく、二世教育に深 誠実にして実行家である。 自ら進んで、其の設備等に人知らぬ働きをされた 大分県玖珠郡の 在植者間の美しき話 出身にして、 大正十五年 題と

## ジヤクチンガ植民地

# 大 貫 政 之 介 氏

氏の犠牲的精神には、在職者一同感激措ざるものがあ 経営中、最も困難なる学校経営事務に携はり、審さに辛酸を嘗め 茨城県西茨城郡の出身にして、 植者斎しく、其の人格を尊敬してゐる。 ても、将叉手腕力量に於いても、遙かに衆人を凌ぐものがあり、 人として幾多の功績が残ってゐる。 り、 ゝ子弟教育の伸展に貢献されたものであり、 氏は植民地「ジヤクチンガ」に於ける成功者の代表的なも 其の卓抜なる人物を認められて、会長の要職につき、 共の農業経営に於いても、 昭和七年八月の渡伯、 植民地發展に資する功労に於い 昭和十年八月、 任期間に於ける、 ったと言ふ。 温厚謹直の 現地入植 植民地 在

# 田上袈裟助氏

上 れて、 常時局下に於ける、 氏は前任共和植民地在住当時より、既に優れたる人物を賞賛さ 其の専き体験をも であ 会計、 ŋ 学務、 今叉学務委員たること二回、 副会長、 植民地の統制に当られたものである。 って、 会長を歴任された人で、植民地経営 昭和十五年七月、 後会長に推されて、 当 地に人植された 親分肌 非

ある。 に逢着 がある。鹿児島県出水郡 従容迫らざる風格の しても、断乎として之を貫徹するといふ責任感の 一世教育に対する信念に於 中に、 の出身にして、大正七年の 堅固なる思想を蔵 1 ては、 確かに群雄を圧するも Ĺ 如 渡伯である。 何なる困難 強

# 片山英太郎氏

育問 和十三年八月で、学務委員を経て、 を図られ 朝日新聞社に籍を置き、 事を運ば 氏 其の業績は衆人の認むる所である。 昭和五年八月 は温 題 に 和 れる姿は、 たもので、 対する信念亦燃るが如く、常に先頭に立 り難きものが な る 風  $\mathcal{O}$ 格の 眞に天晴れなるも 整然たる理論を有し、 渡伯、 士とい あ 業界に活躍中である。 り、其の身師範の出身であるだけ 入植は同十三年八月 ふ感じを受けるが、其の裡に 日会長の重職に就  $\mathcal{O}$ 静岡県引佐 が 周到なる用意をも ある。 で、 同 0 現在 郡 地 て、  $\mathcal{O}$ カン  $\mathcal{O}$ 入植 ブラ 出 其 たも 身 児 · 潜  $\mathcal{O}$ 開 0 發 昭 7

#### 今 本 茂 氏

業の為に萬丈の気を吐かれたものである。 務委員、 身で、昭和十二年五月、 態度は在植者間に、 逐年發展の 八年二月 氏は清廉潔白の の設立に、多忙なる家業のかたはら、尽力中であると言ふ。 副会長 の渡伯である。 一路を辿りつ の重職を歴任して、 人 · 其 の 当地入植後、 念正義 比を見な  $\angle$ あるは、氏のカに負ふ所多く、  $\mathcal{O}$ 塊り 会務の 幹部の一員として、 北海道は中川 で、 現在同地女子青年会が 公事に対する 枢機に参画し、 郡池 無我的 会計、 田町 植民学 目下婦  $\mathcal{O}$ 学

#### 草野功氏

見、 員の重職にあり、其の重任を全うされたことは洵に天晴れなも 運動を起し、そ 伯である。 る少壮事業家である。長崎県東高来郡の産に である。 の如く、正義の念熾烈を極め、真摯なる雄弁よく人を感ぜしめ、 氏はマ駅共和植民地より転じた人であり、 力量共に衆に勝れてゐるといふ、 三なれども、 副会長の重職に 性温厚にして、思慮あくまで深く、 の統制 よく古老の 0 の任に当り、 いた人である。 間に伍 後日会に入 洵に当地にとっては有力な して、 齢未だ漸やく三十を過ぐ 物に動ぜざる事磐石 現地に於いて学務委 当時率先し して、 って、 昭和五年の 各種役員を て、 青年 渡  $\mathcal{O}$ 

#### 浅 見 仲 作 氏

委員、 もとに二世教育 に臨み、 見共に衆に優れ、 氏の渡伯は昭和六年である。 一方実行力極め 合計を経て副会長の要職につき、 必す初志を貫徹するといふ人である。  $\mathcal{O}$ 整然たる理論 向上に尽力されたもの て旺盛に して、 早稲田大学の出身に の持主であり、 常に断乎たる態度をも 其の燃ゆるが如き信念 である。 現地入植後、 熱弁よく人を動か 人格識 0 学務 7 事  $\mathcal{O}$ 

ある。 埼玉県秩父郡芦ケ久保村の出身にして、昭和十年九月 大 植 で

#### 今本一氏

精神 熾 氏 るが、 は動もすれば しき性格を有する為で、其の眞意を識るも には、 旺盛さに寧ろ讃嘆するもの 万事氷解の現在に於ては実篤なる農人に還り、 氏自ら陣頭に立って、 徹者と思推される所があるが、之は氏が である。先年同地に 其の所信の為に働 のは斉しく、 ·紛擾 いたも 現在顧 其 件  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ V)

勝国 に貢献 問とし れ活躍中である。 の出身で、昭和八年二月の渡伯、 て専ら植民地の為に精励されてゐるものである。北海道十 次男及び長女氏は男女青年団 其の長男氏は産業組合創立 の各会長として、 それぞ

# 堀 田 六 三 郎 氏

ばれ、 勢力として、 を歩む高潔の士である。 中庸を得て極端なる行動を戒しめ、在植者間 氏は北海道河東郡音更村の出身であり、 入会まもなくその優秀なる人材を認められて、学務委員に選 女子青年会創立に対する功労者の一人である。 後副会長の席を連続すること三星霜、 同地に重きをなしてゐる人である。 当植民地入植は、 昭和十二年五月である 性潔白純良、常に正道 村政の上にも、 の信望厚く、 昭和八年二月の 中心的 常に

#### 訓言

誠は天の道なり、 て未だ能く 、動か 至誠に すも の有らざるな して未だ動かざるも 之有らざるなり。 盆 子 誠なら

## 西岡義幸氏

ら、 力は、 する一般父兄の関心は切実なるものに達ひないが、これを動か 植民地日本人会の事業中心が、学校経営であるだけ、 此 永く伝へられるものであらう。 叉一入に重要なものである。氏は昭和十年八月人植以来専 の方面に力を注ぎ、 尠からざる努力を払はれたもので、 学校設立に対する気運の醸成に、 其の功績は同地 実行 歴 す

に苦心中 同日会の幹部として会計の 氏は香川県綾歌郡酉分村の出身で、渡伯は昭和三年十月、 であると言ふ。 要職にあ り、 日語なきあとの子弟教育 現在

#### 西 畑 鉄 夫 氏

と言ふ。 和歌 地の重鎮と言ふばかりでなく、ポ市管内に早くより声望が高い 歴史に閲 十二年八月であるが、日会に入 して居られるが、平素の徳望により、 一年、後選ばれて会長となり、 氏 の渡伯は、 山県新宮市 し、昨今愈 大正十五年八月廿八日である。 の出身にして、現在ポ市に進出して仲買業を経営 々油の乗り切った様な観がある。 縦横に手腕を揮はれたもので、 0 ては、会計事務を担当すること 業務愈力多忙を極めてゐる 在伯十五年有余 人植は昭和 同  $\mathcal{O}$ 

# 河田子之松氏

勝国中川郡の出身で、 が、其の才腕と円満なる人物をもって、副会長たること二回、 在は会長の要職にあって、 居る姿は、洵に美しいものである。入植は昭和十二年九月である 如く、其の何人を不問、 らざる存在である。 で、各種宴席に於ける所謂 氏は社交家にして、透徹した理論家である。 かゝる性格の持主であるだけ、 渡伯は昭和九年六月である。 親身となって自ら世話役を以って任じて 会の統制に当って居られる。 「座持ち」として同植民地に欠くべか 一方遊芸方面に秀 人情流 る ゝが

## 藤 平 多 吉 氏

人の様に見へる所もあるが、所謂「話せば解る人」で、 氏 て  $\mathcal{O}$ 入植は 三期間連続、 昭和 十一年七月であ 其の任を全うされた人である。 0 たが、日会創立初代 頑固一徹な 殊に共同  $\mathcal{O}$ 副会長

事は、 物質に精神に、全く教育事業の礎石となって、 事業に対する熱心さは、衆人の比に非ず、其の学校創立に当っ 今尚在植者の美しき語草とな ってゐる。 奔走貢献せられた

に於ける世話役として有名である。 出 山県小田郡の 出身にして、 渡伯は昭和二年六月、 同植民地 内

#### 吉 村 知 雄 民

るが 民地の為に子弟教育の為に貢献せられたものである岡山県児島郡 更に進んで学務委員の要職につき、純良質実な性格をも 年八月であった。 在植者間の一異彩となってゐる。第四次改選に会計を務め、 田村の出身で、 氏は非常に緻密な頭の持主である。 せにせず、よく微に入り細を穿って研究し、行動される所は、 渡伯は大正十三年十二月、 如何に些細なる事 目昇入植は、 つって、 でも、

## 西村惣治氏

ける 者の 第五次改選には会長として、 員の重任を帯び、常時日語間題漸やく困難化せんとする時、在植 に入植するや、其の教育熱心と秀れたる人材を認められて学務委 氏は秋 中心となって、二世教育を擁護されたものである 副会長としてて刻苦精励せられつゝあるものである。 昭和 田県北秋田郡大館町の出身である。海外雄飛の理想に 八年八月、 敢然として渡伯 統制 の任に当り、 翌九年九月、 現在は非常時に於 当植民 超へて、

#### 訓言

徳は金字塔よりも永存す、 挨壌及は亡ぶるも徳の 記念碑は決 て滅 びず。

#### (ヤング)

# 西畑寅三郎氏

入植は、 ば、 なるも として若冠ながら、よく非常時局に対処して居られる姿は天晴れ れた事は、 氏 第五次選拳に南氏と共に、会計事務に携はり、 の渡伯は大正 実兄鉄夫氏と共に相携 のである。 昭和十 在植者衆知 一年八月であった。 和歌山県東牟婁郡神官町 一十五年八月である。性堅実温厚、 の事実である。 へて植民地「目昇」 日会方面  $\mathcal{O}$ 出身にして、 に於いて、 の為に貢献 一片の無駄も 現在は副会長 観ずれ 同 せら

#### 南 五 市 氏

格と共に、 員として、昭和十年六月の大植以来、陰に陽に日会發展の為に、尽 て、渡伯は昭 てが若人の集れのやうな観があるが、氏も亦同地に於ける少壮役 当植民地は青年植民地と言はれる如く、 翌年再び選ばれて、 勤められたものである。 在植者の信用が厚い。高知県安芸郡安田 川年 七月であ 其の職を留任する等、 0 た。 即ち第四次改選に会計の要職に 在植者 温厚実直なる人  $\mathcal{O}$ 町 殆 の出身に W ٢,

#### 訓言

小人は己あるを知 がみず、 近きは身を亡ぼ · つ 人ある事を知らす。 連きは家を亡ぼす。 己 に利あ れば人を害ふこと (熊繹蕃山)

## 希望植民地

## 塚田勝衛氏

熱心なる役員をもつ植民地 にせよ、 民族発展の幹根となるものだけに、 は幸福 である。 例 その影響は大きい。 それ が 日伯 何

はり、 物の卓抜なるを認められ、 發の為に努力を続けて居られる。熊本県天草郡の出身といふ変り 会長の重職を歴任し昭和十二年八月、「希望」入植と共に、その 氏は前任サン して昭和二年十二月の入伯である。 その職にあること三年、 タ・イーリヤ植民地に於いて、学務委員、 最も適材適所たる、 現在は日会長として益々植民地開 学校関係事務に携 会計、

## 河野又八氏

ある。 出身。 流 引続き日本人会長を務め、 当希望植民地に転任するや、逸早くその人物を認められ三ヶ年間 専ら植民地發展の馬に尽力して居られる。 なる人格をもって、前任各地に於いて在住者の信望を博 ヨゼ植民地に於いて、会長、顧問の要職に就き、昭和十二年八月、 氏 の渡伯は大正二年三月といふから、在伯己に廿八年の星霜が てゐる。氏は農村人の代表者見たような人で、 伯国に於ける歴史が長いだけ、 現下の教育的非常時に際し滅私奉公、 その農業経営にも落着きが 日本は熊本県宇土郡 その温厚篤実 しサンジ

## 前花忠雄氏

翌年幹部として、 学業資本を貯へて現地に入植、 同七年よ して、其の声名は早くより謳ほれてゐたものである。十一年七月、 氏は廣島県比婆郡西城町の出身である。 民地に於ては欠くべ の尊き体験により、 り五 信念も確然たるも ケ年間、V駅ボアソルテ校に教鞭をとった人であ 副会長の要職に からざる存在として、在植者の尊信が厚 二世教育の為に貢献されたもの のがあ 天晴れ地主様として重きをな つき、 ったが管内に於ける模範教師と 次年より学務委員として 昭和四年九月渡伯、

# 櫻 本 熊 次 郎 氏

究と努力を惜しまず。其の円満なる人格と終始一貫の赤誠とをも 昭和四年七月の入伯、 ょ 心両方面に、幾多の貴い犠牲あり、 しくも亦力強き姿と言ばねばならぬ。廣島県比婆郡 り、  $\mathcal{O}$ 学務要員としての貴き経歴あり、 当植民地尊敬の的とな 顧問 植民 として、 地には教育に対する熱心家が多い。 各般 在植既に五年である。 の枢機に参与し、 ってゐる。 常に子弟教育事業の 長男孝夫氏亦尊父の意を 一家を挙げての奉公は美 その創立に 氏は学校  $\mathcal{O}$ 出身に . 当 創立 0 7 は 研

## 利行嘉一氏

入植 在に及んでゐる。その昔身を軍籍に置いただけ、 る意気に燃えて、 困難なる事件に突入し、 氏 て居られる。 は と共に、 その謹厳実直なる人格をも 口県熊毛郡伊保座村の出身にして、昭和五年五 初代日本人会々長として、各般の事務を処理 性来奉仕精神に富み、 ブラジ よく之を完成するといふ人である。 ル に渡 り、 って、 昭和十二年八月、 常に何事にも率先 在住者一般の信望を集 氏の赤誠は 希望植民 月鬱勃 て自ら 現

#### 家 永 毅 氏

東小学校 子弟教育 民地に於 , は福 ζì に対する信念は抜くべからざるものがある。 に教師とし 岡県浮羽郡の産、 学務委員を経て、 て、伯国教育の実際を経験 大正十五年五月の渡伯に 副会長の要職に就き、 て居られ 現在希望植 非常時局

に於ける植民地経営に縦横の腕を揮つて居られる。

植 流石に教育に対する理解と尊い経験をもつだけ、子弟教育並に 地發展の為 めには、 欠くべからざる存在である。

## 平 畑 徳 松 氏

和三年十二月の渡伯、入植は十二年八月である。 植者全般の の実兄銀太郎氏 はどれ程 び経済的 地 植民地 の為に努力を続けて居られる。熊本県天草郡 の辛苦を味ふものかわからない。氏は現在日本へ帰国中 不況に逢着したとき、その予算編成に月例集金に当事 の会計事務はまことに煩雑なるものである。それが一度 信望に報ゆべく、その堅実なる特性を生かしつゝ、 の後を承けて、昭和十五年会計 の重任に就き、 産にして、 在

## 田中實次民

力をつずく輯けて居られる姿は誠に貴いものと言ふべきである。 後は専ら意を植民地の開發に注ぎ、役員を挟け会員を督励し、 南国鹿児島県の産にして、薩摩男子の意気を有し、 住者の中に隠然たる勢力をもち、精心誠意、 渡伯、 氏は昭和十一年七月の入植である。翌年平素の人物と実直正確 性格を認められ、 人植後巳に六年を閲してゐる。 煩雑なる植民地会計事務に携はり、 民族發展 昭和四年三月 の為に、

### 小出新三氏

に危険 一九三八年二月頃より、外国語学校の取締は頓に厳重を極 であ 視する一方にて、当事者は斉しく苦杯を嘗め続けたも り、 が 経営者側とし 気の早い連中や、 ては、 児童をもたぬ植民者 其の 都度合法的  $\mathcal{O}$ 処置を採 中 0

り、 して、 其の辛酸 氏は此 大正十  $\mathcal{O}$ の程度も思ひ半に過ぐるものがある。 間にあ 五 年 の渡伯、 0 て、 副会長を二期を務められたも 入植は昭 和十二年であ 佐賀県 0 た。  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ であ

# 田端紋十郎氏

渡伯 役員の職にあり、 路委員に選ばれ、 在は幹部 がせられ 氏は長崎県南松浦郡福江 であ 其の円満なる人格をも でとして、 る。 0 7 現地入植は昭和十二年八月で、 今日に及んでゐるものである。 二世教育の為に貢献されたと言ふ。 会計事務を担当し、只管に植民地開發の為に精 翌年叉之を留任し、 一町の 9 て、 出身に 前任サン 十四年に衛生員を勤め して、大正十五年十二月の 日会入会と同時に道 氏は情極 ヨゼ 8 て温良 現

## 美和植民地

上村幸生氏

あるが られ 世教育の為に貢献せられつゝあるもので、昭和十二年八月の入植 地に於ては、 たといふ経歴があり、 は趣味として、 し、叉稀に見を能筆の人である。 氏は福岡県浮羽郡吉井町の 日本は早稲 るが、 前任ビスタ・ア 求められて揮毫されたの 日会長として三期を過し 田 書画を愛好するが、  $\mathcal{O}$ 出身と聞 其の卓抜なる人格を知るべきであろう。 出身であるぐ昭和四年三月の渡伯 耕地 作品は氏の住宅内に掲げて居 氏自身に於ても、 に於て、 も夥しき数に上ると言ふ。 現在亦其の 七ヶ年日会長を勤め 職にあ 日本画をよ 0

## 福島辰次氏

の植民 地に ても、 数多き役員の 中 に は、 徒らに議論  $\mathcal{O}$ 4

言実行 害あ 業績亦賞賛に値するものが 許す人であり、 正七年十月の渡伯である。 日を築き上げた立志伝中の人で、会長を連続すること四期、 九年六月、 に専念して、 0 て一利なきものである。 の人として、 僅かに二家族をもって入植し、 其の反面実行力の 汲めども尽きぬ 在植者の信望を博してゐるも ?多い 氏は温厚篤実をも 温 0 薄弱な人を見受けるが、 福岡県浮羽郡 情豊かな人で、 数々 の辛酸を経て、 の出身に 同地稀に見る不 って、自他共に  $\mathcal{O}$ である。 之実に 其の 昭和 今 百

## 吉永武士氏

だけ、、 農業経営方面の造詣には、深甚なるものがある。 共事業、 九月であるが、 事にも熱誠なる中心人物として、重きをなしてゐる人である。 である。 奔西走し、 した人である。性極めて淡白情純、常に明朗なる風格をもって、 氏 は大正七年十月の渡伯である。在伯既二一 ブラジルに関する事に於ては、悉くそ 殊に教育学業の為に、 熊本県国名郡弥富村 学務委員兼会計として四ヶ年、 当地に於け る開拓の先駆者として、  $\mathcal{O}$ 其の努力を惜しまれなかったも 出身にして、 孜々として会務を力行 同地に於 の深奥を極 有五年余を閲 入植は昭和十 日会創立に東 ては、 め、 公 车 何

# 松尾喜三次氏

草と 誠謹 心植 人である。 氏 民 直 , は 慥 に就かれる事三回、現在尚副会長として、二世教育の為に、活 地経営の為に、 もつて事に当り、必す成功せずんば不止と言ふ終始一貫 てゐる。 か軍隊の 前任モー 当地 出身である。其の言語動作 口 • 奔走されたもの の入植は昭和十年八月であるが レドンドに於て、区長、 であるが、 いかにも軍律的で至 評議員を勤め 今尚在植者 副会長の  $\mathcal{O}$ 

動を続けられ 鹿児島県の産、 つ1あるもので、 昭和二年七月の 渡伯 其の業績も亦一 である。 再に止まらな

# 仮 谷 春 太 郎 氏

ある。 十四年 在植者の嘱目を受け、常に理論と実際との調和を図り、共の運用 期すことは、むづかしい。氏は此の点透徹した理論の持主として、 成行に委せるといふ、微温的行動では将来に於ける民族の発展を に誤なきを期してゐる人である。 のであるが、今次の如き非常時局に於ては、 泰平の時代に於ては、 の渡伯、 現地入植と共に、 何事もうまく進捗し、 副会長を二期間連族 岡山県吉備郡の産に 安閑として、 聊 か の懸念もな して、 其の

### 古関逸馬氏

を研究する所あり、其の尊き体験をもって、昭和十年九月、 務委員会会計として、前後三ヶ年を、二世教育の為に献身された に入植し、 氏 熊本県鹿本郡中富村の出身にして、入植者の中でも古株に 公私共誠実の人として尊敬を受けて居られる。 で、現在尚之を続けて会の枢機に参画して居られるもの の渡伯は、 温順実直なる性格をもつて、 大正十年三月である。 各地を遊歴して具さに農業 在植者の信頼を受け、 現地 であ 学

#### カンガンギ植民地

## 沖山鶴二氏

れた存在である 氏は温厚篤実 将叉在植者の信望が の篤農家とし 昭和九年八月開拓入植と共に副会長に選ばれ、 :極め て同植民地に於け て厚い点に於い る成功者の て、 早くより知ら

地の とな 京 府 審さに業の苦心を体験され、 年十二月の渡伯であり、 一 路 開 の社交家として、 下八丈島末吉村の出身といふ変り種で、 り、その円満なる人格と重厚なる政策とによ 發と子弟教育の為に、 在植者の尊敬を集めて居られる。 現在会長として、 尽力せられたものである。 第五次改選には衆望を負ふて、 其の統制に当って居ら 人情細やかに、 って、 大正十五 よく植民 日本は東 誠実 会長

# 竹澤利三郎氏

禄が具はつてゐる。近々トツパン方面に進出し、 も聖賢の相をあらはし、流石に管内稀に見る大人格者としての貫 酸を嘗めつ、二世教育の為に、 て、会長の重職につき、 地は昭和九年八月の入植であり、第六次日会改選には衆望を負ふ て、早くより、在植者の尊信を一身に集めて居られる人である。 みられると言ふ。渡伯は昭和四年十一月であ 氏は栃木県上野賀郡南馬村の出身である。関東人の気魄を有し、 厚篤実、ポンペイア管内に於ける堅実なる立志伝 非常時局下の教育問題に携って審さに辛 挺身された方である。 0 た。 中  $\mathcal{O}$ 風彩如何に 飛躍を試

#### 大城清豊氏

第一次 者と称られ、篤農家としての誉が高い。 存在と言ふも過言でない。 助金申請等よく職責を全うし、 氏は沖縄県国頭郡今帰仁村の出身である。親分肌 堂々たる体格を有 日会長として、植民地の為に尽す所が多か 再び学務委員として困難なる時局に際会し、 公共事業に対する熱意は 性謹直温厚、早くよりポ駅管内の成功 多大の功績を胎して居られる。 昭和九年八月、 ったが、 同腕 の様な所が 入植以来、 公認手続 の模範的 第五次

ふ所が多いと言ふ。 今日同植民地が有力なる植民地となり得たのも、 に民のカに負

大正七年七月の渡伯である。

訓言 (カント 若 正義に て滅 び  $\lambda$ に は 人は此の世界に 住む要なか らん。

### 嘉 陽 完 善 氏

ある。 理しつゝ、植民地の発展を図って居られるものである沖縄県国頭 務を単津すること一ヶ年、 搬業をも兼営中である。 部の出身にして、大正十三年三月の渡伯、  $\mathcal{O}$ 特質を生かし、 氏は齢未だ若冠なるにも拘らず、よく古老の間に介在 昭和十二年五月の入植であるが、 植民地経営の為に、献身之努めて居られる人で 現在副会長として、多端なる皆無を処 間もなく選ばれて会計事 目下農園経営の し て、

## 嶺井政遒氏

者を並べ 当地は沖縄 てゐることは、 県人士の集合地であるが、それが揃 誠に慶祝に堪へざる所であ ひも揃 0

者の信用も極めて厚い。 身されたもの 出身であ に際しても直ちに賛意を表され、應分の後援を賜った事より見 氏は昭和九年九月の入植、第四次日会改選に、 如上の事実を証明するに充分である。 天性的な教育熱心を発揮して、公私共、二世教育の為に り、 であり、 渡伯は大正十五年十二月、 其の功績も亦多大である。 性温厚直実に 沖縄県国頭郡羽地村 今回教育史發刊 副会長の重 職

# 親川徳太郎氏

徳化 植民 其 り動 氏 涙 は カン 地向上の為に、 は当今稀に見る高徳円満の 人格を敬愛されて副会長の重職につき、 の話である。 青年諸君の胸に生き、敬慕の情は、 し、時に應じて、 私心を離れて貢献せられたも 其の農事を応援するといふ聞くだに美は 人である。昭和九年九月、入植後、 純眞なる青年の心を揺 何事にも率先して、  $\mathcal{O}$ である。 其の

六十を越えんとし、 沖縄県国頭郡羽地相 専心植民地 の出身にして、 の教化に当って居られ 渡伯は大正七年十月、 る。 齢既

#### 嘉 陽 宗. 猛 氏

刻苦精 及ぼす影響を慮り、 員として、 事業に対する関心深く、今次の法令に際会するや、 正十四年十二月の渡伯である。 は燦として、 伯同胞とし 縄県人士は一般に団結心強く、 励 二世教育に対する努力は、 て洵に心強いものがある。氏も亦同地に於ける学務委 今尚今後に於ける対策に 植民史の上に輝 例へそれが水泡に帰 てゐる。 公共事業に精励 一再に止まらず、 腐心し 国頭郡 したに 0  $\mathcal{O}$  $\angle$ ても、 出身に あることは、 民放の将来に 其の功績 最後まで 殊に教育 7 在

#### 古堅宗貞氏

尚 之を想ふだけに於ても、 所もなく、 対 氏 日語なきあとの画策に献身して居られると言ふ沖縄県国頭郡 は が 日語教育といふ事に深 思ひ悩んで居ると言ふ。 其 茫然として之を放棄してゐる父兄もあると聞く中に、 人格と信念とを認め 其の教育熱心 7 関心をもち、 教育の嵐に脅 られ が窺はれる。 て、 学務委員の要職 日夜其の子弟 へて殆んど為す 氏 以は入植 の将来 日も 9

の出身で、大正六年千二月の渡伯である。

# 小 波 津 清 寛 氏

頭郡羽 の要職につき、青年役員として尽力されたもの 同地の入植は、 る。即ち準二世としてブラジルに対する体験には尊いものがある。 べき存在であるが、氏は末だ漸やく齢三十を過ぐる二、三歳であ 氏は明治四十五年二月の渡伯とあるから、在伯既に三十年を超 在伯同胞中に於いては所謂マカコ・ヴエーリョ 地相の出身で、 昭和八年八月で、 温厚篤実な人である。 第七次改選に於いて、 である。 の筆頭たる 沖縄県国 学務委員

#### 訓言

社会は殆んど成立する能はず。 人々たゞ自己 の事のみを図り、 その思想自己 (ギゾウ)  $\mathcal{O}$ 外に及びざる時は、 其  $\mathcal{O}$ 

#### アリリー植民地

#### 岡 山 弘氏

るが、 映も、 氏を訪問した人の感懐である。現地入植は、 渡伯は、 格に接する時、 に近い農園を、其の兄弟と共に経営中である大阪府中河内郡 に当って居られる。農業経営方面にも抜群の才腕があり、二百域 て順良、特に明朗性に富み、青空の下、 氏は真実なる意味に於ける、 此の程度に深奥を極めると、寧ろ神々しいものであるとは、 第三次改選には、早くも会長の重任を帯び植民地統制の任 昭和四年十一月、 人々は得も言はれぬ快感に浸ると言ふ。 最近は青年運動にも尽力中である。 熱誠至純なる人 春風漂ふといふ、 昭和十二年七月であ であ る。 人格 温厚に 其の の反 風

## 岸本惠豊氏

為に、子弟教育の為に活躍して居る姿は天晴れなるもの 本人会長の重職につき、 年三月の渡伯、 氏は所謂 性潔白順良、 農国 貢献を惜しまない。私人として植民地内に商店を経営する の経営にも当って居る。 T リ手と言ふ型の人である。 何事にも卒先して働き、公共事業の為に、 入植は同十一年一月であ よく其の特長を生かして、 沖縄県国頭郡 った。 歳漸やく三十に  $\mathcal{O}$ 出身で、 植民地開 であ 昭和四 る。 日

#### 沓 脱 吉 作 氏

の中を往来しただけに、確固不動の態度が具ってゐる。 氏は当植民地の初代会長である。 日露戦争に出征

にしてゐると言ふ。 年運動に対しても理解があり、若人達を引立てゝ行くのを楽しみ で、何事にも率先して当るが、威張らない所に氏の人格がある。 見る独善的な所が微塵もない。会長としては洵に頼母しき存在 相当の理論家であるが、 福岡県粕谷郡 社交的には秀れた逸材で、 人 大正四年一月の渡伯であ 此の型に

#### 新里善幸氏

受ける人があ なる信念が もこゝまで来れば美はしいもの 利己的 事 に没 は や売名的 頭 な ること二回、 るが、其れは概ね永続しない。 してゐるが、 い証左である。氏は現植民地に入植以来、 な目的によって、よく自ら進んで人の 公務的にも、 常に在植者 である。 個 の尊信を受け 人的にも、 沖縄県国頭郡の出身で、 即ち其の動機に崇高 親身となって てゐる。 副会長の

昭和 四年五月 の渡伯、 入 植 は同十二年十月である。

新城盛輝氏

児 童 渡伯は大正十四年八月である。 は在植者の斉しく賞賛する所である。沖縄県国頭郡の出身にして、 ふ。現在亦学務委員の席にあるが、 大なるを思ひ、態々時間を割いて学校を訪問し、学校内の設備や、 十月であ 氏は非常に教育熱心の の学習状態に注意を払ひ、其の訓育に遺憾なからしめたと言 0 たが、選ばれて初代学務委員となるや、 人である。 前后二回に亘る任期間の 同 植民 地 入植は、 常に職責 昭和十二年

# 松吉喜三郎氏

先して事にあたり、 利 にも常に関心をもつ かす、仕事には極めて勤勉、それでゐて、 氏は農村人として、 農業経営にも万全の注意を払 て精励するといふ人である。 典型的な性格を有し てゐる。 公共事業の為に ひ、 子弟 ち無駄 0 は率 教育

縄県島尻 人物を認 当植地入植は、 郡 められて、学務委員の重職に 出身で、 昭和十四年八月であ 渡伯は 昭 和二年 0 0 たが、 月である。 いたと言ふ人である。 入植まもな く其の

#### 教育訓言

人種 誠を以て世界を闊歩する が異っ ても言葉が異ちが  $\mathcal{O}$ が っても、 日本国 互に了解 の道である。 するも  $\mathcal{O}$ は 誠であ 伊藤博文) る。

ジャンガーダ植民地

隈 井 政 光 氏

に心を配ると共に、 氏 は 叡智  $\mathcal{O}$ である。 一方教師 教育  $\mathcal{O}$ に よき理解者であ 対する信念が り、 烈 数多役員を督

れる。 史に輝やく不滅の光を放つであらう。同地は昭和四年八 励 制に当られたもので、植民地経営上、幾多の業績をのこし には衆望を負ふて であるが、 教育学業の發展に貢献 第三次改選には早くも、 会長となり、 せられたことは、 第八次に再び出馬 学務委員となり、 永く同 第六次 て、 月 地 て居ら 日会統  $\mathcal{O}$ )選拳 植民

人格者とし 口県下関市 て、 在植者 の出身にして、 の信望が 淳 昭和元年十二月の 11 渡伯、 温堅実直

#### 林数人氏

無駄 氏 が は篤農家であり、 なく、ガツチリとした質実の 教養もあ り、 人である 理論も正確 を極 め 何

人物 が卓抜なる人格と手腕の所有者であるかゞ想像される。 存するの 和を招来したものであり、 入植は昭和十年九月であ 和十年九月入植以来、会長を勤むること前後四 の存在によって、 である。 山口県熊毛郡の出身に 植民地「ジンガーダ」が、 人格の社会に及ぼす影響は、 0 た。 渡伯は昭 今日の 回 こう 即ち茲に 伸展と調 和二年四 如 何 た 氏

#### 福山茂吉氏

であ 硬骨の士で、個人間の紛擾など一度氏の 人で、奔放剛直一度び計画したことば死んでも成 ŋ てゐると言ふ。熊本県玉名郡荒屋町の出身で、 同氏は現日会長の要職に在る人である。非常に自信力 然も其の後に一片の疑義ものこさぬといふ、 る。 情 趣味とし 廉潔白なる蘭科植物を愛好し、 て園芸に没入してゐるが、 出馬を見れば立 然も豊富なる種類を 流石に 鮮 大正九年五 し遂げ か 所 的 る 停 旺 に 月 所 振 S  $\mathcal{O}$ が 決 V)

入伯、 当植民地 の人とな 0 たのは、 昭和九年六月であ

## 上里朝撰氏

性温良順和、在植者の信望も厚いが、教師に対する理解があ を負ふて、副会長の席につき、入植以来、殆んど休養の暇もな 学務委員 優秀なる人物と秀れたる才腕を認められて、第二 植民地事業の為に二世教育の為に貢献せられてゐるも 公私共に厚遇をうけつゝあったといふ。 の渡伯は大正六年である。 の要職につき、第四次、第六次並に第八次選拳には衆望 昭和 八年八月の 当地 一次改選に早くも 入植  $\mathcal{O}$ である。 ŋ, 其 常  $\mathcal{O}$ 

沖縄県  $\mathcal{O}$ 出身にして在伯巳に二十五年を算ゆ

#### 稲 生 藤 八 氏

七月、 を処理し、第五次並に第八次改選には、学務委員として子弟教育 の為に、持前の性格を發揮して、 て奔走される所は、 である。 氏は末だ若冠であるが、 葡語に通じ、 昭和九年八月入植後、 愛知県知多郡半 在植者間の 時局的に必要な人材である。 田市 熱心に教育事業に携は 第三次改選には、  $\mathcal{O}$ 一異彩として、 民族發展の為に貢献せられたも 出身にして、 常に重きをなして 渡伯 副会長として会務 り、 は 寝食を忘れ

### 長嶺信一氏

業経営にも秀いで、殊に教育に熱心な事は衆し に副会長の の体験を待て、当植民地の人となったもので、在伯年数も永く、 氏 てゐられる。 は順良温 日会方面 重職につき、 和な人格者である。 沖縄県島尻郡の産で、大正六年十二月の渡伯と言  $\mathcal{O}$ 公職に於いては、 現在は学務委員として、 昭和六年八月、 第二次、 八の斎しく認むる所 第五次及 非常時局を扣 各地に於て諸 び第七次

ふから、 既に二十五 年の星霜を経た人である。

ブジュー植民地

山城良吉氏

ある。 ジュー」に於ける重鎮として、在植者の信望を得て居られる人で 面倒を見られることは洵に頼母しき限りである。 氏は同地沖縄県 性豪放磊落、 人間 太っ腹の親分として、 の有力者といふばかりでなく、 公私共によく植民地の 植民 地 「ブ

闘されたものである。沖縄県国頭郡今帰仁村の出身であ たること一年、後衆望を負ふて会長に当選し、二世教育の為に 同地の入植は、昭和十一年八月であったが、選ばれて学務委員

# 喜屋 武 甚 徳 氏

三次改選には衆望を負ふ会長に当選し、二世教育の為に尽力する 所が多か 九年八月現地に入植し、日会創立と共に副会長の重職につき、 て、堂々と自己の所信を披露し、 の渡伯であり、 氏は植民地内に於けるインテリに属する。整然たる理論 て、事一 った。沖縄県国頭郡今帰仁相の出身に 度び二世教育の上に及べば確固不動 温厚の人として信用が厚い。 聞く人をして感ざしむる して昭和三年一月 の信念をも  $\mathcal{O}$ 把持 昭和 0

#### 大城清正氏

間役員 であるが、 正しく苦難 り、奥地 日語教育に対する弾圧と、財界の不況とによ  $\mathcal{O}$ 席にあ 日本人植民地の経営には、 日会参加間もなく副会長に当選し、 の道を辿っ 0 たも たもの のは、二世の将来と法令 である。 相当の困難が伴ったが 氏は昭和十四年七月の入植 の板挟みになって、 其の天来的熱心な 0 て、三八年後期

る教育意識によ 県国頭郡今帰仁村の出身に って、 最後まで活動を続けられたも て、昭和五年六月の渡伯である。  $\mathcal{O}$ であ る。

# 上間清次郎氏

改選には副会長の要職につき、現在は会長として、 任に就きつ を有し、植民地内の交友も厚く、 部今帰仁村の産、渡伯は大正十四年二月である。 人のみならず、 氏 同植民地の入植は、 は温厚順良なる信念の人である。農人とし ゝ、目下の非常時局を担当して居られる 一般在住者の中に有能至誠 昭和九年八月であ 共の円満なる人格をもって同県 9 の人として、尊信 たが、 ても、 第三次、 日会統制 典型的 沖縄県 日会 重 厚

#### 宮 里 勇 吉 氏

なるも 貢献を遺憾なくし、殊に教育事業に対する犠牲的な精神に 卓越したものがあり、公共事業には率先して、 氏は最も農村人として相應しき性格をもつ、温 在伯己に十五年の尊き体験を有するだけ、 のがある。 精神物質両方面 其の農業経営には 厚篤実の は崇高  $\mathcal{O}$ 

大正十五年である。 に尽卒する所が多か 昭和十 一年七月、 現地入植後選ばれ 0 た。 沖縄県国頭郡久志村の出身で、 副会長とな ŋ 渡伯は 会  $\mathcal{O}$ 

## 中村善助氏

とな 中 和十三年七月、 氏は植民地の長老と称するに、最も相應 Ď, 最年長者で、温厚な性格の持主で、代表的な好々爺である。 第四次日会改選には輿望を負ふて、学務委員の重職に 各地を巡歴して、 農道を極めた後、 しい人である。 当植民地 在植者

動されたものである。 き、最もよき適任者とし 二世教育の為に老体をい とひなく、 活

己に二十五年である。 沖縄県国頭郡今帰仁村  $\mathcal{O}$ 出身に 大正六年六 月  $\mathcal{O}$ 渡 伯、 在

パイケレ植民地

堤勝次氏

ある。 ある。 次より現在にかけて、 議だをれになるより、 て、常に円満を標榜し、 八月であるが、第四次改選に学務委員、 べきだと主張 氏は人望家であ 佐賀県杵島郡棉下 し、実行する人であ ŋ 会長の職にあり、 円満主義 お互に譲り合って植民地發展 只管に二世教育の為に精励されたも 村の出身であり、  $\mathcal{O}$ る。 人である。 当地の 会計 其の崇高なる仁徳をも 昭和四年八月 即ち議論も の重職 入植は、 に  $\mathcal{O}$ 昭和十一年 為に、 つき、 渡伯  $\searrow$ 尽す 第五 が で 0

#### 増 田 権 吉 氏

る。 め に研究して居られる。滂堂翁のタイプに似た所あり、植民地 インテリ的存在として、 氏は 第五次には会計として、会の財政事務を担当されたも 理論も整然妥当を得てゐるが、 祖 国日本に於いて、政治的方面に一時 重きをなし、 植民政策に関することも 第二次、 関係され 第三次に会長 たも  $\mathcal{O}$ 内  $\mathcal{O}$ 

する功績は 当植民地 昭和二年九月の渡伯である。  $\mathcal{O}$ 入植は、 再に 止 ま 昭 5 和 な 十年九月であるが 静岡県志太郡島 公共事業 田 町  $\mathcal{O}$ 出身に  $\mathcal{O}$ 対

## 三上数美氏

信望は 農業経営に対する造詣深く、 あるが、第二次改選には、 次年には学務委員として、 れたもの 氏は大正二年 け 動かすべからざるものがある。当地は昭和十一年の入植 伯国百般 である。廣島県双三郡の出身である。 十月の渡伯である。三十年を常伯国に過  $\mathcal{O}$ 事に対して、 副会長の要職につき、 植民事業、 政治的才腕と相俟 生字引 殊に二世教育の為に尽力せ 0 様 な観 翌年会長に進み、 9 て、 が 在植者間 あ る。 して居ら  $\mathcal{O}$ 

#### シモヱ耕地

の随 てゐるも 一たるば のである。 倞 かりでなく、其の 太 郎 駅名は早くより、 氏はパ 延長線に於ける、 全伯に喧伝され 大実業家

は、 蓮宗帰依者として、 て帰朝されたもので、 に伴ひ、子弟教育 て居られるかゞ肯かれる。 冷静に 幾多の佳話、 て果断、 感話が胎されてゐるが、 の念止む能はす、 温 修練された不動の 順に 如何に氏が、 して寡黙、 此の一事に重大なものを感じ 其子女並に甥姪多数を引具 確固堅実なる性格 人生観がある。 最近日本語学校 氏に就 を有 の悪化 日

於ける表面的活躍を好まざる風があったが、在伯当時に文教会評 て居ら 現在新体制下に進む、 廣島県芦品郡 団体に関係して寧日なしといふ近況である。元来氏は社会に は 昭和二年であった。後事は二人の舎弟によって経営され れるが、非凡なる人材はこゝでも、その 一世教育には相当の貢献を惜まれなか の出身にして、 祖国に 在 渡伯は大正三年二月、 って、 親しく躍進日本の姿に接 出馬を促され、 ったも 其  $\mathcal{O}$ であ 地

#### イピランガ植民地

## 長嶺正恵氏

る。 味は 崎県の出身にして、昭和三年一月の渡伯、 も亦然 さまは、正に戦場に於ける将軍を彷彿 に対して、縦横の腕を揮はれた姿は実に雄々しきものが 酸を嘗められたもので、在植者の絶対的信頼を受けて居られ 合専務理事の重職に在る。 面に豊なる人情味あり、公私共に自ら進んで、 氏 生来熱血正義の人で、 は当植民 つた人であるが、植民地経営には、自ら会長とし の事と言はねばならぬ。 地開拓 の先駆である。草分けとしての苦労も相 其の所信に向つ 性豪放磊落にして、 せしめ、 現在ポンペイア て、 其の面倒を見られ 日語教育 堂々と行動され 進取果断 て数々 あ  $\mathcal{O}$ 困 0 難化 た宮 の反 る

#### アミザーデ植民地

#### 斎藤周平氏

である。 育問題の渦中に投じて、縦横の腕を揮ひ、 格をもって、日会長の要職につき、 安きに置 氏は当植民地最大の 昭和十二年八月の入植 いた偉大なる功績がある。 功労者であり、 で其の卓抜な手腕と、崇高なる人 折柄困難化せんとする二世教 同時に最も優れたる 同植民地をして泰

国に 士的態度を失はず、氏に接する総ての 高等農林の出身で、温和に 入られたもの 宮崎県南那 で、現在ポ市産業組合の理事長として活躍中で 珂 郡 て、  $\mathcal{O}$ 聖地に生れ、 上品なる風格が 人が、其の 昭 和三年 人格的好感に あ り、 一月、 常

ヴィラカンパンテ町

鞍留潔氏

の運用 務を統制し、 て、 するものである。兵庫県城崎郡の出身にして、大正十二年の渡伯、 となり、 転じ、折柄創業時代の植民会々計として、多年財政を担当し、 現在は呉服商を開業中である。 所にも尚氏の非凡なる人格が表現され、永年の体験により. 氏は眞に緻密に まことに熾烈なもので、 温良な人である。 をして、円滑ならしめた逸材である。 絶大なる功績を胎して居られる。 新事業計画と共に「登嶺」に進出されたも 第二上塚植民地より、 細微なる頭脳を有 氏を知る人の総てが其の赤誠を賞賛 氏の教育に対する熱心 後副会長となって、 モ 性格も亦堅実に 口  $\mathcal{O}$ 会計

訓言 心安静な がば即 ち 神明栄え、 則ち計謀成る。 (鬼谷子)

#### ソパン町

須 賀 音 次 郎 氏

發事件 要職 其 会統 氏は当地 に遑が 中に 制 出 に就き、 に対する働きは に粉骨砕身の努力を捧げてゐる人である。和歌山県西牟 脈の の大重鎮である。性堅実豪毅、所謂ガツチリ型の人で、 ない入市 爾来数ヶ年、 て、 温情あ 大正 は昭和七年であるが日会創立と共に、 十五年 ŋ 衆人の斎しく認むる所である。 其の重任を継続 公共事業、  $\mathcal{O}$ 渡伯、 殊に二世教育方面の功績は 先般同地学校に於け しつゝ、 現在に及び日 会長

# 大岡甚松氏

後は 全うされたもの 副会長となり、 功労者である。 氏は須賀氏 尠なき時代に在 昼夜 の別なく、 と共に同地に於ける開拓先駆者の 永年の尊き体験を基礎として、 である。 昭和十四年日会改選には、 つて、 東奔西走して専ら、 多種多様なる辛苦を重ね、 日会の興隆を図られた 衆望を負ふて、会長兼 日会統制 \_\_\_ 人で、未だ邦 日会設立 の重任を 以

和歌 山県西牟婁郡の産に 大正十五年七 月  $\mathcal{O}$ 入 伯 で あ

### 本 松 健 造 氏

ある 学務委員の重職につき、現在亦煩雑なる会計学務を担当する等、 心 日会並に教育事業に対する功績には多大なるものがある。福岡県 .羽郡 であ 氏 は性温 当市入りは、  $\mathcal{O}$ バールを経営し、 出身にして、 同時に、着々として手際よく事務を処理して行く人で 良順和 の人で、 昭和十一年であ 昭和三年の 物事に理解力が強く、 頗る盛業中である。 渡伯、 ったが、 目下 日会に入ると同 同市目抜の 仕事に対

## 右 田 辰 彦 氏

明る 面に造詣あ あるものである。<br />
熊本県菊池部の出身にして、 氏は大正二年の 再 く、青年時代より、 び学務委員の重職にあり、 て居るもの り、それが、 である。 渡伯である。 伯人の 今日尚 副会長、 中に修養された事に依り、 同地日会役員として、異常 在伯年数が 孜々として日会の為に献身され 学務委員、 古 1 外交部長等を経 ただけ 入市は昭和十一 ょ 伯語方 なる効 · 国情 7

年十二月であった。

松本延一氏

たも 長学務委員等を歴任し、多端なる日会事業並に二世教育問題に 身的努力を惜しまれなかったもの である。性温順和眞に謹直なる風格を有し日会に入 氏は島根県 カラを経営しつゝあるが、同地に於ける重要なる存在である。  $\mathcal{O}$ で昭和二年翻然とし 八東郡の出身で。永らく東京三越洋服部に勤務され て大悟する所あ である。 り勇躍渡伯されたも 現在市 の隣接地にシ 0 ては、副会

### 岡 崎 司 三氏

を業と 多数の 県呉市 民情に精通し、 の名物男となった俊秀である。現在トツパン市にあり、 代理事長となり、 に転じて、パウリスタ土地会社の総代理人となり、 氏 は 人も 友人知己を有し、衆望を負ふて、パウリスタ青年聯盟 の出身である。 同市 知る豪胆無双の の開發に絶大なる貢献をされたものである。 永らく聖市に在って、 古今無類、 傑物 勇猛果断の性格をもって である。 修練する所あ 大正二年  $\mathcal{O}$ ŋ, 渡伯 内外人 躍延長線 後 土地周旋 7 間 廣島 国情 初

親和植民地

林 覚一氏

害を 民地 氏 は当地 打  $\mathcal{O}$ ったが、 がある。 開 親といふ存在である。学校創立当時は、  $\mathcal{O}$ 創立以来、会長として現在まで連続 日語部廃止と共に、 常に率先して、 今日を築き上げ たも 教育事業を盛 日会解散の意見もある中に、氏  $\mathcal{O}$ であ り、 んに 僅かに 其 した人 功 九家族 績は絶大な であ らゆる障 り植 過

策も秘かに考究中と言ふ。 は 三月 断乎として、  $\mathcal{O}$ 滞伯、 開拓大植は同 其の謬見を押 Щ + <u>~</u> 口県佐波郡の <del>--</del> 年七月であ 一方青年運動に対する将来 出身に 0 た。 昭和 の対

## 中村孝逸氏

を有 於 氏は副会長として、其の重職にあり、具さに植民地経営の辛苦体 験されたものである。 制に当るものは、斉しく此の点に於て辛酸を嘗めるものである。 日の渡伯、入植は昭和十四年であった。 小数植民地なるものは、結果の上に大植民地の及ばざる堅実性 て、尠からざる重荷を背負ふもの つ長所はあるが、 事業の悉くが、 尚 山県後月郡の 物質を伴ふ負担経費の上に 出身に であり、 して、 役員として其の統 昭和二年九月

### 山本石夫氏

望あつく、 昭和五年七月の渡伯、 分を全うされたものである。 日会幹部として、副会長を務め、 氏は謹厳直実、眞にガツチリとした人である。年未だ若冠乍ら、 其の功績も亦多大なるものがある。 入植は同十二年八月にし 岡山県浅口 古老の間に伍 郡鴨方町 て、 して、 の出身にして、 在植者間 よく其の本 の信

# パ延長線教育会の 設立と機関誌の発刊

建設 呼称 7 が始め か 5 IJ T 7 IJ られた。然し連絡もなく統制もなかった。 リアと改称された昭和七、 鉄道が開通し、 電燈が が灯りア 八年頃から邦人小学校 ル <u>}</u> フ 工 ザ  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

俸給は最高二百針最低五十針、と言ふ時代であった。 教師 の大部分は、半農半教師といふ有様で植民地は規模少さく、

モー ゴ リリアを中心として十二校即ちマリリア日伯、 口 レドンド、 ブラック、カビオン、 カスカツタ、ジヤトバ、福双、ニツポニ カーロス、 · 共和、 共栄。 第 昭和、 コ

サン ルサ、 ヴ 口 エラ・クルースを中心として十一校即ちヴエラ・クル ガルサ中央セツテケーダ ツケ、 セツテケーダ、バンデランテ、 大和、 フロリダ、 ボアソルテ。 サンタアン ス 、ガ

昭和 パウリスタ延長線教師聯盟が創立されて、初代役員に左の諸氏が 市日伯小学校々長大山登氏の骨折りで開催され、これを機として、 奉げられた。 必要にせまられて受験講習会が、 以上でパ延長線と称しても、ポンペイア地方は一校もなかった。 八年十月に伯国に於ける邦人教師も其の資格 マ市日会長岡本専太郎氏並にマ (伯専)取得の

理事長 登

副理事長 大貫 恒

会計 小林 勝喜

に於い 同年は講習会受験 て役員改選の 結果、 の外、 左の諸氏が当選す。 何等のこともなく、 翌 月十  $\mathcal{O}$ 

理事長 大山 登

副理事長 林 勝喜

書記 会計 水田 松松 美好 隼人

第一支部長 岡崎 親

第二支部長 加藤

忠三

第三支部長 佐藤

季刊誌「芽生」 の發行 の計画なるも遂に成らず、 三月の臨時総会

必要あ 員全部と所属校の教材教具費の下附があった。 の結果、 りとのことで、 教員手当の件に就 大山、 1 佐藤、 て、 聖市日本人学校父兄会に陳情 大竹、三代表上聖の結果、 会

情問題より同方面の会員は三月末一同脱退し、 見るを得べ のパウリスタ延長線教育会成立の基礎は 此頃よ ス教育会を設立した。こゝに於いて同聯盟は解散せLも、 り大山氏とヴエラクル 決して無意味のものではなか ース方面の会員との 同 聯盟 0 た。 に根ざしてゐたと 新 間 しくヴエラ に種 Þ ク

#### 会員氏

大山 登 マリ IJ 日 伯

森本 源 福双

水田 隼 プラ

当麻 三龍 同上

加藤 忠三 第 一昭和

高森 春雪 Y

古関 竹衛 口 ス

小松 美好 共和日伯

鈴木 孝 共栄日伯

シゲ

大田 ガビオン

平 慶三郎 サン タ IJ Y

中 孝 ガルサ

岡

崎

親

干

口

ド

ド

 $\nabla$ ヴ

エラクル

ス方面

浅見 鉄之助 ガ ルサ 中 央

小 藪 大和

福 田 清 ツ テ

佐藤 清 サ 口 ンタアンナ ダ

前花 忠雄 ボアソルテ

大浦 光次 バンデイランテ富 田 勇 ヴ エラク ス 大貫

恒 パウリスタ



が誕生し、 あ つゝあり、 った。 て十二、三の日語学校を数ゆる状態となり、会といふ組織はな 其の後マリリア地方に於ては「緑園」を中心とする一小教員会 絶 ヴエラクル へず連絡を緊密にし、 一方ポンペイア方面の開發と同時に、僅かに二三年に ース地方は、 相互に提携を計ってゐ 其の後益々其の内容を充実 たも

機として、再び教員会の複活が提唱され、 発足を見るに至り、常時教員夏期講習会の会期中であ 延長線教育会の再生を見るに至ったものである。 日会にも、 に及んで諸般の事項卒然として革り、予而紛擾を続 超へて昭和十一年十月、マリリア日伯に五十嵐氏 之を機会として新鮮の気配り、 茲に新装をこらし 諸事相携 て新ら ったのを好 あ 聘を見る た しき 7 市



# 「以下会記録参照の事」

機関的使命を全うする事になった。 く事になり、庶務、研究の二部は徐ろに其の行動を開始する事と 会の 会計は当面の事情により、 目的を達成する為に、庶務、 り其事務を開始し、 誌名を、 直ちに其の事務に入り、 「教育春秋」と定めて其の 研究会計、 編輯  $\mathcal{O}$ 四部門を置 編輯部叉 逮動



其の 期満 報機関となり、叉之を通じて在伯児童教育の実態を窺ふ一部的参 念の使命を果し、外部的には延長線に於ける、二世教育状態の 其の後学業的にも人的にも、 録ともなり、 運動を促進し、 了出聖後はヴエ校の寺門氏之に代り、面目を一新して、 相互の連絡、 望外の賞賛を受けたものであった。 「教育春秋」亦号を遂ふて内容を充実し、 職務上の諸研究、 幾多の変還を繰返し、 意見の交換等によ 五十嵐氏任 って、 更に 内部 公 本



容を窺ふ材料とした。刊行会として改めて諸賢の前に謝意を表す る次第である。 に当り、其の主要記事、主要記録は茲に再録して教育会の運動内 「教育春秋」は第四号までにて一時休刊となったが、本教育史編纂



期よ である。 思出をの つと、 延長線教育会は爾来年を重ぬるに従ひ、 り状勢の急変により、 教育事業の為に稗益する所多大であったが、 て、輝やか (完) しき其の幕を閉ぢたかの形となったも 数々の記録、 燦然なる業績、 其の内容を革新 一九三九年中 纏綿たる  $\mathcal{D}$ 

# ハ延長線教育令機関誌

# 『教育春秋』 抜粋

### 發 刊 之 辞

惰 実践構築にゆかりはるけき統制は結果に於て、 永遠に廻って渾沌の淵を彷徨ふ。恣意的な濁存は相克を醸 単純なる劃

成し、 を迫ひ、方針から方針と流れて、さて何が残る… 必然、 希望なき夕暮をたゆたふものに畢る。 立案から立案

らない。 吾等が、日本人小学校に職場を有する純粋の意義を正識せねばな 無思慮反組国的追従、先づ之等を放逐し去って、日本人教師たる こそ今日の進軍を開始する義務と権利がある非社会性、非愛土的 のだ。されば「現に教育しつゝあるもの」の強き立場に於て、 魂の教育、実践の教育、そこに吾等は輝く殿堂の建設を夢みる

文化の軍鼓はアルトの杜に高鳴る。

パ延長線教育会は今日の進軍に膺って、具体実践の事実と して、次の諸問題を解決提唱せむとするも

 $\mathcal{O}$ 

明治教育イデオロギーの 根本的改造。

教科課程の単純化、及学 年編制の統一

在伯教職者の社会相等並 に身分保証の樹立。

教育対象の拡大 (青年指 導 の具体化) 五十嵐重虎

延長線教育会々 則

本会ハ会員相互ノ親睦ヲ図リ教育教授上ノ 本会ヲパ延長線教青会ト称ス 第二條 目 研究ヲナシ、 的

第三條 員

ノ教養ノ向上ニ資スルヲ以ツテ目的トス

本会ノ会員ヲ左 ノ二種二分ツ 正会員 7 リリ ポンペ

ヲ中心トス ル邦人教師

賛助会員 本会ノ趣旨二賛シ、 之ヲ援助スル 般有志

第四條 員

本会ニ左ノ役員ヲ置キ正会員中ヨリ互選ス

会長 一名、副会長一名 幹事 若干名

第五條 事業部門

本会二左 ノ部門ヲ設ケ、 部長一名部員若干名ヲ置ク

庶 務 部

ニ、ハ、ロ、 研 編 会 計 部

輯 部

究 部

第六條 事 業

本会ハ第二條ノ日的ヲ達スル為左ノ事業ヲ行フ

イ、教育教授上ノ理論的実 践的研究

ロ、時事問題ノ教育的研究 ハ、正会員ノ身分擁護

二、会誌發行

ホ、其他本会ノ目的ヲ達成

スルニ適当ナル事業

第七條 総会例会会費

本会総会ハ年一回トシ、毎年 一月中二之ヲ行フ、例会ハ 年六

回トシ会費ハ月額二針 (注・ミルレースのこと) ノコト

第八條 事務所

本会事務所ヲマリリア日伯 小学校内に置ク

役員職務分掌

会 長 本会ヲ統轄シ之ヲ代表ス

副会長 会長ヲ補佐シ会長事故アル場合ハ其ノ事務ヲ代行ス

幹事 本会運用上ノ重要ナル協議二参与ス

各部門 事業範囲

庶務部 A、会員入退会ノ取扱ヒ

В 事業計画

突発事項ニ対スル処置

会計部 Ą 金銭出納事務

Я 集会通知及通信事務

編輯部 Ą 会誌發行

В 記録事務

Ć 児童作品ノ回覧

研究部 Ą 教育教授上ノ理論的実践的研究

В 時事問題ノ教育的研究

幹部役員

会長 五十嵐 重虎

副会長 幹 事 大竹 加藤 忠三 丈二

小松 美好

司

岡崎 親

同

同

阿部 太

山本 善造

同

各部門係員

庶務部 部長 加藤 忠三

部員

江口

重親

安田 知晴

山口 石川 峰生 宇一郎

部長 永島 近藤 春雄 優

橋本 俊次

会計部

研究部

阿部

部員

部長員

石井

ミドリ

部長 部員

編輯部

浅見 横井 原 嘉壽彦 四郎

大槻 平野 橋本 徳夫 重喜 五郎 元保 親

八十島 中尾 古澤 岡崎 典穂 義雄 豊

渡邊

退助

井上

知行

山崎

正魁

長谷川 島田 太郎

速水

生徒数 昭 創三 立

教員

五十嵐 芳田 橋本 島袋 多賀 石井 俊次 ミドリ 善作 節子 澄子 重虎

マリリア部会小学校一覧

校 マリリア日伯校 

名

同

同 同 同

パウリスタ第三	東洋校	明倫舎	同	公栄校	共愛校	バンデイランテス	同	興農園	同	アンデス	第二メスキッタ	中央メスキッタ	モーロ・レドンド	リベイロン・アレ	フォルモーザ	第二ポンボ	校名	同。	共和日伯交	司	同	同	同	昭英塾
四二	$\frac{}{}$	六		九〇	$\equiv$	四三		一六六		一〇八	$\equiv$	六〇	六〇	レグレ四〇	四五	<u>                                     </u>	生徒数		五七					<u> </u>
昭七	昭十	昭九		昭十一	昭九	昭九		昭五		昭五	昭九	昭十一	昭五	昭十一	昭十	昭九	創立	-	昭七					昭七
吉岡 ユリ子	川地 速水	古沢 典穂	山本 文子	山本 善造	井上 知行	八十島	中西ツル	中西 角次郎	西廣 一人	阿部太	久富 松治	安田 知晴	岡崎親	山崎 正魁	原元保	橋本 重喜	教員	,—	)/.			三浦 ムツ	橋本 藤雄	三浦

ガ福 ャビ オ校 ・ ・ ン 瑞穂校 高砂校 バルボーザ セレージャ アルヴァ 口 一生一生一徒 四三二二五二五七○四○五 昭昭昭昭 昭五 昭十 昭七 昭五 大槻 佐藤 横井 渡邊 佐藤 江口 長谷川 利一 宮崎 次郎 五郎 嘉壽彦 退助 重親 ヨシ子

第二昭和 第一昭和 ヴィラ日本 同 同 エアード 三四四七五〇 昭昭昭十十九 昭三 昭九 近藤 浅見 平野 飯田 平野 永島 眞次郎 徳夫 春男 ツネ 忠三 四郎

校名

創立

教員

ポンペイア、ヴエラクルー 両部会小学校一覧表 ス

サン・ジョゼー

昭十

島田

校名 ポンペイア町中央 サンタ・エレーナ 同ポンペイア植民地 同 生徒数  $\overline{\phantom{a}}$ 八二 七五 昭 昭九 九 昭九 創立 原 河口 野 大竹 教員 文 哲朗 京子 カツ

ボ 有明 校名 日昇 メスキ ヴ 朝日 ジャンガーダ ジヤクチンガ パウリスタ分校 ガルサ中央 大 アミザーデ サンセバスチオン バンデランテ グワリツタ パウリスタ本校 フローリダ サンターナ カンガンギ 和 ア 同 エラ・クルー 同 レンテウニカ 同 同 ール・ナセンテ ソル テ ス 生徒数 七二二二四三六四 七〇 七四四 五五 五〇 四〇  $\equiv$ 二四五六 五五 昭 昭九十 昭十 昭十二 昭十 昭昭昭昭十十十七六 昭六 昭 昭十十 昭十 昭十 昭五 昭七 昭三 昭十 昭七 創立 熊井 松野尾 堀 文江 林田 阿 部 清家 欠員 小沢 宮井 山 口 藤村 山中 大浦 大貫 山本 浅野 国友 寺門 富田田 岡村 同 鈴木 富田 同 同 教員 秀子 芳雄 清 正夫 春 光子 次 正人 芳雄 恒 俊輔 雄 守貞 亀彦 宜哲 徳右衛門 くめ子 久 親 宇一 泰行

ヴェラ・クルース部会報

第四号の一部

### 児童聯合運動会

時よりヴェラクルース町蹴球場にて挙行。小春日和 に寄せ来る観衆四千、先づ中平部会長の開会 ヴエラクルー ス部会事業児 童聯合道動会は六月十四日午前八 Oのどけさ

伯両国歌 の辞に次 の合唱後いよいよ開会となった。 で、寺門審判長の訓辞、 ガルサ規学の挨拶、 終っ って 日

フイルムに収めた。 当日は、聖市より千田写真館を招き、本会を永く記念するため、

その為か実に進行なめらかに盛会裡に四時全部を終了した

### 参加校名

ローリダ。 ソルテ。フレンテウニカ。ガリア。ソールナセンテ。 ヴエラクルース 終了後村井旅館にて代表教師全部の慰労大会があった。 大和。有明シケイラカンポ。 ・バンヂランテ。 ガルサ中央。 サンターナパ メ スキ ウリスタ。ポ ツタ。

ヴエラクルース部会

#### 映画教育

教育講習会を開 /エラク ス部会では七月十日十 日両日、 当国最初 映画

教育普及会映画班員松林昇次郎氏を招き、十六ミル映画写真機  $\mathcal{O}$ 

如し。 講習を受けた。而 取扱方、及び理論について、各教師は一人々々実習に移り、夜は、 れぞれ受持の研究に着手実行に入った。実施校名及び各部門攻の カミニヨンを動かし、發電装置実習も行ひ午後十一時頃迄熱心に して十五日より各教師は研究部門を設けて、そ

十五日 メスキッタ校

十七日 パウリスタ第二校

十八日 パウリスタ第一校

十九日 ガルサ中央校

二十日 サンターナ校

廿一日 有明校

廿二日 大和校

廿四日 ボアソルテ校

廿九日 フレンテウニカ校

卅一日 シケイラカンポス校

研究部員

解 説 大浦、藪谷、寺門、

阿部

技 術 国友、大貫、丸岡、

鈴木、相田

楽 小沢、山村、小山、

堀

音

どの植民地でも大よろこびであった。 ちなみに撮影した聯合運動会フイル ムは、 非常によく出来て、

プログラム

一、童話寺門先生

一、漫画「お日枝とかへる」

一巻

純愛に生く 四巻

匹 運動合実況 一巻

五 兄 三巻

(以上)

パ延長線教育会

臨時総会 (昭和十二年九月二十五日

於ヴェラクルース小学校)

▼ 議

五十嵐会長転任に依る後 任会長選拳

加藤、阿部(部長)

大浦、河野 (幹事)

の補欠選拳

≯決

議

日本病院及国防献金の件

会 パ延長線教育会役員 長 寺門 芳雄 (新)

副会長 大竹 文 (再)

同 橋本 俊次 (新)

幹事 (マリリア区)

山本 善造(再)

小松 美好(同)

中西角次郎 (同)

同

(ヴエフクルース区)

大貫 恒 (新)

(ポンペイア区)

同

富田田 勇 (新)

庶務部長 橋本 俊次 (新)

副部長 江口 重親(再)

研究部長 古沢 典穂(新)

副部長 大貫 恒(再)

編輯部長 岡崎親(再)

副部長 八十島 豊(同)

会計部長 橋本 俊次(同)

副部長熊井 徳右衛門(同)

副部長 鈴木 義雄(同)

に一任) 附記 庶務及び編輯部に対し手当支給のこと(但 金額は会長

二、日本病院に対する寄附金

教師壱名宛四拾ミル (二回払)

国防献金

教師壱名宛弐拾ミル(二回払)

「教育春秋」 第二号

巻 頭 言

先例を杷憂する。 等は愛する同胞が、 新大陸に秋訪れ て、 乱舞より施緩へ、施緩より悲劇への道を辿る 棉に珈琲に収穫の歓喜!歓び やよし矣。 我

にも、 のために、挺身せねばならない。教へ子達の不幸を防止するため 於是、植民地の教師は教壇なる象牙の塔より出でゝ、 家庭を擁護しなければならぬ。 社会教化

がけの仕事を遮る何ものもない。 日本軍の強力さは剣の 断行の事態に対して腹を切るの覚悟を有する為である。 力ではない。彼等が常に信念に向 って 命

同志たらんことを切願するものである。 我等は本当の教育のために 自ら燃ゆる時、 始めて他も燃え上るのだ。 「正しきに挺身する」 (五十嵐)

教師不足の現状を見て

#### 待遇の問題

### 五十嵐 重 虎

教師を得られざるが為に、荏苒子供を放任して置かねばならぬ 性を有するものである。学校も建て、経費予算も整って居り乍ら、 情は、教師自体に関する要求や、希望を超へた正しく困惑の絶対 言ふことは、実に悲惨と言ふも言足りぬ。それが一、二植民地の べき荊棘の道にすべり込んでゐるのである。 州に亘っては相当多数に上るであらうし、最も困る事は、 ことでなく、我々の聞知するのみでも既に数校を超へて居り、 しむべき傾向が逐年甚だしくなって行くであらうと言ふ事である。 つしか理論も実践も遙かに及ばぬ一切の作用停車といふ恐怖す 在伯邦人子弟の教育は方法に躓づき、方針に流れてゐる間に、 子弟教育の根本問題と言っててよい教師諭、就中教員不足の実

土を排すことが教師たるより意義深いかも知れぬ。然 るといふ消極的方面も顧みねばならない。移民の本来から言ふも オウロ であろう。 この憂慮すべき現実問題をいつまでも、放置してをかれやうか。 のではなかろうか教職は神聖であり、天職であ 我々は何よりも先づ、此の傾向の原因を究明しなけれげならぬ プラン 邦人コロニアの發展に件ふ学校の増加も考へられる。 因をなすものは待遇より招来する生活の不安に存する コ の波に乗って、従来教師たりしものが教職を捨て 何よりも

言葉 ある。 ると如何に絶叫 か過ぎな  $\mathcal{O}$ 教育が 71 0 人間形成の恒なる基礎である事も一般に正識され しやうとも生活に不安を萠す限 教育の重大性は誰よりも子の親が認めてゐやう。 り響を有たぬ声に

教師 教師生活 日も不問にし得ぬことは十二分に承知の事であるしかも何故に 況して一度教壇に立ちし者に於ては、 としての生活を永続し、叉は教師たらんとせぬ の不安定をぬ いて何があろう。 在伯子弟教育 か:

ば、昇給 ない。加之植民地紛擾による思 無であり教師としての前途には向上、或は開拓の何ものをも存じ て憂愁多きものは他に観る事が出来ない。卑近な言葉で言ふなら 我々の知る限りに於て凡そブラジルの日本人教師程、 の次序が全く望まれず、 十年廿年勤めて身分の 保証 混 沌 には皆

に充てねばならぬような、教師生活を何人かよく耐 ならぬ。一人の児に中等教育を施そうとすれば、 に在伯邦人教師である。 仕事と為し得やう。世界中で一番苦労多く ひ設けぬ負担の加重があり、伯国官憲の各様 して酬少なき教師は の制肘を甘受せね 俸給 へ得て生涯 全部を之

る生活 る教 教員不足と言ふ最低限度の問題を除去し、旁々艮教師を得る方法 務があると思ふ。 子弟教育を語る者、或は其の管掌の任にあるものは何よりも も有するのであるが、植民者の負担を増すことは、 之等に関する事実は殆んど箪三者の詳らかにせぬ 鍵は、今日二世の上にのみ存する事に思ひ到るならば尠く 師生活の上に絶大なる関心を持ち、之が打開に努力すべき義 の為に方途を講すべきであろう 明日と言はす即刻、 殊に移民事業を完成し、 教師の待遇即ち或程度 勿論私は此の為 結実せ 所である 充分顧慮せ め、  $\mathcal{O}$ 安定を得 の具体案

ぽならぬし、他の方法をもって相当程度の打開は決して不可能で はないと思ふものである。

実現の暁は近づく。 声としてゞなく、全植民者の真摯な待望として、 然し待望する所に求めるものは生れる。単に教師とし (完) 醸成されてこそ ての 私  $\mathcal{O}$ 

パ延長線教育会役員

(二 月 改 正)

会 長 五十嵐 重虎

副会長 大竹 文二

同 寺門 芳雄

マリリア部会幹事

同 小松 美好

ヴェラクルース部会幹事

大浦 光次

ポンペイア部会幹事

河野 哲朗

庶務部長 加藤 忠三

同副部長 江口 重親

同副部長 大貫 恒研究部長 阿部 太

編輯部長 岡崎 親

同副部長 八十島 豊

同 同 古沢 典穂

会計部長 橋本 俊次

凹副部長 熊井 徳右衛門

山本 善造

同 同 鈴木 義雄

◇会則改正 (部分的)

第三條 本会ノ会員ヲ左ノ二種ニ分ツ

イ、 マリリア、ポンペイアヲ中心トスル邦人教師 (改定)

マリリア、ポンペイア、ヴェラクルー -スを中心トスル邦人

教師

第四條 役員

本会ニ左ノ役員ヲ置キ正会員中ヨリ互選ス

会長一名、 副会長一名幹事若干名

(改正)

会長一名、 副会長二名幹事五名、各部長一名 副部長一 名

(但シ編輯、会計部ハ二名)

第五條 事業部門

本会ニ左ノ部門ヲ設ケ部長一名副部長一名ヲ置ク(但シ編

輯、会計部ハ各二名宛)

第九條 (増項) 役員会

役員会ハ会長、副会長、幹事及ビ各部門正副部長ヲモツテ

組織ス。開催ハ随時ニ必要事項 協議運用ヲナス。

マリリア、 ポンペイア、 ヴェラクルース三部会

有資格者

伯專教師名

 $\bigvee$ マリリア之部

◎五十嵐重虎◎横井嘉壽彦◎岡崎 親◎山本善造 島田太郎 八小

松美好 加藤忠三 安田 知晴 中尾 義雄 中西 角次郎

十島 豊 渡邊 退助

▽ヴェラクルース之部

◎大貫 恒◎大浦 光次 鈴木 義雄 山中 孝雄

▽ポンペイア之部

◎大竹 文二◎河野 哲朗

原口 京子 山口 宇一 富田 勇

◎印ハ正式公認小学校教師

バウエンキヤウ

#### 泰 演 鏡

春秋子

精進であって、学習と実習に依らなければ、此の道は拓けない 期間の葡語講習会など実際上の問題には少し遠すぎる。 て日用会話語を修得するのでないのと同じ謂である。要は不断の のよい程度のものである。これは小学校新入学生が入学して始め れない。むしろそれは葡語の実力ある者が講習会に出れば、 葡語講習会によって、葡語 (特に会話) の実力がつくとは思は 都合

 $\langle \rangle$ 

ばならぬ。 て、教育教授上の指導理念を明示することは当然のことでなけれ 々から考へてゐた事であるが、教普会本部が各小学校に対し

非公式、或は部会別にしてでもこれを徹底しなければならぬと思 だが、それを公式にやるには都合の悪い向がないとも限らぬから、 ことに対して急務を感する。 かに相通づるものがある。 教育専問家に乏しい、植民地であるだけ尚更かゝる根本的の 祖国に於ける国体明徴問題と、 تح ت

 $\Diamond$ 

身的に奮闘しつゝある教師の為に、何等かの根本的対策なかるべ からずと想ふ。 眞に教育を聖業とし、教育教授上に絶大なる興味を持ち粉骨砕

とすれば教育の主体ともいふべき、良教師の養成と良教師 悪化しつゝある現時に於いてさへ、尚且日本民放の名のために 本教育語 日を迫ふて学校数は増加するに反し、日を追ふて邦語教育問 の必要を高調しつ ゝあることが、在伯邦人の総意であ の存続 題は 日

図ることは、極めて緊急なる事でなければならぬ

施さうとするにはあまりにも教師に対する期待が過重ではなか 安に堪へざる現状に於いて、萬全なる教育を にあり、自己子弟の教育はもとより、己の将来を観じてうたゝ不 甚しきに於いては、その人格を無視され、常に経済的劣弱 5

なく己の職務に勇往邁進せしむべく封策を図るべきであると思ふ。 吾等は茲に格本的国家百年の計を樹立し、教師をして一 顧の憂

7

### マリリア部会報

マリリア区学校協議会

総会議事録抜粋

席者、 会マリリア区学 日時 教普会バウル 十二年八月廿九日一、 務委員、野村秀吉民、沖 支部、 主事、 場所 五十嵐重虎 7 リサ7 周一 日 伯校、 郎氏、(外三 氏教普 出

十名、 経営代表者学務委員教師

野村学務委員就任挨拶、改組並に諸事項に関し先般バウル 支

部に於て、開催された

る件につき發表説明あり。

#### 要項

支部 学務委員、学校協議会、 普及会々貞  $\nabla$ 育英生

▽3、巡回図書 △4、身体検査 ▽5、恩給法 (伯国)  $\bigcirc$  6

教師等級(正准、代用

一、五十嵐主事就任挨拶並に 前記諸事項に関 し補足説明 引綬

き質疑應答

二、決議

イ、名称。マリリア区学校 協議会

口、 昭和十三年度分協議会費 は児童一人当壱ミル貳百

レース(一月定期総会の 際納入のこと)

会議召集通知は十日前 發送のこと

一、役員選挙役員推薦方教師側に一任あり、 教師全員協議の

表満場承認役員承諾。

会 長 豊富發揚氏

副食長
次山量三氏

評議員(経営者)横江国重氏

大槻忠吉氏

中垣内富蔵氏

同

同

松本順一氏

(教員側) 山本善蔵氏同上田新蔵氏

同

同

山本善蔵氏同 岡崎

親氏

古沢典穂氏同

门

同

江口重親氏同 橋本俊次氏同

小松美好氏

笠原峯生氏

「教育春秋」第三号

巻 頭

言

希望を与へる。 人生はあまりにも深過ぎるが故に、人生に生きることは吾々に

憂欝さを感じさせる。 人生はあまりにも深過ぎるが故に、 人生に生きることは吾々

教師の現在、黎明の微光とそよ風のその与感すら得られない。 たとへ人生が黎明の微光と、そよ風 れわれ教師の現在、それにも不拘はら 行くやうなものであつても、常に希望を失はずに英雄主義的にす べてを打開して行く人に尊敬を持つ。憂欝そのものゝやうな吾々 の予感を求 8) て生きて

人生に希望を持ち正しに向つて邁進する同志に対し 吾々は大なる尊敬を払ふべきである。 (寺門)

家庭的教育基礎への考察

T ルヴア 口校 江 重親

て、これまでも、 伯国に於け る邦語教育が、 屡々報道されてゐるに拘らず、 各専門教育家から色々と取沙汰され 実銭的訓練方針

を施すべく、 が具体化しない 過ぎ、教育頻発の憂ひをも等閑に附 大きな声にて教育助長を叫びながら、 のは、要するに子弟を持 してゐるからであ つ保護者が充分なる教育 教育を軽視 らふ

訓練 意を陶冶せんと図るものであるに不拘らず、 をして躬行実践指導し、 校任せの放任主義教育に陥ってはゐないか。 がせにすることは出来得ざるは勿論であり、家庭内に於ける子弟 るの これには半住居の根ざしと経済問題が、重大なる影響を斎 であらうが、然し乍ら、 は教育上、 最も重要なる作用をなすものである。 其の品性を陶冶して実行を導き、 児童教育は 一日として、 保護者は余りに、 之をゆる 直に情 子弟

重要性 る。 住者 なっ 訓練も亦家庭が最も良き場所であらぬぽならぬ 教育の根源をなすと同時に、社会境自然界が人間を導く要素であ なる所の根拠をなすものである。 がある。子弟の訓育が生活上の最も必然的の体験基礎をなす場合 訓練方針も亦軌道を逸してゐるか に於ては、その嬰児期、 って、学校に行はる 教育が組織化され、分業化されてから家庭を離去し の家庭の生活現状に於ては、其の認め得るところ僅少にして、 てゐる。第二世教育上に於ても、尚然りであるべきに伯国在 日本道徳の は変りな 一大特質が、 いのである。 ゝ時代となっても、 幼児期少年期に於ける家庭的教育が重大 家庭主義、家族尊重にある如く子弟 いな一層重要性が帯びられ 此期に於ける家庭生活が中心、 の感があるではな 家庭の 教育上に於け 教育が分業に 0 ゝあ る様に

は の範囲内で行はれるものは、極めて少部分に過ぎない 実際 上有害でさへある。学校内の訓練は智識的に知らしめて其の 訓練は大部分が、 方 芝生と に亘 って、 7 躾を強ひて行はせて見たところで、 家庭内で行はれるものであ  $\mathcal{O}$ 価値 か見出さな ばか って、 りか、 のである。 却 0 7

実際は家庭に於い てならなくては ならな

が当然の務めではなからうか。 も保護者も、 く見出される。此の困難のせめは一つに保護者に於て解除する事 一見容易の 教育効果の実は学校と家庭との協力が必要である事は、 誰れもが知りつくしてゐる事柄には相違な 業に似て、実践的訓練は極めて困難が伴ふ場合が多

尽くしたとは云ひ難い。 づく の 如き実践的訓練を無視 した方針では、子弟教育に最善を

そうして将来へて胸像を捕 なして行くことが妥当な態度であると信ずる。 本民族の有するところの歴史に立脚し、 教育が生きた具体的事実である限り、 へて、これに到着す 我 現在の環境を凝視して 々教師も保護者も、 現在を行 H

共に、 活 らしめる家庭的環境に乏しく充分に発揮されないのは遺憾である。 るに伯国に於ける植民地の趨勢より覗き見る時総ての学校は内外 子弟をして人間としての練り上げに尽力すべきではないか の困難を感ぜし て上げるかではなくてはならぬ。誰しもが希願ふところは共同生 の真義を味ひ 保護者も教師も子弟教育に対する第一の主眼点は如何にし 形式的に整備されたとしても、 めざる様にと、我が子を養護する事であらう。 他日、更に複雑なる実際生活に入るに際 其の裏面には情味を豊かな 何等

ぶところの愛情を示し 伯国に於ては、 かとも考へられる。子に対する愛情たるや、 である。 であるべきに、 親が子に対する養護の程度が、 ない 親は常に如何なる苦痛をも、 の結果が直接学校教育に 余りに薄過ぎる 極め 耐え忍

格全体の綜合的 親は子弟訓練指導の 陶冶を目指す枝に、 実地 定実現に は智能 家庭生活に於ても、 的 傾 向 を排撃 苦痛を

忍んで貰ふことが緊要なる事である。

家庭生活 ひいては社会的 家庭的に教育価値を実現するに必須なる事は、好模範善良なる この確設 に価値づけることである。 は勿論申するまでもなく、 統 の車幅を増進

が家庭内面にある国民道徳を顯現し具体化する事である。 これを監督補導せねば、存在昌楽は図り難し換言すれば、 に務めると共に、他両特性に適應せざる有害なるものは適当に、 親は家庭的特性に順応したるところの長所を増長せしめること

効果的 養ひ、 先づ以って慣習道徳を純化して、合理的な道徳体系を家内に具備 弟に知らしめざる様細心の注意を要することである 学校社会の基準を常に凝視して、家庭を顧みて生活上の変動を子 せねばならぬと共に、子弟の心理並に教育に対する科学的智識を ませるにあ 庭的破滅 べく鼓舞する事も一方策である。 事が必要であり、且つ之と平行して、自己革新の熱情に燃えさす て保護者は 訓練教育の要素である、愛情が多い少いに依っては、 子弟自身の不変的可変的の両方面の性格を充分に熟知し、 り、場合により、 に恢興すべく務め、常に理性に富み感應風化 の憂をかもされる事がある故に、生活全面に厳格に 何より、先づ覚醒し国民道徳 り、郷土に於ける民放精神体得発露の家庭を基調とし 彼等に良好環境と反省の機会とを輿える の信念を強固にし、須く の功績を、 こゝに於い 却っ

る目的及び価値の 道徳思想を合理化して、 在来  $\bigcirc$ 教育改善も、 |傾したるブラジル向家庭を更改し、常識的或は伝統的 は な らぬ 何にあるかを味ひ示し、国民の道徳的実践 自然に叫ばれ、 かくすることに於て、二世教育 人間生活に取って正確な 亦完成も期し得やう。  $\mathcal{O}$ 効果が

### パ延長線教育会

#### 授 業 参 観 記

0記者

第一回

授業研究会参観記

日 時 昭和十二年六月八日時間 一 時

場所 マ市日伯小学校教室学年

尋四、尋六

科目 読方(四年第二十一

課。六年二十四課)

教授者 五十嵐重虎

(マ市日伯校長)

育会総会の席上再び此のことが 期の巳むなきに立到ってゐた。ところが、本年四月、パ延長線教 運動会と引続く行事と、其の上教師の移動とが禍して遂に無期延 ちに決議され、己に其の順番をも決定されてゐたが修学旅行聯合 昨年二月、 マリリア部会総会に於いて、学校参観の案が出て直

で、本会事業上特筆大書すべきものであり、 する所甚だ大なるものがあらうと思ふ。 上提され、茲に第一回の授業研究会を開催することにな 傍々本会の向上に資 ったわけ

#### 次 第

た。席につくとすぐに別掲の教授案が配布され、二十余名の参観 分が入室した時はもう始 って三十分も過ぎたやうな時であ

教師が各々それを広げて盛んに眼と耳と筆とを動かしてゐた教室 度自分達の学校 内は粛然として五十嵐教師の声だけがポッポッと続いてゐる。 の修身の時間を思はせるものがあった。

どが行はれ、児童との間に一問一答が交換される。 両学年とも最終時間らしく語句の解釈、文内容の研究及鑑賞な

られ、殊に應答者が常に一名乃至二名に限られてゐるのが何とな 見え、児童の学習態度にも能動的な所が欠けてゐるやうに見受け くギコチないものにしてゐるやうである。 . づれの研究授業にも見る如く、稍々教師にも緊張の色

把握してゐるだけに非常に丁寧なる指導が行はれ しかし丁寧な教授案が用意され、教師自身が確固たる教材観を

を克く修身的材料として生かし切ってゐるのを観て自ら頭の下る 動もすれば吾々の読方教授が単一なる読方のみに終らんとする所 のを覚へる。

どのことが丹念 れつゝある事で、例へば尋四の安倍川の義夫で旅人 特にうらやましく考へたのは語句内容の研究などが徹底的  $\mathcal{O}$ 心の 動きな は

時間の授業が一組当り た。大方の場合で云へぼ四組乃至五組の複式教授であるだけに一 ければならぬ に鑑賞玩味されつゝあるのを観て、やはり本当の 言身の物足りなさもあるが 茲では複式であったが)と濁りで考へた事であ 十分乃至十五分位の配当になるので、 教授は単式 0

をたゞ一人で担当する教師など、 児童自身の損失が、幾何なるかを思ふとき、 ならないかゞ想像される。 いかに神様的活躍をしなけ 一校六十名位の 児童 ば

教授者も児童も坐席に着いたまゝ修体を行った。 そんな事を考へてゐたら己に 教程も経 0 て(をは り)となっ

尋 四 尋六

教材 第二十一 安部川の渡し

第二十四課 (孔 明)

要旨 所謂安部川の義夫の崇高な道徳観念に基づく事実を叙述し

て内省と感激を醗酵させる。

支那 切の詩調を以って提示す。 の楠公と称される孔明の忠烈を中心としてその生涯を一

教材観

等亦蕭然とし 握される厳たる道徳律正に善の実践としての極地と云はんか、 人生の底流に生くる、 して重要な修身的材料と観られる。 て異常の感激に浸ると共に、特に当国の実状から推 しがない人夫と其の極めて自然に確乎と把

あるま 稍々難解である。繰返し誦して会得させる材料。 の強さが用意されてゐる。史実は概観にとどめて深入りする要は の清節とその最後を盛るにふさはしい調律であり用語もそれだけ か し忠臣孔明

主眼

長文の読解及新出文字の学習、全文の中心たる人夫と、その家族 の道義的な生活態度と心情を理解させる。

最後に哀悼 韻文の味得、 の情を捧げさせたい。 新出文字の学習、 孔明の忠誠を賛美しその悲壮なる

尋 四 尋 六

教 材 第二十一 安倍川の渡し

第二十四 孔明

時間配当 第一時 全文通読(新出文字)

第二時 始めから百十八頁八行迄の研究

第三時 百二十四頁三行迄の研究

第四時 終りまでの 研究及全課の検討 (本時間)

第一時 通読及概観

史実の大要

第二時 語句内容の研究

(本時間) 新出文字教程

#### ◎黙読

本時間学習の前提として

本時間分の語句内容の研究 うす暗い 小窓

ぼうをつづつて居り

七十近い老人がわらぢを作 って 貧しさの 表現

老人は ・ちらと見たき り何も言はぬ

妻も・・ 相手にならない 人夫の態度と照応する決定 的道

#### 徳観

結末

◎全文通読

1、旅人の心の動き

2、人夫の一貫した精神と其の現れ

○右の検討と共に文の構成の再検

# ○第一時 設問の検討

#### ◎設問

孔明は なぜ浮世をよそに住んで いたの カン

りゅう備はどうして三度も孔明をたづねたの カン

3、天下三分の計とは

どういふわけで孔明の名は今日まで つたはつてゐるのか

◎右の設問の検討と共に語句内容の研究

◎新出文字取扱練習

質問及批判会

立つ五十嵐氏、その守衛といふ楼な恰好で座長の寺門氏が着席 会員三十余名が方陣を作って上座らしき所に、これから矢面

種異様の空気が室内に流れる。 十嵐氏が起って教授案についての説明を行ひ座についた。一瞬一 先づ寺門氏起立して只今から批評会に入る旨を宣し次い で、 五.

導形式をとったらいゝか、先生の御指導をお願ひします」 O「児童の学習態度を 以上対話式とす◎は五十嵐氏、その他の附号は各教師である。 可及的能動的にする為には、どう云ふ指

7 ◎「一寸判りにくい所があり ますがどうぞも少し平たく仰言 0

させてサイン仕合ってる) どう指導すればいゝかといふ事なんですが」(一同が首をゆらゆら ○「ヱ、その 何ですも少し生徒が全般に亘うて活動するやうには、

そう云ふ場合は四年生程度に問の程度を下げてゆくんですな、も 他には途はないでせうO「問の程度を低下させると申しますと」 ◎「あゝ判りました。それですね、結局問の程度を低下するより てゐる場合はこちらの方で尋ねてゐる事が、判らないのですから、 ね、 五年生相当の問と思っても児童の方でモヂモヂし

しそれでも行かぬと忠ふ場合は三年生といふやうに」

思ひます」 の次からは一年から六年まで同意させた授業を見せて貰ひたいと に行ってゐるのは、そう云ふ簡単なものではないんですから、 △「今日の授業は四年と六年との只だ二組でしたが、吾々が実際

らいゝでせう」 言ふ所にあるんでしたら次回からどこか田舎の学校を選定された そんな事をやってないんですから、 ◎「それはどうもお気の毒でした。しかしこゝでは実際に於いて、 若し皆さんの御希望が、そう

今日のやうにやっておいでになるんですか」 ▽「新出文字の取扱を長終にやっておいでのやうでしたが 何時、 ŧ,

ありますし一定して居りません。」 ◎「いや何時もいふ事ではありません。第一時に出す時もあ 中途に持って行く事もあるし、尚今日のやうな形式をとる場合も

文となりますと叉違ひますがね」 といふ方面から云つて、むしろ益する所はないと思います。 るい事はないと思いますが、やってゐません。 □「韻文を口語体にかきかへさせるといふやうな事を…」◎ 所謂詩の味の鑑賞 文語

ですか」 ×「殆んどすべての場合座席のまゝ読んだり話したりしてお 1 で

落着を失いますから、むしろ教師も充分落着いた態度をとる事が ◎「あれはね、 の内容を味はせる時に教師があっちこっちらと歩いてゐたんでは、 ゝだらうと思います」 気分の上からあんな形式をとってゐるんです。

◎「然し僕等の方ではそんな余裕がないんです、いそがしくてね」

複式も程度を越せば、 そうでせうね」

△「児童が読本に仮名を付けてゐましたが、あれは許してあるん

ですか」

ます。明治時代の教育 ◎「許してゐます。 しか しその課が終ったら消させる事にしてゐ

どうかと思いますね。 の様にいつも読本をキラキラにして置かなければならないなん 7

まあ許してゐるんです」 ら、それを助長すると意味に於いて奨励とまでは行きませんが、 小学校の読方教授は素読に徹底するといふ方針でやっ てゐますか

と考へてゐます」へこの辺から相互に会話がはじまって、しばら 番に、その事が待ってゐるんです。なるべく早く御用に立てたい まいかと思ひますが」◎「読方のでせう。 く堂内は騒がしくなる。ぽつぽつポケットから煙草などを取り出 △「児童用の学習書といふものが出来たら余程お互に助か 僕今度出聖したら第一 りは

よく菊池寛 悪い事もあるまい。然しそれも程度をこせば青の洞門などの所で、 ◎「教材とかけ離れた事でなくて、一層諒解を促す意味に於いて 合はその今昔を対照的に話すことがあるが、別に構はないかね」 ◇「僕アね地名などの時、自分が実際にその土地を知 の小説なんてとびだすから考へものだよ」 ってゐる場

ならないと思いますね」 は一度び教壇に立つ以上やはり確固たる信念を持ってゐなければ これについて云々する考へは少しもありませんが、教師たるもの る」とい んなことはあるものではない、これは教科書の方がまちがってゐ の様子が手にとる様に見えるといふ所を説明する時「実際にはこ ×「ある所の教師の話なんですがね、あのトラック島の所で海底 ったさうですが、僕はこの教師を非難するんでもなく、叉

▽「そりゃそうです。だが今の話は何ですね。 教科書の 方に間違

ひがあるとは思はせたくないですな」

ボン玉を吹いて見てグルグルマ 収録してゐる位ですから。教科書の方に間違ひがあるとは云ひた ◎「僕もそう思ふ、今度の改訂読本でも編修官たちが自分でシャ くないね」 ハル赤ガデル青ガデルと実験 して

×「ちょっと待って下さい。

せうか」 り間違ひの部類ぢやないでせうか」◇「日本で言へぼ、あれは外 クタイをかけてやつてゐますね、(一同急に哄笑)あんなのはやは 国の事なんですから、そんな事あまり意に介しないんぢやないで (とぢつと考へて) 六年の講本に南米だよりといふのがあります あの絵を見るとブラジルのカフ エ採集の場面ですが、 皆ネネ

やる必要があるでせうか、どんなにやつて居られます?」 でせう」 ◎「発音式でいゝでせう。 O「仮名づかいにいつも困りますが、あれはやはり昔式に厳格に 改訂読本からダンダンそうなってゐ る

ます。どうか此の後に於かせられましても益々本会発展の為に御 を頂きまして立派なる授業研究会が催されました事を同慶に存じ ら。この辺で閉会にいたします。 寺門「大分時間もたちましたし、 尽力下さいますやう御願払いたし、 各位が熱心に質問され且御批評 午後の集会の都合もあ ます。(パチパチ) りますか

第二回聯合図画展覧会ポンペイア部会

入賞者一覧表

第一学年

等級 一、カンガンギ 校名 児童名

同 島袋

長田

同 ジャクチン ガ

今本 箭野

ジャンガーダ

ポンペイア中央 アミザーデ 三宅 林 小原

ポンペイア中央 岩島 西脇

ジャンガーダ 嘉陽 望月

同、

同、

同

同、

同

カシンギ

、ポンペイア中央 二 学 年 ◇第 山根

サンタエレー ナ 藤瀬 今村

、ポンペイア中央、朝日

藤瀬 濱崎三、

ナ 志伊良同、 石賀同、

日昇

カンガンギ

カンガンギ

玉城

アミザー デ 大西

◇第 三 学

年

同、

同

同

ポンペイア中央 グワリタ 浅 松野 本 大谷

サンタエ 日 ナ 高 崎

朝

赤木 下田

同、 同 同 ポンペイア中央 同 アミザーデ 勝見 大西 平江

佳、 同 同 カンガンギ ジヤクチンガ グアリタ 箭田 石井 与田

同、 同、 同 グワリタ 同 アミザー デ 横山 大城 山村

◇第 ポンペイア植民地 兀 学 年

加藤

同、 同 同 ポンペイア植民地 アミザーデ 嶺村 井上 高木

同 同、 同 ジャンガーダ 同 アミザーデ 島田 上里 津波

サンタエ 高崎 新里

ジャンガーダ アミザーデ 嘉陽 長嶺 石井

同

佳、

同

同

一、カンガンギ ◇第 朝 五 日 学 年 古波津 朝長

同、

グワリタ

伊藤

同

同

同

同 グワリタ 佐藤 江藤

植民地 佐々木

ンペイア中央 原

ナ 加賀谷同、

同 ジャンガーダ ポンペイア中央 星野 上里

佳、 同 磯山

同 同 ジャクチンガ アミザーデ 井崎

後藤

グワリタ ポンペイア中央 岡田 山本

同、

◇第

同、

、ポンペイア中央◇第 六 学 年 グワリタ 藤田 三好 松本

ジャンガーダ アミザーデ 吉加江 嘉陽

同 井上 平栗

同、グワリタ 同、ジャンガーダ 島袋

ンペイア中央校

ポ

▽入賞者合計

菅原

九 十 十 十

ジャンガーダ校

カンガンギ校

アミザーデ校

坂元

アミザーデ

サンタエレーナ校 七

ポンペイア植民地校サンタエレーナ校

兀

ジャクチンガ校 三 四

日昇校

愛鳥園と勧遊湖

モーロレドンド小学校

岡崎親

# ▽開設 の 動機

る、 びばかりではない。子供たちの心理に即した、 子供 楽しい学校となすことが第一のしごとで の教育は しかつめらしい修身講義や、 烈 子供たちの 々たる教壇より叫 魂  $\mathcal{O}$ 宿

を感する。 なければならぬ。殊に低学年指導に於いて、 いよ 1 ょ な る  $\mathcal{O}$ 

### ▽経 過

り、  $\zeta_\circ$ 六百五十針と云ふ、 たが今年は意外の 誌を買ふ事や、ポーラを買ったり、お友達の病気のお見舞を は今迄の費用を取っても、尚三百ミル位のお金が余る。でこ 11 去年まではアルゴドン 国防費とに献金したり、 つもの児童自治会例会がすんだ後で、「皆さん相談があるん 出来栄へで、これも皆さんの力によるも これまでにないガンニヤをした。 の方の これと云ふ大したことも出乗な 利益も少くて、 やつ と四 そこで今年 種  $\mathcal{O}$ の金 だが カン た 雑 0

誰でも一つ好きな物を言つてごらん」 を以って皆さんが一緒に楽しめるものを買ひ度いと思ふ。都合に よれば男子と女子と別にしてもいゝのだがまづどんな物がいゝか

男子「自転車、鉄棒、スベリ台」

女子「だめよ、 みんな男子の物ばかりだもの」

男子「イントン、女子には、お人形、お手玉」

が、小鳥の家をつくってはどうだろう。 女子「いやいやそんなもの駄目、先生、先生から決めて 「それでは先生からお話しやう。これは前から考へてゐた事なんだ 下さい」

「どんな風につくるんですか」

「金網で囲ふのだね、沢山入れたいから出来る丈大きくつくるんだ

ょ

「何を入れるんですか」

でも、アラプーカ、にかゝたものは皆入れるさ」「ピーバ、発生ボ 「何でもいゝさ、チコチーコでも、ペリキットでも、 ロリン

ンです」

「イントン先生今から、すぐ」

もつかむのはどうする?」……嬉々として語り騒ぐ声止まず: 「女子はどうかね、賛成か」「賛成です。 い」ね、 おも しろ いね、

:

「ちょっと静にして・・・・それからもう一つ」

「コラツ聴かんか」

…… (静になる) ……

Š 思ふが、此の機会に是非小さくてもよいから造って置き度いと思 「もう一つ似たやうなもので欲しいものがある。育てるにどうかと

「発生それ何です」

「何だらう、よく似たものだが」

「兎?」「山猫」「ジヤカレ」「オンサ」「動物園」 ?

ではそこまで手が伸ばされない。もつとやさしい事で、 「そんなものも欲しい、出来ればボツボツ、造りたい。 しかし此

処では場所が高いから水が…」

「あゝペツシ、ベツシ!先生池です」

「泉水、鯉、金魚」

「そうだこの際是非お池を作って置き度い。かんたんに出来るのだ

から…しかしたゞ困るのは水なのだが…」

「先生僕たち、毎日下の泉から汲み上げます。ペツシはク

ワレンタ(所の名、 約一キロ位)に、すくひに行きます。

「では、そう云ふ事に決めやう。土曜日に町に出るから、材料をみ な買って来ませう。

……や、大変な事になってしまったね」

完成昭和十三年五月 愛鳥園

Ą 縦五米、 横四米半、 高さ 三米、 カイポロ八本、 金網B、 設

備

出入 口 =蝶番附開き扉、 縦 一米、 横八十糧

上設定) 2、餌函=木製、良さ一米、 横三十糎、深さ五糎、中仕 切附 地地

3 止り木=高さ一米半三本 ブラン コ

箱の下は金網張り 宿所=前戸なし、 以上二個。 巾三十 高さ一 糎、 米二十糎、上部は板 中に止り木二本、 及巣 にし餌をま 箱若

5 用水=セメント造り、 米 × 四十糎、 深さ十糎、 縁 巾五

糎。

6 数あり、新植のものも 中造り=花壇の一部を取 若干あり。 囲んだものなれば既植の草 木多

8 餌=細片ミーリ 焼小鳥、 収容小鳥= バッタ ありふれたる 日、 バラック等の小虫 モミ バナナ、 小鳥十五、 7 モン 六種、 7 数約 日 力、 羽 キ

勧 進 湖

ト塗。 Ą 縦四米半、 横四米、 深さ 七十糎、 ングワ、 石、 セ

B、構 造

四方、自然石を配し 自然石にて囲 1、ふち= その他 レングワ横一枚巾2、 の草木若干を植込む。 中島=中央に中島を設く約二米 U, 土を盛り 上げ、日本杉、

3 意に三分し、 池=中島を造りたる為、 移し 替への便にす。 遊泳所は巾一米に足らず、 全体を任

より、 養魚=ありふれたる川魚七、 幾許をも可 能)三つの中、 八種、 一つを金魚 数約二百(これは努力に

5 餌=パン、バ ツタ、 111 111 ズ、 蝿類、 蜘蛛類。

水深=常に四十糎以上、 新陳代謝の必要あり。

(完

# 「教育春秋」第四号

巻 頭 言

だ、教育普及会が何してゐる、 粒 Þ 々 がネバラなければ納豆の持味はでな 等々毎も他に対する要求ばか 植民者が無理解 りし

てゐる間はモノにならない。

 $\Diamond$ 

てゐる。他に要求する前に、 一粒々 々のネバラぬ ŧ, のを何百集めたって結局ポ 俺は之でよ  $\mathcal{O}$ か、 口 ポ 口 0

一度は篤と考へて見様ではないか。

省があるべきだ 傾け自らを不安にし過ぎぬ 朦朧たる世間話に、オールデンの か。人間同志の本当の世界はもつと自 無 い憶測に、 余りにも好奇を

「教春」 生れて四号、前進は内省に即 して確保される。

(五十嵐)

雑感

井上白堂

謝の湧くことがある。 つくづく教員生活が嫌になることがあるし、時には朗らかな感

毎日の天候のやうに、一律でない。 した時、後者は月給を頂戴した時のみではない。 蓋し前者は父兄の苦情を耳に

Prov 笆 cias do を懐ふ時、色々と不平や愚痴や恨みが、夏雲の様に頭を擡げて来 るのだ。それから… 教育の理想へ余りにも遠い位置に立って、足らざる自分の Jap 縊 no Brasil Federa 鈬o das Associa欽 es 努力

純眞な美し のだと思ふ感謝も起って来る い童心に解れ浸る時には、聖職 のである。 に生きる者の みが味

いさゝかの偶感を並べやう

X

人は誰でも凡ての事を判断する場合に、直ちにそれを自分のス

ふした筆法から割出して来るところの、道理に二つはない筈だか ケールに当はめて為し勝である。分らない人間が斯 ら……と云ふ勝手な理屈程困るものはない。

らなくてもよい」などと、眞面目な顔で言ふに至っては全く良薬 「子供を歌唄ひにするわけではなし、オルガンまで買って唱歌をや 「ブラジルの様に働く国で、 体操なんが必要ない」とか。

### ×

覚える。 は、 児童の言動が如何に正直に彼等の家庭の状態を反映してゐるか 常に驚くところである。 試みに児童の綴る作文を見給へ。 殊に経済的に鋭いことには、

書くし、「この頃」と言へば、雨が降り続くので仕事が出来ない。 カマラーダに食はせるばかりだ。などと書く。「前の先生」と題 「棉」と言ふ題なら、うちには幾アローバでた・:何程で売 0

月謝のこと書いてゐるなど情けない次第だ。

なくてはならないと思ふ。 不用意な家庭内の言行、如何に児童へ大きく影響するかを考へ 畢意家庭教育の要と言ふことになるのだが尠くとも父兄は、そ

#### X X

壇に立って修身を講するに過ちは無いが、町へでて一杯飲んだり マ並べての会話。 した際には、遂不用意の醸す失敗が起り易い先二人ペンソンの 凡て不用意と言ふところには間違や失敗があり勝だ。教師が教 力

植民地で豚がギヤ ツと言ったら直ぐ飛んで行

ハハニ…・まさか」

ら笑へ 「いや本当だぜ。 ない話ではない この節ポル か。 コの 隣室で聞く植民者は何と感するだら ーキロは有難いからね」 当本な

### ×

研究は、地方でかうした小学校でやることがより意義ありと思ふ。 を試みてゐる。が、更に良策も無きものか? 題を求めて、その中には常識として自然注入するやうに、始終話 やっても結果が上がらないところから、専らあらゆる方面から話 らう?」と尋ねて居たのを聞いて、 科や地理歴史に至っては教へやうとして施す術がない。 込んで教へるのは、如何にしても無理だ。他の課目は知らす、 で十六才にもなる息子が「ママイ、 教育指導者の指導もこの辺に重:を置いて欲しい。或るところ 何等教育的設備もない一室へ、一年生から六年生迄を一時に追 監は海の底へ沈んでゐるんだ 常識の必要を痛感した。 実地教授の公開や

だ。随分辛抱した揚句やつと口を利くやうになった時は実際嬉 低能でもなんでもない。唯教室へ入ると絶対にものを言はない になるなど、教育する者のみの持つ愉快である。 て大きな頭痛の種である。拠って三ケ月一語を發せないのが居た。 った。これと大同小異だ、頭の悪い子供が少しでもできるやう どうにも手のつけられない児童が一人居ることは、教師にとっ

### ×

進ませて欲しい父兄は何処にもある。若し父兄の満足を買ふとし て無茶苦茶して進ませるは百害ありだ。殊にポ語と邦語と児童二 の負担は教師が発づ考へてやらねばならないと思ふ。 なるべく短期間に、できるだけ大きな実績を生む為め

### ×

どんな平和な植民地と雖も多少勢力の対立とか、内部 のいざこ

事以外には植民地の政治に容啄してはならない。阿訣することは ざの無いところはない平穏ならざれば勿論、教師は決して教育の 醒發憤するに非らざれば、両者の悩みは、 解と協力があ 結局植民地の狗になる事だ。然し父兄と教師の間に、充分なる理 の制度が根本的に改造されるか、もしくは植民者教師共大いに覚 容易に消えないのだらう。 って始めて、教育の実積はあがるのだとすると現在 わけて哀れな教師 の憂

# 教授法研究会次第

### 一、授業

課目 読方、 尋一、 巻二 十五 月夜、

十八、一寸ぼうし

尋二、巻四、十五、かなりや

一、批評会

イ、はじめの言葉、

司会 大竹 文二

口、教授者反省

1、学級編成の説明

2、発音の読法について

3、学習帳に対する意見

4、教授案、内容の説明

ハ、質問、批評

- 前記、 後期の区分整理 2 羽 の読み方
- 3、か行濁音の発音法
- 4、教授、所要時間
- 5、誤読の訂正法
- 6、賞賛(言語、間の態度 と要領)

三、講評 五十嵐主事

ど実に申分なき授業であったと言う意味を冒頭して。 あると思ふし、言葉間の形式、殊にむしろ小憎い程の 教授要旨とあれ程の教材を以って臨まれた態度を非常に立派で 間 の要領な

- 1、前記後期の区分に対する所見
- 2、分団取扱いに就いて
- 3、教授案について
- イ、月夜 (児童作品の改作なること)
- ロ、かなりや(要旨に対する希望)
- ハ、深究の辞句について
- 二、配当時間について
- ホ、問の形式

以上

投稿規定

◇投稿は本会々月に限る (原稿紙)

◇会員外は編輯部の寄書依頼による

◇原稿種目→ -研究發表 (個人) 評論、 詩歌俳句、 随筆、

ニュース(学校行事)

₹╏◇原稿締切は毎月十五日

詩買う

◇原稿返戻希望者は其旨明記の事

されたき事 ◇原稿は量に於て制限なきも、 取捨分載等の権限は編輯部に 任

の事 ◇文芸作品に限 り雅号、筆名を用ひ て可なるも原稿 に は 本名明記

◇原稿宛先 モーロ・レドンド小学校内

教育春秋編輯部

讃 方 教 授 案

昭和十二年九月廿五 日 教授者 寺 門 芳 雄

学年 尋一 尋二(前)尋二(後)

題目 月夜 一寸ぼうし かなりや

教材 日本語読本巻、十五

日本語読本巻三、十八 日本語読本巻四、 十五

要旨

を培ふ。 月の美しさに融合した心持と、月夜に浮かれでた山羊の 本課をよむことに依って、お母さんと、太郎さんが煌々と輝 しい姿態を想はせて、 和やかな家庭愛に浸らせ、自然愛好の精神 かあ 5

叉新字「月、 て授く詩みを通して子供にもつともよろこぼれる、 風、 音、 所、 走、 光 花 のよみかきと語句に 英雄童話 つい (日

本)の中に遊ばせ祖国日本に親しませる。

と語句について授く。 新出文字「寸 指、 高、 都、 針舟、 遠、 通 打 の読み書き

児の かな りやに対ずる熱愛思慕の情掟きを理解させる。

第 通読して筋をとる( 本時) 究

第二時 七十一頁一行迄の深

第三時 七十三頁四行迄の深

第四時 七十五頁四行迄の深

究

究

総括的取扱

説話、 通読

第二時 八十四頁二行迄の深

第三時 八十八頁迄の深究(

第四時 九十二頁二行迄の深

第五時 終迄の深究

第六時 復習的取扱

第 一時 全文通読大観

第二時 深研 (本時)

第三時 総括的取扱

目的指示

2 経験 の想起

3 範読

4 新出文字の読み

5 自由に二三回読ませる

読みの練習― -個読

本時)

究

究

- 1、前時分の読み
- 2、既習事項問題
- 3 本時分の読み (自由に) 4 読みの練習 指名して
- 5、内容深究
- 文の読み
- 2、筋の問答
- 3、深究

文意及節意の決定

イ、文意、どんなに可愛 が つたか 語句に関連して

教授

- 7、文の筋に就いて問答
- イ、どんなお月夜の晩のことか
- ロ、誰がお月様を見ましたか
- ハ、二人はどんなお詰をしたか
- ニ、月を見たのは二人きりですか
- 8、文の読み1整理の意で
- 9、書写練習1板書

針の刀、麦わらのさやおわんの舟、はしのかい

- あしだのかげ)小さい
- これをよく読み取らせて次への伏線にする
- 6、書写練習板書
- 節意, - 想の態度の上から次の二節とする
- 、昔かなりやを愛しこれが本意なくも自分から去って行ったこ

二、今も尚異状の関心を持ってゐること

#### 教材観

この文 と自然愛好 合った満月の夜の美しさを表現してゐる、そして和やかな家庭愛 は 明皎々たる月光の下に野原森、 の精神とが脈々と波打ってゐる。 小学等が月と解 け

あると思ふ。 自然の羊に余り恵まれない此所の児童達にとって大切な陶冶材で

和民族 童話 ば そ の精神が浸潤  $\mathcal{O}$ 国  $\mathcal{O}$ 民族精神が浸潤 してゐる。 した物語である。 日本童話には 大

為めである。 人知 ふ英雄が常に讃仰されてゐる。英雄童話が早く發達したのもそ の歴史は間断なき苦闘の連続である、この 人類 の敵 とた  $\mathcal{O}$ 

る所長も児童のよろこぶ所である。相当長文であるが興味があ から比較的楽に取扱ふことができるだらう。 しかも小さな者の小さなカで大悪に対し機智をも 0 て応懲を加

に「今」 あると思ふ、不可視的な感情が文の上に書出されてある斯うした ち構想の力が尋二の程度としては余程深 傾向の文はこの機会によく味識させたい。  $\mathcal{O}$ 文を眺めると内面的形式の鋭さ言ひか の心情叙述は尋二程度の実際には行届きかねるところで 1 所に立ってゐる、 へれば、体験の深さ即 叉特

パ延長線教育会主催

教授法研究会のぞ記

日時昭和十二年九月廿五日於ヴエラ・クルース小学校

独

教授者 寺門芳雄先生

照)即ち三組で、 門先生が多少顔面神経をキン張さして教壇にのぼった。参観者一 拾参名といふ盛会さであった。直ちに時間となり、 授者にも生徒にも参観者にも緊張の色が見える。教室全体に凡ら 年前期第三時、二年後期第二時となってゐる。授業が始まる、教 同起立、 モベよりと言ふ具合にヴエラクルースの校門に集った時は総勢四 くこれまで経験しなかったであらう。 いて今日のアワレナル小学達が神妙な顔をして這入る。親羊の寺 隊は汽車より、 児童と共に修礼 課目は読方 (指定) 一枚はジャル 授業は一年と二年の前後期(教授案参 ヂネーラより、立後れ連中はオト 時間配当は一年第一時、二 一種異常の空気が張ってゐ 一同入室、

とも好まない所である。 でなく紙数にも差支へる の先を丸く仕様と思ふ。詳述する事は無駄な事ば し亦こんな片苦しい書き方は自分の 0 り

巧妙を極 童話家といふ事がコビリ付 てゐる。 い てゐるせい か、 その 顔面活動が実

児童と問答をやる時の音声の 抑揚が無類なる額面活動と

相侠 つ体 如 :の要領 0 正に て児童達の コ  $\mathcal{O}$ ニク  $\searrow$ 脳底深 イ程 所謂問の形式は五十嵐氏講評 の芸当である。 く喰ひ入る様であるし、 この時に 微に入 ガ り細を穿 タン

おほ 繰返されてゐる事であらうが、こう言ふ所に所謂混教の幣害が が不活発である。問答に於いて児童が答へた事をも一度教授者が る人ではな ワ む返 レナ小羊哉である。これは凡らくいづれの学校に於ても平常 の場合に於ても見る如く、こゝでもその例に漏れず児童 1 して初めて児童の言った事が諒解される位で、 かと思ふ。 やは V)

コ

あ 生徒は と思ふ、 んなであ 大い 若し りませんと言ったが、これは八掛位に に行儀はよろし 寺門氏は座談会 の席上で平常は た謙遜であら

それ一時 腕がある ど全時間を終始せいしくに勉強した。努めてこれをやり通した はどこかに、その反動が現れなければならぬ。だが生徒達は殆 とすれば、それを一 のガン のかもしれない。 バリであるとすれば、全一 時的にやり通さした寺門先生には 時間二十分 0 怪物 授業中 ŧ

のもの には一 あ 行儀  $\mathcal{O}$ 古今無類 顧  $\mathcal{O}$ 良  $\mathcal{O}$ 1 価値もなかった。若しこれも彼氏の言ふが如 0 事に属するが生徒が の顔面活動と講釈そこ除 たとすれば、どんなに苦しかっ 神々 け 傍見をしな  $\mathcal{O}$ 声 ただらうと後で  $\mathcal{O}$ 抑揚も他組 か 0 た  $\mathcal{O}$ 同 時的 情

ロ

「カナリヤ 羽 (イッパ) かっ てありまし た」どの生徒が読  $\lambda$ で

も話しても関西者の自分にはこの 羽が 洋耳に

たら、 う……でケリが着いた。 立って仕方がなかっ 調停により、 色々混戦して面白かった。 果して質問 悪い事はない の失が、 た。これは後で座談会に出るワ 序に発音はンガ、ジュツ羽やジツ羽など 或る教師から起った。 と思ふが、 イチハと読んだが 結局五十嵐氏 イと思って 穏当だら

敬服される所が多かった様だった。 やさしく丁寧に然もすべての事を興味的に導いて行かれる態度に ちゃうど幼稚園児童の指導形式に相似たものが多かった。言葉を 教授態度を一括して言へばそれが下級生であったせゐもあるが

授業研究会といふ約束の下に寸暇もなく れた態度は尊いものであ アラがあ つ然るべしと思った事だった。 ったが、ほんとうを言へばもつともっと (一秒間  $\mathcal{O}$ です) 活動さ

(完

事がいくらもある筈である。

学校経営は各校区々別々、 然し時代は未だそういふ状態に置かれてゐない 時代に於いて、なにが末梢部分の穿鑒であらうもとより我々は教 としての自己の責任を自覚する、 然たる統制なく、教師の地位たるや、 児童教育は各教師 可及的努力も敢えて行ふが 恰もそれ浮雲の如き  $\mathcal{O}$ 独善主義、 のである。

### ◇児童と接触

行事も考慮したらどうかと思ふ。例へ 教授研究会もさる事ながらかう言ふ機会を利用して対児童的 り 一部、或は全部の生徒に何か対児童的短話をするなり或は O時間をとっ 参観者の中の誰でも ぼ授業が終 1 0 たあとの三十 人の 他校  $\mathcal{O}$ 

され 方単 繰返へされつゝあったんでは、その進歩の程度や実に遅々たるを 適当と思はれる事項の質問を試ゐるといふ具合にや 免れ得ぬ。 が原因とな に対する應答がうまくない。これは大方の先生が経験し、 カ -調平凡 つゝある事と思ふが之が同一教師にによって日常千遍一律に  $\mathcal{O}$ 新らし に繰返 ってゐるかしらぬが全体的に観て、ここの児童は質問 い刺戟を輿へ得はしないかと思ふ。どう言ふ へされつ ゝあるであらう日常の学業生活に、 ったならば大 苦労を

問 師 すだらうし、その後をやって行く事は何となく楽なやうに思は かう云ふ経験すれば児童自身に於ても多少の興味と心の用意が萌 行事に依 児を見る事親に如かず、生徒を扱ふこと教師に如かずだ 應答を興味的に助長する事が出来はしまいかと思ふ。 質問ほど児童にとって適切なるものはない。そこでかう言ふ って相互にその短を補ひ合ったならば、或は行儀叉は 一度 カン i 質



その名士から一つの質問が發せられ、その学校の生徒長見たい 来臨を受け、 一児童が指名されて起立した。 この事に就いて想ひ出されることがある。或る学校で一名士 児童を前 に 一場  $\mathcal{O}$ 訓話があ った。 その席上図らすも

適切な答へが頭の中に纏らぬ様である、 方と思ひますか」 位お偉いでせう」名士の追反は続 い方です。どうです、それに違ひありませんね」講話は終り、 「日本には天皇陛下がおいでになるが天皇陛下はどれ位お偉 へてゐる丈で、更に答へがない。暫らくして名士の声 ませんかそれでは僕が申しませう 「……」児童は頻りに考へ くのであるが、 天皇陛下は神様 「さあどうかね」 てゐるらし その児童は頻り の様にお いお

教師 もの 待もすんで名士を自動車で送り出したあとで、 合に処する為にといふ程考へなくともい ああ云ふ質問 るに質問 する所があ て大いに考へさせられる事であるで、前述の であ も責任上一場のベン て雑談がはづんだが、その時又してもこの事が話題となった、 メイ(?)をされた相であるが自分達同職のものにとつ って、若しこれが児童教育に経験ある人であったならば、 りは 仕方が児童に適切ならざる為に、 の仕方はしないものである。と半ば悲しみながら苦 しまいかと思ふのである。 メイ (?) なかるべからずとあり、 が かう云ふ結果になる 事がらもかう云ふ場 日 頃の そこの先生を中心 訓練上何 . か 益

(完

# 教師邦語 葡語講習会

序言

なり、 葡語 校教師の資格といふ條項があり、換言すれば、伯国法令 なり日本人植民地の場合、先づ某団体が伯国法令に準拠 立は校長名義人にはなれないが、 各日本人学校は、教師の検定合格に でないし、無論其代表者が社会的に何等の地位をも有せな 一九三一年 の検定試験合格者でなければ外国語教師たる事罷 合格者名義によってなされた学校登録の申請に應する事 私立公認 一月發布された当国外国語学校取締令 の認可を受くる事にな 日語部教師としての資格を取得 により、 0 たもの 校長として学校登録を である。 中に外国語学 りならぬ 郡立、 の定むる  $\mathcal{O}$ 

これを余儀なくさせられたもの しなければならなか ったから、奥地に於ける日本人学校は一律に である

葡語 教師となる様な人は概ねブラジルに日の くても幾年か 扱而、愈々この法令に際会すると、発づ の素養たるや実に微々たるものであった。 を殆んど奥地日本人社会に生活 浅 困 い人が多く、 0 たのは教師である。 した人が多いだけ それでな

制され、 年受験期前の二週間乃至は一ケ月をもって会期に当て、普及会よ による受験 故に於いて、各管内日本人会は一番に起って、 の検定試験を支援し、 其の経費を補助 実質的に進みつゝあ の前提として、 講師を斡旋 日本人教師の葡語請習会が誕生し 一方普及会と連絡して、 ったものである。 クァ、 逐年此の催 教育擁護によ 其の 監督指導 毎 る

て詳細 翌三八年には種々 はれたも 線に於ては リンスに於い する方法をとる事になり、名目も指導点講習会として、仝伯より、 日本語学校の存続は確んど不可能となったから、各々事態に順應 も日本色を織り込み、日伯両面的に教師の向上を図る事となった。 には会場をサン の主催にかゝり、普及会は後援的立場にあ 即ち一九三二年より三六年に至るまでは地方別講習として各 してこれに当らせる事にし、 なる記述をしたいが、 により の方策に備 であった。三九年には、伯国法令が更に叉変革強化 マリリア市に於て開催 く、其の 一週間 て一週間の時局的講習会を催す事になり、日語学校 ・パウロ市として普及会の の事情により、 へる事になったものである。四○年度は前年度 方法を踏襲する事にし会場をオウリンニョ の猛訓練を受けたも 例年其の内容は大同小異であ 各地方別講習を復活し、パ延長 バウル し、全伯七ヶ所に於て同時に行  $\mathcal{O}$ ー管内は二線聯合の上、 である。 直轄とし、 2 たが、 各年次に当っ 講習内容に 一九三七年 ŋ

記 の雰囲気を窺ふ程度としてマリリア講習会、リンス講会の大略を 以って教員講習会の参考に したいと思ふ。

(編 輯 員)

パ延長線三部会聯合

葡語 講習会

葡語講習会は、 数名の出席者を合して別表日程表と講習会係長とを以て終了した。 正月七日より開始されたマ バ ストス、 ドア リリアに於けるパ延長線三部会聯合 ル チ ナ、 サン バ ウロ 部会よりも

講習会係員

総務 岡本部会長

助<br />
手<br />
阿部<br />
太

寺門 芳雄

進行係 主任 大竹 文二

笹原 峯生

河野 哲朗

会計係 主任 橋本 俊次

熊井徳右衛門

記録係 主任 岡崎 親

八十島 豊

教育史 阿部 太講師 教授法 五十嵐 重虎

映画と児童 寺門 芳雄

ポ 語 主任 ア ントニオ・

ゴー ・メス

講習会出席者名

マリリア部会

ス

校 名

マリリア日伯 五十嵐 重虎 同

橋本

俊次

多賀

澄子

石井 ミドリ 同

同

共和日伯 小松 富枝

第二昭和 四郎 絹子

浅見

同

アグアフォルモー ザ 同

原 元保

アレペンヂド 藤井 モト子興農園中央 中西 ツ ル子セレ

ジャ 大槻 五郎

モー ロレ F -ンド岡崎 親

リベロン 明倫 インジオ 古沢 典穂

能 秀一

ルヴア 口 江口 重親

ンデス 阿部 太

パウリスタ第三 笠岡 峯生 同

コ レゴ ・デ・バルボー

佐藤

次郎

優

同

文子

昭和村第一 加藤 忠三 同

永島

央メスキッタ 安田 知晴リベ ロン・アレグレ

山崎 正魁

ンタ・イリア 林 武熊

ヴィラ日本 飯田 眞次郎第二ポンボ 橋本

重喜

ヴ エア K 平野 徳夫

第二メスキッタ久富 松次

高 砂 長谷川 利

近藤 春男

ヴエラ

ル ス部会

サ ンタアン ナ 相田 博

フ ローリダ 中村 赳夫

メスキ ツタ 大浦 光次

シケラカンボス 山本 瀧雄ガ ル ルサ中央

小沢

正夫

パウリスタ バンデランテ 国友 阿部 俊輔 正人

ダエラクルー ス 寺 有 芳雄

有明 浅野 雄

ポ ンペイア部会

ポンペイア植民地

河野 哲朗

ンペイア中央大 大竹文二

ジ ポ T チ ガ 熊井徳右衛門アミザー 同

朝

日

小椋

洋二

同

ガーダ 藤村 守貞

> 同 カツ

岡村 林 田 久 親 尚平

ヂストロ部会

レヂスト 口植民地第二十四区

湯浅 恒元

IJ ス 部会

アリアンサ・ウニオン

土井 新次郎

ドアルチー -ナ部会

錦 栄 高山 雅夫

其の他の部会

大 正 草川 壯二郎サンバウロ 渡避 喜六郎マリリ

ア部会公栄所属 同アンデス所属 前田善次郎同 マリリア日伯所属 岩川 廣江

石井和歌子

同 同 岡野シシリア無所属 小野寺

清

伯専資格受験結果

出願総数 五十八名

不参者 四名

無効(齢十八歳以下及び年齢証明欠六名)

受験者 四十八名

合格者 マリリア部会 三十二名 十九名

ヴエラクルース部会 五名 ポンペイア 部会 四 名 バスト

六名

合格者

名 (順不同)

岡村 久親 橋本 俊次

笠原 峯 生 笠原 文子

石井ミドリ 飯田 眞次郎 大槻 五郎

浅見

四郎

佐藤 次郎 多賀 澄子

高山

雅夫

徳右衛門橋本

重喜

相 田

博

阿部 正人 林田 熊井 尚平

古沢 典穂 堀 文江

山本 瀧夫 近藤 春男

織田 片 数元 タツ 平野 小野寺 徳夫 清

山崎 正魁 草川 壯二郎

前田 善次郎 宮崎 靖彦

半貝 リエ 岡本 専太郎

教員夏季講習会講義概要

日 語 部

教授法講議 講師 五十嵐重虎、 (第一日)

序

二、叱言ヨリ訓育へ

引例 卑猥ナル言語動作 同 盗心二就イテ

同 三、女生徒ノ怠惰

同四、某画家の児童

同 五、夫婦喧嘩二対スル

処置

同 六、性ノ問題二関シテ

(以上ハ体験ニョル) 三、 新教育二関ス ル コト

イ、明治時代教育イデオロ

学問萬能時代

児童中心主義

、新教育運動変換概要

口

自学自習―児童ノ興味

中心

作業主義思想一反対理

論

個性発揮—指導理論/ 不確立

日本精神教育教育―教

師独自の教育理論の

確立。

教育法講義 (二日)

国語二就イテ、 印象主義二、 日本国語ノ特徴

イ、含蓄ヲ持ツ

ロ、敬語シ發達及ビ理由ハ、助詞

ノ特徴

三、読カニ於ケル主眼

小学校一読方、 中学一 解釈 批評

四、読方形式(小学校)

音読 (個読、斎読、 微 音読)

視読 (個読、斎読)

範読 (読ミノ目的ヲ奥 誤読ノ処理)

五、解

作品トシテノ研究(課目ニ 対シテ教材トシテノ研究( 課目

ニ対シテ、全体的、文 段的、 イ、今更(村人ノ注意ト反 語句的、修辞的語句 引例

省=青洞門)

ロ、春とはなれり

(自然ノ転換、境遇ノ 変化=鉢の木)

六、学習指導上ノ要項

教材研究

(編輯者ノ意向)

ロ、読ミノ徹底

ハ、取捨選択

七、作文指導要項

教育史講義 (第一日)

講師阿 部

、上古時代

、神代文字

ロ、文氏ヲシテ法隆寺学問

所ノ学問二当ラシメタル コ

二、奈良時代

大 宝 令

学制、教科

平安時代

イ、典楽寮、雅楽寮陰陽寮

ノ設立

口、 光明皇后ノ教育的御事

業悲田院、 施楽院

家学私学ノ發達仮名文

字ノ發生

古備眞備

鎌倉時代ノ寺小屋発達

水、

気運

教育史講義 (第二日)

室町時代

家学、 私学ノ衰微、女子数

育ノ向上、寺小屋ノ普及、 クリスト教ニョル学校ノ創 設

江戸時代

衰微 私塾ノ興隆、寺小屋 歴代将軍 ノ奨学、昌平学ノ ノ普及發達、蘭学ノ移入、 設立、藩学ノ設立、共学ノ クリスト教学ノ 出現、

三、明治時代

業学校令布 森有禮ノ教育刷新( 学制ノ制定 (五年) 学校舎 書 (三十五年) 義務教育年 告(三十三年)、高等女学 十九年) 教育勅語ノ渙發( 二十三年)、実 ノ布告(十二年)学校舎ノ 限延長 校令専門学校令、国定教 改制、

大正時代

岡田文相ノ学制改革(八年 私立学校昇格

 昭和時代

義務教育延長案(平生文相

課外講義

講師 寺門芳雄

映画ト児童

、現代二於テ最モ急速二發 達シツツアルモノ

印刷文化、ラヂオ、映画

二、映画ト子供

三、映画発達ノ理由

映画ノ児童ニ及ボ ス影響五、 映画ニ対ス ル

イ、禁制主義

年齡的、時間的、條件的

口、保護主義、

児童映画デー

ハ、映画教育主義

学校中心、非興業用

プログラム選定

映画教育促進運動

〈結論)

### 講習会風景

編輯子

# 其の一、懇親茶話会

セトラ 御免の 接待役はお母様格の中西先生、司会は総務助手の阿部氏、顛合は ら自己紹介が始まる。 せ会だから序にお名前もといふ事になって、先づ司会の阿部氏 月 出放題、 日。 これは顔合せ会と銘すべき会合である。 臼くお国自慢、 各々校名姓名、 臼く男振自慢・ 出身県、 それから先は天下 臼く嬶体讃、 お茶に煎餅で 工 カン

たるは恋愛相談所長の小浦先生等々、自己紹介終っていざかく は 特に耳に立って聞 0 0 先生  $\mathcal{O}$ 奥方の  $\sim$ ろけ、 は、 人を喰っ夜話で濁身先生をよろこぼ ヒゲ自慢の三勇士、 聯 か アゴが痛 n

し芸となったが、お茶に煎餅では気分

が出な の首振 へ佐渡 り浪花節をもってめでたく散会、それ へと行って仕舞ったらし。 熊井先生、多賀先生両東西のどの横網 カン ら先は三 々 に能先生 伍

## 其二、葡語講師

ふ妙なロ 月 日。先生の名前を知らなくては生徒の体面 ヂツクから剣ゲキ発生に伺ひを立てた。 カン かはるとい

グロだそうだ」 先生「ああ、 拙者「あ うです、 拙者「歴史の講師といふと朝 あ、講師の名かね、 拙者「先生、今度の講師の名 語にホンヤクする余裕もなか は左側を並んで歩いてる巴御前先生から哄笑と共に、 あの講師の ゝさうですか あの読方の講師 あんまり先生の覇 二人居るね、あの歴史をや 名はゴー ь — ったがしばらくし 前は何と出されます だね、あれはね、 ルド・ からB室をやる方ですね」先生「そ 人の講師は」 つきが眞面日なの イ・ヴェリ て件 ネグ る講師はね オといふんだ」 か の剣ゲキ先生 で、 口 ? いやとい 先生 Ħ 本

### 其三、映画会

ほど背中を、どやされてゐた。

たが、 ル事になった。 日。 マキナにフヰツタだけだから、 教普会の シネマが来たの で、 技師には五十嵐氏がバ 一夕日伯小学校 で公開 リキ

覚へ そこで解説もなかるべ の先生が交互に立って、 からすとあり、 工、 唯今画画にーテナ事になった。 笠原、 能、 腕

逆立 に見当ちがひな半畳を入 「僕は軍人」の童話を足躇みよろしく本気になって唄ひ出すし、 一人形とシャ づれも茶目気タツ レ込めば能設説部員、スクリーシにはお構ひな ゙゙゚゙゙゚゚゚ れる、笠原滑稽弁士に至っ ,リのオン方々先づ五十嵐技師、 ては釣鐘草で 裏写し

味津々その尽る所を知らす。

ざる語 醐境を現出する宜なるかな、 のさるシネマ館にて、ラムネョロシ、岩おこしョロシ てありしとは 読 いて藤村御大、流石に解説部長の貫録を示し、 調は、五十嵐技師の熱写と相俟って正にニッバク跣足の 彼等一味はその昔、 東京は浅草六 その従容迫ら の少年に 区

教育映画会第一巻の終りであります。

其の四、日語講習

ー五十嵐氏の巻ー

数個 じ、教育上の理論にせよ、 思はれる発音法低音低唱一語自らかみしめ なれど何そこにのこん るが、その眞実さ、その上品さに、一同身につまされた思ひにて、 の長があり、実際指導上(児童)「叱言より訓育へ」のくだりにて、 しはぶきの音もなし。 月日、  $\mathcal{O}$ 例を引き所信と体験を語る所など聯かアー いみじくも優しきオン姿恰もその喉 の味がある……といふのが先づ全体的な感 実際にせよ、群雄と比べては巳に一日 て吐き出されたるも が螺旋形 メン式の臭はあ か لح

ふといふ世の中だから、こんな事までブラジル式に同化されてゆ くのも亦当然なりといふぺし。 か二週間あまりの講習会で、天晴外国語学校教授の免状をとら 第二日は読方綴方指導上の実際研究、専ら実際的 伯国官憲よ、 それ意を安じて可な の速効肥料式、

### -阿部氏の巻-

5 長ったら 月日。 大日本教育沼革史著者文学士中等教員有資格、 しい名前 光栄ある日  $\mathcal{O}$ コ ワ 「である。 イ見たいな先生からそのウンチクをお頒

義が始まる。いや講義でなくその調子から見て之は正しく

をひそかに噛み殺す。 語尾をポンとアグードして猫なでする所、田村麿将軍の内外画を その語尾に於てをり於いてをり「でせうねツ」「そうですねッ」と、 去り説き来る上古時代よりの教育史解説の金言玉語に対し、平然 思へば、天地を轟かす大音に対して鈍感な場合もある。 理作用が起るもので、囁きに対して全身を耳にする時もあるか をもって鳴り渡り響くのである。しかし人間には時により妙な心 として漫画(彼氏の)など描きゐたる男のありたるは正に憾なり。 演である。あまり広くもない教室中を彼氏の地声はすさまじき勢 一時に見せつけられたる感じがして、思はず身の毛のよ立つ思ひ 然れども、その勇猛颯爽爽たる中に亦一画の慈悲心を持つ即ち その詭き

紙片が廻って来た。 日本文化史再復習といふやうな殊勝な気持で聞きほれてゐると、

### 請願書

どうぞも少し眠気のささぬやう時々脱線などして下さい。 大そう結構なお語でありますがあまり面白くありません

# 聴講生一同 阿部講師殿

さうに、カラカラと打笑ひ。 してお例をのぺ、次に件の請願書を御披見に及ぶと先生さも愉快 全長二時間をもって歴史的な講演の第一 日は終 0 た。早速推参

少しいゝお話が出来ると思ってますよ、 でも皆さん相当眞面目に聴いてゐたやうでしたね僕この次にはも 「それはね、僕のは五十嵐君の速効肥料のやうにはい ハッハツ かんよ。それ

なる程腹もよく据ってゐるが心臓も仲々強 ()

## ー寺門氏の巻ー

彼氏一流の持味といふべきだらう。 日。お父さんから昔噺 でも聞い くやうな軽い気待で聴けるのは、

目躍 向けたりする所流石に日本童語協会に籍を置く童話家とし り鼻の 話は鳳譚 如。 下をつまみ上げたり、人差指を立ててま の勉学時代から始まった。時々光る辺りを撫 n円い日を 天井に で上げた ての 面

光景は実に堂に入ったもの。 演題は児童と映画、 画普及といふやうなものを漫談式にユ 先づ 映画  $\mathcal{O}$ 發達、 児童と映画との ーモアたつぶでやって行く 関係教育 映

てる すまし込んでゐる所など憎らし りでにこりともせず斬らば寄るぞと笑はせて のが少 のどうかすると語尾が口の中でグル 々じれったく感じるが映画の児童 い程小気味がよ グル に及ぼす弊害の と捲き込まれ消え果 

得難き収穫であ 講演者三人二様をそれぞれ趣を異に ったと憶ふ。 (内容別項記載) し内容を異に たもの で実

## リンス講習会の記

習会は、 に亘り、リンス市リンス学園に於て開催された。 新法令に伴ふ新事態に対処すべ 別項日程の通り、一月十八日より二十四日まで、 文教普及会りン ス指導員講 週間

者としての訓練修養の実践に努めたのである。 習寄全部こゝに共同宿泊を為し、起居生活自体、 特に本講習会は、会期中学園寄宿舎を一種の修練道場とし 地方植民地指導

非常なる熱意を以て迎へられ多数出席希望の申込に接 邦人子弟教育のため是に意を強く 柄 と云ひ乍ら、木講習開催要項の發表を見るや関係 した次第であるが したこと 会場の 各地よ

関係上、之等数多い希望者のすべてに満足を興へ得ず次期を約し た講習生は舊。 区学校協議会の推薦によって、十七日夕刻までに会場に馳せ参じ て、御断りした者の多かったのは誠に残念であった。然し乍ら、各 ハウルー支部より十九名、

同 川脇 隆夫

曙植民地

チエテ 柴田 純男

ウニオン

谷口 正二 中央

同

アリアンサ岡島 富男

第三アリアンサ 同 平松 岩一

フォルモーザ

同 北村 米二

元ヴィラノーバ

ヴィラノーバ産業組合

同

貞永

三郎

同 蓮沼 信一

第一アリアンサ

カンポグランデ

佐々木 三代治

元セグレード

講習会講師

リンス市同仁会地方医局主任

今田 求

ブラ拓第二アサアンサ移住地顧問

藤原 茂

プラ拓チエテ移住地農業技師

井上 新一

ヴアルパライゾ英人耕地日本人会長

飯塚 文策

汎ノロエステ青年陸上競技聯盟委員

木村 俐

ヴエラクルース小学校校長

寺門 芳雄

サンタアメリカ小学校校長

細井 鉾次郎

ブラジ ル日本人文教普及会主事 小宮

文雄

同 上野 克男

五十嵐 重虎

同

…… (事務担当) ……

リンス学園 山口七郎

文教普及曾事務嘱託

馬島 明 同 橋本 俊次

リンス講習会

横顔

D·T·O 生

朝夕の行事

遥拝、 で整頓、 美化作業、会員を二分し、 号令の、 これだけを終ってやつと朝のカフ になる。ぐづぐづするものを促すやうな太鼓の音、講堂に集まり、 年前五時、太鼓の音で毛布をけつて起る。否起ばならぬ。三分 静坐、 鉢巻しめて運動場に飛び出て、 国民体操、 朗詠、 朗謡、 それから上野主事のラヂオ体操指導、 つづいて担当講師の精神講話約二十分、 舎外、舎内の清掃それからやつと洗面 エーとなり、煙草が喫へる。 駈足十分間ご元気のない 終って

年前八時より講義開始、午後六時までうだる暑さの中に講義は

の交替に際して約三分乃至五分の休憩があるのみ、まことに ロしき次第である。 その間、朝食の時に約二時間の休憩があるが講義中は講師 ツ

朝か本末テントウの感?なきにLもあらず。 始され、それから朝のやうに講堂で夜の行事をやるといふやうに 夜八時頃から又もや修養団歌踊りとい ふ世にも 画白きも

食事、用水、寝所

瞬間である。 プ一杯の水が何よりの宝物である。 「御馳走さま」と共に頭をティネイに下げる。まことに感謝感激 のもの」となるのである。朝夕食とも大変な御馳走づくめで、 から「頂きます」となって、大槻君言ふ所の、「之から先はこっち のりがある。合掌して何やらむづかしい事を沢山言って、それ 穴倉のやうな所に食堂がある。着席すると又もや修養団式 終って食後の 7 のりとなり ツ

の御愛橋もある。 朝の洗 面の時から巳に赤水である。御丁寧にミミズ君出現など

濃度はいよいよ強く、湯ぶねに湛へられた光景を見ただけでへへ 工と引き退らざるを得ない。 り、 賢い部類になると、 たしかに要領を得てゐる。 洗面器も提げて、 風呂の水汲み頃ともなれば赤色 オトナ少へ潜行する

寒所には教室が充てられた……あゝ、実にそれだけなのである。 しかし何も修養であるぞよ。 四名、 頭をつき合せて、 仲よく眠る野郎ばか でり の 缶詰

溝

井上新一氏(飼育栽培、農

技師だと言ふ。 其他) 学究肌で、最近再度日本の風物に接し この人は帝大出 の農学士で、 現チモア移住地農業 て来た所に

も句切 観念 力を入 の新らしさがある。日本に帰らうと思ふなといふ所に大そう れてゐた。 0 て 繰返 し繰返 詩はあまり得意ではないらしかつたが、 しお話された。 講義内容は実際に 何処に

(C

思った。 方の連中 ばされた事であった。音声は昔日通りにいみじくも優しく低く後 とを努め に感じたことは、ドットル振りが板につ 今田 ンス中日会を牛耳 ドクター には少々お気毒みたいであった。この音声を強化するこ られたならば、 (トラホ 0 た経験からすっかり話がうまくお成 ーム十二指腸虫、 更に一段と光彩を放つに到るだらうと 細菌、 いて来た事と、 児童衛生)第 去年 り遊

0

権威とうたはるるの人であるが、頭が少し三十年型、 近いなどと妙なロジックを使用してゐた不心得な者もあった。 飯塚文策氏 非凡なる天才と崇高なる人格とを以 (修養団式訓練主任) 熱情 って伯国教化国体最高 の人、 神秘  $\mathcal{O}$ フ 人風 オルド 変 り

精神的 には頭が下った次回もどうぞこう言ふやうな方式をもってとお願 したいが、 朝の五時 に軟弱 から、 さて主催者の方で聴許して貫へるものやら。 ? 夜就寝前に到るまで常に先頭に立って肉体的、 な講習生を鍛へ続けて下さった熱意と努力と

0

と思っ 藤原茂氏 た。 扇子を擬 **チ** エテ移住 地 顧 間 剣道六段) 初 めは浪花 節 か た り カン

た所など恰 間を過すことが出来た。豊民道場の話しなど、 経験があるものらしく 然たるもの があ った。然しこう言ふ方 課外講話的  $\mathcal{O}$ 一種  $\mathcal{O}$ 面 興味を以 ここの青年達に  $\mathcal{O}$ 0 て 一

うと思ふ。 も参考として話すことに何等逡巡する必要はないと思った。剣道 の夕の出来事はいづれ話の尻が柔剣造聯盟の方へ廻って行くだら

 $\bigcirc$ 

思った。 なるお語があ 語を話す外人かと思ふ程であった。小さい優しい声でいとも詳細 究と指導法といふ題目で二時間教へる立場になった 細井好次郎(リンス、サンタアメリカ校長〕この人は球技 った、がこんなことは常に実習を伴ふべきであると 初めは日本 の研

 $\bigcirc$ 

随 筆

華やかりし頃

浅見 哲之助

ルツポ 工 ス コラ の校長さんの所 もう幾度使者が

走った事だらう。

「まだ選手が揃はない」

「まだ誰彼が来ない」

どの面下げて、修身を教へてゐるのか、おかしくなる。 ましてや誰彼が釆ないからといふそれ自体、 こんな催しに選手が揃はないといふそれ丈でも、問題としていゝ、 となって校長さんの逃口上に向つ腹が立つ。教育者として公式の とか。使者の帰る度に返答が異る。それが為に一ヶ月以前 合せをすまして、萬事OKになってゐる筈だのに、 エラクルース十三校聯合邦人小学校代表が、今日の親技大会の 一体教壇で、 いよいよ今朝 生徒に からヴ 打

憤慨をやり出す。事なかれ主義の、 十三校の先生達のうちでも、血の気の多い硬派の連中が頻りに 中尾保守先生が出て、 なだめ

保守先生達に加担して硬派連をなだめて、出来る丈所調日伯親善 (?)に此の催を拳行したいらしい。 集まった五○○の児童が待ちくたび れかける。 町の有力者達は

が実行となって、「やるなら姑息的にやるな、堂々とやれ!」戸 に力が入ってゐる。 の音楽学校出のK先生、 いゝ所の軍艦 定刻は遠慮容赦もなく過ぎてしまった。「やれ!」硬派連 7 ーチ。 タクトも常日頃の指揮振りと異って、 お得意の ハー モニカ・ バンドで威勢の

式軍隊歩調で、パツパツ。 その後から各校旗を捧げる五〇〇の日系市民の児童が、 ド イツ

色まで変ってゐる。一番目抜の大通りから行進を始め 役員 の大リボンを胸に、各先生達も南京入城の指揮官 に 目

maquina を命ずる1。児童達もこうなると元気づく、 サア、小さな町で話題に乏しい町雀どもはParece して来て、 Esta Fnbunicnado --行進の大先頭に立って、 わいわい大騒ぎ。 すれ違ふ自動車に除行 排日どころの駿ぎぢ 町長は驚 Ф trem" 7

けられた。「日本人でなければ」てな事になった。 町長の祝詞も、 んも後からのこのこ出て来て潜めてくれた。 雄壯活發、 この事を繰返し賞賛してゐる。 しかも統制的な第二国民を目のあた グルツポ 勿論競技大会の り校長さ り見せつ

#### 

ない せねぽ閉校だ、とおどかされて、どうでも試験場に臨まねばなら 頃不勉強で、ボンジア位しか知らない連中は心配した。 令が出た。熟達の程度が問題だが、 伯語に熟達せざるものは、外国語教授まかりならぬ、といふ法 着伯日の浅い先生達や、 でも受験 常日

ボツセの為に身代りになってやる」てな取引が済んで、試験場に ラベラのAに頼む。「仕方がない。俺は叉此の次に受験して今日は 乗り込んだ。 「頼む、身代りになって呉れ」不勉強組のBが当地の商業を出たべ

ある本物のBは、 と呼んでゐる。余り退屈でAはBになった事も忘れて、ポカン 「パンにカフェー」 してゐる。壁一つ隣りの室で結果如何にと心配して片唾を呑んで 「お前は朝起きて何を飲み、何を食するかしてな口答試問だ やきもきしたが一向にAは立ち上らない。 「ムイトボン」でパス。試験官が Б ! В !

#### 「Bは欠席か」

たAは、「プレゼンテ と試験官の多少いらいらした声である。其の時やつとBにかへ 0

### 」と起立した。

「何故君は、先刻から何度も呼んでゐるのに、返事をしな カン 0

を想ひ出しましてね」 余り 天気がよ 1  $\mathcal{O}$ で、 そを眺めてゐると、 0 い恋人 の事

にパス。 「ウン、それ丈葡語が話せたらムイトボンぢや」これでB君も見事

#### $\overset{\wedge}{\bigtriangledown}$

ふので、その交渉をポ語のアマリワカラナイTが当地で一統 人経営ホテルに行った。 一回づゝやった。ヂャンターは会食して益々親睦を深めやうとい ヴエラクルース十三校 「ドットール」と言ってしまった。 「先生」といふポ語がちょっとど忘れ の先生達で教授研究会といふ催 しを月に の独

を用意して待ってゐた。 ルが十三人も居るのかと、 になった。親日家の独人ホテルの主人も当地に日本人のド 「今夜十三人の日本人のドットールがジャンタに来る」と 目を白黒さした。 そして特別 ツ ふ訳

配した。 謀者×××××を△して呉れる」 長席に今は亡き0が坐った。 な宣言文が可決して外務、拓務、 で地団太ふんで怒る事だらう。そして俺をも一度生かして呉れと れを送付した。その文句が余りに過激だといふので〇〇会では心 った。何しろ血の気が多かった。今度の事でもきいたら、 移民入国規制案が通過した日、V町に緊急教員大会を開いた座 マ様に文句を言ふ事だらう。 Ш. の気の多い0は「俺に000を貸して其れこんどの主 悲憤をかくし切れな 母国一流新聞社並に軍部に、そ と泣くので、なだめるのに 1 表情に、 完

教育的施設(略記)学校に於ける

ず、為に財力が或る程度に限られ、仮に二世教育を行ふにしても、 在伯日本人に其の数に於い て植 念が解消されず、常時在植者の移動甚だしく、 現勢としては、これすら容易の業ではないが、教育的施設より、 伯年数に於ても、 れは現下の植民政策に主因する所もあり、 いた二世教育状態は未だその途上にあるといふも過言でない。 校舎があ に分集してゐる関係上其の団体組織に於ても、 止むを得ざるとは言へ頻りに転校相次ぐといふ状態で、牢固とし したる教育的施設が在植者にとっては大した関心事ではなか である。 民地百年の計を樹てる能はざる為、今日までの児童を中心 確立せず、 り運動場があるといふ程度で、惠まれざる環境に於ける 一方亦対教師問領が常に物議を醸 亦同日の諭でな ても、 列国に比し、幾分劣勢を示し、 \ \ \ 其の上余りに廣汎なる地域 一攫千金錦衣帰国の 為に恒久的教育方 小規模なるを免れ 教師亦事情 0 た

#### ---

た。 植民 重なる前述の理由により終に最後まで孤然たる校舎一棟を維持す るに過ぎなか 学校経営を助成する意味に於いて、 関係機関に於ては早くより之を憂へ、植民者に落着きを輿へ 地は 具を補 財 政 給 った植民地  $\mathcal{O}$ し、教師を優遇し、専ら其の目的達成を図っ 窮迫により、 の多か 其の範囲内の施設に った事は洵に物悲しき次第であ 各 瞳 の補助金を供興し、 しか止らず、 たが、 相

再考すること、 の学校終焉に際し、 粋 の嵐卒然として起り、 お しなべて其の 恰も死児の歳を数ゆる 散 へて某校の事実記述し、 犠牲 とな 古きも、 0 た 今日 新らしきも、  $\mathcal{O}$ 愚 に に於ては、 似たり 以って将来に胎す 大なるも、 ゝる事を 今次

文献  $\mathcal{O}$ 一助にした いと想ふ。

密を加 男女青年団員の大部分が同校の出身であるといふ師弟関係も一 草分けであ の集団 となり、其の教育的専業を渾然一体となって専心助成に努め のであった。 任し、 古きに属する方であり、  $\mathcal{O}$ 学校 地である状態により、割合に移動性少なく、 へた関係上、児童訓育に関しては植民地を挙げて、 父兄母姉常に学校を訪 は り、十幾年を恰も在植者の親類 M 市  $\mathcal{O}$ 東北三〇粁の地点にあり、管内植民地とし 珈琲を主作とし 問して教育上の連絡を図り、 の如く、 てゐ る関係と、 其の交友に 教師亦同 地 地 方 助 に 親 主

機関よ 型)校訓力 種記念写真日伯偉人肖影を掲示し、 幾百の青少年文庫を有し、同校自身に於いて購入したる諸々の教 材教具あ 先づ教室内を覗けば、 りの支給品も多く、 ŋ の向上を図る等、正しく一見小博覧会の観を呈したも 壁間に児童作品、 ンダ 各種記録表、 同校が元々古い学校である関係上、 マッパ掛図に類するもの十幾種を数 各種参考品 各科目指不断 不断の常識練成 へ日本家屋、 の常針、 武者姿模 校歌、 指導 各  $\mathcal{O}$ 

並に人格 である。

者慰霊 常 て目覚るば に額づ の努力が首肯される。中央に青年団 て管理され、 舎外に出 あ ŋ カン づ て禮拝を行ふ他、春秋二李に祭禮あり、 れば、 り美はしく、それ等は児童自治会により四班に分割 常に植替、 金色燦然として無言の 校舎と相接 補植調整を施されて居り、 て花壇あ 教訓を輿 の建設に り、 四囚時丹精を競ふ  $\sim$ かゝる在植、 児童達毎朝碑 慰霊を兼ね 児童達、 物 7 故

愛郷心の滋養に資してゐる。

#### · ·

縦横各々 鳥たち約八、 小屋、 舎と教師 四米高さ三米の 止り木、 九十を輯め、 舎宅との 鍵箱、 中 金網 間に小鳥の家と泉水がある。 ブランコ等を設備し、 興趣更に湧くものがある づくりで、 内部に諸種 色とりどり  $\mathcal{O}$ 草 鳥 木を植込 の家は  $\mathcal{O}$ 小

横 児童をして無味乾燥なる舎外生活の荒みより救っ 込み、形面白き岩を据 四米深さ八〇糎、 泉水は之に隣接して設けられ、セメントをも 中央に中島を築き、 へ、浮草をうかべて河魚二、三百を遊ばせ、 日本杉、 0 てゐる。 柳、 て構築され、 バラ等を植

ども、 習場にも使用する。傾斜、 高さ十米に及ぶものあり、 常時自然生のものをそのまゝ手入して育てたものであるが、既 ふべきである。 に充て、 運 動場 同時に亦変化もあり、 夏季に至れば午後よりの林間学校とし、  $\mathcal{O}$ 部に位する所に林間遊歩場が 高低甚だしく、 樹数的百二、三十、 十分に一部の使命を果し 使用上の不便は感すれ ある。 常時は弁当の 臨時に学芸会練 樹木は学校 てゐると言 時間 開

協 総 販売部の資金となり、国防献金並に慰問品となり、 がある。三年以上の自治員によって経営され、 となり、遠足会の補助金となり、 となり 議実行されてゐる。 べて自治会に依って統制され、 自然林の下部よ 縮図 「である。 教育シネマ ŋ 運動場 正しく勤労教育の徹底化であり、 会の基金となり、傷病児童に対する見舞品 の下面に及ぶところに約半域 小鳥の家、泉水の設備費となる。 作業日割は月例集会によって、 その収益は学用品 回覧図書 恰も産業  $\mathcal{O}$ 試  $\mathcal{O}$ 

然林と試作園との 中 間に約三、 兀 )株のバ ナ ナ がある。 児童

達によ 豊沃の為に四時給実夥しく、毎回児童一 及ぶといふ。 って禍植管理されたものであり、泉の水を之に引き、 人当り的三個宛の分輿に 地味

悦びである。 当てたものであるが、 者寡聞にして適切なる資料を有たぬ馬に同校の施設を以って之に に類するものは数多き学校の中には或は之以上の歴史と組織を有 し、着々として児童教育の実を挙げつゝあるものがあると思ふ筆 以上、同校の教育的学校施設に 読者諸賢の参考ともなれば、 ついて、其の大要を述べ (完) 編等者望外の たが、

希望

朝としなれば浮び出づ。希望は沖の帆の如しつねに楽しく微笑まん

また新しき花は咲く。枯れて散り行く花かげに希望は磯の草の花

ひとのを波が運び乗る。 のとのを波が奪ふとき がとのを波が奪いとき

つねに楽しく微笑まん

希望は永久の不死鳥

わが世は若き春に満つ。

# 日語学校旧教師の横顔

四魂渾然為一塊バウルーの部

同志刊行何其偉竹松之丘芳百花

悌無泣讃兄等之業

#### 教師の部

大槻五郎氏

どことなくお坊ちゃんらしい風格を具へてゐる。 体躯は堂力として居、 鼻下に少しばかりの蓄 へものはあるが、

迭つ 動 至って純情の持主で齢三十を過ぎても尚、学生気分が抜けきらす る。豪放磊落、眞に明ツ放しの男で、些かの邪心もなく直情径行、 幾何の農耕経験もなく教職に就き爾来専ら子供達相手の生活を ツ方面に特異の才能を発揮し、当時の名物男から、その儘民族運 に居る。それも其の筈、早大専門部政経科の出身であり、 天眞爛漫の見本の様な男である。 の礎石たるべく茲南米を新天地に選んだもので、昭和六年一月、 名前から判断すれば、何となく用心棒らしい所が聯想されるが てゐるから、彼の気分が革らぬのも亦宜なりといふべしであ スポー

育に挺身し、 ・
デア 随所にその天分を発揮し、輝かしき教育的功績を胎 バーラグランデ、 富士第三と教職を重ね て二世教

してゐる。

聖市 少年指導に優れたる才能がある。宮城県桃生郡の産にして、 音楽、剣道、 に在ってコチア産業組合事務所に籍を置き、折角奮闘中であ 陸上競技等に趣味と特技があり、 父兄との協調青



#### 矢野留蔵氏

その一人一言に述懐を寄せて

人である。 氏は大正十五年六月の渡伯であり、 在伯教師間では相当に古 1

歩としてアグアヂパイオル校、サンルイス校と転じ、その間正に 偉大なる足跡をのこして居られる。 十ヶ年、一意専心二世教育の為に挺身されたものであり、 教職歴を窺へばバウルー区バーラグランデ校を教師生活

躍をされたものである。 バやルー区学校協議会並に教育会設立当初より、役員の席 評議員、並に教育会委員の要職に就き、 社会的にも相当 列

人子弟の為に面倒を見て居られる育英の士である。 福岡県の出身で、現在バウル 市にお *\*\ て寄宿舎を経営し 邦

其の一人一言に臼く

転出が、著しく認められる。 る様で、嬉しい現象である。」 「農村に於ける日語部の閉止と共に、邦人第二世の、伯語方面への 即ち教育国日本の姿を目の あた り見

い存在である。 個人主義に強く共同精神に乏しい邦人 社会にあ 0 て氏 は

京都府立福知山中学校卒業後力行会海外学校に学び昭和十二年

道を踏ず農を以っ 附近邦人達の驚嘆の的となってゐる。インテリー青年としての常 渡伯、アリアンサ移住地に一年を迭り、 さいて居る。 辞し同志三人何れも独身者にて五アルケールスの借地をなし 敬愛され父兄の信用を得叉青年指導に盡されたが、昭和十二年に 駅ボアビスタ校に奉職、眞に全力をそゝぎてよき師として児童に ことなき点敬服の外はない。現在多忙の身を日曜毎に児童の為に 四年間何等の争論もなく三人の長として農に励んで居られたに 十月我こそ海外發展の指導者たらんと旅ゆるが如き心をいだきて て一貫する精神、彼が渡伯当時の決心を変へる 転じじてドゥア ・ルチー は 後

注目に値するものがある。 尚今年末に、 ょ りよき半身を求め に帰国とか `\ 帰伯 後  $\mathcal{O}$ 活 躍 は

 $\Diamond$ 

### 一人一言に曰く

具現に力を致すべきである」 にあり、然して導く者導かれる者、 「在伯邦人第二世の邦語教育実践は、第一に父兄の自覚を振起する 相携 へて日本精神の滋養と其

#### 野口 清治

ヴエラクル 度をも の話題とな 氏は昭和十年十二月廿九日の渡伯である。昭和十三年八月一 って二世教育に従事されたもので、其の功績は今尚植民地 ーズ駅大和校に奉職し、爾来三ヶ年、 ってゐる。 最も真摯なる態 旦

産業組合に 三重県南牟婁郡の出身で某中学校の卒業、現在ヴ 生産陣の為に活動中である。 工 ラ ク ズ



其の一人1言に曰く

此の考へを捨てない間在伯同胞 「日本は益 つでも役に立つ様、 々強くなる。其の為には日本人がどこに居やうとも、 其の民族精神だけは歩調を揃 の将来は安泰である。 へて起きたい

#### 大串 実 氏

共に献身的努力をつゞけて学校閉止まで奉職された。現在ト 敗し、身体の健康を取戻すまでと、 ド耕地に晴排雨読の生活をされて居られる。 延長線ビラチニンガ駅ベアード耕地に配耕され、 はらわれ、薄給にもかゝわらず研究会に講習会に出席されて夫妻 二世教育に邦語教育の必要かくべからざるを悟り非常なる努力を に夫人を、 めて大成の彼岸に一歩迄漕ぎ着けしに、惜しくも大病を患ひて失 は珍らしく当てゝ、伯国に於いては農に勝るものなしと土地を求 一時的にと伯国に於ける邦人教師の誰も一度通過した路をたどり、 昭和六年渡伯、海外植民学校出身者の常に五六家族就働する 同地方に於ける棉作熱に刺戟されて独立、インテ 自身は三キロ程はなれた同校の分校トレードに奉職、 ドアルチーナ 家ボア 一年耕地生活 リの百姓に ビスタ校  $\mathcal{O}$ 



#### 人一言

ない。此 事を期待 しき限りにて現在の邦語教育状態を思ひ観る時、今昔の感に 教育史發刊に際し、其の主眼とする処吾々在伯邦人の等しく慶ば の書の發刊を期して子弟教育方面に、 して居る。」 多大の得る処有る 耐へ

### **浦川** 久義 氏

のであ 発生は三ヶ年に亘っ ŋ バウルー教育会委員として、公私共、 てバウル 区中央バタリヤ校に奉職され 稀に見る教育 た

青少年指導に当って居られる。 功績は永久に不滅の光を放つものである。 者として伯国邦人第二世教育の為に尽力されたものであり、其の 福岡県の出身である。 現在バラコ ンに在り、



## その一人一言に曰く

ある。それを思へば、 でものこる。 「今度の法令によって、一番大きな打撃をうけたものは子供たちで 教師たりし吾々には、 深い悲しみがいつま

#### 津村 **久嘉雄** 氏

績をのこして居られる。 当初より評議員兼委員として内外のことによく奔走し、大きな業 数月間でも古参に属し、バウルー区学校協議並に同区教育会設立 バウルー区バラコン校、昭和十三年九月より十五年三月迄更生校 へ、即ち前後九ヶ年間を二世教育の為に献身されたもので、邦人 氏は昭和六年二月の渡伯である。其の翌年八月より教職に就き、

る。 和歌山の 出身にして、現在はチエテ移住地で商業に従事中であ



## 其の一人一言に曰く

る 「日語学校の閉止は、其の父兄に新なる覚悟を輿へた様なものであ

#### ヴ エラク ルー スの部

成田 俊興 氏

燃えて渡伯 和十二年五月から十三年九月まで第二昭和で黒板に字を書いてゐ なものがあつたに違ひない。どの程度に日本での幻がこゝブラジ るにはチト早過ぎるがこれまでの教育的歴史を眺めて見ると、昭 ルで実を結んだか、まだ若くてこれからの人生が長いだけ憶測す 鳥取県西伯郡大国村の出身である。「新日本建設」といふ意気に したとあるから、其の思想たるや実に崇高にして遠大

辿りつ 歩を印したがワニやオンサが怖くて、聖州へ落ちのびたといふ歴 者であったらしい。長近母国に於ける印刷物が、漸次此の傾向を 知れない。日本高等柘植学校を卒業し、最初アマゾナス州に第一 史になってゐる。 教授上の特徴として、發音式仮名遺主義で「形よ ゝあるを想ふとき、流石に発見の明があつたと言へる り実」の かも

特技としてボート漕ぎが挙げられる。

進中である。 月の渡伯、 るが、まさか生産的道楽といふわけでもないらしい。昭和八年四 趣味は、ちょっと其の辺の有象無象と其の類を異にして養蜂とあ の体格から見ると、やはり何かで鍛へた体といふ想念が起る。 現在ガルサ駅ロツサグランデに居城し、 事業完成に躍

 $\Diamond$ 

その一人一言に曰く

「寝て食ふて、

たれる事ぞや

むづかしき」

年分位が自分の物の様に思へたと言ふ。流石に若い時代の容想は それは昭和八年十一月二十五日で、上陸するとまるでブラジル 日本で学生生活を了ると直ぐにブラジル の新夫地に雄飛した。

華やかで、無鉄砲なものである。

サンタローザに入り、 だと知ると、昭和九年十月から、 尽力し、昭和十五年十一月、ブラジルの年分を貰ふことを諦めて、 ケーラカンポ、イピランガ、ブエノスアイレスと専心児童教育に り、先づ福双を振り出しにコレゴデバルポーザ、サンタアンナ、シ 今盛んに耕転事業に邁進しつゝ、次第に土地を廣めてゆくつもり 暫らくあちらこちらを巡遊して、ブラジルが案外むづかしい所 永い間に見覚へた百姓を始める事になり、 豫而覚悟 ? の教師生活に入

どうやら天来的 新潟市学校町 Oの因縁であっ 出身とあるから、彼の たらし 七ケ年に亘る学校生活も

日本植民学校の卒業で、大いにこれから移植民事業に頑張ると

 $\Diamond$ 

「在伯同胞よ、眞の日本人となれ。」その一人一首に曰く

林原 二郎 氏

氏は昭和五年三月三日の入伯である。

県立工業機械電気科の卒業で、昭和十一年より三ヶ年、バウリス 父兄も亦其の労苦に満喫の感謝を捧げ、其の活動に対する支援を ク線キンターナ群、希望校に在職し、其の燃ゆるが如き児童愛に 二ヶ年有余を殆んど児童訓育の為に献身されたものであり、 いって、 しまな 在伯二世児童の将来に於ける活躍を幻に描きつ 0 たと言ふ。 7 一般

である。 鳥取県西伯郡の出身にして現在はV駅ボアソ ルテに後図書策中

 $\Diamond$ 

## その一人一言に曰く

「二世達よ、日本を忘るゝ勿れ。」

### 鵜森 磯一 氏

第一校に於ける創業当時の教師として、同校の子弟教育ばかり 氏はパ延長線の教師としては最も古参に属する人である。昭和 教育会方面にも常に卒先して活躍されたもの であ った。

造詣深く、年久しき昭和校の在職中も、国語指導に児童の訓練に、 非常に優秀なるもの 愛媛県温泉郡の産、松山市私立再行寺塾の出身で、国漢の学に があ った

改選には副会長 昭和二年六月の渡伯で、現在はV として会務を処理されたものである。 · 駅ボ アソ ル テに在 Ŋ,

 $\Diamond$ 

## 其の一人一言曰く

「山櫻、こぼれ吹く日の春を待つ

### 押田 真佐男 氏

立病院に入って薬局に勤務した経験がある。東京第三中学の卒業 はなくそれが潜在意識となり、遂に雄図を決行したものと言ふ。 で、学生時代よりブラジル研究者を共としてゐた関係上、 氏は十六歳にして海軍を志願したが 近眼が禍して失格 何時と

を最初として、次にマリヽア膠キング日伯校を経て最後にV駅ボ 方面に其 アソルテ校に転職 所多大なるものがあった 渡伯は昭和八年八月で、教職に就いたのは北西線ブラガ日伯校  $\mathcal{O}$ 動機を現はし、 したものであり、学習指導方面では特に絵画 趣味として、シュア写真に乗馬があり、 体育指導と共に児童訓育に貢献する

特技として絵をよくする。

る。 千葉県安房郡鴨川町 の出身で、現在はボアゾ ルテに待機中



## その一人一言に曰く

なる主義で行かねばならぬ。それには犠牲の二字を吾等の辞典よ り消抹して始めて此の恰善主義が生れる。・ で、恰善主義こそ吾々の新体制である」 「利己主義を捨て、恰善主義、即ち人の為にもなり、自分の為にも 共存共栄とは即ち之

### 山本 龍雄 氏

それが渡伯 る道路を通った組の一人である。 な深刻なものは此の人の場合なかった様に思はれる。先づ平坦な 氏は静岡県庵原郡 の動機となつたとあるから、あちらこちらで聞くやう の産である。ブラジ ル宣伝映画に刺激されて、

迎へられてサンタアンナ校の教師となり、昭和十二年一月より同 られたものである。 十三年七月まで献身的に児童教育の為尽力し地方教化の実を挙げ M駅ボンフィン耕地にてしばらく農事を実習し、後V駅に転じ、

サグランデに在住し、専ら静養中である。 る。県立中学の出身で渡伯は昭和八年八月、 趣味として文芸に音楽があり、非常に生活内容の豊富な人であ 現在はガル 、 サ 駅 口 ツ



# その一人一言に近詠をよせて

読みつゝ位かゆ」 「センセィ、ゴビヤウキ、イカガデスカと可愛らしき片仮名の文は

邦人教師の末路は大方あはれなるか就中吾は病にたふれぬ

 $\Diamond$ 

帰る日知らぬ子等待ち給ふ老父思へば癒

ゆる望を我拾てがたし



寝る前 の此の一ときを眼鏡はづし唯茫漠と床に坐り居り

#### 丸岡 薫 氏

を受験して合格されたもので、大正八年まで郷里椎田校に奉職さ れたものである。 先生は大正六年三月准教員養成所を卒業され四月には既に本正

居られるものである ら二世教育の為に尽力されたもので、教育上多の功績をのこして 六月より同十四年五月迄ヴエ駅有明校で其の解任を見るまで、専 デ校に大正十五年一月より昭和二年八月まで在職し、昭和十二年 合に健闘国中である。 同八年十二月渡伯され、ノロエステ線チビサツサ駅バラグラン 稿岡県築上郡の出身で、現在はV駅産業組

 $\Diamond$ 

其の一人一言に曰く

「伸ぴんが為に肥料を欲し

人たらん為に学ぶ

伸びんとする虫は必ず屈す

屈せし力の偉大たるを

踏まるゝ草花の意気もて

大和魂を移植せん」

### 小澤 正男 氏

校 特に道徳教育方面に努力し、其の成績にも頗る優秀なものがあ 後として教育界引退まで、同胞第二世の為に献身された方であり、  $\mathcal{O}$ 氏 教職に就き次に第二パウリスタに転じ、 は昭和八 年八月の渡伯である。同十一 年に至ってガルサ中央 口 ツサグランデを最 0

図書策 研究には深刻なもの 静岡県庵原郡 中 である。 の出身で准教員養成所を卒業されたも があ 0 た。現在ロツサグランデにあ  $\mathcal{O}$ で教育上 0



## その一人一言に曰く

「永年徳行練磨に力を竭したが、その結果を見ず引退し に思ふ。第二世の将来が色々に案じられてならぬ。」 た事を残念

### 大浦 光次 氏

最後に 当線 を教師生活 他者の信望も、 の為に働いたもので、硬骨の教育家として、其の足跡も大きく、在 氏は昭和五年五月の入伯である。ノ に其 · 再 び第一メスキッタに復職され、前後八ヶ年を、二世教育 の翼を広げ、ヴ駅バンディランテス校の教職についたの の初まりとして、第一メ、カフランン 流 石に絶大なるものがある。 ロ線にある事暫らくにして、 デア学園と転じ、

嫌な所がある。 趣味として殊更に挙げるものはないが性格としては著し く負け

は偉 之が叉同君の為には長所となって、数々 伯大会に 三等に喰ひ込んでゐるのを見ても、其の非凡なる実力が解る。 は、態々サン  $\tilde{\mathcal{O}}$ である。 雄弁には相当に自信があるらしく、 パウロまで遠征して、大豪の中に伍し、 の仕事をのこしてゐる 国 会  $\mathcal{O}$ 

って、 宮崎県北諸県郡の出身で、都城商業の卒業、 雑貨商を開発中である。 現在はガルサ町に

 $\Diamond$ 

其の一言に日く

気でやれ。」 とが男子の本懐である。「倒れてのち止む」日本人は皆んなこの元 「弱腰の者には何一 つ偉 い働きは出来ない。頑張って頑張り抜くこ

#### 原元 保 氏

のでツツー 先生は東伯前、東京及び大阪にあって ット の方が大層上手だそうである。 逓信事務に携はられ た

ある。 三年の間専ら二世教育の為に尽されたもので、凡らく先生ほど沢 しいことゝ其の体験の豊富なる事に於てパ延長線随一と称されて 山の学校を知ってゐる人も少なからうが、同時に植民地事情 昭和二年六月十五日のサントス着で、同四年から、 最近まで十 の詳

は歴史的読物で加藤清正など大の御ヒイキ 教授上の特長は修身訓話、及び分数の解法となっ である。 7 っ る。 趣味

って後図書策の傍ら子供達と遊んで居られるそうである。 熊本県鹿本部 八幡村の産で、鹿本中学の卒業、 現在ガ ルサ 市



その一人一言に曰く

する。」 「児童教育に専心せんとすれば、尚一層父兄諸士の理解と協力を欲

#### 川崎 公氏

氏は昭和八年三月の入伯である。同十三年九月、 カフェラン

記バ 等に趣味がある 其の成績も亦顕著である。 教育に尽力されたもので絵画、毛筆習字指導に秀でたる天分あ 後にガルサ駅バレロ校に其の職を重ぬるまで都合三ヶ年余を児童 ヂア駅パッカス校に教職の第一歩を印し、ハウルー領事館に暫ら く籍を置き、パ延長線に進出してポンペイア中央校に再職 レロである。 北海道の産にして北海中学の出身、現住所は 特技は独逸式体操で写真、写生、音楽 ŋ

その一人一言に曰く

「シャボン玉は或る大きさに達すれば破裂する。世の盛衰も亦、 んなものか」

### 中尾 義雄 氏

健な人である。 写真で見ると大層怖いおぢさん見たいだが、其の実まことに温

教師となり、法令による閉止まで、職責を全うされたものである。 的業績にも亦見るべきものが多い。最後にヴエ区ベラビスタ校に 日本画部に籍を置いた人である。 の学校に奉職し一息専心児童教育の為に献身する所あり其の教育 昭和六年十月の渡伯で、長らくマリヽア区にあって瑞穂其の 福岡県築上郡の出身で、門司高等学院の出身、東京中央美術社、

 $\wedge$ 

その一人一言に曰く

「日語指導機関のない明日 の事を思ふ時今日の忍苦何か ある。」

### 近藤 春男 氏

この 人は非常にすべてがガツチリとした人である。自身がそう

性を生か 0 た如く、 してゐた人である。 児童 の訓育に当っ ても少しもソツがなく十分に個

にピ 教師であ 教職歴としては初めキングに ザ んに其の った。 職を辞するまで、 奉職 よく二世教育に献身された青年 後セ レ ヂャ 校に転

# マリヽアの部

## 山崎 正 魁 氏

任し り、 に基づ 状があるといふ変り種である。クリチーバからサンパウロ州に移 陸軍歩兵と称 海外植民学校に学び渡伯後は造園研究に浮身をやつし、 情は認めてい は角無卵式 押 リベロンアレグレ、 て、  $\mathcal{O}$ 強 最後に公栄で、 て遙 11 先 慈眼愛語といふ新型である。 生である。 々ブラジルに何かしかに来たと言ふから一應その して威張ってゐる。東京物理学校高等師範科修業後、 ゝだろう。海軍大尉を親爺に持ち、彼自ら帝国軍 東洋、 昭和五 ハト、 サンタイ マメをや 年三月、 大南米研究同志会 った。 リアと日本語学校を歴 児童訓育上の 技師 の主義  $\mathcal{O}$ 免

大体から言 のある執念深 に生を享け、 大会毎に名を成してゐる。 特技として柔道初段の腕前があり、その精悍なる攻撃によ 此所にも彼と 二に両 い男で 現在公栄に頑張 しての性格的矛盾がある。 つながら彼の気性には凡そ縁遠い様に思はれる あ る。 趣味として花井栽培と魚釣りがある。 0 て、 子供達と遊んでゐる。 高知県吾川郡大崎村 0 · 骨

## その一人一言に曰く

「僕のこれまでの 人生に於ては、 怖ろしさといふものを感じた事は

ない。強いて言へば子供達が俺を怖れては居ないか、 しさがある。」 といふ恐ろ

随分其の一挙一動に注目された方である。 紅一点ではなかったけれども、 数多き男性中の 女教師として、

地に生を享けただけ、女ながらも児童教育に対する信念には流石 に確然たるものがある。 長野県上伊那郡伊那町の出身で内地に於ける有数なる教育的聖

男教師をして舌を巻かす程の腕前で、今も尚職員間の話題となっ 童訓育の為に貢献されたものである。 嶺と教職を重ね、十五年二月教育界引退まで前後七ヶ年、一意児 てゐるそうである。 渡伯は昭和七年五月で、共和日伯を振り出しに、フ 殊に数学に於ける指導は、 口 ーリダ、

芸方面に深い趣味があり、それ等が人格の上に反映してゐると、 去る発生が語ってゐた。高女並に洋裁学院の卒業とあるから、 しかに良妻賢母の範たるべき人であろう。だが己に奥様である。 私人的な方面を覗けば、特技として洋裁があり、読書、音楽、手

 $\Diamond$ 

その一人一言に日く

「眞実一路、形より実の生活を愛します」

まで行って五千五百萬の中から選り抜いて意気揚々、花嫁同伴で る。ブラジルのコスモポリタン的な美人では気に入らず態々日本 再渡伯したといふ、念の入った物好みの代表的存在である。 俳人かそれとも住持さんかといふ変手古な名前を持った人であ

三月、明倫舎に転じ、十四年二月、ポンペイア区サンタエ 校と巡歴し、 昭和九年四月の渡伯で十月には早くも東洋校に奉職し、十三年 同地を最後として国粋の嵐に吹き捲られてゐる。

ら、 のか、 と言へぼ勇ましい方である。香川県大河郡長尾町の 事に到るや大い 彼も亦相当なものである。 折角奮闘中である。 叔近メキメキと外交員間に頭角を現はし、 ウニヴエルサル建築債券正外交員として、 に職業意識を発揮して、 男は小さいが、元からの素質があ 音無しいと言ひたいが、 口角泡を飛ばすと言ふか 談一度び債券 新局面を開拓 どちらか 0  $\mathcal{O}$ 



## その一人一言に日く

は、 世の中は五分五分だ。」 「物事は思った通りに邁進する事だ。 自分の道は拓けな V ) ほめられたり 人の顔色ぽかり見てたん 嫌がら れた り で、 兎角 で

### 加藤 忠三 氏

講習生に早変りして忽ち眼科医となり、今では 府医局員である。 したが理論と実際との調和がうまく行かず、折柄募集中 へられた人である。後市井の一員として半歳ばかり魚問屋を開業 マリリア有数の学校昭和第一 に居城して当時名教師 レツキとした州  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 阿仁 会

8 るが、この仁の如く今日と明日を境にして全然過古の片鱗をも止 ず式 環境の変化によって、性格の変哲を釆たす事はよくある例  $\mathcal{O}$ 一大変化は、舊知 の斉しくオド ロキとする所である。 で あ

をや 秀い で教職につき、昭和六年以後は併記昭和で七ヶ年チーチイバツ も趣味に属する事かも知れぬが先生はお嬢さんの世話が大好きで、 山口県長府町の産で、昭和三年に渡伯すると間もなく、 った。 で枯すゝ 趣味が演芸であ きの舞踏など仲 り、 々堂に入ったものである。 訓育上の特徴も情操教育的方面に やは 西北線 り之

だから、時己に病膏盲に入ってゐる。 お嬢さんさへ見ると、アレをあそこへなどと考へ込んでゐる始末

ら出張 一言に日く 明大商科の の大多忙を極め 出身、 現在はドト てゐるとは悦ばしい次第であるその ルゼラス  $\mathcal{O}$ 助手とし て、 出

に目覚め、 「日語学習指導も大事な事に異ひない 植民地衛生に一般の留意を期待 が 此  $\mathcal{O}$ 後は文化人たる したい。」 の資格

#### 及川 末男氏

経営 於ける辛酸を嘗め、後忠清北道に転じじて私立公認日本語学校を 鏡北道にて豆満農場に入り、国境警備に従事して、審さに大陸 学校第二部科卒業後、母校に助手として暫らく研究し、 る運命と豊富なる体験の所有者である。 先生は大陸を股にかけた人である。茨城県友部郡日本国民 し、帰朝後仙台市にて基督教育児院に奉職したと言ふ数奇な 朝鮮

練所を経営し 渡伯は昭和九年三月で、翌年バウル マ駅共和日伯、 ってゐる。 明和と転じ、 現在第一サンジ 駅更生校に教壇 ヨゼに て少年訓  $\mathcal{O}$ 人とな

誓つ \$° 全身全霊をも 性剛放の様な反面に非常に純情な所があり、児童訓育に 常に重点を精神教育に置き、 た事などよくこの間の事情を物語るエビソー 嘗って秋山照禅氏講演後の感想發表に、 って幼き心に其の思想を徹底させすには 談一 度び日本精神 泣 いて孝行を師 ドである の事に及べば かぬ 当つ

岩手県肝澤郡佐倉河村の産であり、今後も尚子供達の面倒を見

## その一人一言に曰く

て其の安住の地が私自身の中にあることを發見した。 「我は永い間、安住の地を求めて歩いたそしてやつと此 0

私は悦んで此の国の土になろうと思ふ。」

### 椿 早乙女 氏

見、未来の牧場王たらんことを企画して渡伯したといふから、 の度胸は太かつたらしい 日本では横濱中央郵便局の事務員であったが、海外雄飛の一念抑 へるべくもなく、神戸教養所事務員に転じ、 やさしい名前 の人であるが見た所もごらんの通りである。 緑滴る豊草沃地を夢

異で、ロバで広漠千里の呉れ手もなく、資金調達の為、 世の将来が気にかゝり、遂にしばらく牧場王の方を見合せる事に が可愛ゆくてたまらなくなり、色々の事を考へて見ると、 動機から発生に迎へられ、 カへ居城して、除々に時機の至るを待ちつゝあ して、盛んに子供達と遊ぶことに決めたと言ふ。 さて実際にブラジルを見て観ると日本での空想とは天と地 いよいよ教壇に立って見ると、子供達 0 たが、 フトした モン 在伯二 ブ  $\mathcal{O}$ 'n

あった。 県中郡 長は読本の解説に秀いで、分数指導に自信があるそうな 特技として弁論があり、趣味として読書、釣があ の産、 県立小田原中学の出身、 渡伯は昭和十 り教授上の 一年一月で 神奈川

その一人一言に曰く

人を造り 世の凡人よ嘆く勿れ、天は凡人を好む何故なれば、 しが散に。」 天は幾多の 凡

松井 八千尋氏

五年 ゐる人である。 氏は実に痛快な先生である。 八月現地入植まで、各地に於いて随分面白 昭和十年七月の渡伯であるが、十 い逸話をのこして

あ たが中途之を辞して形勢を観望し最近共進枝に再起したもので 年当管内ドアルち った。 教壇に立ったの は ナ校に転任し、後、發揚校にしばらく在勤し ノロ線ビリグヰジンニョ中央校で、 一九三六

青森県が原籍地 当っては極度に智育偏重を排撃し、 音楽と漫談に趣味をもち、特技は陸上競技とある。 であ ŋ 函館師範の 出身と言ふ。 人間の育成に つとめてゐる。 児童訓育に

「吾々は人生に、為す所なき教育は要せざるなり。」

その

一人一言に曰く

#### 山田 義雄氏

活を続 昭和七年漠然として南米行の船に乗ったものである。 氏は北海道北見国の出身である。中学卒業後しばらく事務員生 けてゐたが、 ブラジルが何となく面白い国の様に思はれ、

に尽力 見る スポ にな に転 扱而 現在 の必要を感じ、バーラブレット校に教師となり、 した 7 ツにも明るく、走高跳など其の特技として推奨に値する。 て鈴木校に奉職しなどしてゐると、つい先生らしきタイプ 当国に着い リリア市サン ものである .舞ひ、長近「美和」を辞すまで本気になって二世教育 て見ると、好奇心が脆くも崩れて、 ルイス 読書。ヴァイオリン、狩猟などが趣味で、 街一一六 一番に店鋪を構へ飛躍 ポンペイア 暫時形勢を

静閑さを徐ろに味ってゐると言ふ。

 $\mathcal{O}$ 

## 其の一人一言に曰く

「教育と労働との結合即ち生産技術教育即児童生産組合と教育との 一致である。」

術、農業の教務主任として二世訓育の為に大きな足跡をのこして 郷里で青年園長を勤めたり新聞社の支局主任をしてゐたが、昭和 七年八月当国に渡来し、 非常に武骨な男である。鹿見島県立第一 翌年バストス中央校に奉職し、 師範  $\mathcal{O}$ 出身で 体育、

漕ぎつけたものである。 揮ひ出し、其の画に似ざる、熾烈無双の児童愛精神によって、 かり子供達の心を収攬 昭和十年アルバロ校に転じ独壇場となったを幸ひ、縦横に腕 し、父兄をして全幅の信頼を捧ぐるまでに すっ

作業を行って教材教具を完備する等、 となってしまった。 家庭訪問を行ひ、学校新聞を奇行して家庭との連絡を図 教師間に話題を提供し、 忽ちにしてパ延長線教育界の名物男 一作毎に在植者の賞賛をう り勤労

に出て来る。 あるが其の実角力が強くていつも頬ペタに生きすを作ったま 「世情に対する愛着と研究が趣味とあり 如 何にも哲学的 な男の様  $\angle$ 町

様 も亦珍らしい存在である。鹿児島県県囎唹郡 に農業経営に精励中である。 の列に加はり父兄会の委員長に祭り上げられてゐるがこんな 在職七ヶ年の間に小金を貯 へたのをモトデに  $\mathcal{O}$ 出身で、 して同地 目下盛ん で今地主



その一人一言に曰く

教師の教場は、 戦士 の戦場にある忠君愛国 の至誠に等

#### 岡本 良枝氏

ものが所謂日系個人教師である。 日語教師 の資格問題が云々されると、之に変るが如く登場し

育の馬に教職を全うされたものである。 ては稀に見る民族精神の把持者として本念的使命を感じて二世教 マリリア目伯の校長として昭和十四年より就任し、日系伯人とし の有資格である。昭和八年伯専獲得と共に、共和日伯に奉職 氏は伯国女学校の卒業で、後日伯裁縫校女学部を卒へ裁縫教師

なってゐる。 趣味は手芸と音楽であり。 洋裁は其の職務柄そ  $\mathcal{O}$ ま  $\angle$ 特技と

その一人二百に臼く

世界人類の為にも貢献しなければならぬと覚悟致して居ります。 そして其の正義なる血潮をもって、 「私は日系伯人として当国の籍をもってゐますが、常に大和民族と しての尊い血潮が流れてゐることを、 母国の為にも祖国の為にも、 自ら誇と致して居ります。

### 太田 シゲ 氏

高等小学校に在職されたものであり、児童訓育に於ては秀れたる 体験者である。 女史は大正十三年より、昭和二年まで其の郷里の近く富田尋常

ビオン校に転任し、三ヶ年を専ら二世教育の為に貢献せられたも のである。 ンペストレ校。 グアブランカ校に教師としての第一歩を印し、 昭和四年三月、不図した動機により来伯、 アミザーデ校と転じ、 数々の成績を残して 同六月よ 爾来、 り、 プ 口 7 駅ガ 口 力 線

児童訓育に当っては、 常に準備を細密に 興へられたる時間

たる天分があると言ふ。 た事が想像される。音楽と読書とを趣味とし、 を有効に使用された事であり、之に仍って其の効果の卓抜であ 特に音楽には秀れ 0

ンタイーリヤに於て夫君新平氏と共に農園経営中である。 原籍は香川県大川郡鴨部村で高女卒業、現在は 7 リリア

 $\Diamond$ 

その一人一言に曰く

は過古十年間を児童教育の為に献身いたしました。」 教師は子供のよき慈父なり、艮き慈母なりこの信念を以って、 私

#### 林 久義氏

そのかみの話に興が乗ると、思はず一座が煙にまかれたりする。 る小父さんである。座談に妙を得てゐて、光る辺りを撫でながら、 い様で其の実面白くて、個性がハッキリして、 仲々愛嬌 のあ

督として、青少年の心身鍛錬に従事中である 教師となり、 農園経営の実状を研究し、後マリリアに進出してフォルモーザの も玄人の域に達してゐる。 中でも熱中されるのは魚釣りで、其の理論に於ても、実際に於て 昭和八年一月の渡伯で、リンス多羅間耕地に書記乗監督として、 現在は腕に覚への剣道によつて日伯道場、 趣味は色々あるが 教師兼監

校出版部 の腕前 東京市 である。 の販売部長を勤めて居られたといふ。特技として剣道四 の出身即ち江戸ツ児で早大高師英語科に学んで暫らく母

 $\Diamond$ 

その一人一言に曰く

「病気より元気、 嘘より法螺にが罪がない。」

#### 鈴木 芳雄氏

千浬を突破されたものである。 た動機もなく、鳴物入りのブラジル宣伝に浮かされて遙々一万二 先生は愛知県幡豆郡の出身で、 昭和六年五月の 渡伯、 別 に変っ

三校を転じ最後に第一メスキッタ校に入り、此所に於いて本格的 に二世教育上其の研究道場とされたものである。 渡伯後一ケ月にして教職につき、ヴエラクーズ方面に於て二、

再職されたものであった。 る為一時帰国し新らしき日本の空気を吸って再び渡来し前記校に 途中実兄の出征後間もなき名誉の戦死あり、其の告別式を挙げ

造詣があった。 児童訓育に於ては数学指導に秀れたる. 才腕あり、修身講義に

其の他各種運動、勤労作業等を機会として、 されつゝあったものである。 キッタに於いて青少年の訓練中である。 蚕絲学校の卒業で、 団体訓育方面 現在第 メ ス

#### $\langle \rangle$

## その一人一言に曰く

になったら道開く、 「職域奉公口もなく、野良は白けど冷飯党教員職の逢瀬なさ、 大黒柱も播ぎつゝ、 不景気風は吹き寄せる。」

#### 佐藤 次郎氏

げて、 に引か に招聘されて教師生活の第一歩を印し、留まること五年。 氏は福島県伊達郡湯野村の出身である学生々活におさらばを告 これから実社会に乗り出さうとする途端に、 り、其の儘当国に直行したといふ、 ポアエスペラン ブラジル宣伝 , サ校

多い。 意科目の促伸に留意されたものでその成績にも亦見るべきものが 訓育上に於ては特に自学自習の習慣に馴れしめ、個性の善導と得 された方である 後愛国校に転じて、其の最後まで二世教育に携はり、 特技に運動競技があり、音楽に深い趣味を有す。



其の一人一言に曰く

リアリズムで活き愛せう。」 「未来にはロマンチシズムを目標に置き生活は強く正しく明るき、

まったものであろう。 意のアゴ髯を撫でながら、 氏は青空先生とも言うし、測候所長とも言ふ。 天道を青空眺めて闊歩する所から始 由来は、氏が得

続 瑞と忍び、渡伯したといふ動機だそうで、誠にケナゲなものと謂 ふべきである。 自分の軍籍にないのを残念に想ひ、戦地に行くつもりで奉公の一 々と出征して戦死叉は負傷する。こうした人々を造迎する度に、 渡伯は昭和七年六月、当時満洲事変の眞只中で、友人先輩が

霊治療に従事したと言ふ変り種である。 石川県立七尾商業の出身で、日本に於ては神霊術講師、 及び神

長として、 前後五ヶ年間を児童教育の為に消費されたものである教授上の特 姦談で何れも氏自身の偽らざる回答をその儘再録したものである。 教職についたのは、マリリア日伯が最初で、攻に公栄校に転じ、 マリリア市に在って、土地周旋業に精勤中である。 精神講話、 特技は前記の神霊術、 趣味は精神修養的座

 $\Diamond$ 

「何事も心から。」その一言に曰く

伯高等科卒業後高女二年程度を修了し、聖市伯語裁縫高等女学校 の卒業である。 年四歳にし て渡伯されたもので、 所謂準二世に属する。 7 市日

二世教育に従事されたものであった。趣味は読書と手芸運動方 には其のガツチリした体格と相侠って秀れた天分がある マ市日伯校に於い て葡語教師となり、後公栄校に転じて二ケ 面

関係上へ祖国に対する愛着心強く、其の教授に当つても、日本式 傾向があるが、氏は幼時より此の点を深く注意されて育てられた な態度であった。 修身教育を取入れ、専ら道徳教育に力を注がれた事は正しく立派 純二世乃至準二世は其の環境上動もすれば、祖国を忘れた

てゐる。 下学年指導に研究深く、其の儘それが学習指導上の特長とな 0

の出身にして、現在マリリア市に在り、表装に従事して居られる。 趣味は書画、骨董、 掛軸表装に秀れた腕をも 囲碁、 園芸等でまことに其の風貌 って居られる。 熊本県天草郡富津村 れに相應

### /

その一人一言に曰く

果、最近に於ては直ぐに其の人の心持が解り、 其の意中を知る事でありました。随分深刻な研究を致しました結 親密に御交際を願ってゐます。」 「私が当国に於て、最も意を用ひました事は、父兄との交際 割合にどなたにも り

来五 読方教授に優れたる手腕があり毎年度著しき成績を挙げたもの 氏は昭和三年のブラジル渡米で、同十一年より教職に ヶ年間を児童教育の為に尽されたものであり、特に一年生の

教職歴をしらべると、ポンペイア 区ジャンガーダ (C 四年、 7 IJ

リア区第一昭和校に一ヶ年となつてゐる。

純情に依るもの ば激昂性に富んでゐる様に見受けられるが、それは等すべて氏 中学の出身で、現在マリリア市産業組合書記として活躍中である。 性格は至 って堅実な所があり、情熱家的な処もあり、 である。 高知県士佐村の産にして、 大阪府立生野 動もすれ  $\mathcal{O}$ 



その一人一言に曰く

る。東北人特有の鈍重さと、 法であると思ってゐる。」 「忍耐。平凡な言はの様だが、 これを自分の処世上の信条とし 粘り強さこそ、 成功に導 方

### 棟近 道衛氏

だそうである。 ろうと考へて大正十五年八月二十六日、サントスに上陸 ブラジルを開放されたる楽園の地と思ひ、生活も大変仕安い所だ

ある。 堅実の性格をもって二世教育に携れ、在植者の信望を得たも パ延長線の人となり、 コレゴデブツタ校の教壇に立ち、 其  $\mathcal{O}$ 温 厚

リリ 山口県熊毛郡の出身で、 ア市萬平旅館前に果実店を経営し、健闘中である。 下関中学を卒業されたも  $\mathcal{O}$ 現在 7

### $\triangle$

# その一人一言に曰く

は幾通 依って一 「常に人の和が足らないと思ひます。在伯同胞發展は、人の協力が 一番の原動力で、 と思ひます。」 りも有るもの 村の發展を阻害したる例は決 物質以外に慾望のな では無い。善なれば能ふ限りの共鳴は出来る して少なくない、 い人、 嫉妬心の多い 道に

## 長岡 鹿雄 氏

壤飛行聯隊 氏は 大正 十年四月、 に籍を置き、満期除隊後の渡伯である。 岡 山県下で小学校に入り、 昭和二年 一月平

されたもので、児童の尊信を受け父兄の信望を博し、 の名を壇にされものであった。 り同地共愛校に奉職し、爾乗四ヶ年孜々として二世教育に尽力 モヂアナ方面に三農年を閲し、後パ延長線に入り、 洵に良教師 和 年

身にして昭和四年四月の渡伯、 に進出されると言ふ。 趣味は音楽であり、 性温良順和の 今回機会を得て、 人である。 岡山県阿哲郡 ポンペイア , 方 面

### $\Diamond$

### その一言に日く

「子供たちよ、 いつまでも日本人である悦を忘れるな。 心身共に健やかなれ。 あ  $\mathcal{O}$ 日 あ の時を想ひ起せ。

### 小松 喜十氏

方両 ける教育県と称されてゐるが、氏も亦中学を出るとしばらく生産 先生は長野県諏 の事業に従事し、 訪郡長地村の出身である。 不図した 由来同県は 日本に於

動機 児童にとっては、 入り細を穿つ式 こしつ 和十二年には教職につき、爾来五ケ年間、 デ からブラジル移住を企て、渡来したものであるが ・バルボーザである。 ゝ、今日に及んでゐるものである。其の指導方針は、 の徹底主義で、教育の機会に恵まれざるブラジル 誠に適切なる方法であろう。 数々の教育的業績をの 現在の居城はコ 早く 微に

「われ、一年生に及ぼす。」その一人一言に曰く

## 森本 源一 氏

應しい趣がある。 たとあるが、 氏は昭和六年五月の渡伯である。未開地の大農を夢見て来伯 其の体躯といひ、 面貌といひ、 まことに其の志に相

其の独異的勇敢なる性格をもって、 たものであるが、当時は未だマ市の開学期で、 のがあった。 の努力は並大抵でななかつたが、同時に亦其の功績も著るしきも 間もなくマリリア管内、福双校の教師となり、留まること三年、 みっちりと二世教育に当られ 比の間に於ける氏

サ駅メスキッ て居られる。 北海道空知郡岩見澤町の出身で、 夕町に雑貨商を開業し、日に月に發展の 空知農業の卒業、 現在はガル 一路を辿っ

### 吉谷 光夫氏

為に献身されたものであり、 さに国情を視察する所あり、 長崎市城山 ンドインヂオ東洋校に奉職 氏の渡伯は昭和九年六月二日である。暫らく各地を巡歴して具 町 の出身にして海星中学の卒業である。 し、爾来三ヶ年孜々とし 昭和十二年一月、 其の功績も亦多大なるものがある。 マリリア駅リベ て二世教育の 口

### $\Diamond$

## その一人一言に曰く

「児童の訓育を怠れば、国家の力が減する。親たるものはここによ

く留意して、

今後の時局に処して戴きたい。」

### 瀬戸 春枝 氏

り、 経て、パ延長線マリリア駅アレペンヂード校に教鞭をとられたも 校を卒業され、六ヶ年を京城幼稚国保母として奉職されたもので、 あったが、今次の法令により、数々の想をのこして其の職を辞さ 民地学校の奉職を其の始めとして、セントラル線レノポリス校を とをもつて在伯二世教育界の人となられ、パウリスタ本線東京植 大正十五年九月の渡伯、其の尊き体験と燃えるが如き児栄愛精神 れたものであり、其の心事洵に痛切なるものがある。 ので、其の恰も慈母の如き訓育ぶりは翕然として児童の敬愛とな 女史は長崎県北高来郡古賀村の出身である。朝鮮第二高等女学 父兄の尊信となり、二世の将来正に確然たるを思はせつ  $\angle$ 

思想の深さも兼ね具へて居られる。 性乍らも堅実謹直、 手芸方面に深い趣味があり、特技として唱歌の指導があり、 一画女丈夫型の 風格があり、 人生修練による 女

### その一言曰く

に伴ふ父兄母姉の深甚なる覚悟である。 「日語学校受難の時、 しきりに想ふの は進み行く子等の将来と、之

ポンペイアの部

### 大貫 恒氏

氏は故郷栃木県下に於い て小学校教師たりし 人であり、児童教

育に於ては尊い体験と確固なる信念の所有者である。

其 活 の第 り、各地に多大なる足跡をのこして居られるものである。 の幕を閉づるまで、夫妻共によく二世の面倒を見られたも スタに転じ 渡伯は昭和四年七月であるが、間もなくシケイラカンボス校 一歩を印し、後ヴ て約五年の エクラル 日時を閲し、最後にポ区希望校に教壇生 ーズ校に教鞭をとり、 第二パ ウ で に

於ける人気の中心となってゐるとは誠に嬉しい便である。 現在ヴィラカンパンテ町にあり旗館を経営中であるが、 同

### 長畑 省三 氏

た。 といふ、 かに自由の新天地が恋しくなり、学業を捨て、 専 門学校受験中の或日、 マンチックな渡伯振りで、それが昭和五年七月であ 大空を自由 に翔駆する 南米渡航を企てた 小鳥を見て、 6

ブジ ものである。 其の後各地を巡 ユ 校の 教壇に立ち、爾来孜々として二世教育に携 って伯国 の実状を研究する所あり、 昭和十三年 0 る た

とをうま は比較的 囲 其 . 郡 の学習指導に対する方針は極めて自由本意である。  $\mathcal{O}$ 出身で、 く利用し、相当に成績を挙げてゐたものと言ふ。 に能率の上らないもの 新見農林 の卒業である。 であるが、 児 童  $\mathcal{O}$ 個性と競争意識 元 来自 県

### $\Diamond$

# その一人一言に臼く

顔で私に告げた。「北支は夏になれば隋分暑いそうですね た其の翌日から私の教壇での時間が足らなくなった。」 下百度をパ 「去る日堂々たる体躯と立派な服装の青年と会話中、彼は眞面 ッサする日が続くそうですね。」私は二の句が出なか 何 冒な

## 松野尾 泰行 氏

分型破 を極めたらしく、遂にはブラジル三界まで足を運ばねぼならなく を深くした。日本に於ては持前の性格を以って相当に人生の深奥 なったと述懐してゐる。 のであるが、此の男はその変り方の無類さに於いて全く抜群 延長線に百人ばかりの日本人教師が出入したが、其の りの人物が去来して、其の都度、話の種を蒔き散らし 中に 随

してゐる。 読書。訓育上の特長はガラガラ明朗主義、筆を握らしたら三軍を が勤まるとまるで無中になって、しばらく純情生活を続けたもの 母国に於いて常時の綽々たる大物を向ふに廻して活動した丈、そ 車をかける様な事になったが、此の男決してケチな野郎ではない 叱咤する様な事を書き出す。現在ポ市に在って文筆の仕事に従事 である。高知城北中の出身で、昭和六年の渡伯、趣味として運動、 の人格にはどこかに大まかな所が潜んでゐる った。ふとした機会から教育方面に携はり、 ブラジルの暖い国に渡って見ると、持って生れた放浪性に叉拍 子供を相手の生活 だが彼にも熱情が

### $\Diamond$

# その一人一言に曰く

と金を儲けて子供に本を買っ 「子供は可愛ゆくてたまらぬ。親爺共は憎ら てやれ。 くてたまらぬ。

## 北御門 悦子 氏

先生は準二世で葡語教師である。ジナジオの卒業で準教員の資

られる。 ラー 格があり、 ルに奉職 一九三一年ノロエステ方面に於て、 し現在ポンペイア区希望校に葡語 の教鞭をとっ グルツポ 工 て居 ス コ

ばぬ程訓育指導のうまい人で、これを伯語教師といふ一律的な方 も具現せられてゐるものである。 流石に血は争はれぬもので、日本精神の世界に冠たる所がこゝに 面から見れば断然一頭地を披いてゐると言ふ。 の道を往復して、一日のファ 実地教授を参観したものゝ言によればグ ルタもなく精勤して居られると言ふ。 ヘツポ しかも毎日四キロ  $\mathcal{O}$ 伯 人教師

とは在植者の述懐である。 り、たとへ五十年でも百年でも……といふ無理な望をかけて こういふ関係から一般父兄の信望も厚く、 同地の学校が続 る

身で渡伯は大正八年十月である 味があり、楽器はピアノを愛好される。 先生は手芸に長じ、ポルダー F, 編物をよく 父君は熊本県球磨郡 Ļ 音楽に

その一人一言に曰く

「伯語教師として希望するのは、日本人各父兄が 其の子弟を教導されること。」 伯国語に重点を置

## 戸根木 金八 氏

り、日本に於いて十六年七ケ月の教職歴を有せられる事より見て ゐる人である。 の有資格である他、中等教員 先生は全生涯を殆んど小国民教育の為に尽しつゝ現在に及んで 児童教育に対する造詣の深さが想像される。 埼玉師範の出身で、小本正、 (文検)教育科予備合格の資格があ 専本正、 専正 (体操)

氏 の如き清廉謹直の士には容れられざる教育界の内情があ 渡伯動機については一掬同情の涙をそゝるべきも があ り、

正に其 慮三考一有年歳、遂に決然として、渡伯を決意されたものであ  $\mathcal{O}$ 面 目躍如たるものがある り、

渡伯 武徳会認証初段の猛者である 競走に於 趣味方面を覗けば運動競技に実埋一 は昭和十一年奉職校はヂヤクチンガ第一学区小学校であった。 て自信たつぷりなも 日本は埼玉県熊谷市の出身にして のがあると言ふ。他に剣道があり、 如の薀蓄があ り、特に徒歩



# その一人一言に曰く

らん事に精魂を打込み、清浄にして明朗、養正の気品気魄こそ、 も忘るべからざるものである。」 大最大の実であり、 「惰邪に陥らず、勤と正とをもつて飽迄も日本人の存在価値の大な 日本人たるの大なる優秀性 の啓培こそ、 須臾

# 熊井 徳右衛門 氏

本人 といふ事になり、市の放送局に招かれて、 で唄った この の為に萬丈の気を吐いたもの 人は声楽に於いて秀れた存在である。講習会席上視学の前 のが動機となって「是非ブラジ である。 ル人にも聴かして呉れ」 晴れの放送となり、 日

をド きな音楽書でも読みぬきたいといふ、少年的な感傷が彼をそうさ せたもの  $\mathcal{O}$ 千葉県安房郡千倉町の出身で、横濱第二中を卒 習得にも余り苦労をしなかったらしい。渡伯は昭和八年二月 レッパ 0 たが、別にこれといふ原因はなく、南十字星の輝く下で、 ゝ様である。 ー博士に師事した為、特に比の方面に造詣があり、 後語学研究

育 の為に働き、特に人格養成と勤労奉仕を鼓吹して其の成績優秀 ア区ヂヤクチンガ校で離任するまで七 それが不図したことから、セ ヂ T 校 ケ年といふも  $\mathcal{O}$ 先生に な のを児童教 り、

に鑑賞運動。特技はそのま なるものがあ 地を構築して戦闘準備中である。 0 た。 趣味として声楽、 ゝ声楽である。 読書、 目下ジャク シネマ、 チ 旅行、 ンガ それ に陣



# その一人一言に曰く

き、 ドで描くといふ。実に驚くべき天晴れさで、 ろしきを感する。」 「鮎川義介氏は苦心研究の結果、 庭園を毛筆で一息に、 更に正三角に内切した円を 等辺三角形をフ 寧ろ人間 リー  $\mathcal{O}$ フ リー 努力に怖 F で描

## 高山 雅夫 氏

変後 海外大事業家を幻に描い 氏は群馬県高崎市の  $\mathcal{O}$ 同地武装移民が唱導され、若き血潮は大陸を夢想し、 出身で、渡伯は昭和九年一月、 て渡伯したも のと言ふ。 当時満州事 遂に

がある。 先生らしいタイプになって仕舞ひ、それからカンガンギ、グワ 教員養成講習会などに出席したりなどしてゐたら、 タ校と転戦して、結局六ヶ年ばかりを子供達の相手で過したも には特に作文、習字の指導に力を入れ其の成績も亦顕著なるも で聖戦の苦しさ、楽しさを審さに体験したものであった。 入 伯 の翌年、 ドアルチーナ区に於いて錦栄校の教師となり、 つい身も心も 教授上 IJ  $\mathcal{O}$ 

てゐる。 順なやうで、どこやら怖 で現在は南米銀行ポンペイア支店に勤務し 趣味は、 登山、 カメラ、 い見たいな青年である。 音楽などがあり、 特技は剣道、 腕に覚へ 高崎商業の卒業 の仕事を為 弓道、 温

# その一人一言に曰く

「「以和為貴」この精神で 「不為胡成」 そ の意気で難関を突破

### 山口<br/> 宇<br/> 一<br/> 氏

奉職 在伯教育史上に不滅 多年の研究による尊き薀蓄を傾けて児童訓育に当り、長も真摯な 復帰し二福寿第一に三年、 る態度と熾烈なる児童愛とをもつて、斯界の為に尽された功績は 氏は尋常科本科正教員の有資格である。昭和四年十月、台湾に 中南洋發展熱に浮されて渡伯 の光を放ってゐる。 後ポンペ し、数年聞国情研究の後本職に イア区グワリツタ校に転じ、

に人間らしき片鱗があ 趣味は狩猟と読書にして、愛酒家としても相当に知ら り、純眞そのもの ゝ存在である。 仲 々

策中である。 広島県豊田郡 本郷町  $\mathcal{O}$ 治出身、 現在はガイピー ーラに在り、 後国計

### $\Diamond$

# その一人一言に曰く

駄目である。 「自分は生来数的 の事柄に関心を持たな過ぎる。 従 0 て数学は ガラ

た。 代のそれに比して、十倍をもってして僅かに十 なって、ミジンに毀されてしまった。 が語学といへぼ努力もし、進歩もあると戎程度の自信を持 ることも尚且怪 かけての約二ケ月の講習で痛感した事は、中年後 のみ出来得る。」 ところが豊計らんや此の怪しき自信は葡語習得といふ段に いと。「六十の手習」は堅忍不抜 昭和八年 末か 分  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ ら翌年 精 努力は青年時 の結果を得 一月に 0

## 鈴木 初子 氏

最後まで師道を全うされた教育界の女傑である。 教員となり、昭和三年十月迄九年五ケ月間母国教育界にあ もの 就き、爾来孜々として十一年間を当国二世の為に慈母 られたもので、 和五年六月、伯国の天然資源に憧れて渡伯後約一月にして教職 女史は教育界の人として、約二十年を二世教育の為に健闘され である。 即ち大正九年六月、 劣等児指導と日本精神鼓吹に全力を傾注し、 女教師養成所卒業と共に小学校 の役を務め ŋ, 其 昭  $\mathcal{O}$ 

言に曰く 町 趣味は音楽であり、手芸に造詣があるといふ。茨城県水戸市 の出身で、現在尚マンダグワリーに在植中であるその一

彼岸に到達すべし。」 一人の子として此の世に生を享けたるを無上の幸福とし 一日戦死」の覚悟をもって己が信念の下に進む時、必すや希望の 各自

### 佐藤 達二氏

以て帝国教育合より表彰された光栄がある。 まで、前後十四ヶ年に亘る輝かしき教職歴があり、 りウニオンに転じて、故に八ヶ年、マリリア日伯校に於ける引退 氏は日本に於て東拓正月を経て、大正十三年五月の入伯である。 口線ピリグヰ校の奉職が其の第一歩で、サンタア 先年其の故を メリカ校よ

る天才があり、野球に於ては自ら発頭に立って斯道の興隆に努め テ町に在り、 笠岡中学の卒業で、 芸術家のやうな所があり、趣味も盆栽に彫刻、 口 工 ステ並延長線球界に其の声名を轟かしたも 裁縫学校を経営し、 岡山県小田郡 盛大を極めてゐる。 の出身、 現在はピーラカンバ 書画に秀い でた

# 其の一人一言に目く

「在伯同胞よ、 強力なる 心魂をも 0 難局を打開せよ。」

## 横井 嘉壽彦 氏

会に稗益する事の偉大なる事に於て抜群なものがある。 パ延長線本教師の中でも変り者の 一種である。其の変り 方も社

たと言ふ所に度膽の太い所がある。 陸軍大佐を父に持ち、 昭和六年五月、 世界漫遊を目ざし て渡伯

なる所がある。 饒舌家でなく、 言ふ所真剣に して君冠に不拘、 大勢を見る

音楽に絵画、趣味はスポーツに園芸である。 精神教育を行ひ在植者の信望を一身に集めたものであ 副会長として、 の出身にして安芸中学の卒業である。 れたる逸材として、ポ市管内に尊信を受けてゐる。 昭和八年より四ケ年間、 青年指導に活躍 ジャ してゐるが、 トバに居城し 現在ポ市日伯青年会 比の方面に於ける優 て、 ス 高知県安芸郡 ポ る ツ 特技は

### $\Diamond$

## その一人一言に曰く

邦人集団の最高的模範たらしめよ。」 「本弊を打破し、 実に就き、 青年運動 を作興し、 ポ 市管内を

## 渡邊 民吉 氏

員生活を日本に於いて過されたもので、児童教育に対する造詣 は郷里に於い 先生は岩手師範卒業後、其の県下に於い 思ひ半にすぐるも て十七ヶ年勤続されたもので、前後二十五ヶ年の があろう。 て三校に奉職 教

基礎開拓を念じて渡伯され、昭和九年コ 昭和七年二月、 海外在留子弟教育の為 0 ゴヂバ には子孫 ルボ  $\mathcal{O}$ 海外 - ザ校を

けて、 導に従事中である。音楽が趣味であり、体操並に舞踊が得意で、 其の功績も亦多大なるものがある なる才能とをもつて在伯二世教育の為に献身せられたものであり、 リア協議会理事を兼ね、現在はポ区ヂヤクチンガに於て青少年指 り出 の特長として、 コレゴヂバルボーザ植民地の しに、サントアントニオ校に奉職 鍛錬的自学態度の馴致等がある。 日本人会長となり、 超へて十四年より十五年にか Ĺ 其の尊き体験と豊富 中部マ IJ

### $\Diamond$

## その一人一言に曰く

ることにあり。」 教育の要諦は人間各自 其の為す事によりて己を鍛造 己を造

## 渡邊 退助 氏

比の方面に出資夥しく、家運を挽回すべく、 したも 氏は熊本県山鹿町の出身である。中学卒業後暫らく商業に従事 ったが、 ので時は昭和五年四月であった。 其 の厳父が多年地方政界に関係しつ 決然として渡伯を企 ゝあ った為、

者の信望が厚か 世教育 最後にポンペイア 会白水校 不画した動機により教職につき、同七年十月カフ の為に貢献されたもの の教壇に立ち、 った。 ツ植民地に招聘されて五ケ年間、みっちりと二 爾来 であり、温厚篤実の教師として在植 マリリアに転じてガビオンに入り、 エラン チア部

な いって、 親切に 教授上の特長としては、よく其の性格を反映して、 献身されたも と言ふことをモツ のである。 トウとして、 文字通 り、 怒らす気長 親身と

を経営 特技 は野球 してゐるその一 趣味は読書。 人一言に曰く 現在ポンペイア市 に在 0 て、 果実商

神を敬 ば、 其れを征服する事が出来る。 へ、如何なる困難に逢っ ても、 軸より輿へ られた試練と思

## 林田 亀彦 氏

ある。 するコト実に三十年、高等官五等待遇、従六位に叙され として薄幸なる生徒の訓育に尽されたもので、日本教育界に在籍 り県下に令名高き教育者であった。 氏は其の資格と経歴とに於て在伯邦語教職員の最高峰的存在 即ち熊本師範本科卒業で、県内各地小学校に校長として歴 後濱町実科高等女学校長に転じ、 渡伯前は県立盲唖学校長 一早くよ で

指 最後に同じくマ区セレーヂアに於て一ヶ年、前後六ヶ年間を在伯 験によって其等植民地に於ける救世主の観があったものと言ふ。 校に在ること三年、後マ区サンタアンプロジイナに転じて二ヶ年、 二世教育の為に尽卒されたもので、その崇高なる人格と、 導訓育を目ざして勇躍渡伯されたもので、ポ市管内アミザーデ 昭和十一年一月、海外第二世の教育に深 熊本県下益城郡豊川村の出身にして、 現在アミザーデにあり、 く感する所 あ り、 尊き体 その

青年男女の補習教育に当って居られる。切に老教育家の多幸を祈 るものである。

### $\Diamond$

# その一人一言に曰く

点はな 国民的感情に燃へ、叉燃えしむること是以外に植民地教育 の留意

省専売局 療法学院並に熱瞬間療法学院に学び、病院に勤務して居られたも 氏は大阪市天王寺区の出身である。 医学治療方画に造詣がある。 (興務) に奉職され、 昭和七年三月新天地を求めて入 後満韓興業会社に入り、 大阪薬学校を卒業後、 大蔵 電気 伯

されたものである。

尊敬措かぬ所であった。現在マリリア市にあり、 問的立場にあり、日会の指導開發に当られたことは在植 と遊び乍ら安らかなる余生を送ってゐられる。 は今更多言を要しないが、少壮植民者の多い同地にあって常 で、其の間実に4ヶ年、熱誠をもって二世教育に尽力されたこ 十月で、次年にはソロカバナ方面に転出し、バストス移住 ト区に奉職し、最後にポンペイア区日昇校に教鞭をとられ 氏の教職歴は北西線セラアヅール校に始まる。 近所の子供たち 即ち入 著 一般 の翌年 لح



## その一人一言に曰く

じます。 よって民族の優秀性を自覚させ、以って同胞發展に資し度いと考 の尊き日本語教育歴史を後世に伝へられることは、眞に同慶に存 「温故知新。此の意味に於て在伯大和民放が三十年間歩み来 へて居ります。」 将来の日本人二世に対する指導も、 国史を教 ゆる事に た所

### 中家 和子 氏

昭和十一年プレジデンテ・プルデンテ小学校に奉職、翌十二年家 験中卒倒されながらも見事パ 色なしである。殊に伯専受験の際には非常なる努力を積まれ 出来得れば同先生にとの申込が絶なかった点よりみても男教師顔 授にも勤められ、誠実ある教授法は常に父兄より認められ他よ の移転と共にポンペイア中央校に移られ、学校閉止後も巡回教 パ延長線百余名の邦 人教師中唯一 スされたも のミスとしての存在であ  $\mathcal{O}$ である。

有名である。出身は父君の職務上和歌山県立新宮高等女学校であ 出身は奈良県吉野郡十津川村とい へぼ日本最大面 積 の村とし 7

Ş る。最近ドアルチー ナ町に平和な家庭を営んでいらっ

即ち先生にも楽しき時代が  $\mathcal{O}$ び 寄 0 た  $\mathcal{O}$ であ る

その 一人一言に円く

すが、 す。」 思ほれます。在職中私自身に鞭って懸命に勤めた積り 「日本は今分進秒歩してゐます。これに 倍私の力が足りなか った事をしみじみ自責致して居りま つ け ても在伯二 では 世  $\mathcal{O}$ い将来が あ りま

### 大野 秀書 氏

及ぽぬ苦心を続け、惠まれぬ環境の中にあ 職されたもので、 されたも その一人一言曰く 之努められたもの 後転じてパ延長線の人となり、サンジョゼ校に初代教師として奉 かと不備 氏は熊本県八代郡宮地村 て の経歴 の点が多かった時代に於いて其の児童教育に他の想像も のである。 あ り、昭和五年三月長男夫婦の渡伯により勇躍同伴 当時学校設備も不完全に、植民地内の統制も何 である。 最初グアイサーラ駅ウニオン植民地に入り、 現在希望植民地在任  $\mathcal{O}$ 出身であ る日本に於 って、 二世教育に精進 1 ては役場吏員

### 聖市其の他 **(7)** 部

「臣道実践」

### 橋本 重喜 氏

在伯 多くは渡伯後 邦語教師 叉それにより自己の職業的使命を感じて、教育道の為 は元来教職員たるべく渡伯  $\mathcal{O}$ 事情、 環境、 動機等に依り教職員とな したも  $\mathcal{O}$ は極 8 0 7 たも

向し、然もその方面に新局面を開拓してゐる人が多い に尽力し、 其の声誉を壇にした者も多いが、 大部は中途に於て転

在聖市 ポンボに於ける在職中は専心これ二世教育の為に挺身したことは 自他共に認むる所であるが、感する所あり決然として上聖し、 氏は其の後者に属する方で、勿論ソロ線カンブシー校及び第二

氏 貿易斡旋所 郡龍峯村の出身で、早稲田大学商科に学び、 ゐると言ふ。 で、写真に深 の場合所謂 々員に採用され、日下其の薀蓄を傾けつゝあるもの 1 「教育の嵐」とは無関係なもの 趣味があ ŋ, 性温良順和、 其の将来を嘱目され 昭和五年十月の渡伯 である。 熊本県八代



# その一人一言に曰く

払ひ、どこまでも日本人的に教育したいと思ってゐる。」 に習熟するのは否みはしないが、家庭内では日語 「僕は自分の子女教育に当って、児等自身が自然の環境によ の習得に注意を らり伯語

## 角田 良登 氏

在職実に七ヶ年、其の功績も亦偉大なるものがある。 に従事し、縦横に才腕を揮って当時名教師の名を謳はれたもので、 氏は其の昔、 ノロ エ ステ線アラサツー バ市に在 て、 二世教育

育上に於ける成績には上乗なるも の事態逼迫の中にあって幾多の辛酸を嘗めたものであるが、 後、バウルー区に転じ第二富士校にて二世教育に携はること一 ヽア区ヴエアード校に招聘されて、 のが多い。 一ヶ年半折柄日語学

ŋ 厚順和、 少年野球指導方面に特に秀でた手腕がある。 何事にも熱心な性格があり、 運動方面

陣 の為に活動中である。 たもので、現在サンパウ 廣島県志波郡の出身にして、 ロ市日伯産業組合中央会にあり、 中学卒業後、 昭和三年七月に 渡伯 産業

### $\Diamond$

# その一人一言に日く

ると共に郷土愛精神を普及したいと考へてゐる。」 「郷土愛のない所に民族愛も国家愛もない。在植者の生活を充実す

### 佐藤 清 民

た様な性格とをもつて、名を成した人である。 其の昔ヴエラクルースに在って、其の特有な硬骨と、 竹を割 0

終ったものであるが、持前の硬教育をもって心身の鍛錬を眼目と 立ち、V駅フローリダ校に転じ、最後の御奉公をガリア中央校で して二世訓育の実を挙げたものである。 昭和六年八月の渡伯で、十二月よりバウルー区小 学校  $\mathcal{O}$ 教壇

気が知れぬと言ってゐる。北海道北見国の産物で、鉄道学校機械 はれて重要なる位置につき、産業陣強化の為に余念がない。 の出身、現在モヂ産業組合にあり、其の優れたる職務熱意を買 趣味は乗馬に散歩、部屋に引籠って小説なんか読んでゐ 男

### $\Diamond$

## その一人一言に曰く

すより、 「月給をうんと払へ、も一度先生をしてやる。不解屋の親爺共と話 子供達と遊んでゐる方が、 よっぽどマシだ。」

### 神山 忠雄 氏

口 第五 氏は聖市郊外カンポリンボ校の奉職が其 部小学校に転じ、 数年の尊き体験をもって、 の第 一歩で後 マリヽ 日伯

校 其の方面にも尠からざる貢献をされたものであったが、国粋の嵐 玉県の産にして、 に堪へ兼ねて再び聖市方面に新局面を開拓したものであった。埼 ごかにつけて風雲を巻き起さんとしたマ市日会との折衝を整調 た入り、こゝにて更に修練を積み、児童達の尊敬をうけ、 水産学校の出身である。



その一人一言に曰く

とを望む。」 「日本に新憾制が誕生したように、 在伯同胞にも新体制が生れるこ

### 笠原 峰生 氏

をそのまゝ言った様なものである。 「小さい体に大きな望」といふ一年生唱歌の 一節にあるが、同君

商才を宣伝されてゐる。 才腕があり、あのむづかしい植民地をよく統制したものであった。 と三年、多少利かぬ気の所はあったが、 其の第一歩で、後招かれてパウリスク第三校に奉職し、 り葡語の判る可愛いゝ先生として通ってゐたものである。居るこ ンに在って、キタンダジャボネー の名を知られ出したものである 高知県の出身にして、 一九三五年十月、マリヽア区サントアントニエッタ校の教職 海南中学の卒業、現在は翌市コンソラソ ーザを経営し、 ボルトゲースに精通し、常時よ 訓育の方面には優れたる 日伯人の中に其の 此所で其



その一人一言に曰く

学道に努力して心の玉を磨いてゐなければ、 的人格の光を見いだす事が出来ないのである。」 「人間も玉と同じく、 峻烈なる教育に精励して、 教育的人間性、教育 始終老幼と雖も、

## 福島 正人 氏

揮って居られる 間洵に真摯なる態度をもって二世教育に尽卒し幾多の輝かしき功 ウニカの教師 績を胎されたものである。 の様な風格がある。 氏は廣島願 イランテ となり、四〇年四月まで都合三ヶ年の在職で、 ス校に奉職したのが一九三八年四月で、 の出身であり、海外植民学校の卒業である。 現在輸入商界の雄蜂谷商会に在 中肉中背、 白哲の好青年でお坊ちゃん 後フ って敏腕を V 駅バ ンテ



## その一人一言に曰く

「子供たちと遊んだ頃が懐しい。薄給に苦しんでゐた時でも、 子供たちの顔を見れば、たゞそれだけで慰さんだものだった。」

### 平野 徳夫 氏

所であり、氏亦その方両に造詣があった為、 こゝにても亦熱誠の度を加へ、学習に訓練に其の成績見るべきも に革るの観があ のが多かった。 氏最初の奉職はヴエアード校である。当地は元来体育に熱心な った。在職二年にしてポ駅サンタエレーナに転じ、 同校としては両目更

宮崎県の出身にして、海外植民学校に学び、 ロス区に居任 商業界に躍進中である。 現在は聖市ピニ 工



## その一人一言に曰く

たものである自分は比の意味に於いて力行する。」 日語学校 の閉止は自分に対して亦 つ  $\mathcal{O}$ 人生に於け

## 樋口 初男 氏

を枕 苦難を体験した人である。 れてゐたものだと言ふ。 過渡期に於ける邦語教育界の犠牲者であって、身を以って其の  $\mathcal{O}$ マドロス生活に入り、暫らく港々の赤い灯青い灯に幻惑さ 入伯前は欧洲航路の某船に乗込み、

と言ふ。 なったもので、現在聖市コチア産組に勤務し多忙さを極めてゐる 二世教育に尽力し、 一九三七年十二月ツツパン校に奉職、爾来四ヶ年、 後同校が奨学舎となるに及び、 そ みつ  $\mathcal{O}$ 舎監と ちりと

### $\langle$

その一人一言に曰く

「人生は苦難の連続であり、 叉其処に希望も愉楽もある。

### 中野 力 氏

面倒を見た人である。 くし、ポンペ の出身でボルトゲースをよくし、朝日小学校のブラジル語プロフ エツソー 氏はアントニオ中野で通ってゐる人である。ブラジル商業学校 ルとして歴代の日語教師を扶け、監督官憲との イア管内に於ける日本人ポ語教師としてよく二世の 折衝をよ

県の 矩躯なれども貴公子然とした風貌があり日本語にも精通し のある青年教師で日語教師間との関係も深かったものである熊本 出身にして、 現在小西商店にあって研摩中である。 愛橋

 $\Diamond$ 

「も少し日本語に精進したその一言に曰く

和田 光彦 氏

にあ 8 の跡をつ 中 7 Ó に没 ゐた人である、 東部 て、最後まで其の本分を誤らなか 1 で二世教育に精進し、折柄困難化せんとする環境 マリヽア中央メスキッタに奉職し、 て行った所に大きな魅力があり、植民者の信望を集 後ポンペイア区、 朝日小学校に転じ、 ったもの 誠心誠意、 である。 子供達 岡村氏

の実直性をもって其の将来を期待されてゐる。 熊本県八代郡の出身にして、現在聖市商業会議所に在勤 独



# 其の一人一言に曰く

私の今の心境である。 「子供たちはどうしてゐるだらう。 Ł 度行 0 て遊び た 11

### 唐澤 鋭男 氏

職 造詣深く、殊に剣道並に野球指導に才腕がある 偏 一年有 に其 氏は永らく したのが教職歴の始まりで、 て青少年の して居られる。温厚順和の中に不屈の精神あり、 の出馬の遅かりしを憾む次第である。 年の日時 指導に献身されたもので、幾多の輝やかしき功績 マリヽ ではあったが、これ程惜しまれた人もないと言ふ。 ア区第一メスキッタに在り、青年団 間もなく今次 の災厄に遭 ヴィラ日本に スポー |の幹部 ひ、 奉 を

務振 学の卒業である。 現在聖市は りを賞賛れ ピニエ るも ロス区コチア産組に在り、其の堅実なる勤  $\mathcal{O}$ である。鹿見島県の 出身に 同 地中

## 田端 長之助 氏

性格 数奇なる運命を辿っ の所有者である。各地を変転 た男とし したことによる尊い修練もある は非常に迫力 あ 男性的

点に於 大体に於て頭 7 方の雄者である。  $\bigcirc$ ` 方で、 豊富にして、 透徹 した智識を持

昭和九年七月よ とと二世教育に携はり、其の然える様な熱意をもって子供達の精 神教育に挺身したもので相当の成績を胎 り、 大正十五年十二月の釆伯で暫らく聖州 T 7 ン研究所 らりマ 区ヴイラ日本校に奉職し、三年間をみっちり に行っ て実習生の 新報正編輯部 指導に当っ てゐる。 たりしたが に籍を起い

ある。 在は 引退したものである趣味は写真、陸上競技と演劇指導が ドオ、ピリツ 副園長として活躍したもので、其の後聖市に進出し、 サンパウロ市民を驚ろかした往年の タイパス附近でシャ 長崎県南松浦郡の出身にして熊本県立農業学校に学び バ の両校に務め十五年七月決然として教育界よ ーカラを経営してゐる。 エスコツテー 口 旅 フ 行団 T V) は

その一言に曰く

へ半日にせよ、 教へ た児の将来に深 1 興味を覚える。」

### 富田 勇 氏

当国に於ける教職歴 に農事を研究し、後マリヽアに転じてブラツク校に奉職 先生は水戸農学校の とし 7 の経歴が の第 あり、 出身である。母国にあ 一歩である。 昭和七年の 渡伯 で、 0 ア て農業公民学校助 二ユ したのが、 マス農場

新夫人を伴って意気揚々と再渡航されたもので、 現在聖市近郊 校に入り、 中途感する所あり、 スに招牌されたものである。茨城県鹿島郡 カンガンギに転じ、 の某校で相変らず二世教育の為に精励中である。 躍進日本の アバレー、 姿に接する為 ガリアを経て再びヴェ ヴエラクル 時 帰朝 出

橋本 俊次 氏

でなくて、剣道三段の実力によるものと筆者は思ふ。 はよ く人に知られる方である。それは前額部の異情なる発達

に籍して、民事の世話をして下さった。 ン研究所に入り暫らく農事を研究し、 昭和六年六月、 廣大自由 の天地を求め 国情を究め、 て当国に飛来し、 聖市線領事館 7

伯 ものである。 三月で、三年間といふものを二世教育に為に挺身し、 合をモット 其 の教壇に立っ の後勧めらるゝ儘にパ延長線行きの汽車に乗り、 として訓育に剣道指導に、よく其の職務を全され て、子供達のよき兄さんとなったの が昭和十 児童と IJ  $\mathcal{O}$ 年 た 日

 $\mathcal{O}$ 事務嘱託に聘せられて、教職員の連絡指導に携られたものである。 告白である。 趣味はブラブラ歩き、性格は眞面目でだらしないといふ御当人 十三年六月より 一時ドアル チー ナ校に奉職し、 後バ ウ ル 支部

州 石川県の出身にして、 シツフエ市に在る、 貿易斡旋所 和歌山高商 の卒業、現在はべ 々員様である。 ル アナンブ コ

その一言に曰く

たいものだ。」尚ほ新條として「和而不同」 「今まで先輩知己 のお世話になり過ぎたもうそろそろ御恩返

荒井 満雄 氏

が旺溢しすぎて其の為に何かにつけて問題を起したが、氏等 集園地であり日本との連絡もあ 氏はバストスに於ける教育界の いって其  $\mathcal{O}$ 後全面的に革新の り、直来の拓士が多い為に日本色 雄である。バストスは元来特殊 一路を辿っ てゐ ると言ふ。

ったが、 同地サウーデ校 其の卓抜なる手腕と、 の教職に 人物とを嘱目されて、 ついて二世教育の為に献身中 バストス

ば、地方にも出張 生活であると言ふ。 奨学舎々監となり、 一方産業組合の 青少年の指導に当ると言ふ多忙なる日常 会計を兼任し、 尚求めらるれ

である。 眞に温 順真摯な人で、現在バ ス 1 ス に於ける教育界の 第

その一人一言に曰く

な誤である。 「日本語教育をするの に学校が無けれぼ出来ないと考へるのは大き

らなければならぬ。」 に対して従来の倍も三倍もの力を全植民者は協力 両親の自覚さへ 出来たら、 家庭でい くらでもやれる。 叉青年教育  $\overline{\mathcal{O}}$ 

### 岡村 久親 氏

ŧ 言実直、物当り優しく、 温良そのもの のであるが、氏には些かも其れらしい生活の影がなく極め 氏は商船学校の出身で暫らく狼を枕のマドロス生活をしてゐ ム人士である。 態度丁寧で風雅なる落着きがあ á, 洵に

格と、熱誠なる訓育態度とは逸早く父兄の賞賛をうくる事となり、 ポ区朝日校に奉職されたもので、 同駅管下に於ける名教師として其の令名を馳せたものであった。 ロエステ教育界にあること数年にしてパ 此の間約三星霜、 延長線の人となり、 其の重厚な性

市の 為に尽力中であったが、日会解散と共に其の職を退き、現在は聖 一角に於いて商界へ 招かれてポンペイア奨学舎の舎監となり、 の飛躍を画策中である。北海道の 益々二世教育

その 大の秋には個を離れて全体につくべきものであり、新体制下に於 「民族の發展は先づ 一言に日く 個 の完成にあること勿論 であ

るが

国家重

ある。」 於いて在伯 ける日本が全体主義を強調する意義も亦茲に存する。 同胞社会にもこの精神を喚起することが刻下 此  $\mathcal{O}$ 急務で 意味に

## 大河原 久 氏

年三月丸亀高女を卒へ、東京和洋裁縫商等師範科を卒業し、大正 れたもの である。 八年より同十五年に至るまで岡山県春霞高女に教諭として奉職さ 女史は今は亡き殉職の教師大河原親顕氏の夫人である。大正五 であ り、教育方面には赫々たる経歴を有って居られる方

研鑽中である。 終始されたもので、 師である。香川県仲多度郡の出身にして殆んど生涯を学校生活に 外子弟教育功労者として、帝国教育会より表彰された光栄の女教 ガリア中央、サンヴイセンチ校と巡歴し、この間実に十四ヶ年」海 ン校を其の教職歴の始まりとし七、パ線ガルサ中央、フローリダ 大正十五 レンテウニカ、ソールナツセンテ、ドアルチーナ、コンゴエア、 年九月、 夫君と五 現在何コチア小学校にあり、 井し 私人伯されアラ、 クア 二世教育の為に ラ線 ク

# その一人一言に曰く

「吾が愛児を抱く繊弱い女の手は、やがて世界を動かす大きい い手である。」私共教育に携はる者も、 しみじみと比の言葉の眞理が肯かれます 児童を前に 力強

## 古澤 典穂 氏

ポ くなったものである。 と雅号らし 氏 の本名は猛と言ふ。 く言はせたり 典穂と書 て居たのが、 1 てツネヲと読ませたり、 1 つの間にか本名らし

と巡歴 多の 数年にして、 る処に之を宜伝 謳はれたものであるが、其の後は専ら修養団 氏はブラジルに於ては古い先生であるノロ 詩歌小説等をよく 功績がある。 して、 児童教育の為に貢献されたものであ マリヽアに進出し、 青年指導に尽されたもので、 昭和初期のブラジル文壇に其の学名を 此所でも亦明倫舎、 エステ線に在ること の牙城に立籠 此の方面にも った。 文藻があ 一昭和校 り、 到

堅い である。 謹直至誠といふやうな感じの風格があるが、 一 方 の男でもなく、 あまり深さはな 7 が、 何事に 託 て見れ ・も熱心 ば 左

務所にあって健闘中である。 秀れた特技である。現在。バラナト t  $\mathcal{O}$ 熊本県菊地 で、 文学、 郡 音楽に趣味があり、  $\mathcal{O}$ 出身で、中学卒業後久しからず 筑前琵琶、 レスバラス、 詩吟などもつ ブラ拓移住 渡 が伯され

# その一人一言に曰く

「人生は複雑であるから、人間の心も複雑になる。 人物を見抜かれる様な安価な性格は好も な \ \ \ \ 目 見

### 饗場 美夫 氏

民地中央ガリア校に其の職を辞するまで前後三ヶ年を 校に転じ、昭昭十五年一月パ延長線の人となりガ に二世教育に尽力されたものであ ンサ中央校 氏は山梨県立甲府中学の出身である。後東京市高等植民学校 急遽帰国 がある。 渡伯は昭和九年六月であるが、  $\mathcal{O}$ の途に着かれたものであり、 教師となり、爾来グアラ、ペス市 るが十五年十二月父君 同十三年にはノ 其の心事洵に痛切なる コ ブリア ゴ 、駅ヴヂ 口 いとも真剣 ý 計 セ ナ植 に接 チ に

其の になって呉れ。 一人一言に 曰く「学校を逐はれた子供達!どうぞ良い日本人 惜 別

ジ ルを去るに臨みて思ふかな、 明け暮れに神か けが り願ふかな、愛し児童に幸多か 我が教 児の末は如何にと

## 深井 喜平次 氏

成所を出て、其の儘日本の教職に在ったものである 先生は 山形県立府内農学校の卒業で、後秋田県補習学校教員養

変らす子弟訓育の労をとって居られるものである。 多大の成績を奉げて居られるものである。秋田県由利郡の出身に 人小学校が一斉に一先づ終止符をうつ迄、二世教育の為に貢献し、 エアード校に留まること二年、最後に再びアンデスに招かれ、 Ź 昭和八年十一月日本を船出して、 ンデス校を振り出しに、リンス、アリアンサ校に転じ、 現在は マットグロツソ州カンポグランデ奨学舎に在り、 入伯後輿農園に入り、 後ヴ

## 其の一人一言に曰く

重要さに、 の指導に当る身の非才を愧づるや切なるものがあります。」 「叔近の 母国を望み、 動もすれば自己本位、利己主義に流れ易い伯化第二世 所謂外交辞令の 人よ り、 腹  $\mathcal{O}$ 誠意  $\mathcal{O}$ 人の

## 浅見 鉄之助 氏

当時の植民文学に於ける先駆者の感じがあ た。それでも本屋さんらしい命脈がどこかにあり、 に盛んに評論、 マリ 本屋さんの御曹子であり乍ら、大そうゴツイ感じの先生で 区のカスカツタで、後ガルサ中央に移り、 小説を掲げ て文名を馳せた者で った 「哲之介」の 学校を始め こくで恩ふ 頃新聞 名は た あ

意気揚々と凱旋したものである。 ゐる。其の最も得意とする所はスパル 存分蛮勇を振 に著しき進歩を見、例年の大会にあ ったもので、 いろくと彼らしい痛快な逸話を残して  $\mathcal{O}$ タ式教育でスポ 山奥から出でゝ常に優勝 ツの方面

けず嫌ひで旺盛なる闘志を有ってゐるが、小理屈を捏ね廻す男と は種類が異る。 眞に朴訥そのものゝ観があり、 そ  $\mathcal{O}$ 中に精悍なる気力あ ŋ 負

く動かした先生である。現在はパラナ州ト の渡伯で、 人気男であった 兎に角、常時数多き日語教師 地主様となって、 中央ガルサ校に居ること五年、 名古屋市の産で、商業学校に学び、大正十三年 農園経営中である。 の中で余りに有名な存在であり、 在植若を己の手足の レスバラス植民地に在

その一言に曰く

「人生意気に感ず。 怖れるな。 怠るな。 萬波を乗り切れ。」

伊藤 敏夫 氏

佐藤 憲雄 氏

澤尾

千代子

氏

同人語

断想

多話語吐

濁生

なった。 ジルの国粋主義とぶつか 独逸人植民地の学校が徹底した国粋主義教育をやった為にブラ ってそれが外国語学校圧迫の導火線と

宣伝されて、それが二歩制限となり、学校が無くなってしまった。 日本人が貿易に農工に教育に異常な躍進を開始すると、黄禍が

の尻馬に乗るから、 伊太利人は持前のガツチリ主義で別に悪いことはせぬが、日独 余り好ましからぬ エ トランゼといふことに

枢軸の るが、伊太公の方は、どうやら十把一からげにされた様なもので、 独逸と日本は底知れぬ国民性を怖れられた様で、多少取得があ 一員にはちと貫録がなさすぎる。

在留邦人の赤誠を踏みにじり、出版精神を冒涜した甚だしき行為 き結実を見たのは、池田氏の鹿児島県人史位で、情報社の為体は、 である。 二千六百年を当て込んだ出版事業は十指に余る程あったが美し

たり、 間の出版物として、十分推奨されていゝと思ふ。 が、其の出版良心と事業に対する熱意と所謂調査もの中最も短期 り、財界が不況だったりで、当初の計画にそはぬ不満足さはある パ延教育史は時局柄、中途に於て内容変革を余儀なくさせられ 悪徳出版業の二の舞と誤解されたり、 行動がジミであった

北米に於ては日本人会の事業として、在米教育史編纂に着手し

され、 の跡を教育を中心として記録したが、 ゝあるといふ。本会も将来にのこす文献として、 完成される事を切望する。 かゝる事業が全伯的 在留同胞苦闘 計画

によ 解を事業開始前に取得する事である。 敢 分なる資金を用意し在留民総意の代行機関的立場 へて参考の為に一言して置き度 って計画着手し、 尚贅言を重ぬ 1 れば、 事は、 或程度、 確固たる組織をもち、 両国政府

る。 み倒 貧弱 所があるから、資金の上に国難を感じない方法を考慮すべきであ な組織や資金をもつ で無理押 つけにする様なことになり、事業の主旨にも惇る て行へば勢ひ在留民を喰物にしたり、

事業上、 から依存して馬鹿を見ぬ事である。 文教普及会は密接な関係があるが、 時局柄、 関係

が、これを収容する通常な場所がないのに、父兄達は困ってゐる。 二世同胞  $\mathcal{O}$ 都市遊学は、 逐年其の 数を増すこと、 必至の 勢である

埒な 得ば 既成 カン 0 のもある。 寄宿舎は相当の数に上るが、中には商人的な根性で数 りに専念 訓練、 健康の方面を等閑に てゐるといふ不  $\mathcal{O}$ 

返されるといふ生半可な事でなく、 父兄 日に於て悔なきよう処置すべきである。 は 出聖、 出市  $\mathcal{O}$ 際、 子弟を訪問 よく 実状を調香 徒らに御馳走頂戴し 検討

語を習得 伯国語に熱達すれば、 し始める第二世があるといふ。 日本人のよさが解り、 歳二十を過ぎて日本

うと思ふ ら、態々二十になってハナ、 如何に対伯人対な環境にあ つても、家庭で少し此の事に留意 ハトを初める必要もなかったであろ した

の緒につ この事は伯語学究の方でも言へる事で、事業もどうやらそ いた。 金も出来た。

る。 ら、子弟の将来を考へたら、 さあこれから学校に行け……是れでは子供は歳をとって仕舞ふか その教育にも亦、 時を選ぶべきであ

ある筈であるから、 ば格別であるが、自己の職業を踏襲させるのであれば自ら限度が 子弟を学者にするか、学問を資本に他の事業をやらせる って子弟の遊学をさせぬ事である。 事前にこれを熟考し見栄とか、 煽動などに  $\mathcal{O}$ であ

5 育を受ける事が出来ず、処世的に非常な不自由と恥辱を感じた 分が相当の教育を其の両親から授けられたから、子供も亦自分と 同程度の 大体子供を教育させるといふ考へ方に二つの型がある。 教育を授けねばならぬ。といふのと自分は不遇にして教 一つは自 か

方である。 せめて、 子供にだけは、 自分の轍を曙ませたくない と 言ふ考へ

其の 二世教育を等閑にする組の考へ方にも亦同様二つの傾向がある。 いも で今日までやって来たといふのと、学問はどれ丈やっても切がな のだから名前位書けたら、 一つは、自分は学問なしで社会に迫ひ出されたが、結構自力 いゝじゃないかと言ふ考へ方であ

等閑にする組で前者は無学で貧乏なもの、言であり、後者は有学 り、精神的に貧乏な部類である。 で貧乏なものの言である。何れも文化的に見た水準以下の者であ

新よ る事は世界史上に明らかな事であり、 教育ある国が進展 り異常な躍進を読けたのは小学教育開始以後である。  $\mathcal{O}$ \_\_ 路を辿り、然らざる国が衰えを来れ 日本が明治維 0

棉 事にする親や兄姉はゐまいけれども、貧乏時代には動もすれば之 に類した事をやりつゝあった父母兄姉がないでもなか の木や珈琲の木を育てる事を自分の子や弟妹を育てる事より大 っった。

二世教育が僻遠の地に於いて如何に行はれるか民族として考へざ 行はれつゝあったとしたら、今日、H語学校の終焉を見た今後の 教育機関としての学校が存在した時に於て尚且 るを得ざる大きな問題である。 カ ゝる野蕃な事が

ブラジ 教育は何語によって行はれやうとも其の人格智識を養成する上に うは ル政府が ないが、 現在 の様に日本人が奥へ 奥へと進入したんでは、

いくら学校を建て迫ひ廻っても、いつまでも鬼ゴッコに等しきも

のであろう。

ブラジ も読けるわけには行かぬ。 限定されてゐるのだから、現在の が 1 くら廣いと言っても限りがあるし、使へ 無制限材採政策もそう何時まで る所も自然

見たいなやり方も大抵で切り上げて家庭の和楽、子孫の繁栄を図 るべきだ。 日本人もい つまでも伐り捨て御免、取上げ御免で奥へ奥へと山猿

異る。 子孫の繁栄といふ事は徒らに我楽音多を多く殖すといふ事ではな い。生めよ殖せよの日本国策も只数ばかり言ってゐるのとは自ら

ち子弟訓育を中心に置いた家庭的生活を行ふべきである。 これからの農村生活は根本的に改造しなければならぬ。

その為には事業形態も変革せねばならぬし、所謂就働時間も改善 しなければならぬ。即ち凡ゆる機会を利用し凡ゆる場所を利用し、 家総動員をもって、子弟教育に当るべきである。 父兄母姉は教師となり、家庭と農園は子供にとっ ての学校と

きである。 発づ各家庭は児童教育を中心とした家庭生活の時間表を制定すべ

例 の中に談笑しつゝ、今日の予定を發表し、子供のための短話をし、 へば起床を六時と規定し、一家一斉に之を行ふ。 ラヂオ体操を行ふ。 神仏への礼拝をすまして清々しき気分 全員戸外に参

カフ ェーを喫して、それぞれ一日の仕事に就く。

する。 習を終る。 父母兄姉、何れか一人一時間程度の時間の割き子弟の学習指導を あと 時間は自習として仕事を輿へ、それで午前 の家庭学

学問的でない方をよしとする。 朝食弁当の持運びは子供達の日課とし、喜んで之を行ふやう訓練 和やかな気分の中でなるべく子供達の相手をするが、この場合は 一族集って談笑のうちに朝食をすまし、三十分位体感し

さを認識させる 勤労訓育を士、農業生活の苦心と愉楽を体験させ、其の事業の尊 正午迄の三四時間は子弟 の年齢、体格に應じて作菜をやらし

午後は自由時間としてなるべく明朗に、愉快に、 と近隣児童と娯柴を共にさせ夕刻の時宅時間を厳守させる のびの

果樹、 就働員の夕刻帰宅も日没と同時位にし、入浴まで家屋内外の掃除 花壇の手入、牛馬豚鶏の面倒も手分けして見る事にする。

させる様に誘導し、言語、 夕食には全員集合の上再び神仏を礼拝し、子弟達になるべく話を 動作等に注意し、適当に之を指導する。

之を終る。 食後三十分位を経て、 学習指導を行ひ、 一時間半位の程度にして

時間により適当に処置すべきである。 伯語学校通学児童の為の家庭学習は別に之を定むるか、叉は其の

る。 当な人に依頼 学習指導に対し し、其の謝礼は他の事によって補ふ事にすべきであ ては家族内  $\mathcal{O}$ ŧ  $\mathcal{O}$ で適任者を得なければ近隣

環境にり、 弟を中心とした家庭生活を行ふのであり、其の方法は家庭により 聯か机上の空論に類するが、要は家族が常に子供と共に在 最も良き方法を講ずべきである。  $\overline{y}$ 子

ければならぬ。 さを鼓吹し、日本人たる事を悦ぶ様に指導し他日の飛躍に傭 国事情等はなるべく体系的に之を説話し、日本及び日本人の優秀 父兄母姉 は常に日本人的なる思想をもって子弟の訓育に当り、母 へな

本愛着の心を起させるやうに誘導する。 向をこらし、 毎週土曜日をもって一家困欒の夕べとし、平日よりは食事に 日本在位常時  $\mathcal{O}$ 思ひ出を語りなどし て子弟をし て日

日曜は天下晴れての安息日とし、 く食事を早くして明日  $\sim$ の備 へとする。 一日を任意に過すが夕刻はなる

 $\triangle$ 

が生存の意義を感じ、半ぼ生涯の事業として悲壮なる決意の下に たり、労働が嫌さに白墨持った人達には明日は 先生方は正に御愁傷様に御座候である。一 何 の痛痒も感じまいが、例 へ動機は何であ 時腰樹的な気持で ったにし 明日  $\mathcal{O}$ ても、 風が吹く 茲に Þ で 0

ある。 この仕事に背水 の陣を敷いた人達には其の心事洵に痛切なものが

らうが、 教育業といふ事は元来物質的に不遇なるものと覚悟 無一物の元の木阿弥となったのである。 七八年を辛抱し、どうやら人並の服も着れるといふ時になって、 カマラーダの賃金にも劣る薄給から初め の前であ った

これが 無関係になる。 あろうが、此処では糸が切れた紙鳶と同じで、 日本であったなれば、其の後図に対しても何等憂なき筈で 其の日から一 切が

途が 先生は頭は で陸へ上った河童同様である。 少な といふ。 1 ゝそうであるが先生であった事が禍して、 語学が出来ず、 融通が利かないといふ。 仲々 使 まる 7

先生は 嘗めるか知れな 学校を迫はれた児童達の将来に対して其の 一毛さ、 一校に概ね とい つ 一人であるが児童は其の何十倍である。 それを想へば、 俺達一人の生活なんて九牛の 父兄達はどれ程辛酸を

言ふ。 て、かねて習得した犠牲的精神で、 洵に悼ましき極みである。 発生らしく自ら慰めてゐ ると

増額 普及会から支給する優遇補助金は今後年額乃至二分の一支給とし、 は保管して辞職転向後の事業資本に充てさすべきである。

無 物 の為に不本意な職業を選んだり、社会的にどうかと思はれ

りしその る仕事に従事し しな カン 人格を疑は てゐる舊教師があるが、これでは現在まで教師た れ児童の敬虔なる尊信感を毀すことになりは

制 か 今度 脈相通するものがある。 0 て日本でも今盛んに職業の転向が行はれてゐるが、どこ  $\mathcal{O}$ 転 向は 国策に 沿ふた光栄ある転向である。時局下新体

は、 功績や洵に偉大なるものであるが、比較的に取残されてゐた 人格的練磨であ った事に、 異論はな \ \ \

らぬ。 3 に、卿等は卿等の前に横たはる大いなる問題を処理しなけれ 著は 成、 智能 それは何か、 スポ の啓発に、 ーツによ 曰く、 って築き上げたる肉体の 慌しき進軍を開始せねばならぬが、 次代の後継者たる少年少女の指導であ 如く、 今こそ人格 其の 前

移民関係の 移民審議会の許可 伯国法令は十八歳末満 証を取得す  $\mathcal{O}$ × 伯国生児童を外国 しと規定した 連行

雑 申請者には悉く許可証 な手続は必要ない の後に来るも 訳であるが、特別に之を規定した所から見れ の」が豫想される。 が附興されるもの であれば、 別にこん な煩

こう書けば何だか か永住かと言ふ問題が、此の事に依り解決される様にも思はれる。 事実はそう簡単に行 「帰るの くも は今だぞ」といふ教唆め  $\mathcal{O}$ でなく、 寧ろ吾々 とし 1 た言葉にな

この 日本人である。 事が官報に 現れ、新聞に發表されると眞先に気をもんだのは

ブラ じてゐない 基礎も確立してゐるし、 世の時代であり言語習慣、もともと同類のも 部はその は 数も多く叉伯国に於ける歴史も古く、 所謂移民国で各人種 今回の法令に対しても、 の集合場であるが、欧州移民 O現在は第二、第三 であり、 一向に痛痒を感 経済的な

に於ては、 日本移民は、 経済的基礎もなく地主など、 貪弱である。 之の点未だ足許にも寄らず、 其の数は多くとも未だ其 外国移民に 匹敵 す

起て に其 て来ると、 し元来世界に誇る教育国民であるだけ、長近の様な形態  $\mathcal{O}$ ゝ あ 目的が達せられない事実により、どうやらぼつぼ 田舎に於ての児童教育が、 ったものである。 例 伯国語によ 0 ても充分 つ浮腰を に 0

途端 見地による深 利きすぎた感がないでもない。 · 今 回  $\mathcal{O}$ 法 い親心は有難く頂戴するとし 令 であ る。 在伯 同 胞に 対す る伯 ても、 国政府 之は聊か  $\mathcal{O}$ お灸が 将来的

に時 代は移り、 中 の事は、 歴史は繰返すも あまり悲観的にば  $\mathcal{O}$ であ る。 か り考 め 事だ。

伯固法令を遵奉 何れの国にしても時勢に卸 これまでの歴史が証明してゐる。 なけ ればなら した施政方針を採らねぽならぬ事 á  $\mathcal{O}$ は 在住者  $\mathcal{O}$ 義務であ

少しも騒ぐ必要はない。永住といふ事を考へ いそしむべきである。 て孜々とし

道は自分が拓かすとも常に時代が 解決して呉れる。

開に、密接な修交が行はれる様になれば、 され、当国に於ける移民の優秀性が確認され文化 をふむといふ訳ではないが、日本民族發展の眞意が全世界に諒解 に雲散霧消すること、 の提携といふやうなものがうまく整調され、日本とブラジルとの 日本語教育問題には米国の会っての例がある。何も当国がそ 疑なしである。 こんな小問題など一気 この交換、 経済上

ある。 姉は今こそ眞実なる父性愛、母性愛、 幻をも 四五年、学校による日語教育は行はれないと仮定し世 って、子弟の健全なる成長を念願しその方途を講すべきで 兄弟愛に目覚め、 大いなる  $\mathcal{O}$ 父兄 母母

 $\wedge$ 

ゐるが、 、 開發して行くかは、大いなる疑問と言はねばならぬ。 次代を承け継ぐものは現下の青年であり、其の次 殆んど同 の幼童である。現下の青年は日本移民の歴史が浅 現在 一なる環境にあり、民放精神も殆んど同程度に継承して の幼童が日本古来の美点特質をどの程度に継承 いだけ第一 の後継者は現在 世と

たる地位を獲得し、 らん事を企画し、国力を賭して国民総決起の大運動を開始してゐ 日本が今東亜共栄圏の確立と共に、未来に於ける世界の指導者た の地七つの海を距つると雖も三千年を一貫する民族精神はどこ 近き将来に於て、 栄光燦として輝やく崇巌なる姿を想像せよ。 其の念願が達せられ名実共に、

逢遇 までも継承し、 しなけ ればならぬ。 在伯五十萬同胞、 相携へ て輝やく栄誉のその日に

を前述 得な 会的生活戦線に登場した時 忙なる物質生活に終始 き家庭訓練を受けたも は の如 現下 だき大い  $\mathcal{O}$ 教育的慣伏時代を四五年と仮定した。此 なる幻をもち、高遠なる理想を永め したもの のと、殆んど希望なく方策なく、 の事を想像する。正に慄然たらざるを とが、同じく一家の主班として社  $\mathcal{O}$ て、 徒らに 四五. 遺憾な 繁 間

族 前 神を失ひ、組国を離れた中間的存在の多いとき、我が民放の将来、 の誇、 者 し悲惨の極に瀕するであろう。  $\mathcal{O}$ 数の多いとき、 愈よ磐石の安きにあること疑なしであるが殆んど民族精 皇国 の前途益 々多幸遼遠なるを想はせ、

じ歩調 きの時 今こそ一人一人が、 の軌道に乗る である。  $\mathcal{O}$ 下に進軍を開始するとき、 環境が 銘記せよ、 民族發展 如何に区々 二世教育! 本来の使命を感じて、 であろうとも、 此問題は微動だもなく、 強調せよ、 在伯二十萬、 民族精神! 立脚すべ 同

# 凡誦一束

見にお月さん唄ふてやる北斗七星

•

吾が影迫ふて月の一本道を来た

•

こゝに家をうつしてあけ暮の水音

•

こゝにも蟻の道があるみんな擔いでゐる

•

日に松蝉啼かせ農夫になりきる

日記

### 、調査の旅

調査主任 K・M生

事と、其の時期を延せぼ延す程調査士種々な支障は加重するし、 物かに押される様な妙に落着かぬ気持の中に、いよいよ今日から 自分の調査旅行が始まる。何にしても仕事が教育的なものである であった為に期日は刻々と切迫するし、妙に気分がいらいらする。 所謂調査ものとして最も短期間に最も内容的なものをと言ふ計画 得も言はれぬ図り知れぬ希望と、何かしら定まらぬ焦燥と、 何

: 1 :

を中央旅館に明かし、翌早朝バストスに行く。当地は我々にと 日大竹君は帰聖寺門氏とツツパン町にて調査を終へ、旅の第一夜 って地理に不案内なる為に荒井君に依頼して調査して貰ふ事にし、 一月八日 し吉山、岡田両氏を始め市の有志全部から激励と後援を賜る。 午後ポンペイア市に帰着。 産業組合の岩野氏の案内で製糸工場、 寺門、大竹両君と共にポンペイア中央校の沿革を調査 其の夜寺門氏は帰聖する。 中央小学校を参観の

一十五月 出聖して刊行会本部と諸事項に就て打ち合せをなし

後必要に應じて加勢して貰ふ事に 々 査 の総てを担当する事となり、一 した。 方加藤忠三君に願 0

教授振 当日会はよく統制されてゐるだけに調査記録も直ちに出来た。 事実より学校無き後の父兄の責任が重大になっ くなっ の昔模範教員と讃められた現学務の前花君に案内されて植民地を 数年前 廻り、夜更けて君の宅に着き盃を重ねつゝ邦語教育学やかな ア市巡視とあ 二月 植 では二、三年前迄は非常に少くなってゐたが、 てから何処の植民地にも殖へて来たとの事であるが、此 日 りには感服した。児童のトラホーム患者 民者は学校に集る。北御門女先生の葡語授業を参観、其 駅に降り、希望植民地に行く。加藤君のトラホ の話に打ち興じた。 当日は丁度在バウル って駅にお迎へする。 -領事々務代理石原氏が 其の汽車で の多い事、 た事を痛感する。 加藤君とキ ム検診 君 り  $\mathcal{D}$ 

間を縫うて淋しく空家となった学校の前を過ぎ、 其 一泊を乞ひ、氏夫妻の親切と息女方の應接振り 何に行き届いて. 翌日第三パウリスタ植民地、新 ゐるかゞ何はれる しく美し 1 重鎮松本氏を訪 は平素家庭教育 フ 工

### $\frac{\cdot}{2}$

ゐる。流石カフ 不案内な自分は幾度び躓き泥水に飛び込んだ事か。夜中の十二時 り返っ 翌朝サ 田尻会長の り本会の事業に非常な賛成と後援を戴き調査 途中ラ 当地は二名の伯人教師 てみれば、当植民地が後援者の数に於て第 ンジョゼー プ 御厚意で調査を終へ エ ーを主作とする所だけに何処となく落付きが を借り、加藤君は慣れてゐるの 耕地を経て元加藤君 によ 廣い って教育され 植民地を廻る の勤めた第一昭和植 でどんどん走る。  $\mathcal{O}$ てゐる。 一位を示 全部を終  $\mathcal{O}$ は容易で 有志全 あ 7 地

藤君 る。 定老先生に出会ふ。相欒らす元気漲る先生に会っただけで自分達 無我の境。前のパストから搾りたての牛乳をお嬢さんが抱 の気持が引き締る。 上辻氏宅に辿り着き家族の方の親切に疲れた身をカー 温 の足の早い い乳を腹一杯御馳走になって出発。 のに降参、 息がきれそうだ。 昨日の続き、 内川氏の宅で岡 マに、 何しろ加 朝迄 田英

風 斯ふなつ 帰途パ が吹き出 ウリスタ植民地で暗くなった。眞黒に曇っ ては却って度胸がすわる、二人は無言で歩 したと見るまに忽ち豪雨がや 0 て来た。 た空、 7 た。 1

暗さは暗

来た。 な懐しさが湧い に立ってグ 殆んど這ふ様に の校庭は草だらけでも 其の翌日、 し雨は益々激しい。 タになると云ふ。ずぶ濡れのまゝ二人はバール ッと一杯、ヤ て来る。 してバ 昨年迄ゐた植民地に行く、 教 ーレヤレ。幸ひに最終のバスで帰宅が ドレ へ子達は喜んで迎へてくれる。 プ ガ駅に出た。 故郷 へでも帰 ガをや の入 0 た様 出 

ど懐古 自分の植えた記念の樹はスクすくと延び、花園 簡単に出来、 の念禁じ難 二、三の有志へ挨拶して廻る いもの がある。 当地  $\mathcal{O}$ 調査は 自  $\mathcal{O}$ 花  $\mathcal{O}$ に色は変らね あ

### $\overline{3}$

援者 り、 地君 式とかで、取り込んでゐた為に調蚕せず雨の中を東洋植民地に下 た所、役員が不在で元教師の能君に調査を依頼して置いたがどう 十三日早朝、 渡部会長宅に  $\mathcal{O}$ に案内されて植民地を一巡、昔から教育に熱心 数が多か 加藤君と明倫植民地に行く。 0 た事は喜 一泊を乞ひ、 い中央植民地は東洋から先年分離 其の夜数名の有志を訪問 丁度伯人教師 な所だけに後 翌日川

る先生は 田 ダに寂 氏を訪 事情 知 か 編 れ しそうに立っ  $\mathcal{O}$ た時 輯最後の日迄に間に合はなか 加 藤君を懐 同氏宅に寄宿の伯人女教師嬢、淋 てもう しがるアテロー 一度アテ 口 ゴをして道を下る時べ った事が ゴをした。 しい 残念である。 田舎にゐ

現下 第二昭 えら たが 斎木 う此 る路 をふるはせながら青年の如き元来な氏 が聳へ、二十数本の 頓 児童教育は総て青年会によって行はれたもので、殊に新 出された。 め調査に困難 7 切っ スで帰宅す。其の翌日マリヽア市衛生局長と加藤氏 暁植民 処 君 ひに、 とてもとても。 ても足が抜けない。加藤君の上体をつかんで引き抜かうとし の教育問題を如何に眞剣に考へてゐるかゞ窺はれる。其の ツ  $\mathcal{O}$ の努力は賞賛に値するものがある。夕方疲れた足を引きず あ マ区管内で有数と謂はれた植民地だけに土地にも で此 の宅へ た気分が見へる。中央の丘上に珍らしく立派な二棟 タ血液検査 事 和植民地に入り、月光を利用して一巡、 つと晋ふ間に加藤君は大泥濘に腰限り になりましたのう」後は 地は小さい。濃い緑色に塗った清田氏の家に着く当地 あ 山本会長 は痺れて感覚が の儘眠ると言ひ 行く。 らゆる術を施 した。永島君宅にて泊り翌日数名を訪問 の為にヴェア 途中折柄篠突く豪雨、 ランプは消  $\mathcal{O}$ 松並樹吹く風にそよぐ音、 厚意で調査を終 無 してや 出した。約 1 と言ふ ード植民地に出張する へた、 5無事… つとの 雨は益々 0 一時間後小降りになったの へ元老横江氏を訪問、 事 口から奔しる一言一句 :南無: 他 に引き抜 の所に見られな 故国の海辺が 日会の記録無き為 ひどい。  $\mathcal{O}$ 8 1 り込む、 が 加藤君は 検眼 て午後 田秀明君  $\mathcal{O}$ 白髪 校 乗 並 舎 夜  $\mathcal{O}$ 

斎 木君 寝に 宅にやうやくの事で辿り着き、夫妻 . つ く。 翌朝濡れた儘の 服を着て出發。  $\mathcal{O}$ 親 切 からりと晴れ で身体と衣 た空 を

普通 向。 V) ルアを歩くと誰もが振り返 昨夜 現場監督そっくりだと冷かされる。鏡を見ると威程そん ヤツ、 定め 一装で植民地巡りをしたが、不便な為に乗馬ズボンと上つ の遭難は何処にあ し物凄いと想った事だらう ポラ イナを新調 0 たか へって見る。 して身に着けた。 の様に太陽は笑ってゐる。 大の男が勇ま 加藤夫人よ り土

### : 4

解体 を誇 共和植民地に入る。その昔四ケ年間勤めた想ひ出 佛さすものがある。 体躯に大の眼を見張り力んで語る様は恰も敵前に奮戦中の氏を彷 間、 二 十 日 不遇に在 に暮れゆく西 の役に共の勇名を轟かした勇士だけに語は其処にゆく。 せられた校合の跡背丈けとなったマ りし校舎も今は既に跡形も無く、 氏濁特の名説を承り、 、語る。 第二ボンポ方面に出張、延長線の傑士石川憲太郎氏 n 翌早朝、 し其の の容を眺め 数名の有志を訪問後、 明和植氏地 つく、 家路を辿って曳地氏宅に教へ子等と 邦語教育華かなりしあ の重鎮神長倉氏を訪 一画に棉繁れる畑を横切 ルゴー 丘を越へて先頃迄雄  $\mathcal{O}$ の植民地、 中に立って脚 ね、  $\mathcal{O}$ 頑丈な 頃、 に V) 姿 日

時、想ひ出の 萎れてゐるが此所に学んだ子供達は健在であらうか 残る斑点のグラ て子供と遊 び し此 一つひとつが浮んで乗る。「南十字の崖 7 オンゼオーラの の庭、我が造りし花園の今は荒れた中に僅 一株、今日も咲い たか下 の影」を 歌 7

んま 二十八日 今日は親父が来ると言ふので仕事を止め、 君の結婚式に親代理になってやった関係上親父々々と呼 走を造っ 予ねて公栄植民地の て待 0 て居 てくれるだらうと勇み立っ 山崎君に約束しておいたので、 掃除 したり片づけ て出

る。 をや 三氏を訪 たり御馳走を造っ て焼きつく様な真昼、御子息とカマラダ相手にパテアロ ってゐる。延長線教育界の重要な位置にある方だけに話 れた。氏は畑仕事は たりして待ってゐた。君の道案内で重鎮次 しない人かと思ってゐた所、 Þ

指導者や父兄の平素の努力を想像する。 直ちに賛成後援して戴く。 の家でも日本語読本を読んでゐる可愛子供の声を耳にする度びに、 主なる有悉く後援を賜る。

### 5:

謝する。 に此 高木会長不在で吉本氏を訪ねたが路を間違へて三倍もの距離を歩 が洵に優しい気持ちの人で家族の方も親切にして下さった事に感 れず其の挨拶振 在植者が教育方面に非常な理解を持つ事と親切なので、苦労をど んなに慰められた事か知れない路で出会ふ子供達も師の訓へを忘 モーロレドンド植民地の地図を描いて貰って之れを頼りに歩く。 三月五 て夕方辿り着く。裸一貫で炊事する勇しい姿、 の如く高 翌早朝、 日 に留るであらう。夕方空腹を抱 午後の い丘が多く、 りと親切な態度、師は遠く離るとも師の魂は永遠 高木会長を訪れ色々と御高説を承る。 バスで第二メスキッタ 畑に人を訪ねて歩くのに苦労したが、 へて中 のボテコに降 巌丈な顔 当地は其 り高木君 つきだ

氏宅 央メスキ 上る途中藤原会長邸内の泉水を見せて貰ふ。夫人が麩を投げ与へ の三氏より本会の事業に非常な賛成と後援を受け、其の夜上村 被害甚だ で厄介になり氏 ツ タ植民地に辿り着き、ボテコに来合せた藤原、 と会ふ人々 の処世上の体験談を承る。当植民地でも情報 から非難や憤慨の言葉を聞く。 田山

木君 銘した。第一 きが悪いやうだ。 子供無き氏夫妻は金魚を子の如く愛せられる美しい御気持ちに感 ると色とりどり数百匹の金魚列をなし から色々と事情を聞 メスキッ タ植民地の丸山会長を訪問 て帰途につ て集る態、に見事なもので、 いた。何うやら西空の雲行 したが不在で鈴

### 6 :

教え子達と語り楽しく一夜を過す。 称登嶺植民地 ーラを下り谷また丘を越へてバスは走る。 翌日午後 いのバス で降堀女史、重鎮原多七氏を訪ね久し振りに多く でカーザグランデ方向に出発。 日伯両語で同一 初 8 Ź の所、 の名

汗は遠慮なく流れ、レンソを幾度びも絞りながら頂上に着けば涼 翌日焼けつく様な砂路を踏んでリベ る道はあ い風 て調査を終へ、陽漸く西に傾く頃、 い細路、 が吹く。崖下を見下せば身振ひのする様な絶壁、 りけりである。 五歩登れば必ず二歩下る。 口 中 夕陽を背に負ひ首すぢ 央に聳へる岩丘上に登る ア レ グ レ の草 ΙİΚ 登ら 場氏を

下る それこそ木葉微塵とならん。崖底の黒線を帯びた眠る様な原始林 を掟へて見下せば直線三百米位の湾曲型絶壁一度び足を滑 丘上は平坦、 査を終へて合志氏を訪ね、ガルサ時代の懐古談に花をさかせ一 に上れば滑る、 の息が冷気となって、夕闇と共に流れて来る。 冷汗び 丁度橇に乗った気持ちと言 か。草原の中に人の通った跡をやうやく見つけ崖頭に しよ 風愈々涼しく、 危い。 りとなる。真暗な中を中村会長宅に辿り着き、 腰を下して両側の草の根や岩角を捉 扨てアグアホルモ 5 度 1 が、 両側が 形ば ザに 絶壁で眩暈 カン り の 何 )路枯草 出 らせ V)

呂浴びて身を休ませてもらう。

さん 思ふ。氏の意見を乱せば、子弟教育を中心として生活論を述べ、本 を越えて藤野氏を訪問する。 娘にも勝る態度は何とい 中央高台の学校には、美しい伯人プロフ た事件に何の関係もなく在植者は平和な幸福な日を過してゐる。 るますから私が呼んで参ります。おは コに腰を下す、少女は気を利かして冷 てゐて下さい」と云ふ。 に宿  $\mathcal{O}$ 翌朝 の事業に対し激励の言葉を戴いた。 少女倶楽部を出して来て「ごらんになってゐ のお名前は」たった之れだけの言葉と心掛け…二十を過ぎた 之れより歩く事三粁、 昔大同事件で名を識られた所だが、嵐去りし りて、翌早朝ア のバスでマ市に帰へり午後第二ポンボ × 家族が留守中にはは入れない。 ンカス街道に出でブ っても優れた家庭教育の現れだと嬉しく 留守居 日伯耕地  $\mathcal{O}$ のボテ いりになってお憩みに い水をラチーニヤ 十一二才 ェリーラの涼しい声が ログレ コに一休み の上原氏を訪ひ曳地  $\mathcal{O}$ 少女「畑 て下さい。 ツ 今日はそう ソ櫨民 庭の して叉丘 杯と一 おぢ

物となってゐる君の姿を観て頼もしく想はれる。 をすます半ズボン姿の君が此の頃の様だが早やくも当地で主要 は寂しげに風に 急ぐ。更生に着いて中島氏宅で泊り、 を出 出んと凡そ方 、林の中を潜り抜ける、 地に着か 上に出た。途中で方角を違へたらしい、 夕方丘を再び越へ日は暮れた。例へ夜中にな グラピ ツ ねぼ予定日数がある。 々来たと想 日 角を定め 晒されてゐる。 が隙間もなく群り着く ぼ、 て一直線、 手は引っ掻かれ幾ヶ所も血がにじみ腰 意外にもブ 植民地を 之より拾粁、 棉畑を横切り、 万年会計山本君を訪 のを取り除ける暇がな エ 仕方がない裸足を変へ ノス 廻り、 容易ならん っても次 ブエ 。丘上に パトリモ 草原を押 ス植民 ある校合  $\mathcal{O}$ 更生植 ね 杳

7 モン ね 在伯三十年と ブ ツカ植民地に行く。二粁程行き過ぎて叉引き返し椿君を いふ森田会長に会ひ植民地の記録をとる

#### : 7 :

のバス、呼べど聞 日の強行軍で若干疲れたせいか頭が重く、 で帰 へる可く本通りに出た時、今眼の前を過ぎたば へる様子な く行って了ふ。 気分が悪 1  $\mathcal{O}$ 夕

マリヽア市道十五六粁ある。

が切迫 考へ某氏宅へ一夜を乞ふと思って立ち寄ったが主人が不在との き初めたが何となく気分が悪い、若し途中で倒れたらい 流石頑健な躯の持主と自信 すっかり治ってまるで夢の様な気がした。毎日の強行軍と正常な 用意の薬を出 駄目だと恩ひ棉畑の中に飛び込んでマモン樹 戦場にある我が友を想へぼ: れ夢路をたどり翌日マ市に帰へる。刊行会本部からの通信、 るかと考 食事を採らず、道端の汚水を手当り次第に飲んでゐたせいだらう。 内を切り裂く様な強痛に堪 の様な状態が続 で止むなく踵を返した。泣き度い様な感じが胸に迫る。二粁位歩 た時限 深 で元気をつけて共進民地の野中氏宅に辿りついた。其の頃は も同じ様な請求、 い砂道、 したから至急調査を終 の前が次第に暗まる様な気がするので道で倒れ へた。野中氏夫妻の親切なおもてなしに今日の苦痛も忘 して飲んだが水がないので飲みにくい約一時間、 食ふや食はず責任は重く道は遠し。 いて今夏は急に腹痛を催 期日は迫ったのに俺一 してゐた自分も此の時ばかりは如何な へてゐると約二時間後には殆んど治 へる様、但し一ヶ所も落さない ・夜通しでも歩かふ、斯ふ思っ Ļ の根元に座り予てて 嘔吐する、下す、 人で… 若し仕 けな 連日の炎 腹 事 0

だらう で俺が 倒れたら… : 斯うした気待が本部 の同 人達には解 る

帰へる。 づかれる調査を終へて、アグア 折悪しく不在で青木氏に調査記録を依頼して、夜の十時頃マ市に の地点、サンタ・アンブロジーナ植民地に篠原会長を訪ねたが、 十五日 、室内の壁に掛けた多数網のと柄の長い矛を見ただけ べ 岸君が ヂ F アシ の花田会長を訪問。 ス街道方面 デ に 出 氏はペスカが コブラを経てマ市より廿八 カン け Ź と言ふ 余程得意ら  $\mathcal{O}$ で 使乗を! でもうな 頼

を聞 始 関係に余程迷惑を蒙 明したが其 会長は本会 め役員方集合の 翌日加藤君と東北 くに及ん の性質を日伯情報社と同一視し営利事業かの の事業に絶対反対の意を漏 で聊か 所 約八 0 憤慨せざるを得なかったが、此 どて調査は直ぐに出来上り、 てゐるか 粁  $\mathcal{O}$ 明倫植民地を、 の様な感じがした。 し、主旨と内容を十分に 再度訪 賛成を得た  $\mathcal{O}$ 間、 緒 は情報 如き言葉 方会長 副

テリゲンチャ パキと歯切れ 畑に案内され マ市より二十粁の にや の上、大久保氏を訪問 日加藤君は第二メスキッタ、共愛植民地方面に出張 0 てゐる と聞くが、いかに家庭に於ける日本語学習を相 . つ のよい言葉で其の答が要を得てゐる。氏夫妻はイ かが窺は ゝ学習上の質問をしてみる。ぐずぐずしな ブエ ノスアイレス植民地に柳井会長を訪 れる。 したが畑に出で、 愛嬢より家から三好 ね 自 テ 7  $\mathcal{O}$ は

で茶園を経営してゐると云へば当植民地の鵜森氏を識らぬ者は 有明、バンディランテス、大和の三植民地の調査を終へてボ の翌日加藤君と自動車を利用してバ たポ T に帰 ソ ルテ る。前者三植民地は特筆する程度  $\mathcal{O}$ 土居会長を訪ねて調査記録をすます。 (ラクル 町 の感じ ょ り二十 粁

ある 夢路 当地は た様 グランデ植民 5 厚意によ の上手なお手並に舌鼓を打ちつ て公私共に庇護してくれた恩人で、久し振りに叔父の家に  $\mathcal{O}$ エ に入る。 な感じ が三時 る。 まい。今迄カフ く感じた。其の夜十二時 カフ  $\mathcal{O}$ 姿を見て嬉しさの みは相変らず暗い様に繁んてゐる。其の夜教 0 てカミニョンを出 が湧いて来る。四人の教へ子連は見違へる様に 工 翌朝の汽車でガ 地の元老青柳半吉氏を訪問、氏は其 ーを主作とするも在住者殆んど他に移転 エル · と 棉 余り胸が一杯にな のみを見て来た自分には何とな ル して貰ひ中央ガ マ市に帰 サ駅に降り市 ム語る事夜半を過ぎ、 へ り、 明日 ルサ ょ って来た。 り約 の岡崎  $\mathcal{O}$ の準備 昔自 + 打ち寛 粁 へ子富子 信隆君 氏を訪問 分 を  $\mathcal{O}$ ,成長 で 口 も来 て寝 ツ 問  $\mathcal{O}$ # 0

#### : 8 :

於て 翌朝植民地を 事ではあるまいか。丘を下り新道を通れば十年前奉職 たれる。無味乾燥な植民地生活には動もすれ たべた壁一面に貼りつけた所に比べると何となく高尚な感じに た某画伯 子女の気持に室内装飾、そうした方面にも気を配 に見られない事で、商店の広告掲示板みた様に 、上品な気持ちに導くと言ふ事も親として考へな し今日残る者僅、 当緑 一般に活気があるそうして殆んど家毎に元当地 地に出る。 で二十 の油絵を掲げ 廻り ケ 現会長梅原氏夫妻、 、調香記録をとる。当地は新 年 其の輝か の最古を誇る当地 中には相当の しき功績と苦心の跡、 大物もあ 年前と何ら変り  $\mathcal{O}$ 沿革、 ば荒まんとする青 るとい しい フ り美的 オ のと肥沃な点 頭 IJ Š にこ せせ 在  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ な 他 はな 下る想 き元 感念を輿 = 任  $\mathcal{O}$ が ガ Y 植 気な 5 年 + 打 批

夜の なり、 を凌ぎ、 す暇を乞ひ丘上の校庭に立つ何も彼も見るも ならざるはなく、 りながら夜更け迄御馳走になる。 十尾、よい所へ参られたとて喜びマ つ青い実を結ぶも懐しい の種を蒔いて十年後の今日、其の蜜柑の樹に主はなくとも二つ三 十一時過ぎ長谷川氏を訪問、光強君の釣 校庭深く野草に覆はれ、 誇りやかに赤い花を開いてゐる。 間 の都合で寛君の丹誠こめ 当時延長線最大最新を誇りし校舎も哀れ空家 我れより背延びせる修君に案内せられ 当時植えたパイネー ッチさんの手際よ て育てた鯉 我れ夫婦と児童、三つ って乗たトライーラ  $\mathcal{O}$ 一として想出 の御馳走も受け得 ラの 料理で語

翌朝 子等は何となく寂しさを漂はせてゐる面持ち た。其の翌日マ市に帰へる。ソールナツセンテ、 りに我が家の門に入れば家族は涙ぐんで元気で帰 リスタ、愛国の各植民地を経た加藤君はチビッツ の母として世に立つ凛々 エンカイヤ 野田氏を訪へば、氏の嫁こそ我が教 で泥まみれとなり哀れな姿で帰へ しき姿に師は教へし子に頭が下るを覚 へし生徒 って来る。久し 第一、第二パウ へりLを喜べと、 サ方面で自動車 であ 5 0

に家庭を触るゝ 仕事は、 親として考慮せねば な め

### 9

乞ひ、翌朝植民地を一巡、 棉畑を横切り夕暮近き頃日昇植民地に着き、藤原氏宅に 子供らは嬉 で押し分け 7 キナ 日 の音の騒 々 として戯れ 再びジヤクチンガ植民地に入り、 り数粁 々しさ。 るの のジャクチン 道辺の学校では伯人教師を取りま が懐 路無き谷間、 何所 ガ植民地を経て、広る虫 丈余の草原を汗だ  $\mathcal{O}$ 畑 でも虫退治 つく砂路を上 て一泊を に使用

氏宅で を訪 げてゐる点 り朋友熊井君を訪ねる。君も亦棉の除虫に大童重鎖大貫氏外有志 地男女青年会は修養に向上に非常な努力を続け、相当の成績をあ の記録をとる ね て調査 一泊し、 は他のそれに此して力強 翌旦高千穂の西田氏を訪ね今は無きサンジ 中央丘上の学校では伯人教師の声聾が聞 い感に打たれた。其の へる。 夜円上 ヨゼ

ビラケ も篠突 憐なる子達の上に限りなき神のみ惠みを垂れ給へと心に祈る 健介君の令弟と君の遣児身寄り少き伯国の僻地に両親を失ひし 鈴木氏を訪ねたが夫人病気にて不在、留守居に我が同窓の友桟槙 夜の十一時過ぎポ市より四十粁と称するマンダガリ植民地に着き、 兀 月 く雨、バスも路上に立往生、幾度びかのカイヤを繰返し 日 ロス行きのバスに乗り五粁位の所に差し掛る頃、 朝から曇った空には午後となり降り出 可

終 調査を終 と後援を得、 翌朝まだ暗い四時ポ市行きのバスにてパイケー へ翌早朝から植民地を廻る。 ダ植民地に着いた時にはもうへとへとなる。其のわけだ今日 の植民地を跨にかけた。林会長宅に厄介になり調査記 へ、数粁歩いてブジュウ植民地に七名の有志を訪ね 時間のない為にシャツ一枚の駈足で約三粁ジ 新築校舎から朗らか レ植民地に降 杳 1)

民自慢 り翌早朝より植民地を廻り有志を歴訪、中央の広壮な校舎 内を乞ふて、 て乗る。之から七粁あると云ふカンガンギ植民地 伯 ナショナルの合唱がカフェ 腹痛を起 人教師 IJ の蒐集せる幾多種類 植民地 一番奥の沖山会長を訪ね一泊を乞ひて調香記録 し棉畑 が立ってゐる。今日も亦水ばか の岸本会長を訪ね、当地の で約二時間寝て、 の蘭 ー樹の間を静かに流 の中から一番好きな 用 意 の熊 り飲 個 人教師と夕食の  $\mathcal{O}$ 胃で治 で歩  $\mathcal{O}$ れて来る満 一伯 を一株頂 たせい 玄関

空気、 たピ 寝ね ま 氏の案内で有志を訪ねる。今は校舎の跡型も無く深草に覆は 應を受ける。翌早朝より有志を歴訪し日暮れ某氏宅に一泊を乞は 面 ス町を経 んと思ったが主人不在との事に止むなく、 へながらサンドウィ 、。今迄の所と違って原始林続き、 一で危い の所に 鳥が異様な声を出して飛び廻っ の手こ ゝ眼を閉ぢるを見てはらはらする運転手は遂に止めて道端にそ 間 ツタ 朝の 静かな道、 は全部原始林でもし林の中から黒奴の凄い の手 ンゲ てポ 駈 などと考へた事もなく叉考へてゐたでは一人旅は出来な 四時帰宅する。ツツパン区域の田舎に只一つ学校のあ 上り事情を話して便乗を頼み、 でと考へたりしながら歩く。今迄道中でそうした方 ンペイア市に向ふ途中、運転手はハンドルを握 ーラ親和植民地を訪問する。バストス街道から約六 色々の空想を描きなが歩らかう。 ッ チを噛りつゝトボトボ歩く。本田氏を訪 てゐる。 太陽のもれない 山頂に棉積むカミニ ボ ・スグラ のが現れたら、 湿 こんな事を考 つぽ 0 日 日  $\mathcal{O}$ 

翌朝馬を借りて、 人経営 の白人と牛車数台に出会ったが之れは数粁離れた所にある の共産村の人々で、 政男君に町迄送っ 伯国には珍ら て貰ふ。 途中毛色  $\mathcal{O}$ た 口

止っ へ這入 り廿六粁 的に出来 存在 った、 は歩き止 ーラ下 てゐる由 のキンタ 怪 0 て植民 しい奴だと思ふと叉出て来た。近寄ってみると怪 0 薄暗 ては歩きつ である。急性結膜炎で二日休み次 ナセーラから左に入るイデア 地  $\mathcal{O}$ マット 設備や経営法、在住者 来る人間がある。 の中を通 0 7 あ 突然 ると、  $\mathcal{O}$ ル 生活 植  $\mathcal{O}$ 民地 7 日にポ市 向 ツ 出出

承り、 を抱 右手に持 · 者で へて朝日植民地に朝永会長を訪れ、其の夜氏の尊 旅の疲れを一一風呂に流 味が 7 無く日本人で、その 深 ゐた。<br />
当植民地は借地農であるが 1 奴と考へたらしい と云ふ好感が持たれた。調査を終 人は此方から行 し厄介になる。 7 ツ  $\mathcal{O}$ 中 から拾 く自 々 が 分 日 落 0 0 格構 た棍 体験談を ち 暮頃空腹

ぷり を頼 翌朝、 おそ 各植民地の茅家にも華山を偲ぶ氏の筆の跡を見る。 になる。自分も亦共に中棉畑で時計を落した事に気 み、 のサーラで土地売の有田君と饗應を受ける。其の夜月光を利 かった。美和植民地行きのカミニョンが丁度あった て有志訪問、翌日植民地を歩けば日語学校は無くても家 有志を歴訪 上村会長を訪れる。 の蔭で日本語読本を読む可愛い し調査を終へてキンターナ町に出 氏は日本画の名人で南公と号 い声が聞 る。 日本趣味 づ る。 たが  $\mathcal{O}$ で 便乗 当線 儘横 0

出来な らな 氏は本会事業に対し眞向から反対し「日語学校が無くなった今日、 と人々から注意されたが、之れを心配 年から延長線一帯は非常なマレイタ蔓延で、本年は特多く至る 在学校が無く子供達の為に洵に気の毒である。倉内会長を訪ね の植民地に多少無 査 トリウンフ し其 った。イピラン しい。 の夜御厄介になり翌日ポ市に帰 = レツ とは思っ ヨス オ植民地はリオドペイシ 夕碁アミザ 川がある。之れが タ位は蹴飛ばす勢ひでこそ幸ひな事に最後迄罹 で降り 所は殆んどなく、 たが ガを越へて低い草原を一條 マ咽喉が 小さいマ デ植民地の会長新藤等氏を訪問する。 7 レイタの發生地 ットを過ぎると可な 1 たの 相当用心しなくてはならん エに添ふた地点に てゐ へり午後の で手 ては本年は かと思ふ 水が バスでノ あ り大きな 0

が読 教育史刊行 論旨の み、 てくれた 読 んで何 大要であ の必要が  $\mathcal{O}$ かも知れな  $\mathcal{O}$ 価値があるか。 何故にあるか。 0 た。氏は我々 1 同 仮に教育史が出来たと 今止めたが の為めを想 よからう」 って好意的 以上

ある。 を承 然し我 頓、 勇猛 たも 会 が、平素から姉から順に母に代りて指導し厳父の訓 会長が病気で面会出来ず、学務委員に万事依頼 なき娘子は動もすればそうした事に無頓着勝ちになり安いも 囀る声を夢の様に聞い にみる淑女振 何にあ く探 二ヶ年、 如き考 月市 庭に限らず叉年齢にも間はない 更に必要であり更に意義ある事が感ぜられ、其処によ と賞賛 室内装飾、 しく沸か し、夜更けにも拘らず氏並に息女の親切なもてな って夕食を頂戴して暇を乞ふ我が余生の家岡田氏宅をやうや 心が起り仕事の仕甲斐ある楽しみが湧いて来る。 林田、 に接続 りそうな快よい感懐に浸った。翌朝後の竹薮 でもなく斯る重大な教育史刊行事業がそう り斯る暴論で片付け様とする様な軽薄な考へ方から始 Z 会長の要職を二年継続せる教育的の関係者にし は次代に於ける同胞飛躍 て行はれてもならない。氏は既に学務委員 の事業は し有志挙って後援して戴 へ方を持つ人があると言ふ事を考へた時に、我 三輪両氏に会ってイピランガ植民地に午後着 りは訪客をして感ぜしむるの感が  $\mathcal{O}$ してくれた風呂、旅の軒風呂世は情如 ポンペイア 一本の草花も整然と植え、 、氏が僅かの て眼をさます隅々迄、行き届 植民地の 時 間 の活資料と いた事は感謝にたへない。当地 即ち学問は人間 内 調査を行 で、 聞 息女方 1 し最も有意義なるも ひ有志を歴訪す。 た ?ある。 り考 て帰  $\mathcal{O}$ した軽薄 何に 作法  $\mathcal{O}$ の雀と黒鳥 へと修養で稀 生の 職 教育は学 し自分 色々と御 た掃除と へり、 . も 歌 り以上 た に在 振 々 て、 仕事 いたが な V) 学業 斯 る ま 校 文 説  $\mathcal{O}$ 0

ラナ出張の加藤君が帰へつて来たので其の自動車を借る事にした。 民地 習所卒業生を出し右七名は会員の指導者として常に先頭に立ち植 締切期日を既に経過して躍起になってゐる自分には此の上もない を越へが我が家へ 時、感慨更に新たなるもの なく尽されし故人川端氏 糸乱れず協力 は 好都合であ 有志を歴訪、当地開発常時初代会長として犠牲を払 力 を起へ谷を渡りサンタエレーナ植民地に元老小野氏始 から大紛擾を起して得意となってゐる植民地に比べた時洵 フ の為にも尽力しつゝあると云ふ事は模範的であると云へやう。 工  $\mathcal{O}$ ·で約五 った。 甚だしきを感ずる。当地より七名の 一貫遂に有利なる解決を得るに至っ 着いたのが朝の二時過ぎであ ケ 年物心植付一如の犠牲を払 の功績と感謝を讃へる在住者の声を聞 がある。 其の夜眞暗の路なき谷間と丘 エメボ 0 った。長らく北パ た事は、屁の様 たものだが ひ昼夜 イ農業実 8 分

早朝ポ 愛国植 民地 ける。 てモー に丸山会長を訪問し複雑なる事情を承る。中央メスキ 二十三日 面会 万策 の鮫島会長を訪ね植民地を一巡してジヤトバ植民地 再度 ンカ 眠るこんな夜中でもやはり人通りがあるとみへて時 民地の家入会長を訪ね、 口 し其の ペイア市を経て敷島植民地を再度訪問、サンタイ つきて、道 ドンドを過ぎ夕方第二メスキッタ植民地 の訪問、 ス 町を経、数粁の地点で自動車の故障を起し約 文間運転手と二人で第一メ 故障、運転手が相当苦労したが懐中電燈 干 夜氏 ーラ、 青少年の指導者山本君を訪  $\mathcal{O}$ の案内 側に車を寄せ狭 ガビオンを過ぎてア で有志を廻り、十一時過ぎ福双を诵 マ市に夜の十一 運転台に二人は スキ ツタ ね、 時に帰着。 力街道 ^ ス 町  $\mathcal{O}$ は ツ  $\mathcal{O}$ ピ 田 腰を 消 中氏 産業組 タを通  $\mathcal{O}$ 僅 高路 リア 一 時 <del></del>됮 を 間 カン け 五. 会 植 0 0

夜が 今日 ら覗 険極まる應急処置で極デベガでや ニヤ は身体 明けた、今度はタンクよりガソリン  $\mathcal{O}$ く。綿出し のどこもこゝも痛い。 口を曲げ之れにガソリンを入れアラメで結びつけ、  $\mathcal{O}$ カミニヨン つとの事でマり、 の往来が引つきりな の通する管を切断してラ ア市に帰着。 に通る。 危

の終焉 と共に 翌 日 て天長 話せる快男子だ。翌早朝起き出で洗面して身を清め、東天に向 談を交す事三更に及び 史刊行の使命を帯びて巡歴の途次、  $\mathcal{O}$ マ市よ 要職にある江口君を訪ねる。 興隆を祈り奉る を見、 の佳節に当る今日、 聖嘉の萬歳を奉唱し奉りしが、伯国々粋 り廿八粁のアルヴアロ植民地に元教員で現在当の委員 燦然たる教育國日本の 口角泡を飛ば 在伯十一年、 元々兄弟分薩州土州の変り者、 謹んで聖嘉の 全貌を伯国に胎さん為、 して激論、 年毎の佳節には必ず児童 相変らず痛 の嵐に日語学校 無窮と、 日本帝 教育 快な

#### : 1 1 :

に再 後僅 小林氏 識らず洵 地 の玄関には日伯両国旗は翩翻としてゐる。丁度来客中 T 饗應を受け、 カ 矢田曾長を訪問す。如何に嵐は吹き荒ぶとも今日 ゚ヷ 保氏を訪 だ最後の 一泊を乞 北村南 に感慨深き一日であったと思ふ。愈々気が急せる調査も T ドペ 口 校にて奉祝競技 イシ方面に向ふ。 ひ、 間 五分に気を引きしめる。午後一時 午後アベ 両氏と共に世界の 翌日砂深き道を数粁、 両氏の卓越なる植民地教育論を承る。 ンカス町を経てコ  $\mathcal{O}$ 野球 明治植民地に降 大勢を論じ、 を見物 ボ し中垣内氏 ーアエスペラン ゴヂブ 其の尽きる所 り 7 岡 市帰着、 ラ 田氏 始  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 佳節 国粋 ツ め役員諸 岡田氏 ク植 二時 案内 的 を

で丘上 民地 も彼 や角言ふ 夜会長宅に着 たか数杯を重ね、始めて生きた人間の様になる今迄空腹に苦 十君を訪ね、君と語る傍ら、 なり眼が の姿が神 入る。後よ しき卵買の老人と一緒に語りながら歩く。葡語 ルポ 回も 辿 だと言ふんですよ 町の入口でフイスカールに咎められた時には俺が り重鎮吉武氏を訪ねたが出市して不在、空腹の自分は朝食を頼 で自分は棉の上に乗っ もう の老人 セ た事 定だ 出 り あ 7 せ 強度び けば ラを上り流汗を左右に拭ひつ のは恥し った。然し戦場にある我が友を想へぼ之れしきの事を兎 眩みそうなのをグンと元気をつけ、自分と同姓 ザ植民地の田中会長を訪ねたが之れ叉不在、 畑に氏と会ひ、調査を終へて不案内な路を辿りコ 0 の様に尊く視えた。之れが調査旅行の最後後 り邁進し来れる棉満載のカミニョンに 度手を挙げ たが家長の不在時ではあると思ったが識らぬ旅 0 い辛さ、仕方がない次の家でと考へながら浦瀧会長宅 丘上の学校の窓から洩れる伯人教師 1 、畑に出 一言 て調査記録をとるに手が振 か、 い小松君の案内を乞ふて植民地を 一句は身にしみ、そして公徳心 朝食に逸れた日は必ずトマカフ て不在、 てア ゝかセニョ た。老人は下から、「比 テ 夫人の親切な持てなし何秒間に平げ 口 夫人に水を一杯乞ふて蘇生の想ひ ゴ をした。 ル」何と言ふ ゝ急ぐ。途中伯 へて十分書けない事が 夕靄 の不得手な自分に 無 力 親 深 廻 吉 エー 切  $\mathcal{O}$ り調査を終 とへ な 便 棉畑を横 日 日 見窄ら 小松喜 乗を ط ط ・ゴデ くだら 感 あ 若 0

其の結果に於て有耶無耶となった例がある為めに、本会の学業に 多かった。 植民地の気分に浸り、先覚、高徳の士と相接するの光栄に浴し其 地調査が有志諸氏 悲しみ、 の指導を得た事が大きな収穫であったと思ふ。 の為めに之を甘受したのである。本会事業の基礎とも云ふべき現 対する誤解多く罵言、 教育を中心とする調査、それは実地に当って予期以上の 嘆き、激昂すれど忍の一字をもって一切を沈黙し只信念 殊に皇紀二千六百年を機会に種々の刊行物が続出し の御厚意と御鞭撻により完全に終へた事と、各 疑念、嘲笑、暴評も幾度びとなく身に迫り、 を対対

的 に述べる非礼をお赦 最後に当線の主要都市を進展して得た感想の し願ひ度い。 端を直裁且批 判

を覚悟すべきである。 活の向上を等閑にし、 それが農村に現れては極端なる物質主義となり、守銭奴的亡者と なる伸展に害毒を流す。向上心乏しき国民は滅ぶと雖も、姑心に はならぬに S 総じて在伯日本人社会にはあまりに嫉妬心が多すぎる つ した競争意識とは自ら異り、内争は常に自滅を招来する事 に現はれては個人的無暴なる競事心が禍ひして団体の円満 しても發展を悪用した虚勢的事業拡張となり、家庭生 民族の本金的發達を阻害する事になり、

等悪徳徒輩の為にどれだけ被害を蒙り其の日常生活を脅かされ 殊に都市に於ける無職渡世の輩の夥だしき存在は将に百害あ 相は寧ろ悲惨と称すべきである。 利無し。同胞が外人に喰はれるのは其の環境により詮方なき事 同胞が同胞を食ふ不合理が、 此 の為に純眞なる農村人が 白昼公然と行はれ てゐる 0 7

起せ、 堂々伯人の中に伍し、 狐の惨忍さより脱却して、伯人の中に馬を進めよ。 う。無職渡世の人々よ今後卿等の生活的対照を同胞に求むる勿れ。 辺無限の廣大なる新天地が卿等の進軍を待ちうけるであらう。 血と汗とによって築き上げたる些かの物質を日当に、鶏をねらふ 同胞を喰ひ又喰はれねばならぬとは何といふ人生の悲惨事であら 交に更に一段の光彩を放つに至るであらう。然るを何ぞや同胞が れこそ正しく男児の本懐である。 ゝ あ 卿等 る事か。無職渡世の輩よ、 が其 の卓抜なる手腕と俊敏なる頭脳とを以てしたら、 優秀なる民族精神の發揚が行はれ、 緊張したる現下日本の姿を想ひ 複雑怪奇、 国民外

想へ、農人の土に捧ぐる生命!

想へ、其の清純を汚がさんとする罪悪!

 $\Diamond$ 

がある如く、 日に昼夜がある如く、一 同じ社会 相中にも清濁 旬に晴雨がある如く、  $\mathcal{O}$ 両 面 Iがある。 物体に表裏

伯青年会は、当今稀にみる清純明朗の よる社会の明朗化と、 日本人社会を汚辱する邦人の一部分子の跋扈ある反面、 身心の 錬成を図 V) 団であらう即ち、 ポ 市 体育に 日

二、全伯を通じ類例無き夜間 商業学校を経営

三、冠婚葬祭に冗費を節約し 新体制意識を強調し

を衝くものがある。 今日秋風落莫の感ある各地青年会に率先して、新興の意気将に天 日会崩潰の後を承けて、 邦人社会の粛正改革を希念する。

然し三省したきは今後に於ける実践と充実である。 出現を望むや切なるも 止に伴ふ向後の邦人社会を想ふ時、  $\mathcal{O}$ がある。 偏へにかうし 日本語学校 たカある団体  $\mathcal{O}$ 

関係各位 の健康と活躍を祈って此の稿を終る。

## (1ページ欠)

就き、実に満九ヶ年学校閉鎖に至るまで勤務し通したも たが、邦語学校が本格的軌道に乗ると同時に迎へられてその職に 孜々として次の機会を狙ってゐたが、急に心機一転し新天地開 ところがあ 数としなけれ 浮腰で無理解な父兄を相手に二年勤めるのは良い方であって、 ほど困難とは言へない。然し移動常ならないパ延長線の植民地に、 社会制度の整ったた母国のやうな所で一ヶ所十年といふのはそれ まった。それからモーロレドンドの植民地で農業に精を出してゐ こそ男子の本懐と雄志を抱いて昭和二年九月ブラジルへ渡 確念この上もなかったであらうことは想像に難くない。 入社すること能はす、涙を呑んで断念せねばならなかった。実に に幸しなか れ将に希望 の凡ならざるに驚かないものはないが、特に常に殺風景な潤 へ植民地内によ ヶ所パ延長線植民地に在り子弟教育に尽力された氏の如きは異 った大日本雄弁講談社社員募集に應じ最優秀点を以 施設 ることが出来る。 わけ を行 の児童の生活を憂へ の彼岸に向 った。突發した事情の為に要求された日時までに上京 てはならない一度モ ではない。その教育実績の資質的検討 ばならない。両も唯単に長き年月を過したといふ た い親類縁者を多く持 一事だけで熱烈な児童愛の持主であることを察 一時が萬事といふことがある。 つて棹ささんとしつゝあ 魂  $\mathcal{O}$ 憩ひ 口校に遊ぶもの氏 った所で十年一日 の場所として、 ったが天は未だ氏 斯うしたこ の教育経営 って採用 のである。 の如く只 愛鳥 だ

ある。 直ちにブラジル朝日新聞社に入り今日に及んだが、今回教育史刊 常に会の進歩向上の馬に尽力したことは衆知の事実である。 即ち社会的智識を得ることに重点を置き、読方の課 を、始め た時にその光を發す。パ延長線教育令に編輯部長とし「教育春秋」 温雅渾厚の風格ある能書家である。どんな人間でも適所に置か 得な特技能書の人である。其の筆鋒鋭利雄健の体は無 斯くも美しい実績を挙げた氏の力は独学の賜であり粘り強 身科的取扱を遺憾なく行ふこと訓練方面では礼儀作法規律を守る とは言ふは易く行ふは難いものである。叉教育上の特徴を視るに 行の企画成り其の編輯主任として煩雑なる事務を完了したも 精神の発露であって敬服の外はない。一方趣味の方は実に多方面 重要なポイントを確把してゐると言へやう。恐らく氏の教育者と こと、変質児童の矯正等何れも植民地に於ける邦人子弟教育上 で文学、音楽、 し俳句は井泉水一派則ち層雲流の流れを汲んでゐる。 ての素地はその伯父より享けたものと思ふが、教育界に入って から四号までも編輯し叉会の創立当初から大幹部として 将棋、テニスあり、特に文学方面では随筆をよ の内容から修 叉氏は一生 いとは言へ · 独学

其の一人一言に編輯所感を寄せて



四つ 出来上ったのがこの原稿で 、ケ月、 の心と、 二百六日 十六本 O手足 ある。 が い塊となっ 7

カン った日悲しか 0 た 日

或は笑ひ 、或は泣き

兀 0 の心が

つの烈し 1 ・塊とな 0 7

出来上ったこ の原稿と別れ る

浜 のにぢむ日

### 特志後援者芳名表 (敬称 略

ウル 市  $\mathcal{O}$ 部

芳賀 仁吉A 澤尾 磯七 A 阿部 A 有野 仁篤B 竹 田

清 一 A 笠井 貞蔵B

◎富士植民地

須山 周蔵B 古坐 貞助 D 坂井 禰助 В 柏倉 健次郎 D Щ 田

宗 春 D 岩間 昌 平 D 青木 清 D

◎パウル 更生の部

岩佐 繁蔵D 奥村 正二D

◎ドアルチー ナ 町 の部

村上 達三B 岸田 清 D 太郎良 正 B 坂本 豊 D 林 明 D 瀧

内 兵太 D

◎福双植民地

三坂嘉蔵B 平田 源蔵 В  $\bigcirc$ フ エ ル ン ヂー ア ス  $\mathcal{O}$ 部

西村 厚 D 小宮 Ш 佐金吾D 柳 原 繁次 В

ガリア 町  $\mathcal{O}$ 部

前田 貞蔵 B 半田 佐市 В 谷 口 松菊 C 井上 喜三郎C 上村

年男D 渡邊 アリ D 佐倉 多録C 野村 新造D 葛原

武 D 塩崎 英 D

◎ガ ル サ駅  $\mathcal{O}$ 部

桜木 鉄蔵 В 田 上 為蔵B 北 徳井 光雄 D 豊 田 音次 郎 D 鷲

◎ヴェラクル ス 町の 部

見

喜三D

太田

政明

D

友輝

D

所 原口 源太C 崎蔵 A 上田 古賀 寅記 亀吉B  $\overline{C}$ 岡本 下 光雄C Щ 福 松 В Щ 内 大和 亀喜 甚三郎 D 境 Α 常吉D 兀 ケ

湊谷 定之助D 喜井 重宜 D 竹内 金市 В 新井 健次郎D

口 ッサグランデの部

富澤 源助 D 年岡 作 市 В 久留 主 完 D 青柳 文吉D 青柳

半 吉 A 久保田 甚六 D

◎ガル サ植民地  $\mathcal{O}$ 

行弘 獅太郎 C野 田 繁太郎 В 長谷川 留 次 В 武井 五郎 D

宮川 治太郎 В 斉藤 丑左衛門 D 梅原 善兵衛 В

◎
ソ ル ナ ツ セ ンテの 部

小 ĴΪ 秀夫D 野田 義正 В 原 田 半 匹 郎 В

◎ボ アソ ルテの 部

長 為雄C 三浦 庄松 C廣岡 現道 D 福 田 重五 郎 D 田 代 猪

之八 D

◎有明  $\mathcal{O}$ 部

林田 虎太 D 岡崎 満開 C 柳 原 勘兵衛 В 谷川 定一 D 島田

實良D

7 IJ リアの 部

中平 三 夫 A 林田道之助B 沖 周 \_\_ 郎 A 末松 緑 В 阿 鷹 富

夫 B 岡本 春 В 種谷 義雄 B 上 田 留 五. 郎 В 星名 三郎 D

野村 秀吉D 富永 今朝 D 森 亀次 郎 D 島 督 D 茂上 猛

夫 D 坂田 義則 D 今野 寅太 D 笹田 正数D 寺田 兵吾 C 田

啓三 D 代 小川 勇 C 健六 山下唯 西川 В 武夫C 島袋 В 梅田 完善 D 瀬木 友次郎B テツレ 吉田 奥村 武男 イ A D 平作 神原 西 В 政太郎 富夫D 岡本 Ď 菅山 専太郎B 澤尾 光

川口 熊太D 伊原 太平B 秋山 始B

В

◎東洋植民地の部

鈴江 武 一 D 中塚 福衛 D 相原 良雄 D 田 中 喜次郎 D 渡邊 富

太郎D 坂本

数士D 相原 繋一B 土井 公男D

◎ヴェアードの部

山本 光義B 濱 津 豊喜D 上 田 幾 蔵 B 吉崎 惠七 В 横

江 国 重 B

森重 喜市D

◎明和植民地の部

横 Щ 孝之助D 水野 太一 В 渡邊 興七 D 神長倉 倉記 В 佐

藤水 義D 佐藤 由之助D

◎第二昭和の部

西 上村 宰三D 政 善 D 平野 阿久津 三吉 D 助太郎 酒井 D 卯四郎 斉藤 D 庄 三 B 石井 弥七 松本 D 倉蔵 篠原 D 隆 大

賢 D

◎第二ポンボの部

石川 憲太郎 D 笠原 初吉 D 曳地 今男 D 上原 廣 B 西村

市 郎 D

◎共和植民地の部

杉 野 千治 D 三浦 勝美D 谷岡 三郎 D 川上 春吉C 小 西

安次郎B 片野 盛蔵D 亀田 金吾D

◎第三パウリスタの部

松本 順市D 鳥羽 富吉D 水戸 岡 清 D 藤井 英 D 黒崎

兼太郎D 梅原 松月D

◎アルヴアロ植民地の部

松原 安太郎 Α 落合 邦吉D 中 垣内 富蔵B 坂 П 丈三郎 D

斎藤 留次B

成田 利稔穂D 寳田 利惣太B

◎第一昭和の部

次 B 忠吉C 立石 濱本 光義D 中川 友一 垣本 D 嘉良雄C 千代 良 平 D 宮脇 理久蔵D 石坂 寅太郎B 藤井 善助 D 光雄 長沢 上辻 D 東作 内 常次郎C  $\prod$ D 菊次 C 田尻 大槻 作

廣本 三千一D

権蔵 井上 D 新吉D 末永 伊七 本間 D 市太郎D 秦 雛吉 臼井 D 樋口 政太 D 政吉C 江島 澄雄D 長瀬

◎登嶺植民地の部

原 多七A 野中 栄治 E B 工藤 定 B 西村 勇 C

◎中央メスキッタの部

蔵 B 吉原 藤本 林太郎 島之助B Ċ 藤原 上村 茂 B 健蔵C 森本 高橋 強 C 平治B 上村 彦七 田 中 В 勘兵衛 上 田 新 В

◎モーロレドンドの部

宗 繁次 戸崎 В 晃 順蔵C В 田本 戸崎 茂作C 牧原 新蔵 佐藤 優 D В 岩治 B 吉本 弥 手島 <del>---</del> 郎 В 米太 B 多賀 時弘 森 永 C 鉄太D Щ 崎

◎更生植民地の部

原 中島 房松 D <u>三</u> B 丹羽 小蕎 實次 彦太郎 D Щ 本 辰雄 D 大西 寅次 郎 D 桑

◎アレペンヂードの部

花 田 伊 + B 山田 鶴 D 澤城 安男D

◎ブェ 1 ス ア 1 V ス  $\mathcal{O}$ 部

大久保 長 \_\_ D 林 参治 D 桜 井 勝眞B 杉田 義時 D

 $\bigcirc$ 干 ン ブ ンカ  $\mathcal{O}$ 部

森田 春茂B 内藤 福太D 坂原 吉繁D 二宮 住 匹 郎 D

◎明倫植民地の 部

三宅 忠造C 田中 宇一 D 緒方 熊喜 D

◎サンタアンプ 口 ジイ ナ  $\mathcal{O}$ 部

利 斉藤 成一 D 国太郎D 青木 植田 勘次 松治 吉田 D 垣井 万吉 通夫D 篠原 庄野 雄次 Α 作 D 渡眞

D

D

◎共進植民地  $\mathcal{O}$ 部

善方 隼人 D 蔵末 久彦 D 野 中 林蔵  $\mathsf{D}$ 

◎サン タマリア  $\mathcal{O}$ 部

日 野 惟恒 D 加藤 伊六 D 雪 金六D 作 野 信義D

 $\bigcirc$ 明治植民地  $\mathcal{O}$ 部

大久保 勝 D 岡 田 繁次 郎 D 上村 岩蔵 Ď 大堀 長太D

◎ヴィラ日本  $\mathcal{O}$ 部

原田 正 D 溝手 源 七 D 宇 田 恒夫 D

◎第二メスキ ツ タ 0 部

林内 久三 D 田中 金吾 D 町 田 春蔵 D 林内 久 蔵 Ď 福島

吉蔵D

◎サン タ IJ ヤ  $\mathcal{O}$ 部

田山 音吉 D 錦織 千 次 郎 D 児玉 休右衛門D 錦 織 伝吉D

◎光栄植民地  $\mathcal{O}$ 部

大山 量三日 宮 田 宗 D 中 Щ 七蔵C 中尾 忠 D 今野

吉右衛門 D 小 橋 織之助B 力丸 亀義

◎第一メスキ ツ タ  $\mathcal{O}$ 部

山本 勝雄D 北原文蔵D

丸山 義惠D 国府 裕史D

◎コレゴバルボーザの部

池 田 延一 D 内田 甫 介 C 弘末 高太郎 D

◎ボアエスペランサの部

浦瀧 常吉D 吉武 勲夫

◎日伯耕地の部

井上 鎌吉D 藤野 徳一B

◎福双植民地の部

石川 茂雄B 牛谷 重太郎D

◎
ア グ アフ オ ル 七 ザ  $\mathcal{O}$ 部 合志 文蔵 B 中 村 米蔵 D

◎其の他の部

場 上田 金十郎 丈兵衛 Ď В 西 田 嘉三D 清 田 正雄 D 橋本 眞吉 D 草苅

矢田 入 満 B 竹次郎 中村 В 裕太 奥火 D 留市 芳賀 D 久保 源蔵 田 D 渡太郎 下江 椋太郎 D 堀内 Α 三良 D 家

◎ポンペイア市の部

出 黒木 田 幸 静二B福 В 太 田 田 長 林 B 吉 山 В 北村 市 利 五. 郎 一 D 井 出 В 藤岡 卯 八 B 登B宮崎 Ш 野 義雄 益躬 В

В 濱崎 新二日 花田 繁雄 D藤原 勝喜 В 磯山 瀧雄 D 河 野 照之

B 岡田 喜一B大迫 栄B 渡邊 叉吉B

本山 透B 福島 捨吉D

得丸 久C 菅山 勇B

◎希望植民地

 $\mathcal{O}$ 

部

河野 叉八 С 平畑 徳松 D 塚 田 勝衛C 利作 嘉 D家永 毅 D

田中 實次D

櫻本 熊次郎 D 田 端 紋 + 郎 D 小 出 新三D 前花 忠雄C

◎敷島植民地  $\mathcal{O}$ 部

大堤 雄 Ď 定平 B 永井 榎本 通晴 D 信 Ш 郎 根 В 徳市 権 畑 D 恵三D 森 政助 C 本田 政 人 D 出 愛

権 畑 助 В

◎グワリ ツ ク  $\mathcal{O}$ 部

岸 兵 助 D 山本 末吉D 常田 忠次郎C 菅原 辰次 C 村松

圭三 B

◎日昇植民地  $\mathcal{O}$ 部

三 郎 D 西村 惣治 D 吉村 知雄 泂 田 D 子之松D 西岡 義幸C 南 五. 西畑 D 藤原 鉄夫 D 多吉 D 西 畑 寅

◎ブジュ **| 植民地**  $\mathcal{O}$ 部

喜屋武 甚徳 D 上間 清 次 郎 D 宮里 勇吉D 大城 清正 D Щ

城 長音D 中村 善助 D

◎カンガンギ  $\mathcal{O}$ 部

濹 小波津 利三郎B 清寛 D 大城 嶺井 清豊 B 政遵 B 嘉陽 親川 宗善D 徳太 郎 D 沖 嘉陽 鶴二 B 宗猛 D 竹

∅
ジ ヤンガー ダ  $\mathcal{O}$ 部

林 数人D 福 Щ 茂吉D 長嶺 信 D 上里 朝撰 D 稲生 藤八

D 隈井 政光 B

∅
ジ ヤクチン ガ  $\mathcal{O}$ 部

浅見 伸作 D 大貫 政之介B 草野 巧 B 田上 袈裟助B 堀 田

六三郎 D 今本 С 片山 英太郎 В

アリリー  $\mathcal{O}$ 部

沓脱 輝 D 吉作 尚 Ш D 茂 B 新里 善行 D 岸本 惠豊 D 松吉 喜三郎 D 新城

◎パイケレ  $\mathcal{O}$ 部

堤 勝次D 増田 権吉D 三上 数美D

◎ジャトパの部

中村 憲太郎 Ď 高路 隆 В 中 佐 鉄次 D 渡 五六C

◎トリウンフォの部

濱崎 儀吉D 倉内 政猪D 坂本 賢次D

◎サンタエレーナの部

福島 辰雄 Ď 小野 五三郎 D 笠原 三 造 D 有吉 常蔵B 古沢

近 D 北條 兵衛D 林田 辰雄 B 小林 實太郎

◎美和植民地の部

松尾 喜三次0 福島 辰次 В 上村 幸生B 古閑 逸馬 Ď 吉永

武士B 仮谷

春太郎D

◎ポンペイア植民地の部

富田 市次B 瀧石 仁六D 江藤 武司 C 加藤 幸重B 高木

定次D 中村 二太郎D 渡邊 春美 B 和田 定春C 高木 馬

岩下 佳六C

◎朝日植民地の部

芹川 豪 D 唐沢 文理 D 朝永 春 D 芹川 実徳 D 樋 П 満

 $\frac{-}{D}$ 

◎イデアルの部

須藤 新平D 中井 末吉D 深田 正 之 D 田原 宗衛 D 飯塚 義

雄 D

◎其の他の部

長嶺 正惠B 斉藤 周平B

◎ヴィラカンパンテの部

鞍留 潔B

◎ツパン町の部

辰彦 D 須賀 音次郎D 岡崎 三三D 本松 建造D 中村 孝逸 D 大岡 甚松 D 山本 石夫D 松本 延 市 D 林 覚市 D 右田

◎バストスの部

若野 徳次郎A

註(氏名、順序不同

記号は原稿区別

後援者広告欄

(以下数十ページ広告入る)

(注・このまま広告欄になり奥付は見当たらない)